

CICS Transaction Server for z/
OSバージョン 5 リリース 6

提供されたトランザクション・リファレンス



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[製品の特記事項](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® CICS® Transaction Server for z/OS®, バージョン 5 リリース 6 (製品番号 5655-Y305655-BTA)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

CICS Transaction Server for z/OS
Version 5 Release 5
Supplied Transactions Reference

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 1974, 2020.

目次

この PDF について.....	ix
第 1 章 CBAM - BTS ブラウザー.....	1
第 2 章 CCRL - 証明書取り消しリスト・トランザクション.....	3
第 3 章 CDBC - データベース制御メニュー.....	5
DBCTL への CICS の接続.....	5
DBCTL からの CICS の切断.....	6
DBCTL システム ID の指定 (DBCTLID).....	7
第 4 章 CDBI - データベース制御の照会.....	9
第 5 章 CDBM - データベース制御インターフェース.....	11
CDBM 構文の使用.....	11
DFHDBFK の使用 - CDBM GROUP コマンド・ファイル.....	13
CDBM GROUP コマンド・ファイル内のレコード・レイアウト.....	13
DFHDBFK の MAINTENANCE パネル.....	14
第 6 章 CEBR - 一時記憶域ブラウズ.....	17
第 7 章 CEBT - マスター端末 (代替 CICS).....	19
キーワードの最小省略形.....	19
CEBT INQUIRE コマンドと SET コマンド.....	19
CEBT INQUIRE AUXTRACE.....	19
CEBT INQUIRE DUMP	20
CEBT INQUIRE GTFTRACE.....	21
CEBT INQUIRE INTTRACE	22
CEBT INQUIRE SURVEILLANCE	22
CEBT INQUIRE TAKEOVER	22
CEBT SET AUXTRACE.....	23
CEBT SET DUMP.....	24
CEBT SET GTFTRACE.....	24
CEBT SET INTTRACE.....	25
CEBT SET SURVEILLANCE.....	26
CEBT SET TAKEOVER.....	26
CEBT PERFORM コマンド.....	27
CEBT PERFORM SHUTDOWN	27
CEBT PERFORM SNAP	27
CEBT PERFORM TAKEOVER.....	27
第 8 章 CECI - コマンド・レベル・インタープリター.....	29
コマンド・レベルの構文検査トランザクション (CECS).....	29
第 9 章 CEDA - オンライン・リソース定義.....	31
コマンド構文.....	31
CSD 互換性パネル.....	35
セキュリティ検査.....	36

CEDB および CEDC.....	36
第 10 章 CEDF および CEDX - 実行診断機能.....	37
CEDF トランザクションの使用.....	37
コマンド構文.....	37
コマンド・オプション.....	37
EDF セッションの開始 (単一画面モード).....	38
EDF セッションの開始 (二重画面モード).....	39
リモート・トランザクションのモニター.....	39
CEDF からの CEBR および CECI の呼び出し.....	39
CEDX トランザクションの使用.....	40
CEDG および CEDY.....	41
第 11 章 CEKL - マスター端末 (緊急用).....	43
CEKL INQUIRE TASK.....	43
CEKL SET TASK.....	46
第 12 章 CEMN - CICS モニター機能.....	49
第 13 章 CEMT - マスター端末.....	51
CEMT トランザクションの開始.....	51
システム・パラメーター.....	52
プログラム・ファンクション (PF) キー.....	52
キーワードの最小省略形.....	53
ALL オプション.....	53
CLASS オプション.....	53
リソースのファミリー (* 記号と + 記号の使用).....	53
リソース・グループのサブグループ定義.....	54
画面の上書き.....	54
タブ・キー.....	55
スクロール記号 (+ 符号).....	55
画面中のブランク・フィールド.....	55
? キーの使用.....	55
展開パネル.....	55
16 進値.....	56
VARIABLES.....	56
アプリケーション・プログラムからの CEMT の呼び出し.....	56
セキュリティ検査.....	57
CEMT ユーザー用の CICS Explorer ビュー.....	57
CEMT DISCARD コマンド.....	62
CEMT DISCARD.....	65
CEMT INQUIRE コマンド.....	70
CEMT INQUIRE ATOMSERVICE.....	70
CEMT INQUIRE AUTINSTMODEL.....	74
CEMT INQUIRE AUTOINSTALL.....	75
CEMT INQUIRE AUXTRACE.....	77
CEMT INQUIRE BRFACILITY.....	79
CEMT INQUIRE BUNDLE.....	83
CEMT INQUIRE CFDTPOOL.....	87
CEMT INQUIRE CONNECTION.....	88
CEMT INQUIRE DB2CONN.....	97
CEMT INQUIRE DB2ENTRY.....	105
CEMT INQUIRE DB2TRAN.....	110
CEMT INQUIRE DELETSHIPED.....	112
CEMT INQUIRE DISPATCHER.....	114
CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE.....	115
CEMT INQUIRE DSAS.....	119

CEMT INQUIRE DSNNAME.....	122
CEMT INQUIRE DUMPDS.....	130
CEMT INQUIRE ENQ.....	132
CEMT INQUIRE ENQMODEL.....	136
CEMT INQUIRE EPADAPTER.....	138
CEMT INQUIRE EPADAPTERSET.....	144
CEMT INQUIRE EVENTBINDING.....	145
CEMT INQUIRE EVENTPROCESS.....	147
CEMT INQUIRE EXCI.....	148
CEMT INQUIRE FEPI.....	149
CEMT INQUIRE FILE.....	149
CEMT INQUIRE GTFTRACE.....	158
CEMT INQUIRE HOST.....	159
CEMT INQUIRE INTTRACE.....	160
CEMT INQUIRE IPCONN.....	161
CEMT INQUIRE IRBATCH.....	169
CEMT INQUIRE IRC.....	169
CEMT INQUIRE JMODEL.....	171
CEMT INQUIRE JOURNALNAME.....	173
CEMT INQUIRE JVMSERVER.....	176
CEMT INQUIRE LIBRARY.....	179
CEMT INQUIRE LINE.....	184
CEMT INQUIRE MODENAME.....	185
CEMT INQUIRE MONITOR.....	187
CEMT INQUIRE MQCONN.....	190
CEMT INQUIRE MQMONITOR.....	193
CEMT INQUIRE NETNAME.....	197
CEMT INQUIRE NODEJSAPP.....	202
CEMT INQUIRE PARTNER.....	205
CEMT INQUIRE PIPELINE.....	206
CEMT INQUIRE PROCESSTYPE.....	209
CEMT INQUIRE PROFILE.....	213
CEMT INQUIRE PROGRAM.....	215
CEMT INQUIRE RRMS.....	224
CEMT INQUIRE STATISTICS.....	225
CEMT INQUIRE STREAMNAME.....	228
CEMT INQUIRE SYDUMPCODE.....	229
CEMT INQUIRE SYSTEM.....	235
CEMT INQUIRE TASK.....	241
CEMT INQUIRE TCLASS.....	247
CEMT INQUIRE TCPIP.....	249
CEMT INQUIRE TCPIPSERVICE.....	251
CEMT INQUIRE TDQUEUE.....	257
CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE.....	264
CEMT INQUIRE TERMINAL.....	265
CEMT INQUIRE TRANSACTION.....	271
CEMT INQUIRE TRDUMPCODE.....	278
CEMT INQUIRE TSMODEL.....	283
CEMT INQUIRE TSPPOOL.....	286
CEMT INQUIRE TSQUEUE / TSQNAME.....	287
CEMT INQUIRE UOW.....	291
CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL.....	295
CEMT INQUIRE UOWENQ.....	300
CEMT INQUIRE UOWLINK.....	304
CEMT INQUIRE URIMAP.....	308
CEMT INQUIRE VTAM.....	316
CEMT INQUIRE WEB.....	318

CEMT INQUIRE WEBSERVICE	319
CEMT INQUIRE WLMHEALTH.....	324
CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM.....	325
CEMT PERFORM コマンド	328
CEMT PERFORM DELETSHIPED.....	328
CEMT PERFORM DUMP SNAP.....	328
CEMT PERFORM ENDAFFINITY.....	329
CEMT PERFORM JVMSERVER.....	329
CEMT PERFORM PIPELINE.....	331
CEMT PERFORM RESET.....	332
CEMT PERFORM SECURITY.....	332
CEMT PERFORM SHUTDOWN.....	332
CEMT PERFORM SSL.....	334
CEMT PERFORM STATISTICS.....	335
CEMT SET コマンド	339
CEMT SET ATOMSERVICE.....	339
CEMT SET AUTOINSTALL.....	340
CEMT SET AUXTRACE.....	342
CEMT SET BRFACTILITY.....	343
CEMT SET BUNDLE.....	344
CEMT SET CONNECTION.....	345
CEMT SET DB2CONN.....	350
CEMT SET DB2ENTRY.....	358
CEMT SET DB2TRAN.....	362
CEMT SET DELETSHIPED.....	363
CEMT SET DISPATCHER.....	364
CEMT SET DOCTEMPLATE.....	366
CEMT SET DSAS.....	366
CEMT SET DSNAME.....	367
CEMT SET DUMPDS.....	372
CEMT SET ENQMODEL.....	373
CEMT SET EPADAPTER.....	373
CEMT SET EPADAPTERSET.....	374
CEMT SET EVENTBINDING.....	374
CEMT SET EVENTPROCESS.....	375
CEMT SET FEPI.....	375
CEMT SET FILE.....	375
CEMT SET GTFTRACE.....	381
CEMT SET HOST.....	381
CEMT SET INTTRACE.....	382
CEMT SET IPCONN.....	383
CEMT SET IRC.....	386
CEMT SET JOURNALNAME.....	387
CEMT SET JVMSERVER.....	388
CEMT SET LIBRARY.....	390
CEMT SET LINE.....	391
CEMT SET MODENAME.....	392
CEMT SET MONITOR.....	393
CEMT SET MQCONN.....	396
CEMT SET MQMONITOR.....	398
CEMT SET NETNAME.....	399
CEMT SET PIPELINE.....	402
CEMT SET PROCESSTYPE.....	403
CEMT SET PROGRAM.....	405
CEMT SET QUEUE.....	408
CEMT SET STATISTICS.....	408
CEMT SET SYDUMPCODE.....	410

CEMT SET SYSTEM.....	413
CEMT SET TASK.....	418
CEMT SET TCLASS.....	419
CEMT SET TCPIP.....	420
CEMT SET TCPIPSERVICE.....	421
CEMT SET TDQUEUE.....	423
CEMT SET TEMPSTORAGE.....	425
CEMT SET TERMINAL.....	425
CEMT SET TRANSACTION.....	428
CEMT SET TRDUMPCODE.....	430
CEMT SET TSQUEUE / TSQNAME.....	432
CEMT SET UOW.....	433
CEMT SET UOWLINK.....	433
CEMT SET URIMAP.....	434
CEMT SET VTAM.....	435
CEMT SET WEB.....	437
CEMT SET WEBSERVICE.....	437
CEMT SET WLMHEALTH.....	438
CEMT SET XMLTRANSFORM.....	439
第 14 章 CEOT - 端末状況.....	441
照会モードでの CEOT の使用.....	441
設定モードでの CEOT の使用.....	442
第 15 章 CESF - サインオフ.....	445
第 16 章 CESL - サインオン長.....	447
第 17 章 CESN - サインオン.....	449
サインオン: 非 3270 ファミリーの端末.....	450
パスワード・フレーズを許可するための CESN の変更.....	452
第 18 章 CEST - 監視端末.....	453
第 19 章 CETR - トレース制御.....	455
コンポーネント別のトレース・レベルの定義.....	456
トランザクションおよび端末に関連したトレース・オプションの指定.....	457
コンポーネント名と省略形.....	458
第 20 章 CIDP - デバッグ・プロファイルの非活動化.....	461
第 21 章 CIND - 未確定テスト・ツール.....	463
CIND 未確定ツールの実行.....	463
CIND の状況の照会.....	464
EXEC CICS LINK コマンドを使用した未確定ツールの実行.....	465
単一トランザクションの未確定への設定.....	465
CIND メッセージ.....	465
第 22 章 CKQC - CICS®-MQ アダプター制御トランザクション.....	467
第 23 章 CLDM - CICS ロード・モジュール・マップ.....	469
第 24 章 CLER - Language Environment ランタイム・オプション.....	471
第 25 章 CMAC - メッセージおよびコードの表示.....	473

第 26 章 CMSG - メッセージ交換.....	475
メッセージの送信.....	475
メッセージの取り消し.....	476
メッセージ交換の継続.....	476
メッセージの送達.....	477
サブシステムと端末システム.....	478
CMSG コマンド.....	479
CMSG コマンド・オプション.....	479
メッセージ交換の応答.....	488
CMSG の例.....	495
第 27 章 CPIA - 作業単位再同期トランザクション.....	497
第 28 章 CSFE - 端末およびシステムのテスト.....	499
CSFE 端末テストの使用.....	499
CSFE によるトレース.....	500
端末ビルダー・トレース.....	500
CSFE デバッグ機能の使用.....	500
ストレージの凍結.....	500
記憶保護違反トラップ.....	501
グローバル・トラップ/トレース・プログラム出口とグローバル・カーネル出口.....	501
CONFDATA 設定.....	502
第 29 章 CSGM - 「good morning」 パネル.....	503
第 30 章 CSPG - ページ検索.....	505
ページの検索.....	505
単一キー・ストローク検索 (SKR).....	507
論理装置のページ検索.....	507
ページ検索と区分画面.....	507
論理メッセージに関する情報の表示.....	508
CSPG を使用したメッセージ・チェーニング.....	508
CSPG メッセージ終了.....	510
CSPG を使用したページのコピー.....	511
CSPG での自動ページングの使用.....	512
CSPG による送付されたページの表示.....	512
第 31 章 CWT0 - コンソール・オペレーター宛メッセージ.....	513
第 32 章 CICS Db2 トランザクション DSNB.....	515
第 33 章 CICS トランザクションのリスト.....	517
特記事項.....	543
索引.....	549

この PDF について

この PDF は、CICS の管理に使用されるトランザクションの解説書です。本書は、システム・プログラマー、アプリケーション・プログラマー、およびオペレーターを対象に書かれています。これらのトランザクションを使用して CICS を管理する方法、およびアプリケーション・デバッグ・プロファイル・マネージャーの使用方法については、「CICS の管理」という PDF を参照してください。CICS TS V5.4 より前は、この情報とトランザクションの解説書は両方とも「*Supplied Transactions*」という PDF に収録されていました。

本書で使用する用語および表記の詳細については、IBM Knowledge Center の [CICS 資料で使用されている表記規則および用語](#)を参照してください。

この PDF の作成日

この PDF は、2020 年 5 月 28 日に作成されました。

第 1 章 CBAM - BTS ブラウザー

CBAM を使用して、この領域に認識されている CICS ビジネス・トランザクション・サービス (BTS) オブジェクト (プロセス・タイプ、プロセス、アクティビティ、コンテナ、イベント、およびタイマー) を参照します。

CBAM については、[CBAM BTS ブラウザー](#)を参照してください。

第 2 章 CCRL - 証明書取り消しリスト・トランザクション

CCRL トランザクションを使用して、LDAP サーバーに格納される証明書取り消しリスト (CRL) を作成および更新します。CICS 領域に SSL を実装する際に、各接続に関して取り消された証明書がないか SSL ハンドシェイク中に検査する必要がある場合に、CCRL を使用します。

CCRL トランザクションは、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) での CRL リポジトリのロケーションを指定します。CICS は、指定された URL にある CRL リポジトリからリストをダウンロードして、それを LDAP サーバーに保管します。異なる認証局からの複数の CRL リポジトリにアクセスする必要がある場合は、複数の URL を指定できます。

CCRL トランザクションを実行する前に、CICS で以下のようにセットアップしておく必要があります。

- LDAP サーバーはセットアップ済みで、証明書取り消しリストを保管できるように構成されている。詳しくは、[CRL のための LDAP サーバーの構成](#)を参照してください。
- 証明書取り消しリストを保管する LDAP サーバーへのアクセス権限を CICS に与えるプロファイルを設定して、**CRLPROFILE** システム初期設定パラメーターが定義されている。

CCRL トランザクションは、端末から、または START コマンドから実行できます。定期的な更新をスケジュールしたい場合は、START コマンド・オプションを使用してください。

端末からトランザクションを実行するには、URL を入力できるように、端末が大/小文字混合を受け入れるようにします。

1. コマンド CCRL *url-list* を入力します。ここで *url-list* は、ダウンロードしたい証明書取り消しリストを含む URL のスペースで区切られたリストです。例えば、次のように指定できます。

```
CCRL http://crl.CertificateAuthority.com/CRLList1.crl
      http://crl.CertificateAuthority.com/CRLList2.crl
```

2. LDAP サーバーの管理者の識別名とパスワードを入力します。これにより、CICS がダウンロードした CRL を使用して LDAP サーバーを更新できます。この名前とパスワードは、LDAP サーバー内のファイル `slapd.conf` で設定されます。

START コマンドからトランザクションを実行するには、構文 EXEC CICS START TRANSID(CCRL) FROM (admin://adminDN:adminPW *url-list*) LENGTH (*url-list-length*) [INTERVAL(*hhmmss*) | TIME(*hhmmss*)] を使用します。ここで *url-list* は、ダウンロードしたい証明書取り消しリストを含む URL のスペースで区切られたリスト、*url-list-length* は URL リストの長さ、*hhmmss* は CCRL トランザクションの実行がスケジュールされている間隔または有効期限です。例えば、次のように指定できます。

```
EXEC CICS START TRANSID(CCRL)
      FROM ('admin://cn=ldapadmin:cics31ldap
            http://crl.CertificateAuthority.com/CRLList1.crl
            http://crl.CertificateAuthority.com/CRLList2.crl')
            LENGTH(124) INTERVAL(960000)
```

この例では、CCRL トランザクションを 96 時間で実行するようにスケジュールします。無効な URL を入力した場合、エラー・メッセージを受け取ります。

第 3 章 CDBC - データベース制御メニュー

CDBC を使用して CICS を DBCTL に接続したり、CICS を DBCTL から切断したりします。CDBC は、IMS データベース制御 (DBCTL) インターフェースを使用する CICS システムにのみ適用されます。

DBCTL によって制御されるデータベースに対して CDBC トランザクションを使用するための詳しいガイドランスについては、[データベース制御 \(DBCTL\) の概要](#)を参照してください。

CDBC は、いずれかの端末 (カード読取機構/行プリンター (CRLP) や DASD 順次端末) から、オペレーティング・システム・コンソールからも開始できます。

このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- ディスプレイのコマンド行に ID (CDBC) を入力し、続いて次のいずれかの必須キーワードを入力します。

```
CDBC CONnect [SUFfix(startup)]
```

ここで、**startup** は 2 桁の始動テーブルのサフィックスです。または、以下のように入力します。

```
CDBC DISconnect [IMMediate]
```

- ディスプレイのコマンド行に ID (CDBC) を入力して、Enter キーを押します。以下のように表示されます。

```
CDBC                                CICS-DBCTL CONNECTION/DISCONNECTION          93.259
                                                                              13:33:20

      Select one of the following:

          1 Connection
          2 ORDERLY disconnection
          3 IMMEDIATE disconnection

      Option Selection      ==>
      Startup Table Suffix ==> 00
      DBCTL ID Override    ==>

      Status of the Interface: DFHDB8290I DBCTL not connected to CICS.
                          CICS APPLID: IYAHZCD2
                          DBCTL ID:
      Startup Table Suffix:

      PF1 = Help    2 = Refresh    3 = End
```

図 1. CDBC トランザクション: 初期画面

この画面から確認できるように、CICS と DBCTL の接続、正常切断、または即時切断を選択できます。この章では、以下のことについて説明します。

- [5 ページの『DBCTL への CICS の接続』](#)
- [6 ページの『DBCTL からの CICS の切断』](#)

DBCTL への CICS の接続

このタスクについて

以下のどちらかの方法で、CICS を DBCTL に接続できます。

手順

- CDBC CONnect [SUFFIX(xx)] と入力する

- ==> で示される「Option Selection」フィールドに「1」を入力する。「Startup Table Suffix」フィールドに開始テーブル接尾部を指定することもできます。このフィールドをブランクのままにした場合は、既存の接尾部 (存在する場合) が使用されます。

タスクの結果

CICS-DBCTL 接続に進む場合は、画面で要求されるとおりに PF5 を押します。画面の「status」行が更新されます。(PF2 を押すと画面が最新表示され、接続の現在の状況をいつでも確認できます。)

以下のメッセージが表示されます。

```
DFHDB8207D DBCTL Connection requested. Press PF5
to confirm.
```

また、この画面には、CICS システムのアプリケーション ID、および CICS が接続される DBCTL システムの ID も表示されます。DBCTL ID は、接続が行われた場合にのみ取得できます。この接続の開始テーブルの接尾部も表示できます。

例

以下の画面は、オプション 1 を要求した場合の結果を示しています。

```
CDBC                                CICS-DBCTL CONNECTION/DISCONNECTION                                93.259
                                                                              13:33:59

Select one of the following:

    1 Connection
    2 ORDERLY disconnection
    3 IMMEDIATE disconnection

Option Selection      ==> 1
Startup Table Suffix ==> 00
DBCTL ID Override    ==>

DFHDB8207D Connection to DBCTL requested. Press PF5 to confirm.

Status of the Interface: DFHDB8290I DBCTL not connected to CICS.
      CICS APPLID: IYAHZCD2
      DBCTL ID:
Startup Table Suffix:

PF1 = Help   2 = Refresh   3 = End
```

図 2. CDBC トランザクション: オプション 1 の画面

DBCTL からの CICS の切断

このタスクについて

DBCTL から CICS を切断するには、以下のどちらかを行います。

手順

- タイプ

```
CDBC DISConnect [IMMediate]
```

- CDBC パネルのオプション 2 またはオプション 3 のどちらかを選択します。

タスクの結果

オプション 2 を選択すると正常切断が行われます。正常切断により、CICS が DBCTL から切断される前に、既存の CICS-DBCTL タスクをすべて完了できます。

以下の画面は、オプション 2 を要求した場合の結果を示しています。

```
CDBC                                CICS-DBCTL CONNECTION/DISCONNECTION                                93.259
                                                                              13:39:20

      Select one of the following:

          1 Connection
          2 ORDERLY disconnection
          3 IMMEDIATE disconnection

      Option Selection      ==> 2
      Startup Table Suffix ==> 00
      DBCTL ID Override    ==>

      DFHDB8209D DBCTL orderly disconnection requested. Press PF5 to confirm.

      Status of the Interface: DFHDB8293I DBCTL connected and ready.
                          CICS APPLID: IYAHZCD2
                          DBCTL ID: SYS2
      Startup Table Suffix: 00

      PF1 = Help    2 = Refresh    3 = End
```

図 3. CDBC トランザクション: オプション 2 の画面

オプション 3 を選択すると即時切断が行われます。これにより、CICS が DBCTL から切断される前に、この CICS システムから DBCTL に対して行われた現在の DL/I 要求のみを完了させることができます。

DBCTL システム ID の指定 (DBCTLID)

このタスクについて

CDBC パネルのフィールドでは、CDBC トランザクションを使用して DBCTLID を指定することにより、DRA 始動テーブル内の ID をオーバーライドできます。CDBC を使用して DBCTL に接続するための構文は、以下のとおりです。

```
CDBC CONNECT [SUFFIX(xx)] [DBCTLID(yyyy)]
```

CDBC の使用の詳細については、[データベース制御 \(DBCTL\) の概要](#)を参照してください。

第 4 章 CDBI - データベース制御の照会

CDBI を使用して、CICS と DBCTL の間のインターフェースの状況について照会します。CDBI は、3270 (および 3270 に類似した) 端末からも、オペレーティング・システム・コンソールからも開始できます。

CICS-DBCTL インターフェースの詳細、および DBCTL によって制御されるデータベースに対して CDBI トランザクションを使用するための詳しいガイダンスについては、[データベース制御 \(DBCTL\) の概要](#)を参照してください。

ディスプレイのコマンド行に ID (CDBI) を入力して、Enter キーを押すことにより、トランザクションを開始します。以下のように表示されます。

```
CDBI                                CICS-DBCTL INTERFACE INQUIRY                                91.184
                                                                              11:23:50
```

```
Status      : xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.
CICS APPLID: DBDCCICS
DBCTL ID    : SYS1
```

```
PF1 = Help   2 = Refresh   3 = End
```

図 4. CDBI トランザクション: 初期画面

この画面から、CICS と DBCTL の接続に関する現在の状況がわかります。状況は以下のいずれかです。

```
DFHDB8290I DBCTL not connected to CICS.
DFHDB8291I DBCTL connect phase 1 in progress.
DFHDB8292I DBCTL connect phase 2 in progress.
DFHDB8293I DBCTL connected and ready.
DFHDB8294I DBCTL orderly disconnect in progress.
DFHDB8295I DBCTL immediate disconnect in progress.
DFHDB8296I DBCTL cannot be connected to CICS.
```

また、この画面には、CICS システムのアプリケーション ID (この例では DBDCCICS)、および CICS が接続される DBCTL システムの ID も表示されます。

第 5 章 CDBM - データベース制御インターフェース

CDBM トランザクションを使用して、CICS 端末から DBCTL オペレーター・コマンドを発行します。CDBM は、IMS データベース制御 (DBCTL) インターフェースを使用する CICS システムにのみ適用されます。

CDBM は、コマンドを保管するコマンド・ファイルを保持する手段も提供します。コマンドの保管はどのような理由でも行うことができますが、コマンドを繰り返し再使用する目的で保管することがよくあります。これらの保管されたコマンドには、オペレーター・トランザクション・パネルに表示できる数よりも多くのデータベースを含めることができます。

CDBM を使用するには、以下のが必要です。

1. IMS V9.1 以降を実行する DBCTL システムを使用している
2. DBCTL の **AOIS** パラメーターを *N* 以外の値に設定している。値 *A*、*C*、または *R* を使用している場合は、CICS-DBCTL インターフェースが動作するように、適切なセキュリティ管理を使用する必要があります。
3. DFHDBMP という名前の PSB を生成し、DBCTL システムに追加する。

CICS-DBCTL インターフェースの詳細、および DBCTL を使用して制御されるデータベースに対して CDBM トランザクションを使用するための詳しいガイダンスについては、[データベース制御 \(DBCTL\) の概要](#)を参照してください。

注：CDBM トランザクションは基本マッピング・サポート (BMS) を使用するので、この機能は BMS によってサポートされる端末装置によってのみ使用できます。

CDBM 構文の使用

このタスクについて

CDBM トランザクションの構文は、以下のとおりです。

```
CDBM /DBCTL operator command
```

ここで、/ は DBCTL のデフォルト・コマンド認識文字 (CRC) です。この場合は、デフォルト CRC を使用する必要があります。

注：

1. IMS では、それぞれのコマンドにデフォルト CRC の接頭部を付ける必要があります。CRC は構文検査専用です。コマンドが送信される DBCTL を決定するものではありません。CRC 値を使用して、CDBM によって特定の DBCTL システムにコマンドを送付することはできず、現在 CICS に接続されているシステムにのみ送信できます。この DBCTL には、デフォルトの「/」とは異なる独自の CRC 値が指定されている場合があります。ただし、このことは CDBM には影響しません。これは、/ 文字が構文検査のみに使用され、コマンドは AIB インターフェースを使用して CRC なしで接続先の DBCTL に提供されるからです。
 2. CDBM コマンドが正常に実行されたことを確認するには、正しい **AOIS** 実行パラメーターを設定する必要があります。例えば、AOIS=S を指定すると、コマンド権限がバイパスされるようになります。他の値を指定した場合、コマンドはコマンド権限検査に失敗する可能性があります。
- 例えば、以下のように DBCTL コマンドを入力できます。

```
CDBM /DISPLAY DB DEPT*
```

またはグループ・コマンドを以下のように入力できます。

```
CDBM /GROUP SAMPLE STO
```

- 以下のように、画面のコマンド行に ID (CDBM) を入力してトランザクションを開始することもできます。

```
CDBM
```

ENTER キーを押します。 [12 ページの図 5](#) に示すパネルが表示されます。

```
CDBM                      CICS-DBCTL Operator Transaction          98.135
                                                                    13:24:20

Type IMS command.
-----
-----
-----
-----

For /DBDUMP or /DBRECOVER commands
Choose one.  1 1. Do not force end of volume
              2. Force end of volume

Press enter to display responses.

CICS APPLID DBDCCICS
DBCTL ID    SYS3

F1=Help  F2=Maintenance  F3=Exit  F5=Refresh  F12=Cancel
```

図 5. CICS-DBCTL オペレーター・トランザクション

このパネルで DBCTL コマンドを入力できます。例えば、以下のように入力します。

```
/DISPLAY DB ALL
```

またはグループ・コマンドを以下のように入力できます。

```
/GROUP SAMPLE STA
```

CICS-DBCTL オペレーター・トランザクション画面からの /GROUP コマンドの使用例は、[12 ページの図 6](#) に示されています。

```
CDBM                      CICS-DBCTL Operator Transaction          98.135
                                                                    13:24:20

Type IMS command.
      /GROUP SAMPLE STA_____
-----
-----
-----
-----

For /DBDUMP or /DBRECOVER commands
Choose one.  1 1. Do not force end of volume
              2. Force end of volume

Press enter to display responses.

CICS APPLID DBDCCICS
DBCTL ID    SYS3

F1=Help  F2=Maintenance  F3=Exit  F5=Refresh  F12=Cancel
```

図 6. GROUP コマンドを示す CICS-DBCTL オペレーター・トランザクション・パネル

注：このパネルに示されているグループ・コマンド *SAMPLE STA* の説明は、[13 ページの『DFHDBFK の使用 - CDBM GROUP コマンド・ファイル』](#)に記載されています。

CDBM を使用して発行されるコマンドへの応答は、[13 ページの図 7](#) に示すような画面に返されます。これは /DISPLAY DB ALL コマンドへの応答として表示されるいくつかの画面のうち最初の画面です。

CDBM		CICS-DBCTL IMS Responses				Screen 1	
						Responses 1 to 18	
						More: +	
DATABASE	TYPE	TOTAL	UNUSED	TOTAL	UNUSED	ACC	CONDITIONS
ACCUNTDDB						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
ADMIDX1						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
ADMOBJ1						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
ADMOBJ2						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
ADMOBJ3						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
ADMSYSDF						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
BE1CHKPT	DL/I					UP	NOTOPEN
BE1PARTA						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
BE1PARTB						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
BE1PARTC						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
BE1PARTS						UP	STOPPED, NOTOPEN, NOTINIT
BE2ORDER	DL/I					UP	NOTOPEN
BE2ORDRX	DL/I					UP	NOTOPEN
BE2PARTS	DL/I					UP	NOTOPEN
BE2PCUST	DL/I					UP	NOTOPEN
BE3ORDER	DL/I					UP	NOTOPEN
BE3ORDRX	DL/I					UP	NOTOPEN
							More...
F1=Help F3=Exit F4=Top F6=Bottom F7=Bkwd F8=Fwd F9=Retrieve F12=Cancel							

図 7. CICS-DBCTL IMS の応答

DFHDBFK の使用 - CDBM GROUP コマンド・ファイル

始める前に
CDBM で **GROUP** コマンドを使用するには、すべての事前定義コマンドを格納できるファイルが必要です。このファイル DFHDBFK は、CDBM GROUP コマンド・ファイルです。これは VSAM KSDS です。/GROUP コマンドを最初に使用するときまで、DFHDBFK ファイルは必要ありません。

このタスクについて
このファイルを定義し、その内容を保守するには、どのような方法を使用しても構いません。

- 手順
- 1. ファイル DFHDBFK を定義し、オプションでグループ定義の一部をファイル内に配置するには、[CDBM GROUP コマンド・データ・セットの定義](#)で説明されているサンプル JCL を使用します。
示されている例では、必要に応じてこのファイルのバッチ・ロードを実行する方法も説明しています。この方法で多数の定義をロードすることも、定義をロードしないこともできます。
 - 2. CDBM トランザクションの /GROUP コマンドの機能を使用するには、DFHDBCTL グループ内の DFHDBFK ファイルの定義に、グループ・コマンド・ファイルのデータ・セット名を追加します。

次のタスク
ファイルを定義した後、その内容を保守する方法の 1 つは CDBM によって用意されており、DFHDBFK ファイルの保守機能が提供されます。

CDBM GROUP コマンド・ファイル内のレコード・レイアウト

DFHDBFK ファイル内の各レコードは最大 1428 文字の長さで、内容は以下のとおりです。

フィールド	長さ	内容	説明
1	12	グループ	このグループ用に選択した名前が入っている 12 文字のフィールド。使用できる文字は、A から Z、0 から 9、\$、@、および # です。先行または埋め込みブランクは許可されませんが、末尾ブランクは許容されます。

アクション・フィールドは、以下のいずれかを受け入れます。

A

Add

DFHDBFK ファイルに新規レコードを追加します。キーが既に存在する場合は、追加は失敗します。

注: 既存のレコードに非常によく似ているが、別のキーを持つレコードを追加するには、既存のレコードを読み取り、表示されているフィールドを変更してから、この新しいレコードを追加します。

B

Browse

コマンド・ファイルの内容をレコードごとに表示します。いずれかのキーを指定して (または何も指定せず)、ブラウズを開始する場所を指示します。Enter キーを押すたびに、「Browse」は次のレコードに移動します。ファイルの最後に達すると、ファイルの先頭に循環するかどうか尋ねるプロンプトが出されます。必要に応じて、これを受け入れることも受け入れないこともできます。不完全なキー、および不明なキーを開始点として使用することもできます。キーを指定しない場合、ブラウズはファイルの最初のレコードから開始されます。

「Browse」を使用して削除または更新の対象にする特定のレコードを指定した場合は、「Delete」または「Update」の前に必ず「Read」を使用してください。

D

Delete

DFHDBFK ファイルからレコードを削除します。必要なレコードをロックするために、「Delete」の直前に「Read」を使用する必要があります。

R

Read

「Read」は特定のレコードを表示します。「Browse」とは異なり、キーが部分的であったり、指定されなかったりすると動作せず、Enter キーを押したときに次のレコードは表示されません。

「Read」は、既存のレコードを変更するアクション (「Delete」と「Update」) の前に使用する必要があります。これにより、レコードが別のオペレーターによって変更される可能性がないように、そのレコードがロックされます。このアクションは、正しいレコードが選択されていることを確認するためにも役に立ちます。

CDBM 保守パネルを終了するか、次の CDBM 保守アクション (意図していた「Update」または「Delete」、またはまったく別のもの) を行うことによって、ロックは解放されます。

U

Update

DFHDBFK ファイル内のレコードを更新します。必要なレコードをロックするために、「Update」の直前に「Read」を使用する必要があります。

キー・フィールド (GROUP および IMS COMMAND) を更新することはできません。

注: 「Add」を使用して新規キーを作成します。

注: 上記の説明で、キーは、DFHDBFK ファイルの各レコードの先頭にある 22 文字 (つまり、GROUP および IMS COMMAND) を指します。

第 6 章 CEBR - 一時記憶域ブラウズ

CEBR トランザクションを使用して、一時記憶域キューのブラウズと削除を行います。さらに CEBR を使用して、一時データ・キューの内容を調べるために一時記憶域に一時データ・キューを転送し、終了したときに一時データ・キューを再作成できます。

これらの転送を行う CEBR コマンドは、一時データ・キューの作成と削除を行うこともできます。以下の点に注意してください。

- 一時記憶域キューをブラウズする際には、いずれかのアクティブ・タスクによって最も新しく取得されたレコードの後で、次のレコードが取り出されます。

同じ一時記憶域キューを別のタスクと同時に操作している場合は、次のレコードを取得できないことがあります。

- 一時データ・キューの読み取りは破壊的です。アプリケーションによってアクティブ・システムで使用されている一時データ・キューを読み取ると、問題が発生する可能性があります。

CEBR トランザクションを開始するには、トランザクション ID を入力した後にブラウズするキューの名前を入力します。例えば、CEBR S209 という名前の一時記憶域キューを表示するためには、CEBR CEBR S209 を入力します。キュー名に小文字が含まれている場合は、使用している端末で大文字への変換が抑制されるようにして、正しい組み合わせの大文字小文字を入力してください。

CICS は応答としてキューを表示します。表示例を [17 ページの図 9](#) に示します。

CEBR を使用して、キュー名に 1 つ以上のブランクが埋め込まれた一時記憶域キューからデータを表示する場合、CEBR 画面から TS QUEUE フィールドにキュー名を入力する必要があります ([17 ページの図 9](#))。CEBR に入った直後にこのようなキュー名を入力すると、予測不能な結果が生じます。

```
CEBR TS QUEUE CEBR S209 SYSID C142 RECORD      1 OF      3      COL      1 OF      22
ENTER COMMAND ==>
***** TOP OF QUEUE *****
00001 000055001234000001S209
00002 000056003456000002S209
00003 000102000564000001S209
***** BOTTOM OF QUEUE *****

PF1 : HELP          PF2 : SWITCH HEX/CHAR    PF3 : TERMINATE BROWSE
PF4 : VIEW TOP      PF5 : VIEW BOTTOM        PF6 : REPEAT LAST FIND
PF7 : SCROLL BACK HALF PF8 : SCROLL FORWARD HALF PF9 : UNDEFINED
PF10: SCROLL BACK FULL PF11: SCROLL FORWARD FULL PF12: UNDEFINED
```

図 9. 一時記憶域キューの内容を表示する典型的な CEBR 画面

この代わりに、CEDF から CEBR トランザクションを開始することができます。初期 CEDF 画面 ([38 ページの図 13](#) を参照) で PF5 を押すと、作業用ストレージ画面が表示されるので、その画面で PF2 を押して一時記憶域をブラウズします (すなわち、CEBR を呼び出します)。CEBR は、「CEBR」という 4 文字の後に 4 文字の端末 ID を続けた形式の名前を持つ一時記憶域キューを表示して、これに応答します。CEBR を直接呼び出して、キュー名を指定しない場合に、CICS はこれと同じデフォルト・キュー名を使用します。キュー

一名を指定せずに CEBR を呼び出すか、端末 S21A で EDF セッションから CEBR を呼び出した場合の結果が 18 ページの図 10 に示されています。

CEDF から CEBR に入った場合には、CEBR 画面から PF3 を押すと CEDF 画面に戻ります。

```
CEBR TS QUEUE CEBRS209 SYSID C142 RECORD 1 OF 0 COL 1 OF 1 0
ENTER COMMAND ==>
***** TOP OF QUEUE *****
***** BOTTOM OF QUEUE *****

TEMPORARY STORAGE QUEUE CEBRS21A IS EMPTY
PF1 : HELP PF2 : SWITCH HEX/CHAR PF3 : TERMINATE BROWSE
PF4 : VIEW TOP PF5 : VIEW BOTTOM PF6 : REPEAT LAST FIND
PF7 : SCROLL BACK HALF PF8 : SCROLL FORWARD HALF PF9 : UNDEFINED
PF10: SCROLL BACK FULL PF11: SCROLL FORWARD FULL PF12: UNDEFINED
```

図 10. デフォルトの一時記憶域キューの典型的な CEBR 表示画面

1. ヘッダー
2. コマンド行
3. 本体
4. メッセージ行
5. オプションのメニュー

CEBR 一時記憶域ブラウズ・トランザクションとその使用に関するガイダンスについては、[一時記憶域のブラウズ \(CEBR\)](#)を参照してください。

第 7 章 CEBT - マスター端末 (代替 CICS)

CEBT を使用して、拡張リカバリー機能 (XRF) 環境で代替 CICS システムを制御します。

このトランザクションは、**MODIFY** コマンドを使用してオペレーティング・システム・コンソールでのみ開始できます。CEBT トランザクションは、トランザクション・セキュリティ検査の対象ではありません。つまり、どのユーザーも CEBT を使用することを許可されています。RACF® を使用して、MODIFY コマンドの使用を許可するユーザーを制御できます。詳しくは、[Using an MVS system console as a CICS terminal](#) を参照してください。

システム・コンソールでのトランザクションの開始については、[システム・コンソールの使用](#)で説明しています。

キーワードの最小省略形

CEBT コマンドは、要求の中でキーワードを一意的に識別するために必要な最小限の文字数のキーワードを受け入れます。

この規則の例外は SHUTDOWN キーワードで、最小の省略形は SHUT です。

画面に表示される構文の中で、許可される最小の省略形は大文字で示され、キーワードの残りの部分は小文字で示されます。

新しいコマンドの導入により、CICS リリース間で最小の省略形が変更される場合があります。

CEBT INQUIRE コマンドと SET コマンド

CEBT INQUIRE コマンドと CEBT SET コマンドを使用して、以下の照会または設定が可能です。

- 補助トレース (19 ページの『CEBT INQUIRE AUXTRACE』、および 23 ページの『CEBT SET AUXTRACE』)
- ダンプ・データ・セット (20 ページの『CEBT INQUIRE DUMP』、および 24 ページの『CEBT SET DUMP』)
- GTF トレース (21 ページの『CEBT INQUIRE GTFTRACE』、および 24 ページの『CEBT SET GTFTRACE』)
- 内部トレース (22 ページの『CEBT INQUIRE INTTRACE』、および 25 ページの『CEBT SET INTTRACE』)
- 代替 CICS システムによる CICS システムの監視または「トラッキング」 (22 ページの『CEBT INQUIRE SURVEILLANCE』、および 26 ページの『CEBT SET SURVEILLANCE』)
- 代替 CICS システムによるアクティブ CICS システムからのテークオーバー (22 ページの『CEBT INQUIRE TAKEOVER』、および 26 ページの『CEBT SET TAKEOVER』)

CEBT INQUIRE AUXTRACE

補助トレースの状況に関する情報を返します。

説明

補助トレース項目は、CICS 制御 BSAM データ・セット A と B のペアに対して作成されます。

CEBT INQUIRE AUXTRACE は、以下の情報を返します。

- 補助トレース・データ・セットが開いているか閉じているか
- Cur(A) または Cur(B) のどちらの補助トレース・データ・セットがアクティブか
- 補助トレースが進行中 (開始) かそうでないか (停止)

補助トレースに関する背景情報については、[CICS トレースの使用](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE AUXTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

各種の属性を変更するには、**CEBT SET AUXTRACE** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE AUXTRACE

▶▶ CEBT Inquire Auxtrace ◀◀

表示されるフィールド

すべて

この CICS セッションの終了まで、必要に応じて自動切り替えが行われ、オペレーター介入は必要ありません。

Auxiliary

このパネルが補助トレースに関連するものであることを示します。

Current(A|B)

現行補助データ・セットの 1 文字の ID (A または B) を表示します。補助トレース・データ・セットがない場合、この値はブランクになります。

次へ

現行トレース・データ・セットが満杯になると自動切り替えが行われますが、その後は行われません。

Noswitch

オペレーター介入なしに切り替えは行われません。

Pause

補助トレースが停止しましたが、トレース・データ・セットは開いたままです。後続の START 要求によって、PAUSE 要求の前に書き込まれた項目の直後にトレース項目が書き込まれます。

開始

補助トレースが進行中です。

Stop

補助トレースが停止しました。

切り替え

現行の補助トレース・データ・セットから代替トレース・データ・セットへの即時切り替えが行われているという情報を表示します。

CEBT INQUIRE DUMP

CICS ダンプ・データ・セットに関する情報を取得します。

説明

CEBT INQUIRE DUMP は、どちらのダンプ・データ・セット (A または B) が現在開いているかを表示します。

ダンプに関する一般情報については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE DUMP (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

各種の属性を変更するには、**CEBT SET DUMP** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE DUMP

▶▶ CEBT Inquire Dump ◀◀

表示されるフィールド

Autoswitch

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合のみ切り替えが行われますが、その後は行われません。

Closed

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは閉じています。

Currentdds(value)

アクティブなダンプ・データ・セットを示す 1 文字の標識を表示します。これは A または B のどちらかです。

Dump

このパネルがダンプ・データ・セット照会と関連していることを示します。

Noautoswitch

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えは行われません。

注：これは否定的な属性であるため、フィールドはブランクとして表示されます。

Open

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは開いています。

切り替え

現在アクティブなダンプ・データ・セットは非アクティブになり、現在非アクティブなデータ・セットはアクティブになります。

CEBT INQUIRE GTFTRACE

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースの状況を表示します。

説明

CEBT INQUIRE GTFTRACE は、GTF への CICS トレースが開始されているか、停止しているかを示します。

このコマンドは、CETR フルスクリーン・トレース・トランザクションをサポートしない端末で使用するためのものです。

GTF トレースについては、[汎用トレース機能 \(GTF\)](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

いずれかの属性を変更するには、**CEBT SET GTFTRACE** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE GTFTRACE

▶ CEBT Inquire Gtftrace ◀

表示されるフィールド

Gtftrace

このパネルが GTFTRACE 照会に関係していることを示します。

開始

GTF への CICS トレースが進行中です。

Stopped

GTF への CICS トレースが進行中ではありません。

CEBT INQUIRE INTTRACE

CICS 内部トレースの状況を表示します。

説明

CEBT INQUIRE INTTRACE は、CICS 内部トレースが進行中かどうかを示します。

このコマンドは、フルスクリーン・トレース・トランザクション CETR をサポートしない端末で使用するためのものです。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE INTTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

各種の属性を変更するには、**CEBT SET INTTRACE** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE INTTRACE

▶▶ CEBT Inquire Intrtrace ◀◀

表示されるフィールド

Intrtrace

このパネルが、INTTRACE 照会に関連したものであることを示します。

開始

CICS 内部トレースが進行中です。

Stopped

CICS 内部トレースが進行中ではありません。

CEBT INQUIRE SURVEILLANCE

代替 CICS システムによるアクティブ CICS システムの監視状況を表示します。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE SURVEILLANCE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

各種の属性を変更するには、**CEBT SET SURVEILLANCE** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE SURVEILLANCE

▶▶ CEBT INQUIRE SURVEILLANCE ◀◀

監視について詳しくは、「[CICS/ESA 3.3 XRF Guide](#)」を参照してください。

CEBT INQUIRE TAKEOVER

アクティブ CICS システムから代替 CICS システムへのテークオーバーが、自動、手動、またはコマンド主導のどの方法で行われるかを表示します。

入力

Clear キーを押して、CEBT INQUIRE TAKEOVER (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

各種の属性を変更するには、**CEBT SET TAKEOVER** コマンドを使用します。

CEBT INQUIRE TAKEOVER

▶▶ CEBT Inquire Takeover ◀◀

CEBT SET AUXTRACE

機能

補助トレース・オプションを変更します。

説明

トレースを開始、停止、または一時停止でき、補助データ・セットの自動切り替えを必要に応じて行うように指定できます。 **switch** オプションを使用してデータ・セットを変更できます。

SET コマンドを使用する代わりに、該当するフィールドまで **Tab** キーで移動した後、**INQUIRE** 画面で変更を上書き入力できます (54 ページの『画面の上書き』を参照)。

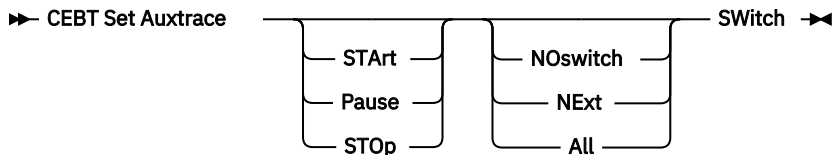
トレースの使用については、[CICS トレースの使用](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。 このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- **CEBT SET AUXTRACE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。 **CEBT INQUIRE AUXTRACE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに **Tab** キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- **CEBT SET AUXTRACE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、**CEBT S AUX STO** は、補助トレースが既に実行中の場合に停止します。

CEBT SET AUXTRACE



オプション

すべて

この CICS セッションの終了まで、オペレーター介入の必要なく、必要に応じて 2 つの補助トレース・データ・セット間で自動切り替えを行うように指定します。

NExt

現行トレース・データ・セットが満杯になると補助トレース・データ・セットの自動切り替えが行われますが、その後は行われません。

NOswitch

補助トレース・データ・セット間の切り替えは、オペレーターの介入なしでは行われません。

Pause

補助トレースは停止しますが、データ・セットは開いたままになります。後続の **START** 要求によって、**PAUSE** 要求の前に書き込まれた項目の直後にトレース項目が書き込まれます。

STArt

CICS は補助トレースを開始し、現在閉じている場合は補助トレース・データ・セットを開きます。

STOp

CICS は補助トレースを停止し、補助トレース・データ・セットを閉じます。後続の **START** 要求によって、データ・セットの先頭に新規トレース項目が書き込まれ、**STOP** 要求の前に書き込まれていたトレース項目は上書きされます。

SWitch

現在の補助トレース・データ・セットから代替トレース・データ・セットへの即時切り替えを行うように指定します。

CEBT SET DUMP

CICS ダンプ・データ・セットの属性を変更します。

説明

CEBT SET DUMP コマンドを使用して、アクティブな CICS ダンプ・データ・セットを開いたり閉じたりすることができます。また、アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えを行うかどうかを指定します。**SET** コマンドを使用する代わりに、該当するフィールドまで Tab キーで移動した後、**INQUIRE** 画面で変更を上書き入力できます (54 ページの『画面の上書き』を参照)。

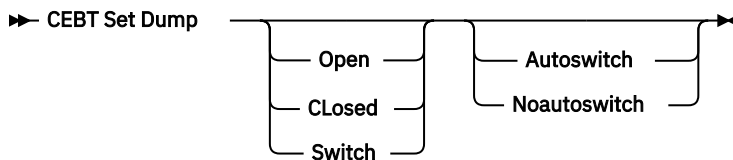
ダンプの使用については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- **CEBT SET DUMP** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEBT INQUIRE DUMP** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- **CEBT SET DUMP** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、**CEBT S DU A** を使用すると、自動切り替えが前に指定されていなかった場合に、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えが行われます。

CEBT SET DUMP



オプション

Autoswitch

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合のみ切り替えが行われますが、その後は行われません。

Closed

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは閉じています。

Noautoswitch

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えは行われません。

Open

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは開いています。

切り替え

現在アクティブなダンプ・データ・セットは非アクティブになり、現在非アクティブなデータ・セットはアクティブになります。

CEBT SET GTFTRACE

MVS 汎用トレース機能 (GTF) トレースの状況を変更します。

説明

CEBT SET GTFTRACE を使用して、GTF に対する CICS トレースをオン/オフに切り替えることができます。このコマンドは、CETR フルスクリーン・トレース・トランザクションをサポートしない端末で使用するためのものです。

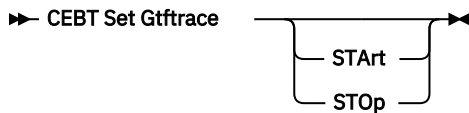
GTF トレースの使用については、[汎用トレース機能 \(GTF\)](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。 このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEBT SET GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。 **CEBT INQUIRE GTFTRACE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEBT SET GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEBT S G STO は、GTF トレースが既に実行中の場合に停止します。

CEBT SET GTFTRACE



オプション

STArt

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースが開始されます。

STOp

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースは停止します。

CEBT SET INTTRACE

CICS 内部トレースをオンまたはオフに切り替えます。

説明

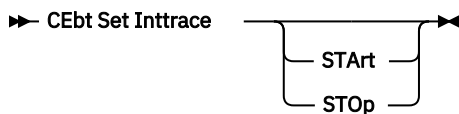
このコマンドは、フルスクリーン・トレース・トランザクション CETR をサポートしない端末で使用するためのものです。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。 このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEBT SET INTTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。 **CEBT INQUIRE INTTRACE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEBT SET INTTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEBT S IN STO は、内部トレースが既に実行中の場合に停止します。

CEBT SET INTTRACE



オプション

STArt

CICS 内部トレースが開始されます。

STOp

CICS 内部トレースは停止します。

CEBT SET SURVEILLANCE

代替 CICS 領域によるアクティブ CICS 領域の監視状況を設定します。

構文

CEBT SET SURVEILLANCE



オプション

OFF

代替 CICS 領域によるアクティブ CICS 領域の監視を停止します。

ON

代替 CICS 領域によるアクティブ CICS 領域の監視を開始します。

監視について詳しくは、「[CICS/ESA 3.3 XRF Guide](#)」を参照してください。

CEBT SET TAKEOVER

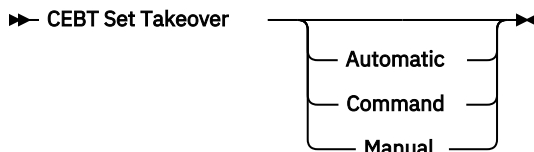
アクティブ CICS システムから代替 CICS システムへのテークオーバーを、自動、手動、またはコマンド主導のいずれかの方法で行うように設定します。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEBT SET TAKEOVER (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEBT INQUIRE TAKEOVER** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEBT SET TAKEOVER (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEBT STM は、テークオーバーが前に自動的に指定されていた場合に、手動操作に変更します。

CEBT SET TAKEOVER



オプション

Automatic

テークオーバーは自動的に発生します。

コマンド

テークオーバーは、コマンドによって行われます。

手動

テークオーバーは、手動で行われます。

これらのコマンド・オプションについて詳しくは、「[CICS/ESA 3.3 XRF Guide](#)」を参照してください。

CEBT PERFORM コマンド

CEBT PERFORM コマンドは、以下のタスクに使用できます。

- 代替 CICS システムをシャットダウンする (27 ページの『[CEBT PERFORM SHUTDOWN](#)』)
- 代替 CICS のダンプを要求して、処理を続行する (27 ページの『[CEBT PERFORM SNAP](#)』)
- アクティブ CICS から代替 CICS へのテークオーバーを行う (27 ページの『[CEBT PERFORM TAKEOVER](#)』)

CEBT PERFORM SHUTDOWN

XRF 複合システム内の代替 CICS システムをシャットダウンします。

説明

CEBT PERFORM SHUTDOWN と入力すると、すべてのアクティブ・システム・タスクは完了まで実行でき、代替 CICS システムは CICS 高可用性マネージャー (CAVM) データ・セットから正常にサインオフします。

CEBT PERFORM SHUTDOWN

▶▶ CEBT Perform SHUTdown — Dump — Immediate ▶▶

オプション

Dump

シャットダウンが完了したときに動的ストレージ・ダンプを作成します。

Immediate

代替 CICS システムを即時にシャットダウンし、すべてのアクティブ・タスクを終了します。代替 CICS は、CAVM データ・セットから異常にサインオフします。このアクションにより、タスクがまだ実行中の場合、1 次 (アクティブ) CICS システムは異常終了します。

CEBT PERFORM SNAP

CICS の実行を継続しながら、代替 CICS システムのスナップ・ダンプを作成します。

説明

CEBT PERFORM SNAP を使用すると、CICS の実行を継続しながら、代替 CICS システムのスナップ・ダンプが作成されます。すべての **CEBT PERFORM SNAP** 要求の結果、MVS SYS1.DUMPnn データ・セットに対する SDUMP が作成されます。**CEBT PERFORM SNAP** を使用すると、代替システム上で他のすべてのタスクが実行できなくなり、テークオーバー、またはテークオーバー後のリカバリーが遅延する可能性があります。

構文

CEBT PERFORM SNAP

▶▶ CEBT Perform SNAp ▶▶

CEBT PERFORM TAKEOVER

CEBT PERFORM TAKEOVER コマンドを使用すると、代替 CICS システムによるテークオーバーが開始され、アクティブ CICS システムは異常にサインオフします。

構文

CEBT PERFORM TAKEOVER

▶▶ CEBT Perform Takeover — Dump ▶▶

オプション

ダンプ

アクティブ CICS システムにメッセージを送信して、CAVM データ・セットからシステム・ダンプを作成するように要求します。ダンプの作成前にアクティブ CICS に障害が起こった場合には、この要求は満たされません。

第 8 章 CECI - コマンド・レベル・インタープリター

CICS コマンド・レベル・インタープリターを起動する CECI を使用して、**EXEC CICS** コマンドを入力し、構文を検査して、必要な場合は構文を変更します。ほとんどの場合、コマンドを処理することもできます。

各 **EXEC CICS** コマンドのプログラミング情報については、[システム・コマンド](#)を参照してください。

CECI トランザクションの使用方法的詳細については、[コマンド・レベル・インタープリター \(CECI\)](#)を参照してください。これには、CECI との完全なセッションの例が含まれています。

画面のコマンド行で次のように CECI と入力して、トランザクションを開始します。

```
CECI
```

Enter キーを押すと、すべての **EXEC CICS** コマンドのリストが表示されます。その後、先頭行にコマンドまたはその省略形を入力して Enter キーを押すと、そのコマンドの完全な構文が表示されます。

また、CECI と目的のコマンドの名前を一緒に入力すると、コマンドの完全なリストをバイパスできます。以下に例を示します。

```
CECI asktime
```

どちらの場合も、通常は続いてコマンドの構文を確認し、必要な場合は変更した後で、コマンドを処理できます。

多くの CICS システム・プログラミング・コマンドは CVDA 値を使用しますが、CECI はこれらと等価な数値を表示します。これらの数値の英字値への変換など、プログラミング情報については、[DEVICE オプションの CVDA 値](#)を参照してください。

コマンド・レベルの構文検査トランザクション (CECS)

CECS トランザクションを使用して、**EXEC CICS** コマンドの構文を検査します。このトランザクションはまた、コマンド・レベル・インタープリターを呼び出しますが、コマンドの処理は行いません。

画面のコマンド行で次のように CECS と入力して、トランザクションを開始します。

```
CECS
```

ENTER を押します。すべての **EXEC CICS** コマンドのリストが表示されます。画面の上部 (? の隣) にコマンドまたは省略形を入力して Enter キーを押すと、そのコマンドの完全な構文が表示されます。

また、以下のように CECS と目的のコマンドの名前を一緒に入力すると、コマンドの完全なリストをバイパスできます。

```
CECS command
```

CECI トランザクションと CECS トランザクションの使用方法的については、[コマンド・レベル・インタープリター \(CECI\)](#)を参照してください。

第 9 章 CEDA - オンライン・リソース定義

CEDA を使用して、CICS システムの実行中に、このシステムにリソースを定義します。CEDA を使用して、CICS システム定義 (CSD) ファイルと実行中の CICS システムの両方を更新できます。

ここでは、CEDA とその構文について簡単に説明します。CEDA コマンドについては[リソース管理トランザクション CEDA コマンド](#)で説明しています。

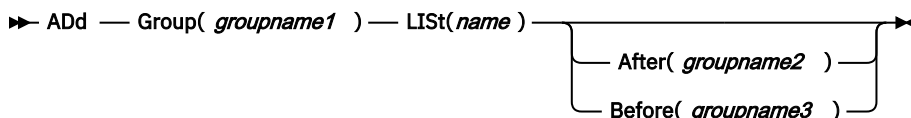
コマンド構文

CEDA コマンド構文

各リソース・タイプに適用可能な属性については、[CICS リソース: リスト、構文、および属性](#)を参照してください。

CEDA

ADD



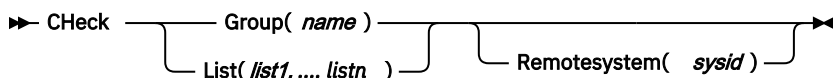
ALTER



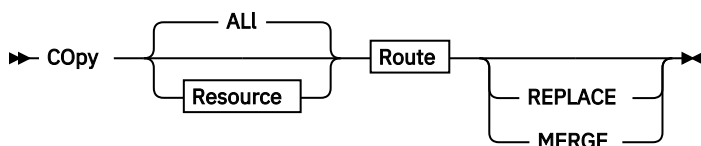
APPEND



CHECK



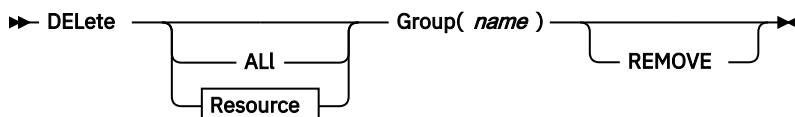
COPY



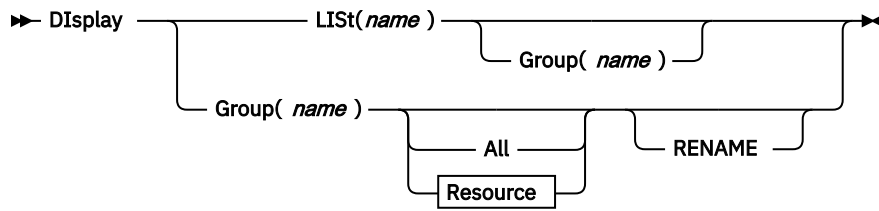
DEFINE



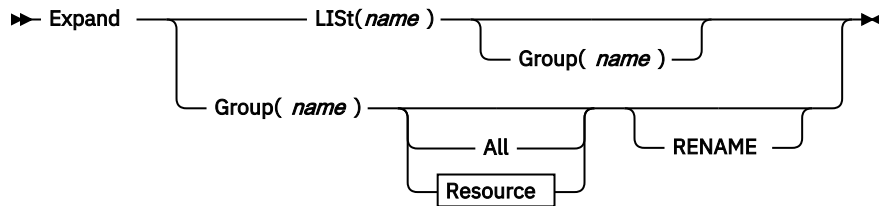
DELETE



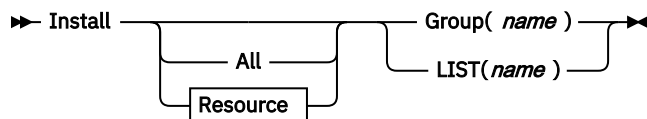
DISPLAY



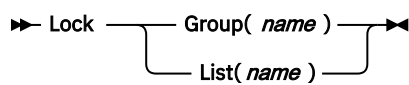
EXPAND



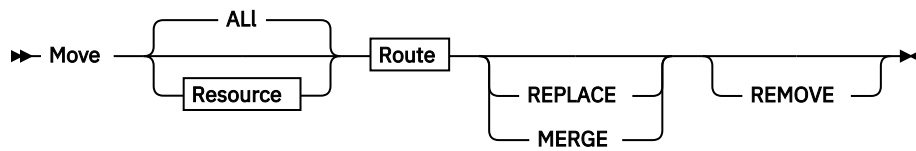
INSTALL



LOCK



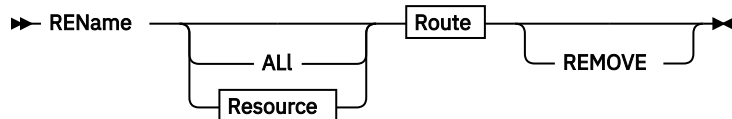
MOVE



REMOVE



RENAME



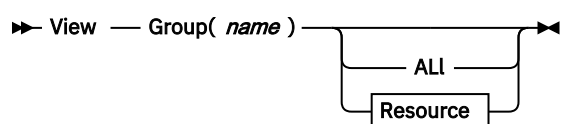
UNLOCK



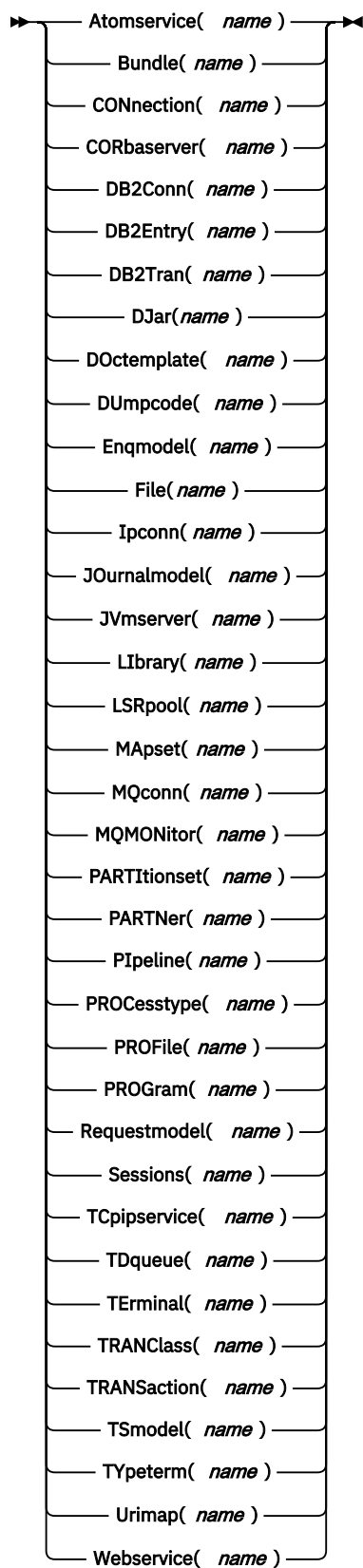
USERDEFINE



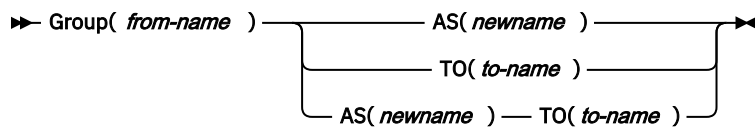
VIEW



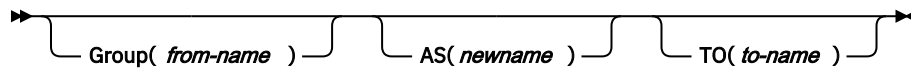
CEDA 続き
リソース



ルート (Copy および Move)



ルート (Rename)



属性リスト

for details consult the *CICS Resource Definition Guide*

以下のように入力して、作業画面に直接進んで変更を行うことができます。

```
CEDA function resource_type
```

例:

```
CEDA DEF CONN
```

CSD 互換性パネル

CICS の異なるリリース間で CSD を共用します。

35 ページの図 11 は、TCPIPService 定義の通常の DEFINE パネルを示しています。

```

DEF TCPIPService (DDDD) G(TEST)
OVERTYPE TO MODIFY CICS RELEASE 730
CEDA DEFINE TCPIPService( DDDD )
TCPIPService ==> DDDD
GROUp ==> TEST
DEScRiption ==>
Urm ==> DFHWBAAX
PORtNumber ==> 00000 1-65535
STatus ==> Open Open | Closed
PROtocol ==> Http Http | Eci | User | IPic
TRAnSACTION ==> CWXN
  
```

図 11. TCPIPService の DEFINE パネル: 通常モード

35 ページの図 12 は、TCPIPService 定義の互換性モードの DEFINE パネルを示しており、サポートされない PROTOCOL(IIOp) 属性が含まれています。

```

DEF TCPIPService (DDDD) G(TEST)
OVERTYPE TO MODIFY COMPATIBILITY MODE
CEDA DEFINE TCPIPService( DDDD )
TCPIPService ==> DDDD
GROUp ==> TEST
DEScRiption ==>
Urm ==> DFHWBAAX
PORtNumber ==> 00000 1-65535
STatus ==> Open Open | Closed
PROtocol ==> Http IIOp | Http | Eci | User | IPic
TRAnSACTION ==> CWXN
  
```

図 12. TCPIPService の DEFINE パネル: 互換性モード

CEDA の使用について詳しくは、リソース管理トランザクション CEDA コマンドを参照してください。CSD 互換性パネルの背景情報については、異なる CICS リリース間での CSD の共用を参照してください。

PF2 キーを使用して、TCPIPService の互換性モードの DEFINE パネルに切り替えます。PF2 キーを再び使用して、通常モードの DEFINE パネルに戻ります。

同じ TCPIP SERVICE 定義で現行属性とサポートされない属性の両方を使用することはできません。詳細については、[TCPIP SERVICE リソース](#)を参照してください。

セキュリティ検査

CEDA トランザクションにはリソース・セキュリティもコマンド・セキュリティもありません。

CEDA のセキュリティは、初期トランザクション接続セキュリティと、コマンドを発行するユーザーのユーザー ID とは別のユーザー ID が定義されたリソースのインストール時に行われる代理セキュリティのみです。

ユーザー・アクセスを CEDA の一部の機能に制限する機能は、[CEDB および CEDC トランザクション](#) を使用して提供されます。

コマンド・セキュリティ検査に関するプログラミング情報については、[セキュリティ検査](#)を参照してください。

CEDB および CEDC

CEDB および CEDC では、CEDA で利用できる機能の一部のみを使用できます。

次の表に、各トランザクションで利用できる機能を示します。

トランザクション	DISPLAY	ADD	INSTALL
	EXPAND	ALTER	
	VIEW	REMOVE	
CEDA	はい	はい	はい
CEDB	はい	はい	いいえ
CEDC	はい	いいえ	いいえ

第 10 章 CEDF および CEDX - 実行診断機能

CICS 実行診断機能 (EDF) は、アプリケーション・プログラムのテストに使用できる 4 つのトランザクションを提供します。

これらのトランザクション (CEDF と CEDX) を使用すれば、特別なプログラム・テスト手順を用意せずに、アプリケーション・プログラムを対話的にテストできます。

CEDF

CEDF を使用して、端末から開始されたユーザー・トランザクションに関連付けられたアプリケーション・プログラムをテストするために EDF を呼び出します。

CEDG

CEDG を使用して、読み取り専用モードで CEDF の機能にアクセスします。

CEDX

CEDX を使用して、端末以外のトランザクションに関連付けられたアプリケーション・プログラムをテストするために EDF を呼び出します。

CEDY

CEDY を使用して、読み取り専用モードで CEDX の機能にアクセスします。

CEDF トランザクションの使用

CEDF を使用すると、プログラムの開始時、各 CICS コマンドの実行時、およびプログラム終了処理時に、アプリケーション・プログラムをインターセプトすることができます。CEDF は、アプリケーション・プログラムの問題を切り分け、集中的に対処するために役立ちます。

このタスクについて

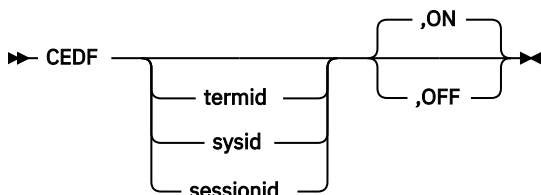
CEDF トランザクションの使用方法については、[実行診断機能 \(EDF\)](#) を参照してください。

EDF リソース定義がインストールされていることを確認する必要があります。これらのリソース定義は、IBM 提供のグループ DFHEDF 内で指定されています。リソース定義のインストールについては、[Resource definition installation](#) を参照してください。

EDF を実行するために使用する端末が transceive (ATI/TTI) 状況であることも確認する必要があります。

コマンド構文

CEDF



コマンド・オプション

CEDF トランザクションにはいくつかのコマンド・オプションがあります。

OFF

EDF 画面をオフに切り替えるかどうかを指定します。以下の例に示されているように、OFF を指定する場合は、前にコンマを入力する必要があります。

```
CEDF T33A
CEDF T33A ,OFF
CEDF ,OFF
```

ON

EDF 画面をオンに切り替えるかどうかを指定します。デフォルトは ON です。ON を指定する場合は、以下の例に示すように、前にコンマを入力する必要があります。

```
CEDF T33A
CEDF ,ON
```

sessionid

MRO、APPC、または LU6.1 の各セッションを経由して接続されたトランザクションのテストに使用される、セッション ID を指定します。接続されたトランザクションによって処理されるすべての CICS コマンドがモニターされます。

sysid

MRO セッションまたは APPC セッションを経由してトランザクションをテストするために使用されるシステム ID、または IPIC 接続の名前を指定します。IPIC 接続と同じ名前の MRO 接続または APPC 接続がある場合は、CEDF コマンドを実行すると両方の接続が呼び出されます。接続されたトランザクションによって処理されるすべての CICS コマンドがモニターされます。

termid

テスト対象のトランザクションが実行されている端末の ID を指定します。ID を指定しない場合は、CEDF トランザクションを入力する端末が想定されます。

EDF セッションの開始 (単一画面モード)

このタスクについて

単一の端末で EDF セッションを開始するには、画面を消去して、トランザクション ID (CEDF) を入力します。EDF の入出力は、トランザクションの入出力と混ざり合って表示されます。これは単一画面モードと呼ばれます。

```
CEDF
```

Enter キーを押すと、応答は以下のようになります。

```
THIS TERMINAL: EDF MODE ON
```

次に、画面を消去してトランザクションの名前を入力します。[38 ページの図 13](#) に、EDF を使用する標準的なトランザクションの初期画面を示します。

```
TRANSACTION: ACCT  PROGRAM: ACCT00  TASK: 0000054  APPLID: 00001349  DISPLAY: 00
STATUS:  PROGRAM INITIATION

EIBTIME      = 110343
EIBDATE      = 89174
EIBTRNID     = 'ACCT'
EIBTASKN     = 54
EIBTRMID     = '025L'

EIBCPOSN     = 4
EIBCALEN     = 0
EIBAIID      = X'7D'
EIBFN        = X'0000'
EIBRCODE     = X'000000000000'
EIBDS        = '.....'
+ EIBREQID    = '.....'

ENTER:  CONTINUE
PF1 :  UNDEFINED      PF2 :  SWITCH HEX/CHAR      PF3 :  END EDF SESSION
PF4 :  SUPPRESS DISPLAYS  PF5 :  WORKING STORAGE      PF6 :  USER DISPLAY
PF7 :  SCROLL BACK      PF8 :  SCROLL FORWARD      PF9 :  STOP CONDITIONS
PF10:  PREVIOUS DISPLAY  PF11: UNDEFINED          PF12: UNDEFINED
AT X'00543F1E'
AT X'00543F1F'
AT X'00543F21'
```

図 13. CEDF トランザクション: 初期画面

EDF セッションの開始(二重画面モード)

このタスクについて

二重画面モードと呼ばれるモードで EDF を使用できます。このモードでは、1 つの端末を使用して、別の端末で実行されているトランザクションをモニターします。

このモードは、以下のように 2 番目の端末の端末 ID (termid) を最初の端末で CEDF コマンドに追加することによって開始されます。

```
CEDF tttt
```

CEDF がこの応答として出すメッセージは、2 番目の端末で既に実行中のトランザクションがあるかどうかによって異なります。2 番目の端末が使用中でない場合に、最初の端末に表示されるメッセージは以下のとおりです。

```
TERMINAL tttt: EDF MODE ON
```

PROGRAM INITIATION 画面が表示されるときに、2 番目の端末でトランザクションが開始されるまで、他の動作は行われません。

2 番目の端末でトランザクションが既に実行中の場合に、最初の端末に表示されるメッセージは以下のとおりです。

```
TERMINAL tttt: TRANSACTION RUNNING: EDF MODE ON
```

CEDF は、次に処理されるコマンドで制御を取得し、適切な表示を行います。最初の端末では、2 番目の端末で実行されているトランザクションのコマンドのシーケンスを追跡できます。

リモート・トランザクションのモニター

複数領域操作 (MRO) 環境、またはシステム間連絡 (ISC) 環境 (APPC のみ) では、端末専有領域 (TOR) でリモートとして定義されているトランザクションに CEDF (単一画面モードのみ) を使用できます。CICS は、アプリケーション専有領域 (AOR) に、トランザクションが実行診断機能 (EDF) モードで実行されるという通知を自動的に出します。

このタスクについて

CICS TS 5.1 以降の領域間では、IPIC 接続を介した EDF 情報の送信がサポートされています。CICS TS 4.2 以前のリリースでは、IPIC 接続を使用する場合、端末専有領域 (TOR) でリモートと定義されるトランザクション用にリモート領域で CEDX を使用してください。

手順

- リモート・アプリケーションの終了時に、YES と応答すれば、端末は通常どおり EDF モードのままになります。ただし、CICS は関連した一時ストレージ・キューをすべて削除し、以前の EDF 画面やオプションは保管されません。次のトランザクションでは、これらをもう一度入力する必要があります。終了画面で NO と応答すると、参加しているすべての領域内で EDF セッションが終了します。

CEDF からの CEBR および CECI の呼び出し

手順

- CEDF 画面から CEBR トランザクションを呼び出すには、PF2 を押します。
その後、CEBR トランザクションを使用して、一時記憶域キューのブラウズと削除を行うことができます。CEBR コマンドの簡単な説明については、[17 ページの『第 6 章 CEBR - 一時記憶域ブラウズ』](#)を参照してください。
- CEDF 画面から CECI トランザクションを呼び出すには、PF5 を押します。

その後、CECI コマンドを使用してリソース状況を表示または変更できます。CECI コマンドの簡単な説明については、[29 ページの『第 8 章 CECI - コマンド・レベル・インタープリター』](#)を参照してください。

タスクの結果

外部セキュリティ・マネージャーによる CEBR トランザクションまたは CECI トランザクションの使用が許可されていない場合は、EDF パネルに警告メッセージが表示されます。CEDF のもとで実行されるトランザクションのセキュリティ 検査については、[CEDF の下で実行されるトランザクションのセキュリティ 検査](#)を参照してください。

例

CEBR および CECI を呼び出すことができる画面の例については、[40 ページの図 14](#) を参照してください。

```
TRANSACTION: DLID PROGRAM: DLID      TASK: 0000049 APPLID: IYAHZCIB
ADDRESS: 00000000

WORKING STORAGE IS NOT AVAILABLE
ENTER: CURRENT DISPLAY
PF1 : UNDEFINED          PF2 : BROWSE TEMP STORAGE PF3 : UNDEFINED
PF4 : EIB DISPLAY        PF5 : INVOKE CECI          PF6 : USER DISP
PF7 : SCROLL BACK        PF8 : SCROLL FORWARD      PF9 : STOP CONDITIONS
PF10: PREVIOUS DISPLAY    PF11: UNDEFINED          PF12: UNDEFINED
```

図 14. CEBR または CECI を開始できる代表的な EDF 表示画面

次のタスク

CEBR の使用方法について詳しくは、[一時記憶域のブラウズ \(CEBR\)](#)を参照してください。CECI の使用方法について詳しくは、[コマンド・レベル・インタープリター \(CECI\)](#)を参照してください。

CEDX トランザクションの使用

CEDX を使用すると、非端末トランザクションをモニターおよびデバッグできます。

デバッグ対象として指定するトランザクションは、以下のように開始できます。

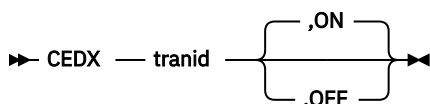
- 関連付ける端末なしで開始。例えば、**EXEC CICS START** コマンド、または一時データ・キューのトリガー・レベルによる開始。
- 端末での開始。端末は EDF 端末でも、別の端末でも構いません。

CICS は、CEDX **tranid** コマンドで指定されたトランザクションをインターセプトし、EDF コマンドが発行される端末で EDF 診断パネルを表示します。

CEDF のものと同じ機能および診断表示パネルが CEDX によって提供され、CEDF の基本的な規則が CEDX にも同じく適用されます。しかし CICS は、CEDF トランザクションの RESSEC 値および CMDSEC 値を使用して、CEDX トランザクションの使用を許可します。

コマンド構文

CEDX



コマンド・オプション

OFF

EDF 画面を OFF に切り替えることを指定します。以下の例に示されているように、OFF を指定する場合は、前にコンマを入力する必要があります。

```
CEDX TRNA,OFF
```

ON

EDF 画面を ON に切り替えることを指定します。デフォルトは ON です。以下の例に示されているように、ON を指定する場合は、前にコンマを入力する必要があります。

```
CEDX TRNB,ON
```

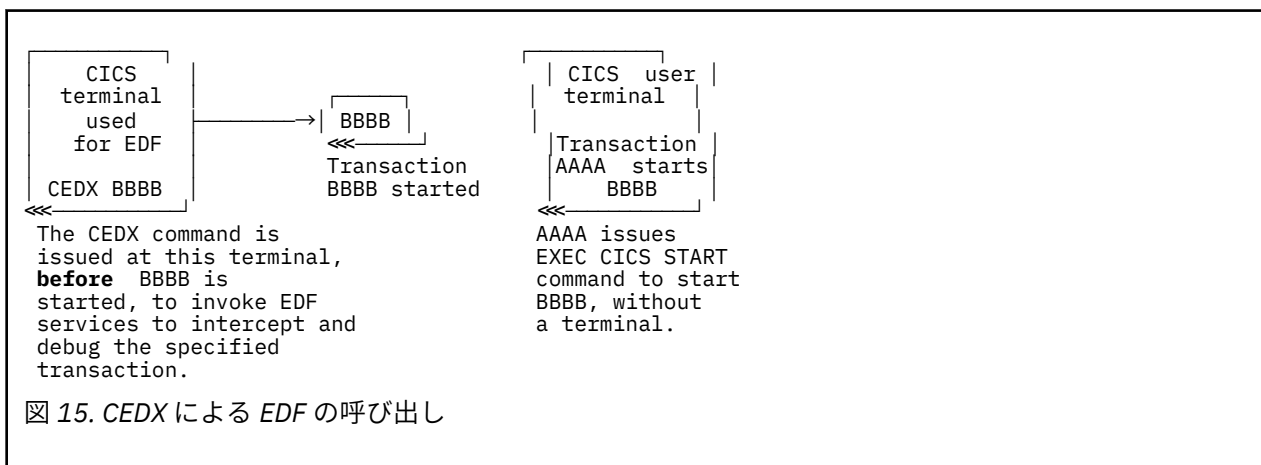
tranid

実行診断機能を使用してテストしたいトランザクションの ID を指定します。診断パネルが CEDX *tranid* コマンドを発行した端末に表示されます。

CEDX コマンドに指定するトランザクションは、ローカルの CICS 領域で実行する必要があります (CRTE の後に CEDX を続けることは許可されていません)。

CEDX は、**CEDX** コマンドを発行するときに既に実行中のトランザクションを中断できません。このコマンドは、これを発行した後に開始するトランザクションにのみ影響を与えます。

以下の図に、**EXEC CICS START** コマンドによって開始されたトランザクションにおいて、CEDX を使用して EDF を呼び出す操作を示します。ここには、2 台の端末が表示されています。EDF で使用される CICS 端末は、BBBB が開始する前に **CEDX** コマンドを発行し、指定されたトランザクションをインターセプトしてデバッグするための EDF サービスを呼び出します。CICS ユーザー端末は、**EXEC CICS START** コマンドを発行して、BBBB を端末なしで開始します。



CEDG および CEDY

トランザクション CEDG および CEDY は、CEDF および CEDX の読み取り専用形式です。CEDG および CEDY を使用して、CEDF および CEDX の関数にアクセスできます。CEDG を呼び出すためのコマンド構文は CEDF と同じで、CEDY を呼び出すためのコマンド構文は CEDX と同じです。

以下の関数は CEDG および CEDY では使用できません。

- トランザクションの異常終了
- CEBR トランザクションの呼び出し
- CECI トランザクションの呼び出し
- EIB 制御ブロックの変更
- 作業用ストレージの変更
- 実行されるコマンドの変更または NOOP

CEDG および CEDY では使用できない関数の場合、CICS は、EDF が読み取り専用モードで動作しているために関数を使用できないことを示すメッセージを表示します。

第 11 章 CEKL - マスター端末 (緊急用)

CEMT トランザクションを発行できない状況で、CEKL を使用してシステムからタスクを削除します。

CEKL INQUIRE TASK と **CEKL SET TASK** の 2 つのコマンドがあります。INQUIRE コマンドは、選択したタスクに関する情報を表示します。SET コマンドを使用すると、PURGE、FORCEPURGE、または KILL のいずれかのオプションを使用して個々のタスクを削除できます。

トランザクションの定義をインストールする必要があるという点で、CEKL トランザクションは他の CICS 提供のトランザクションとは異なります。このコマンドは、関連する CICS 領域に対して MODIFY コマンドを発行する権限があるオペレーティング・システム・コンソールで開始できます。このために、関連するコンソールの CICS 端末定義は必要ありません。通常、コマンドは SDSF セッションから発行します (ULOG 機能を使用して拡張コンソール出力を表示)。

CEKL トランザクションは、CICS コンソール・インターフェースの一部を構成し、専用の CICS 内部 TCB 上で実行されます。これにより、CICS の他の部分は応答しない場合であっても、コマンドの処理が可能です。

CEKL を使用したタスクの識別

CEKL INQUIRE TASK は、以下のようにいくつかの方法で使用できます。

- CEKL INQUIRE TASK は、システム上のタスクのリストを返します。
- TRANCLASS オプションまたは TRANSID オプションを指定することによって、タスクのリストを制限できます。
- また、DISPATCHABLE、RUNNING、または SUSPENDED を指定してリストを制限することもできます。例えば、DISPATCHABLE を使用すると、システム内のすべてのディスパッチ可能タスクが返されます。

CEKL を使用したタスクのモニター

CEKL INQUIRE TASK(value) は、単一のタスクの詳細を返します。これは、タスクのページ、強制ページ、または kill を要求した後でタスクをモニターするために有用です。

CEKL を使用したタスクの削除

CEKL SET TASK(value) には、PURGE、FORCEPURGE または KILL という 3 つのオプションがあります。推奨されるコマンドの発行順序は、以下のとおりです。

1. タスクがページ可能な場合は PURGE を最初に試行します。
2. タスクが妥当な時間内にページされない場合は、FORCEPURGE オプションの使用を試みます。
3. タスクが妥当な時間内にページされない場合は、KILL オプションの使用を試みます。CEKL を使用すると、PURGE または FORCEPURGE を最初に試行せずにタスクの kill を要求できます。



危険: このアクションにより、CICS 領域内のデータの上書き、CICS 領域の異常終了など、予測不能な結果が生じる可能性があります。これは、最後の手段として行ってください。

CEKL INQUIRE TASK

INQUIRE TASK は、ユーザー・タスクについての情報を返し、コマンドが発行された元のコンソールにリストを表示し、CICS 領域のジョブ・ログを表示します。

説明

CEKL INQUIRE TASK は、要求の中でキーワードを一意的に識別するために必要な最小限の文字数のキーワードを受け入れます。表示される構文の中で、許可される最小の省略形は大文字で示され、キーワードの残りの部分は小文字で示されます。また、システム・コンソールから以下の方法でこのコマンドを入力できます。

- /F cicsregionname,CEKL INQUIRE TASK

このコマンドは、システム内のユーザー・タスクの現在の状況を表示します。最短の省略形は CEKL I TA です。

- CEKL INQUIRE TASK に続けて、必要な情報の範囲を制限するオプションの 1 つを入力します。

CEKL I TA D を使用して、タスクのリストを制限できます。結果の表示には、システムでディスパッチ対象のマークが付けられているタスクのみの詳細が示されます。

トランザクション・クラスまたはトランザクション ID のオプション (例えば、CEKL I TA TRANClass(*value*)) を使用して、選択をさらに制限できます。このコマンドは、指定されたトランザクション・クラスのタスクのリストを返します。

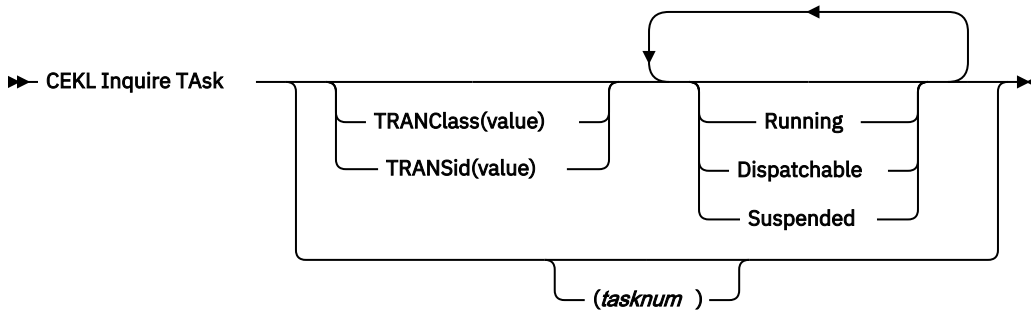
- /F *cicsregionname*,CEKL INQUIRE TASK(*tasknum*)

このコマンドは、システム内のタスクの現在の状況を表示します。最短の省略形は CEKL I TA(*tasknum*) です。

構文

CEKL INQUIRE TASK コマンドの構文は以下のとおりです。

CEKL INQUIRE TASK



オプション

Task(*tasknum*)

指定されたタスクを選択します。*tasknum* は CICS 生成のタスク番号 (1 から 99999 までの範囲内) です。*tasknum* を指定せずに Task と入力すると、システム上のすべてのタスクがリストされます。最大 1000 個のタスクが返されます。

TRANClass (*value*)

指定されたトランザクション・クラスからユーザー・タスクのみを選択します。TRANClass は、トランザクションが属する固有のトランザクション・クラス名 (最大 8 文字) です。トランザクション・クラスの指定に記号 * と + は使用できません。

TRANSid (*value*)

指定されたトランザクション名 (最大 4 文字) がトランザクションに関連付けられているユーザー・タスクのみを選択します。トランザクション・クラスの指定に記号 * と + は使用できません。

Running

実行中のタスクを選択します。これらのタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) をどれも指定しない場合にも含まれます。

Dispatchable

実行の準備ができていないタスク (ディスパッチ可能) を選択します。これらのタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) をどれも指定しない場合にも含まれます。

Suspended

中断されたタスク (何らかのイベントまたは条件を待機しているタスク) を選択します。タスクが初期ディスパッチのポイントに達していない理由は、トランザクション・クラスの制限に達したか、maxtasks の制限に達したためです。これらのタスクは、カテゴリー・オプション (DISPATCHABLE、RUNNING、および SUSPENDED) をどれも指定しない場合にも含まれます。

結果

以下の出力例は、`inquire` コマンドからの一般的な出力です。

```
TAS(nnnnn) ppp ddd cc tttt TCL(tttttttt) USE(aaaaaaaaa) ATT(sssss) CPU(sssss)
RUA(sssss) HTI(sssss) HTY(rrrrrrrr) HVA(rrrrrrrr)
```

TAS(nnnnn)

`nnnnn` は、このタスクに対する CICS 生成のタスク番号 (1 から 99999 までの範囲内) を表示します。

ppp

`ppp` は、タスクのページ、強制ページ、または kill のどれが行われているかを示します。PUR、FOR、または KIL のいずれかが表示されます。ブランクは、どのアクションも試行されていないことを意味します。

ddd

`ddd` は、タスクがディスパッチ可能、実行中、または中断のどの状態にあるかを示します。DIS、RUN、または SUS のいずれかが表示されます。

cc

`cc` は、このタスクに関連付けられている TCB を示します。`cc` の値は、以下のとおりです。

CK

例えば XPLink (モード X8) TCB など、CICS キーのオープン TCB にタスクが関連付けられていることを示します。

IN

タスクが CICS 内部 TCB のいずれかに関連付けられていることを示します。

QR

CICS タスクが QR TCB に関連付けられていることを示します。

UK

タスクがユーザー・キーのオープン TCB に関連付けられていることを示します。

タスクが初期ディスパッチのポイントに達していない場合、値はブランクです。

tttt

タスクに関連付けられたトランザクションの名前 (最大 4 文字) を表示します。

TCL(tttttttt)

タスクに関連付けられたトランザクション・クラスの名前 (最大 8 文字) を表示します。タスクがクラス内で定義されていない場合、値はブランクです。

USE(aaaaaaaaa)

タスクのユーザー ID を表示します。

ATT(sssss)

タスクが接続されてからの時間の長さ (秒単位) を表示します。値 99999 は、時間が 24 時間を超えることを表します。

CPUtime(sssss)

このタスクにより使用された CPU 時間 (秒数) を表示します。モニターが活動状態にない場合、値 (*****) が戻ります。値が返されない場合は、タスクがトランザクション・クラスの制限または `maxtasks` 制限に達しています。タスクが初期ディスパッチのポイントに達していない場合、値はブランクです。値 99999 は、時間が 24 時間を超えることを表します。

RUnAway(sssss)

ランナウェイ条件のタスクをモニターするために CICS が使用する現在の制限を秒単位で表示します。値がゼロの場合、CICS はタスクのランナウェイ状態をモニターしません。

中断されたタスクの場合のみ、出力には `HTIME(sssss)`、`HTYPE(reason)`、および `HVALUE(resourcenamename)` が含まれます。これら 3 つの属性の値は、以下のとおりです。

HTIME(sssss)

タスクが現在中断状態であった時間 (秒単位) を表示します。値 99999 は、時間が 24 時間を超えることを表します。

HType(rrrrrrrr)

タスクが中断された理由を表示します。

HValue(rrrrrrrrr)

リソース名 (最大 16 文字) を表示します (例えば、ファイル名や TS キュー名など)。

注: HType および HValue にはブランクが返されることがあります。例えば、WAIT EXTERNAL コマンドに NAME オプションが指定されていない場合に、ブランクが返されます。

サンプル画面

このサンプル出力は、生成されて TSO ユーザー・ログに返される出力を示しています。この例では、CEKL コマンドを使用してシステム MEAC022X 内のタスクすべてのリストを取得し、14 個のユーザー・タスクが返されています。このサンプルには、最初の 3 つのタスクのみが示されています。最初の 2 つのタスクは中断され、3 番目は実行中です。

タスク 5 の出力は、タスクが中断されていて、TCB は QR TCB であり、トランザクション ID は XSSY であることを示しています。トランザクションのユーザー ID は CICSUSER で、接続時間は 6731 秒、使用された CPU 時間の長さは 39 秒、ランナウェイ時間制限は 5 秒です。2 行目は、タスクが中断されていた時間 (HTime)、タスクが中断された理由 (Htype)、および関連したリソース名 (Hvalue) の値を返します。2 番目のタスクは最初と同様です。

3 番目のタスク (トランザクション ID は L001) は、QR TCB 内でまだ実行されています。

```
F MEAC022X,CEKL I TA
+IYK2ZFX3 DFHCQ0243I  CEKL INQUIRE: 00014 task(s) matched selection criteria.
+IYK2ZFX3 TAS(00005)    SUS QR XSSY          USE(CICSUSER) ATT(06731) CPU(00039) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(06732)    HTY(ICMIDNTE) HVA(DFHAPTIM)
+IYK2ZFX3 TAS(00006)    SUS QR XSSY          USE(CICSUSER) ATT(06731) CPU(00093) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(03293)    HTY(ICEXPIRY) HVA(DFHAPTIX)
+IYK2ZFX3 TAS(00033)    RUN QR L001          USE(CICSUSER) ATT(00033) CPU(00023) RUA(00010)
```

図 16. CEKL INQUIRE TASK の出力

2 番目の例は、タスク番号が選択された場所と、1 つのレコードが返されていることを示しています。

```
F MEAC022X,CEKL I TAS(62)
+IYK2ZFX3 DFHCQ0241I  CEKL INQUIRE: task number 00062 found.
+IYK2ZFX3 TAS(00062)    SUS QR XEMT          USE(CICSUSER) ATT(00176) CPU(00069) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00176)    HTY(ZCIOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
```

図 17. CEKL INQUIRE TASK の出力

CEKL SET TASK

ユーザー・タスクの取り消しを要求します。

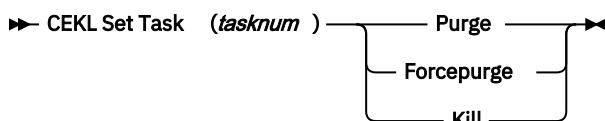
説明

CEKL SET TASK は、PURGE、FORCEPURGE、または KILL 要求を開始します。コマンドは、要求の中でキーワードを一意的に識別するために必要な最小限の文字数のキーワードを受け入れます。表示される構文の中で、許可される最小の省略形は大文字で示され、キーワードの残りの部分は小文字で示されます。

構文

CEKL SET TASK コマンドの構文は、以下のとおりです。

CEKL SET TASK



オプション

Task(tasknum)

CICS 生成のタスク番号。この範囲は 1 から 99999 までです。

Forcepurge

タスクは終了されることになります。データ保全性は保証されません。強制パージを使用する前に、パージを使用してください。場合によっては (例えば、バックアウト処理中にタスクの強制パージが行われると)、CICS は異常終了します。タスクを終了させるものの、CICS を終了させないという場合には、FORCEPURGE ではなく PURGE を使用します。

Kill

タスクは終了されることになります。システムおよびデータの保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、タスクの PURGE または FORCEPURGE を試みた後で初めて使用する必要があります。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、ある状況では、停止された領域が処理を継続できるように、ユーザーがその領域を解放することを許可します。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

パージ

タスクは終了します。システムおよびデータ保全性を維持できる場合にのみ、タスク終了が生じます。

どのオプションの場合も、タスクがオープン TCB に何らかの方法で関連付けられている場合は、タスクが最終的にパージされるまで、短時間の遅延が発生する場合があります。

サンプル画面

以下の図は、最初にタスクをパージするために CEKL が呼び出された後 (例えば CEKL SET TASK(62) PURGE)、生成される出力を示しています。

パージ・コマンドの再発行を試みた場合は、タスクが既にパージ中であることを示すメッセージがシステムから返され、2 番目のコマンドは無視されます。パージに既に長時間かかりすぎていると考えられる場合は、強制パージ・コマンドを発行できます (例えば、CEKL SET TASK(62) FORCEPURGE)。

許容できない時間が経過した後にもタスクがまだシステムに残っている場合は、kill コマンドを発行できます (例えば、CEKL SET TASK(62) KILL)。このコマンドは、常にシステムからタスクを削除します。このことを確認するには、例えば CEKL INQ TASK(62) と入力して、タスクに関する照会を行います。

```
F MEAC022X,CEKL SET TA(62) PUR
+IYK2ZFX3 DFHCQ0252I CEKL SET: PURGE request issued for task number 00062.
+IYK2ZFX3 TAS(00062) PUR SUS QR CEMT USE(CICSUSER) ATT(00270) CPU(*****) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00271) HTY(ZCLOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
F MEAC022X,CEKL SET TA(62) PUR
+IYK2ZFX3 DFHCQ0253I CEKL SET: PURGE request ignored; task number 00062 is being purged
+IYK2ZFX3 TAS(00062) PUR SUS QR CEMT USE(CICSUSER) ATT(00288) CPU(*****) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00289) HTY(ZCLOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
+IYK2ZFX3 DFHCQ0252I CEKL SET: FORCEPURGE request issued for task number 00062.
+IYK2ZFX3 TAS(00062) FOR SUS QR CEMT USE(CICSUSER) ATT(00270) CPU(*****) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00271) HTY(ZCLOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
+IYK2ZFX3 DFHCQ0257I CEKL SET: FORCEPURGE request ignored; task number 00062 is being forcepurged
+IYK2ZFX3 TAS(00062) FOR SUS QR CEMT USE(CICSUSER) ATT(00288) CPU(*****) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00289) HTY(ZCLOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
F MEAC022X,CEKL SET TA(62) KILL
+IYK2ZFX3 DFHCQ0259I CEKL SET: KILL request issued for task number 00062.
+IYK2ZFX3 TAS(00062) KIL SUS QR CEMT USE(CICSUSER) ATT(00394) CPU(*****) RUA(00005)
+IYK2ZFX3 HTI(00395) HTY(ZCLOWAIT) HVA(DFHZARQ1)
F MEAC022X,CEKL I TA(62)
+IYK2ZFX3 DFHCQ0242I CEKL INQUIRE: no tasks matched selection criteria.
```

図 18. CEKL SET TASK の出力

第 12 章 CEMN - CICS モニター機能

CEMN モニター機能トランザクションを使用して、CICS モニター機能の設定を照会したり、CICS を再始動せずにいくつかの設定を変更することができます。

CEMN は、**INQUIRE MONITOR** および **SET MONITOR** システム・プログラミング・コマンドおよび同等の CEMT コマンドの代替手段を提供します。

CEMN を使用して以下の設定を変更できます。

モニター状況

モニターが必要かどうか。

Exception class (例外クラス)

例外クラス・データが必要かどうか。

ID クラス

ID クラス・データが必要かどうか。

Performance class (パフォーマンス・クラス)

パフォーマンス・クラス・データが必要かどうか。

Resource class (リソース・クラス)

リソース・クラス・データが必要かどうか。

DPL resource limit (DPL リソース限界)

リソース・クラス・データが収集される分散プログラム・リンク要求の最大数。

ファイル・リソース限界

リソース・クラス・データが収集されるファイルの最大数。

Tsqueue Resource Limit (Tsqueue リソース限界)

リソース・クラス・データが収集される一時記憶域キューの最大数。

URIMAP resource limit (URIMAP リソース限界)

WEB OPEN URIMAP コマンドに指定された URIMAP のうち、リソース・クラス・データを収集する URIMAP の最大数。

WEBSERVICE resource limit (WEBSERVICE リソース限界)

INVOKE SERVICE コマンドに指定された WEBSERVICE のうち、リソース・クラス・データを収集する WEBSERVICE の最大数。

Compression status (圧縮状況)

モニター・データを圧縮するかどうか。デフォルトでは、モニター・レコードは圧縮されます。

Converse status (会話状況)

会話型タスクに対して個別のパフォーマンス・クラス・レコードを生成するかどうか。

Syncpoint status (同期点状況)

同期点要求に対して個別のパフォーマンス・クラス・レコードを生成するかどうか。

Frequency (頻度)

CICS が長期実行タスクに対してパフォーマンス・クラス・レコードを生成する間隔。CICS がこの方法でパフォーマンス・クラス・モニター・レコードを生成できるのは、長期実行トランザクションが準再入可能 (QR) または並行する (CO) モード TCB で実行される場合のみです。

これらの設定を変更すると、変更を行ったときに実行中のタスクに対して記録されるモニター・データに影響します。この影響は、**SET MONITOR** システム・プログラミング・コマンドまたは CEMT SET MONITOR コマンドを使用して設定を変更した場合と同じです。393 ページの『CEMT SET MONITOR』では、CICS モニター機能の設定を変更した場合に、実行中のタスクのデータがどのように累積または記録されるか、あるいは失われるかについて説明しています。

以下の設定値は表示されますが、CEMN を使用して変更することはできません。

Application naming status (アプリケーション・ネーミング状況)

CICS アプリケーション・ネーミングのサポートが有効かどうか。

RMI status (RMI 状況)

追加のパフォーマンス・モニターが CICS リソース・マネージャーでアクティブであるかどうか。

Time option (時間オプション)

タイム・スタンプ・フィールドが GMT で戻されるか、または地方時で戻されるか。

モニター管理テーブル (MCT) で DFHMCT TYPE=INITIAL マクロを使用して、分散プログラム・リンク要求限界、ファイル・リソース限界、一時記憶域キュー・リソース限界、アプリケーション・ネーミング状況、および RMI 状況を変更することができます。時間オプションは MNTIME システム初期設定パラメーターを使用して変更できます。これらの変更のいずれかを実装するには、CICS の再始動が必要です。

CEMN トランザクションを開始するには、ディスプレイのコマンド行で CEMN と入力してから Enter キーを押します。CEMN 基本パネルが表示されて、CICS モニター機能の現在の状態と、ご使用のシステムでのモニター・オプションの設定が示されます。2 次オプション・パネルを表示するには、F5 を押します。

入力フィールドは、新しい値が必要な場合は、それで上書きすることができます。アプリケーション・ネーミング状況 (Application Naming Status)、RMI 状況 (RMI Status)、および時間オプション (Time Option) フィールドは照会専用のフィールドです。Enter キーを押すと、CEMN によって新しい値を設定するために必要なコマンドが発行されます。エラーが生じた場合は、F9 キーを押してエラー・メッセージを表示してください。短いエラー・メッセージが 1 つだけ発生した場合は、ディスプレイの下の方に表示されます。

CEMN はカテゴリー 2 トランザクションです。

第 13 章 CEMT - マスター端末

すべてのマスター端末機能の呼び出しには、CEMT を使用します。マスター端末プログラムは、CICS システムの動的ユーザー制御を提供します。この機能を使用することにより、オペレーターは CICS が使用するパラメーター値に関する照会と変更、システム・リソースの状況の変更、タスクの強制終了、および CICS システムのシャットダウンを行うことができます。

以下のトランザクションは、CEMT のサブセットです (つまり、CEMT の機能のすべてではなく一部が含まれています)。

- 代替 CICS システムに関する CEBT (19 ページの『第 7 章 CEBT - マスター端末 (代替 CICS)』を参照)
- CEOT (441 ページの『第 14 章 CEOT - 端末状況』を参照)
- CEST (453 ページの『第 18 章 CEST - 監視端末』を参照)

CECI トランザクション (29 ページの『第 8 章 CECI - コマンド・レベル・インタープリター』を参照) は、CEMT と同じコマンド・インタープリターも使用します。

CEMT は、IBM 3270 ファミリーのディスプレイ 装置または同等の端末から、またはシステム・コンソールから開始できます。オペレーティング・システム・コンソールからの CEMT を開始する方法については、[システム・コンソールの使用](#)を参照してください。このセクションでの CEMT の説明では、別途記載のない限り、3270 ファミリーのディスプレイ 装置またはそれに相当する端末の使用を前提としています。

CEMT を開始するには、手動でコマンド行に ID の CEMT を入力するか、同じ行にオプションをコンマまたはブランクで区切って追加し、完全な要求を形成できます。

手動で CEMT を入力してから ENTER を押してトランザクションを開始すると、51 ページの『CEMT トランザクションの開始』で説明されているように、詳細情報に関するプロンプトが表示されます。

CEMT トランザクションの開始

CEMT 要求は段階ごとに構成できます。あるいは、完全な要求を一度に入力することもできます。CEMT トランザクションは要求の構文を検査し、エラーの診断をします。要求が構文的に正しい場合には、これは即時に処理されます。重大な構文エラーのために要求を処理できない場合は、要求の完全な構文が表示されます。

このタスクについて

要求の前に疑問符 (?) を付けると、要求の構文が表示されますが、処理は行われません。

CEMT の直後に負符号 (-) を置き、システム・コンソールからマスター端末トランザクションを使用している場合、CEMT は常にその結果を省略形式で表示します。これは、照会で返されるオブジェクトの数とは無関係です。負符号を使用しない場合、システム・コンソールから発行される CEMT コマンドは、単一のオブジェクトが返される場合にのみ、結果を拡張形式で表示します。

CEMT トランザクションを開始した後、さらに要求が行われる際には開始時に ID が暗黙指定されるので、後続の要求で CEMT を再入力する必要はありません。ただし、システム・コンソールを使用している場合は、常に各マスター端末要求を CEMT で開始する必要があります。

手順

1. 画面のコマンド行で CEMT と入力して、Enter キーを押します。
以下の応答が返されます。

STATUS: ENTER ONE OF THE FOLLOWING

Discard
Inquire
Perform
Set

図 19. CEMT トランザクション: 初期画面

2. 示されているキーワードのいずれかを入力するように、画面にプロンプトが表示されます。
 - a) D と入力して Enter キーを押すと、廃棄できるリソース・タイプのリストが表示されます。
 - b) I と入力して Enter キーを押すと、照会できるリソース・タイプのリストが表示されます。
 - c) P と入力して Enter キーを押すと、アクションを実行できるリソース・タイプのリストが表示されます。
 - d) S と入力して Enter キーを押すと、状況を変更できるリソース・タイプのリストが表示されます。

システム・パラメーター

CEMT のキーワードを何も選択せずに Enter キーを押すと、INQUIRE SYSTEM が想定され、システム・パラメーターが表示されます。詳細は、[235 ページの『CEMT INQUIRE SYSTEM』](#)に説明されています。

プログラム・ファンクション (PF) キー

CEMT を開始すると、画面の下部にファンクション・キーのリストが表示されます。端末にそのようなキーがない場合は、カーソルをリスト内の名前の下に置いて Enter キーを押すことによって、同じ効果が得られます。

ファンクション・キーの動作は以下のとおりです。

F1

一般ヘルプ・キー。また、すべてのファンクション・キーのリストとそれぞれの動作を示します。

F2

拡張パネルで、文字値の表示を 16 進形式に切り替えます ([55 ページの『展開パネル』](#)を参照)。

F3

CEMT トランザクションを終了して、このマスター端末セッションを終了します。ただし、例えば新規コマンドをキー入力したり、前のコマンドを上書きしたりして画面を変更しているときにこのキーを使用すると、セッションは終了せず、このキーは無視されます。

F5

変数表示を行います。このキーを使用して、コマンドで使用する値を作成できます。

F7

半画面分、後方にスクロールします。

F8

半画面分、前方にスクロールします。

F9

メッセージを展開します。複数のメッセージが要求に応答して生成された場合には、生成されたメッセージの数を知らせるメッセージが画面の下部近くに表示されます。F9 を押すと、すべてのメッセージを別の画面に表示できます。Enter キーを押すと元の画面に戻ります。

F10

全画面分、後方にスクロールします。

F11

全画面分、前方にスクロールします。

キーワードの最小省略形

CEMT は、要求の中でキーワードを一意的に識別するために必要な最小限の文字数のキーワードを受け入れます。

例えば、キーワード TASK を TA または TAS と入力できますが、T は使用できません。これは、TCLASS、TDQUEUE、TERMINAL、TRANSACTION、または TRDUMPCODE と区別できないからです。使用している省略形が固有でない場合は、プロンプトが出されます。この規則の例外は SHUTDOWN で、最小限でも SHUT を指定する必要があります。

画面に表示される構文の中で、許可される最小の省略形は大文字で示され、残りの部分は小文字で示されます。

新しいコマンドの導入により、CICS リリース間で最小の省略形が変更される場合があります。

ALL オプション

要求形式の多くに、ALL オプションが含まれています。INQUIRE の場合、これがデフォルトです。例えば、端末について照会した場合、端末 ID、端末クラス ID、またはシステム ID を指定しない限り、すべての端末に関する情報を受け取ることになります。

ただし、ALL は SET コマンドのデフォルトではありません。SET コマンドに ALL オプションを指定すると、ユーザーがアクセスを許可されている指定されたタイプのすべてのリソースに対して、要求したすべての変更が行われます。

SET コマンドで指定したタイプのリソースが存在しない場合には、「NOT FOUND」という応答が返されます。

CLASS オプション

端末、トランザクション、およびプログラムの操作を行う際に、CLASS オプションを使用して TLT、XLT、または PLT の接尾部を指定できます。

このオプションは、INQUIRE コマンドまたは SET コマンドのスコープを、指定されたテーブルに定義されているリソースのみに制限します。定義がインストールされていないリソースは、「NOT FOUND」と表示されます。詳しくは、以下を参照してください。[Terminal list table \(TLT\)](#)、[トランザクション・リスト・テーブル \(XLT\)](#)、および [プログラム・リスト・テーブル \(PLT\)](#)。

リソースのファミリー (* 記号と + 記号の使用)

リソースのファミリーを指定するため、ID の一部として * および + の記号を使用することができます。* は任意の数の文字 (空を含む) を表し、+ は単一文字を表します。例を以下に示します。

例	出力される ID
A*	A で始まる ID すべて
DATA	DATA という文字を含む ID すべて
TERM00+	TERM00 で始まる 7 文字の ID すべて

* および + の使用は、既存のリソースの選択に制限されており、新規リソース・セットの作成またはリソースの破棄には使用できません。

注: INQUIRE コマンドと SET コマンドは、異なる方法で総称名を使用できます。以下の 2 つの例は、この違いを示しています。

```
CEMT INQUIRE FI(*) DSN(ABCD*)
```

ABCD で始まる名前を持つデータ・セットを含むすべてのファイルがリストされます。

```
CEMT SET FI(*) DSN(ABCD*) CLO
```

すべてのファイルをデータ・セット ABCD* に関連付け、これらをすべて閉じます。

したがって、総称名の効果が及ぶことが予期される範囲は、そのリソース自体のみです。

リソース ID のリスト

リストの項目をコンマまたはブランクで区切ることによって、単一のリソース ID ではなく、複数のリソース ID のリストを指定することができます。構文のエラーがあれば報告されます。

```
CEMT SET TERMINAL(T01,T02,T03,T04) INSERVICE
```

ID のリストに含まれる ID の場合、* または + を使用することはできません。

注: リソース ID の名前にコンマ(,)を使用すると、リソースのリストの使用を許可するコマンドを使用できなくなります。これは、コンマが名前の一部としてではなく、リストの分離文字として扱われるためです。

リソース・グループのサブグループ定義

このタスクについて

照会を行う際、リソース・グループの 1 つまたは複数の属性を指定することでリソース・グループを 2 次定義することができます。例:

```
CEMT INQUIRE TERMINAL ALL INSERVICE
```

サービス中のすべての端末の状況を表示します。

サブグループが定義されたリソース・グループにメンバーがない場合、CEMT は NOT FOUND 応答を返します。例えば、システム内のすべてのファイルが閉じている場合に、以下のコマンドを発行します。

```
CEMT INQUIRE FILE ALL OPEN
```

この場合は、NOT FOUND 応答が返されます。

また、同じように SET コマンドでリソース・グループのサブグループを定義することはできません。例:

```
CEMT SET TERMINAL ALL INSERVICE PAGE
```

この場合、すべての端末がサービス中とページ状況の両方になります。

ただし、INQUIRE 要求を発行して、表示された画面に上書きすることによって、このようなリソースのグループを管理できます。

画面の上書き

このタスクについて

INQUIRE 要求を発行すると、指定したグループのリソースごとの状況情報から構成される画面が通常は表示されます。状況情報は、省略されたキーワードのリストとして表示されます。一部のフィールドにカーソルを移動して、上書きすることによってこれらの内容を変更できます。再度 Enter キーを押すと、CICS は変更されたすべてのフィールドの内容を読み取り、変更によって暗黙指定された有効な操作を処理します。無効な変更を行うと、エラー・メッセージが表示され、フィールドは変更されません。

フィールドを上書きすると、CEMT はその位置で有効なオプションの中からキーワードを一意的に識別するために必要な最小限の文字のみを受け入れ、認識します。これは通常、1 文字のみです。

多くの状況表示では、画面の右側にある特定の定位置フィールドに現在の状況が表示されます。一部のフィールドでは、特定のリソースの状況が「オン」である場合のみ定位置表示が現れます。現在の状況を上書きして (表示されている場合も、ブランクの場合も)、変更できます。

例えば「CEMT INQUIRE SYD」と入力すると、システム・ダンプ・テーブル内のエントリーの現在の設定が表示されます。これらのエントリーのさまざまな属性が、画面全体のフィールドに表示されます。このダンプ・コードでエラーが発生した後に CICS がシャットダウンされる場合は、そのダンプ・コードの属性の 3 つ目にあるフィールドに「Shu」と表示されます。一方、CICS がシャットダウンされない場合は、「Shu」のスペースはブランクのままになります。このダンプ・コードについては CICS がシャットダウンされるようにする場合は、そのフィールドまで Tab キーで移動して、そのフィールドのみのブランク・スペースに「shu」と入力します。

定位置フィールドの順序は、各種 CEMT INQUIRE コマンドの説明に示されています。

画面を上書きするたびに、その特定のアクションが行われるのみでなく、すべての状況情報が更新されます。多数のテーブル検索にかかるオーバーヘッドを避けるには、SET コマンドを使用するか、照会対象を特定の数のリソースに限定します (検索引数に「ワイルドカード」を使用するか、リソース ID の範囲を指定することによって)。

タブ・キー

変更できるフィールドは、各画面で異なります。ただし、Tab キーを繰り返し押すことによって、これらのフィールドを見つけることができます。このようにすると、カーソルが次のフィールドにジャンプします。

スクロール記号 (+ 符号)

画面の最初または最後の行の正符号 (+) は、現行画面の上または下にさらにデータがあることを示しています。上方スクロールすると、上にあるデータが現れ、下方スクロールすると下にあるデータが表示されます。

画面中のブランク・フィールド

画面によっては、CEMT SET PROGRAM コマンドの NEWCOPY など、リソースの状況とは関係のないオプションを指定できるブランク・フィールドが含まれていることがあります。また、NO で始まる NOREAD などの状況もブランク・フィールドで表されます。これらのフィールドは、Tab キーを使用して見つけることができます。

? キーの使用

コマンドの前に ? を付けると、そのコマンドの構文が画面に表示されます。

このタスクについて

例えば、?INQUIRE TERMINAL と入力すると、照会コマンドで指定できるオプションのリストが表示されます (デフォルトは強調表示)。[55 ページの図 20](#) を参照してください。

```
?INQ TERM
STATUS:  COMMAND SYNTAX CHECK
CEMT  Inquire TErминаl()
  < Class() | ALL >
  < TRAnsaction() >
  < PRIority() >
  < PAGEable | AUTopageable >
  < Inservice | Outservice >
  < ATi | NOAti >
  < TTi | NOTti >
  < NEtname() >
  < ACquired | REleased >
  < CReate | NOCreate >
  < REMotesystem() >
```

図 20. INQUIRE コマンドの構文を表示する画面の例

展開パネル

リストから 1 つのリソース項目を選択し、必要に応じてそのオプションを確認して変更できます。

必要な CEMT INQUIRE または SET コマンド名を入力してから、表示パネルの該当する行にカーソルを移動し、Enter キーを押します。これにより、選択したリソース項目の属性を示す展開表示が行われます。処理中に、関連したリソースに対して INQUIRE コマンドが実行されます。

カーソルを最初のエントリーの左側に移動し、ENTER を押します。これにより最初のエントリーが選択され、そのリソースの関連情報が表示されます。例えば、端末の情報が展開されて、56 ページの図 21 のような画面が表示されます。

```
in term
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Terminal(bell)
Transaction()
Priority( 000 )
Pagestatus( Pageable )
Servstatus( Inservice )
Atistatus( Noati )
Ttistatus( Tti )
Nature(Local)
Purgetype(          )
Netname()
Termstatus(          )
Createsess(          )
Task(00000)
Remotesystem()
Rname()
Rnetname()
Cid()
```

図 21. 選択した端末の端末設定

変更を行う場合は、表示された設定を上書きします。Enter キーを押すと元のパネルが復元されます。

照会するリソースごとに、その行の先頭にあるスペースに「?」または「s」を入力することにより、複数の展開パネルを連続して表示できます。最初の展開パネルの後、Enter キーを押すと次のパネルが表示されます。

16 進値

TSQUEUE や NETUOWID など、いくつかの値には表示できない文字が含まれており、これらはピリオドとして表示されます。拡張パネルで PF2 を使用すると、これらの文字の 16 進値を表示できます。文字フォーマットに戻すには、もう一度 PF2 を押します。

VARIABLES

PF5 を押すと、CECI コマンドの場合と同様に変数が表示されます。以下に、使用法の例をいくつか示します。

FILE 画面から、特定の DSNAME について照会できます。DSNAME の通常の長さは 26 文字で、最大 44 文字です。拡張パネルに移動し、DSNAME 行にカーソルを置いて、PF5 を押します。これで、変数 &DSN に必要な値が格納されます。コマンド行に I DSN(&DSN) と入力して、Enter キーを押します。

表示不可の文字 (例えば、X'FF') から始まる TSQUEUE 名をすべて検索できます。変数表示のために PF5 を押します。X と 2 を入力して、長さ 2 の変数 &X を作成します。PF2 を押して 16 進に切り替え、「4040」に上書きして「FF5C」と入力します (「5C」はアスタリスク (*) 記号の 16 進数)。コマンド行に ITS(&X) と入力して、Enter キーを押します。

変数表示について詳しくは、[変数の定義](#)を参照してください。

アプリケーション・プログラムからの CEMT の呼び出し

このタスクについて

CEMT INQUIRE および SET 操作の多くは、**EXEC CICS INQUIRE** コマンドおよび **EXEC CICS SET** コマンドで使用でき、これらのコマンドはアプリケーション・プログラムから呼び出すことができます。プログラミング情報については、[Introduction to System programming commands](#) を参照してください。

セキュリティ検査

特定の DISCARD、INQUIRE、SET、または PERFORM コマンドのスコープは、複数レベルのセキュリティ検査の組み合わせによって制限できます。

このタスクについて

通常のトランザクション接続セキュリティについては、[トランザクション・セキュリティ](#)で説明されています。CEMT は、CECI またはユーザーのコマンド・レベル・プログラムとほとんど同じ方法で、ユーザーのコマンドを処理する exec インターフェース・プログラムを呼び出します。したがって、コマンド・レベル・プログラミング・インターフェースによって使用されるリソース・セキュリティおよびコマンド・セキュリティは、マスター端末ユーザーに適用できます。

コマンド・セキュリティ検査に関するプログラミング情報については、[セキュリティ検査](#)を参照してください。

CEMT ユーザー用の CICS Explorer ビュー

CEMT トランザクションを使用して CICS 領域を管理する場合、CEMT でサポートされている機能の多くを CICS Explorer® を使用して実行できます。このトピックでは、コマンドをリストし、同等の機能を提供する Explorer 操作を示します。

表 1. CEMT DISCARD コマンド	
コマンド	同等の Explorer 操作
DISCARD ATOMSERVICE	「Atom サービス」ビュー
DISCARD AUTINSTMODEL	同等操作なし
DISCARD BUNDLE	「バンドル」ビュー
DISCARD CONNECTION	「ISC/MRO 接続」ビュー
DISCARD DB2CONN	「DB2® 接続」ビュー
DISCARD DB2ENTRY	「DB2 エントリー」ビュー
DISCARD DB2TRAN	「DB2 トランザクション」ビュー
DISCARD DOCTEMPLATE	「文書テンプレート」ビュー
DISCARD ENQMODEL	同等操作なし
DISCARD FENODE	同等操作なし
DISCARD FEPOOL	同等操作なし
DISCARD FEPROPSET	同等操作なし
DISCARD FETARGET	同等操作なし
DISCARD FILE	「ファイル」ビュー
DISCARD IPCONN	「IPIC 接続」ビュー
DISCARD JMODEL	「ジャーナル・モデル」ビュー
DISCARD JOURNALNAME	「ジャーナル名」ビュー
DISCARD JVMSERVER	「JVM サーバー」ビュー
DISCARD LIBRARY	「LIBRARY」ビュー
DISCARD MQCONN	「MQ 接続」ビュー
DISCARD MQMONITOR	
DISCARD PARTNER	同等操作なし

表 1. CEMT DISCARD コマンド (続き)

コマンド	同等の Explorer 操作
DISCARD PIPELINE	「パイプライン」ビュー
DISCARD PROCESSTYPE	「プロセス・タイプ」ビュー
DISCARD PROFILE	同等操作なし
DISCARD PROGRAM	「プログラム」ビュー
DISCARD TCLASS	「トランザクション・クラス」ビュー
DISCARD TCIPSERVICE	「TCP/IP サービス」ビュー
DISCARD TDQUEUE	「TD キュー」ビュー
DISCARD TERMINAL	「端末」ビュー
DISCARD TRANSACTION	「トランザクション」ビュー
DISCARD TSMODEL	「TS モデル」ビュー
DISCARD URIMAP	「URI マップ」ビュー
DISCARD WEBSERVICE	「Web サービス」ビュー

表 2. CEMT INQUIRE コマンド

コマンド	同等の Explorer 操作
INQUIRE ATOMSERVICE	「Atom サービス」ビュー
INQUIRE AUTINSTMODEL	同等操作なし
INQUIRE AUTOINSTALL	「領域」ビュー
INQUIRE AUXTRACE	「領域」ビュー
INQUIRE BRFACTILITY	同等操作なし
INQUIRE BUNDLE	「バンドル」ビュー
INQUIRE CFDTPOOL	同等操作なし
INQUIRE CONNECTION	「ISC/MRO 接続」ビュー
INQUIRE DB2CONN	「DB2 接続」ビュー
INQUIRE DB2ENTRY	「DB2 エントリー」ビュー
INQUIRE DB2TRAN	「DB2 トランザクション」ビュー
INQUIRE DELETSHPED	「領域」ビュー
INQUIRE DISPATCHER	「領域」ビュー
INQUIRE DOCTEMPLATE	「文書テンプレート」ビュー
INQUIRE DSAS	「グローバル動的ストレージ域」ビュー
INQUIRE DSNAME	同等操作なし
INQUIRE DUMPDS	「領域」ビュー
INQUIRE ENQ	「作業単位エンキュー」ビュー
INQUIRE ENQMODEL	同等操作なし
INQUIRE EVENTBINDING	「イベント・バインディング」ビュー

表 2. CEMT INQUIRE コマンド (続き)

コマンド	同等の Explorer 操作
INQUIRE EVENTPROCESS	「イベント処理」ビュー
INQUIRE EXCI	同等操作なし
INQUIRE FILE	「ファイル」ビュー
INQUIRE GTFTRACE	「領域」ビュー
INQUIRE HOST	同等操作なし
INQUIRE INTTRACE	「領域」ビュー
INQUIRE IPCONN	「IPIC 接続」ビュー
INQUIRE IRC	「領域」ビュー
INQUIRE JMODEL	「ジャーナル・モデル」ビュー
INQUIRE JOURNALNAME	「ジャーナル名」ビュー
INQUIRE JVMSERVER	「JVM サーバー」ビュー
INQUIRE LIBRARY	「ライブラリー」ビュー
INQUIRE LINE	同等操作なし
INQUIRE MODENAME	同等操作なし
INQUIRE MONITOR	「領域」ビュー
INQUIRE MQCONN	「MQ 接続」ビュー
INQUIRE MQMONITOR	
INQUIRE NETNAME	「端末」ビュー
INQUIRE PARTNER	同等操作なし
INQUIRE PIPELINE	「パイプライン」ビュー
INQUIRE PROCESSTYPE	「プロセス・タイプ」ビュー
INQUIRE PROFILE	同等操作なし
INQUIRE PROGRAM	「プログラム」ビュー
INQUIRE RRMS	「領域」ビュー
INQUIRE STATISTICS	「領域」ビュー
INQUIRE STREAMNAME	「ジャーナル・ストリーム名」ビュー
INQUIRE SYDUMPCODE	同等操作なし
INQUIRE SYSTEM	「領域」ビュー
INQUIRE TASK	「タスク」ビュー
INQUIRE TCLASS	「トランザクション・クラス」ビュー
INQUIRE TCPIP	「領域」ビュー
INQUIRE TCIPSERVICE	「TCP/IP サービス」ビュー
INQUIRE TDQUEUE	「TD キュー」ビュー
INQUIRE TERMINAL	「端末」ビュー

表 2. CEMT INQUIRE コマンド (続き)	
コマンド	同等の Explorer 操作
INQUIRE TRDUMPCODE	同等操作なし
INQUIRE TRANSACTION	「トランザクション」ビュー
INQUIRE TSMODEL	「TS モデル」ビュー
INQUIRE TSPOOL	同等操作なし
INQUIRE TSQNAME	「TS キュー」ビュー
INQUIRE TSQUEUE	「TS キュー」ビュー
INQUIRE UOW	同等操作なし
INQUIRE UOWDSNFAIL	同等操作なし
INQUIRE UOWENQ	「作業単位エンキュー」ビュー
INQUIRE UOWLINK	同等操作なし
INQUIRE URIMAP	「URI マップ」ビュー
INQUIRE VTAM®	「領域」ビュー
INQUIRE WEB	「領域」ビュー
INQUIRE WEBSERVICE	「Web サービス」ビュー
INQUIRE XMLTRANSFORM	「XML 変換」ビュー

表 3. CEMT PERFORM コマンド	
コマンド	同等の Explorer 操作
PERFORM DELETSHIPED	「領域」ビュー
PERFORM DUMP SNAP	同等操作なし
PERFORM ENDAFFINITY	「ISC/MRO 接続」ビュー
PERFORM PIPELINE	「パイプライン」ビュー
PERFORM RESET	「領域」ビュー
PERFORM SECURITY REBUILD	「領域」ビュー
PERFORM SHUTDOWN	「領域」ビュー
PERFORM SSL REBUILD	「領域」ビュー
PERFORM STATISTICS	「領域」ビュー

表 4. CEMT SET コマンド	
コマンド	同等の Explorer 操作
SET ATOMSERVICE	「Atom サービス」ビュー
SET AUTOINSTALL	「領域」ビュー
SET AUXTRACE	「領域」ビュー
SET BRFACTILITY	同等操作なし
SET BUNDLE	「バンドル」ビュー

表 4. CEMT SET コマンド (続き)	
コマンド	同等の Explorer 操作
SET CONNECTION	「ISC/MRO 接続」ビュー
SET DB2CONN	「DB2 接続」ビュー
SET DB2ENTRY	「DB2 エントリ」ビュー
SET DB2TRAN	「DB2 トランザクション」ビュー
SET DELETSHIPED	「領域」ビュー
SET DISPATCHER	「領域」ビュー
SET DOCTEMPLATE	「文書テンプレート」ビュー
SET DSAS	「グローバル動的ストレージ域」ビュー
SET DSNAME	同等操作なし
SET DUMPDS	「領域」ビュー
SET ENQMODEL	同等操作なし
SET EVENTBINDING	「イベント・バインディング」ビュー
SET EVENTPROCESS	「イベント処理」ビュー
SET FILE	「ファイル」ビュー
SET GTFTRACE	「領域」ビュー
SET HOST	同等操作なし
SET INTRTRACE	「領域」ビュー
SET IPCONN	「IPIC 接続」ビュー
SET IRC	「領域」ビュー
SET JOURNALNAME	「ジャーナル名」ビュー
SET JVMSERVER	「JVM サーバー」ビュー
SET LINE	同等操作なし
SET MODENAME	同等操作なし
SET MONITOR	「領域」ビュー
SET MQCONN	「MQ 接続」ビュー
SET MQMONITOR	
SET NETNAME	「端末」ビュー
SET PIPELINE	「パイプライン」ビュー
SET PROCESSTYPE	「プロセス・タイプ」ビュー
SET PROGRAM	「プログラム」ビュー
SET STATISTICS	「領域」ビュー
SET SYDUMPCODE	同等操作なし
SET SYSTEM	「領域」ビュー
SET TASK	「タスク」ビュー

表 4. CEMT SET コマンド (続き)

コマンド	同等の Explorer 操作
SET TCLASS	「トランザクション・クラス」ビュー
SET TCPIP	「領域」ビュー
SET TCIPSERVICE	「TCP/IP サービス」ビュー
SET TDQUEUE	「TD キュー」ビュー
SET TERMINAL	「端末」ビュー
SET TRDUMPCODE	同等操作なし
SET TRANSACTION	「トランザクション」ビュー
SET TSQUEUE	「作業単位エンキュー」ビュー
SET UOW	同等操作なし
SET UOWLINK	同等操作なし
SET URIMAP	「URI マップ」ビュー
SET VTAM	「領域」ビュー
SET WEB	「領域」ビュー
SET WEBSERVICE	「Web サービス」ビュー
SET XMLTRANSFORM	「XML 変換」ビュー

CEMT DISCARD コマンド

DISCARD コマンドを使用して、インストールされているリソース定義とそれに対応するカタログ・エントリーを、アクティブな CICS システムから削除できます。

以下のリソースの場合、CICS Explorer 操作ビューは同等の機能を提供します。[CICS Explorer 製品資料内の『SM Operations views』](#)を参照してください。

コマンド	Explorer 操作ビュー
DISCARD ATOMSERVICE	「Atom サービス」ビュー
DISCARD BUNDLE	「バンドル」ビュー
DISCARD CONNECTION	「ISC/MRO 接続」ビュー
DISCARD DB2CONN	「DB2 接続」ビュー
DISCARD DB2ENTRY	「DB2 エントリー」ビュー
DISCARD DB2TRAN	「DB2 トランザクション」ビュー
DISCARD DOCTEMPLATE	「文書テンプレート」ビュー
DISCARD FILE	「ファイル」ビュー
DISCARD IPCONN	「IPIC 接続」ビュー
DISCARD JVMSERVER	「JVM サーバー」ビュー
DISCARD LIBRARY	「ライブラリー」ビュー
DISCARD MQCONN	「Websphere MQ 接続」ビュー
DISCARD MQMONITOR	「Websphere MQ モニター」ビュー

コマンド	Explorer 操作ビュー
DISCARD PIPELINE	「パイプライン」ビュー
DISCARD PROCESSTYPE	「プロセス・タイプ」ビュー
DISCARD PROGRAM	「プログラム」ビュー
DISCARD TCLASS	「トランザクション・クラス」ビュー
DISCARD TCIPSERVICE	「TCP/IP サービス」ビュー
DISCARD TDQUEUE	「TD キュー」ビュー
DISCARD TERMINAL	「端末」ビュー
DISCARD TRANSACTION	「トランザクション」ビュー
DISCARD TSMODEL	「TS モデル」ビュー
DISCARD URIMAP	「URI マップ」ビュー
DISCARD WEBSERVICE	「Web サービス」ビュー

DISCARD は CICS システム 定義 (CSD) ファイルには影響しません。このため、**CEDA INSTALL**(*resourcename*) を使用してリソースを復元できます。DISCARD コマンドを使用するには、リソースへの ALTER アクセスにより、SET コマンド (UPDATE アクセスを使用する) と同様のセキュリティを提供する必要があります。現在使用中のリソース、または CICS 所有のリソース (「DFH」または「C」で始まるリソース) を破棄することはできません。

破棄できるリソース・タイプのリストについては、65 ページの『[CEMT DISCARD](#)』を参照してください。

FEPI コマンドに関するプログラミング情報は、[FEPI システム・プログラミング・リファレンス](#)に記載されています。

リソースを破棄する方法には、以下の 2 とおりがあります。

1. 破棄するリソースの名前が分かっている場合は、以下のように入力します。

```
CEMT DISCARD resourcetype(resourcename)
```

2. リソースの名前がわからない場合は、以下のように入力します。

```
CEMT INQUIRE resourcetype
```

64 ページの図 22 のような画面が表示されます。復帰キーを使用して、破棄するリソースの行の先頭にカーソルを移動し、画面に示されているように D と入力して Enter キーを押します。

注：

1. CEMT INQUIRE 画面を使用して、一度に複数のエントリーを破棄できます。D の入力とともに別の値を上書きした場合、D は無視されます。
2. リソースを破棄する際に、リソース名に * または + を使用することはできません。

```

IN PROG
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
D Prog(ABCDTASK) Len(0002936) Ass Pro Ena Pri    Ced
  Res(000) Use(000000)
  Prog(DFHACP ) Len(0008232) Ass Pro Ena Pri
    Res(001) Use(000002) Any Cex Ful
  Prog(DFHAMP ) Len(0108432) Ass Pro Ena Pri
    Res(000) Use(000009) Any Cex Ful
  Prog(DFHAPATT) Len(0000632) Ass Pro Ena Sha
    Res(005) Use(000018) Any Cex Ful
  Prog(DFHBRCP ) Len(0000000) Ass Pro Ena Pri
    Res(000) Use(000000) Bel Cex Ful
  Prog(DFHCCNV ) Len(0000000) Ass Pro Ena Pri
    Res(000) Use(000000) Any Cex Ful
D Prog(ERRTASK ) Len(0000448) Ass Pro Ena Pri
  Res(000) Use(000000)

```

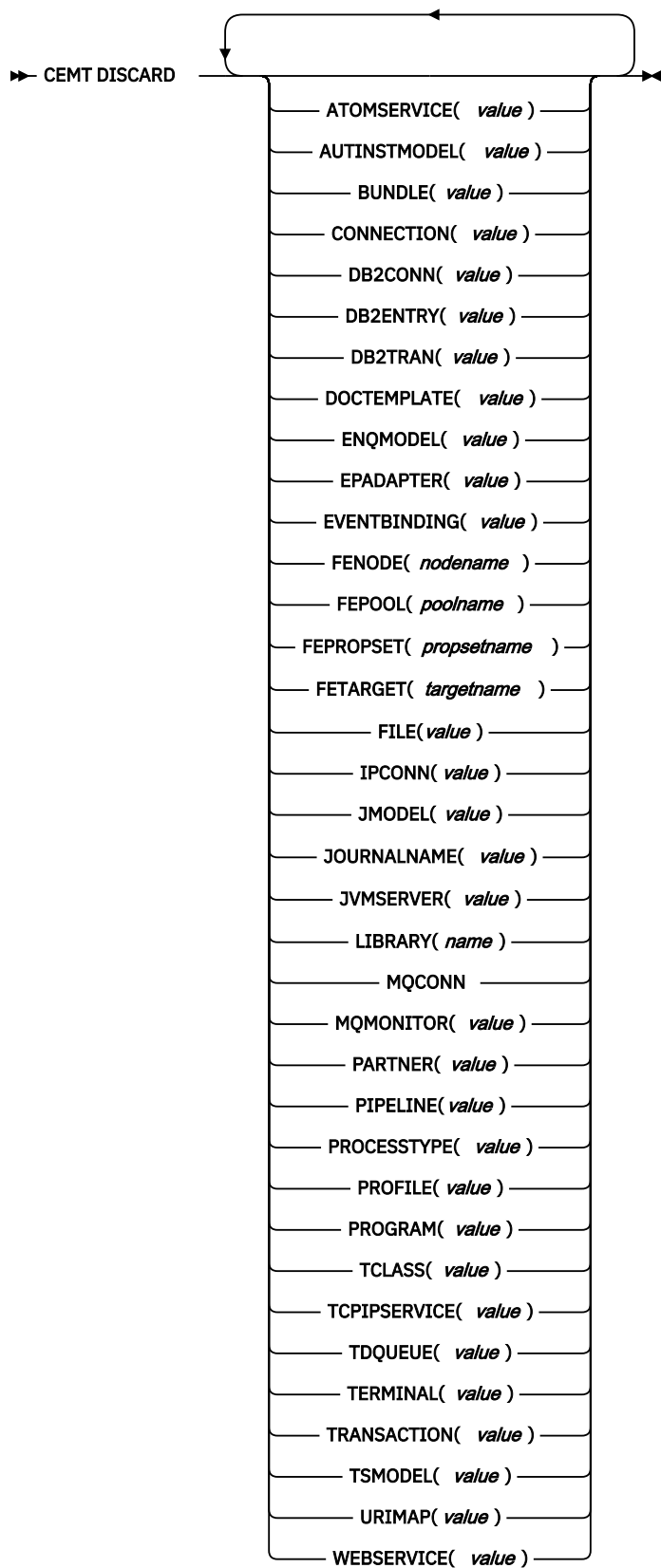
図 22. リソースの破棄を示す画面の例

CEMT DISCARD

CEMT DISCARD コマンドにより、ターゲット、ノード、プール、またはプロパティ・セットが、完全に FEPI から除去されます。

構文

CEMT DISCARD



オプション

ATOMSERVICE(value)

破棄する ATOMSERVICE 定義の名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。これを破棄する前に、ATOMSERVICE リソースを使用不可にする必要があります。

AUTINSTMODEL(value)

除去する自動インストール・モデルの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。 **DISCARD AUTINSTMODEL** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、インストールされた自動インストール・モデルの名前を除去します。

BUNDLE(value)

破棄する BUNDLE 定義の名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。これを破棄する前に、BUNDLE リソースを使用不可にする必要があります。バンドルを破棄すると、バンドルのインストール時に他のリソースが作成されていれば、それも自動的に破棄されます。BUNDLE を破棄できるのは、有効カウント値がゼロの場合だけです。このため、DISCARD 操作を進める前に、有効カウントをゼロに減らす明示的な DISABLE が必要です。

CONNECTION(value)

破棄する CONNECTION 定義の 4 文字の ID を指定します。接続を除去すると、それに関連したセッションもすべて除去されます。

削除が正常に実行されるためには、以下の点に注意してください。

- ・ 非リモート接続はサービス休止でなければなりません。
- ・ リモート接続にアクティブ・セッションがあってはなりません。
- ・ MRO 接続では、領域間通信機能 (IRC) が閉じた状態でなければなりません。(この機能を閉じるには、**CEMT SET IRC CLOSED** を使用します。)
- ・ ローカル・システムが z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合には、APPC synclevel 2 接続に未解決のリカバリー情報がないようにします。

他のタイプの接続で未解決のリカバリー作業があっても、その接続を破棄することができます。ただし、そのような場合は破棄しないことをお勧めします。 **INQUIRE CONNECTION RECOVSTATUS** コマンドを使用することにより確認できます。

特殊な状況では、接続サービスを休止していても LU61 接続の削除に失敗することがあります。これは、その接続のセッションがまだサービス中であるためです。その場合は、接続 INSERVICE を設定し、次に OUTSERVICE を設定してから、DISCARD コマンドを再発行します。

DB2CONN(value)

現在 インストールされている DB2CONN を除去するように指定します。DB2CONN を破棄できるのは、CICS Db2® インターフェースがアクティブになっていないときだけです。DB2CONN を破棄すると、現在インストールされている DB2ENTRY と DB2TRAN もすべて破棄されます。

DB2ENTRY(value)

除去する インストール済み DB2ENTRY の名前を指定します。DB2ENTRY を破棄できるのは、それが使用不可状態にある場合だけです。

DB2TRAN(value)

除去する DB2TRAN の名前を指定します。この DB2TRAN が参照するトランザクション ID は、DB2TRAN が除去されればプールに経路指定されます。

DOCTEMPLATE(value)

除去する 文書テンプレートの名前を指定します。

ENQMODEL(value)

破棄するリソースの 8 文字の ID を指定します。

EPADAPTER(value)

除去する EP アダプターの名前を指定します。これを破棄する前に、EP アダプターを使用不可にする必要があります。

EVENTBINDING(value)

除去するイベント・バインディングの名前を指定します。これを破棄する前に、イベント・バインディングを使用不可にする必要があります。

FENode(nodename)

破棄される FEPI ノードの名前。

FEPool(poolname)

破棄される FEPI プールの名前。

FEPropset(propsetname)

破棄される FEPI プロパティー・セットの名前。

FETarget(targetname)

破棄される FEPI ターゲットの名前。

FILE(value)

除去するファイルの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。 **DISCARD FILE** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、ファイルのインストールされた名前を除去します。BUNDLE リソースによって作成される FILE リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

IPCONN(value)

除去する IPCONN の名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。IPCONN は OUTSERVICE 状況にならない限り破棄できません。

JMODEL(value)

除去するインストール済みジャーナル・モデルの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。**DISCARD JMODEL** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、ジャーナル・モデル名を除去します。ジャーナル・モデル名を使って定義されている既存のジャーナルは、この操作による影響を受けません。既存のジャーナルは、**DISCARD JOURNALNAME** コマンドを使用して破棄されない限り、引き続き既存の定義を使用します。

JOURNALNAME(value)

除去するジャーナル名を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。**DISCARD JOURNALNAME** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、ジャーナル名を除去します。このコマンドは、このジャーナルを順方向リカバリー・ログまたは自動ジャーナルとして現在使用している VSAM データ・セットには影響を与えません。そのデータ・セットを閉じるまでは、既存の定義が引き続き使用されます。

自動ジャーナル処理または順方向リカバリー・ログの数値 ID で定義されたジャーナルを破棄するには、ジャーナル名を DFHJnn と指定します。nn は 1 から 99 までのジャーナル番号です。このコマンドで DFHJ01 を指定すると、ユーザー・ジャーナル DFHJ01 が参照されます。

これ以後ジャーナル名を参照すると、その時点で有効なジャーナル・モデル・リソースを使用して、ジャーナル名が再インストールされます。

JVMSERVER(value)

除去する JVMSERVER リソースの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。**DISCARD JVMSERVER** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから JVMSERVER 定義を除去します。

BUNDLE リソースによって作成される JVMSERVER リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

LIBRARY(name)

除去する LIBRARY リソースの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。LIBRARY は使用不可になっている必要があります。**DISCARD LIBRARY** コマンドは、インストールされているリソース定義とそれに対応するカタログ項目を、アクティブな CICS システムから除去します。

DFHRPL の LIBRARY 名を指定することは無効であり、結果としてメッセージ NOT VALID FOR RPL が表示されます。

BUNDLE リソースによって作成される LIBRARY リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

MQCONN

現在インストールされている MQCONN 定義を除去するように指定します。MQCONN 定義は、CICS と WebSphere® MQ との接続がアクティブでないときに破棄できます。INITQNAME 属性を含む MQCONN 定義を破棄すると、関連した MQMONITOR リソース定義 DFHMQINI とユーザー定義の MQMONITOR リソースも破棄されます。

MQMONITOR(value)

除去する MQMONITOR リソース定義の名前を指定します。MQMONITOR リソース定義は、MQMONITOR を停止して使用不可にすると破棄できます。

PARTNER(value)

除去するパートナーの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。DISCARD PARTNER コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、インストールされたパートナーの名前を除去します。

PIPELINE(value)

除去する PIPELINE の名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。DISCARD PIPELINE コマンドで、CICS システムと CICS カタログから PIPELINE が除去されます。BUNDLE リソースによって作成される PIPELINE リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

PROCESSTYPE(value)

除去する PROCESSTYPE の 8 文字の名前を指定します。使用不可になっているプロセス・タイプのみを破棄できます。シスプレックスで BTS を使用する場合は、CICSplex® SM を使用して除去することを強くお勧めします。

PROFILE(value)

除去するプロファイルの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。DISCARD PROFILE コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、プロファイルのインストールされた名前を除去します。

PROGRAM(value)

除去するプログラム、マップ・セット、または区画セットの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。DISCARD PROGRAM コマンドは、プログラム、マップ・セット、または区画セットのインストール名を、CICS システムと CICS カタログから除去します。BUNDLE リソースによって作成される PROGRAM リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

TCLASS(value)

除去するトランザクション・クラスの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。DISCARD TCLASS コマンドは、トランザクション・クラスのインストール名を、CICS システムと CICS カタログから除去します。TCLASS の同義語として、TRANCLASS も受け入れられます。

TCIPSERVICE(value)

除去する TCPIP サービスの名前を指定します。BUNDLE リソースによって作成される TCIPSERVICE リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

TDQUEUE(value)

稼働中の CICS システムから除去する一時データ・キューの名前を指定します。名前の長さは 4 文字以下です。

属性 RECOVSTATUS=LOGICAL (論理的にリカバリー可能であることを示す) を使用して定義されている区画内キューを破棄する場合は、暗黙のうちに DELETEQ コマンドが発行され、キューによって使用される制御インターバルが解放されます。DELETEQ 要求の後で、しかしキュー定義が破棄される前に、同期点が取られます。これにより、定義が破棄される前に、関連する制御インターバルが確実に解放されます。

RECOVSTATUS=NO 属性 (リカバリー不可能であることを示す) を使用して定義されている区画内キューを破棄する場合は、キューにより使用される制御インターバルは解放されません。

TERMINAL(value)

除去する端末の名前を指定します。名前の長さは 4 文字以下です。DISCARD TERMINAL コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、端末のインストール名を除去します。

アクセス方式またはコンソールに z/OS Communications Server を使用する端末だけが、削除の対象になります。セッションを表す端末は、DISCARD TERMINAL では削除できません。代わりに DISCARD CONNECTION コマンドを使用してください。

TRANSACTION(value)

除去するトランザクションの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。 **DISCARD TRANSACTION** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから、トランザクションのインストール名を除去します。BUNDLE リソースによって作成される TRANSACTION リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

TSMODEL(value)

除去する TS モデルの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。使用中の TSmodel や、名前が DFH で始まる TSmodel は破棄できません。

URIMAP(value)

除去する URIMAP 定義の名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。 **DISCARD URIMAP** コマンドは、CICS システムと CICS カタログから URIMAP 定義を除去します。URIMAP 定義を除去するには、(**SET URIMAP** コマンドを使用して) 個別に使用不可にする必要があります。仮想ホストを使用不可にすると (SET HOST コマンドを使用)、その仮想ホストを構成する URIMAP 定義は除去できません。BUNDLE リソースによって作成される URIMAP リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

WEBSERVICE(value)

除去する Web サービスの名前を指定します。名前の長さは 8 文字以下です。 **DISCARD WEBSERVICE** コマンドで、CICS システムと CICS カタログから Web サービスが除去されます。BUNDLE リソースによって作成される WEBSERVICE リソースを直接破棄することはできません。これを破棄するには、バンドル・リソースを使用する必要があります。

CEMT INQUIRE コマンド

大部分の CEMT 要求は以下のいずれかを実行するためのものです。すなわち、リソースの指定された 1 つ以上のインスタンス (端末など)、リソースの特定のサブグループ (端末のクラスなど)、または特定のタイプの全リソース (すべての端末など) の状況を、照会 (INQUIRE) または変更 (SET) します。

INQUIRE コマンドは、指定したリソースの状況を表示します。SET コマンドを使用すると、指定した変更を加え、リソースの新しい状況を表示できます。SET コマンドに構文エラーがある場合は、変更が加えられません。

リソースについて照会するには、コマンド行に INQUIRE (または正しい省略形) と入力します。CEMT INQUIRE と共に使用できるキーワードについては、このセクションの残りの部分で説明されています。

リソース状況に関連しない機能を実行するには、コマンド行に PERFORM (または正しい省略形) と入力します。PERFORM と共に使用できるキーワードについては、[328 ページの『CEMT PERFORM コマンド』](#)で説明されています。

リソースの属性を変更するには、コマンド行に SET (または適切な省略形) を入力します。SET と共に使用できるキーワードについては、[339 ページの『CEMT SET コマンド』](#)で説明されています。

いずれかのオプションを照会するには、コマンド行で INQUIRE の後にそのオプションのキーワードを入力します。例えば、以下のようにします。

```
INQUIRE PROGRAM
```

これにより、すべてのプログラムの状況を示し、プログラムごとにその属性を示します。詳細は、[215 ページの『CEMT INQUIRE PROGRAM』](#)に説明されています。

CEMT INQUIRE ATOMSERVICE

ATOMSERVICE リソース定義に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「Atom サービス」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは

CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE ATOMSERVICE と入力します。現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE ATOMSERVICE と入力し、その後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、CEMT INQUIRE ATOM FEED と入力すると、Atom フィード文書用の ATOMSERVICE リソース定義の詳細だけが表示されます。

ATOMSERVICE リソース定義を使用可能または使用不可にするには、以下のようになります。

- Atom フィードがバンドルにデプロイされている場合、BUNDLE リソースを使用可能または使用不可にします。ATOMSERVICE リソースのリソース・シグニチャーは、それが作成された方法を示しています。
- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- **CEMT SET ATOMSERVICE** コマンドを使用します。

ALL

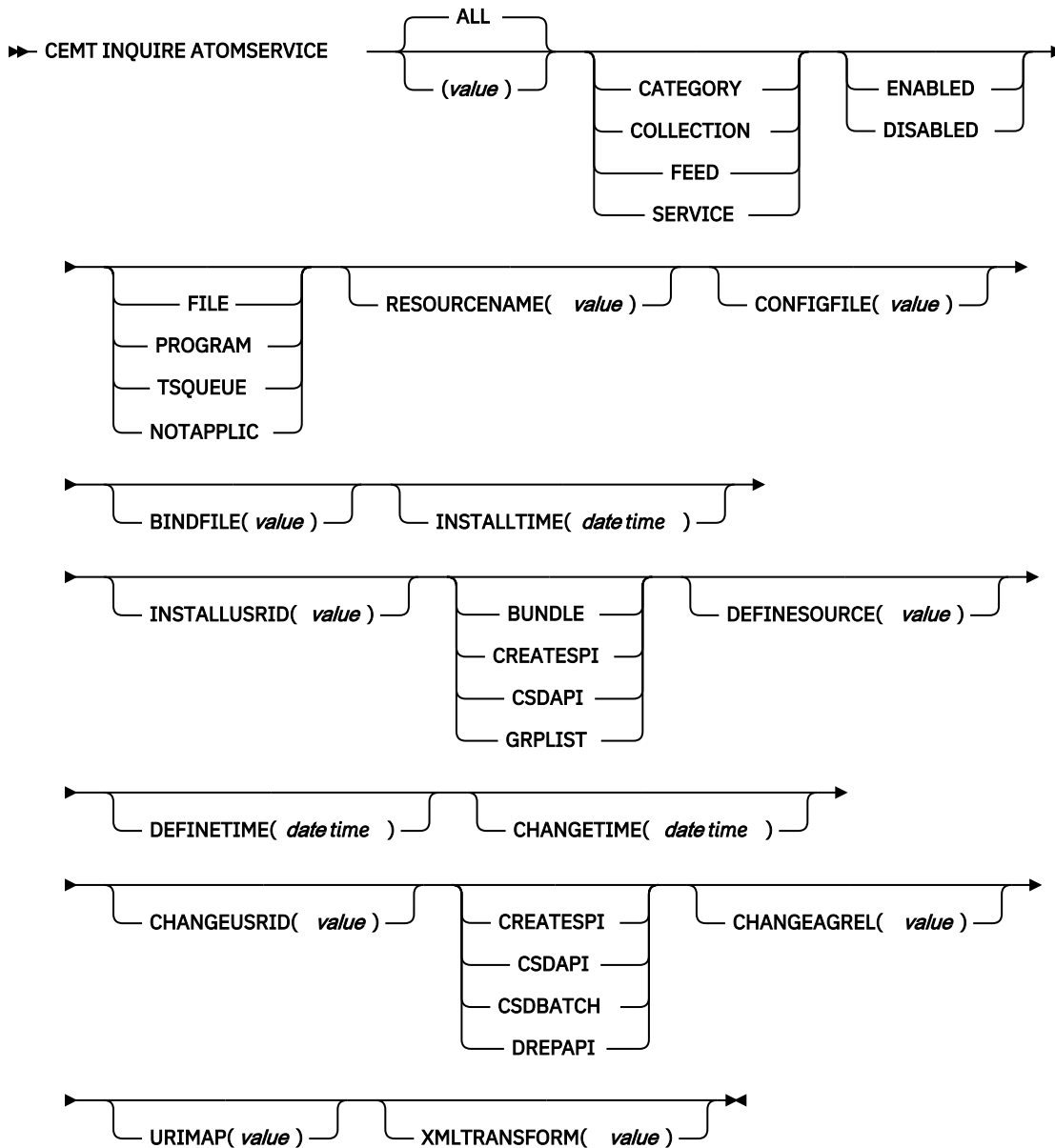
これがデフォルトです。照会する定義を選択指定しない限り、すべての ATOMSERVICE 定義に関する情報が表示されます。

(value)

インストール済みの ATOMSERVICE 定義の名前 (1 文字から 8 文字まで) です。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は指定された ATOMSERVICE 定義のすべての属性の拡張フォーマットを表示します。

CEMT INQUIRE ATOMSERVICE



表示されるフィールド

ATOMTYPE(value)

この ATOMSERVICE 定義により作成される Atom 文書のタイプを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

CATEGORY

コレクション内の文書のカテゴリーをリストした Atom カテゴリー文書。

COLLECTION

編集可能なエントリー文書のグループが含まれている Atom コレクション文書。

FEED

フィードのためのメタデータを記述し、フィードにデータを提供するエントリー文書が含まれる Atom フィード文書。

SERVICE

サーバー上で入手可能なエントリー文書のコレクションに関する情報を提供し、追加または編集が可能な Atom サービス文書。

BINDFILE(value)

この ATOMSERVICE リソース定義に指定された XML バインディングの名前およびファイル・パスを表示します。XML バインディングは、z/OS UNIX システム・サービスに格納されており、このリソース定義に対して戻される Atom 文書のデータを提供する CICS リソースが使用するデータ構造を指定します。サービス文書およびカテゴリ文書では、XML バインディングが使用されません。ATOMTYPE の値が SERVICE または CATEGORY である場合は、このフィールドはブランクになります。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSEDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONFIGFILE(value)

この ATOMSERVICE リソース定義に指定された Atom 構成ファイルの名前およびファイル・パスを表示します。Atom 構成ファイルは z/OS UNIX システム・サービスに格納されます。このファイルの内容は、Atom 文書のメタデータおよびコンテンツを指定する XML です。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS(value)

ATOMSERVICE リソース定義の全体的な状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED

ATOMSERVICE リソース定義は使用可能です。

DISABLED

ATOMSERVICE リソース定義は使用不可です。この状況の ATOMSERVICE 定義は、廃棄できます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

RESOURCENAME(value)

この Atom フィールドまたはコレクションにデータを提供する CICS リソースの名前を表示します。このフィールドは、Atom サービスまたはカテゴリ文書には適用されません。

RESOURCE TYPE(value)

この Atom フィールドまたはコレクションにデータを提供する CICS リソースのタイプを表示します。このフィールドは、Atom サービスまたはカテゴリ文書には適用されません。有効な値は、以下のとおりです。

FILE

CICS ファイル。

PROGRAM

Atom エントリにコンテンツを提供するために作成された CICS アプリケーション・プログラムであるサービス・ルーチン。

TSQUEUE

一時記憶域キュー。

NOTAPPLIC

ATOMTYPE の値が SERVICE または CATEGORY の場合、このリソース・タイプは適用されません。

URIMAP

この ATOMSERVICE 定義に関連付けられた URI を示す 8 文字の URIMAP 名を表示します。この ATOMSERVICE 定義に関連する動的に生成された URIMAP がない場合、このフィールドは空です。

XMLTRANSFORM

ATOMSERVICE 定義に関連付けられた XMLTRANSFORM リソースの 32 文字の名前を表示します。ATOMTYPE の値が SERVICE または CATEGORY の場合、このフィールドは空です。

CEMT INQUIRE AUTINSTMODEL

指名された自動インストール・モデルが存在するかどうかを検出します。

説明

INQUIRE AUTINSTMODEL コマンドは、システムにインストールされているすべての自動インストール・モデルの名前を返します。**CEMT SET AUTINSTMODEL** 機能はありませんが、**INQUIRE AUTINSTMODEL** 画面を使用して DISCARD 機能を使用できます。

自動インストール・モデルについては、[自動インストール・モデル](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE AUTINSTMODEL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。

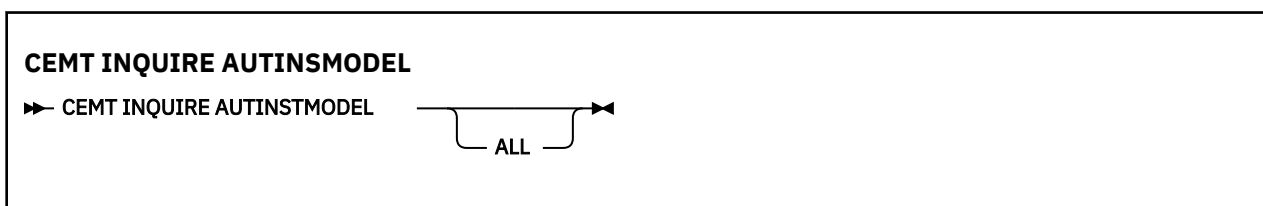
特定の自動インストール・モデルの名前を入力しない場合は、すべての自動インストール・モデルの名前が表示されます。また、最長で 8 文字の自動インストール・モデル名を入力することもできます (例: cemt i auti(dfhlu0e2))。

サンプル画面

```
IN AUTIN
STATUS: RESULTS
Auti(DFHLU0E2)
Auti(DFHLU0M2)
Auti(DFHLU0M3)
Auti(DFHLU0M4)
Auti(DFHLU0M5)
Auti(DFHLU2 )
Auti(DFHLU2E2)
Auti(DFHLU2E3)
Auti(DFHLU2E4)
Auti(DFHLU2M2)
Auti(DFHLU2M3)
Auti(DFHLU2M4)
Auti(DFHLU2M5)
Auti(DFHLU3 )
Auti(DFHLU62T)
Auti(DFHSCSP )
Auti(DFH3270 )
+ Auti(DFH3270P)
```

図 23. CEMT INQUIRE AUTINSTMODEL 画面

注：画面の最後にある項目の左マージンの正符号 (+) は、PF8 キーを押すとモデル名がさらに表示されることを示しています。



オプション

ALL

システムにインストールされているすべての自動インストール・モデルの名前を返します。

CEMT INQUIRE AUTOINSTALL

z/OS Communications Server 端末、APPC 接続、3270 ブリッジ機構によって使用される仮想端末 (ブリッジ機能)、および MVS コンソールの自動インストールを制御する情報とパラメーターを取得します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE AUTOINSTALL コマンドは、自動インストール値に関する情報を表示します。自動インストールについては、[自動インストール](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE AUTOINSTALL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示されている値のいずれかを変更するには、強調表示されたフィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じてこれらのフィールドを上書きします。

サンプル画面

```
INQ AUTOINSTALL
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Auto Max( 100 ) Pro( DFHZATDX ) Cur(000) Pro Ena
```

図 24. CEMT INQUIRE AUTOINSTALL 画面

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、76 ページの図 25 に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN AUTOIN
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
自動インストール
Maxreqs( 100 )
Program( DFHZATDX )
Curreqs( 000 )
Consoles( Fullauto )
Enablestatus( Enabled )
Aibridge( Autotermid )
```

図 25. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE AUTOINSTALL

▶ CEMT INQUIRE AUTOINSTALL ◀

表示されるフィールド

AIBRIDGE

自動インストールのユーザー置換可能モジュール (URM) がブリッジ機能のために呼び出されるかどうかを示します。値は以下のとおりです。

AUTOTERMID

ブリッジ機能が CICS によって自動的に定義されます。自動インストール URM は呼び出されません。

URMTERMID

自動インストール URM が呼び出されます。

AUTOINSTALL

このパネルが端末の自動インストールに関連するものであることを示します。

CONSOLES(value)

CICS 領域内の MVS コンソールに対する自動インストールの状況を表示します。値は以下のとおりです。

FULLAUTO

コンソールの自動インストールは、自動インストール制御プログラムからのサポートなしでアクティブになります。CICS は、制御プログラムを呼び出さずに必要な端末 ID を自動的に生成し、コンソール・エントリーに対してデフォルトの削除遅延期間 (60 分) を設定します。

PROGAUTO

コンソールの自動インストールはアクティブで、自動インストール制御プログラム (AIEXIT システム初期設定パラメーターで指定された) のサポートを使用します。端末 ID、およびオプションの削除遅延期間を設定するために、自動インストール制御プログラムが必要です。

NOAUTO

コンソールの自動インストールはアクティブではありません。

この属性は、別の値を上書き入力して変更できます。

CURREQS(value)

現在処理中の自動インストール要求の数を表示します。これは自動インストールを使用して現在インストールされている端末の数ではありません。

ENABLESTATUS(value)

端末自動インストール機能の全体的な状況を表示し、CICS が z/OS Communications Server 端末および MVS コンソールをインストールできるかどうかを示します。表示される値は、以下のとおりです。

ENABLED

CICS は現在、コンソールまたは端末 (あるいはその両方) をインストールできます。自動インストール機能がこれらのどれに対して使用可能になっているか判別するには、MAXREQS オプションと CONSOLES オプションで返される値を確認します。Enabled は、以下の条件で返されます。

TERMINALS

MAXREQS が 0 と等しくなく、自動インストール制御プログラムが使用可能になっている。

CONSOLES

1. CONSOLES が FULLAUTO を表示する。
2. CONSOLES が PROGAUTO を表示し、自動インストール制御プログラムが使用可能になっている。

DISABLED

CICS でコンソールまたは端末のどちらの自動インストールも使用できません。DISABLED は、以下の条件で返されます。

TERMINALS

MAXREQS が 0 と等しく、自動インストール制御プログラムが使用不可になっている。

CONSOLES

1. CONSOLES が NOAUTO を表示する。
2. CONSOLES が PROGAUTO を表示するが、自動インストール制御プログラムが使用不可になっている。

MAXIMUM(value)

一度にキューに入れることができる自動インストール要求の最大数を表示します。これは、自動インストールを使用してインストールできる端末の最大数ではありません。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PROGRAM(value)

自動インストール・プロセスを制御するプログラムの名前を表示します。これは、CICS 提供のデフォルトの自動インストール・プログラム DFHZATDX、またはユーザー作成プログラムのいずれかです。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CEMT INQUIRE AUXTRACE

補助トレースの状況に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

補助トレース項目は、CICS 制御 BSAM データ・セット A と B のペアに対して作成されます。

INQUIRE AUXTRACE コマンドを使用して、以下の情報を表示できます。

- 補助トレース・データ・セットが開いているか閉じているか
- Cur(A) または Cur(B) のどちらの補助トレース・データ・セットがアクティブか
- 補助トレースが進行中 (開始) かそうでないか (停止)

トレースを開始、停止、または一時停止でき、補助データ・セットの自動切り替えを必要に応じて行うように指定できます。SWITCH オプションを使用してデータ・セットを変更できます。

SET コマンドを使用する代わりに、該当するフィールドまで Tab キーで移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力できます (54 ページの『画面の上書き』を参照)。

補助トレースの使用について詳しくは、[トレース宛先](#)を参照してください。また、CETR トランザクション (455 ページの『第 19 章 CETR - トレース制御』) も参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE AUXTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示されている値のいずれかを変更するには、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じてこれらのフィールドを上書きします。

サンプル画面

```
I AUX
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Aux Cur(A) Sto
```

図 26. CEMT INQUIRE AUXTRACE 画面

注: 値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

結果にカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は、78 ページの図 27 に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
I AUX
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Auxtrace
Curauxds(A)
Status( Stop )
Switchstatus( Noswitch )
Switchaction( )
```

図 27. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE AUXTRACE

➡ CEMT INQUIRE AUXTRACE ➡

表示されるフィールド

AUXILIARY

このパネルが補助トレースに関連するものであることを示します。

CURAUXDS(value)

現行補助データ・セットの 1 文字の ID (A または B) を表示します。補助トレース・データ・セットがない場合、この値はブランクになります。

STATUS(value)

CICS システムの補助トレースの状況を表示します。値は以下のとおりです。

START

補助トレースは進行中です (補助トレース・データ・セットが開いている)。

PAUSE

補助トレースが停止しましたが、トレース・データ・セットは開いたままです。後続の START 要求によって、PAUSE 要求の前に書き込まれた項目の直後にトレース項目が書き込まれます。

STOP

補助トレースが停止し、トレース・データ・セットは閉じます。

注: この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SWITCHACTION(value) (入力専用フィールド)

トレース・データ・セットが切り替えられることを指定します。値は以下のとおりです。

SWITCH

現在の補助トレース・データ・セットから代替トレース・データ・セットへの即時切り替えを行います。

SWITCHSTATUS(value)

現在の補助トレース・データ・セットが満杯になった場合に自動データ・セット切り替えが発生するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

NOSWITCH

オペレーター介入なしに切り替えは行われません。

NEXT

現行トレース・データ・セットが満杯になると自動切り替えが行われますが、その後は行われません。

ALL

この CICS セッションの終了まで、必要に応じて自動切り替えが行われ、オペレーター介入は必要ありません。

注: この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CEMT INQUIRE BRFACILITY

3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末 (ブリッジ機能) に関する情報を取得します。

説明

INQUIRE BRFACILITY コマンドは、ブリッジ機能に関する情報を戻します。これは、ブリッジ環境で CICS 3270 アプリケーションを実行する際に実際の 3270 をシミュレートするために 3270 ブリッジ機構によって使用される仮想端末です。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE BRFACILITY (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。結果の表示に、現在割り振られているブリッジ機能の状況がリストされます。
- CEMT INQUIRE BRFACILITY (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、CEMT I BR S を入力すると、Link3270 要求 (SHARED) に割り振られたブリッジ機能のみの詳細が結果に表示されます。例えば、CEMT I BR 要求で入力できるオプションを確認するには、?CEMT I BR と入力します。

```
?CEMT I BR
STATUS:  COMMAND SYNTAX CHECK
CEMT Inquire BRfacility()
< All >
< Netname() >
< TErmid() >
< TRansaction() >
< TAskid() >
< Userid() >
< Keptime() >
< REleased >
< ACquired | AVailable >
< LINKSYSTem() >
< LINKSYSNet() >
< REMOTESYSTem() >
< REMOTESYSNet() >
< Local | Shared >
```

図 28. CEMT INQUIRE BRFACILITY 構文画面

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します (54 ページの『画面の上書き』を参照)。
- **CEMT SET BRFACILITY** コマンドを使用します。

サンプル画面

```
I BR
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Brf(0008000100000016) Net(AAA. ) Ter(AAA.) Tra(NACT)
Tas(0005730) Use(JANEDJ ) Kee(97105) Acq
```

```
RESPONSE: NORMAL                                SYSID=ST50 APPLID=IYCSST50
PF 1 HELP          3 END          5 VAR          7 SBH 8 SFH 9 MSG 10 SB 11 SF
TIME: 11.13.29 DATE: 08.05.01
```

図 29. CEMT INQUIRE BRFACILITY 画面

リスト内の特定のエンタリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は以下に示すような拡張フォーマットを表示します。

```

I BR
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Brfacility(0008000100000016)
Netname(AAA.)
Termid(AAA.)
Transaction(NACT)
Taskid(0005730)
Userid(JANEDJ)
KeepTime(96908)
Termstatus( Acquired )
Linksystem()
Linksysnet()
Remotesystem(CTGC)
Remotesysnet( DFHGEN)
Namespace(Shared)

```

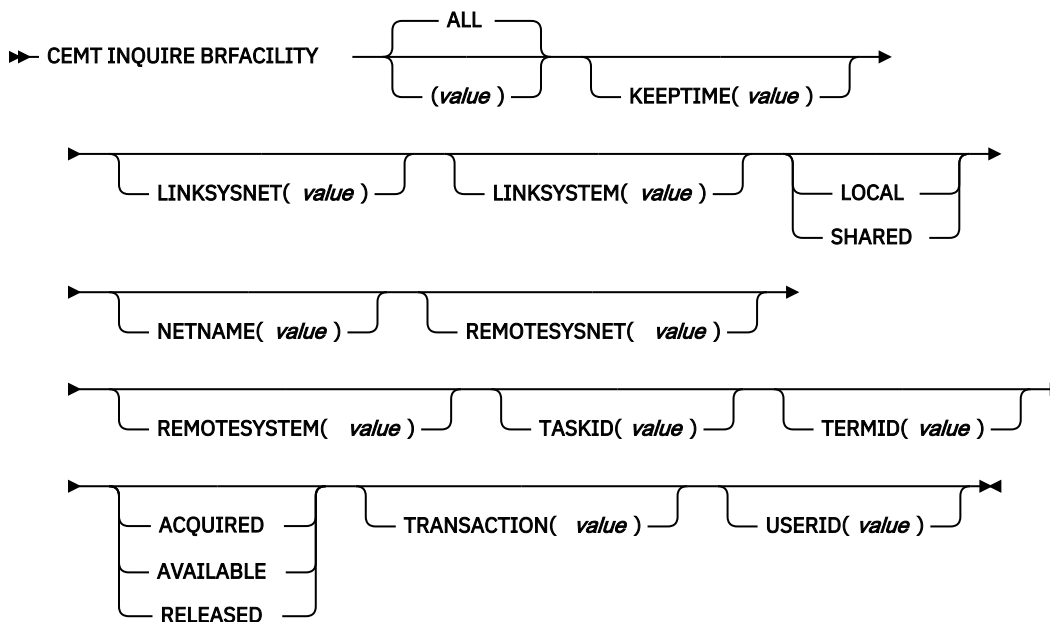
```

SYSID=ST50 APPLID=IYCSST50
TIME: 11.16.46 DATE: 08.05.01
PF 1 HELP 2 HEX 3 END          5 VAR          7 SBH 8 SFH          10 SB 11
SF

```

図 30. 個々のブリッジ機能エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE BRFACILITY



表示されるフィールド

(value)

表示される特定のブリッジ機能の 8 バイトのブリッジ機能トークン。

ALL

デフォルトです。すべてのブリッジ機能が表示されます。

KEEPTIME (value)

ブリッジ機能が非アクティブの場合に保持される時間の長さ (秒単位) を示すフルワード 2 進数フィールドを表示します。

- 表示されるブリッジ機能が Link-Bridge の場合、この値は機構が割り振られたときに指定された保持時間です。また、保持時間が指定されなかった場合は、デフォルト値の 5 分です。:

保持時間が SIT パラメーター **BRMAXKEEPTIME** の値より大きい場合は、BRMAXKEEPTIME に減らされます。

- 表示される機構が Web-Bridge の場合、保持時間は最初は Web 遅延端末保持時間 (**WEBDELAY** SIT パラメーターの 2 番目の部分) に設定されます。

LINKSYSNET(value)

Link3270 ブリッジ要求が別の領域に経路指定されている場合の AOR の 8 バイトのアプリケーション ID を表示します。要求が Link3270 ルーターと同じ領域で処理される場合は、このフィールドはブランクになります。このフィールドは、Link3270 セッションで最初のトランザクションを実行するときに動的トランザクション・ルーティングが複数の試行を行うと、変わることがあります。このフィールドは、ルーター領域でのみ設定されます。

LINKSYSTEM(value)

Link3270 ブリッジ要求が別の領域に経路指定されている場合は、AOR の 4 バイトのシステム ID を返します。要求が Link3270 ルーターと同じ領域で処理される場合は、このフィールドはブランクになります。このフィールドは、Link3270 セッションで最初のトランザクションを実行するときに動的トランザクション・ルーティングが複数の試行を行うと、変わることがあります。このフィールドは、ルーター領域でのみ設定されます。

NAMESPACE

ブリッジ機能名の割り振りに使用されるネーム・スペースのスコープを表示します。値は以下のとおりです。

LOCAL

ブリッジ機能は START BREXIT ブリッジ機構によって割り振られたため、その名前は、それが作成されたローカル領域の中でのみ固有のものとなります。

SHARED

ブリッジ機能は Link3270 ブリッジ機構によって割り振られたため、その名前は、共用 DFHBRNSF ネーム・スペース・ファイルへのアクセス権限を持つ CICSplex 内のすべての CICS ルーター領域の間で固有のものとなります。

NETNAME (value)

照会する対象であるブリッジ機能の 8 バイトの仮想ネット名を表示します。

REMOTESYSNET(value)

ブリッジ・ルーター領域のアプリケーション ID を表示する 8 バイトのフィールドを表示します。このフィールドは、AOR 領域でのみ設定されます。要求がルーター領域で処理され、AOR に送信されない場合は、ブランクになります。

REMOTESYSTEM(value)

ブリッジ・ルーター領域のシステム ID を表示する 4 バイトのフィールドを表示します。このフィールドは、AOR 領域でのみ設定されます。要求がルーター領域で処理され、AOR に送信されない場合は、ブランクになります。

TASKID(value)

ユーザー・トランザクションを実行しているタスクの番号を示すフルワード 2 進数フィールドを表示します。このフィールドは、AOR でのみ設定されます。このフィールドは、ブリッジ機能が現在使用中でない場合はゼロです。

TERMID(value)

照会する対象であるブリッジ機能の 4 バイトの仮想端末名を表示します。

TERMSTATUS

ブリッジ機能の状況を表示します。値は以下のとおりです。

ACQUIRED

このブリッジ機能は現在使用中です。

AVAILABLE

ブリッジ機能は使用中ではありません。クライアントによる再使用が可能です。

RELEASED

ブリッジ機能に対して SET BRFACILITY RELEASED が発行されています。これは、次のクリーンアップ・サイクルで削除されます。

TRANSACTION(value)

現在の領域で認識されている、3270ブリッジによって実行されるユーザー・トランザクションの名前を示す4バイトのフィールドを表示します。ブリッジ機能が現在使用されていない場合、これは空白です。

USERID(value)

このブリッジ機能に関連したユーザー ID を示す8バイト・フィールドを表示します。

CEMT INQUIRE BUNDLE

BUNDLE リソースに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「バンドル」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

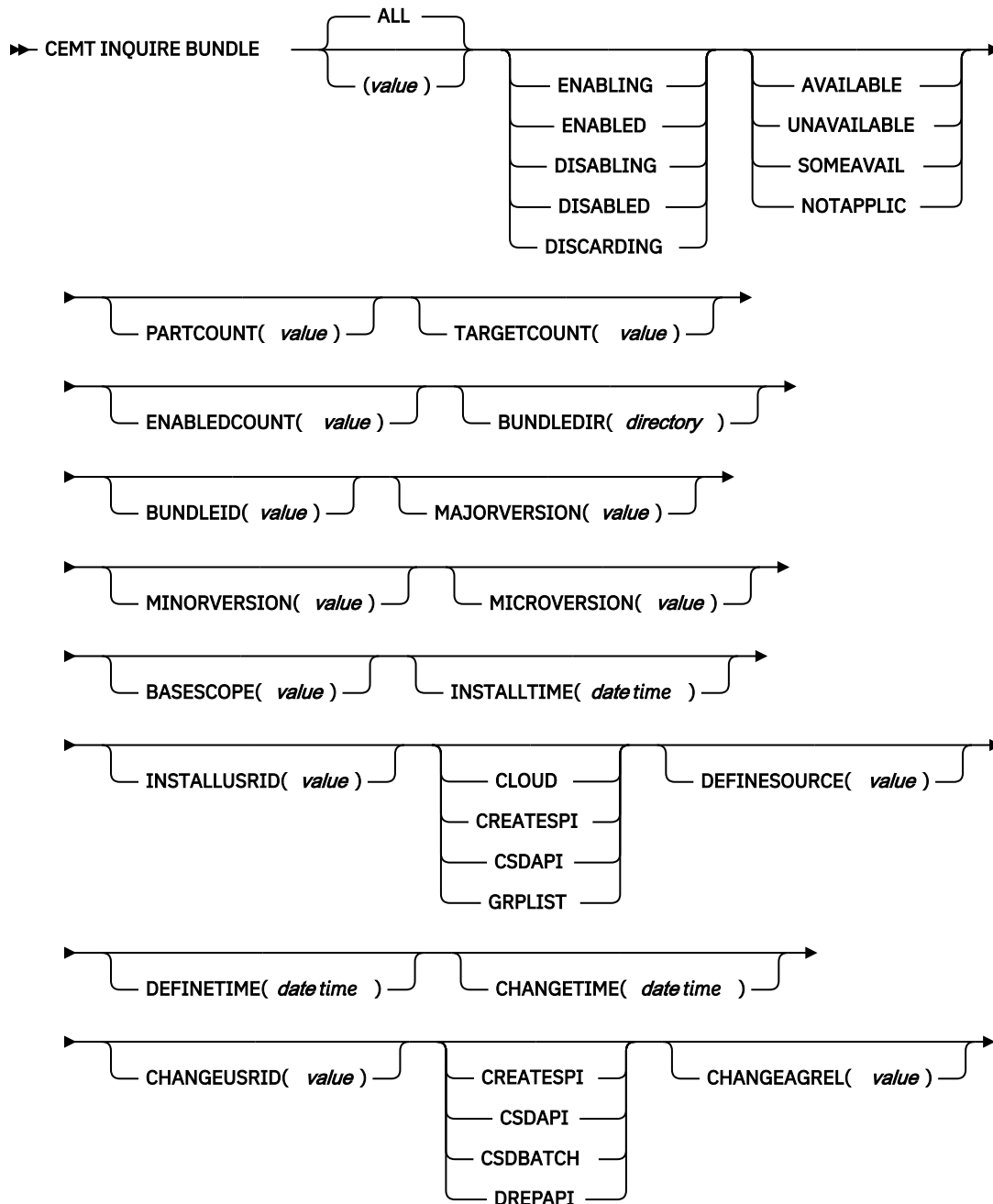
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドはCHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、およびINSTALLUSRIDです。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、次いでCEMT INQUIRE BUNDLEと入力して、CICS領域にインストールされた1つ以上のバンドルに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE BUNDLE



表示されるフィールド

AVAILSTATUS(value)

バンドルの使用可能状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

AVAILABLE

呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エン트리・ポイントとして識別されるすべてのリソースにアクセスできます。

UNAVAILABLE

呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エン트리・ポイントとして識別されるどのリソースにもアクセスできません。

SOMEAVAIL

一部のアプリケーション・エン트리・ポイントは使用可能であり、一部は使用できません。

NOTAPPLIC

バンドルにアプリケーション・エントリー・ポイントのステートメントは含まれていません。

BASESCOPE(value)

バンドルの内容のルート名前空間を定義する URI を表示します。

バンドルがプラットフォーム内にインストールされた場合、このフィールドには、バンドルがデプロイされたときのプラットフォームとアプリケーションを記述する URI が表示されます。この URI の形式は次のとおりです。

```
cicsapplication://Platform/ApplicationID/MajorVersion/MinorVersion/MicroVersion
```

Platform はアプリケーションが実行されているプラットフォームの名前、*ApplicationID* はアプリケーション・バンドルの ID です (後ろにアプリケーションのバージョンが続きます)。

BUNDLEDIR(directory)

バンドルがデプロイされた z/OS UNIX 上のディレクトリーを表示します。

BUNDLEID(value)

バンドルの ID が表示されます (バンドル・マニフェストで指定されている場合)。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLEDCOUNT(value)

バンドルによって動的に作成され、CICS 領域で使用可能になっている、現在のリソースとエントリー・ポイントの数が表示されます。

ENABLESTATUS(value)

バンドルの全体的な状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLING

バンドルは初期化中です。バンドル・マニフェスト・ファイルで定義されているリソースを作成し、使用可能にしています。

ENABLED

バンドルは使用可能です。

DISABLING

バンドルは DISABLED 状態に入る前に静止しています。バンドルは、それが使用可能にしたすべてのリソースを使用不可にします。

DISABLED

バンドルは使用不可です。

DISCARDING

バンドルに対して DISCARD コマンドが発行されました。バンドルは、破棄される前に静止しています。バンドルは、使用不可にしたすべてのリソースを破棄します。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CLOUD

リソースは、アプリケーションまたはプラットフォームのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MAJORVERSION(value)

バンドルのメジャー・バージョン番号が表示されます。バンドルでバージョンが指定されていない場合は、0 と表示されます。

MICROVERSION(value)

バンドルのマイクロ・バージョン番号が表示されます。バンドルでバージョンが指定されていない場合は、0 と表示されます。

MINORVERSION(value)

バンドルのマイナー・バージョン番号が表示されます。バンドルでバージョンが指定されていない場合は、0 と表示されます。

PARTCOUNT(value)

バンドル・マニフェストに定義されたインポート、エクスポート、エントリー・ポイント、および定義ステートメントの総数を表示します。

TARGETCOUNT(value)

バンドル内で動的に作成されたリソースおよびエントリー・ポイントの総数を表示します。動的に作成されたリソースがすべて使用可能な状態になると、CICS は BUNDLE リソースを自動的に使用可能にします。

CEMT INQUIRE CFDTPOOL

カップリング・ファシリティ・データ・テーブル (CFDT) プールに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE CFDTPOOL は、現在インストールされている CFDT プール名に関する情報を返します。CICS は、CFDT を参照するファイル・リソース定義をインストールするときに、これらを自動的にインストールします。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE CFDTPOOL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。結果の表示には、CFDT サーバー経由で接続されている CICS カップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールの名前と状況がリストされます。表示された情報を変更することはできません。

サンプル画面

```
inquire cfdt
STATUS:  RESULTS
Cfd(DTP00L1 ) Con
```

```
RESPONSE: NORMAL          SYSID=HA61  APPLID=CICSHA61
PF 1 HELP          3 END          5 VAR          TIME: 15.54.22  DATE: 09.03.98
7 SBH 8 SFH 9 MSG 10 SB 11 SF
```

図 31. CEMT INQUIRE CFDTPOOL 画面

CEMT INQUIRE CFDTPOOL



表示されるフィールド

ALL

これはデフォルトです。CICS は、インストール済みの CFDT プールすべての名前を表示します。

CFDTPOOL(value)

指定された CFDT プールに関する情報を表示します。

CICS は、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照するファイル・リソース定義が最初にインストールされたときに、CFDT プールのリソース・エントリーを作成します。リソース・エントリーはカタログされ、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動時にカタログから再インストールされます。

注: CICS 領域のコールド・スタートまたは初期始動以外の方法で、CFDT プール・エントリーを破棄することはできません。

CONNSTATUS

指定された CFDT プールの接続状況を表示します。値は以下のとおりです。

CONNECTED

カップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールのサーバーは、この MVS イメージで使用可能であり、CICS は現在このサーバーに接続されています。

UNCONNECTED

カップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールのサーバーは、この MVS イメージで使用可能ですが、CICS は現在このサーバーに接続されていません。

UNAVAILABLE

カップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールのサーバーは、現在 MVS イメージ内で使用不可です。

CEMT INQUIRE CONNECTION

ローカル・システム・エントリーに関する情報またはリモート・システムへの MRO 接続や ISC over SNA 接続に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「ISC/MRO 接続」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE CONNECTION は、ローカル・システム・エントリーに関する情報や、ローカルの CICS 領域から別の CICS 領域または別のシステムへの MRO 接続や ISC over SNA 接続に関する情報を返します。TCP/IP を使用する接続を照会するには、**CEMT INQUIRE IPCONN** コマンドを使用します。

ローカル・システム・エントリーを照会する場合、適用可能な唯一のフィールドは AIDCOUNT、NETNAME、およびリソース・シグニチャー・フィールドです。

オプションは、SET コマンドを入力するか、INQUIRE 画面の該当する場所に上書き入力することでリセットできます。

接続に関する詳細は、[CONNECTION 属性](#)を参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE CONNECTION と入力します。現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE CONNECTION と入力し、続けてその他の属性を必要な数だけ入力して、必要な情報の範囲を限定します。例えば、cemt i c ins acq と入力すると、サービス中で、獲得された接続のみの詳細が結果として表示されます。

これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。

(value)

領域間通信 (IRC) またはシステム間連絡 (ISC) 接続用に定義する 1 つ以上の名前 (1 から 4 文字) を指定します。

ALL

これがデフォルトです。

サンプル画面

```

IN CONN
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Con(G1GA)          Ins      Irc Exci
Con(ISC1) Net(AUHZCIC1)  Ins Acq Vta Appc      Xok Unk
                               Nqn(GBIBMIYA.AUHZCIC1)

Con(ISC2) Net(AUHZCIC2)
Con(MR02) Net(CICSHAA1)      Ins Acq Irc      Unk
Con(MR04) Net(CICSHAA2)      Ins Acq Irc      Unk
Con(MR05) Net(CICSHAA3)      Ins Acq Irc      Unk
Con(MR06) Net(CICSHAB1)      Ins Acq Xcf
Con(VTA1) Net(IYCQTC03)      Ins Acq Vta Appc
                               Nqn(GBIBMIYA.IYCQTC03)

```

図 32. CEMT INQUIRE CONNECTION 画面

注：画面にはブランク・フィールドがあり、ここでは値が適用されないか、「否定的」です。つまり、値は「No」で始まります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し（フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます）、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定する場合には、拡張フォーマットの使用が便利です（表示済みのフィールドをその負の値で上書き入力することで結果が非表示になるため、否定のほうが簡単です）。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は [89 ページの図 33](#) に示すような拡張フォーマットを表示します。

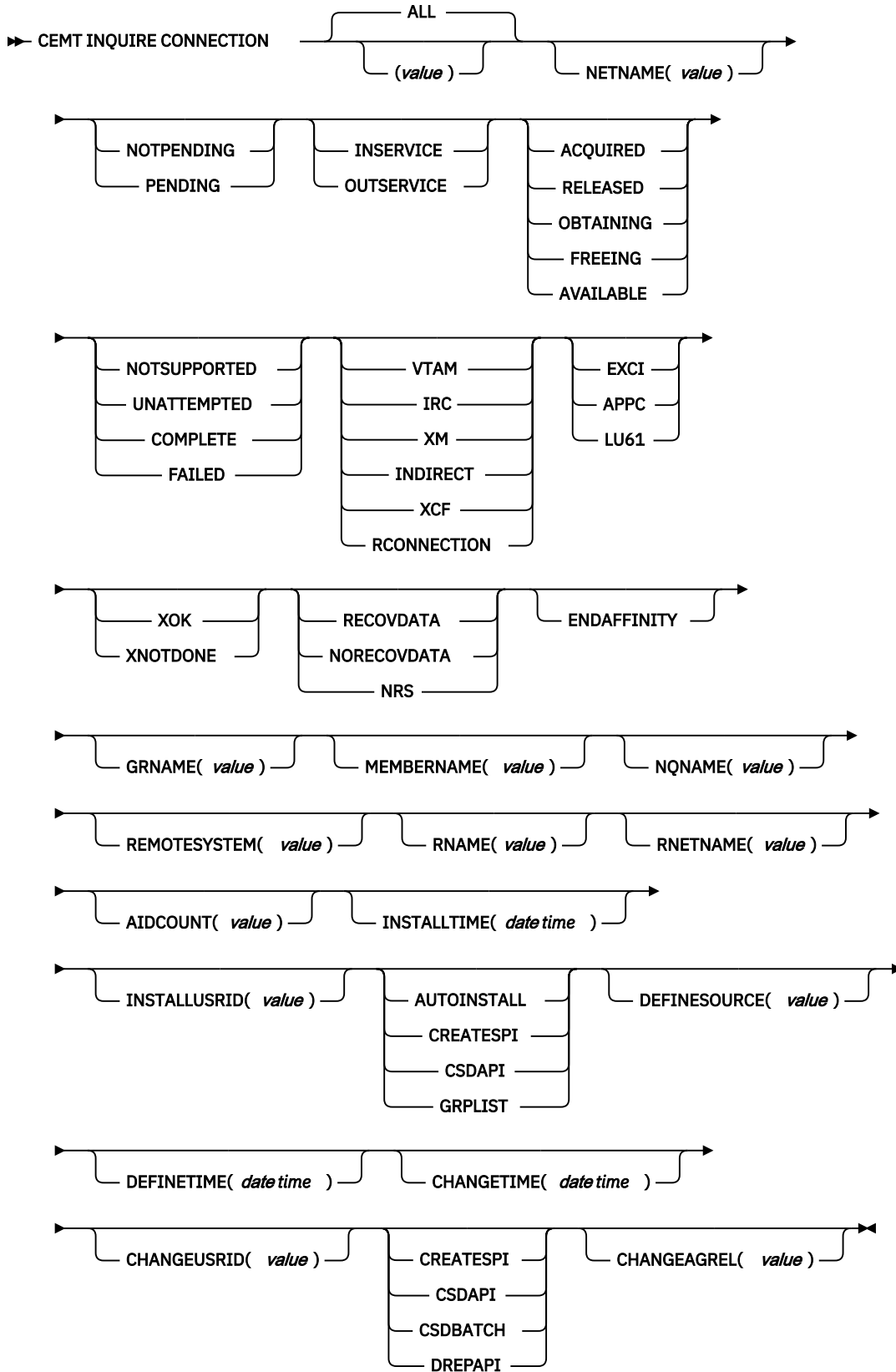
```

IN CONN
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Connection(MR05)
Netname(CICSHAA3)
Pendstatus( Notpending )
Servstatus( Inservice )
Connstatus( Acquired )
Accessmethod(Irc)
Purgetype(          )
Protocol()
Xlnstatus()
Recovstatus( Norecovdata )
Uowaction(          )
Cqp( Notsupported )
Grname()
Membername()
Affinity(          )
Nqname()
Remotesystem()
Rname()
Rnetname()
Aidcount(000000000)

```

図 33. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE CONNECTION



表示されるフィールド

ACCESSMETHOD

この接続に使用中のアクセス方式を表示します。値は以下のとおりです。

VTAM

VTAM は、現在は z/OS Communications Server と呼ばれています。接続はシステム間連絡 (ISC) で使用されます。

IRC

接続は複数領域操作 (MRO) で使用され、領域間通信 (IRC) プログラムを使用して通信するように定義されています。CONNECTION が ACQUIRED の場合、MRO パートナーは同じ MVS イメージ上で実行しています。CONNECTION が RELEASED の場合、MRO パートナーが同じ MVS イメージ上にない場合もあります。ない場合、接続が ACQUIRED になると XCF アクセス方式が使用されることになります。

XM

接続は複数領域操作 (MRO) で使用され、MVS クロスメモリー (XM) サービスを使用して通信するように定義されています。CONNECTION が ACQUIRED である場合、MRO パートナーは同じ MVS イメージ上で実行されています。CONNECTION が RELEASED の場合、MRO パートナーが同じ MVS イメージ上にない場合もあります。ない場合、接続が ACQUIRED になると XCF アクセス方式が使用されることになります。

INDIRECT

ローカル CICS システムとこの接続で定義されているシステムとの間の通信は、接続定義の INDSYS オペランドで名前指定されているシステムを経由しています。

XCF

接続は複数領域操作 (MRO) で使用され、通信は MVS のシステム間カップリング・ファシリティ (XCF) を使用します。XCF は、z/OS シスプレックス中の異なる MVS イメージ上にある CICS 領域間の MRO リンクで使用されます。接続定義中でアクセス方式が IRC または XM として定義されている場合、この値が CICS によってこの種のリンク用に動的に選択されます。

RCONNECTION

接続はリモートです。つまり、別の CICS システムによって所有されています。

AFFINITY (入力専用フィールド)

CICS が z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、z/OS Communications Server が CICS に所有される親和性を終了させることを指定します。このオプションは APPC および LU61 接続の場合にのみ有効です。この接続はサービス休止でなければならず、NORECOVDATA 状態でなければなりません。値は以下のとおりです。

ENDAFFINITY

CICS によって所有されているアフィニティーを z/OS Communications Server が終了させます。

AIDCOUNT(data-area)

接続の自動開始プログラム記述子 (AID) チェーン内にある AID の現在の数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONNECTION(value)

システム 接続との関連でこのパネルを識別し、接続がその名前によって知られる 4 文字名を表示します。

このパラメーターは、ローカル・システムの名前も受け入れます。ローカル・システム・エントリーでは、意味のあるパラメーターは **AIDCOUNT**、**NETNAME**、およびリソース・シグニチャー・フィールドのみです。

CONNSTATUS

CICS とリモート・システムの間の接続の状態を表示します。リモート・システムは、CEMT INQUIRE CONNECTION コマンド上の (value) によって識別される APPC パートナーまたは MRO パートナーにすることができます。ACQUIRED および RELEASED の値は APPC と MRO の両方に共通です。その他の値は APPC に固有です。値は以下のとおりです。

ACQUIRED (APPC および MRO)

CONNECTION は獲得されました。z/OS Communications Server リンクの ACQUIRED の基準は以下のとおりです。

- パートナー LU に連絡している。
- 初期 CNOS 交換が行われている。

MRO リンクに関する ACQUIRED の基準は以下のとおりです。

- リンクの両側がサービス中である。
- リンクの両側が CICS 領域間通信プログラム (DFHIRP) に正常にログオンしている。
- 1 つ以上のセッションでそれぞれの側による接続要求が正常実行されているので、それぞれの側はデータを送受信できる。

RELEASED (APPC および MRO)

接続は解放されました。接続はサービス中の可能性があります、使用できません。

MRO リンクの場合、いくつかの状態のうちの 1 つにより、解放状況になることがあります。例えば、相手側の CICS 領域がまだ初期設定されていないか、CICS 領域間通信プログラム (DFHIRP) にサインオンしていないことが原因かもしれません。あるいは、相手側で CICS 領域間通信が閉じられているか、相手側の接続がサービス休止に設定されていることが原因かもしれません。

OBTAINING (APPC のみ)

接続は獲得中です。ACQUIRED に関するすべての基準が満たされるまで、接続は OBTAINING 状態のままです。

FREEING (APPC のみ)

接続は解放中です。

AVAILABLE (APPC のみ)

接続は獲得されていますが、リソースが限定されているためにアンバインドされたので、現在バインド済みセッションはありません。

Connstatus は Acquired または Released でリセットできます。

CQP(value)

接続に関する接続静止プロトコルの状況を表示します。値は以下のとおりです。

NOTSUPPORTED

接続静止プロトコルは、この接続にはサポートされていません。

UNATTEMPTED

CICS は接続静止プロトコルの使用を試みていません (接続が解放されていないため)。

COMPLETE

接続が解放された際に接続静止プロトコルは正常に完了しました。接続が再び獲得されると、状況は UNATTEMPTED に復帰します。

FAILED

接続静止プロトコルは失敗しました (例えば、プロトコルの実行中にセッションが失敗したため)。接続が再び獲得されると、状況は UNATTEMPTED に復帰します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

GRNAME(value) (APPC のみ)

接続しているシステムの 8 文字の汎用リソース名を表示します (このシステムも汎用リソースの際には、汎用リソースへの APPC 接続について表示します)。それ以外の接続の場合は、このフィールドはブランクになります。BIND 指定時に送信される 2 つの NETNAME が異なる場合、CICS はパートナーが汎用リソースであると想定します。そのため、パートナーが汎用リソースでないものの XRF を使用する場合も、この情報が表示されることがあります。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MEMBERNAME(value)

接続している LU の 8 文字のメンバー名 (アプリケーション ID) を表示します (このシステムも汎用リソースの際には、汎用リソースへの APPC 接続について表示します)。それ以外の接続の場合は、このフィールドはブランクになります。BIND 指定時に送信される 2 つの NETNAME が異なる場合、CICS はパートナーが汎用リソースであると想定します。そのため、パートナーが汎用リソースでないものの XRF を使用する場合も、この情報が表示されることがあります。

NETNAME (value)

ネットワークに認識されているリモート・システムの 8 文字の名前を表示します。

注: ネット名が z/OS Communications Server LU 別名である場合は、常に実ネット名を含んでいる NQNAME のネット名コンポーネントとは異なります。

NQNAME(value)

ネットワークに認識されているリモート・システムの 17 文字のネットワーク修飾名を表示します。

PENDSTATUS (APPC および MRO のみ)

この接続に関する保留中の作業単位があるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

NOTPENDING

ログ名がパートナーと不一致ではありません。

注: 表示前のシステムへの MRO 接続はログ名を使用しません。したがって、これらの接続の場合、PENDSTATUS は常に NOTPENDING になります。

PENDING

接続が未解決の再同期処理がありますが、パートナー・システムは初期始動を実行したので、再同期プロセスが完了できません。(パートナー・システムが CICS Transaction Server より前の CICS バージョンの場合、パートナー・システム上で実行されたコールド・スタートにも同じ影響があります。) SET CONNECTION NOTPENDING コマンドを使用して、関連したトランザクション定義に従い、接続に関連した作業単位を一方のみコミットまたはバックアウトします。個別に作業単位を調べて強制的にコミットまたはバックアウトを行うこともできます。この場合、さらに SET CONNECTION NOTPENDING コマンドを使用してリカバリー・アクティビティーを完了し、PENDING 状態をクリアしなければなりません。

この接続が APPC 接続の場合、SET CONNECTION NOTPENDING コマンドが発行されるまでその接続を介して新しい同期点処理 (つまり、同期レベル 2 のプロトコルに関する処理) を伝送できません。この制限は、MRO 接続には適用されません。

パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) により同期が失われてもかまわない場合は、CONNECTION 定義上に XLNACTON(FORCE) を指定して、SET CONNECTION NOTPENDING コマンドが自動的に発行されるようにすることができます。

Pendstatus は Notpending でリセットできます。

作業単位の保留について詳しくは、[相互通信入門](#)を参照してください。

PROTOCOL

z/OS Communications Server または外部 CICS インターフェース 接続の場合、使用中のプロトコルを表示します。値は以下のとおりです。

APPC

接続はシステム間連絡に z/OS Communications Server LUTYPE6.2 プロトコルを使用しているか、またはリモートです。

EXCI

接続は CICS と非 CICS クライアント・プログラムの間の通信に外部 CICS インターフェースを使用しています。

LU61

この接続では、CICS 間通信、または CICS と IMS のシステム間連絡に、z/OS Communications Server LUTYPE6.1 プロトコルを使用します。

PURGETYPE (入力専用フィールド)

関連したトランザクションがページされる方法を指定します。値は以下のとおりです。

PURGE (z/OS Communications Server のみ、および IRC のみ)

接続されたシステムで実行中のトランザクションをすべて異常終了させます。トランザクションはシステムおよびデータ保全性を維持できる場合にのみ終了します。トランザクションの定義で SPURGE=NO が指定されている場合、トランザクションはページされません。

FORCEPURGE (z/OS Communications Server のみ)

接続されたシステムのセッションで実行されているトランザクションをすべて即時に異常終了させます。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

CANCEL

指定された接続の AID (自動開始記述子) キューイングを取り消します。

ローカル CICS システム内で指定された接続を待機している、スケジュールに入れられて割り振られている要求を表す AID が取り消されます。しかし、関連の起動されるタスクが既に開始されている TD AID は取り消されません。さらに、以下の CICS システム AID は、FCANCEL が指定されない限りページされません。

表 5. 除去するのに FCANCEL が必要なシステム AID	
説明	Tranid (トランザクション ID)
リモート削除 AID	
リモート・スケジューラー AID	CRSR
LU6.2 サービス・マネージャ 1 AID	CLS1
LU6.2 サービス・マネージャ 3 AID	CLS3
リモート・スケジューラー・ページ AID	CRSQ
リソース・マネージャ再同期 AID	CRSY
自動インストール端末削除 AID	CATD
自動インストール端末再始動 AID	CATR

取り消された SCHEDULE 要求の先行版がリモート CICS システムにある、つまり AID がもともとリモート・システムでスケジュールに入れられていたことが分かった場合、そのリモート AID は非同期的に取り消されます。

メッセージ DFHTF0100 が CSMT に書き込まれ、接続に関する AID が削除された数と、残っている数が示されます。

CEMT SET CONNECTION コマンドの CANCEL オプションを使用して AID が削除されるたびに、AIDS CANCELED メッセージが CEMT パネルに表示されます。

FCANCEL

指定された接続のためにキューイングしているすべての AID (システム AID を含む) が取り消されます。除去するのに FCANCEL が必要なシステム AID のリストについては、[95 ページの表 5](#) を参照してください。これは予測不能な結果になる場合があります、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

注: FCANCEL は関連の起動されるタスクがある一時データ AID は除去しません。これらの AID は関連するタスクをページすると除去できます。

CEMT SET CONNECTION コマンドの FCANCEL オプションを使用して AID が削除されるたびに、AIDS CANCELED メッセージが CEMT パネルに表示されます。

RECOVSTATUS (APPC および MRO のみ)

この接続について未解決の再同期処理があるかどうかを表示します。接続は、接続したことがないか、静止しており再同期処理がすべて完了しているか、または静止せずに中断している (この場合は再同期が必要になることがあります) 可能性があります。値は以下のとおりです。

NORECOVDATA

どちらの側にも未解決のリカバリー情報はありません。

NRS

CICS にはこの接続に対し未解決のリカバリーはないが、パートナーにはあるかもしれません。

RECOVDATA

その接続に関連した未確定の作業単位があるか、その接続で FORGET を待っている未解決の再同期があります。再同期は、次回接続がアクティブになる時点か、UOW が未中断の時点で行われます。

リカバリーが未解決の場合は、ログ名の交換の完了時に、再同期が行われるか、コールド交換の場合は PENDING 状態が作成されます。

Recovstatus は Norecovdata でリセットできます。

REMOTESYSTEM (value)

照会の対象がリモート接続または間接接続の場合は、接続の 4 文字の名前を表示します。どちらの場合も、名前指定される接続は、TOR に対してリンクする接続エントリーか、TOR のネット名を提供する間接接続です。

照会の対象が間接接続の場合は、REMOTESYSTEM の値は CONNECTION 定義の INDSYS オプションから取られます。

その他の場合、このフィールドはブランクになります。

RNAME (value)

照会の対象がリモート接続の場合は、リモート・システム中でこの接続が認識されている 4 文字の名前を表示します。

RNETNAME (value)

この照会の対象がリモート接続の場合は、所有している TOR の 8 文字のネット名を表示します。ブランクの場合は、接続がリモートであれば、REMOTESYSTEM フィールドで名前指定されたシステムはインストールされておらず、接続の定義時に REMOTESYSNET オプションの値が指定されていません。

SERVSTATUS

システムがデータを受信および送信できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

INSERVICE

システムはサービス中です。つまり、使用可能になっています。

OUTSERVICE

システムはサービス休止中です。つまり、使用可能ではありません。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

UOWACTION (入力専用フィールド)

通常の再同期プロセスが部分的にオーバーライドされることを指定します。この値は、接続の障害によって未確定になる作業単位に対して取るべき決定のタイプを指定します。その決定は記録され、次回接続が獲得されたときにデータの不整合が報告されます。値は以下のとおりです。

BACKOUT

この接続障害のために中断した UOW はすべてバックアウトされます。

COMMIT

この接続障害のために中断した UOW はすべてコミットされます。

FORCEUOW

この接続障害のために中断したすべての UOW は、TRANSACTION 定義の INDOUBT オプションでの指定どおりに、強制的に BACKOUT または COMMIT されます。

RESYNC

この接続障害のために中断した UOW はすべて再試行されます (つまり、この接続に関する交換ログ名の再同期が試行されます)。接続が獲得されたか、または UOW の除外が解消したときに、このプロセスは通常は自動的に開始されるはずですが。

XLNSTATUS

交換ログ名 (XLN) プロセスの状況を表示します。値は以下のとおりです。

XOK (APPC のみ)

APPC 接続に関する交換ログ名 (XLN) プロセスは正常に完了しています。

XNOTDONE (APPC のみ)

APPC 接続に関する交換ログ名 (XLN) フローが正常に完了していません。CSMT ログには、この状態に関連した情報が含まれています。この接続上で同期レベル 2 の会話は使用できませんが、同期レベル 0 および 1 は引き続き使用できます。

交換ログ名が適用外の場合は、状況は何も表示されません。その理由は、リンクが以下のようになっているからです。

- 解放されている。
- MRO、LU6.1、または単一セッション APPC である。
- 同期レベル 2 の会話をサポートしていない。

APPC 交換ログ名の処理については、[複数領域操作のリンクの定義](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE DB2CONN

CICS Db2 接続に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「DB2 接続」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE DB2CONN は、Db2 への接続を定義する、現在インストールされている DB2CONN の属性に関する情報を戻します。

一度にインストール可能な DB2CONN は 1 つのみのため、入力データで DB2CONN の名前は必要ありません。

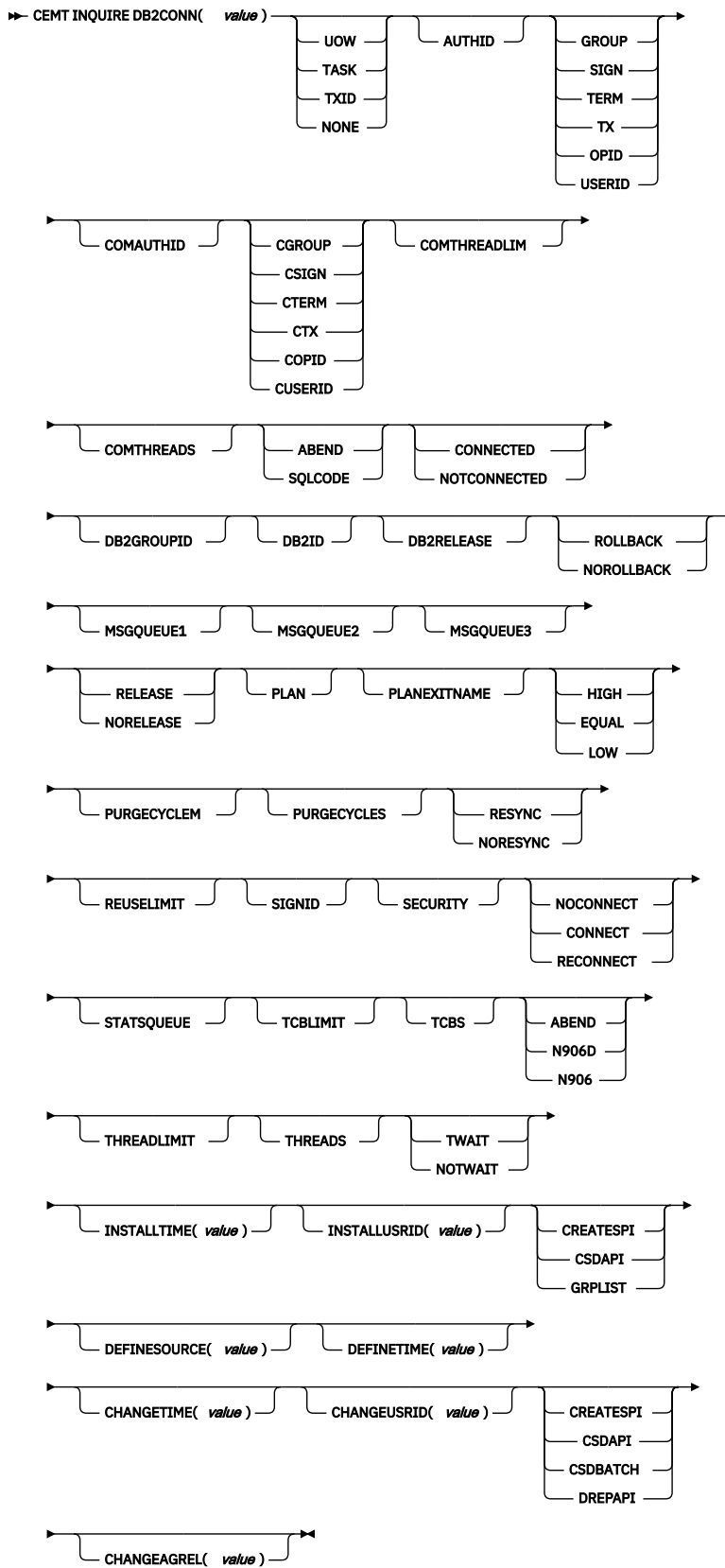
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE DB2CONN と入力します。現在の状況が表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。

CEMT INQUIRE DB2CONN



表示されるフィールド

ACCOUNTREC

プール・スレッドを使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量に戻します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。値は以下のとおりです。

UOW

CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドが UOW の終わりに解放されることを前提として)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して 1 つのアカウンティング・レコードの最小値が作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW に異なるスレッドを使用できます (スレッドが同期点で解放されることを前提として)。その結果、UOW ごとに会計レコードを生成できます。

TXID

CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用するトランザクション ID が変更されるときに、アカウンティング・レコードが作成されます。

プール・スレッドは通常、複数の異なるトランザクション ID によって使用されるため、複数の UOW を含むトランザクションが各 UOW に異なるスレッドを使用する可能性があります (このスレッドが同期点で解放されることを前提として)。この場合、各 UOW のアカウンティング・レコードを作成できます。

NONE

プール・スレッドを使用するトランザクションに必要なアカウンティング・レコードはありません。

ただし Db2 は、スレッドが終了するときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

AUTHID

プール・スレッドを使用する際に、セキュリティ検査で使用される ID を戻します。AUTHID が戻されると、AUTHTYPE は適用されません。

AUTHTYPE

プール・スレッドを使用する際に、セキュリティ検査で使用される ID のタイプを戻します。AUTHTYPE が戻されると、AUTHID はブランクになります。値は以下のとおりです。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がいない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN

Db2 接続の SIGNID フィールドをリソース許可 ID として使用します。

TERM

端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) は使用できません。

TX

トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

OPID

ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたユーザー・オペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

COMAUTHID

コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティチェックで使用する ID を戻します。COMAUTHTYPE が戻されると、COMAUTHID は適用されません。

COMAUTHTYPE

コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティチェックで使用する ID のタイプを戻します。COMAUTHTYPE が戻されると、COMAUTHID はブランクになります。値は以下のとおりです。

CGROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がいない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

CSIGN

DB2CONN の SIGNID パラメーターをリソース許可 ID として使用します。

CTERM

端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、COMAUTHTYPE(CTERM) は使用できません。

CTX

トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

COPID

ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

CUSERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

COMAUTHTYPE(CUSERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、COMAUTHTYPE(CUSERID) と COMAUTHTYPE(CGROU) の間に違いはありません。

COMTHREADLIM

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される現在のコマンド・スレッドの最大数を返します。この数を超えると、要求はプールにオーバーフローします。

COMTHREADS

現在のアクティブ・コマンド・スレッド数を返します。

CONNECTERROR

アダプターが待機モードのために CICS が Db2 に接続されていない場合に、値を返します。この値は、SQL 要求を発行したアプリケーションにこの情報がどのように返されるかを示しています。値は以下のとおりです。

ABEND

アプリケーションは、異常終了コード AEY9 で異常終了しました。

SQLCODE

アプリケーションは、-923 SQLCODE を受け取ります。

CONNECTST

CICS Db2 接続の状況を返します。値は以下のとおりです。

CONNECTED

CICS が Db2 に接続されています。

NOTCONNECTED

CICS が Db2 に接続されていない。

DB2GROUPID

グループ接続を使用している場合、このフィールドは、ユーザーが指定した Db2 サブシステムのデータ共有グループ名またはサブグループ名 (最大 4 文字) を返します。CICS はこのグループの任意のアク

ティブ・メンバーへの接続を試行します。CICS Db2 接続が確立されると、グループの中から選択された Db2 サブシステム名が DB2ID フィールドに表示されます。CICS が未解決の作業単位を保持している特定の Db2 サブシステムへの再接続を待機している場合、その特定の Db2 サブシステムの名前が DB2ID フィールドに表示され、CEMT は「Waiting for DB2」というメッセージを表示します。この状況が生じる場合、Resyncmember(Resync) を指定する必要があります。

DB2ID

グループ接続を使用していない場合、このオプションは、CICS Db2 接続の接続先である Db2 サブシステムの名前を返します。または、CICS Db2 接続が接続されていない場合、CICS の接続先に指定した Db2 サブシステムの名前を返します。グループ接続を使用しており、CICS Db2 接続が接続されている場合、このオプションは、CICS Db2 接続の接続先である Db2 サブシステムの名前を返します。グループ接続を使用しており、CICS Db2 接続が接続されていない場合、通常はこのフィールドはブランクです。しかし、Resyncmember(Resync) が指定されていて、CICS が未解決の作業単位を保持している Db2 サブシステムを使用できないために、CICS が特定の Db2 サブシステムに再接続するため待機している場合、このフィールドには Db2 サブシステムの名前が表示され、CEMT は「Waiting for DB2」というメッセージを表示します。

DB2RELEASE

CICS を接続している Db2 サブシステムのバージョン・レベルとリリース・レベルを示す 4 文字の値を返します。CICS を Db2 に接続していない場合、ブランクが戻されます。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DROLLBACK

トランザクションがデッドロック解決の悪影響を受ける場合に、CICS Db2 接続で同期点ロールバックを開始するかどうかを示す値を返します。値は以下のとおりです。

ROLLBACK

接続機能は、制御をアプリケーションに戻す前に同期点ロールバックを発行します。SQL 戻りコードの -911 がプログラムに戻されます。

NOROLLBACK

接続機能で、トランザクションのロールバックを開始しません。SQL 戻りコードの -913 がアプリケーションに戻されます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MSGQUEUE1

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される最初の一時データ宛先の名前を返します。

MSGQUEUE2

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 2 番目の一時データ宛先の名前を戻します。

MSGQUEUE3

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージが送信される 3 番目の一時データ宛先の名前を戻します。

NONTERMREL

非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放するかどうかを示す値が戻されます。

RELEASE

非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放します。

NORELEASE

非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放しません。

PLAN

プールに使用する計画の名前を戻します。計画名が戻されると、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME

プール・スレッドに使用する動的計画出口の名前を戻します。PLANEXITNAME が戻されると、PLAN はブランクになります。

PRIORITY

CICS メイン TCB (QR TCB) に対するプール・スレッド TCB の相対的な優先度を戻します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。値は以下のとおりです。

HIGH

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PURGEYCLEM

保護スレッド・ページ周期の時間 (分数) を返します (秒数は PURGECYCLES で返されます)。

PURGEYCLEM の範囲は 0 から 59 です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。その間に再利用されなければ、ページ周期 2 回分の時間が経過した後に終了します。例えば、保護スレッド・ページ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後 30 秒から 60 秒の間にページされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

PURGECYCLES

保護スレッド・ページ周期の時間 (秒数) を返します (分数は PURGEYCLEM で返されます)。

PURGECYCLES の範囲は 0 から 59 です。PURGEYCLEM がゼロの場合の PURGECYCLES の最小値は 5 秒です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。その間に再利用されなければ、ページ周期 2 回分の時間が経過した後に終了します。例えば、保護スレッド・ページ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後 30 秒から 60 秒の間にページされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

RESYNCMEMBER

このフィールドは、グループ接続を使用している場合にのみ適用され (Db2 グループ ID が指定されている)、CICS が最後に接続された Db2 データ共用グループ・メンバーに対して未解決の作業単位が保持されている場合に、CICS が採用する方針を返します。 (未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。これらの作業単位の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに行われます。) グループ接続を使用していない場合は、ブランク・フィールドが返されます。

RESYNC

CICS は同じ Db2 データ共有グループ・メンバーに接続します。

NORESYNC

CICS は同じ Db2 データ共有グループ・メンバーへの接続を一度試行します。その試行が失敗した場合、CICS は Db2 データ共有グループのいずれかのメンバーに接続して、未解決の作業単位に関する警告を発行します。

REUSELIMIT

スレッドが強制終了される前に再利用できる最大回数を示す値を 0 から 10000 の範囲で戻します。デフォルトは、1000 です。0 の値は、スレッドが再利用される回数に制限がないことを意味します。絶え間なく再利用して長時間に渡り CICS Db2 スレッドを実行すると、ストレージの問題を引き起こす可能性のあるリソースが Db2 に構築されてしまいます。

再利用の制限は、プールと DB2ENTRY の両方の無保護スレッド、および DB2ENTRY の保護スレッドに適用されます。

SIGNID

プール、AUTHTYPE(SIGNID) を指定する Db2 エントリー・スレッド、および COMAUTHTYPE(CSIGN) を指定するコマンド・スレッドのために Db2 にサインオンする際、CICS Db2 接続が使用する許可 ID を戻します。

SECURITY

INQUIRE に対しては意味がありません。これは、REBUILD オプションによる上書きを可能にして、CEMT SET DB2CONN を開始するために提供されています。**CEMT SET SECURITY** の SECURITY PURGECYCLES を参照してください。

STANDBYMODE

CICS から Db2 への接続の開始を試行するときに Db2 がアクティブではない場合、CICS Db2 接続が実行するアクションを戻します。値は以下のとおりです。

NOCONNECT

CICS Db2 接続を終了します。

CONNECT

CICS Db2 接続は、Db2 を待機するため待機モードに入ります。

RECONNECT

CICS Db2 接続は、待機モードに入り、Db2 を待機します。Db2 に接続した後に Db2 に障害が発生した場合、CICS Db2 接続は再び待機モードに戻り、後で Db2 を再始動するときに再接続します。

STATSQUEUE

CICS Db2 接続がシャットダウンされるときに作成される CICS Db2 接続統計の一時データ宛先を戻します。

TCBLIMIT

Db2 要求を処理するために使用できる TCB の最大数を戻します。CICS は、Db2 要求を処理するためにオープン TCB を作成します。DB2CONN 定義の TCBLIMIT 属性は、Db2 にアクセスするために使用できるオープン TCB の数、つまり、TCB が Db2 に識別され、Db2 への接続を作成できる数を規定します。

TCBS

CICS Db2 接続機能によって現在使用されている TCB を示す数値を戻します。CICS Db2 接続機能によって使用されている TCB は、CICS によって L8 モード TCB のプールから割り振られます。Db2 接続は同じ L8 TCB に永久的に割り当てられることなく、CICS タスク間で 1 つの L8 モード TCB から別の L8 モード TCB に移動できます。この環境では、TCB オプションは、照会の時点で Db2 接続を使用している L8 モード TCB の数を戻します。また、この値はワークロードによって異なります。

THREADERROR

スレッド作成エラーの後に発生する処理を戻します。値は以下のとおりです。

ABEND

2 度目またはその後の SQL エラーでは、トランザクションは、発生したエラーのタイプに応じて、異常終了コード AD2S、AD2T、または AD2U により異常終了します。トランザクションを停止して再初期化されてからでなければ、別の SQL 要求を発行することはできません。

N906D

トランザクション・ダンプが取られ、トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は使用不可になります。別の SQL 要求が発行された場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行しなければ、-906 SQLCODE エラーを受け取ります。ROLLBACK オプションを指定しない SYNCPOINT では、ASP3 または ASP7 の異常終了が発生します。トランザクション・ダンプには、AD2S、AD2T、または AD2U の異常終了が記録されます。

N906

トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は使用不可になります。別の SQL 要求が発行された場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行しなければ、トランザクションは -906 SQLCODE エラーを受け取ります。SYNCPOINT に ROLLBACK オプションが指定されていない場合、ASP3 または ASP7 で異常終了します。

THREADLIMIT

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される現在のプール・スレッドの最大数を返します。この数を超えると、要求は待機状態になるか拒否されます。Threadwait を参照してください。

THREADS

現在のアクティブ・プール・スレッド数を返します。

THREADWAIT

アクティブ・プール・スレッド数が threadlimit の数値に達したときに、トランザクションにプール・スレッドを待たせるか、またはトランザクションを異常終了させるかを示す値を返します。値は以下のとおりです。

TWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T により停止します。

CEMT INQUIRE DB2ENTRY

Db2 にアクセスする際に特定のトランザクションまたはトランザクションのグループによって使用されるリソースを定義する DB2ENTRY の属性を返します。

CICS Explorer では、[「DB2 エントリー」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

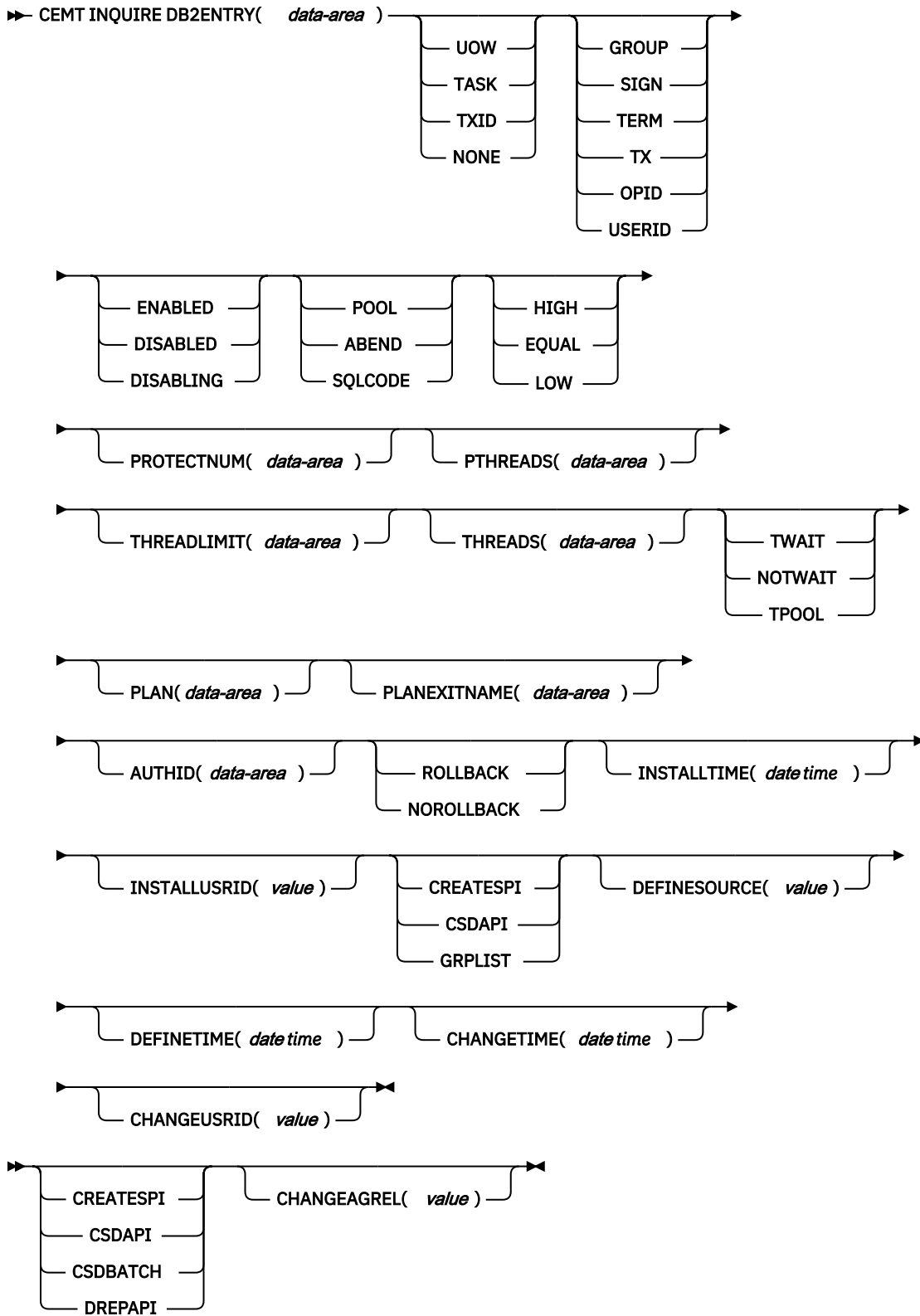
説明

エントリーは、CEDA で定義された名前によって識別されます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE DB2ENTRY



表示されるフィールド

ACCOUNTREC

この DB2ENTRY を使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティング・レコードの最小量に戻します。以下のオプションで説明するように、指定された最小量を超える場合があります。値は以下のとおりです。

UOW

CICS Db2 接続機能により、各 UOW のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドが UOW の終わりに解放されることを前提として)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して最小 1 つのアカウンティング・レコードが作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW に異なるスレッドを使用できます (スレッドが同期点で解放されることを前提として)。その結果、UOW ごとに会計レコードを生成できます。

TXID

CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用する transid が変更されるときに、アカウンティング・レコードが作成されます。

このオプションは、複数のトランザクション ID によって使用される DB2ENTRY の照会に適用されます。スレッドは通常は同期点で解放されるため、複数の UOW を含むトランザクションは、それぞれの UOW ごとに異なるスレッドを使用することができます。その結果、UOW ごとに会計レコードを生成できます。

NONE

この DB2ENTRY からスレッドを使用する トランザクションには、会計レコードは必要ありません。

ただし Db2 は、スレッドが終了するときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

AUTHID

プール・スレッドを使用する際に、セキュリティ検査で使用される ID を戻します。AUTHID が戻されると、AUTHTYPE は適用されません。

AUTHTYPE

この DB2ENTRY のスレッドのセキュリティ検査に使用される ID のタイプを返します。AUTHTYPE が戻されると、AUTHID はブランクになります。値は以下のとおりです。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がいない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN

DB2CONN の **SIGNID** パラメーターをリソース許可 ID として使用します。

TERM

端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) を使用できません。

TX

トランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を許可 ID として使用します。

OPID

ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込みが行われて 8 文字) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DISABLEDACT

DB2ENTRY が使用不可になっている、またはこれから使用不可になる場合に、それにアクセスする新規トランザクションに対して CICS が行うことを示す値を返します。DISABLEDACT を指定しない場合、DB2ENTRY が使用不可になると、新規要求はデフォルトでプールに経路指定されます。値は以下のとおりです。

POOL

CICS Db2 接続機能は、要求をプールに経路指定します。プールへの経路を指定された各トランザクションの DB2CONN 上の MSGQUEUE によって指定された一時データ宛先に、メッセージ DFHDB2072 が送信されます。

ABEND

CICS Db2 接続機能がトランザクションを停止します。異常終了コードは AD26 です。

SQLCODE

DB2ENTRY が使用不可であることを示す SQLCODE がアプリケーションに返されます。

DROLLBACK

トランザクションがデッドロック解決の悪影響を受ける場合に、CICS Db2 接続で同期点ロールバックを開始するかどうかを示す値を返します。値は以下のとおりです。

ROLLBACK

接続機能は、制御をアプリケーションに戻す前に同期点ロールバックを発行します。SQL 戻りコードの -911 がプログラムに戻されます。

NOROLLBACK

接続機能は、このトランザクションのロールバックを開始しません。SQL 戻りコードの -913 がアプリケーションに戻されます。

ENABLESTATUS

DB2ENTRY がアプリケーションからアクセス可能かどうかを示します。値は以下のとおりです。

ENABLED

アプリケーションによって、DB2ENTRY にアクセスできます。DB2ENTRY は ENABLED 状態でインストールされます。

DISABLED

アプリケーションによって、DB2ENTRY にアクセスできません。

DISABLING

DB2ENTRY は使用不可にされる過程にあります。新規トランザクションは DB2ENTRY にアクセスできません。DB2ENTRY を使用する既存のトランザクションは、FORCE オプションを指定して DB2ENTRY を使用不可にしていない限り完了することができます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

PLAN

この DB2ENTRY に使用される計画の名前を返します。PLAN が戻されると、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME

この DB2ENTRY に使用される動的計画出口の名前 (ある場合) を返します。PLANEXITname が返される場合、PLAN はブランクになります。

PRIORITY

CICS メイン TCB (QR TCB) に対するプール・スレッド TCB の相対的な優先度を返します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。

HIGH

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PROTECTNUM

この DB2ENTRY に対して許可されている保護スレッドの最大数を返します。

PTHREADS

この DB2ENTRY に対する保護スレッドの現在の数を返します。保護スレッドは、新規トランザクションによる再使用が可能な非アクティブ・スレッドです。2 回のページ・サイクルによる処理が行われたときまでにスレッドを再使用したトランザクションがない場合、スレッドは終了します。

THREADLIMIT

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される、この DB2ENTRY のスレッドの現行最大数を返します。この数を超えると、要求は待機状態になるか、プールにオーバーフローするか、拒否されます。Threadwait フィールドを参照してください。

THREADS

この DB2ENTRY に対して現在アクティブなスレッドの数を返します。

THREADWAIT

アクティブな DB2ENTRY スレッドの数が Threadlimit 数に達した場合に、トランザクションが DB2ENTRY スレッドの異常終了を待つか、プールにオーバーフローするかを指定します。値は以下のとおりです。

TWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT

すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは異常終了コード AD2P で停止します。

TPOOL

すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションはプール・スレッドを使用するように変更されます。プールも使用中で、DB2CONN の THREADWAIT パラメーターに NOTWAIT が指定されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T で終了します。

CEMT INQUIRE DB2TRAN

トランザクションまたはトランザクション・グループを DB2ENTRY と関連付ける特定の DB2TRAN の属性を戻します。

CICS Explorer では、[「DB2 トランザクション」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

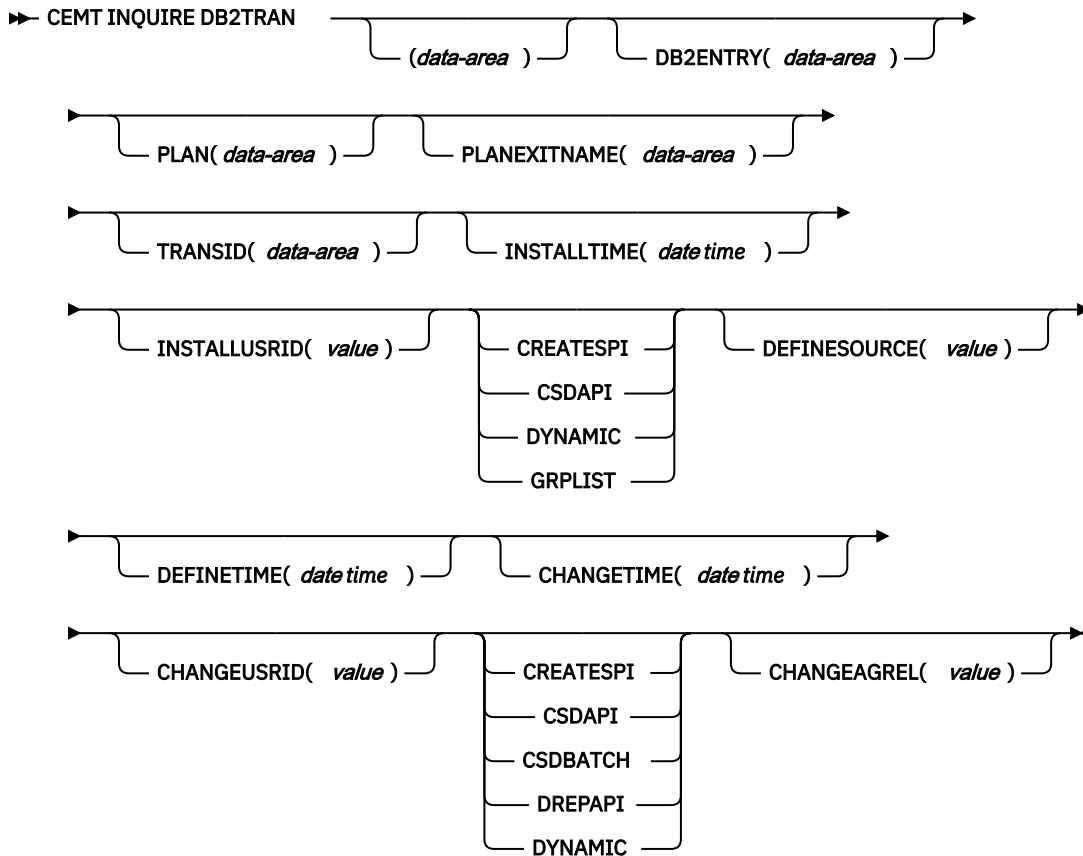
説明

DB2ENTRY のインストール時に、DB2ENTRY に対して TRANSID が指定されている場合、CICS は DFHtttt という名前の DB2TRAN をインストールします (ここで、tttt は TRANSID)。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE DB2TRAN



表示されるフィールド

DB2ENTRY

この DB2TRAN が参照する DB2ENTRY の名前を戻します。これは、この追加トランザクションを関連付ける必要がある DB2ENTRY です。

CHANGEAGENT(*value*)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソースは、TRANSID を指定して DB2ENTRY をインストールした結果として定義されました。

CHANGEAGREL(*value*)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(*date time*)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは、TRANSID を指定して DB2ENTRY をインストールした結果としてインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

PLAN

関連付けられた DB2ENTRY (存在する場合) から取得した計画の名前を返します。DB2ENTRY がない場合、または DISABLEDACT(PPOOL) を使用して DB2ENTRY が使用不可に設定されている場合は、プール計画名 (存在する場合) が返されます。PLAN が返される場合、PLANEXITNAME はブランクになります。

PLANEXITNAME

関連付けられた DB2ENTRY が存在する場合は、使用する動的計画出口の名前 (ある場合) を返します。関連付けられた DB2ENTRY がない場合、または DISABLEDACT(PPOOL) を使用して DB2ENTRY が使用不可に設定されている場合は、プール計画出口名 (存在する場合) が返されます。PLANEXITNAME が戻されると、PLAN はブランクになります。

TRANSID

エントリーに関連付ける トランザクション ID を指定します。トランザクション ID には、ワイルドカード文字を含めることができます。[トランザクション ID のワイルドカード文字](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE DELETSHPED

CICS タイムアウト削除メカニズムを制御するシステム設定を表示します。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CICS タイムアウト削除メカニズムは、ユーザー指定の間隔で呼び出され、シップされた端末定義のうち、ユーザー指定の期間を超えて未使用状態にあったものを削除します。

INQUIRE DELETSHPED コマンドによって、このメカニズムを制御するパラメーターの現在の設定を表示します。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE DELETSHIPED (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。以下の例のような画面が表示されます。

以下のような方法で属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- CEMT SET DELETSHIPED コマンドを使用します。

サンプル画面

```
IN DELE
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Del Int( 120000 ) Id1( 020000 )
```

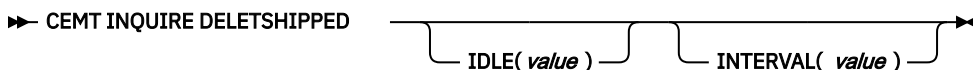
図 34. CEMT INQUIRE DELETSHIPED 画面

結果にカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は、[113 ページの図 35](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN DELE
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Deletshipped
Interval( 120000 )
Idle( 020000 )
```

図 35. 展開表示

CEMT INQUIRE DELETSHIPED



表示されるフィールド

DEL

このパネルが CICS タイムアウト削除情報に関連したものであることを識別します。

IDLE(value)

シップされた非アクティブの端末定義がこの領域にインストールされた状態で維持する必要がある最小時間を、0hhmmss+ の形式で表示します。CICS タイムアウト削除メカニズムが呼び出されるときに、この時間より長く非アクティブであるシップされた定義だけが削除されます。

時間間隔は 00 から 99 時間、00 から 59 分、および 00 から 59 秒です。

INTERVAL(value)

CICS タイムアウト削除メカニズムの各呼び出しの間隔を、0hhmmss+ という形式で表示します。タイムアウト削除メカニズムは、IDLE オプションにより表示される時間より長く未使用であった、シップされた端末定義を削除します。

時間間隔は 00 から 99 時間、00 から 59 分、および 00 から 59 秒です。

CEMT INQUIRE DISPATCHER

CICS ディスパッチャーによって使用されるシステム情報を取得します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

構文

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE DISPATCHER と入力します。表示画面が現れます。

属性を変更する方法は以下のとおりです。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- **CEMT SET DISPATCHER** コマンドを使用します。

オプション

ACTOPENTCBS(value)

現在タスクに割り振られている L8 および L9 モードのオープン TCB の数を表示します。

ACTSSLTCBS(value)

現在タスクに割り振られている S8 モードのオープン TCB の数を表示します。

ACTTHRDTCBS(value)

現在タスクに割り振られている T8 モードのオープン TCB の数を表示します。

ACTXPTCBS(value)

現在タスクに割り振られている X8 および X9 モードのオープン TCB の数を表示します。

AGING(value)

タスクの優先度を上げるために優先順位繰り上げアルゴリズムで使用する CICS の時間係数を表示します。この値は「優先される装置 1 台当たりのミリ秒数」で表され、その範囲は 0 から 65535 までです。

優先順位繰り上げ係数は、最初は **PRTYAGE** システム初期設定パラメーターで定義されます。このパラメーターの値は待機タスクの優先度を 1 ずつ上方調整するのにかかるミリ秒数を表します。詳しくは、[PRTYAGE システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

MAXOPENTCBS(value)

CICS 領域内に同時に存在できる L8 および L9 モードのオープン TCB の最大数を表示します。CICS は、この制限を CICS 領域に対して指定されるタスクの最大数 (MXT 値) に基づいて自動的に設定します。ただし、MAXOPENTCBS システム初期設定パラメーターで明示的に指定することもできます。オープン TCB について詳しくは、[オープン TCB 管理](#)を参照してください。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

重要：デフォルトでは、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して MAXOPENTCBS に自動的に値を割り当てます。MAXOPENTCBS に値を明示的に割り当てる前に、[最大タスク仕様 \(MXT\) の設定の情報](#)を確認してください。

MAXSSLTCBS(value)

CICS 領域内に同時に存在できる S8 モードのオープン TCB の最大数を表示します。値の範囲は 1 から 1024 までです。オープン TCB について詳しくは、[オープン TCB 管理](#)を参照してください。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

MAXTHRDTCBS(value)

使用可能および使用不可であるすべての JVMSERVER リソースについて、CICS 領域内に同時に存在できる T8 モードのオープン TCB の最大数 (つまり、領域内のすべての JVM サーバー用に予約済みのスレッドの総数) を表示します。各 JVM サーバー用に予約済みのスレッドの数は、JVMSERVER リソースの THREADLIMIT 値に 1 (JVM サーバー用に予約済みの TCB) を加算したものです。THREADLIMIT について詳しくは、[JVMSERVER 属性](#)を参照してください。オープン TCB について詳しくは、[オープン TCB 管理](#)を参照してください。

MAXXPTCBS(value)

CICS 領域内に同時に存在できる X8 および X9 モードのオープン TCB の最大数を表示します。CICS は、この制限を CICS 領域に対して指定されるタスクの最大数 (MXT 値) と同じ値に自動的に設定します。ただし、MAXXPTCBS システム初期設定パラメーターで明示的に指定することもできます。オープン TCB について詳しくは、[オープン TCB 管理](#)を参照してください。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

重要：デフォルトでは、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して MAXXPTCBS に自動的に値を割り当てます。MAXXPTCBS に値を明示的に割り当てる前に、[最大タスク仕様 \(MXT\) の設定](#)の情報を確認してください。

MROBATCH(value)

接続領域からの MRO 要求をいくつバッチ処理した後に、この領域に通知を送るかを表示します。値の範囲は 1 から 255 までです。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

RUNAWAY(value)

タスクがループしていると想定されるまでに制御を保持できる間隔 (ミリ秒) を表示します。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

この値をリセットする場合、0 を指定することも、500 から 2700000 までの値を指定することもできます。指定した値は、端数を切り捨てて 500 の倍数に丸められます。

この間隔が経過してもタスクが制御を放棄しない場合、CICS はこのタスクを消去します (つまり、CICS はタスクがループしていると判断します)。ゼロを指定すると、ランナウェイ・タスク制御は作動不能になります (つまり、タスクがループしているように見えても、そのタスクは消去されません)。この値は TIME オペランドの値には依存せず、それより小さくてもかまいません。

CICS ランナウェイ・タスク検出は、タスク時間を基にして実行されます (つまり、間隔は、タスクがプロセッサの制御を受け取るたびにリセットされ、タスクが制御を得ている間に減分されます)。したがって、ランナウェイ値を設定する際には、他のジョブの結果を考慮する必要はありません。

SCANDELAY(value)

ICVTSD システム初期設定パラメーターで指定された、CICS 領域の端末スキャン遅延の値を表示します。デフォルト値はゼロです。端末スキャン遅延機能は、以前のリリースでは、オーバーヘッドを分散して要求を処理するために、アプリケーションによる一部のタイプの端末出力要求を CICS が処理する速度を制限する目的で使用されていました。CICS システムが SNA 以外のネットワークを使用していたときには、ゼロ以外の値を指定することが適切な場合もありました。ただし SNA および IPIC ネットワークでは、応答時間を向上させ、仮想ストレージを最良の方法で使用するには、ICVTSD を 0 に設定するのが適切です。必要に応じて、この値は 0-5000 ミリ秒の範囲で別の値を上書き入力してリセットすることができます。

SUBTASKS(value)

SUBTSKS システム初期設定パラメーターによって設定された値を表示します。値は 0 または 1 のいずれかです。

TIME(value)

処理を再開できるトランザクションがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を解放する間隔 (ミリ秒) を表示します。この間隔は、領域出口間隔と呼ばれます。

注：

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。使用できる値は 100 から 3600000 までの範囲で、SCANDELAY 値以上でなければなりません。
2. ディスパッチャー統計の要約報告書では、TIME が ICV になっています。

CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE

CICS 文書テンプレートの DOCTEMPLATE リソース定義に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「文書テンプレート」](#) ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE DOCTEMPLATE は、現在インストールされている文書テンプレートに関する情報を戻します。

リソース・シグニチャー

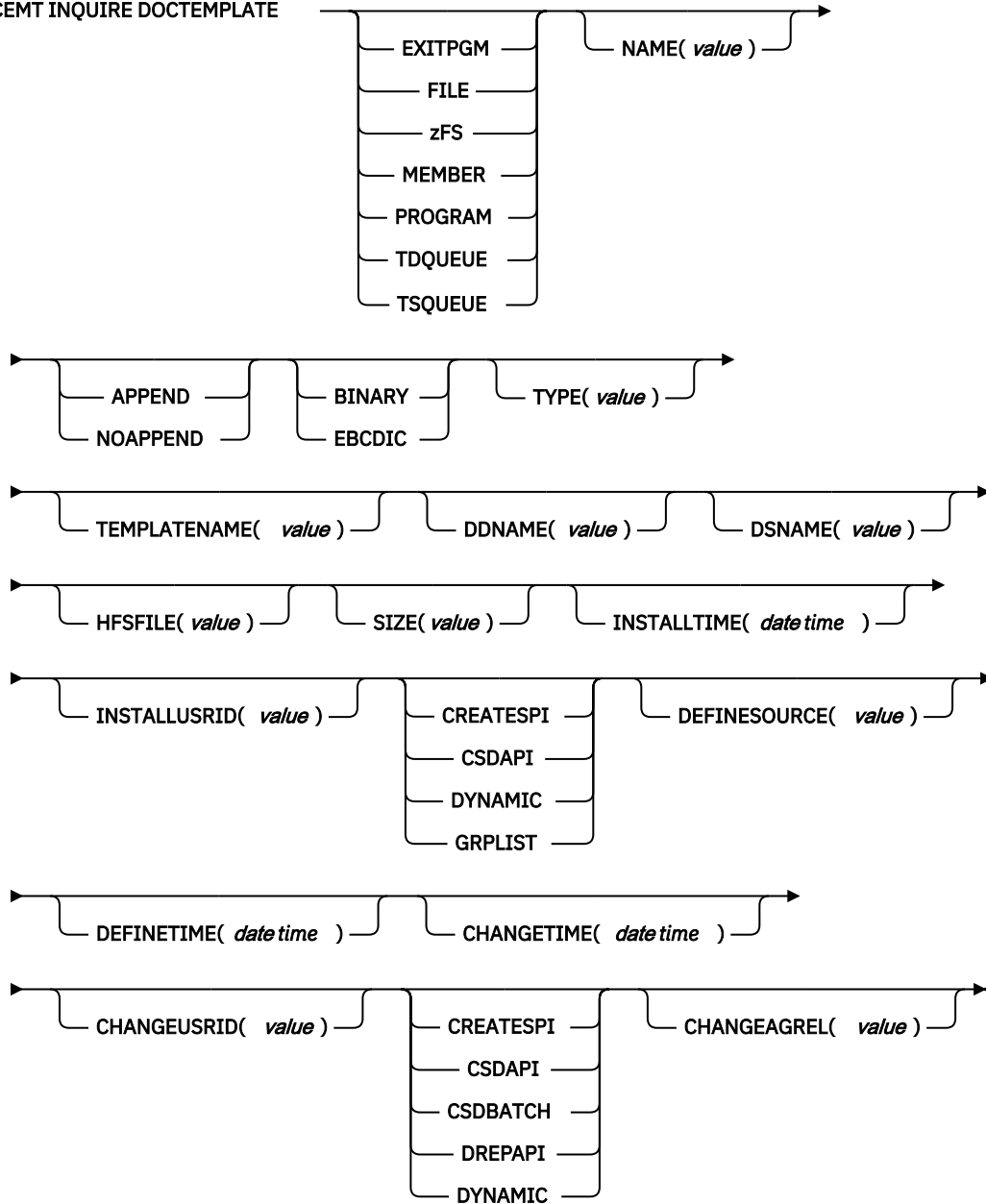
このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。文書テンプレートの名前と状況がリストで表示されます。表示された情報を変更することはできません。

CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE

➡ CEMENT INQUIRE DOCTEMPLATE



表示されるフィールド

APPENDCRLF

CICS がテンプレートの各論理レコードから末尾ブランクを削除するかどうか、各論理レコードに復帰改行を追加するかどうかを返します。

APPEND

復帰および改行を追加します。

NOAPPEND

復帰および改行を追加しません。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソースは、CICS テンプレート・マネージャー DFHWBTL を介して使用されているテンプレートに対して、CICS システムによって定義されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DDNAME

テンプレートを含む PDS の DD 名を戻します。DD 名は、タイプ PDS のテンプレートにのみ適用されます。提供されるメンバー名に DDNAME の値が指定されていない場合は、デフォルト値 DFHHTML が使用されます。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DOCTEMPLATE

この DOCTEMPLATE リソース定義の名前を戻します。

DSNAME

テンプレートを含む PDS の DS 名を戻します。

HFSFILE

テンプレートがある z/OS UNIX ファイルの完全修飾名を戻します。HFSFILE 属性は、タイプ zFS のテンプレートにのみ適用されます。長さは 255 文字までです。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは CICS テンプレート・マネージャー DFHWBTL を介して使用されているテンプレートに対して、CICS システムによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

NAME

TEMPLATETYPE で定義されているロケーションの名前を戻します。

SIZE

文書テンプレートのキャッシュ付きコピーで使用するストレージの量をバイトで戻します。照会の時点でテンプレートのキャッシュ・コピーがない場合、ゼロの値が戻されます。

TEMPLATENAME

文書テンプレートがリソース定義関数 (DOCTEMPLATE リソース定義の TEMPLATENAME 属性) の外部で知られている拡張テンプレート名を戻します。

TEMPLATETYPE

NAME で戻される名前を持つリソースのタイプを戻します。

EXITPGM

出口プログラム。

FILE

データ・セットの CICS ファイル名。

zFS

z/OS UNIX ファイル。

MEMBER

DDNAME で記述されている PDS 内のメンバー名。

PROGRAM

プログラム

TDQUEUE

TD キュー。

TSQUEUE

TS キュー。

TYPE

テンプレート・コンテンツのフォーマットを戻します。

BINARY

テンプレートをテンプレート・ライブラリーからロードするときに、そのテンプレートの内容の構文解析を実行しません。

EBCDIC

テンプレートをテンプレート・ライブラリーからロードするときに、その内容が EBCDIC テキストとして構文解析されます。

CEMT INQUIRE DSAS

ローカル CICS の動的ストレージ域 (DSA) に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[グローバル動的ストレージ域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE DSAS は、さまざまな DSA サイズおよび制限の値を戻します。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE DSAS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します (120 ページの図 36 を参照)。
- **CEMT SET DSAS** コマンドを使用します。

サンプル画面

```
I DSAS
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Sosabovebar(Notsos)      Memlimit(10G)
Sosaboveline(Notsos)     Gcdsasize(2G)
Sosbelowline(Notsos)     Gdsasize(1G)
                          Gudsasize(1G)

Dsalimit( 05242880 )
Cdsasize(00524288)
Rdsasize(00262144)
Sdsasize(00262144)
Udsasize(01048576)

Edsalimit( 0524288000 )
Ecdsasize(0036700160)
Erdsasize(0028311552)
Esdsasize(0001048576)
Etdsasize(0001048576)
Eudsasize(0018874368)
```

図 36. CEMT INQUIRE DSAS 画面

CEMT INQUIRE DSAS

➡ CEMT INQUIRE DSAS ➡

表示されるフィールド

CDSASIZE(value)

CICS 動的ストレージ域 (CDSA) のサイズをバイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より下にあるすべての DSA に対して指定されている全体的な制限値の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

DSALIMIT (value)

CICS が 16 MB 境界より下にある 4 つの個々の DSA で動的に割り振ることができるストレージの最大量をバイトの総数で表示します。詳しくは、[DSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

注: この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DSALIMIT で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

ECDSASIZE(value)

16 MB より上、ただし 2 GB より下にある CICS の拡張動的ストレージ域 (ECDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より上にあるすべての DSA に指定されている全体の制限の範囲内で、CICS が自動的に計算して管理します。

EDSALIMIT (value)

ストレージの最大容量を、合計バイト数で表示します。CICS はこの範囲内で、16 MB より上、ただし 2 GB より下にある DSA のそれぞれに動的にストレージを割り振ることができます。詳しくは、[EDSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

EDSALIMIT で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

ERDSASIZE(value)

16 MB より上、ただし 2 GB より下にある読み取り専用の拡張動的ストレージ域 (ERDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より上にあるすべての DSA に指定されている全体の制限の範囲内で、CICS が自動的に計算して管理します。

ESDSASIZE(value)

16 MB 境界より上、ただし 2 GB より下にある読み取り専用の拡張共用動的ストレージ域 (ESDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より上にあるすべての DSA に指定されている全体の制限の範囲内で、CICS が自動的に計算して管理します。

ETDSASIZE(value)

16 MB 境界より上、ただし 2 GB より下にある拡張トラステッド動的ストレージ域 (ETDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より上にあるすべての DSA に指定されている全体の制限の範囲内で、CICS が自動的に計算して管理します。

EUDSASIZE(value)

16 MB より上、ただし 2 GB より下にある拡張ユーザー動的ストレージ域 (EUDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より上にあるすべての DSA に指定されている全体の制限の範囲内で、CICS が自動的に計算して管理します。

GCDSASIZE(value)

2 GB 境界より上の CICS 動的ストレージ域 (GCDSA) のサイズを表示します。値はギガバイト単位 (文字 G が後に続く) で表示されます。CICS では、このストレージ域のサイズが自動的に計算され、管理されます。

GSDSASIZE(value)

2 GB 境界より上の共用動的ストレージ域 (GSDSA) のサイズを表示します。値はギガバイト単位 (文字 G が後に続く) で表示されます。CICS では、このストレージ域のサイズが自動的に計算され、管理されます。

GUDSASIZE(value)

2 GB 境界より上のユーザー動的ストレージ域 (GUDSA) のサイズを表示します。値はギガバイト単位 (文字 G が後に続く) で表示されます。CICS では、このストレージ域のサイズが自動的に計算され、管理されます。

MEMLIMIT(value)

CICS 領域で使用できる 2 GB 境界より上のストレージの限度を表示します。値は、文字 M で示すメガバイト数、文字 G で示すギガバイト数、または文字 T で示すテラバイト数で表示されます。NOLIMIT の値は、その領域で使用できるストレージの量に制限がないことを示します。

RDSASIZE(value)

読み取り専用の動的ストレージ域 (RDSA) のサイズをバイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より下にあるすべての DSA に対して指定されている全体的な制限値の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

SDSASIZE(value)

共用動的ストレージ域 (SDSA) のサイズをバイト単位で表示します。このストレージ域のサイズは、16 MB 境界より下にあるすべての DSA に対して指定されている全体的な制限値の範囲内で、CICS によって自動的に計算され、管理されます。

SOSABOVEBAR(value)

CICS が 2 GB 境界より上の動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS は、2 GB 境界より上のどの動的ストレージ域でもストレージ不足になっていません。

SOS

CICS は、2 GB 境界より上の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSABOVELINE(value)

CICS で、16 MB より上で 2 GB より下の動的ストレージ域のストレージ不足が発生しているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS は、16 MB より上、ただし 2 GB より下の動的ストレージ域のいずれにおいてもストレージ不足ではありません。

SOS

CICS は、16 MB を超えるが 2 GB 未満の動的ストレージ域のうち少なくとも 1 つでストレージ不足です。

SOSBELOWLINE(value)

CICS で、16 MB より下の動的ストレージ域のストレージ不足が発生しているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS では、16 MB より下の動的ストレージ域のいずれにおいても、ストレージ不足ではありません。

SOS

CICS は、16 MB より下の動的ストレージ域のうち少なくとも 1 つでストレージ不足です。

UDSASIZE(value)

16 MB の下にあるユーザー動的ストレージ域 (UDSA) のサイズを、バイト単位で表示します。

CEMT INQUIRE DSNAME

外部データ・セットに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE DSNAME コマンドは、CICS ファイル制御によって管理されるデータ・セットの状況に関する情報を返します。データ・セット名は、データ・セットの DD ステートメントの DSN パラメーターで指定された名前、またはデータ・セットの FILE リソース定義の DSNAME 属性で指定された名前のいずれかになります。このコマンドを使用して、障害のある VSAM データ・セットをモニターすることができます。データ・セットを参照するファイルが開かれるまで、属性の多くは判別できません。データ・セットを参照するファイルが開かれていない場合、ほとんどの属性に対してブランク値が返されます。

注: CEMT では、ICF カタログから QUIESCESTATE 情報を取得する必要があります。これにより、このコマンドの処理速度が低下する可能性があります。QUIESCESTATE はデフォルトでは指定されませんが、要求された場合は取得され、表示されます。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE DSNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。結果として、QUIESCESTATE 値を除く現在の状況が表示されます。QUIESCESTATE 値を取得するには、(Dsn フィールドの前に) 表示されている項目の先頭にカーソルを置いて、Enter キーを押します。
- CEMT INQUIRE DSNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i dsn vs not` と入力した場合、その結果として、外部データ・セットのうち、VSAM データ・セットであり、リカバリー可能ではないもののみの詳細が表示されます。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

ALL

デフォルト。

(value)

外部データ・セットの 1 つ以上の名前 (1 から 44 文字) を指定します。

サンプル画面

```
IN DSN
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Dsn(CICSTS56.CICS.CICSH###.DFHCSD) ) Vsa
  Fil(0001) Val Bas      Sta      Ava
Dsn(CICSTS56.CICS.CICSHT61.FILEA) ) Vsa
  Fil(0001) Val Bas      Sta      Ava
```

図 37. CEMT INQUIRE DSNNAME 画面

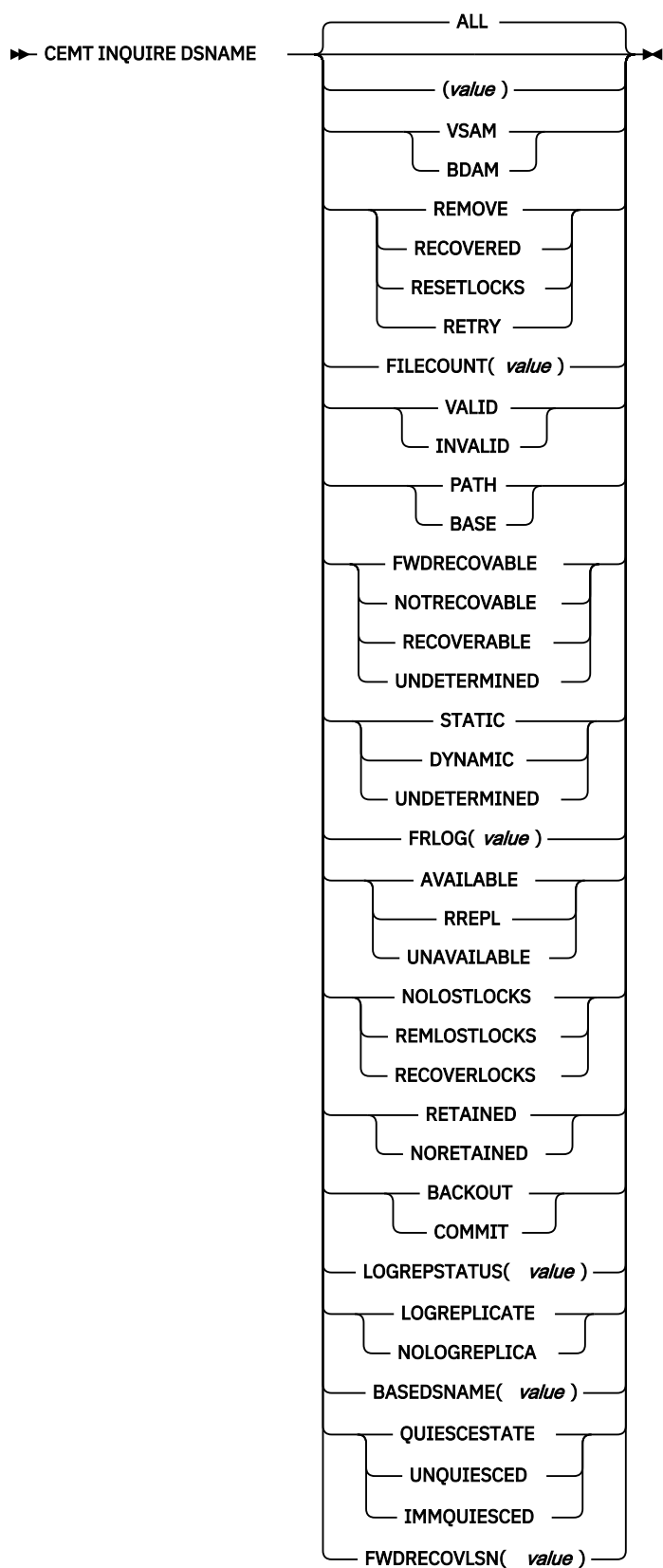
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合(値が No で始まっている場合)は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し(フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

このコマンドでサポートされるキーワードが多数あるため、結果ごとに2行の情報のみが表示されています。キーワードをすべて表示するには、(Dsn フィールドの前に)表示されている項目の先頭にカーソルを移動して、Enter キーを押します。結果として、以下のように、表示される項目のすべてのキーワード情報が表示されます。

```
IN DSN
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Dsnname(CICSTS56.CICS.CICSH###.DFHCSD)
Accessmethod(Vsam)
Action( )
Filecount(0001)
Validity(Valid)
Object(Base)
Recovstatus(Notrecoverable)
Backuptype(Static)
Frlog()
Logrepstatus()
Availability( Available )
Lostlocks()
Retlocks(Noretained)
Uowaction( )
Basedsname(CICSTS56.CICS.CICSH###.DFHCSD)
Quiescestate( Unquiesced )
Fwdrecovlsn()
```

図 38. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE DSNAME



表示されるフィールド

ACCESSMETHOD

データ・セットのアクセス方式を表示します。値は以下のとおりです。

VSAM

仮想記憶域 アクセス方式 (VSAM)。

BDAM

基本 直接アクセス方式 (BDAM)。

ACTION (入力専用フィールド)

このデータ・セットに対して実行するアクションを指定します。値は以下のとおりです。

REMOVE

このオプションは、ローカル・システム上でデータ・セットが必要なくなったときに使用します。これにより、指定されたデータ・セットのデータ・セット名ブロックが削除されます。REMOVE オプションを使用できるのは、指定されたデータ・セットを参照するファイル制御リソース定義の項目がない場合のみです。SET DSNAME REMOVE の入力時に、いずれかのファイル定義がデータ・セット名を参照している場合は、データ・セット名ブロックの使用回数がゼロではないことを示すエラー・メッセージを受け取ります。以下の手順を使用して、ファイル定義がデータ・セット名を参照していないことを確認してください。

1. データ・セットを参照するすべてのファイルを閉じます。次のコマンドを使用して、これらのファイルを検出できます。

```
CEMT INQUIRE FILE(*) DSNAME(dsname)
```

2. (CEMT 画面のデータ・セット名をブランクで上書き入力して) 各ファイル項目からデータ・セット名を除去するか、ファイル定義を完全に破棄します。

1 つ以上の代替索引を含む基本データ・セットがある場合は、基本データ・セットへのすべての参照とパスへのすべての参照を除去するまでは、基本データ・セット名ブロックを除去することはできません。

RECOVERED

データ・セットはバックアップ・バージョンから復元されており、順方向リカバリーが正常に実行され、完了しています。通常、CICS は、MVS/DFP 3.2 呼び出し可能サービスを使用して、基本クラスター・データ・セット BASEDSNAME のオープン時バックアップ (BWO) 属性を更新します。

BWO を使用して取られたデータ・セットのバックアップ・コピーを復元した後に BWO 属性が更新されていない場合、データ・セットに下位レベルのマークが付けられるため、それ以降、CICS ではファイルを開くことができません。

RESETLOCKS (VSAM のみ)

このデータ・セットに対するロックを保持しているバックアウト失敗作業単位 (UOW) およびコミット失敗 UOW に関して、中断された UOW ログ・レコードをページし、保持されているロックを解除します。

- バックアウト失敗 UOW とは、バックアウト処理中に失敗した UOW のことです。
- コミット失敗 UOW とは、2 フェーズ・コミット同期点処理の第 2 フェーズ中に、レコード・レベル共用 (RLS) データ・セットを更新したものの、ロック解除に失敗した UOW のことです。

このオプションは最後の手段としてのみ使用してください。これを使用すると、ロックの保持およびトランザクションの遅延に代えて、バックアウト障害とある程度のデータ保全性の損失を受け入れることになるからです。

データ・セットに対するロックを保持しているバックアウト失敗 UOW およびコミット失敗 UOW の場合、このデータ・セットに関連したすべてのレコードがシステム・ログから除去され、この CICS で保持されているデータ・セットに関する保持レコード・ロックはすべて解除されます。

RESETLOCKS 操作の結果として除去されるバックアウト失敗ログ・レコードごとに、診断メッセージが CSFL 一時データ・キューに書き込まれます。

RESETLOCKS オプションは、バックアウト失敗およびコミット失敗として分類される中断 UOW ログ・レコードにのみ適用されます。そのため、BDAM データ・セットに対しては発行できません。

BDAM データ・セットの場合、バックアウト失敗ログ・レコードとコミット失敗ログ・レコードは中断されません。

バックアウト失敗またはコミット失敗のログ・レコードでデータ・セットに関する失われたロックのリカバリーが保留にされており、他に解決する方法がない場合は、RESETLOCKS を使用できません。

注:

1. このオプションは中断された未確定 UOW には適用されません。RESETLOCKS を発行する前に、データ・セットでロックを保持する中断された未確定 UOW の解決を他の方法で試みてください。例えば、COMMIT、BACKOUT、または FORCE を使用します (これらのオプションについては、CEMT SET DSNB コマンドを参照してください)。
2. コミット・フェーズ中には RESETLOCKS は失敗することがあります (例えば、CICS による RLS ロックの解除の試行中にエラーが生じた場合)。この場合、UOW はコミット失敗 UOW として中断状態に戻ります。

RETRY

このデータ・セットの障害の結果として失敗したバックアウトおよびコミットの処理が原因で中断された UOW ログ・レコードを再試行するように指定します。これは、**EXEC CICS RESYNC** コマンドと処理が類似していますが、バックアウト失敗 UOW とコミット失敗 UOW のみに適用され、未確定 UOW には適用されません。

中断されたバックアウト失敗 UOW またはコミット失敗 UOW がデータ・セットに関連付けられており、データ・セットの問題の一部またはすべてが一時的なもの、あるいは解決済みと思われる場合に、RETRY を使用します。

UOW の中断原因となるデータ・セット障害が発生したときに発行されるメッセージでは、障害から回復するために必要なアクションが推奨されます。

RETRY はデータ保全性に影響しないため、一部の失敗したリカバリー処理を完了できるようにするためにいつでも安全に使用できます。

AVAILABILITY

この CICS 領域において、現在、データ・セットに使用可能または使用不可のいずれのフラグが立てられているか、またはデータ・セットへの全アクセス権限が REPLICATOR プログラムのみに制限されているかどうかを示す情報が表示されます。可用性の標識は、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) に保守するローカル・フラグです。ファイルが BDM データ・セットである場合、返される情報ははありません。値は以下のとおりです。

AVAILABLE

データ・セットは、CICS データ・セット名ブロックに従い使用可能になります。CICS は、このデータ・セットに関する RLS オープン要求または非 RLS オープン要求のいずれかを発行できます。

注: データ・セットは、CICS が保持する情報に応じて使用可能になりますが、ICF カタログでデータ・セットが使用不可であることが示されている場合、オープン要求は依然として失敗する可能性があります。例えば、これが発生するのは、データ・セット・リカバリーが保留中または進行中の場合です。

RREPL

データ・セットへの全アクセス権限は、REPLICATION(REPLICATOR) として定義されているプログラムにのみ制限されます。その他のプログラムには読み取り権限のみが与えられます。

UNAVAILABLE

データ・セットは、CICS によって、使用不可であるとしてマークされます。CICS 領域が、RLS または非 RLS モードでデータ・セットをオープンできません。

AVAILABILITY は、AVAILABLE を指定することによってリセットできます。

BACKUPTYPE

データ・セットのバックアップ・タイプを表示します。値は以下のとおりです。

STATIC

データ・セットは非 RLS モードでアクセスされ、BWO 処理には適格ではありません。データ・セットのバックアップ・コピーを作成する前に、このデータ・セット内のすべてのファイルを閉じて

から、DFSMS/MVS などのバックアップ・マネージャーを使用してデータ・セットを直列化する必要があります。

DYNAMIC

データ・セットは、RLS モードでアクセスされ、BWO 処理に適格です。データ・セットが出力のためにオープンされている間、DFSMSHsm や DFSMSdss などのバックアップ・マネージャーを使用して、そのデータ・セットのバックアップを実行できます。データ・セットのバックアップおよびリカバリー操作を実行する、階層ストレージ・マネージャー (DFSMSHsm) およびデータ・セット・サービス (DFSMSdss) は、IBM データ機能記憶管理サブシステム (DFSMS/MVS) ライセンス・プログラムのコンポーネントです。

UNDETERMINED

データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていないか、またはデータ・セットが BDAM または VSAM PATH です。また、データ・セットが RLS モードでオープンされた場合、NOTAPPLIC が返されます。VSAM カタログを参照して、BWO 状況を入手する必要があります。

BASEDSNAME (value) (VSAM のみ)

PATH も表示される場合、これは、このパスが関連付けられる基本データ・セットの名前です。

BASE も表示される場合、これは、Dsn(value) フィールドに示される名前と同じ名前になります。

DSNAME (value)

このパネルが外部データ・セット照会に関連していることを示し、外部データ・セットの 44 文字の名前を表示します。

FILECOUNT (value)

このデータ・セットに現在関連付けられている、それぞれ異なるファイルの数に関する情報を表示します。ジョブ制御 DD ステートメントを使用するか、ファイル定義で DSNAME パラメーターを使用して動的に、ファイルをデータ・セットに関連付けることができます。ファイルがジョブ制御 DD ステートメントで関連付けられている場合は、CEDA コマンド、CEMT、または **EXEC CICS SET FILE DSNAME** コマンドでファイル名を変更することはできません。

FILECOUNT ではデータ・セットに対して開かれているファイルの数は表示されません。表示されるのは、データ・セットに関連付けられているファイルの数のみです。ファイルがあるデータ・セットに関連付けられている状態で閉じられ、その後、別のデータ・セットに関連付けられた場合は、最初のデータ・セットの FILECOUNT が 1 つ減り、2 番目のデータ・セットの FILECOUNT が 1 つ増えます。

FRLOG (value)

このデータ・セットが順方向リカバリー可能 (FWDRECOVABLE) である場合は、順方向リカバリー用に更新をログに記録するために使用されるジャーナルの数値ジャーナル ID を表示します。データ・セットが順方向リカバリー可能でない場合、FRLOG 値は定義されません。データ・セットは、ICF カタログで、または非 RLS モードアクセスされる場合はファイルリソース定義で、順方向リカバリー可能として定義することができます。このオプションは、LSR モードまたは NSR モードでアクセスされ、順方向リカバリー属性が CICS ファイル・リソース定義から取得されるデータ・セットの場合にのみ有効です。

CICS が ICF カタログからリカバリー属性を取得する、RLS モードでアクセスされるデータ・セット、または非 RLS モードのデータ・セットの場合には、CICS はゼロの値を表示します。

FWDRECOVLSN (value)

これが順方向リカバリー属性または複製ロギングで定義されたデータ・セットである場合、アップデートをログに記録するために使用するログ・ストリームの名前が表示されます。データ・セットが順方向リカバリー可能ではなく、複製ロギングを使用してもいない場合、CICS はヌルを返します。

返されるログ・ストリーム名は、以下のいずれかです。

- 順方向リカバリーまたは複製ロギングの ICF カタログに直接指定されたログ・ストリーム名。
- FWDRECOVLOG 値から生成されたジャーナル名により、CICS で識別されたログ・ストリーム名 (ICF カタログ内に順方向リカバリー属性を保持しない非 RLS モードの場合)

LOGREPSTATUS(cvda)

データ・セットが LOGREPLICATE で定義されたかどうかを示す CVDA 値を返します。有効な値は以下のとおりです。

LOGREPLICATE

データ・セットへのすべての更新は、複製としてログに記録されます。

NOLOGREPLICA

データ・セットへの更新は、複製としてログに記録されません。

NOTAPPLIC

データ・セットは、コマンドが発行される CICS 領域によってオープンされていないか、またはデータ・セットが BDAM です。

LOSTLOCKS

このデータ・セットに脱落ロックがあるかどうかを表示します。表示される有効な値は、以下のとおりです。

NOLOSTLOCKS

データ・セットで失われたロックはありません。

REMLOSTLOCKS

データ・セットは脱落ロックがあるため使用不可ですが、この CICS システムでは、リカバリーは不要です。脱落ロックは、別の (リモート) CICS 領域に属します。

RECOVERLOCKS

データ・セットは脱落ロックがあるため使用不可です。この CICS システムは、脱落ロック・リカバリーを実行しています。

OBJECT

データ・セットのタイプを表示します。値は以下のとおりです。

PATH (VSAM のみ)

このデータ・セットは別のデータ・セットへのパスです。

BASE

指定されたデータ・セットは、パス・データ・セットではなく、基本データ・セットです。

QUIESCESTATE

データ・セットの RLS 静止状態を表示します。情報はデータ・セットの ICF カタログ・エントリーから取得されます。表示される値は、以下のとおりです。

QUIESCED

データ・セットは静止されました。これは、このデータ・セットに対して RLS アクセス方式制御ブロック (ACB) を開くことができず、このデータ・セットに対して RLS ACB を現在開いている CICS 領域がないことを意味しています。ただし、データ・セットは非 RLS モードではオープンできません。

UNQUIESCED

これは、静止中でも静止済みでもないデータ・セットの通常値です。これは、RLS または非 RLS ACB を、最初のオープンで設定されているモードで、データ・セットに対してオープンできることを示します。ACB があるモードでオープンした後、他の ACB は同じモードでのみオープンできます。

SET DSNAME QUIESCE コマンドが **CEMT I DSN** コマンドと同じ領域で発行されたためにデータ・セットが静止中の場合、「BEING QUIESCED」という語が表示されます。

データ・セットが静止中の場合、コマンドが発行された CICS 領域に対して、「BEING QUIESCED」という語が表示されます。

静止が適用されない場合 (例えば、BDAM データ・セットの場合) は、何も表示されません。

値 QUIESCED または値 UNQUIESCED でフィールドを上書きすることによって、静止状態をリセットすることができます。あるいは、値 IMMQUIESCED でフィールドを上書きすることもでき、その場合には以下のアクションが発生します。

IMMQUIESCED

シスプレックス全体で既存の CICS オープン RLS ACB がすべて閉じられ、ICF カタログではデータ・セットに静止のマークが付けられます。シスプレックス中の各 CICS は、データ・セットにアクセスしている実行中の UOW をすべて異常終了してから ACB を閉じます。これにより、実行中の UOW はバックアウトされます。バックアウトに失敗した UOW があれば、それらは中断されます。

このデータ・セットに対して開くことができる RLS ACB はありませんが、非 RLS オープン要求は許可されます。

RECOVSTATUS

データ・セットのリカバリー状況を表示します。値は以下のとおりです。

FWDRECOVABLE

データ・セットに対するすべての更新は、バックアウト用および順方向リカバリー用にログに記録されます。

NOTRECOVABLE

データ・セットへの更新は、ログに記録されません。

XFCNREC グローバル・ユーザー出口使用の結果として、この応答を返す場合もあります。XFCNREC で使用可能なプログラムは、同じデータ・セットに関連付けられた異なるファイル間で、バックアウト・リカバリー要件に不一致があっても、ファイル・オープンを実行すべきであることを示す場合があります。このような状況では、データ・セット NOTRECOVABLE としてマークされ、データ保全性が保証されないことを示します。

この状態は、CEMT または **EXEC CICS SET DSNAME REMOVE** コマンドによって、あるいは、CICS の初期またはコールド・スタートによってクリアされるまで持続します (関連するデータ・セットがバックアウト失敗状態でない場合)。データ・セットがこの状態にある場合、ファイル定義の仕様に基づいて特定の要求に対して、バックアウト・ロギングが実行されます。したがって、バックアウト・ロギングは、ひとつのファイルを介する要求に対して発生し、別のファイルを介する要求に対して発生しません。

RECOVERABLE

データ・セットへのすべての更新は、バックアウト用にログに記録されます。

UNDETERMINED

データ・セットにアクセスしているファイルが出力のために開かれていないため、データ・セットのリカバリー状況は不明です。

RETLOCKS

この CICS 領域による据え置きリカバリー処理の結果として、指定のデータ・セットに保持レコード・ロックがあるかどうかを表示します。

RETAINED

この CICS 領域の据え置きリカバリー処理により、データ・セットの保持ロックが生じます。これによる影響として、データ・セットを RLS モードで最後に開いた場合、ロックが RLS ロックであるため、このデータ・セットを非 RLS モードで開くことができなくなります。

他の影響としては、このデータ・セットを定義する FILE 定義を変更して他のデータ・セットを指定することができなくなります。

データ・セットが BDAM データ・セット、または RLS モードでアクセスする VSAM データ・セットの場合、ロックは CICS レコード・ロックです。それ以外の場合、RLS ロックです。

NORETAINED

この CICS 領域には、基本データ・セットの据え置きリカバリー処理がないため、保持されているロック也没有ありません。

注: NORETAINED は、CICS 領域で現在、据え置きリカバリー処理が行われていることを意味している可能性もあります。リカバリー処理が正常に完了した場合、さらに据え置き作業がなければ、値は NORETAINED のままです。リカバリー処理が正常に完了しない場合、値は RETAINED に戻ります。

UOWACTION (入力専用フィールド)

このデータ・セットを参照するすべての中断された作業単位に対して実行するアクションを指定します。値は以下のとおりです。

BACKOUT

データ・セットに対するロックを保持している中断されたすべての未確定作業単位がバックアウトされるように指定します。

COMMIT

データ・セットに対するロックを保持している、中断されたすべての未確定作業単位がコミットされるように指定します。データ・セットに対するロックを保持している中断されたすべての未確定作業単位が、トランザクション・リソース定義上の ACTION 属性の指定に従って、強制的に BACKOUT または COMMIT されるように指定します。

VALIDITY

データ・セット名の妥当性を表示します。値は以下のとおりです。

VALID

そのデータ・セットに対してファイルを開き、VSAM カタログに照らし合わせてデータ・セット名が検証されました。

INVALID

そのデータ・セットに対してファイルを開き、VSAM カタログに照らし合わせてデータ・セット名を検証するということが行われていません。

CEMT INQUIRE DUMPDS

CICS ダンプ・データ・セットに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE DUMPDS コマンドを使用して、どのダンプ・データ・セット (A または B) が現在開いているかを表示できます。

SET コマンドを使用する代わりに、該当するフィールドまで Tab キーで移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力できます。[54 ページの『画面の上書き』](#)を参照してください。

ダンプの使用については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE DUMPDS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示されている値のいずれかを変更するには、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じてこれらのフィールドを上書きします。

サンプル画面

```
IN DUMPDS
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Dum Cur(A)  Ope
```

図 39. CEMT INQUIRE DUMPDS 画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は [131 ページの図 40](#) に示すような拡張フォーマットを表示します。

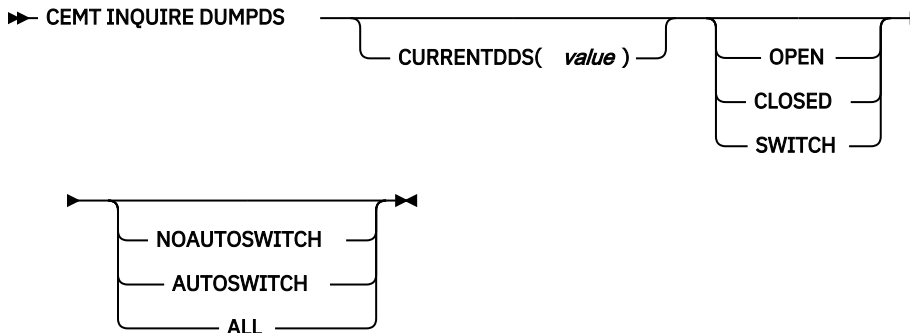
```

IN DUMPDS
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Dumpds
Currentdds(A)
Openstatus( Open )
Switchstatus( Noautoswitch )

```

図 40. 展開表示

CEMT INQUIRE DUMPDS



表示されるフィールド

CURRENTDDS (value)

アクティブなダンプ・データ・セットを示す 1 文字の標識を表示します。これは A または B のどちらかです。

DUMPDS

このパネルがダンプ・データ・セット照会と関連していることを示します。

OPENSTATUS

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットの状況を表示します。値は以下のとおりです。

OPEN

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは開いています。

CLOSED

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは閉じています。

SWITCH

現在アクティブなダンプ・データ・セットは非アクティブになり、現在非アクティブなデータ・セットはアクティブになります。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SWITCHSTATUS

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合に、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えが行われるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

NOAUTOSWITCH

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えは行われません。

注：これは否定的な属性であるため、フィールドはブランクとして表示されます。ただし、このフィールドまで Tab キーで移動して、別の値を上書き入力できます。

AUTOSWITCH

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合のみ切り替えが行われますが、その後は行われません。

ALL

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になるたびに、切り替えが行われます。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CEMT INQUIRE ENQ

作業単位 (UOW) が保持または待機しているエンキューに関する情報、または指定されたエンキューを保持または待機している UOW に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[作業単位エンキュー](#)」ビューが、このコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE ENQ コマンドは、UOW が保持するエンキューに関する情報を返します。エンキューは、ファイル・レコードやキューなどのリカバリー可能リソースを更新する UOW を対象として、これらのリソースをロックするために CICS によって使用されます。EXEC CICS ENQ コマンドによって取得されたユーザー・エンキューも返されます。

INQUIRE ENQ を使用して、UOW が強制された場合に影響を受けるレコードとキューを表示します。

トランザクションは、エンキューを待機している UOW に関する情報も返します。このトランザクションを使用して、同じリソースを更新する必要があるタスク間のエンキュー・デッドロックを診断できます。

エンキューは通常、アクティブ状態で保持されます。つまり、ほかのタスクはエンキューを待機できます。ただし、エンキューを所有している UOW に未確定の障害が発生すると、通常はその未確定の障害を解決できるようになるまでエンキューはリティン済み状態に変換されます。**INQUIRE ENQ** は、これらのエンキューに関する情報も取得し、UOW が強制された場合に影響を受けるレコードとキューを識別するために使用できます。

注：

1. UOW 存続期間エンキューとタスク存続期間エンキューの両方が **INQUIRE ENQ** によって返されます。
(UOW 存続期間エンキューとタスク存続期間エンキューの説明については、**EXEC CICS ENQ** コマンドの MAXLIFETIME オプションを参照してください。)
2. 未確定の障害が発生すると、ユーザー・エンキューが解放されます。ただし例外として、**EXEC CICS ENQ** コマンドが MAXLIFETIME(TASK) を指定していて、障害が発生している箇所がタスクの終わりの同期点ではない場合は、解放されません。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE ENQ (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。結果の表示に、すべての現行 UOW に対するすべてのエンキューがリストされます。
- CEMT INQUIRE ENQ (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i enq d` と入力すると、非 RLS モードで開いている VSAM データ・セット内のレコード、または CICS によって保守されているデータ・テーブル内のレコードに対するエンキューのみの詳細が結果に表示されます。

サンプル画面

```
INQ ENQ
STATUS: RESULTS
Enq(AC143001D4A72601) Tra(CECI) Tas(00000038) Act Exe Own
Res(ACCOUNTS.DBASE1) Rle(015) Enq(00000000)
Enq(AC143001D4A72601) Tra(CECI) Tas(00000038) Act Add Own
Res(g...) Rle(004) Enq(00000000)
```

図 41. CEMT INQUIRE ENQ 画面

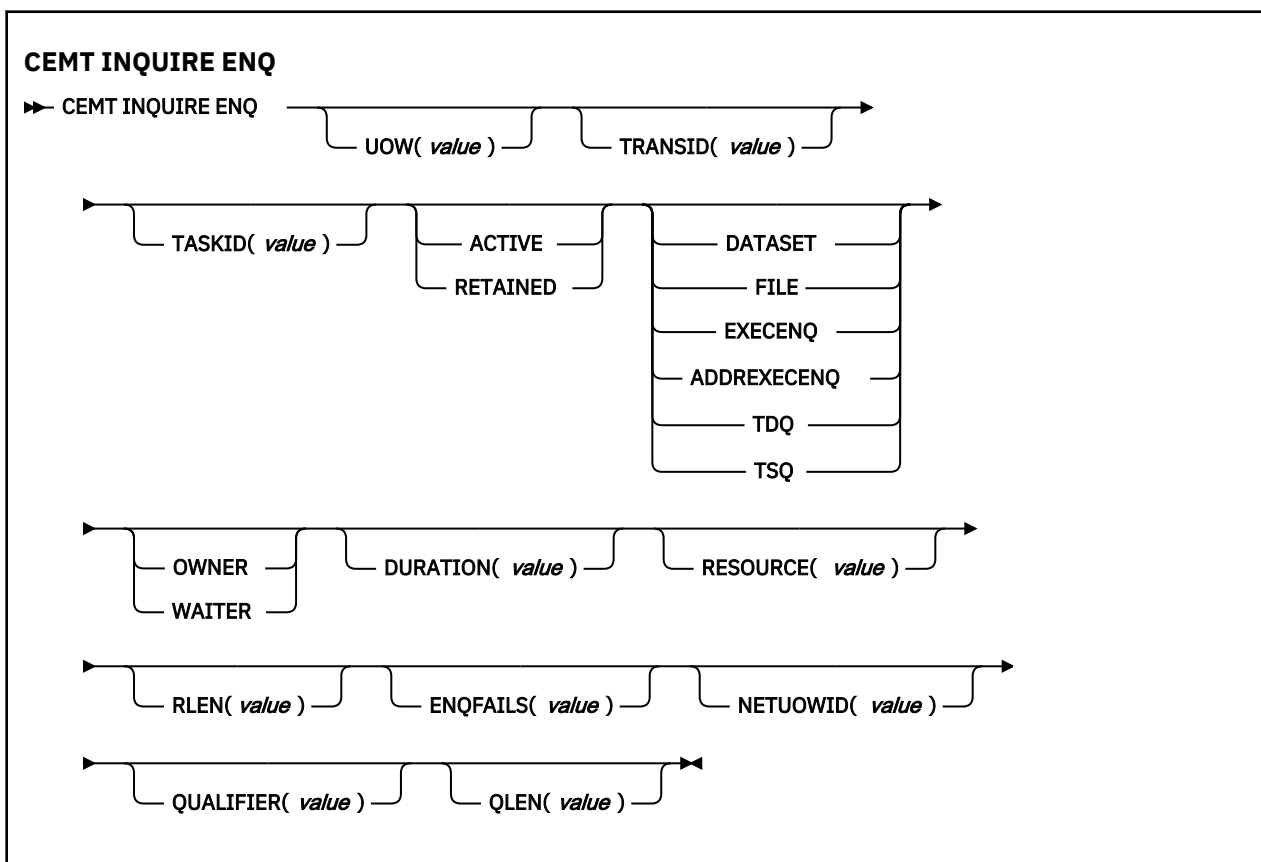
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィール

ドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [133 ページの図 42](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
INQ ENQ
RESULT
  Enq
  Enq(AC143001D4A72601)
  Transid(CECI)
  Taskid(0000038)
  State(Active)
  Type(Execenq)
  Relation(Owner)
  Duration()
  Resource(ACCOUNTS.DBASE1)
  Rlen(015)
  Enqfails(00000000)
  Netuowid(..GBIBMIYA.IYA2T5C2...Mx...)
  Qualifier()
  Qlen(000)
```

図 42. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

DURATION(value)

エンキューが現在の OWNER、WAITER、または RETAINED の状態に入ってから経過した時間 (秒単位) を表示します。

ENQFAILS(value)

リテイン済み状態で保持されているエンキューの場合は、エンキューが最後に獲得されたときからこのリソースに対してエンキューが試行されて失敗した回数を表示します。これは、このエンキューのため

に LOCKED 応答を受け取った UOW の数を示しています。ENQFAILS オプションは、ボトルネックの原因となっている UOW を識別するために役立ちます。

アクション状態で保持されているエンキューの場合、ENQFAILS はゼロを表示します。

ENQSCOPE (value)

エンキューのスコープがシスプレックスである場合、ENQSCOPE は、この CICS 領域によって発行されたシスプレックス全体にわたる ENQUEUE 要求に限定するために使用された 4 文字の名前を表示します。スコープが領域である場合は、ENQSCOPE はブランクを表示します。

同じ ENQSCOPE 値を持つすべての CICS システムが、同じシスプレックス・エンキュー名前空間を共有します。

NETUOWID (value)

エンキューを所有している、またはエンキューを待機している UOW のネットワーク全体の LU6.2 名を含む、27 文字のストリングを表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

QUALIFIER (value)

エンキュー・ロックに関連付けられたリソースを詳しく識別する 1 文字から 255 文字の修飾子 (例えば、レコード ID) を表示します。表示されるデータは、[135 ページの表 6](#) に示すように、エンキューのタイプによって異なります。QUALIFIER データが適用されない場合 (すなわち、EXECENQ、ADDREXECENQ、または TSQ の場合) は、ゼロの値が表示されます。

QLEN (value)

QUALIFIER フィールドに表示されるデータの長さ (0 から 255 までの範囲) を表示します。

RELATION

データが、エンキューの所有者またはエンキューを待機しているタスクのどちらに関連するかを表示します。値は以下のとおりです。

OWNER

(value)、NETUOWID、TASKID、および TRANSID は、エンキューの所有者のものです。

WAITER

(value)、NETUOWID、TASKID、および TRANSID は、エンキューの待機側のものです。

RESOURCE (value)

エンキュー・ロックに関連付けられたリソースの名前を含む 1 文字から 255 文字のストリングを表示します。表示されるデータは、[135 ページの表 6](#) に示すように、エンキューのタイプによって異なります。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

RLEN (value)

RESOURCE フィールドに表示されるデータの長さ (0 から 255 までの範囲) を表示します。

STATE

保持されているエンキューの状態を表示します。値は以下のとおりです。

ACTIVE

エンキューはアクティブ状態で保持されています。

RETAINED

エンキューはリテン済み状態で保持されています。所有している UOW は中断されたか、または中断処理中です。

TASKID (value)

UOW に関連付けられたタスクの番号を表示します。UOW が中断されている場合は、中断される前にその UOW に関連付けられていたタスク番号です。

TRANSID (value)

UOW に関連付けられたトランザクションの 4 文字の ID を表示します。UOW が中断されている場合は、中断される前にその UOW に関連付けられていたトランザクションの ID です。

TYPE

キューが置かれるリソースのタイプを表示します。値は以下のとおりです。

DATASET

リソースは、VSAM データ・セット (または CICS によって保守されるデータ・テーブル) 内のレコードです。RESOURCE はデータ・セットの名前を含み、QUALIFIER はレコード ID を含んでいます。

FILE

リソースは、BDAM ファイル内またはユーザーによって保守されるデータ・テーブル内のレコードです。RESOURCE はファイルの名前を含み、QUALIFIER はレコード ID を含んでいます。

ファイルが BDM ファイルである場合、レコード ID の接頭部は BDM ブロック ID です。この組み合わせが 255 文字を超える場合は、切り捨てが行われます。

EXECENQ

リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE は、要求時に渡されるエンキュー引数を含んでいます。

ADDREXECENQ

リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE は、要求時に渡されるアドレス・エンキュー引数を含んでいます (つまり、要求では LENGTH パラメーターは省略される)。

TDQ

リソースは、論理的にリカバリー可能な一時データ・キューです。RESOURCE はキューの名前を含んでいます。QUALIFIER には、キューに対して読み取りまたは書き込みのどちらのロックが保持されているかを示す、ストリング FROMQ または SAVE が含まれています。

READQ TD 要求は FROMQ ロックを獲得するのに対して、WRITEQ TD 要求は、キューに関連した TOQ ロックを獲得します。DELETEQ TD 要求は、TOQ と FROMQ の両方のロックを獲得します。

TSQ

リソースは、リカバリー可能な一時記憶域キューです。RESOURCE はキューの名前を含んでいます。

RESOURCE フィールドと QUALIFIER フィールドに表示されるデータは、[135 ページの表 6](#) に示すように、リソース・タイプによって異なります。

表 6. RESOURCE と QUALIFIER に表示されるデータ		
タイプ	リソース	Qualifier (修飾子)
DATASET	Data set name (データ・セット名)	レコード ID
EXECENQ	EXEC エンキュー引数	なし
ADDREXECENQ	EXEC エンキュー引数のアドレス	なし
FILE	ファイル名 (File name)	レコード ID
TDQ	TD キュー名	FROMQ または TOQ
TSQ	TS キュー名	なし

UOW (value)

関連付けられている作業単位の 16 文字のローカル ID を表示します。

CEMT INQUIRE ENQMODEL

ローカル・システムの enqmodel 定義に関する情報を取得します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE ENQMODEL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示されている値のいずれかを変更するには、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じてこれらのフィールドを上書きします。

サンプル画面

```
INQ ENQMODEL
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Enqm(*)                                NOT FOUND
```

図 43. CEMT INQUIRE ENQMODEL 画面

```
i enqm all
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Enqm(fred      ) Enqs(TEST) Ena
      Enqn(HURSLEY
Enqm(norman    ) Enqs(SYSP) Ena
      Enqn(NORMAN

SYSID=HT61 APPLID=CICSHT61
RESPONSE: NORMAL      TIME: 13.23.25 DATE: 02.21.01
PF 1 HELP      3 END      5 VAR      7 SBH 8 SFH 9 MSG 10 SB 11 SF
```

図 44. CEMT INQUIRE ENQMODEL の拡張表示画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

► CEMT INQUIRE ENQMODEL

ALL
VALUE
ENQSCOPE(*value*)

DISABLED
ENABLED
WAITING
ENQNAME(*value*)
INSTALLTIME(*date time*)

INSTALLUSRID(*value*)
CREATESPI
CSDAPI
GRPLIST
DEFINESOURCE(*value*)

DEFINETIME(*date time*)
CHANGETIME(*date time*)

CHANGEUSRID(*value*)
CREATESPI
CSDAPI
CSDBATCH
DREPAPI
SYSTEM
CHANGEAGREL(*value*)

ALL

CHANGEAGENT(*value*)

CREATESPI

CSDAPI

CSDBATC

DREPAPI

SYSTEM

CHANGEAGREL(*value*)

CHANGETIME(*date time*)

第 13 章 CEMT - マスター端末 137

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENQMODEL

リソース定義の 8 文字の ID。

ENQNAME

1 文字から 255 文字までのリソース名または総称名。

この CICS 領域によって発行された EXEC ENQ 要求が、このリソース名または総称名と照合して検査されます。一致が見つかった場合に、enqscope が指定されていれば、エンキューはシスプレックス全体にわたり、4 文字の enqscope によって修飾されます。

ENQSCOPE

この CICS 領域によって発行された SYSPLEX ENQUEUE 要求を修飾するために使用される 4 文字の名前を返します。4 つのブランクは、ENQ が LOCAL であることを示しています。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

STATUS

一致する ENQ 要求の処理を表示します。値は以下のとおりです。

DISABLED

一致する ENQ 要求は拒否され、発行元のタスクは異常終了コード ENQ_DISABLED を出して異常終了しました。マッチング INSTALL/CREATE/DISCARD 要求は、処理されます。

ENABLED

一致する ENQ 要求は通常の方法で処理されます。

WAITING

一致する ENQ 要求は拒否され、発行元のタスクは異常終了コード ENQ_DISABLED を出して異常終了しました。処理を待機している INSTALL/CREATE/DISCARD 要求があります。

CEMT INQUIRE EPADAPTER

EP アダプターに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「EP アダプター」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

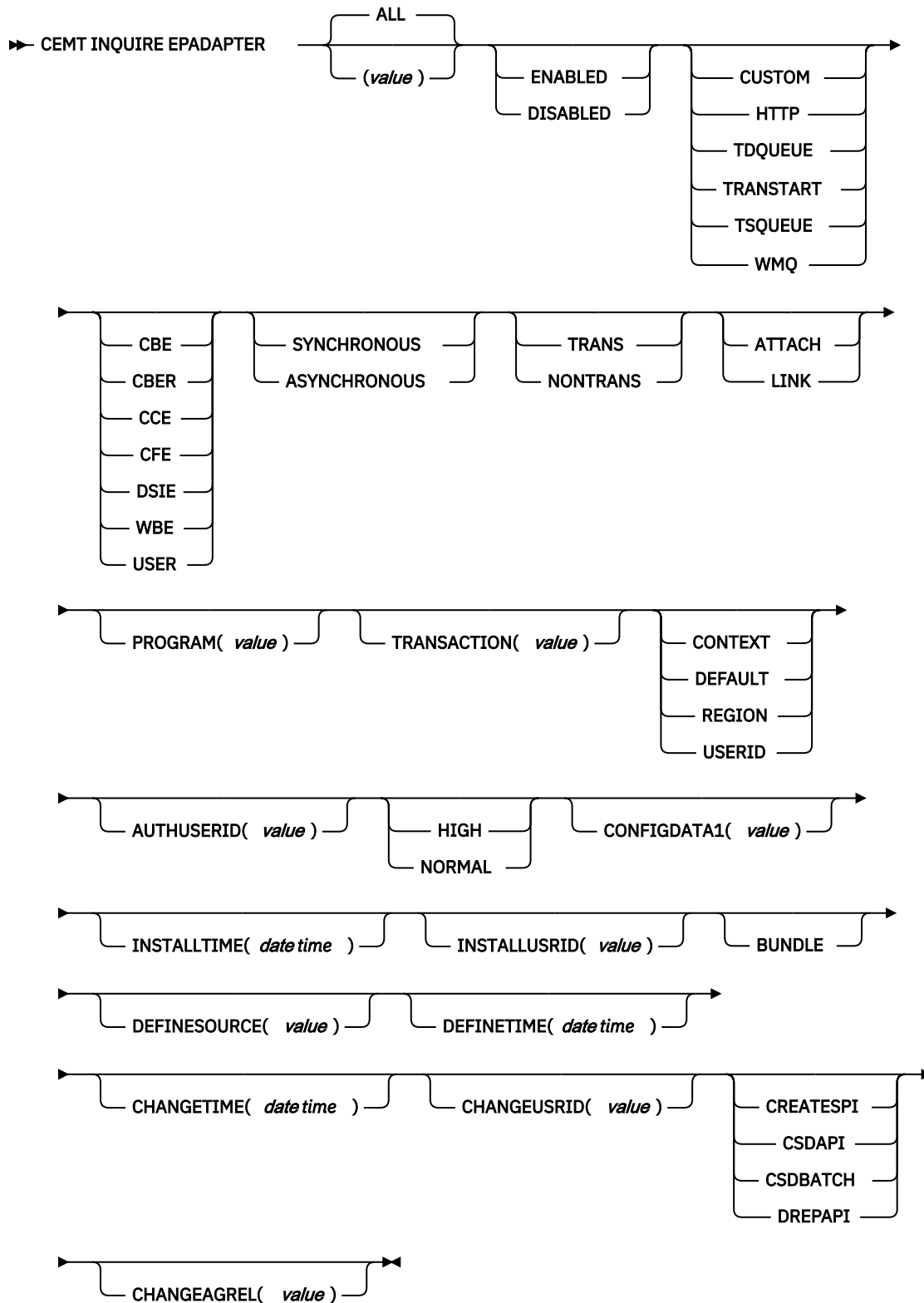
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE EPADAPTER と入力して、EP アダプターに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE EPADAPTER



表示されるフィールド

ADAPTERTYPE

この EP アダプターのタイプを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

CUSTOM

必要とする任意の形式で、任意の宛先に対するイベントを発行するユーザー作成 EP アダプター。

HTTP

HTTP サーバーにイベントを発行する HTTP EP アダプター。IBM Operational Decision Manager や IBM Business Monitor などの製品がそれらのイベントをコンシュームできます。

TDQUEUE

指定した CICS 一時データ・キューにイベントを発行する TDQ EP アダプター。

TRANSTART

指定された CICS トランザクションに対してイベントを発行するトランザクション開始 EP アダプター。

TSQUEUE

指定した CICS 一時記憶域キューにイベントを発行する TSQ EP アダプター。

WMQ

IBM MQ にイベントを発行する WebSphere MQ EP アダプター。IBM Operational Decision Manager や IBM Business Monitor などの製品がそれらのイベントをコンシュームできます。

AUTHORITY

EP アダプターの権限を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

CONTEXT

EP アダプターは、イベントのキャプチャーを起こしたタスクのユーザー ID を使用して実行されています。EMITMODE が SYNCHRONOUS であるかまたは EP アダプターの「アダプター (Adapter)」タブの拡張セクションに「コンテキスト・ユーザー ID を使用 (Use Context user ID)」が指定されている場合は、常にこれがあてはまります。

デフォルト

EP アダプターは、CICS のデフォルト・ユーザー ID を使用して実行されます。

REGION

EP アダプターは、CICS 領域のユーザー ID を使用して実行されます。

USERID

EP アダプターは、EP アダプターユーザー ID に指定されており AUTHUSERID 属性に戻される ID を使用して接続されます。

AUTHUSERID

EP アダプター・トランザクションを接続するために使用される 8 文字の ID を表示します。この属性が設定されるのは、AUTHORITY が USERID の場合に限られます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONFIGDATA1

EP アダプター用の 1 次構成データ項目を含む 64 文字のデータ域を表示します。1 次構成データ項目が 64 バイトより小さい場合は、このフィールドにブランクが埋め込まれます。表示されるデータ項目は、次のように ADAPTERTYPE により異なります。

CUSTOM

カスタム EP アダプター構成データの最初の 64 バイトを表示します。

HTTP

HTTP サーバーを見つけるために HTTP EP アダプターにより使用される URIMAP 定義の 8 文字の名前を表示します。

TDQUEUE

TDQ EP アダプターから出力されるイベント用の一時データ・キューの 4 文字の名前を表示します。

TRANSTART

トランザクション開始 EP アダプターにより開始されたイベント・コンシューマー・トランザクションの 4 文字の名前を表示します。

TSQUEUE

TSQ EP アダプターにより発行されるイベントの一時記憶域キューの 16 文字の名前を表示します。

WMQ

この WebSphere MQ EP アダプターが発行したイベント・メッセージの IBM MQ キューの名前 (48 文字) を表示します。このデータは、**LOCALCCSID** システム 初期設定パラメーターで定義されているコード・ページにあります。

DATAFORMAT

この EP アダプターにより発行されるイベントの形式を示す CVDA 値を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

CBE

IBM Business Monitor などの製品によって消費される Common Base Event 形式。

CBER

IBM Business Monitor REST HTTP サーバーの Common Base Event REST 形式。

CCE

CICS コンテナー・イベント形式。

CFE

CICS フラット化イベント形式。

DSIE

IBM Operational Decision Manager の Decision Server Insights コンポーネントによって消費される Decision Server Insights イベント・フォーマット。

WBE

IBM Operational Decision Manager の Decision Server Events コンポーネントによって消費される WebSphere Business Events (XML) フォーマット。

USER

ユーザー定義の形式。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

EMITMODE(emitmodevalue)

イベント・バインディングのイベント発行モードの表示。

ASYNCHRONOUS

イベント発行はトランザクションのキャプチャーと非同期。

SYNCHRONOUS

イベント発行はトランザクションのキャプチャーと同期。

ENABLESTATUS

以下のように、EP アダプターの状況を表示します。

DISABLED

EP アダプターは使用不可です。

ENABLED

EP アダプターは使用可能です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

INVOKETYPE

EP アダプターが開始された方法を示す CVDA 値を表示します。CVDA 値は以下のとおりです。

ATTACH

EP アダプター・プログラムは、別のタスクとして接続しています。

LINK

EP アダプター・プログラムにリンクされています。

PRIORITY

この EP アダプターのイベント発行のディスパッチング優先順位を示す CVDA 値を表示します。EMITMODE が SYNCHRONOUS の場合、この属性は無視されます。CVDA 値は以下のとおりです。

HIGH

この EP アダプターで発行されたイベントは、優先順位が高くなります。

NORMAL

この EP アダプターで発行されたイベントは、通常の優先順位になります。

PROGRAM

EP アダプター・プログラムの 8 文字の名前を表示します。ADAPTERTYPE が CUSTOM のときにこの属性が適用されるのは、INVOKETYPE が LINK の場合に限られます。

TRANSACTION

EP アダプター・トランザクションが接続している場合に使用されるトランザクション定義の 4 文字の名前を表示します。TRANSACTION 属性が適用されるのは、INVOKETYPE が ATTACH の場合に限られます。

TRANSMODE(transmodevalue)

イベント・バインディングのイベント・トランザクション・モードの表示。

NONTRANS

イベントはトランザクションではありません。

TRANS

イベントはトランザクションです。

CEMT INQUIRE EPADAPTERSET

EP アダプター・セットに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[EP アダプター・セット](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

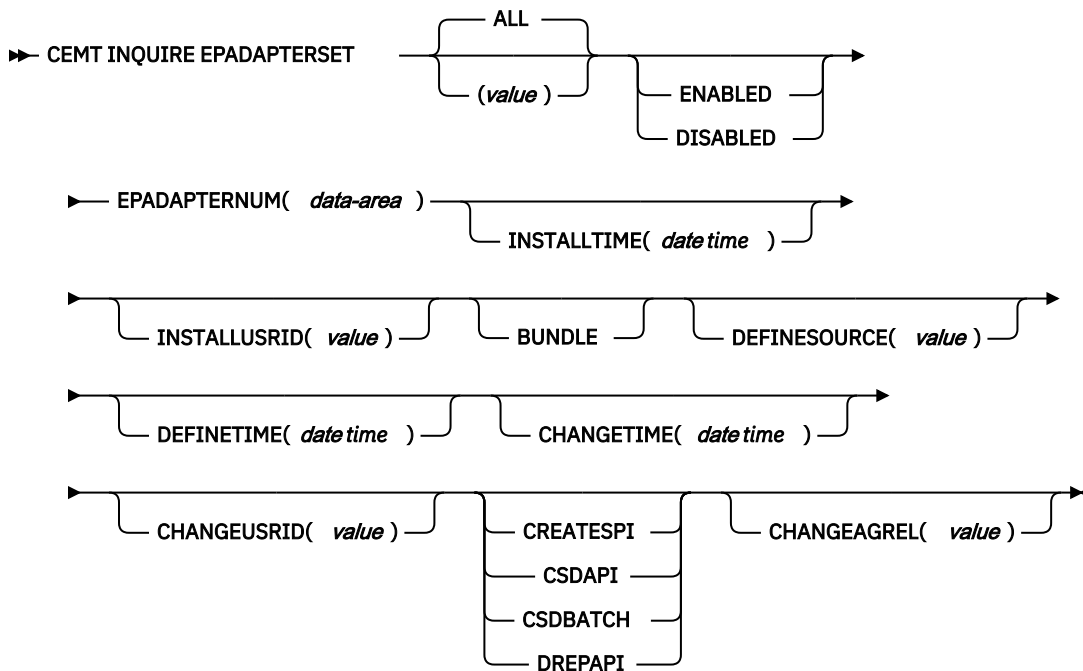
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE EPADAPTERSET と入力して、EP アダプター・セットに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE EPADAPTERSET



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGETIME(*date time*)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(*value*)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(*value*)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(*date time*)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS

以下のように、EP アダプター・セットの状況を表示します。

DISABLED

EP アダプター・セットは使用不可です。

ENABLED

EP アダプター・セットは使用可能です。

EPADAPTERNUM(*value*)

この EP アダプター・セット内で指定されている EP アダプター名の数を表示します。

INSTALLAGENT(*value*)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(*date time*)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(*value*)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

CEMT INQUIRE EVENTBINDING

イベント・バインディングに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「イベント・バインディング」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

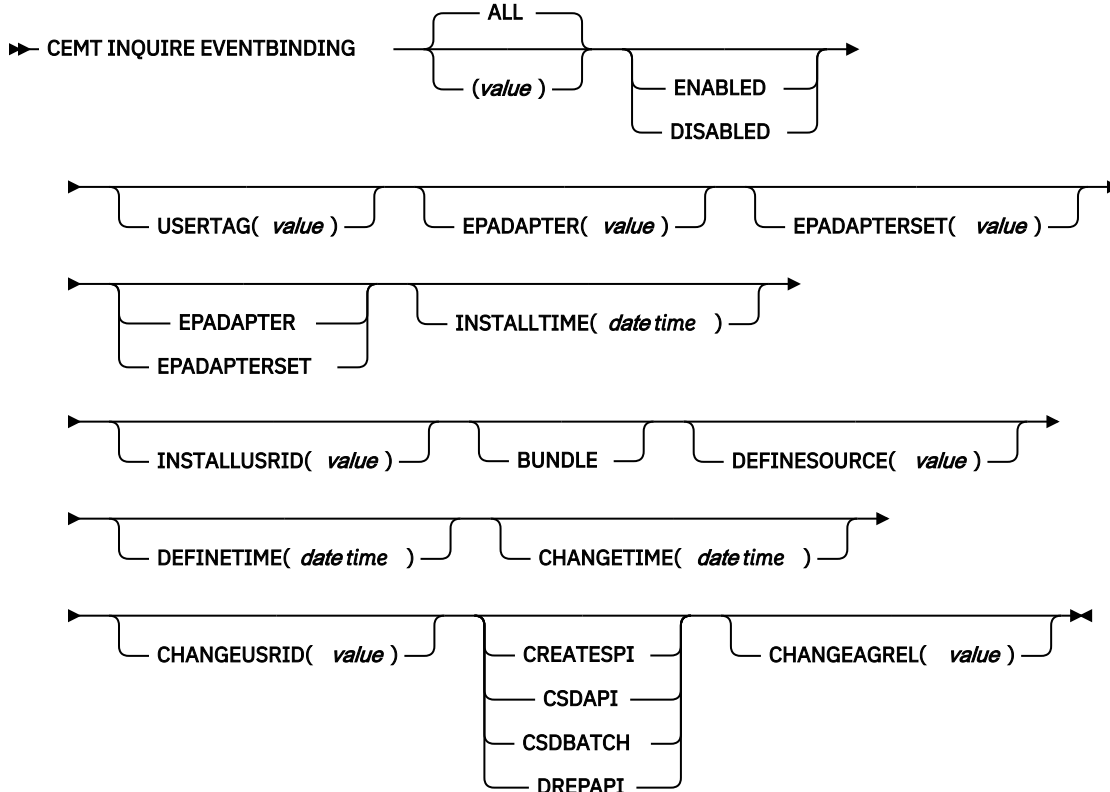
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE EVENTBINDING と入力してイベント・バインディングに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE EVENTBINDING



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS

イベント・バインディングの 状態を表示します。

DISABLED

イベント・バインディングは使用不可です。

ENABLED

イベント・バインディングは使用可能です。

EPADAPTER(value)

EP アダプターの 32 文字の名前を表示します。このオプションがブランクでない場合は、EPADAPTERSET のオプションがブランクになります。または、その逆も当てはまります。

EPADAPTERSET(data-area)

EP アダプター・セットの 32 文字の名前を表示します。このオプションがブランクでない場合、EPADAPTER のオプションがブランクになります。または、その逆も当てはまります。

EPADAPTERRES(cvda)

EP アダプター・リソースのタイプを表示します。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。以下のうち 1 つの値のみ有効です。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

USERTAG (value)

イベント・バインディングの 8 文字のユーザー・タグを表示します。

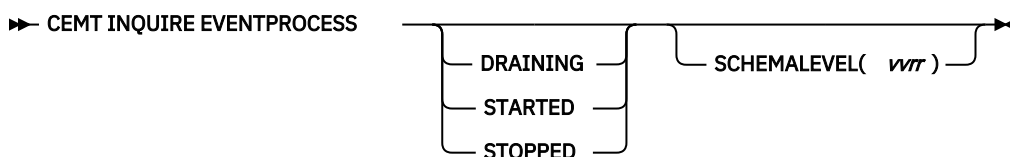
CEMT INQUIRE EVENTPROCESS

イベント処理の状況を取得します。

CICS Explorer では、[「イベント処理」](#) ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE EVENTPROCESS と入力してイベント処理の状況を取り出します。

CEMT INQUIRE EVENTPROCESS**表示されるフィールド****EPSTATUS**

イベント処理の 状態を表示します。

DRAINING

イベント処理がドレーン中です。

STARTED

イベント処理が開始しました。

STOPPED

イベント処理が停止します。

SCHEMALEVEL (vvrr)

CICS によってサポートされるイベント・バインディング・スキーマの最も高いバージョンおよびリリースを示す 4 文字の値 (vvrr) を返します。この vv はバージョン、rr はリリースを示します。例えば、0201 は、イベント・バインディング・スキーマのバージョン 2 リリース 1 を示します。

CEMT INQUIRE EXCI

外部 CICS インターフェースを使用するジョブに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE EXCI は、領域間通信 (IRC) 機能によって CICS に現在接続されているバッチ・ジョブの名前を識別します。これらのジョブは、CICS で実行中のサーバー・プログラムにリンクするために、外部 CICS インターフェース (EXCI) を使用しています。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE EXCI と入力します。現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE EXCI と入力し、続いて照会のスコープを限定するために Task(number) を入力します。

サンプル画面

```
INQ EXCI
STATUS: RESULTS
Exc(HADBS1..CICSWK1 - MV29          ) Tas(0000121)
Exc(AHCLN2..TRNSL 1 - MV29          ) Tas(0000125)
Uri(B 67B1F77EB7D                21 1 1 )
```

図 45. CEMT INQUIRE EXCI 画面

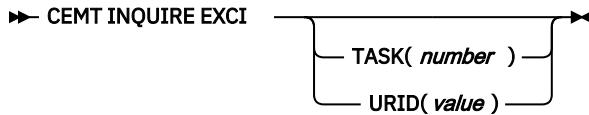
注: この画面では、値が適用されない箇所、あるいは値が「否定的」な箇所 (「No」で始まる値) には、ブランク・フィールドが表示されます。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定する場合には、拡張フォーマットの使用が便利です (表示済みのフィールドをその負の値で上書き入力することで結果が非表示になるため、否定のほうが簡単です)。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [148 ページの図 46](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
INQ EXCI
RESULT
Exc(HADBS1..CICSWK1 - MV29          ) Tas(0000121)
Task(0000121)
```

図 46. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE EXCI



表示されるフィールド

EXCI (value)

このパネルが、EXCI 照会に関連したものであることを示します。

この値は以下のもので構成されています。

```
jobname.stepname.procname - mvsid
```

stepname と *procname* の一方または両方が存在しない場合があります、これは互いに隣接するピリオド (.) によって示されます。

mvsid は、ジョブが実行されている MVS システムを示します。XCF/MRO が使用されている場合、ジョブは CICS が実行されているシステムとは別の MVS イメージ上に存在する可能性があります。

TASK (value)

特定のバッチ・ジョブのために実行されているミラー・トランザクションのタスク番号を表示します。

外部 CICS インターフェースを使用するジョブに関する情報は、そのジョブが少なくとも 1 つの DPL 要求を出した後でのみ使用可能です。ゼロ以外のタスク番号は、DPL 要求が現在アクティブであることを示しています。ゼロのタスク番号は、現在アクティブな DPL 要求がないにもかかわらず、外部 CICS インターフェース・セッションがそのジョブに対してまだ開いている (接続されている) ことを示しています。

URID (value)

ジョブが整合更新のために RRMS を使用していて、セッションに対してアクティブ DPL 要求が存在する場合に、16 進表記の RRMS リカバリー単位 ID を含む 32 文字のストリングを表示します。

CEMT INQUIRE FEPI

CEMT INQUIRE FECONNECTION、CEMT INQUIRE FENODE、CEMT INQUIRE FEPOOL、CEMT INQUIRE FEPROPSET、および CEMENT INQUIRE FETARGET については、[FEPI システム・プログラミング・リファレンス](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE FILE

VSAM、BDAM、リモート・ファイル、およびデータ・テーブルを参照するファイルに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「ローカル・ファイル」ビューと「リモート・ファイル」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

返される値は、コマンド実行のタイミングによって異なります。例えば、コマンドの実行時にファイルが閉じていた場合は、ファイルを次に開くときのそのファイルの状態に関する情報が多く含まれることになります。ファイルを一度も開いたことがない場合、一部のオプションではデフォルト値またはヌル値を受け取るようになります。この値はファイルを開くときに変更することもできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは

CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE FILE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。インストールされているすべてのファイルの現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE FILE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i fi v op en up` と入力すると、VSAM、開いている、有効、更新可能という条件をすべて満たしたファイルの詳細だけが表示されます。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

(value)

CICS に定義されるファイルの名前 (1 から 8 文字) を 1 つ以上指定します。

ALL

デフォルトです。照会するファイルを選択指定しない限り、すべてのファイルに関する情報が提供されます。

サンプル画面

```
IN FILE
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Fil(DFHCMACD) Vsa Ope Ena Rea          Sha
          Dsn( CICSTS56.CICS.DFHCMACD          )
Fil(DFHCSO ) Vsa Clo Une Rea Upd Add Bro Del  Sha
          Dsn( CICSTS56.CICS.CICSH.DFHCSO      )
Fil(DFHDBFK ) Vsa Clo Ena Rea Upd Add Bro Del  Sha
Fil(DFHLRQ ) Vsa Ope Ena Rea Upd Add Bro Del  Sha
          Dsn( CICSTS56.CICS.CICSH.DFHLRQ      )
Fil(FILEA ) Vsa Clo Ena Rea Upd Add Bro Del  Sha
          Dsn( CICSTS56.CICS.CICSH.FILEA      ) Cft Loa
```

図 47. CEMT INQUIRE FILE 画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [151 ページの図 48](#) のような拡張フォーマットを表示します。

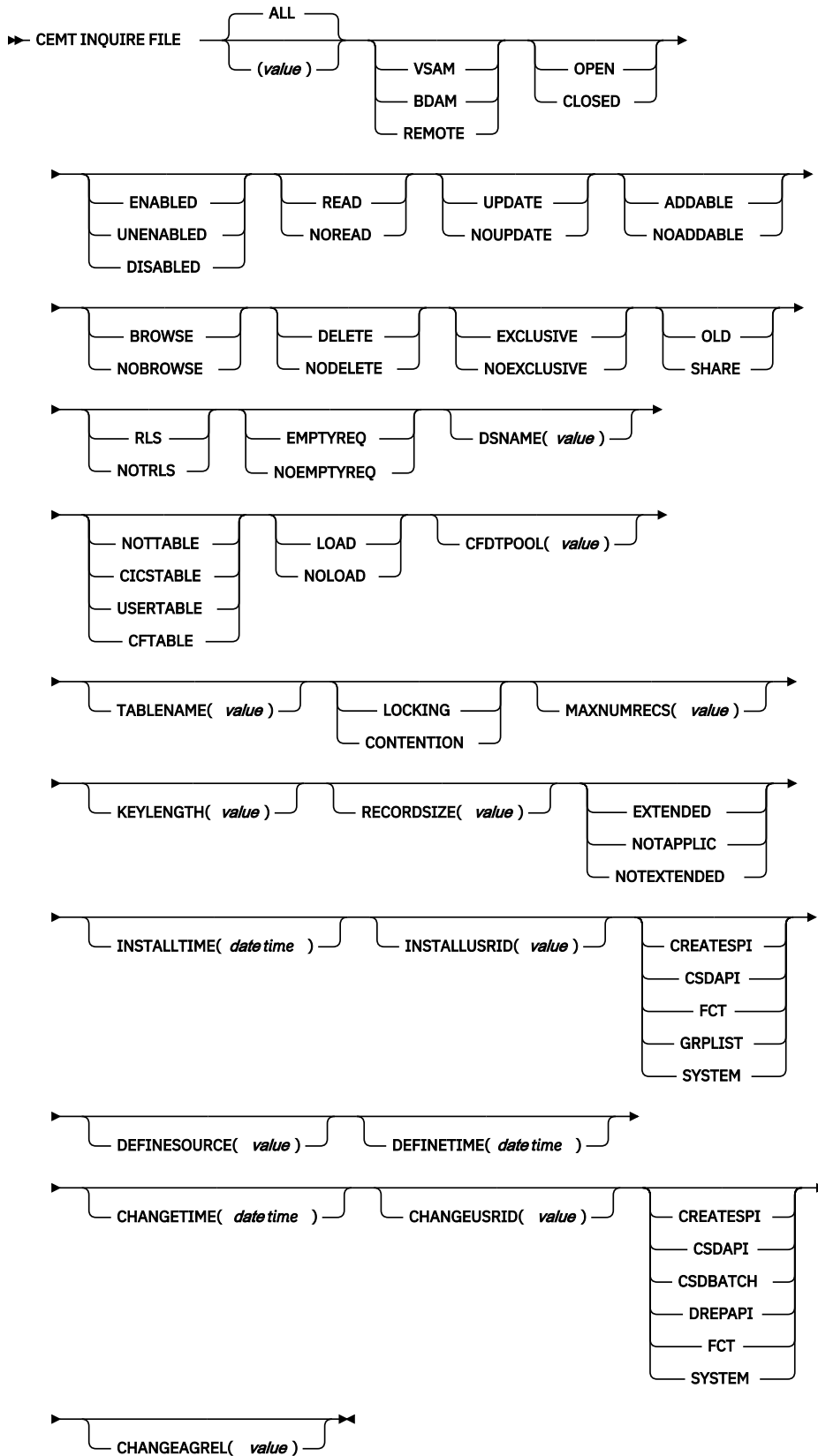

```

INQ FILE
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
File(DFHCSD)
Accessmethod(Vsam)
Openstatus( Closed )
Enablestatus( Unenabled )
Readstatus( Read )
Updatestatus( Update )
Addstatus( Addable )
Browsestatus( Browse )
Deletestatus( Delete )
Exclstatus(          )
Disposition( Share )
Rlsaccess( Notrls )
Emptystatus( Noemptyreq )
Dsname( CICSTS56.CICS.CICSH.DFHCSD )
Table( Nottable )
Loadtype( Noload )
Cfdtpool(          )
+ Tablename(          )
  Updatemodel(          )
  Maxnumrecs( 00000000 )
  Keylength( 000 )
  Recordsize( 00000 )
  Rbatype( Notapplic )

```

図 48. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE FILE



表示されるフィールド

ACCESSMETHOD

ファイルのアクセス方式を表示します。

VSAM

仮想記憶域 アクセス方式 (VSAM)。

BDAM

基本 直接アクセス方式 (BDAM)。

REMOTE

ファイルは リモートとして定義されます。

ADDSTATUS

ファイルに新しいレコードを追加できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ADDABLE

ファイルに新しいレコードを追加できます。

NOADDABLE

ファイルに新しいレコードを追加できません。

BROWSESTATUS

ファイルを参照できるかどうかを示します。

BROWSE

ファイル内の レコードを参照できます。

NOBROWSE

ファイル内のレコードを参照できません。

CFDTPOOL (*name*)

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照するファイルで、CFDT が置かれているカップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前を表示します。

プール名が定義されていない場合は、名前は 8 文字分のブランクで表示されます。プール名が指定されていれば、ファイル定義がカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照しない場合でも、その名前が常に表示されます。

CHANGEAGENT(*value*)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

FCT

リソース定義は、ファイル管理テーブル定義によって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*value*)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(*date time*)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DELETESTATUS

ファイルからレコードを削除できるかどうかを示します。

DELETE

ファイルからレコードを削除できます。

NODELETE

ファイルからレコードを削除できません。

DISPOSITION

このファイルの属性指定を表示します。

OLD

このファイルに関連するデータ・セットのファイル属性指定は、動的割り振りに対して非共用と定義されています。

SHARE

このファイルに関連するデータ・セットのファイル属性指定は、動的割り振りに対して共用と定義されています。

DSNAME (value)

このファイルに関連する VSAM または BDAM データ・セットの名前 (1 文字から 44 文字まで) を表示します。

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルでは、ファイルの初期設定でデータ・セットからテーブルをロードするように指定されている場合は CICS はソース・データ・セットの名前を表示し、そうでない場合は CICS はブランクを表示します。

CICS はまた、CICS JCL の DD ステートメントで DSNAME を指定したファイルでも、最後のコールド・スタートまたは初期始動以降そのファイルを開いていない場合はブランクを表示します。

EMPTYSTATUS (VSAM のみ)

データ・セットを参照するファイルを次に開いたときに、そのデータ・セットが空になるかどうかを表示します。このフィールドが有効なのは、対象のデータ・セットが再使用可能と定義されていて、非 RLS モードでアクセスされる場合に限られます。値は以下のとおりです。

EMPTYREQ

REUSE パラメーターでクラスターとして VSAM に対して定義されている VSAM ファイルにのみ適用されます。次にファイルを開いたときに、そのデータが消去されることを示します。

NOEMPTYREQ

VSAM ファイルにのみ適用されます。次にファイルを開いたときに、そのデータが消去されないことを示します。

ENABLESTATUS

トランザクションがファイルにアクセスできるかどうかを示します。

ENABLED

ファイルはトランザクションで使用でき、閉じていても最初の要求で開きます。

UNENABLED

ファイルは、現在そのファイルを使用中のトランザクション以外のトランザクションでは使用できません。使用中のユーザーがいる場合は、BEING CLOSED も表示されます。

この状況は DISABLED と同じですが、SET FILE CLOSE が要求されたときに暗黙のうちに発生する点だけが違います。ファイルは、SET FILE OPEN コマンドで暗黙のうちに使用可能になります。

DISABLED

ファイルは、現在そのファイルを使用中のトランザクション以外のトランザクションでは使用できません。使用中のユーザーがいる場合は、BEING DISABLED も表示されます。

ファイルは、SET FILE ENABLED コマンドで再び使用可能にできます。UNENABLED も参照してください。

リモート・ファイルを使用不可にすることはできません。

EXCLSTATUS (BDAM のみ)

このファイルのレコードを、更新のための読み取り要求の発行時に排他制御下に置くかどうかを表示します。

EXCLUSIVE

ファイル上のレコードは、同時更新から保護されます。

NOEXCLUSIVE

ファイル上のレコードは、同時更新から保護されません。

FILE (value)

このパネルがファイル照会に関連していることを示し、8 文字のファイル名を表示します。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

FCT

リソースは、ファイル管理テーブル定義を使用してインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

SYSTEM

リソースは、CICS または CICSplex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

KEYLENGTH (value)

VSAM KSDS に関連付けられているファイル、またはカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに関連したファイルのレコード・キーの長さを表示します。ファイルが BDAM データ・セットに関連付けられている場合、値は非ブロック化に使用される論理キーの長さになります。KEYLENGTH 属性は、リモート・ファイルおよびカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに対してのみ有効です。CICS は、閉じられたローカル・ファイルに対してゼロを戻します。

注:

1. ファイルが閉じていて、キーの長さがファイル定義で定義されていない場合、CICS は値としてゼロを表示します。
2. ファイルが閉じていて、キーの長さがファイル定義で定義されている場合、CICS はファイル定義の値を表示します。

3. 一般に、ファイルが開いていると、CICS は関連したデータ・セットからキーの長さを取得します。この場合、CICS はデータ・セットの値を表示します。ただし、LOAD(NO) で定義したカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照するファイルは、ファイル定義からキーの長さを取得する必要があります。この場合、CICS はファイルが開くときに定義済みの値を戻します。この値は、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルが既に作成されている場合には、その値とも一致しなければなりません。

LOADTYPE

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルのロード・タイプを表示します。

LOAD

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされます。

NOLOAD

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされません。

MAXNUMRECS (value)

このファイルのデータ・テーブルが保持できるレコードの最大数を表示します。

注:

1. ファイル・リソース定義が数値 MAXNUMRECS を指定する場合は、オブジェクトがテーブルではなくても (TABLE オプションに NOTTABLE が表示されていても)、CICS は指定された値を表示します。値の範囲は 1 から 99999999 までです。
2. ファイル・リソース定義が MAXNUMRECS(NOLIMIT) で指定されている場合は、レコード数には制限がないということなので、CICS は値ゼロを表示します。CICS において NOLIMIT は、正のフルワードの最大値 (+2147483647 または X'7FFFFFFF') として保持されています。
3. ファイルがリモートである場合は、CICS は値 -1 を表示します。
4. オブジェクトがカップリング・ファシリティ・データ・テーブルの場合、以下の点に注意してください。
 - レコードの最大数は、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルのサーバー・コマンドで変更できます。ファイル定義値 MAXNUMRECS は未変更のままです。CICS は、ファイルを開くまではファイル定義の値を表示し、ファイルを開いた後は、サーバーに定義された MAXNUMRECS 値を表示します。
 - その値がカップリング・ファシリティ・データ・テーブル・サーバー・コマンドによって再び変更された場合、CICS はテーブルに対してファイル制御操作を実行した後で初めて新しい値を取得および表示します。それまでは、CICS は古い値を引き続き表示します。
 - サーバー DISPLAY TABLE コンソール・コマンドを使用して、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルの現行値を取得することができます。

注: この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。新しい値が有効になるのは、新しいデータ・テーブルが作成されるときだけです (これは、CICS 保守またはユーザー保守のデータ・テーブルで各ファイルがオープンする時で、しかも CF データ・テーブル用のテーブルがまだ存在していない場合に限られます)。

OPENSTATUS

ファイルのオープン状況を表示します。

OPEN

ファイルは開かれています。ファイルが OPEN ENABLED である場合は、CICS トランザクションによるデータ・アクセスに使用できます。OPEN DISABLED の場合、使用するためには、まずそれを有効にする必要があります。

CLOSED

ファイルは閉じています。このアクセス方式では、ファイルが開くまでデータにアクセスできません。ファイルはユーザーが明示的に開くこともできますし、そのファイルに ENABLED 属性があれば、そのファイルを次に参照するときに CICS が暗黙的に開くこともできます。

DISABLED 属性を持つファイルは、SET FILE ENABLED コマンドでのみ使用可能にできます。
UNENABLED 属性の指定されているファイルは、SET FILE ENABLED コマンドまたは SET FILE OPEN コマンドで使用可能にできます。

CLOSED 状況は、LOADMODE 状況を出たばかりのファイルの一時的な状況である可能性があります。

この値は、上記の OPENSTATUS 値のいずれかを上書き入力するとリセットできます。

FORCECLOSE

ファイルが閉じるように指定します。そのファイルの既存ユーザーのタスクはいずれも停止します。

RBATYPE(value)

VSAM ファイルで、データ・セットが拡張アドレス方式を使用するかどうかを表示します。

EXTENDED

この VSAM データ・セットは拡張相対バイト・アドレス指定方式を使用するため、4 G バイトを超えるデータを保持できます。

NOTAPPLIC

以下のいずれかが真です。

- データ・セットが BDAM である。
- ファイルがリモートである。
- ファイルが開かれていない。

NOTEXTENDED

この VSAM データ・セットは拡張相対バイト・アドレス指定方式を使用しないため、4 G バイトを超えるデータは保持できません。

このフィールドの内容は変更できません。

READSTATUS

ファイルからレコードを読み取れるかどうかを表示します。

READ

ファイル内のレコードを読み取ることができます。

NOREAD

ファイル内のレコードを読み取ることができません。

RECORDSIZE (value)

固定長レコードの実際のサイズ、または可変長レコードの最大サイズを表示します。

ファイルが開いていない場合、CICS はインストール済みのファイル定義で指定した値を表示します。
ファイル定義でレコード・サイズが指定されていない場合は、CICS は値としてゼロを表示します。

一般に、ファイルが開いていると、CICS は関連したデータ・セットからレコード・サイズ取得します。
この場合、CICS はデータ・セットの値を表示します。ただし、LOAD(NO) で定義したカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照するファイルは、ファイル定義からレコード・サイズを取得する必要があります。この場合、CICS はファイルが開くときに定義済みの値を戻します。この値は、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルが既に作成されている場合には、その値とも一致しなければなりません。

RLSACCESS (VSAM のみ)

RLS モードでファイルにアクセスするように定義するかどうかを表示します。

RLS

RLS モードでファイルにアクセスするように定義します。

NOTRLS

非 RLS モード (LSR または NSR) でファイルにアクセスするように定義します。

TABLE

FILE パラメーターで指定したファイル名がデータ・テーブルを表すかどうかを表示します。

NOTTABLE

ファイル名はデータ・テーブルを表しません。

CFTABLE

ファイル名はカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを表します。

CICSTABLE

ファイル名は CICS 保守データ・テーブルを表します。

USERTABLE

ファイル名は、ユーザー保守のデータ・テーブルを表します。

TABLENAME (value)

ファイル・リソース定義でカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに指定されたテーブル名があればそれを表示し、ファイル・リソース定義でテーブル名が指定されなかった場合はファイル名を表示します。

ファイルがカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照しない場合、CICS はブランクを表示します。

UPDATEMODEL (CFDT のみ)

インストール済みファイル定義でカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに指定された更新モデルを表示します。

CONTENTION

競合モデルを使用してカップリング・ファシリティ・データ・テーブルが更新されます。

LOCKING

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ロック・モデルを使用して更新されます。

UPDATESTATUS

ファイルが更新できるかどうかを表示します。

UPDATE

ファイル内のレコードを更新できます。

NOUPDATE

ファイル内のレコードを更新できません。

CEMT INQUIRE GTFTRACE

MVS 汎用トレース機能 (GTF) の状況を表示します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE GTFTRACE コマンドは、MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースが開始されているか、停止しているかを示します。

このコマンドは、CETR フルスクリーン・トレース・トランザクションをサポートしない端末で使用するためのものです。

GTF トレースに関する背景情報については、[汎用トレース機能 \(GTF\)](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示された値を変更するには、強調表示されたフィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じて値を上書きできます。

サンプル画面

```
IN GTFTRA
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Gtf Sto
```

図 49. CEMT INQUIRE GTFTRACE 画面

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、[159 ページの図 50](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN GTFT
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Gtftrace
Status( Stop )
```

図 50. 展開表示

CEMT INQUIRE GTFTRACE



表示されるフィールド

GTFTTRACE

このパネルが GTFTTRACE 照会と関連していることを示します。

STATUS

MVS 汎用トレース機能 (GTF) への CICS トレースの状況を表示します。値は以下のとおりです。

START

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースが進行中です。

STOP

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースが進行中ではありません。

CEMT INQUIRE HOST

仮想ホストの状況を照会します。

説明

CEMT INQUIRE HOST を使用して、ローカル CICS 領域内で特定の仮想ホストに関する情報を取得できます。

仮想ホストは、URIMAP リソース定義オブジェクトに基づいています。CICS では、同じホスト名および同じ TCPIP SERVICE を指定している、CICS 領域内のすべての URIMAP 定義を単一のデータ構造にグループ化することで、自動的に仮想ホストを作成します。TCPIP SERVICE を指定していない URIMAP 定義は、一致するホスト名を指定しているすべてのデータ構造に追加されます。そのため、そうした URIMAP 定義は、複数のデータ構造の一部となる可能性があります。

構文

Clear キーを押して **CEMT INQUIRE HOST** を入力することにより、ホストのリストを表示します。表示された値を変更する場合は、強調表示されたフィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じて値を上書きできます。

サンプル画面

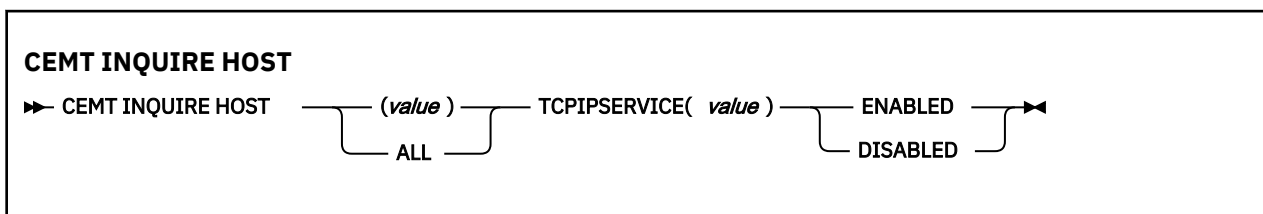
```
IN HOST
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Hos(www.example.com )      Ena
Hos(www.example.org )      Ena
```

図 51. CEMT INQUIRE HOST 画面

結果にカーソルを置いて Enter を押すと、CICS は、[160 ページの図 52](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN HOST
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Host(www.example.com)
Tcpiptime(1000)
Enablestatus( Enabled )
```

図 52. 展開表示



オプション

(value)

仮想ホストの名前を指定します。それぞれの仮想ホスト名は、仮想ホストを構成する URIMAP 定義で指定されているホスト名から取られます。例えば、CICS 領域にホスト名 `www.example.com` を指定した URIMAP 定義が含まれる場合、CICS は同じ名前前の仮想ホストを作成します。URIMAP 定義のホスト名は最大 120 文字まで可能です。

TCPIP SERVICE (value)

この仮想ホストが関連するインバウンド・ポートを指定する TCPIP SERVICE 定義名を表示します。この定義が示されない場合、仮想ホストはすべての TCPIP SERVICE 定義と関連しています。

ENABLESTATUS

仮想ホストの状況を表示します。可能な値は以下のとおりです。

ENABLED

仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアクセスできます。

DISABLED

仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアクセスできません。

CEMT INQUIRE INTTRACE

CICS 内部トレースの状況を表示します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE INTTRACE コマンドは、CICS 内部トレースが進行中かどうかを示します。

このコマンドは、フルスクリーン・トレース・トランザクション CETR をサポートしない端末で使用するためのものです。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE INTTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

結果として、以下の例のような画面が表示されます。表示された値を変更するには、強調表示されたフィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じて値を上書きできます。

サンプル画面

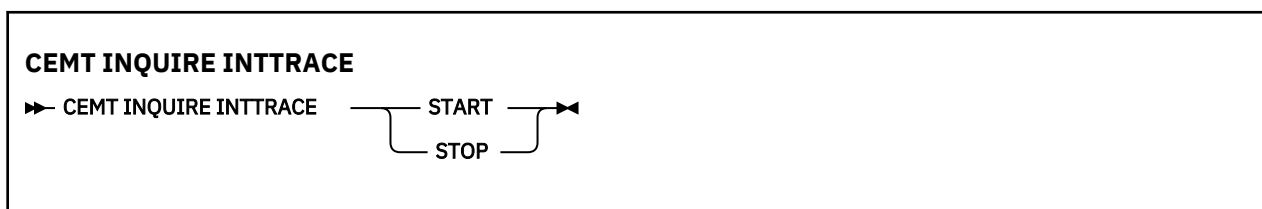
```
IN INTTRA
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Int Sta
```

図 53. CEMT INQUIRE INTTRACE 画面

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、[161 ページの図 54](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN INTT
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
  Inttrace
  Status( Start )
```

図 54. 展開表示



表示されるフィールド

INTTRACE

このパネルが、INTTRACE 照会に関連したものであることを示します。

STATUS

MVS 汎用トレース機能 (GTF) への CICS トレースの状況を表示します。値は以下のとおりです。

START

CICS 内部トレースが進行中です。

STOP

CICS 内部トレースが進行中ではありません。

CEMT INQUIRE IPCONN

CEMT INQUIRE IPCONN は、リモート・システムまたは他の CICS 領域への IPIC 接続の状況に関する情報を戻します。

CICS Explorer では、[「IPIC 接続」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

IPCONN (IPIC 接続) とは、ローカル CICS 領域から、別の CICS 領域あるいは別のシステムへの TCP/IP 通信リンクのことです。MRO 接続および ISC over SNA 接続について詳しくは、[CEMT INQUIRE CONNECTION](#) を参照してください。

オプションは、SET コマンドを入力するか、INQUIRE 画面の該当する場所に上書き入力することでリセットできます。

IPCONN 定義が既にインストールされているときに、新しい IPCONN 定義をインストールする場合は、その新しい定義のために CEDA INSTALL コマンドを使用する前に、接続 OUTSERVICE を設定する必要があります。

各種の相互通信接続について詳しくは、[相互通信方式](#)を参照してください。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE IPCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE IPCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

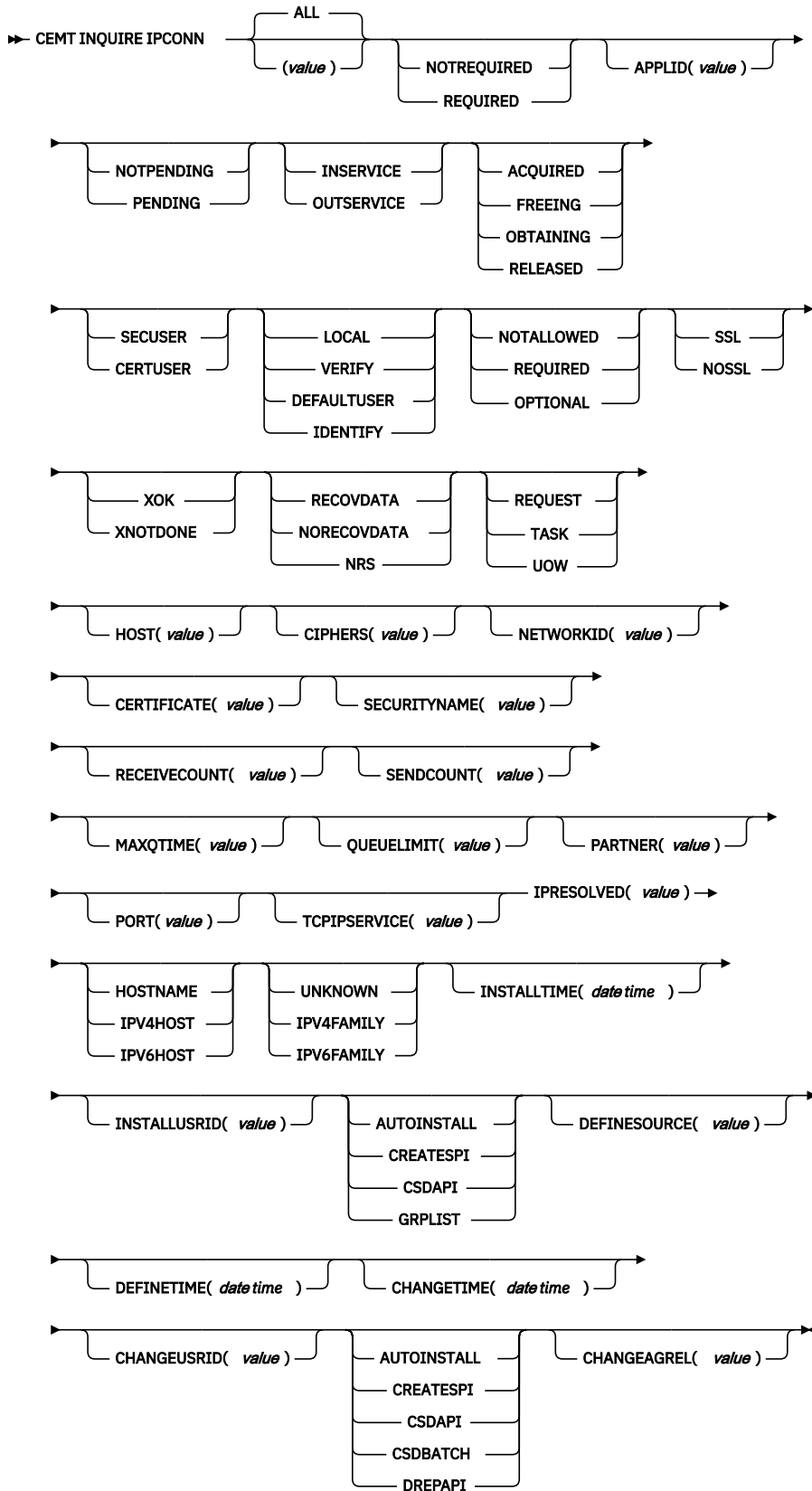
(value)

IPIC 接続用に定義する 1 つ以上の名前 (1 から 8 文字) を指定します。

ALL

これがデフォルトです。

CEMT INQUIRE IPCONN



表示されるフィールド

APPLID(value)

ネットワークに認識されているリモート・システムの名前 (IPCONN 定義の APPLID オプションに由来する) を表示します。この値は、リモート・システムのアプリケーション ID (*applid*) であり、そのシステム初期設定パラメーターの APPLID オプションで指定されます。XRF システムの場合、これは汎用アプリケーション ID になります。

HA が YES に設定されている場合、これは HA クラスターの名前です。

CERTIFICATE(value)

アウトバウンド IPCONN 接続の SSL ハンドシェイクにおけるクライアント証明書として使用される、鍵リング内の証明書のラベルを含む 32 文字の領域を表示します。ラベルが空白の場合は、鍵リングのデフォルトとして指定された証明書が使用されます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSEDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CIPHERS(value)

SSL ハンドシェイクの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの security/ciphers サブディレクトリーにある z/OS UNIX ファイルです。詳しくは、[暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイル](#)を参照してください。

リストを指定しない場合、このリストのデフォルトは、**ENCRYPTION** システム初期設定パラメーターに基づく暗号セットになります。[暗号化ネゴシエーションのカスタマイズ](#)を参照してください。

CONNSTATUS(value)

CICS とリモート・システムの間での IPCONN の状態を示します。有効な値は、以下のとおりです。

ACQUIRED

IPCONN は獲得されました。ACQUIRED の基準は機能交換の完了です。

FREEING

IPCONN は解放中です。

OBTAINING

IPCONN は獲得中です。ACQUIRED に関する基準が満たされるまで、IPCONN は OBTAINING 状態のままです。

RELEASED

IPCONN は RELEASED です (解放されました)。接続は INSERVICE 状況の可能性もありますが、使用可能ではありません。

以下の一般的な状態のいずれかにより、RELEASED 状況になることがあります。

- リモート・システムがまだ初期化されていない。
- リモート・システム上に IPCONN 定義が存在しない、または自動インストールがアクティブでなかったか、正常に完了しなかった。
- リモート・システム上の IPCONN 定義がサービス休止に設定されている。
- IPCONN 定義で AUTOCONNECT(NO) が指定されている。
- IPIC 接続は獲得されているが、その後に明示的なオペレーター・コマンドによって解放されている。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

HA(value)

IPCONN が高可用性クラスターのエンドポイントに接続できるかどうかを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

NOTREQUIRED

領域の HA クラスターに接続するためのものではありません。

REQUIRED

HA クラスター内の領域に接続します。

HOST(value)

リモート・システムのホスト名、IPv4、または IPv6 アドレスを表示します。使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスは、1.2.3.4 などの、ネイティブの IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示されます。受け入れられる IPv4 形式については、[IP アドレス](#)を参照してください。

HOSTTYPE(value)

HOST オプションのアドレス・フォーマットを表示します。HOSTTYPE オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。有効な値は、以下のとおりです。

HOSTNAME

HOST オプションにはホスト名が含まれます。

IPV4HOST

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6HOST

このアドレスは IPv6 アドレスです。

IDPROP(value)

IPIC 接続を介した要求の中に送信側が分散 ID を含めるかどうかを表示します。IDPROP オプションは、接続がシスプレックスの外部におよび、エンタープライズ間で伝送されている配布 ID を防ぐために主に使用される場合に限り、意味を持ちます。同じシスプレックスに含まれているシステム同士の接続の場合、このオプションによって戻される値は無視されます。また、接続は IDPROP(OPTIONAL) を指定したのと同じように作動します。

有効な値は、以下のとおりです。

NOTALLOWED

この接続を使用する要求では、送信トランザクションに関連したユーザー ID が送信されます。NOTALLOWED はデフォルト値です。

OPTIONAL

配布 ID が使用可能な場合に送信されます。送信トランザクションに関連したユーザー ID も送信されます。

REQUIRED

この接続を使用する要求では、分散 ID が必要です。REQUIRED を指定する場合は、受信側のシステムが配布 ID をサポートしている必要があります。送信トランザクションに関連したユーザー ID は送信されません。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

IPFAMILY(value)

IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを表示します。IPFAMILY オプションは拡張照会の使用時のみ使用可能になります。ワイルドカード文字を使用してフィルター操作すると、フィルター操作は IPFAMILY オプションと相互作用します。例えば、IPFAMILY の値が IPv6FAMILY の場合は、コロン文字を使用して IP アドレスを取得しなければなりません。有効な値は、以下のとおりです。

IPV4FAMILY

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6FAMILY

このアドレスは IPv6 アドレスです。

UNKNOWN

IPRESOLVED がまだ使用中でないか、アドレスを解決できません。

IPRESOLVED(value)

ホストの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを表示します。IPRESOLVED オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。

獲得される HA IPCONN においては、この値は、この IPCONN の接続先の HA クラスター内の特定の領域の値になります。

LINKAUTH(value)

セキュリティが初期設定された CICS システムで (SEC=YES)、リンク・セキュリティ用のユーザー ID がどのように確立されるかを示します。

CERTUSER

パートナー・システムとの TCP/IP 通信を SSL 用に構成し、SSL ハンドシェイク中にパートナー・システムから証明書を受け取る必要があります。

IPCONN は、SSL(CLIENTAUTH) を指定して定義された TCPIP SERVICE を参照する必要があります。

受け取る証明書を外部セキュリティー・マネージャーに定義して、リンク・セキュリティーの確立に使用されるユーザー ID との関連付けがなされるようにする必要があります。

SECUSER

SECURITYNAME に指定されるユーザー ID がリンク・セキュリティーの確立に使用されることを指定します。

MAXQTIME(value)

割り振り要求をキューに入れることが可能な最大時間 (秒) を表示します。値は、0 から 9999 までの範囲の値か、(IPCONN 定義で MAXQTIME(NO) が指定されている場合は) 標準のヌル値 -1 になります。

MIRRORLIFE(value)

機能シッパされたファイル制御、一時データ、およびこの領域で受信される一時記憶域要求のミラー・タスクの最小存続期間を示します。このパラメーターが有効になるのは、リソース所有領域の IPCONN 定義に指定された場合だけです。機能シッパ・インターバル制御機能の場合やリンク要求の場合は無効になります。有効な値は、以下のとおりです。

REQUEST

ミラー・タスクは、できるだけ早く終了します。

TASK

ミラー・タスクは、アプリケーションのタスクが終了するまで、リモート要求を発行するアプリケーションで使用可能なままになります。

UOW

ミラー・トランザクションは、次の同期点が発行されるまで、リモート要求を発行するアプリケーションで使用可能なままになります。

NETWORKID(value)

リモート・システムのネットワーク ID を表示します。8 バイトの文字ストリングの値が戻されます。これは、IPCONN 定義の NETWORKID オプションの値です。IPCONN 定義で NETWORKID が指定されていない場合、戻される値は、この CICS、つまり IPCONN 定義がインストールされている CICS の z/OS Communications Server NETID か、(z/OS Communications Server VTAM=NO システムの場合は) UOWNETQL システム初期設定パラメーターの値になります。

NETWORKID の値は、APPLID の値と組み合わせて使用され、接続中のシステムの名前が固有のものになるようにします。

PARTNER(value)

パートナー・システムの製品トークンを示す 64 文字のストリングを表示します。ただし、パートナー・システムが CICS TS 5.3 以降で、かつ HTTPUSRAGENTHDR システム初期設定パラメーターを使用している場合を除きます。接続が獲得されない場合か、接続の確立時にパートナー・システムが製品タイプを示さない場合は、このフィールドはブランクになります。

PENDSTATUS(value)

この IPIC 接続に関する保留中の作業単位があるかどうかを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

NOTPENDING

ログ名がパートナーと不一致ではありません。

PENDING

再同期処理で接続が未解決ですが、パートナー・システムは初期始動を実行したので、再同期プロセスが完了できません。SET IPCONN NOTPENDING コマンドを使用して、関連したトランザクション定義に従い、接続に関連した作業単位を一方のみコミットまたはバックアウトすることができます。個別に作業単位を調べて強制的にコミットまたはバックアウトを行うこともできます。この場合、さらに SET IPCONN NOTPENDING コマンドを使用してリカバリー・アクティビティーを完了し、PENDING 状態をクリアしなければなりません。

この接続が CICS から CICS への IPIC 接続である場合、SET IPCONN NOTPENDING コマンドが発行されるまでは、この接続を介して新しい同期点処理 (つまり、同期レベル 2 のプロトコルに関する処理) を伝送することはできません。

パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) により同期が失われてもかまわない場合は、IPCONN 定義上に XLNACTION(FORCE) を指定して、SET IPCONN NOTPENDING コマンドが自動的に発行されるようにすることができます。

作業単位の保留について詳しくは、[システム間の問題のトラブルシューティング](#)を参照してください。

PORT(value)

この接続でのアウトバウンド要求に使用されるポート番号、つまり、リモート・システムが listen しているポートの番号を表示します。接続がアウトバウンド・トラフィックに使用されない場合、この値は NOTAPPLIC に設定されている可能性があります。自動インストールされた IPCONN リソースの場合は、大抵はそうになっています。

獲得される HA IPCONN においては、この値は、この IPCONN の接続先の HA クラスター内の特定の領域の値になります。

QUEUELIMIT(value)

キューに入れることが可能な、この接続に対する割り振り要求の最大数を表示します。値は、0 から 9999 までの範囲の値か、(IPCONN 定義で QUEUELIMIT(NO) が指定されている場合は) 標準のヌル値 -1 になります。

RECEIVECOUNT(value)

この接続に定義されている RECEIVE セッションの数を表示します。

RECOVSTATUS(value)

IPIC 接続の再同期処理が未解決かどうかを示します。IPIC 接続は、接続したことがないか、静止しており再同期処理がすべて完了しているか、または静止せずに中断している (この場合は再同期が必要になることがあります) 可能性があります。有効な値は、以下のとおりです。

NORECOVDATA

両側でリカバリー情報が未解決ではありません。

NRS

CICS では IPIC 接続に関するリカバリーが未解決ではありませんが、パートナーでは未解決の可能性もあります。

RECOVDATA

未確定の作業単位が IPIC 接続に関連しているか、未解決の再同期タスクが接続に関する FORGET を待機しています。再同期は、次回 IPIC 接続がアクティブになる時点か、UOW が未中断の時点で行われます。

リカバリーが未解決の場合は、ログ名の交換の完了時に、再同期が行われるか、コールド交換の場合は PENDING 状態が作成されます。

SECURITYNAME(value)

リモート・システムのセキュリティー名を表示します。

セキュリティーが初期化された CICS システム (SEC=YES) では、セキュリティー名はリモート・システムの権限を設定するために使用されます。

セキュリティー名は、この領域で有効な RACF ユーザー ID である必要があります。この領域の保護リソースに対するアクセスは、RACF ユーザー・プロファイルとそのグループ・メンバーシップに基づいています。

SENDCOUNT(value)

この IPIC 接続に定義されている SEND セッションの数を表示します。

SERVSTATUS(value)

IPIC 接続上でデータを送受信できるかどうかを示します。有効な値は、以下のとおりです。

INSERVICE

データを送受信できます。

OUTSERVICE

データを送受信できません。

SSLTYPE(value)

このサービスに使用されるセキュア・ソケット・サポートのレベルを表示します。

NOSSL

Secure Sockets Layer はこのサービスに使用されていません。

SSL

Secure Sockets Layer がこのサービスに使用されています。

TCIPSERVICE(value)

この IPIC 接続のインバウンド処理の属性を定義する PROTOCOL(IPIC) TCIPSERVICE 定義の名前を表示します。

USERAUTH(value)

セキュリティが初期設定された CICS システムで (SEC=YES)、接続時ユーザー・セキュリティ用のユーザー ID がどのように確立されるかを示します。有効な値は、以下のとおりです。

DEFAULTUSER

CICS は、パートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け入れません。すべての要求は、デフォルトのユーザー ID で実行されます。

IDENTIFY

着信接続要求でユーザー ID を指定する必要がありますが、パスワードを指定する必要はありません。

LOCAL

CICS はクライアントからのユーザー ID またはパスワードを必要としません。すべての要求はリンク・ユーザー ID のもとで実行されます。

VERIFY

着信接続要求でユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。

CEMT INQUIRE IRBATCH

外部 CICS インターフェースを使用するジョブに関する情報を取得します。

説明

CEMT INQUIRE IRBATCH は、互換性のために保存されています。CEMT INQUIRE EXCI を使用する必要があります。

CEMT INQUIRE IRC

領域間通信 (IRC) 機能の状況を表示します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE IRC は、領域間通信 (IRC) 機能が開いているか閉じているかを表示します。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE IRC (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。

サンプル画面

```
IN IRC
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Irc C1o DFHIR000
```

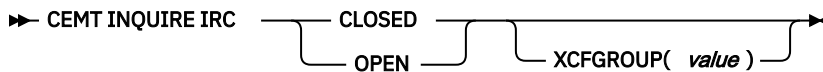
図 55. CEMT INQUIRE IRC 画面

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、[170 ページの図 56](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
IN IRC
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
  IRC
  Openstatus( Closed )
  Xcfigroup( DFHIR000 )
  Return(00000000)
  Reason(00000000)
```

図 56. 展開表示

CEMT INQUIRE IRC



表示されるフィールド

IRC

このパネルが、IRC 照会に関連したものであることを示します。

OPENSTATUS (value)

IRC 機能がオープンまたはクローズのどちらの状態であるかを表示します。値は以下のとおりです。

CLOSED

セッションを使用するタスクの通常終了後に、この CICS システムに関する領域間通信が終了します。

OPEN

この CICS システムの領域間通信が初期化されています。そのため、このシステムと他のシステムの間に接続を確立できます。個々の接続の可用性は、接続名に **INSERVICE** または **OUTSERVICE** 設定を指定することによって、制御できます (CEMT INQUIRE CONNECTION または CEMT SET CONNECTION を使用)。

領域が IRC の開始に失敗した場合は、コンソール・ログに DFHIR3780 メッセージが発行されます。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。例えば以下のような値です。

IMMCLOSE

IRC セッションを使用するタスクはすべて、次にそのセッションの使用が試行された時点で異常終了します。IRC を使用しているすべてのタスクが異常終了するか、正常に終了した場合、領域間通信は終了します。

2. Return および Reason の値が非ゼロになるのは、特定の SET (または上書き) が失敗した場合のみです。これらには、メッセージ番号が付随しています。

XCFGROUP

この領域がメンバーであるシステム 間カップリング・ファシリティ (XCF) グループの名前を表示します。

この領域が XCF グループのメンバーではない (IRC にサインオンしていないため) 場合、XCFGROUP は XCF のオープン時にこの領域がメンバーになる XCF グループを表示します。

XCF/MRO の詳細については、[システム間複数領域操作 \(XCF/MRO\)](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE JMODEL

ジャーナル・モデルとログ・ストリーム名に関する情報を取得します。

説明

INQUIRE JMODEL コマンドを使用して、インストール済みジャーナル・モデルを照会し、対応するログ・ストリーム名を取得できます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

CLEAR キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには2つの方法があります。

- CEMT INQUIRE JMODEL (最短省略形は CEMT I JM) と入力します。現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE JMODEL (CEMT I JM) に続けて、要求する情報の範囲を制限するために必要なすべてのその他の属性を入力します。例えば、`cemt i jm sm` と入力すると、SMF ログ・ストリーム・タイプのジャーナル・モデルのみの詳細が結果に表示されます。

(value)

ジャーナル・モデルを1つ以上指定します。

ALL

これがデフォルトです。

サンプル画面

```
IN JMODE
STATUS: RESULTS
Jmo(DFHJ02 ) Jou(DFHJ02 ) Mvs
  Str(BELL.TESTLOG.FWDRECOV )
Jmo(DFHLOG ) Jou(DFHLOG ) Mvs
  Str(&USERID..&APPLID..&JNAME. )
Jmo(DFHSHUNT) Jou(DFHSHUNT) Mvs
  Str(&USERID..&APPLID..&JNAME. )
```

リスト内の特定のエンタリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [171 ページの図 57](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
IN JMODE
RESULT
Jmodel(DFHJ02)
Journalname(DFHJ02)
Type(Mvs)
Streamname(BELL.TESTLOG.FWDRECOV)
```

図 57. 各エンタリーの拡張表示

The diagram illustrates the structure of the CEMT INQUIRE JMODEL command. It consists of five horizontal timelines, each representing a different part of the command. The first timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "ALL" and another bracketed section labeled "(value)". The second timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "INSTALLTIME(date time)". The third timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "INSTALLUSRID(value)", a bracketed section labeled "CREATESPI", "CSDAPI", and "GRPLIST", and a bracketed section labeled "DEFINESOURCE(value)". The fourth timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "DEFINETIME(date time)", a bracketed section labeled "CHANGETIME(date time)", and a bracketed section labeled "CHANGEUSRID(value)". The fifth timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "CREATESPI", "CSDAPI", "CSDBATCH", and "DREPAPI", and a bracketed section labeled "CHANGEAGREL(value)". The sixth timeline starts with a right-pointing arrow and is followed by a bracketed section labeled "JOURNALNAME(value)", a bracketed section labeled "MVS", "SMF", and "DUMMY", and a bracketed section labeled "STREAMNAME(value)".

CEMT INQUIRE JMODEL

ALL

(value)

INSTALLTIME(date time)

INSTALLUSRID(value)

CREATESPI

CSDAPI

GRPLIST

DEFINESOURCE(value)

DEFINETIME(date time)

CHANGETIME(date time)

CHANGEUSRID(value)

CREATESPI

CSDAPI

CSDBATCH

DREPAPI

CHANGEAGREL(value)

JOURNALNAME(value)

MVS

SMF

DUMMY

STREAMNAME(value)

JMODEL(*value*)

CHANGEAGENT(*value*)

CREATESPI

CSDAPI

CSDBATCH

DREPAPI

CHANGEAGREL(*value*)

CHANGETIME(*date time*)

CHANGEUSRID(*value*)

172 CICS TS for z/OS: 提供されたトランザクション・リファレンス

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

JOURNALNAME

このジャーナル・モデルを使用できる 8 文字のジャーナル名を表示します (固有名または総称名のいずれか)。

STREAMNAME

このジャーナル・モデルに関連付けられている MVS ログ・ストリーム名 (LSN) を表示します。名前は、特定の LSN、または 4 つのシンボル &USERID、&APPLID、&JNAME、および &SYSID のうちいずれか 3 つを使用するテンプレートです。

LSN またはテンプレートの最大長は 26 文字です。

TYPE

ログ・ストリーム・タイプを表示します。可能なタイプは以下のとおりです。

MVS

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、MVS ログ・ストリームに書き込まれます。

SMF

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、MVS SMF データ・セットに書き込まれます。

DUMMY

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、どのログ・ストリームにも書き込まれません。

JMODEL 定義の変更については、[JOURNALMODEL リソース](#)を参照してください。

CEMT INQUIRE JOURNALNAME

CICS システム・ログおよび汎用ログの状況を表示します。

説明

INQUIRE JOURNALNAME コマンドを使用して、CICS システム・ログと汎用ログの状況を照会できます。INQUIRE JOURNALNUM コマンドの代替になります。

入力

CLEAR キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE JOURNALNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE JOURNALNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i jo sm` と入力すると、SMF ログ・ストリーム・タイプのログのみの詳細が結果に表示されます。

(value)

ジャーナル名を 1 つ以上指定します。

1 から 99 までの範囲の数値 ID を指定して定義されたジャーナルを照会するには、ジャーナル名 `DFHJnn` を指定します (ここで、`nn` はジャーナル番号)。

システム・ログを照会するには、`DFHLOG` を指定します。

log of logs を照会するには、`DFHLOGLOG` を指定します。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN JOUR
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Journaln(DFHJ02 ) Smf Ena
Journaln(DFHLOGLOG) Mvs Ena
      Str(CICSHT##.CICSHTA1.DFHLOGLOG )
Journaln(DFHLOG ) Mvs Ena
      Str(CICSHT##.CICSHTA1.DFHLOG )
Journaln(DFHSHUNT) Mvs Ena
      Str(CICSHT##.CICSHTA1.DFHSHUNT )
```

図 58. CEMT INQUIRE JOURNALNAME 画面

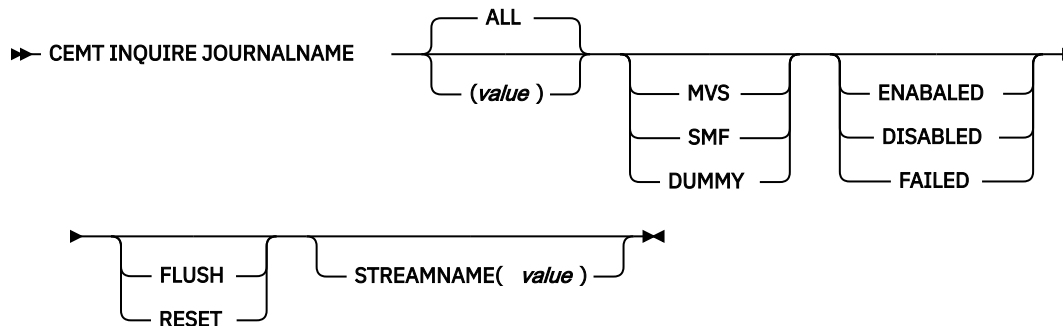
注: 画面のブランク・フィールドは、値が適用されないか、否定的である (つまり、値が「No」で始まる) ことを示しています。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置くと、CICS は [174 ページの図 59](#) に示すような拡張フォーマットを表示します。

```
IN JOUR
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
  Journalname(DFHLOG)
  Type(Smf)
  Status( Enabled )
  Action(          )
  Streamname(CICSHT##.CICSHTA1.DFHLOG)
```

図 59. 展開表示

CEMT INQUIRE JOURNALNAME



表示されるフィールド

ACTION(value)

指定されたジャーナル名に対して CICS が実行するアクションを指定します。値は以下のとおりです。

FLUSH

ログ・バッファはログ・ストリームに書き出されますが、ジャーナルは閉じません。

このオプションを使用すると、ストリームがバッチ・ユーティリティーを使用して処理される前に、すべての現行レコードがログ・ストリームに書き出されるようにすることができます。

RESET

ジャーナルは使用不可ですが、SET JOURNALNAME RESET コマンドによって再度使用可能にすることができます。

JOURNALNAME(value)

このパネルがジャーナル名照会に関連していることを示し、1 から 8 文字のジャーナル名を表示します。

STATUS

ジャーナルの状況を表示します。値は以下のとおりです。

ENABLED

ジャーナルがインストールされ、使用可能です。

DISABLED

CEMT または EXEC CICS、SET JOURNALNAME(...) コマンドによってジャーナルが使用不可に設定されました。SET JOURNALNAME コマンドの STATUS(ENABLED) オプションまたは ACTION(RESET) オプションによって再び使用可能に設定されるまで、ジャーナルは使用できません。

FAILED

ジャーナルにログ・ストリーム障害が発生しました。SET JOURNALNAME コマンドの STATUS(ENABLED) オプションまたは ACTION(RESET) オプションによって再び使用可能に設定されるまで、または CICS の次回再始動後まで、ジャーナルは使用できません。ログ・ストリームは、再使用の前に、MVS システム・ロガー・インベントリから削除する必要があります。

注：ENABLED または DISABLED を指定して STATUS をリセットできます。

STREAMNAME (value)

ジャーナルに関連付けられている MVS ログ・ストリーム名を表示します。ジャーナルが DUMMY または SMF のタイプを指定して定義されている場合、CICS は 8 個のブランク (X'40') を表示します。

TYPE

ログ・ストリームのタイプを表示します。可能なタイプは次のとおりです。

MVS

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、MVS ログ・ストリームに書き込まれます。

SMF

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、MVS SMF データ・セットに書き込まれます。

DUMMY

このジャーナル・モデルで定義されたジャーナルのレコードは、どのログ・ストリームにも書き込まれません。

CEMT INQUIRE JVMSERVER

JVM サーバーのランタイム 環境の状況に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「JVM サーバー」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

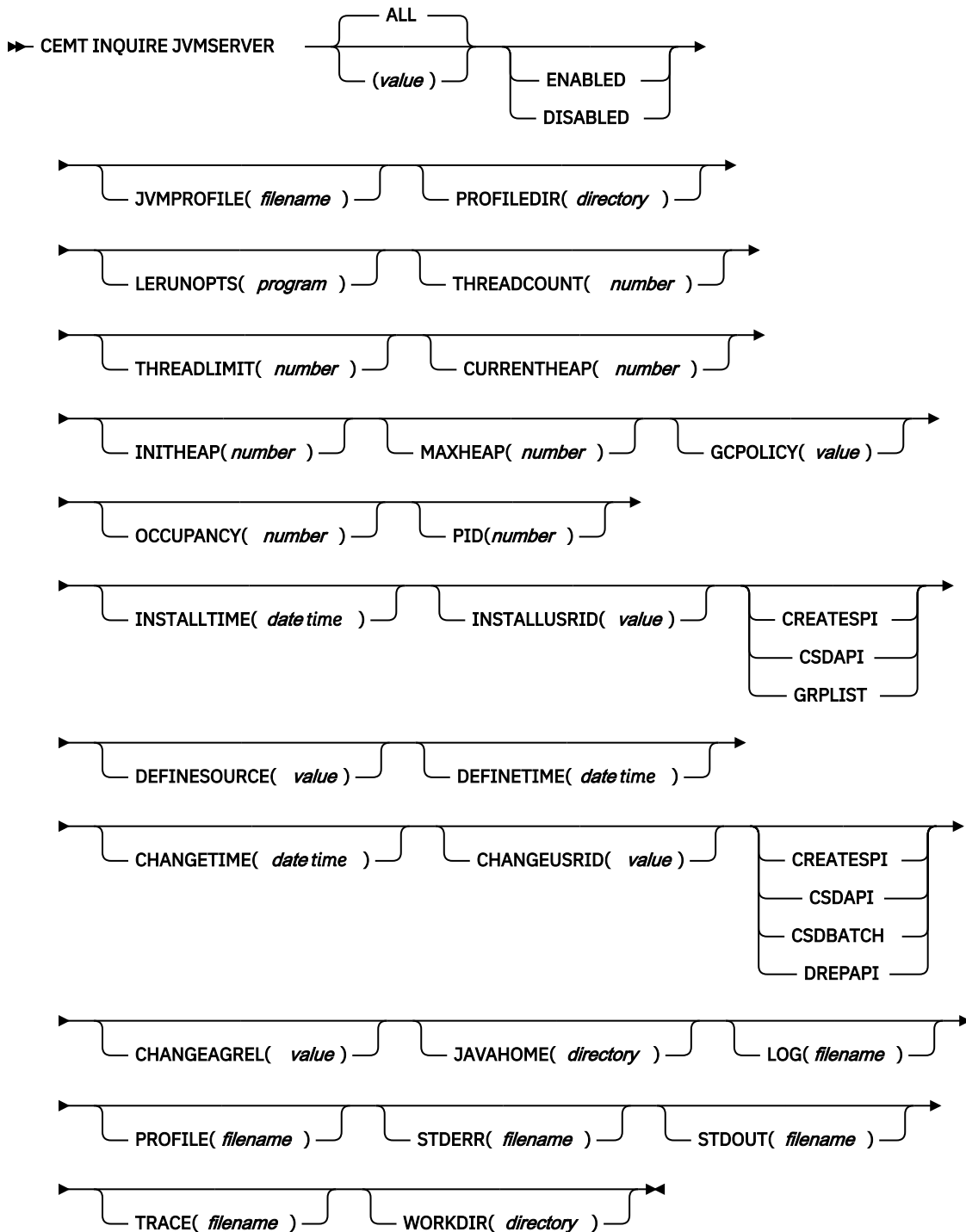
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、次いで CEMT INQUIRE JVMSERVER と入力して、JVM サーバーに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE JVMSERVER



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSEDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CURRENTHEAP(number)

JVM サーバーに割り振られている現在のヒープ・サイズをバイト単位で表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS(value)

JVM サーバーのランタイム環境の全体的な状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED

JVM サーバーは使用可能で、処理を実行できます。

DISABLED

JVM サーバーは使用不可で、ランタイム環境で新規の要求を処理できません。

注：JVMSEVER が状態間を遷移している場合は、CEMT の右上隅に BEING ENABLED、BEING DISABLED、または BEING DISCARDED が表示されます。

GCPOLICY(value)

JVM サーバーにより使用されているガーベッジ・コレクション・ポリシーを表示します。

INITHEAP(number)

JVM サーバーに割り振られた初期ヒープ・サイズをバイト単位で表示します。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

JAVAHOME(directory)

JVM サーバーに使用されている Java™ バージョンのホーム・ディレクトリーの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

JVMPROFILE(filename)

JVM サーバーのプロパティを定義する JVM プロファイルのファイル名を表示します。

LERUNOPTS(program)

Language Environment® エンクレーブのランタイム・オプションを定義するプログラムの名前を表示します。

LOG(filename)

JVM サーバーのログ出力ファイルの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

MAXHEAP(number)

JVM サーバーに許容される最大ヒープ・サイズをバイト単位で表示します。

OCCUPANCY(number)

JVM サーバーの最新のガーベッジ・コレクション実行後のヒープ・サイズをバイト単位で表示します。

PID(number)

JVM のプロセス ID (PID) を表示します。

PROFILE(filename)

JVM プロファイルの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

PROFILEDIR(directory)

JVM サーバーの JVM プロファイルを格納する z/OS UNIX 上のディレクトリーを表示します。ローカルの CICS 領域で定義される (ローカルの CICS 領域に保管される JVM プロファイルを使用する) JVM サーバーの場合、これは、その CICS 領域に関する **JVMPROFILEDIR** システム初期設定パラメーターで指定されているディレクトリーです。CICS バンドルで定義される (CICS バンドルにパッケージされる JVM プロファイルを使用する) JVM サーバーの場合、これは、その JVM プロファイルが保管されている CICS バンドル・サブディレクトリーです。

STDERR(filename)

JVM サーバーの STDERR 出力ファイルの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

STDOUT(filename)

JVM サーバーの STDOUT 出力ファイルの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

THREADCOUNT(number)

JVM サーバー内で現在実行されているスレッドの数を表示します。

THREADLIMIT(number)

JVM サーバーで使用可能なスレッドの最大数を表示します。各スレッドは T8 TCB で実行します。

TRACE(filename)

JVM サーバーのトレース出力ファイルの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

WORKDIR(directory)

JVM サーバーに関連付けられている作業ディレクトリーの絶対パスの先頭 255 文字が表示されます。

CEMT INQUIRE LIBRARY

LIBRARY リソースについての情報を取得します。

CICS Explorer では、[「LIBRARY」](#) ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE LIBRARY は、システムに定義されている LIBRARY リソースに関する情報を戻します。

オプションは、SET コマンドを入力するか、INQUIRE 画面の該当する場所に上書き入力することでリセットできます。

プラットフォームにインストールされているアプリケーションの一部として定義される動的プログラム LIBRARY 連結は、そのアプリケーションの特定のバージョン専用のものです。LIBRARY リソースが、アプ

リケーションの一部として (つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として) パッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義される (つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として定義される) 場合、LIBRARY 連結は専用のものになります。専用 LIBRARY 連結は、CEMT INQUIRE PROGRAM コマンドを使用するときには表示されません。専用 LIBRARY 連結を照会またはブラウズするには、CICS Explorer または EXEC CICS INQUIRE LIBRARY システム・プログラミング・コマンドを使用します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

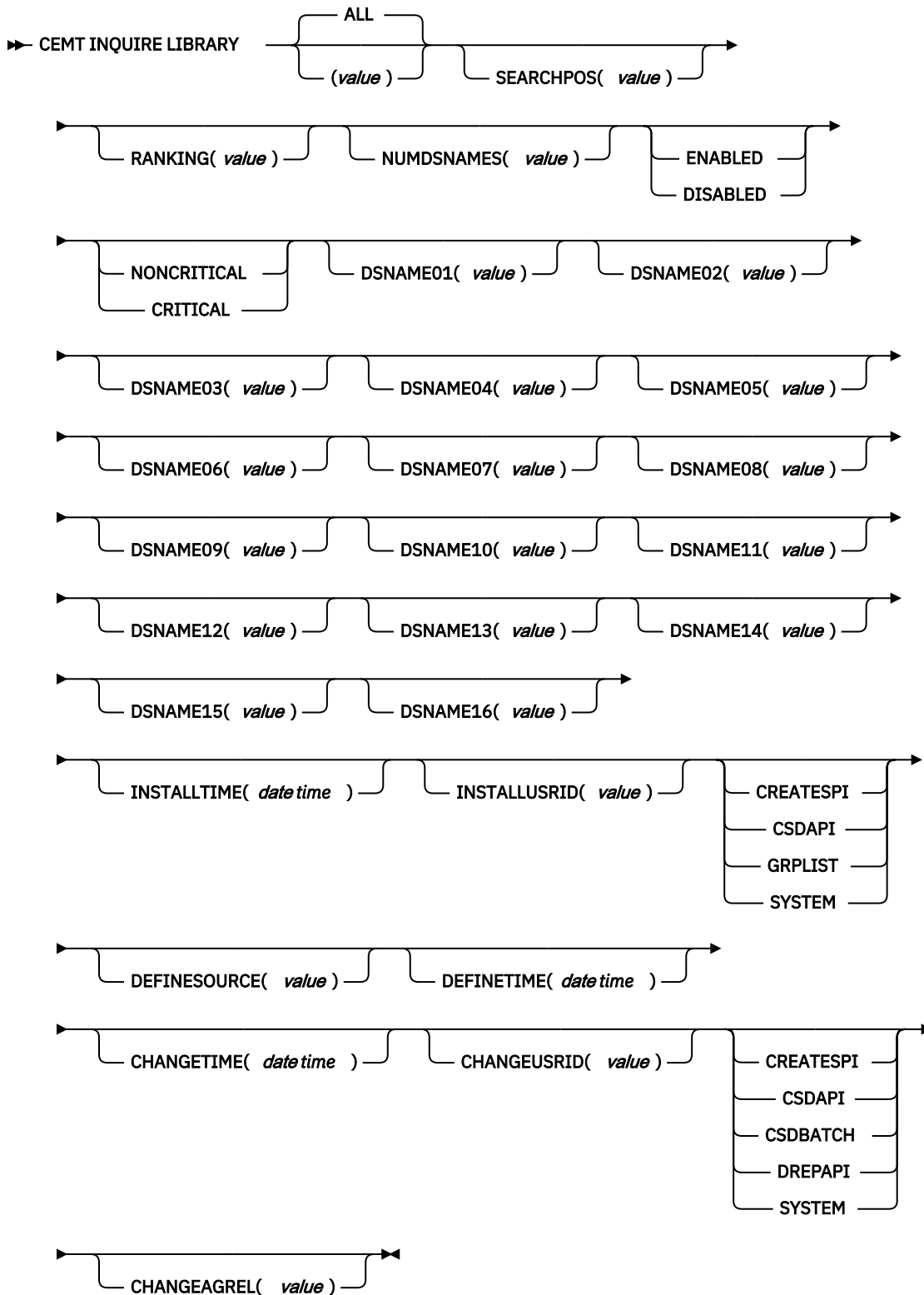
- CEMT INQUIRE LIBRARY (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。LIBRARY リソースはランキング順にリストされ、ランキングが同じ場合はライブラリー内にインストールされた時刻順にリストされます。
- CEMT INQUIRE LIBRARY (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。

強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

(data-value)

LIBRARY リソースの名前を指定します。LIBRARY 名を省略すると、デフォルトで ALL オプションが指定されているものと解釈されます。

CEMT INQUIRE LIBRARY



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CRITICALST(value)

ライブラリーが CICS を始動するために重要かどうかを示します。

CRITICAL

LIBRARY は CICS の始動にとって重要です。CICS の始動中に何らかの理由で LIBRARY が正常にインストールできない場合は、「GO or CANCEL」メッセージが発行され、オペレーターが重要性をオーバーライドして CICS の開始を許可するかどうかを決定する必要があります。オペレーターが「GO」を選択すると、例えばストレージ不足の状態などのためにインストールがまったく不可能な場合を除いて、ライブラリーが使用不可状態でインストールされます。始動を続行する応答をしても、ライブラリーは NONCRITICAL として再カタログされません。そのため、LIBRARY を今後 CRITICAL とみなさないことにする場合、クリティカル状況を明示的に NONCRITICAL に設定する必要があります。

NONCRITICAL

LIBRARY は CICS の始動にクリティカルではありません。CICS の始動時に LIBRARY を正常にインストールできない場合、LIBRARY はインストール済みだが使用不可の状態のままになり、警告メッセージが出されます。しかし、CICS の始動は続行します。

LIBRARY(data-value)

照会する LIBRARY の 8 文字の名前を指定します。プログラム名を省略した場合、ALL オプションがデフォルトで想定されます。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド 値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DSNAME01-16(value)

LIBRARY 連結内のデータ・セットの名前を戻します。このライブラリーが動的に定義される場合、これらは LIBRARY 定義に指定されたデータ・セットで、1 つを除いてすべてがブランクです。この DFHRPL が静的に定義されている場合、これらは DFHRPL 連結内の最初の 16 個のデータ・セットであ

るか、または指定されたデータ・セットが 16 個以下の場合はそのすべて (残りの DSNAMExx フィールドは空白) となります。

DFHRPL 連結に 16 個を超えるデータ・セットがある場合、CICSplex SM LIBDSN ビューを使用してすべてのデータ・セットをリストするか、**EXEC CICS INQUIRE LIBRARY** コマンドの DSNAMELIST オプションを使用できます。

ENABLESTATUS(value)

LIBRARY が全体的な LIBRARY 検索順序に含まれるかどうかを示します。

DISABLED

LIBRARY は使用不可になっていて、現在は LIBRARY 検索順序に含まれていません。プログラム成果物は、この LIBRARY 連結内のデータ・セットからは検索されません。

DISABLING

LIBRARY を使用不可にする要求が出されましたが、まだ処理中です。

ENABLED

LIBRARY は使用可能になっていて、現在は LIBRARY 検索順序に含まれています。この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索します。

ENABLING

LIBRARY を使用可能にする要求が出されましたが、まだ処理中です。

DISCARDING

CICS システムから LIBRARY を破棄する要求が受信されましたが、まだ処理中です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM

リソースは、CICS または CICSplex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

NUMDSNAMES(value)

LIBRARY 連結内のデータ・セットの数を指定します。動的に定義された LIBRARY では、この値は空白でない DSNAMExx の値の数で、16 より大きい値にすることはできません。静的に定義された DFHRPL の場合、この値は連結内のデータ・セットの数になり、16 より大きい値にすることができます。

RANKING(value)

この LIBRARY が全体のライブラリー検索順序の中で配置される、他の LIBRARY 連結との相対的な位置を指定します。値が小さい場合、ロードするプログラムを探すために、ランキング番号が大きい他のライブラリー・リソースの前にこの LIBRARY が検索されることを示します。ただし、RANKING の等しいライブラリーが検索順序の中で現れる順序は、ローカル CICS システムにそれらがインストールまたは作成された順序になり、前にインストールされたライブラリーの方が、後でインストールされたものよりも先に出現します。

SEARCHPOS(*data-area*)

この LIBRARY の、LIBRARY 検索順序全体での現在の絶対位置を戻します。検索順序が 1 番目の LIBRARY は SEARCHPOS が 1 で、次の LIBRARY は SEARCHPOS が 2、というようになります。

SEARCHPOS は RANKING と同じではありませんが、その値は、システム内のさまざまな LIBRARY リソースの相対ランキング値によって決まります。

CEMT INQUIRE LINE

端末に接続しているラインに関する情報を取得します。この要求は非 z/OS Communications Server 端末の場合にのみ有効です。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE LINE(*value*) (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。指定した回線の現在の状況が表示されます。
- CEMT INQUIRE LINE(*termid*) (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために適切な数の属性を入力します。

ID のリストを指定できますが (54 ページの『リソース ID のリスト』を参照)、アスタリスク (*) または正符号 (+) を使用して ID のファミリーを指定することはできません。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

サンプル画面

```
INQ LINE(TTT1)
STATUS: RESULTS
Lin(TTT1)          Neg( 00080 ) Ins
```

図 60. CEMT INQUIRE LINE 画面

注: 適用されない値、または否定的な値 (つまり、値が「No」で始まる) の場所は、画面にはブランク・フィールドとして示されます。これらのフィールドを変更するには、Tab キーを使用してそれぞれの位置を指定し (これらは拡張フォーマットと同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するには、拡張フォーマットを使用する方が簡単なことがあります (表示されたフィールドにその否定表現を上書き入力すると、ブランク・フィールドになるので、値の否定を簡単に設定できます)。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置くと、CICS は 184 ページの図 61 に示すような拡張フォーマットを表示します。

```
INQ LINE(TTT1)
RESULT
Line(TTT1)
Number()
Negpoll( 00080 )
Servstatus( Inservice )
Purgetype( )
```

図 61. 展開表示

第 13 章 CEMT - マスター端末 185

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
I MODE
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Mod(SNASVCMG) Con(C ) Max(002) Ava( 000 ) Act(000)
Mod(MODE1 ) Con(C ) Max(001) Ava( 000 ) Act(000)
```

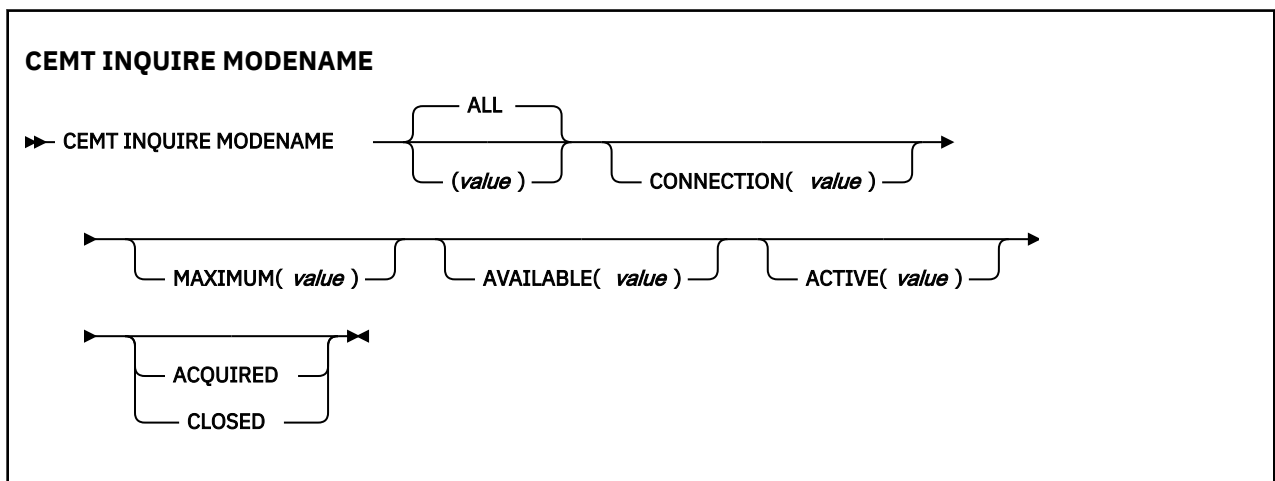
図 62. CEMT INQUIRE MODENAME 画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置くと、CICS は [186 ページの図 63](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
I MODE
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Modename(MODE1)
Connection( C )
Maximum(001)
Available( 000 )
Active(000)
Acqstatus( )
```

図 63. 展開表示



表示されるフィールド

ACQSTATUS (入力専用フィールド)

セッションの獲得状況を指定します。値は以下のとおりです。

ACQUIRED

グループ内にある、折衝されたすべての競合勝者セッションを、CICS が獲得 (またはバインド) します。

CLOSED

CICS は、グループ内のすべてのセッションを解放します。セッションは静止し、アンバインドされます。以後、別の CICS システムがセッションを獲得することはありません。グループをクローズしたのと同じ CICS システムがグループを再獲得するまで、グループ内のセッションでのアクティビティは不可能になります。

ACTIVE (value)

現在使用中 (バインド済み) のグループ (またはモード名) 内のセッション数を表示します。

AVAILABLE (value)

このグループ内で、使用するために一度に割り振ることができる、現在折衝済みのセッションの数を表示します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CONNECTION (value)

この IRC または ISC のセッション・グループが接続されているリモート・システムの 4 文字の ID を表示します。

MAXIMUM (value)

このセッション・グループ内で一度にサポートされるセッションの最大数を表示します (0 から 999 までの範囲内)。

MODENAME (value)

このパネルが MODENAME 照会に関連していることを示し、セッション・グループの 1 つ以上の名前 (1 から 8 文字) を表示します。

CEMT INQUIRE MONITOR

CICS モニターの状況に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

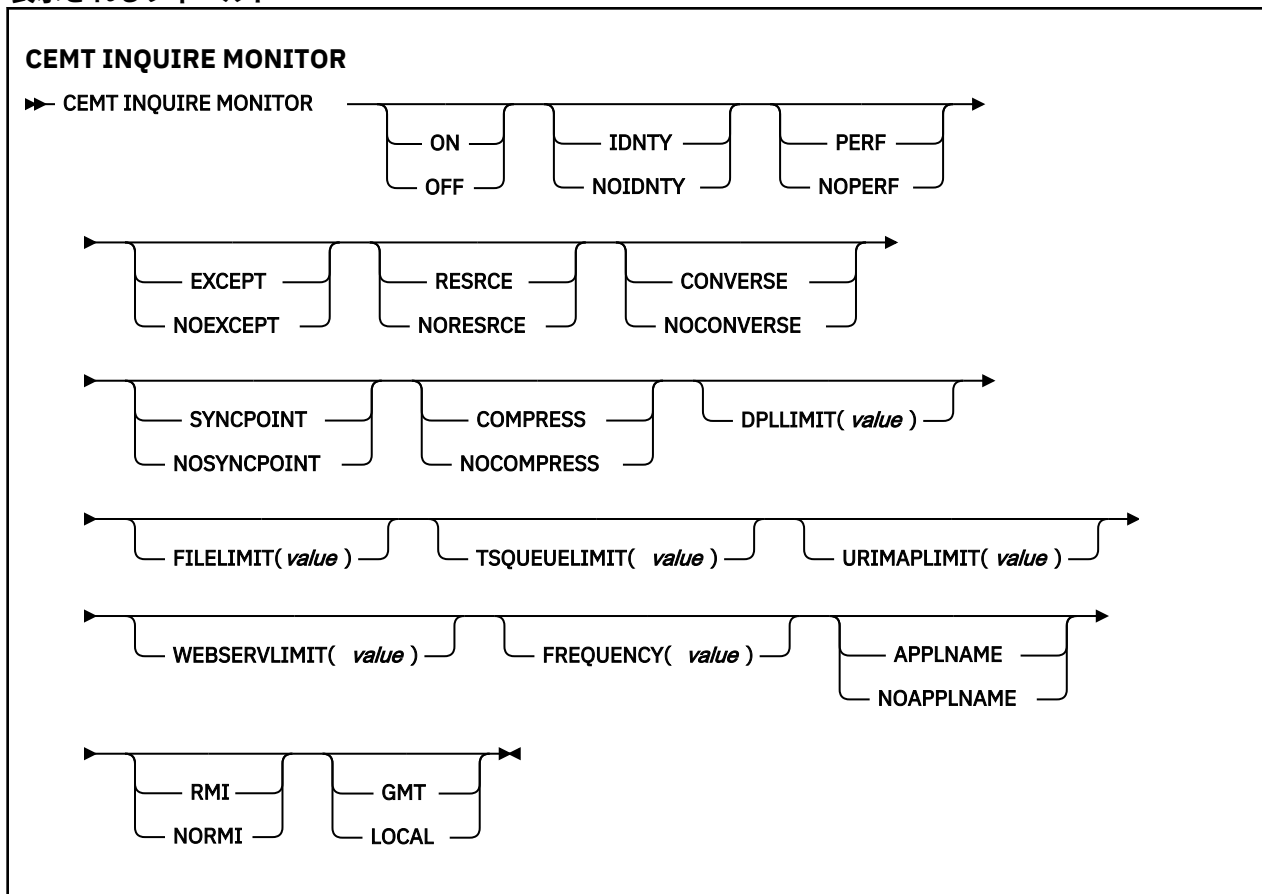
説明

INQUIRE MONITOR コマンドを使用すると、モニターのスイッチがオンになっているかオフになっているか、どのクラスのモニター・データが収集されているか、モニター・オプションの現在の設定がどうなっているかを照会できます。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE MONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはリンク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

表示されるフィールド



APPLNAMEST(*value*)

CICS アプリケーション・ネーミング・サポートが使用可能かどうかを表示します。値は以下のとおりです。

APPLNAME

CICS アプリケーション・ネーミング・サポートは使用可能です。

NOAPPLNAME

CICS アプリケーション・ネーミング・サポートは有効ではありません。

COMPRESSST(*value*)

モニター・レコードに対してデータ圧縮を実行するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

COMPRESS

データ圧縮は実行されます。デフォルトでは、モニター・レコードは圧縮されます。

NOCOMPRESS

データ圧縮は実行されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CONVERSEST(*value*)

会話型タスクで、端末管理入出力要求のペア (Converse または Send/Receive のペア) ごとに別々のパフォーマンス・クラス・レコードが生成されているかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

CONVERSE

個別のパフォーマンス・クラス・レコードが生成されます。

NOCONVERSE

個別のパフォーマンス・クラス・レコードは生成されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DPLLIMIT (value)

トランザクション・リソース・クラス・モニター・データが収集される分散プログラム・リンク要求の最大数を表示します。

EXCEPTCLASS(value)

例外クラスのモニター・データが収集されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

EXCEPT

例外クラスのモニター・データが収集されます。

NOEXCEPT

例外クラスのモニター・データは収集されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

FILELIMIT (value)

トランザクション・リソース・クラス・モニター・データが収集されるファイルの最大数を表示します。

FREQUENCY (value)

長実行トランザクション (一定の間隔より長くシステム内にあるトランザクション) に対してモニターがトランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードを自動的に生成する間隔を表示します。FREQUENCY 値は、000000 (FREQUENCY モニターが非アクティブであることを示す) か、000100 から 240000 の範囲内です。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

MONITOR(value)

このパネルが MONITOR 照会に関係していることを示します。

IDNTYCLASS(value)

ID クラスのモニター・データが収集されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

IDNTY

ID クラスのモニター・データが収集されます。

NOIDNTY

ID クラスのモニター・データは収集されません。

PERFCLASS(value)

パフォーマンス・クラスのモニター・データが収集されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

PERF

パフォーマンス・クラスのモニター・データが収集されます。

NOPERF

パフォーマンス・クラスのモニター・データは収集されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

RESRCECLASS(value)

モニター・データのトランザクション・リソース・クラスを収集するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

RESRCE

トランザクション・リソース・クラスのモニター・データが収集されます。

NORESCE

トランザクション・リソース・クラスのモニター・データは収集されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

RMIST(value)

トランザクションで使用されているリソース・マネージャーで、追加のパフォーマンス・クラス・モニター・データを収集するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

RMI

トランザクションで使用されているリソース・マネージャーで、その他のパフォーマンス・クラス・モニター・データが収集されています。

NORMI

トランザクションで 使用されているリソース・マネージャーで、パフォーマンス・クラス・モニター・データは 収集されていません。

STATUS(value)

モニターがアクティブかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ON

アクティブなモニター・データの各クラスに対してモニター・データが連続的に累積および収集されます (SMF データ・セットに書き出される)。

OFF

モニター・データ・クラスの設定に関係なく、モニター・データは累積も収集もされません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SYNCPOINTST(value)

同期点がタスク終了や同期点ロールバックの一部である場合を除いて、トランザクションが明示的または暗黙的な同期点 (作業単位) を取得するときにトランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードを生成するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

SYNCPOINT

トランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードが生成されます。

NOSYNCPOINT

トランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードは生成されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TIME(value)

パフォーマンス・クラス・モニター・データのタイム・スタンプ・フィールドが、**COLLECT STATISTICS** コマンドを使用するアプリケーションに対して、グリニッジ標準時 (GMT) で戻されるか、現地時間で戻されるかを表示します。値は以下のとおりです。

GMT

パフォーマンス・クラス・データのタイム・スタンプ・フィールドは GMT です。

LOCAL

パフォーマンス・クラス・データのタイム・スタンプ・フィールドは現地時間です。

TSQUEUELIMIT(value)

トランザクション・リソース・クラス・モニター・データが収集される一時記憶域キューの最大数を表示します。

URIMAPLIMIT(value)

WEB OPEN URIMAP コマンドに指定された URIMAP のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数を表示します。

WEBSERVLIMIT(value)

INVOKE SERVICE コマンドに指定された WEBSERVICE のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数が表示されます。

CEMT INQUIRE MQCONN

CICS と IBM MQ との間の接続についての情報を取得します。

CICS Explorer では、[「MQ 接続」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE MQCONN コマンドでは、現在インストールされている MQCONN リソース定義 (IBM MQ への接続の定義) の属性とその接続の状況に関する情報を返します。

一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つだけであるため、入力時に MQCONN リソース定義の名前を指定する必要はありません。

このコマンドは、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性 (開始キューの名前を指定する属性) を照会するコマンドではありません。開始キュー名を照会する場合には **INQUIRE MQMONITOR** コマンドを使用します。

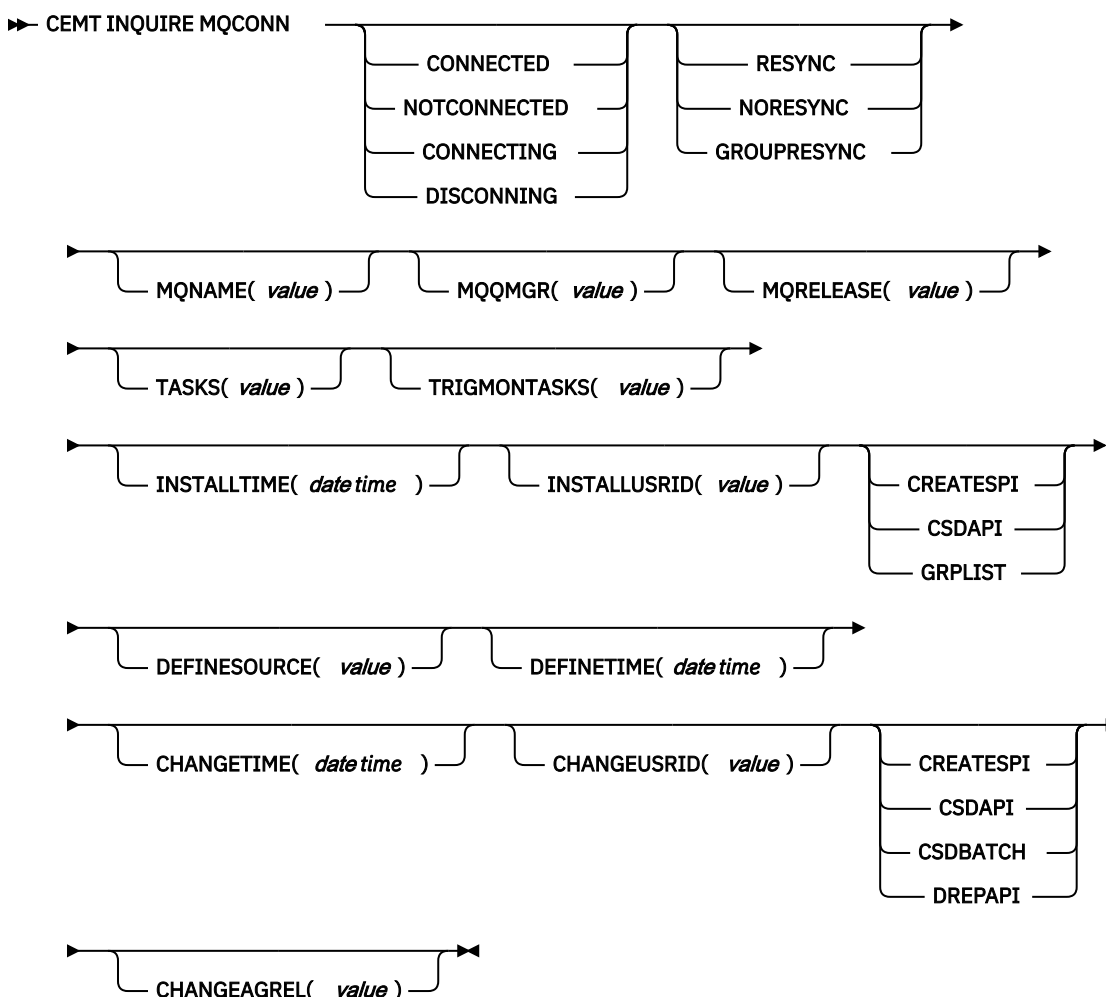
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE MQCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

CEMT INQUIRE MQCONN



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(*value*)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(*value*)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(*date time*)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(*value*)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONNECTST(*value*)

CICS-MQ 接続の状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

CONNECTED

CICS が IBM MQ に接続されています。

NOTCONNECTED

CICS が IBM MQ に接続されていない。

CONNECTING

CICS は現在 IBM MQ への接続を試行しています。

DISCONNING

CICS は現在 IBM MQ から切断しています。

DEFINESOURCE(*value*)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(*date time*)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(*value*)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MQNAME(value)

CICS 領域の MQCONN リソース定義で (または **SET MQCONN** コマンドを使用して) 指定した IBM MQ のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループの名前 (1 から 4 文字) を表示します。

MQQMGR(value)

CICS が接続しているかまたは接続を待機している IBM MQ キュー・マネージャーの名前を表示します。

- CICS が IBM MQ に接続している場合は、CICS の接続先のキュー・マネージャーの名前がこのフィールドに表示されます。CICS 領域の MQCONN リソース定義でキュー共用グループを指定した場合は、そのグループから選択されたキュー・マネージャーが表示されます。
- CICS が IBM MQ に接続していない場合は、通常、このフィールドはブランクになります。ただし、CICS 領域の MQCONN リソース定義でキュー共用グループを指定しており、CICS がそのキュー共用グループ内の特定のキュー・マネージャーに再接続しようとして待機している (つまり、そのキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている) 場合は、そのキュー・マネージャーの名前が表示され、接続の状況は **CONNECTING** と表示されます。このような動作にするには、MQCONN リソース定義の **RESYNCMEMBER** 属性で再同期を指定する必要があります。

MQRELEASE(value)

CICS が IBM MQ に接続している場合は、IBM MQ のリリース番号 (例えば 0600 など) がこのフィールドに表示されます。CICS が IBM MQ に接続していない場合は、このフィールドは空欄です。

RESYNCMEMBER(value)

このオプションは、CICS-MQ 接続でキュー共用グループを指定している場合にのみ適用されます。**RESYNCHMEMBER** では、CICS がキュー共用グループから最後に接続したキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている場合に CICS が採用する方針が表示されます。未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。有効な値は、以下のとおりです。

RESYNC

CICS は、同じキュー・マネージャーに接続します。

NORESINC

CICS は同じキュー・マネージャーへの接続を一回試行します。CICS は、この試行に失敗すると、キュー共用グループの任意のメンバーに接続し、未処理の作業単位に関する警告を出します。

GROUPRESYNC

CICS は、キュー共用グループの任意のメンバーに接続します。キュー・マネージャーが IBM MQ によって選択され、そのキュー・マネージャーは、キュー共用グループ内のすべての適格キュー・マネージャーの代わりに、未確定の作業単位を解決することを CICS に要求します。この機能のことをグループ・リカバリー単位といいます。

NOTAPPLIC

CICS-MQ との接続でキュー共用グループが指定されていません。

TASKS(value)

CICS-MQ 間の接続を使用しているタスク (トリガー・モニター・タスクを含む) の現在の数を表示します。

TRIGMONTASKS(value)

CICS-MQ 接続を使用しているトリガー・モニター・タスクの現在の数を表示します。

CEMT INQUIRE MQMONITOR

インストールされた MQ モニターの状況について照会し、MQMONITOR リソースの現行の属性を返します。

CICS Explorer では、「MQ モニター」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE MQMONITOR コマンドは、インストールされた MQ モニターの状況について照会し、MQMONITOR リソースの現行の属性を返します。

注：このコマンドが完了する前に、CICS は **TASKNUMBER** 属性によって識別されたタスクが実際に領域で実行中であることと、タスクの TRANID が MQMONITOR の **TRANSACTION** 値に一致することを検証します。どちらかの検証に失格すると、CICS は MQMONITOR が停止していると思なします。

INITQNAME 属性を指定して CICS 領域に MQCONN リソース定義をインストールする際に、予約名 DFHMQINI の付いた MQMONITOR リソースもインストールされます。これは、デフォルトの開始キューを表します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、CEMT INQUIRE MQMONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

INQUIRE MQMONITOR

➤ INQUIRE MQMONITOR — (— *data-value* —) — AUTOSTART(*cvda*) →

➤ ENABLESTATUS(*cvda*) — MONSTATUS(*cvda*) — TASKID(*data-area*) →

➤ TRANSACTION(*data-area*) — QNAME(*data-area*) — MONDATA(*data-area*) →

➤ MONUSERID(*data-area*) — USERID(*data-area*) — INSTALLTIME(*date time*) →

➤ INSTALLUSRID(*value*) — INSTALLAGENT(*value*) →

➤ DEFINESOURCE(*value*) — DEFINETIME(*date time*) →

➤ CHANGETIME(*date time*) — CHANGEUSRID(*value*) →

表示されるフィールド

AUTOSTART(*cvda*)

WebSphere MQ キュー・マネージャーへの接続が確立されるときに MQ モニターが自動的に開始されるかどうかを示す CVDA 値を返します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOSTART

WebSphere MQ キュー・マネージャーへの接続が確立された時点で、MQ モニターは自動的に開始します。

NOAUTOSTART

MQ モニターは自動的に開始しません。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC

リソースは、指定された INITQNAME を含む MQCONN リソース定義の結果として定義されました。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS(cvda)

MQMONITOR リソースの状況を示す CVDA 値を返します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED

MQMONITOR リソースは使用可能です。

ENABLING

MQMONITOR リソースを有効にしています。

DISABLED

MQMONITOR リソースは使用不可です。

DISABLING

MQMONITOR リソースを無効にしています。

DISCARDING

MQMONITOR リソースを破棄しています。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

CKQC START コマンドに開始キュー名が指定されたため、リソースは自動インストールされました。また、前にインストールされた MQCONN 定義では、INITQNAME の値が指定されませんでした。

DYNAMIC

リソースは、INITQNAME を指定して MQCONN をインストールした結果としてインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

GRPLIST INSTALL によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MONDATA(data-area)

MQ キューをモニターするトランザクションに渡されるデータを返します。

注:

モニター・タスクによって表示および取得される場合、MONDATA データの前に以下の 18 バイトが付加されます。

- バイト 1: < (左シェブロン)
- バイト 2 から 9: *MQMONITOR resource name*
- バイト 10 から 17: *USERID*
- バイト 18: > (右シェブロン)

バイト 19 から 218 には、ユーザーが入力した MONDATA そのものが入ります。

したがって、ユーザー作成プログラムは **MONDATA** を取り出すために 218 バイトの最大長を許容し、MQ モニターの MONSTATUS 属性を設定するために、取得した **MONDATA** のバイト 2 から 9 で指定された MQMONITOR 名を使用して現在の状況を示す必要があります。また、セキュリティチェックがアクティブの場合、CICS は、MQ モニターの状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID に対して、セキュリティチェックを行います。詳細については、[MQMONITOR リソース](#)で説明するセキュリティの考慮事項を参照してください。

MONSTATUS(cvda)

MQ モニターの状況を示す CVDA 値を返します。有効な値は、以下のとおりです。

STARTED

MQ モニターは開始しています。

STARTING

MQ モニターを開始中です。

STOPPED

MQ モニターは停止しています。

STOPPING

MQ モニターを停止中です。

注: このコマンドが完了する前に、CICS は **TASKNUMBER** 属性によって識別されたタスクが実際に領域で実行中であることと、タスクの TRANID が MQMONITOR の **TRANSACTION** 値に一致することを検証します。どちらかの検証に失格すると、CICS は MQMONITOR が停止していると見なします。

MONUSERID(data-area)

MQ キューをモニターするトランザクションに関連したユーザー ID を返します。

この属性は、セキュリティチェックがアクティブである (つまり、**SEC** システム初期設定パラメーターが YES に設定されている) 場合にのみ有効です。CICS は、MQ モニターの状態を開始済みに設定しようとするトランザクションに関連付けられているユーザー ID が、**MONUSERID** で定義されたユーザー ID の代理であり、**MONUSERID** に関連付けられているトランザクションを開始する権限があることを確認します。CICS Explorer などの CICSplex SM API インターフェースで MQ モニターの状態を設定する場合は、MQ モニター・トランザクションに関連付けるユーザー ID として、領域ユーザー ID または PLTIUSR ユーザー ID (指定されている場合) を使用してください。

セキュリティチェックが無効にされている (つまり、**SEC** が NO に設定されている) 場合、MQ モニター・トランザクションに関連付けるユーザー ID は、MQMONITOR リソースの状態を「開始」に設定したトランザクションのユーザー ID です。

QNAME(data-area)

MQ モニターによってモニターされている MQ キューの名前を返します。

TASKNUMBER(data-area)

MQ キューを現在モニターしているタスクの番号を返します。

TRANSACTION(data-area)

MQ キューをモニターしているタスクによって使用されている CICS トランザクションの 4 文字の ID を返します。

USERID(data-area)

適切なユーザー ID が他のソースから使用できない場合、アプリケーション・トランザクションの開始要求を発行するために、デフォルトで使用される 8 文字のユーザー ID を返します。

CEMT INQUIRE NETNAME

ネットワークに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[端末](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

ネットワーク名がわかっている場合は、**CEMT INQUIRE TERMINAL** コマンドの代わりにこのコマンドを使用したほうが簡単な場合があります。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE NETNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE NETNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i n ins ati` と入力すると、サービス中で使用可能なネットワーク名の詳細が結果に表示されます。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

(value)

8 文字のネットワーク名を指定します。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN NETNAME
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Net(IGKS205 ) Tra(CEMT) Pri( 000 ) Pag Ins Ati Tti
          Ter(TC03) Acq      Tas(0000198)          Nqn(GBIBMIYA.IYCQTC03)
```

図 64. CEMT INQUIRE NETNAME 画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

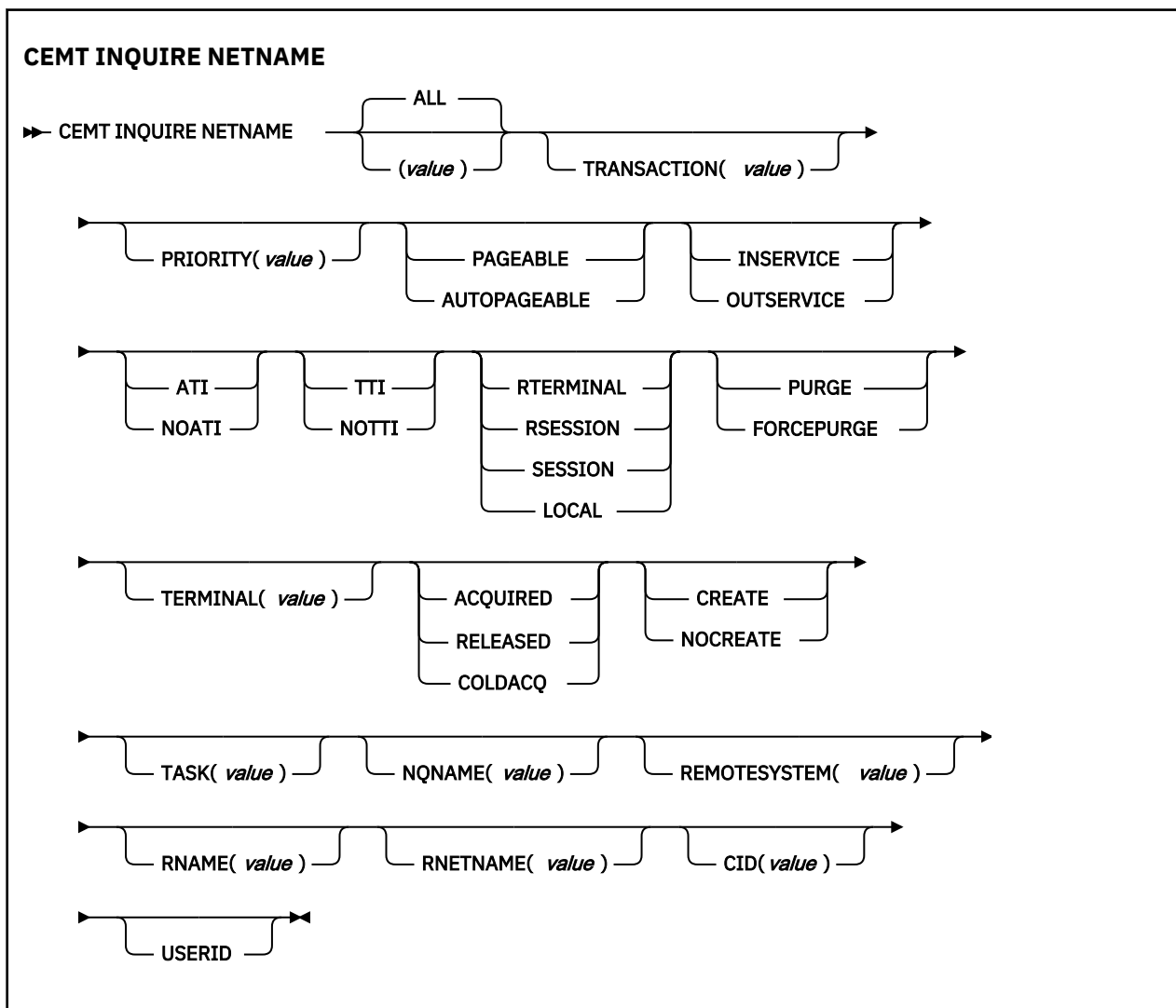
リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [198 ページの図 65](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```

IN NET
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Netname(IYCQTC03)
Transaction(CEMT)
Priority( 000 )
Pagestatus( Pageable )
Servstatus( Inservice )
Atistatus( Ati )
Ttistatus( Tti )
Nature(Local)
Purgetype(          )
Terminal(944D)
Termstatus( Acquired )
Createsess( Ncreate )
Task(00033)
Remotesystem()
Nqname(GBIBMIYA.IYCQTC03)
Rname()
Rnetname()
Cid()
Userid()

```

図 65. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

AIDCOUNT (data area)

指定した端末のキューに入れられた自動開始記述子 (AID) の数を示すフルワード 2 進数フィールドを返します。AID がない場合は、値 0 が返されます。この数は、コマンドを発行した CICS システム上の AID の数を表します。

ATISTATUS

端末が CICS から自動的に開始されたトランザクションで利用できるかどうか、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで利用できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ATI

端末は使用可能です。

NOATI

端末は使用不可です。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。
2. 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

CID (value)

セッションのみを対象に、セッションが獲得された後のみに設定される、8 文字の相関 ID を表示します。(セッションが獲得されていない場合、以前に獲得されたセッションがあれば、この値はそれと関連付けられます。) CID は以下のように設定されます。

- LU6.2 セッションの場合、これは一緒に接続された両端のセッションに共通する 8 文字の 16 進トークンです。
- MRO セッションの場合、これはこのセッションの接続先であるシステムで行われているセッションの端末 ID に設定されます。
- IMS への LU6.1 セッションの場合、これは定義された、またはネゴシエーションされた NETNAMEQ の値に設定されます。
- 他の LU6.1 セッションの場合、これは 6.1 セッションの相手側で指定された値に設定されます。

CID を使用すると、LU6.2、MRO、または LU61 の会話の 2 つの部分に関連付けることができます。

- LU6.2 の場合は、同じ CID について照会できます。
- MRO の場合は、端末名を使用してセッションを見つけることができます。
- IMS に対する LU6.1 の場合は、そのネット名について照会できます。
- その他の LU6.1 の場合は、その名前を使用して、接続されたシステムについて照会できます。

CREATESESS (z/OS Communications Server のみ)

端末が ATI トランザクションによって自動的に獲得できるかどうかを表示します。これは、IRC セッションについて指定することはできません。値は以下のとおりです。

CREATE

端末がセッション中でない場合、端末が ATI 要求に必要なであれば、CICS がその端末を獲得します。

NOCREATE

端末がセッション内にない場合、CICS は ATI 要求を満たすためにそれを獲得することはありません。例えば ATI 要求が満たされるようにするには、その前に、ログオン要求または CEMT SET TERMINAL ACQUIRED コマンドによりセッションを開始する必要があります。

NOCREATE が LU6.1 ISC セッションに対して設定されており、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

NATURE

端末の性質を表示します。つまり、端末が物理装置であるかセッションであるか、およびローカルリモートかを表示します。値は以下のとおりです。

RTERMINAL

端末は別の CICS 領域によって所有されています。

RSESSION

端末は別の CICS 領域によって所有されている接続のセッションです。

SESSION

端末は ISC セッションまたは IRC セッションです。

LOCAL

端末はこのシステムに直接接続され、物理装置またはクラスター・コントローラーの機能になっています。

NETNAME (value)

このパネルが NETNAME 照会に関連していることを示し、8 文字のネットワーク名を表示します。

- 物理端末の場合、NETNAME は z/OS Communications Server が認識しているこの端末の名前です。
- ISC セッションの場合、NETNAME は z/OS Communications Server がセッション (またはセッションのグループ) を認識するための名前です。
- IRC セッションの場合、NETNAME は接続領域が領域間通信プログラム (DFHIRP) にログオンするために使用する名前です。
- EXCI セッションの場合、NETNAME は総称セッションの場合は DFHGEN、特定のセッションの場合は EXCI INITIALISE_USER 呼び出しで使用する user_name パラメーターの値です。

DFHGEN で照会が行われる場合、名前は前後にブランクが入った 8 文字のフィールド (「 DFHGEN 」) です。この名前は引用符で囲み、ブランクを含む必要があるため、画面ではコマンドを以下のように入力します。

```
CEMT INQ NETNAME(' DFHGEN ')
```

- リモート装置の場合、NETNAME は、端末専有領域で z/OS Communications Server が認識している装置の名前です。

注：NETNAME が z/OS Communications Server LU 別名である場合は、常に実ネット名を含んでいる NQNAME のネット名コンポーネントとは異なります。

NQNAME

z/OS Communications Server の 17 文字のネットワーク修飾名を表示します。

リモート端末には NQNAME 値がありません。

状況 (Termstatus) が RELEASED の場合、NQNAME はネット名を表示します。

PAGESTATUS

一連のページの先頭以降のページが、オペレーターからの要求で端末に書き込まれるか、自動的に端末に書き込まれるかを表示します。値は以下のとおりです。

PAGEABLE

ページが要求に基づいて書き込まれます。

AUTOPAGEABLE

ページが自動的に書き込まれます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PRIORITY (value)

他の端末に対するこの端末の優先度を示す 3 文字のストリングを表示します。タスクの優先度はトランザクションの優先度、端末の優先度、およびオペレーターの優先度の合計です。優先度は、代替機能として使用されている ISC セッションの端末では意味を持ちません。この値は 0 から 255 の範囲内で、255 で優先度が最高になります。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PURGETYPE (入力専用フィールド)

指定された端末で実行しているトランザクションをページするかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

PURGE

トランザクションはシステムおよびデータ 保全性を維持できる場合にのみ終了します。
SPURGE=NO が定義で指定されている場合、トランザクションがパージされません。

FORCEPURGE

トランザクションは即時にパージされます。 予測不能な結果が生じる可能性があるため、例外的な事情でのみ使用してください。

REMOTESYSTEM (value)

照会の対象がリモート端末である場合に、接続名 (4 文字) を表示します。指定された接続は、端末専有領域 (TOR) に対してリンクする接続エントリーか、TOR のネット名を提供する間接接続です。

その他の場合、このフィールドはブランクになります。

RNAME (value)

定義されているシステム (TOR) 中でこの端末が認識されている 4 文字の名前を表示します。RNAME は、リモートとして定義されている端末にのみ適用されます。その他については、ブランクが表示されます。

RNETNAME (value)

この照会の対象がリモート端末の場合は、所有している TOR の 8 文字のネット名を表示します。このフィールドがブランクで端末がリモートの場合は、REMOTESYSTEM フィールドで指定されたシステムがインストールされておらず、端末を定義したときに REMOTESYSNET オプションの値が指定されていません。

SERVSTATUS

端末が使用可能かどうかを表示します。値は以下のとおりです。

INSERVICE

端末は使用可能です。 z/OS Communications Server の場合、INSERVICE は端末を ACQUIRED 状況にすることが可能であることを示します。IRC セッションの場合、INSERVICE は MRO パートナーへの接続が INSERVICE であることを意味します。

OUTSERVICE

端末は使用不可です。 端末を OUTSERVICE に設定することは、その端末をトランザクションが使用できなくなることを意味します。PURGE または FORCEPURGE も指定される場合、端末を使用するトランザクションは異常終了します。PURGE または FORCEPURGE が指定されない場合、トランザクションは正常終了できますが、以後のトランザクションが端末を使用できなくなります。z/OS Communications Server の場合はさらに、端末を OUTSERVICE に設定すると、即時に、または現行トランザクションが終了したときに端末が解放され、オペレーターはサインオフされます。

IRC セッションの場合、OUTSERVICE は MRO パートナーへの接続が OUTSERVICE であることを意味します。

LU6.1 ISC セッションでは、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

物理端末および LU6.1 セッションの場合、この値は、別の値を上書きすると再設定できます。

TASK (value)

この端末で実行しているトランザクションのタスク番号を表示します。

TERMINAL (value)

インストールされている端末定義で指定されている 4 文字の端末 ID (1 文字から 4 文字) を表示します。

TERMSTATUS (z/OS Communications Server のみ)

CICS が、この端末により表される論理装置とセッション中かどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ACQUIRED

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。

RELEASED

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中ではありません。このオプションを RELEASED に設定した場合、PURGE オプションも指定していると、セッションは即時に終了します

が、それ以外の場合、セッションは現行のアクティブなトランザクションが終了した時点で終了します。

物理端末および LU6.1 セッションの場合、この値は、別の値または以下の値で上書きすることにより再設定できます。

COLDACQ

これは特殊な形式の ACQUIRED で、再同期が必要ありません。直前のセッションが異常終了した場合、COLDACQ を使用すると CICS の保全性制御が無効になります。これは、保全性の問題につながります。また、CICS の障害に続いてセッションが再始動した後、アクティビティ・キーポイントがあるかどうか CSMT ログを確認してください。アクティビティ・キーポイントがない場合は、次の緊急時再始動後に COLDACQ を再発行します。

TRANSACTION (value)

この端末の基本機能または 2 次機能としてこの端末で現在処理されているトランザクションの名前を示す 4 文字のストリングを表示します。

TTISTATUS

端末から開始されたトランザクションが、この端末を使用できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

TTI

この端末は、トランザクションで使用できます。

NOTTI

この端末は、トランザクションで使用できません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

USERID(data-area)

この端末またはセッションでサインオンしたユーザーの 8 文字の ID を戻します。

サインオンしているユーザーがいない場合は、DFLTUSER システム 初期化パラメーターで指定されたデフォルトのユーザー ID が戻されます。

CEMT INQUIRE NODEJSAPP

CICS 領域の Node.js アプリケーションの状況に関する情報を取得します。

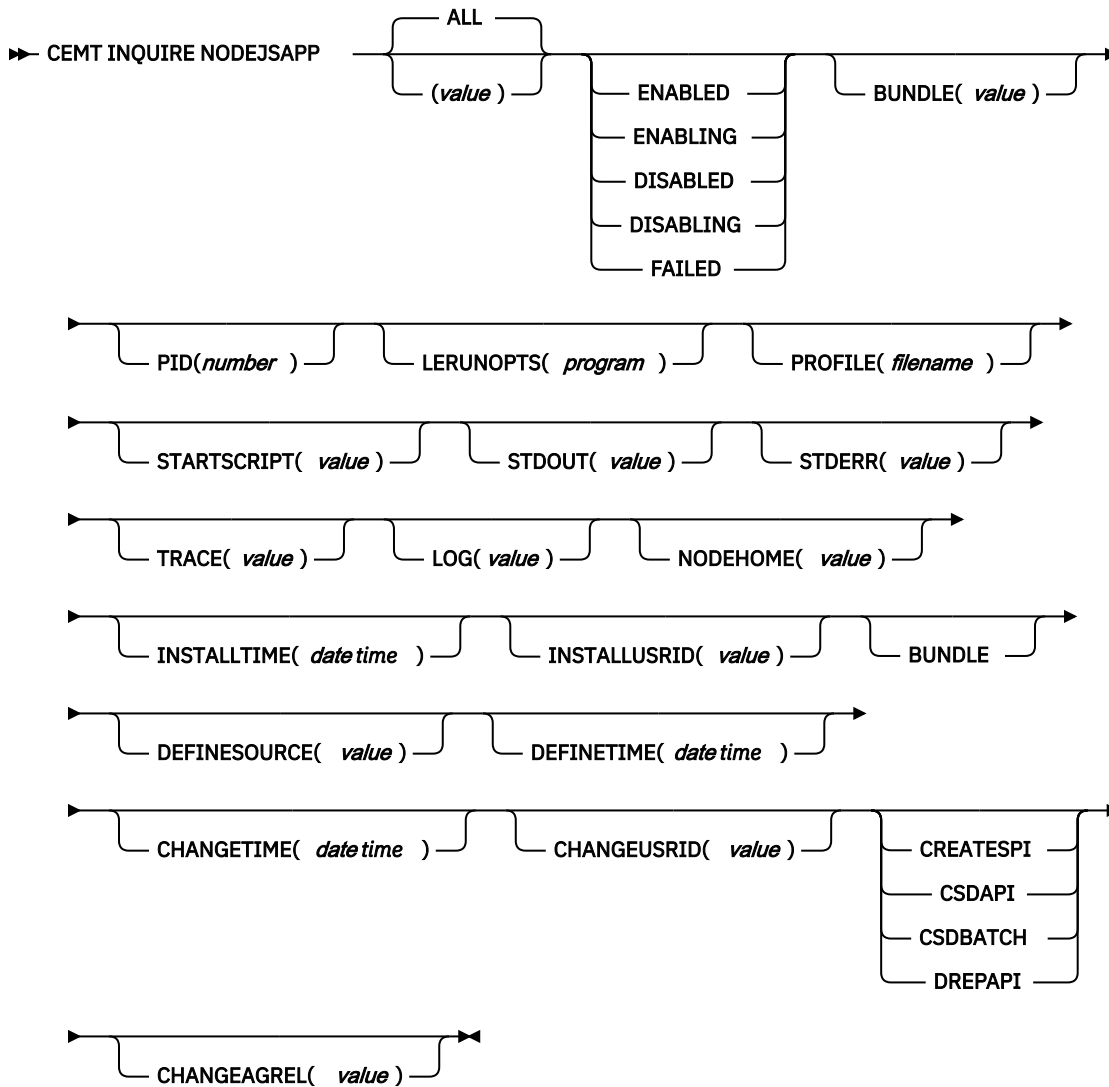
リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、次に CEMT INQUIRE NODEJSAPP と入力して CICS 領域の Node.js アプリケーションに関する情報を取得します。

CEMT INQUIRE NODEJEAPP



表示されるフィールド

BUNDLE(value)

NODEJSAPP バンドル・パーツが含まれている CICS BUNDLE リソースの 8 文字の名前を表示します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は INSTALLAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

ENABLESTATUS(value)

NODEJSAPP の全体的な状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED

NODEJSAPP は開始しており、使用可能です。

ENABLING

NODEJSAPP を開始中です。

DISABLED

NODEJSAPP は停止しており、新規要求は処理できません。

DISABLING

NODEJSAPP を停止中です。スレッドは、NODEJSAPP が停止する前に開始されていた場合、実行し続けます。

FAILED

NODEJSAPP リソースは失敗しました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

LERUNOPTS(program)

Language Environment エンクレープのランタイム・オプションを定義するプログラムの名前を表示します。

NODEHOME(value)

NODEJSAPP の NODEHOME プロファイル・エントリーの 255 文字のパスを表示します。

PID(number)

NODEJSAPP のプロセス ID (PID) を表示します。

PROFILE(filename)

NODEJSAPP のプロパティを定義する Node.js プロファイルのファイル名を表示します。

STARTSCRIPT(value)

NODEJSAPP のエントリー JavaScript ファイルの 255 文字のパスを表示します。

STDERR(value)

NODEJSAPP の stderr ファイルの 255 文字のパスを表示します。

STDOUT(value)

NODEJSAPP の stdout ファイルの 255 文字のパスを表示します。

TRACE(value)

NODEJSAPP のトレース・ファイルの 255 文字のパスを表示します。

LOG(value)

NODEJSAPP の log ファイルの 255 文字のパスを表示します。

CEMT INQUIRE PARTNER

パートナー・テーブルに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE PARTNER コマンドは、システムにインストールされているパートナー・テーブル (サイド情報テーブル) からの情報を返します。**SET PARTNER** 機能はありません。ただし、**INQUIRE PARTNER** 画面を使用してパートナー名の左マージンに D を入力することにより、パートナーを破棄できます (**CEMT DISCARD PARTNER** 機能)。

パートナーについては、[PARTNER リソース](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE PARTNER (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE PARTNER (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。

(value)

インストールされたパートナー定義に指定されている 8 文字のパートナー名を指定します。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

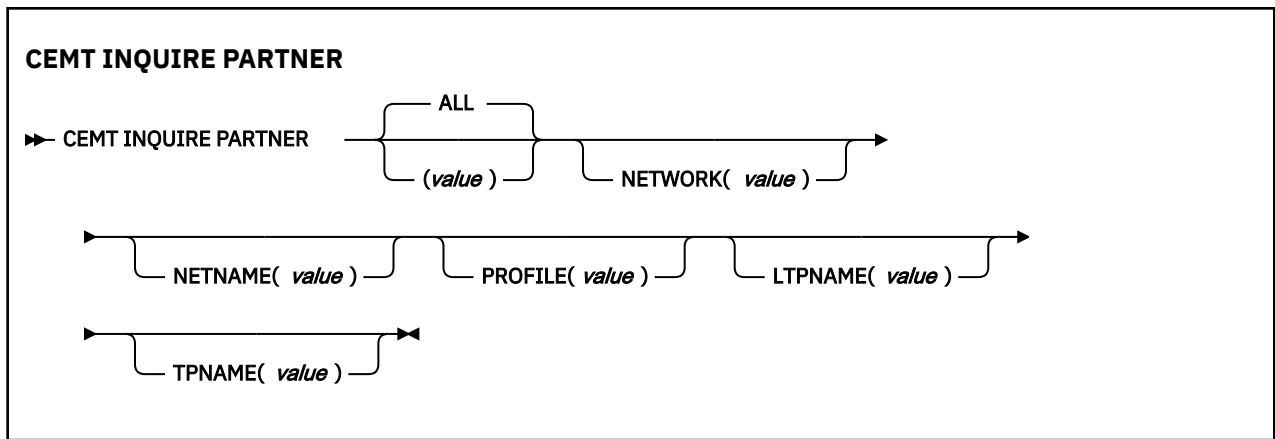
```
I PART
STATUS: RESULTS
Par(IST1ISC2)          Netn(IYMVM2 ) Pro(DFHCICSA)
  Ltp(04) Tpn(IST1    )
Par(IST2ISC2)          Netn(IYMVM2 ) Pro(DFHCICSA)
  Ltp(04) Tpn(IST2    )
```

図 66. CEMT INQUIRE PARTNER 画面

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [205 ページの図 67](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
I PART
RESULT
Partner(IST1ISC2)
Network()
Netname(IYMVM2)
Profile(DFHCICSA)
Ltpname(04)
Tpname(IST1)
```

図 67. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

LTPNAME(value)

リモート・トランザクション・プログラム (TPNAME) の名前の長さをバイト単位で表示します。

NETNAME (value)

パートナーが配置されているノードの 8 文字の名前を表示します。

NETWORK(value)

パートナーが配置されているネットワークの 8 文字の名前を表示します。

PARTNER(value)

このパネルが PARTNER 照会に関連していることを示し、インストールされているパートナー定義に指定されている 8 文字のパートナー名を表示します。

PROFILE(value)

パートナーに関連付けられた CICS プロファイルの 8 文字の名前を表示します。

TPNAME(value)

リモート・トランザクション・プログラムの 64 文字の名前を表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、16 進値を表示できます。

CEMT INQUIRE PIPELINE

インストール済みパイプラインに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「パイプライン」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

インストール済みパイプラインに関する情報を取得するには、**INQUIRE PIPELINE** コマンドを使用します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE PIPELINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。現在の状況をリストする画面が表示されます。
- CEMT INQUIRE PIPELINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i pi en` と入力すると、有効になっているプロセス・タイプの詳細だけが表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- **CEMT SET PIPELINE** コマンドを使用します。

ALL

デフォルトです。照会するパイプラインを選択指定しない限り、すべてのパイプラインに関する情報が表示されます。

(value)

インストールされている PIPELINE 定義の名前 (1 から 8 文字)。

表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CIDDOMAIN(value)

バイナリー添付ファイルを識別する MIME コンテンツ ID 値を生成するために使用されるドメインの名前を表示します。

CONFIGFILE(value)

PIPELINE リソースに関連付けられているパイプライン構成ファイルの名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS

パイプラインの 状態を表示します。

ENABLED

パイプラインは使用する準備ができています。

DISABLED

パイプラインは要求を処理しておらず、新しい作業を受け入れることができません。初期化が失敗したか、明示的に使用不可にされた可能性があります。

ENABLING

パイプラインは初期化中です。まだ作業を受け入れる準備ができていません。

DISABLING

パイプラインは、DISABLED 状態になる前に静止しています。新しい作業は受け入れられませんが、現在の作業は完了できます。

DISCARDING

このパイプラインのために DISCARD コマンドが発行されました。パイプラインは、廃棄される前に静止しています。新しい作業は受け入れられませんが、現在の作業は完了できます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MODE(value)

パイプラインの 操作モードを表示します。

PROVIDER

CICS はこのパイプラインを Web サービスのサービス・プロバイダーとして使用します。

REQUESTER

CICS はこのパイプラインを Web サービスのサービス要求元として使用します。

UNKNOWN

パイプラインの操作モードを判別できません。

MTOMNOXOPST(value)

バイナリー添付ファイルが存在しない場合にアウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信するための、パイプラインの状況を表示します。

MTOMNOXOP

バイナリー添付ファイルが存在しなくても、アウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信します。

NOMTOMNOXOP

バイナリー添付ファイルが存在する場合にのみ、アウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信します。

MTOMST(value)

パイプラインの MTOM ハンドラーの状況を表示します。

MTOM

このパイプラインでは MTOM ハンドラーは使用可能になっています。

NOMTOM

このパイプラインでは MTOM ハンドラーは使用不可になっています。

RESPWAIT (value)

アプリケーション・プログラムがリモート Web サービスからのオプション・メッセージを待機する秒数を表示します。値が表示されない場合は、トランスポート・プロトコルのデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

- HTTP のデフォルトのタイムアウト値は 10 秒です。
- WebSphere MQ のデフォルトのタイムアウト値は 60 秒です。

SENDMTOMST(value)

アウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信するための、パイプラインの状況を表示します。

NOSENDMTOM

アウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信しません。

SAMESENDMTOM

インバウンド・メッセージが MIME フォーマットである場合に限り、アウトバウンド・メッセージを MIME フォーマットで送信します。

SENDMTOM

アウトバウンド・メッセージは常に MIME フォーマットで送信します。

SHELF(value)

シェルフ・ディレクトリーの名前を表示します。この名前は最大 255 文字の長さにできます。このフィールドは、CICS バンドルにインストールされている PIPELINE リソースではブランクです。

SOAPLEVEL(value)

パイプラインでサポートされている SOAP のレベルを表示します。SOAP レベルは 1.1 または 1.2 です。SOAP メッセージでパイプラインを使用しない場合は、値 NOTSOAP が表示されます。

WSDIR(value)

Web サービス・バインディング・ディレクトリー (ピックアップ・ディレクトリーとも呼ばれる) の名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

XOPDIRECTST(value)

XOP 文書やバイナリー添付ファイルをダイレクト・モードまたは互換モードで処理する場合のパイプラインの状況を表示します。

XOPDIRECT

このパイプラインは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルをダイレクト・モードで処理します。

NOXOPDIRECT

このパイプラインは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを互換モードで処理します。

XOPSUPPORTST(value)

XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを直接処理する場合のアプリケーション・ハンドラーの状況を表示します。

XOPSUPPORT

このアプリケーション・ハンドラーでは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルのダイレクト処理がサポートされています。

NOXOPSUPPORT

このアプリケーション・ハンドラーでは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルのダイレクト処理はサポートされていません。

CEMT INQUIRE PROCESSTYPE

CICS ビジネス・トランザクション・サービスのプロセス・タイプに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「プロセス・タイプ」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE PROCESSTYPE コマンドは、この CICS 領域にインストールされている BTS PROCESSTYPE 定義に関する情報を返します。表示されるプロセス・タイプごとの監査ログの現在の状態を示します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE PROCESSTYPE (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE PROCESSTYPE (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i proc en` と入力すると、有効になっているプロセス・タイプの詳細だけが表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- CEMT SET PROCESSTYPE コマンドを使用します。

ALL

デフォルトです。照会するプロセス・タイプを選択指定しない限り、すべてのプロセス・タイプに関する情報が表示されます。

(value)

プロセス・タイプ・テーブル (PTT) にインストールされている 1 つ以上の PROCESSTYPE 定義の名前 (1 から 8 文字)。

サンプル画面

```
I PROC
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Pro(PROCESSTYPE12 ) Fil(FILE12 ) Aud(ADTLOG12) Pro Ena
Pro(PROCESSTYPE13 ) Fil(FILE13 ) Aud(ADTLOG12) Off Ena
Pro(PTYPE2B       ) Fil(FILE2B ) Aud(DFHJ2B ) Ful Ena
Pro(PTYPE39       ) Fil(FILE39 ) Aud(DFHJ39 ) Off Ena
Pro(SALESTYPE1    ) Fil(SALESF1 ) Aud(PL0G51 ) Off Dis
Pro(SALESTYPE4    ) Fil(SALESF4 ) Aud(PL0G51 ) Act Ena
Pro(SALESTYPE6    ) Fil(SALESF6 ) Aud(PL0G51 ) Off Ena
```

図 68. CEMT INQUIRE PROCESSTYPE 画面

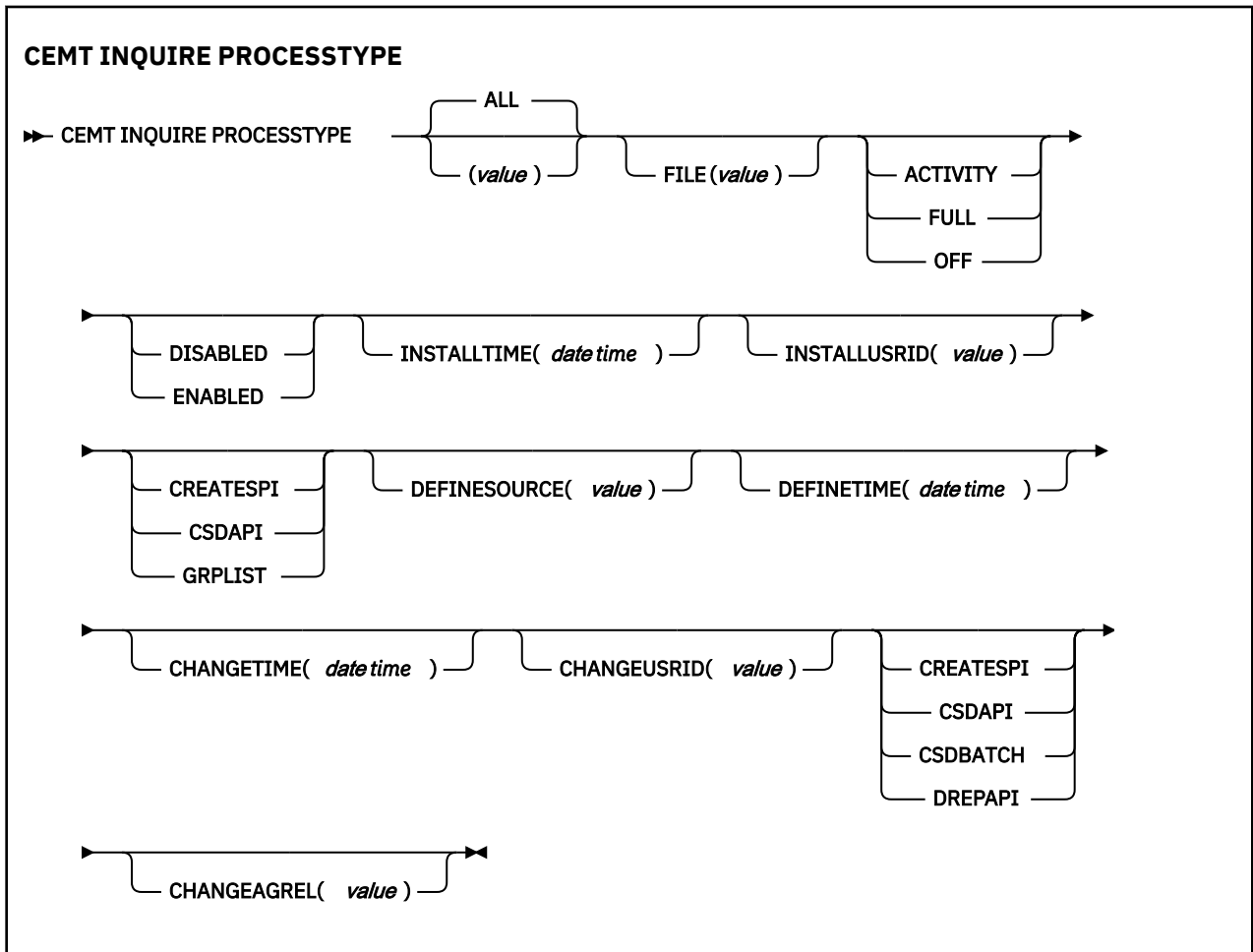
リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は [211 ページの図 69](#) に示すような拡張フォーマットを表示します。

```

I PROC
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
  Processtype(SALESTYPE4      )
  File(SALESF4 )
  Enablestatus( Enabled )
  Auditlog(PL0G51 )
  Auditlevel(Activity )

```

図 69. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

AUDITLEVEL

このタイプのプロセスで現在アクティブになっている 監査ログのレベルを表示します。値は以下のとおりです。

ACTIVITY

アクティビティ・レベルの監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティ 1 次監査ポイント

FULL

全監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティ 1 次監査ポイントおよび 2 次監査ポイント

OFF

監査証跡レコードは書き込まれません。

PROCESS

プロセス・レベルの監査。監査レコードは、プロセス監査ポイントのみから書き込まれます。

プロセス、アクティビティー 1 次監査ポイント、およびアクティビティー 2 次監査ポイントから書き込まれるレコードの詳細については、[監査ロギングのレベルの指定](#)を参照してください。

AUDITLOG(value)

このタイプのプロセスの監査ログとして使用される CICS ジャーナルの 8 文字の名前を表示します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS

このタイプの新規プロセスを作成できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

DISABLED

プロセス・タイプのインストール済み定義は使用不可です。このタイプの新しいプロセスを定義できません。

ENABLED

プロセス・タイプのインストール済み定義は使用可能です。このタイプの新しいプロセスを定義できます。

FILE(value)

このタイプのプロセスのプロセス・レコードおよびアクティビティー・レコードが保管されている CICS リポジトリ・ファイルの 8 文字の名前を表示します。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

PROCESSTYPE(value)

このパネルが PROCESSTYPE 照会に関連していることを示し、プロセス・タイプの 8 文字の名前を表示します。

CEMT INQUIRE PROFILE

トランザクション・プロファイルに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE PROFILE コマンドは、システムにインストールされているプロファイルに関する情報を返します。SET PROFILE 機能はありません。ただし、INQUIRE PROFILE 画面を使用して、プロファイルを破棄できます。このためには、破棄するプロファイルの名前の左マージンに D と入力します (DISCARD PROFILE 機能)。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE PROFILE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。以下の例のような画面が表示されます。

(value)

特定のプロファイルの名前。

ALL

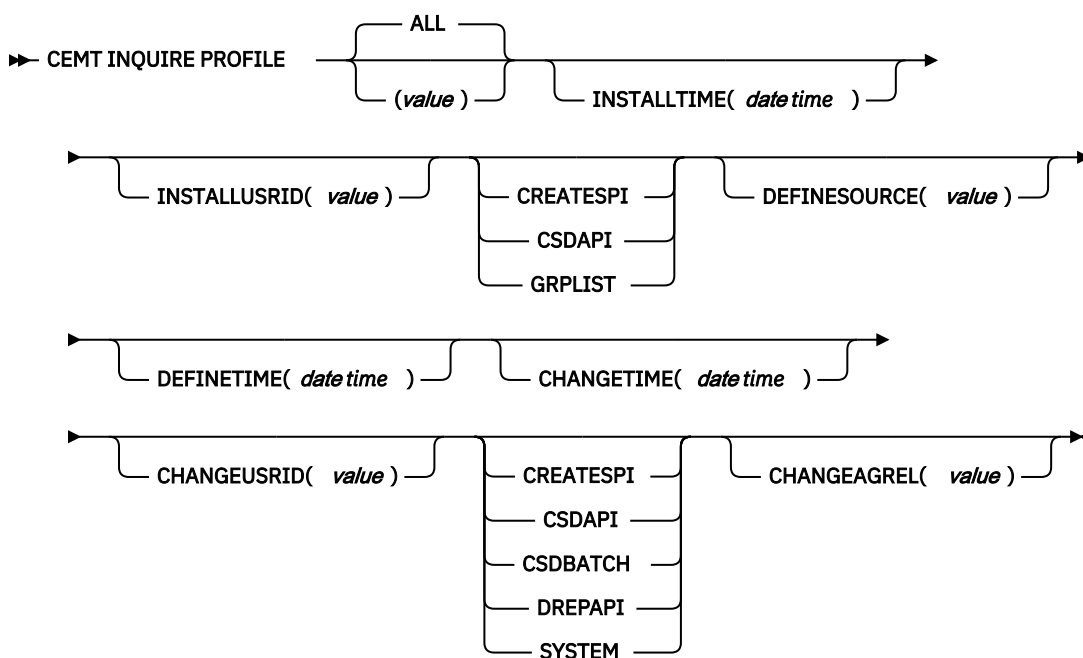
デフォルト。

サンプル画面

```
IN PROFILE
STATUS: RESULTS
Prof(DFHCICSA)
Prof(DFHCICSE)
Prof(DFHCICSF)
Prof(DFHCICSR)
Prof(DFHCICSS)
Prof(DFHCICST)
Prof(DFHCICSV)
```

図 70. CEMT INQUIRE PROFILE 画面

CEMT INQUIRE PROFILE



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

PROFILE(value)

このパネルが PROFILE 照会に関連していることを示し、システムにインストールされているプロファイルの 8 文字の名前を表示します。

CEMT INQUIRE PROGRAM

プログラム、マップ、区画のセットに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「プログラム」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE PROGRAM は、システムに定義されたプログラム、マップ・セット、および区画セットに関する情報を戻します。JVM で実行される Java プログラムは、値のサブセットを戻します。

プラットフォーム上にインストールされたアプリケーションの一部として定義されたプログラムは、そのアプリケーションのそのバージョン専用です。PROGRAM リソースが、アプリケーションの一部として（つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として）パッケージされてインストールされる CICS バンドルで定義される（つまり、アプリケーション・バンドルの一部として、またはアプリケーション・バインディング・バンドルの一部として定義される）場合、プログラムは専用のものになります。プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションのタスクによって自動インストールされたプログラムも、そのアプリケーションのそのバージョン専用です。専用プログラムは、CEMT INQUIRE PROGRAM コマンドを使用するときには表示されません。専用プログラムを照会またはブラウズするには、CICS Explorer または EXEC CICS INQUIRE PROGRAM システム・プログラミング・コマンドを使用します。アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言される専用プログラムは、アプリケーション・エントリー・ポイントのステートメントを格納する CICS バンドルが使用可能になると、公用プログラムになります。

CEMT INQUIRE PROGRAM のフィールド APPLICATION、APPLMAJORVER、

APPLMINORVER、APPLMICROVER、OPERATION、および PLATFORM は、アプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されている公用 PROGRAM リソースに関する情報を表示します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

CLEAR キーを押します。このトランザクションは以下の 2 つの方法で開始できます。

- CEMT INQUIRE PROGRAM と入力します。状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE PROGRAM と入力し、その後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な数だけ他の属性を入力します。例えば、`cemt i prog c e` と入力すると、C 言語で作成されて使用可能にされたプログラムの詳細だけが表示されます。

タブ・キーを使用して、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドにナビゲートし、必要な値を上書き入力できます。

(value)

インストールされたプログラム定義のテーブルに含まれる特定のプログラム項目の名前である、1 から 8 文字のプログラム ID。プログラム名を省略した場合、ALL オプションがデフォルトで想定されます。ワイルドカード文字 * を使用して、複数のプログラムの選択結果を戻すこともできます。例えば、CEMT INQUIRE PROGRAM (DFH*) と入力すると、DFH で始まるすべてのプログラムが戻されます。

CLASS オプションとプログラム名とを指定することはできません。

ALL

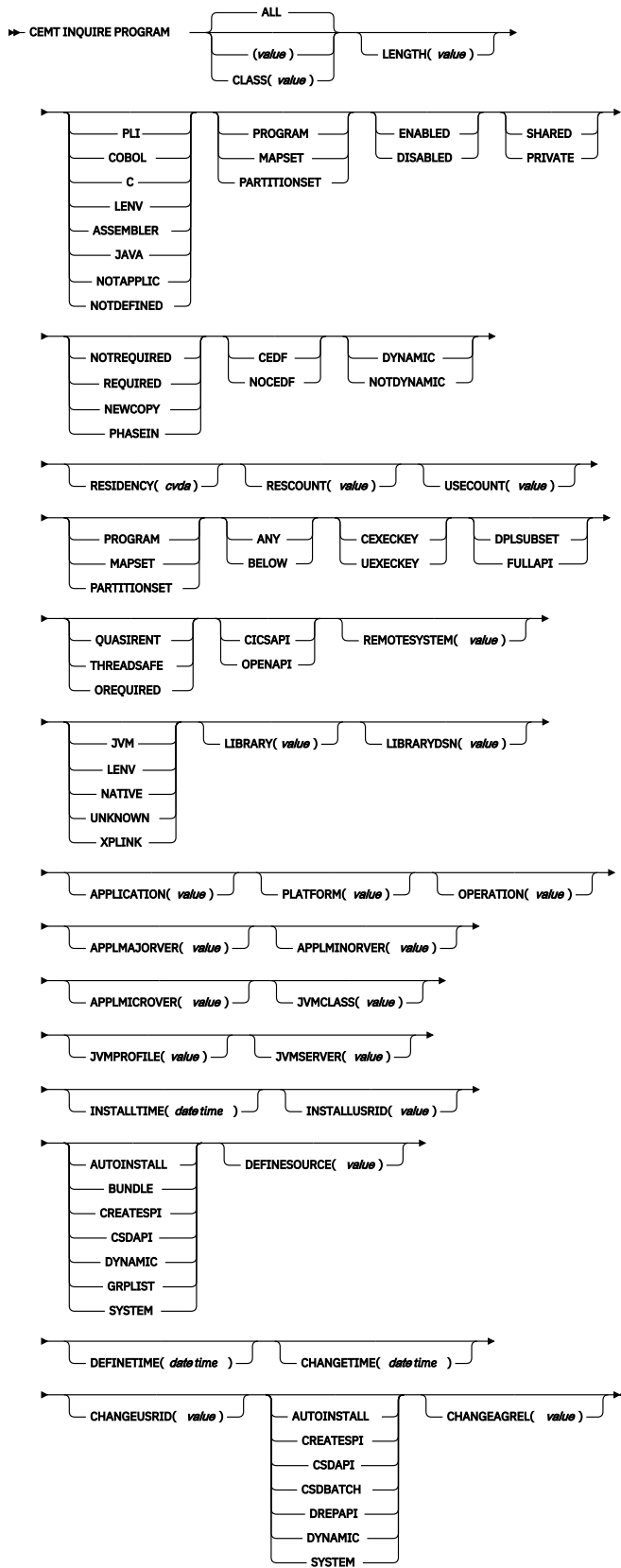
デフォルト。

CLASS(value)

プログラム・リスト・テーブル (PLT) の 2 文字のサフィックス。このオプションを使用して、指定の PLT に定義されたプログラムを照会します。シャットダウン PLT とは異なり、始動 PLT ではプログラム定義を定義することは必須ではありません。ただし、CLASS オプションを使用する場合、*clasid* で指定された PLT のプログラム・リソース定義を定義してインストールする必要があります。

指定された *clasid* がプログラム定義のない PLT のサフィックスである場合、**INQUIRE PROGRAM CLASS(*clasid*)** コマンドは CLASS NOT FOUND メッセージを戻します。

CEMT INQUIRE PROGRAM



表示されるフィールド

APPLICATION

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションの名前を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドは空白です。

APIST

インストール済みプログラム定義の API 属性を表示します。

CICSAPI

プログラムは CICS が許可したアプリケーション・プログラミング・インターフェースだけを使用するように制限されます。

プログラムを CONCURRENCY(QUASIRENT) で定義した場合、そのプログラムは常に準再入可能 (QR) TCB で実行されます。プログラムが CONCURRENCY(THREADSAFE) で定義されている場合は、適切と判断された時点で CICS によって使用されている TCB でプログラムが実行されます。プログラムが CONCURRENCY(REQUIRED) で定義されている場合は、常に L8 オープン TCB で実行されます。

OPENAPI

プログラムは、CICS が許可したアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用するには制限されません。

EXECKEY 属性の値に応じて、CICS は独自の L8 または L9 モードのオープン TCB 上でプログラムを実行します。プログラムが CONCURRENCY(REQUIRED) で定義されている場合、CICS は、EXECKEY(USER) が設定されている場合は L9 TCB を使用して EXECKEY(CICS) が設定されている場合は L8 TCB を使用します。CICS コマンドの実行中に CICS が QR TCB への切り替えを必要とする場合、それは制御を元のアプリケーション・プログラムに渡す前に開いた TCB に戻ります。OPENAPI では、プログラムがスレッド・セーフ標準に適合するようにコード化される必要があります。

APPLMAJORVER

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのメジャー・バージョン番号を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドは空白です。

APPLMICROVER

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのマイクロ・バージョン番号を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドは空白です。

APPLMINORVER

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのマイナー・バージョン番号を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドは空白です。

CEDFSTATUS

このプログラムが実行診断機能 (EDF) の下で実行しているとき、EDF がプログラムに対して実行するアクションを表示します。

CEDF

EDF がアクティブのとき、このプログラムの実行中に CEDF の開始画面および終了画面が CEDF によって表示されます。プログラムが NOEDF 変換プログラム・オプションを使用して変換されたものでない限り、他の画面も表示されます。

NOCEDF

開始画面と終了画面を含むすべての CEDF アクティビティーが、プログラムの処理中に停止します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソース定義は、Link to Liberty アプリケーションによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONCURRENCY

指定したプログラムの並行性属性を表示します。

QUASIRENT

プログラムは非スレッド・セーフとして定義されていて、QR TCB によって提供される自動逐次化が必要です。

THREADSAFE

プログラムはスレッド・セーフとして定義されていて、適切な逐次化技法を使用して共用リソースにアクセスしています。CICS QR TCB によって提供される自動逐次化は必要なく、TCB を安全にオープンして実行できます。

OREQUIRED

プログラムはスレッド・セーフとして定義されており、オープン TCB で実行する必要があります。使用されるオープン TCB のタイプは、API 設定によって異なります。

CONCURRENCY(OREQUIRED) の値はプログラム定義の CONCURRENCY(REQUIRED) に相当します。CEMT は OREQUIRED の値を使用して、オプション COPYSTATUS の REQUIRED の値から区別します。フィルター OREQUIRED を使用して、並行性設定が REQUIRED であるすべてのプログラムを戻すことができます。

COPYSTATUS

指定したプログラムのロード状況を表示します。

NOTREQUIRED

このプログラム状況では、プログラムを使用可能にするために **CEMT SET PROGRAM NEWCOPY** または **CEMT SET PROGRAM PHASEIN** を指定する必要はありません。プログラムが既に使用可能で、新しいバージョンを DFHRPL または動的 LIBRARY 連結に入れた場合は、NEWCOPY または PHASEIN コマンドを発行して現在のバージョンを置き換えます。

REQUIRED

ロード操作の途中でプログラムの検索が失敗し、以降のロードが試行されないように、プログラムはロード可能ではないとマーク付けされています。

プログラムをロード可能にするためには、**CEMT SET PROGRAM NEWCOPY** または **CEMT SET PROGRAM PHASEIN** を指定する必要があります。プログラムのコピーが、DFHRPL および動的ライブラリーを含む LIBRARY 連結の検索順序内にあることを確認してください。

この値は、以下の値を使用して上書きすることによりリセットできます。

NEWCOPY

プログラムを現在使用しているすべてのトランザクションが終了した (RESCOUNT がゼロに等しい) 場合、CICS はプログラムの新しいコピーを使用します。RESCOUNT がゼロではない場合、NEWCOPY は失敗します。CICS は PRIVATE または SHARED オプションに応じて、LIBRARY 連結 (DFHRPL および動的 LIBRARY を含む) の検索順序から、または LPA 常駐のバージョンを使用して、新しいバージョンをロードします。PRIVATE がデフォルト設定です。

HOLD オプションで指定されたプログラム、または JVM で実行される Java プログラムに、NEWCOPY を指定することはできません。

PHASEIN

CICS は、すべての新しいトランザクション要求に対して、プログラムの新しいコピーを使用するようになりました。現在実行中のすべてのトランザクションに対しては、それらが終了する (RESCOUNT がゼロと等しくなる) まで、CICS は引き続き従来のコピーを使用します。CICS は PRIVATE または SHARED オプションに応じて、LIBRARY 連結 (DFHRPL および動的 LIBRARY を含む) の検索順序から、または LPA 常駐のバージョンを使用して、新しいバージョンをロードします。PRIVATE がデフォルト設定です。

HOLD オプションで指定されたプログラム、または JVM で実行される Java プログラムに、PHASEIN を指定することはできません。

PHASEIN は REFRESH PROGRAM 機能を実行して、ローダー・ドメインに、プログラムの新しいバージョンがカタログされたこと、および指名されたプログラムのこのバージョンが将来のすべての ACQUIRE 要求で使用されることを知らせます。

プログラムの RESCOUNT がゼロになり、後続の **ACQUIRE PROGRAM** が実行されるまで、**CEMT INQUIRE PROGRAM** はプログラムの最初のコピーに関する情報を戻します。

DATALOC

プログラムが 16 MB よりも上位のデータ・アドレスを受け入れることができるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ANY

プログラムは、31 ビット・アドレスを処理できます。データのアドレスは、16 MB の上でも下でも可能です。CICS は、可能であれば 16 MB の上のアドレスを戻します。

BELOW

プログラムは 24 ビット・アドレスのみを処理します。したがって、16 MB より下に位置するデータのアドレスを渡す必要があります。16 MB より上に位置するデータを渡す必要がある場合、CICS はアプリケーション・プログラムにアドレスを渡す前に、データを 16 MB より下にコピーします。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DYNAMSTATUS

プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合に、要求を動的にルーティングできるかどうかを表示します。

DYNAMIC

プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合、CICS 動的ルーティング・プログラムが呼び出されます。リモート・サーバー領域が **EXEC CICS LINK** コマンドの SYSID オプションで明示的に名前指定されていない場合は、ルーティング・プログラムはそのプログラムが実行する領域に要求をルーティングできます。

NOTDYNAMIC

プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合、動的ルーティング・プログラムが呼び出されません。

分散プログラム・リンク (DPL) 要求の場合、PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM オプションか **EXEC CICS LINK** コマンドの SYSID オプションで、プログラムが実行するサーバー領域を明示的に指定しなければなりません。指定しないと、デフォルトのローカル領域になります。

DPL 要求の動的ルーティングに関する情報は、[DPL 要求の動的ルーティング](#)を参照してください。

EXECKEY

プログラムが実行しているアクセス・キーを表示します。

CEXECKEY

プログラムは CICS アクセス・キーで実行し、CICS キーとユーザー・キーの両方のストレージに対する読み取りおよび書き込み権限を持ちます。

UEXECKEY

プログラムはユーザー・アクセス・キーで実行され、ユーザー・キーのストレージに対する書き込みアクセス権を付与されていますが、CICS キーのストレージについて付与されているのは読み取り専用アクセス権限です。

EXECUTIONSET

プログラムが、分散プログラム・リンク要求と同様に、API サブセットに制限されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

DPLSUBSET

プログラムがローカル CICS 領域で実行されるとき、分散プログラム・リンク要求と同様に、DPL API サブセットに制限されます。

プログラムがリモート領域で DPL 要求により呼び出されるときには、このオプションが指定されていない場合でも、常に DPL サブセットに制限されます。

FULLAPI

プログラムがローカル CICS 領域で実行されるとき、CICS API の DPL サブセットに制限されないで、全機能 API を使用できます。

プログラムがリモート領域で DPL 要求により呼び出されるときには、このオプションには関係なく、常に DPL サブセットに制限されます。

この値は、別の値で上書きするとリセットできます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソース定義は、Link to Liberty アプリケーションによって最後にインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM

リソースは、CICS または CICSplex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

JVMCLASS

Java プログラムまたは OSGi サービスのメイン・クラスの名前を、最大 255 文字で、PROGRAM 定義に指定されているとおりに表示します。

JVMPROFILE

この Java プログラムが実行されるプールされた JVM 用に使用される JVM プロファイルの名前を表示します。

JVMSERVER

この OSGi サービスを JVM サーバーで実行するために使用される JVMSERVER リソースの名前を表示します。

LANGUAGE

プログラムが作成された言語を表示します。

PLI、COBOL、C、Lenv、または Assembler

サポートされる言語。**Lenv** は、モジュールが、言語にかかわらず複数言語サポートを使用するか、または Language Environment に準拠するコンパイラを使用してコンパイルされたことを示します。

JAVA

プログラムは Java で作成されました。

NOTAPPLIC

言語はリソース定義内に指定されておらず、ロードされていません。

NOTDEFINED

プログラムが作成された言語が定義されていません。

LENGTH(value)

プログラムのサイズをバイト数で表示します。プログラムが CICS の実行中にロードされていない場合、戻される値は 000000000000 です。モジュールがリモート・プログラムか JVM 内で実行する Java プログラムの場合、値は戻されません。

LIBRARY(value)

プログラムが現在ロードされている LIBRARY の 8 文字の名前を表示します。

注:

- インストール済みの LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリーおよびライブラリー・データ・セットの名前が戻されます。
- 使用不可になっている LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリー名は戻されますが、ライブラリー・データ・セット名はブランクです。
- 廃棄されている LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリーおよびライブラリー・データ・セットの名前は両方ともブランクになります。

LIBRARYDSN(value)

プログラムが現在ロードされている LIBRARY 内にあるデータ・セットの 44 文字の名前を表示します。

注:

- インストール済みの LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリーおよびライブラリー・データ・セットの名前が戻されます。
- 使用不可になっている LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリー名は戻されますが、ライブラリー・データ・セット名はブランクです。
- 廃棄されている LIBRARY リソースからプログラムがロードされた場合は、ライブラリーおよびライブラリー・データ・セットの名前は両方ともブランクになります。

OPERATION

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーション操作の名前を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

PLATFORM

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのプラットフォーム名を表示します。プログラムがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

PROGRAM(value)

このパネルが PROGRAM 照会に関係していることを示し、インストールされたプログラム定義のテーブルに含まれる特定のプログラム項目の名前である、8 文字のプログラム ID (1 文字から 8 文字) を表示します。

PROGTYPE

プログラムのタイプを表示します。

PROGRAM

項目は CICS システム定義でプログラムとして定義されています。

MAPSET

項目は CICS システム定義でマップ・セットとして定義されています。

PARTITIONSET

項目は CICS システム定義で区画セットとして定義されています。

REMOTESYSTEM(value)

プログラムが実行されるリモート・システムの 4 文字の名前を表示します。

RESCOUNT(value)

この照会の時点における、このプログラムの別個の呼び出し数を示す 3 文字のストリングを表示します。モジュールがリモート・プログラムか JVM 内で実行する Java プログラムの場合、値は戻されません。

この数は、モジュールが DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からロードされた回数と同じであるとは限りません。

RESIDENCY(value)

プログラムの常駐属性を表示します。

RESIDENT

プログラムは永続的に常駐します。これは RESIDENT(YES) として定義されています。

NONRESIDENT

プログラムが RESIDENT(NO) として定義されている場合。

RUNTIME

プログラムのランタイム環境に関する情報を表示します。

JVM

このプログラムは、Java 仮想マシン (JVM) で実行する Java プログラムです。

Lenv

このプログラムは、Language Environment ランタイム・サポートを使用して実行中です。

NATIVE

プログラムは、(Language Environment ではなく) ネイティブ言語のランタイム・サポートを使用して実行中です。

NOTKNOWN

プログラムは CICS によってロードされていないので、ランタイム環境は不明です。使用するランタイム環境を示すソース言語を推定できません。

XPLINK

プログラムは、XPLINK オプションを使用してコンパイルされた C または C++ プログラムです。

SHARESTATUS

NEWCOPY または PHASEIN 要求を次に受け取る時に、プログラムの次の新しいコピーをどこからロードするかを表示します。

SHARED

CICS はリンク・バック域 (LPA) からのプログラムの共用コピーを使用しています。使用可能な LPA バージョンがない場合、プログラムは DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からロードされます。

PRIVATE

プログラムの次の新しいコピーは DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からロードされます。
この値は、別の値で上書きするとリセットできます。

STATUS

プログラムが使用可能かどうかを、次の値を使用して表示します。

ENABLED

プログラムは使用可能です。

DISABLED

プログラムは使用不可です。

DFH で始まるプログラムは、これらの文字が CICS で使用するために予約されているので、使用不可にすることはできません。

この値は、別の値で上書きするとリセットできます。

USECOUNT(value)

現行の CICS セッションの開始以降にプログラムが実行された合計回数を示す 10 文字のストリングを表示します。Java プログラムを含め、すべてのモジュールの使用回数が提供されます。ただし、リモート・プログラムを除きます。プログラムがリモートの場合は、値は戻されません。

最大値は 2147483647 です。この値に達すると、使用回数は変わらなくなります。

CEMT INQUIRE RRMS

リカバリー可能リソース管理サービス (RRMS) 情報の取得

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE RRMS は、CICS がインバウンド・トランザクション外部 CICS インターフェース (EXCI) の作業を受け入れるかどうかを示します。

入力

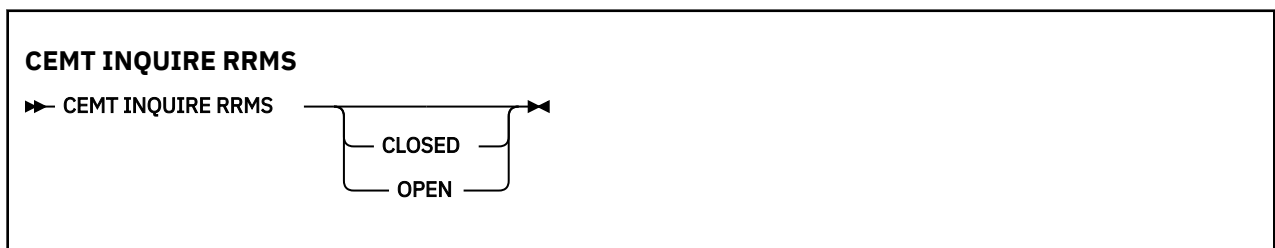
Clear キーを押して、CEMT INQUIRE RRMS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。

サンプル画面

```
IN RRMS
STATUS: RESULTS
Openstatus(Open)
```

図 71. CEMT INQUIRE RRMS 画面



表示されるフィールド

OPENSTATUS

インバウンド・トランザクション EXCI の作業の状況を示す値を表示します。値は以下のとおりです。

CLOSED

CICS は、インバウンド・トランザクション EXCI の作業を受け入れません。

OPEN

CICS は、インバウンド・トランザクション EXCI の作業を受け入れます。

UNAVAILABLE

CICS の初期設定は RRMS なしで行われます。

CEMT INQUIRE STATISTICS

統計情報を取得します。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE STATISTICS コマンドは、統計が累算される間隔、シャットダウン (または論理的な 1 日の終わり) 統計用の 1 日の終わり時刻、統計が次に記録される (つまり、SMF データ・セットに書き込まれる) 時刻、および統計の記録が現在オンまたはオフのどちらかを示します。

CICS 提供のユーティリティー・プログラム DFHSTUP を使用した統計の印刷については、[統計ユーティリティー・プログラム \(DFHSTUP\)](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE STATISTICS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。

以下の例のような画面が表示されます。表示されている値のいずれかを変更するには、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドまで Tab キーで移動して、必要に応じてこれらのフィールドを上書きします。

サンプル画面

```
IN STATI
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Sta On      Int( 010000 ) End( 000000 ) Nex(150000)
```

図 72. CEMT INQUIRE STATISTICS 画面

注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、[226 ページの図 73](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```

IN STAT
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
統計
Recording( Off )
Record(          )
Reset(          )
Interval( 010000 )
Endofday( 000000 )
Nexttime(000000)

```

図 73. 展開表示

CEMT INQUIRE STATISTICS

▶▶ CEMT INQUIRE STATISTICS ◀◀

表示されるフィールド

ENDOFDAY(hhmmss)

統計の記録の終了時刻を表示します。終業時に、CICS 統計カウンターの現行値が SMF データ・セットに書き出され、統計カウンターがリセットされます。

終業時刻の範囲は 000000 から 235959 でなければなりません。デフォルトの終業時刻は真夜中の 12 時 (000000) です。

INTERVAL (hhmmss)

統計カウンターのインクリメントを行う時間間隔を表示します。各間隔の終わりに、累積した統計が記録され、統計カウンターがリセットされます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

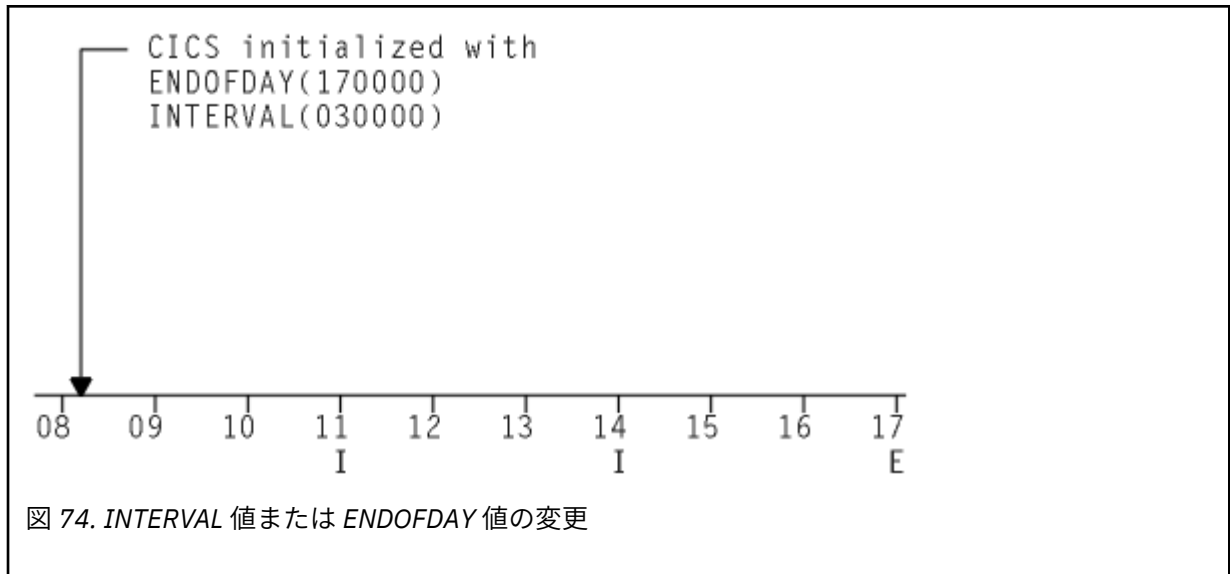
間隔時間の範囲は 000100 から 240000 でなければなりません。デフォルトの間隔値は 010000 (1 時間) です。間隔値を変更できますが、統計記録状況が ON に設定されない限り、変更は有効になりません。このコマンドで RECORDING オプションを使用するか、**STATRCD** システム初期設定パラメーターを使用して、統計記録状況を ON または OFF に設定できます。

ENDOFDAY 時刻になると、現行間隔は常に終了し (完全でない可能性があります)、新規間隔が開始されます。1 日の終わり時刻が間隔の満了時刻と正確に一致する場合でも、1 日の終わり時刻には 1 日の終わり統計のみが記録されます。

ENDOFDAY 値を変更すると、INTERVAL 統計が記録される時刻に直ちに影響が生じます。新しい間隔の有効期限時刻は、新しい 1 日の終わり時刻に従って再調整されます。

INTERVAL 値または ENDOFDAY 値を変更する場合 (および CICS を初期設定する場合にも)、1 日の終わり時刻を起点にして整数回の間隔の経過後に満了するように、現行の (または最初の) 間隔の長さが調整されます。

これらの規則の例を以下に示します。ここで、**I** は間隔記録を指定し、INTERVAL は 3 時間ごとの間隔に設定され、CICS は 08:15 に初期設定され、**E** は ENDOFDAY の設定を 17:00 に指定します。



注：この例では、CICS の初期設定がこれより早い時刻に行われていた場合、間隔は 08:00 に設定されます。

1 日の終わり記録が 24 時間をカバーするようにする場合は、INTERVAL を 240000 に設定します。

NEXTTIME(hhmmss)

統計が次に記録されてリセットされる時刻を表示します。これは、現在の間隔の満了時刻と 1 日の終わりの時刻のどちらか早い方です。

RECORD (入力専用フィールド)

既存の統計が SMF データ・セットに書き込まれるかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

RECORD

既存の統計は SMF データ・セットに書き込まれます。この統計は、最後の ENDOFDAY または INTERVAL の収集以降、またはこのコマンドまたは PERFORM STATISTICS コマンド内で RESETNOW 機能が最後に使用された時点以降に収集されたものです。

注：

1. RECORD と RESET の両方を指定すると、統計カウンターが SMF データ・セットに書き込まれ、リセットされます。表示される統計は、最後の ENDOFDAY または INTERVAL の収集以降、またはこのコマンドまたは PERFORM STATISTICS コマンド内で RESETNOW 機能が最後に使用された時点以降に収集されたものです。
2. RECORD RESET は、記録状態が変更されたときにのみ有効になります。

RECORDING

間隔統計の記録のスイッチがオンかオフかを表示します。終業時統計、要求統計、および非送信請求統計は、ON または OFF オプションの設定に関係なく常に記録されます。(要求統計とは、CEMT PERFORM STATISTICS コマンドや EXEC CICS PERFORM STATISTICS RECORD コマンドによって呼び出される統計です。) 値は以下のとおりです。

ON

間隔統計が記録されます。カウンターは通常どおり増分され、各間隔の満了時および終業時にリセットされます。

OFF

間隔統計は記録されません。引き続き、カウンターは通常どおり増分され、1 日の終わり、要求、および非送信請求の各統計が記録されます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

RESET (入力専用フィールド)

統計カウンターをリセットするかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

RESET

統計カウンターはリセットされます。リセットは、記録オプションを OFF から ON に、または ON から OFF に変更する場合にのみ有効になります。個々のカウンターをリセットした場合の影響については、[DFHSTUP レポートの CICS 統計テーブルの説明](#)を参照してください。

各カウンターのアクションは、以下のいずれかです。

- リセットされない
- ゼロにリセットされる
- 1 にリセットされる
- 現行値にリセットされる (ピーク値の場合)
- 上記に対する例外

STATISTICS

このパネルが STATISTICS 照会に関係していることを示します。

CEMT INQUIRE STREAMNAME

現在接続されている MVS ログ・ストリームに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE STREAMNAME コマンドを使用して、現在接続されている MVS ログ・ストリームを照会できます。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE STREAMNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE STREAMNAME (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i str fai sys` と入力すると、障害を起こしたシステム・ログであるストリーム名のみの詳細が結果に表示されます。

これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。

(value)

MVS システム・ロガー・ログ・ストリーム名。この名前として、最大 26 文字の固有の LSN を指定できます。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN STRE
STATUS:  RESULTS
Str(BELL.CICSHT61.DFHLOG      ) Use(00000001) Ok Sys
```

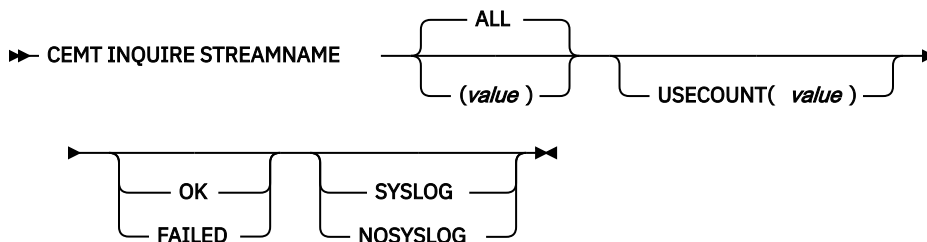
図 75. CEMT INQUIRE STREAMNAME 画面

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [229 ページの図 76](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
IN STRE
RESULT
  Streamname(BELL.CICSHT61.DFHLOG)
  Usecount(0000001)
  Status(Ok)
  Systemlog(Syslog)
```

図 76. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE STREAMNAME



表示されるフィールド

STATUS

ログ・ストリームの状況を表示します。値は以下のとおりです。

OK

エラーは検出されませんでした。

FAILED

MVS システム・ロガーは、指定されたログ・ストリームに関する問題を検出しました。

STREAMNAME (value)

このパネルが STREAMNAME 照会に関連していることを示し、MVS システム・ロガーのログ・ストリーム名を表示します。

SYSTEMLOG

このログ・ストリームがシステム・ログであるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

SYSLOG

ログ・ストリームはシステム・ログです。

NOSYSLOG

ログ・ストリームはシステム・ログではありません。

USECOUNT(value)

現在ログ・ストリームを使用している CICS ジャーナル名および順方向リカバリー・ログの数を表示します。

使用回数は常に 1 になります。これは、ユーザーが存在しなくなったログ・ストリームに関する情報を CICS が維持しないためです。この場合、INQUIRE STREAMNAME コマンドは ERROR 条件を戻します。

ログ・ストリーム名が CICS システム・ログを参照している場合、使用回数は常に 1 になります。これは、ユーザー・アプリケーション・プログラムがリカバリー・レコードを CICS システム・ログに書き込む場合であっても同様です。

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE

システム・ダンプ・コード・テーブルに関する情報を取得します。

説明

, INQUIRE SYDUMPCODE コマンドを使用して、システム・ダンプ・テーブル内のエントリーの現在の設定を表示できます。NO で始まる設定 (例えば NOSYSDUMP) は、ブランクとして表示されます。

INQUIRE コマンドは、以下の情報を表示します。

- システム・ダンプ・コードまたはメッセージ ID
- CICS がシステム・ダンプを生成するかどうか
- システム・ダンプ要求がローカルか関連か
- CICS がダンプの後にシャットダウンするかどうか
- 現在生成されたダンプの数
- 最大ダンプ数
- CICS によって生成されたダンプが、MVS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによる抑止の対象であるかどうか。

システム・ダンプ・コードは、DFH 接頭部を除いた CICS メッセージ番号です。通常、2 つの英字と 4 つの数字からなる 6 文字のコードが残ります (例えば、AP0001)。コマンド構文には、最大 8 文字のダンプ・コードを指定でき、ユーザーが指定するダンプ・コードには末尾スペースが埋め込まれます。

各メッセージには固有のデフォルト・アクションがあり、**SET** コマンドを使用してこれらのアクションを必ずしもオーバーライドできるとは限りません。例えば、重大なエラーが発生したときは、ユーザーがシャットダウンを行わないように要求した場合でも、CICS はシャットダウンします。

他のシステム・パラメーターが、ダンプ・テーブル・エントリーより優先されることがあります。例えば、**EXEC CICS SET SYSTEM DUMPING NOSYSDUMP** コマンド、または **DUMP=NO** システム初期設定パラメーターは、システム・ダンプを抑制します。ダンプの使用については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

INQUIRE SYDUMPCODE コマンドは、ユーザー・アプリケーション・プログラムまたは CEMT コマンドによってダンプ・テーブルに追加されたエントリーを返し、また CICS がダンプ要求によってダンプ・テーブルに追加したエントリーも返します。CICS がダンプ・テーブルに追加したエントリーは一時的なものであり、ウォーム・スタート時にも、コールド・スタートまたは初期始動時にも復元されないことに注意してください。ユーザー・アプリケーション・プログラムまたは CEMT コマンドによって追加されたエントリーは、ウォーム・スタート時には復元されますが、コールド・スタートまたは初期始動時には復元されません。

トランザクション・ダンプ・コマンド **SET TRDUMPCODE** により、指定されたトランザクション・ダンプ・コードのシステム・ダンプを生成するように CICS に指示することもできます。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは **CHANGEAGENT**、**CHANGEAGREL**、**CHANGETIME**、**CHANGEUSRID**、**DEFINESOURCE**、**DEFINETIME**、**INSTALLAGENT**、**INSTALLTIME**、および **INSTALLUSRID** です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT **INQUIRE SYDUMPCODE** (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT **INQUIRE SYDUMPCODE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、**cemt i syd sy sh** と入力すると、システム・ダンプが生成される対象のシステム・ダンプ・コード、および CICS がシャットダウンする対象のシステム・ダンプ・コードのみの詳細が結果に表示されます。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

(value)

8 文字のシステム・ダンプ・コード。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
I SYD
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Syd(AP0001 ) Sys Loc      Max( 010 ) Cur(0000)      Dae
Syd(AP0002 ) Sys Loc      Max( 999 ) Cur(0000)
```

図 77. CEMT INQUIRE SYDUMPCODE 画面

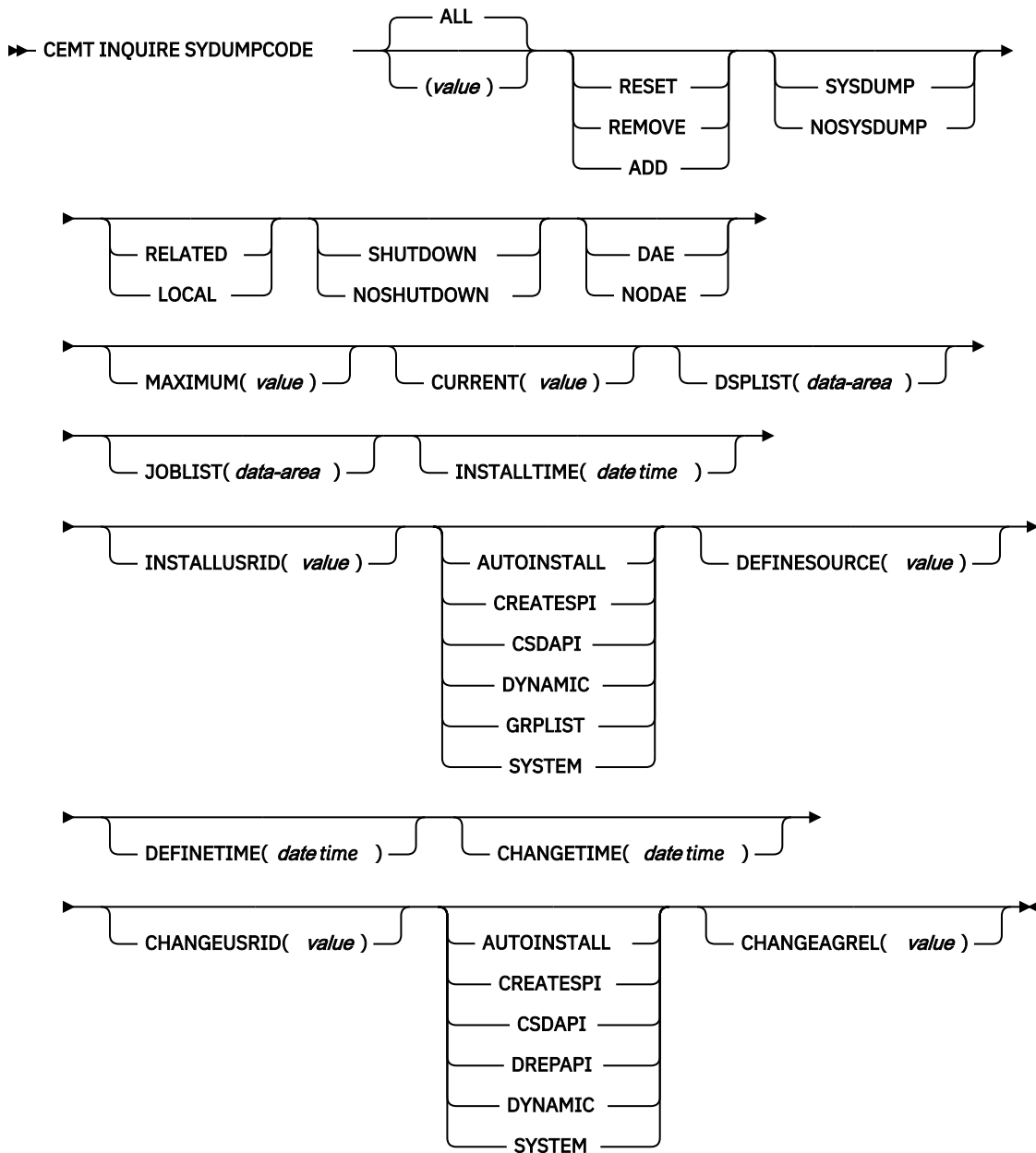
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、[231 ページの図 78](#) に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
I SYD
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Sydumpcode(AP0001)
Sysdumping( Sysdump )
Dumpscope( Local )
Shutoption( Noshutdown )
Maximum( 010 )
Current(0000)
Action(          )
Daeoption( Dae )
Joblist(         )
Joblist(         )
Joblist(         )
Dsplist(         )
Dsplist(         )
Dsplist(         )
Dsplist(         )
Dsplist(         )
Installtime(19/07/22 09:01:00)
Installuserid(userid)
Installagent(Csdapi)
Definesource(TEMP)
Definetime(19/07/22 09:02:00)
Changetime(19/07/22 09:04:00)
Changeusrid(userid)
Changeagent(Csdapi)
Changeagrel(0730)
```

図 78. 展開表示

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE



表示されるフィールド

ACTION (入力専用フィールド)

このシステム・ダンプ・コードに対して実行するアクションを指定します。値は以下のとおりです。

RESET

このダンプ・コードの現在の呼び出し回数は、ゼロにリセットされます。

REMOVE

このシステム・ダンプ・コードは、システム・ダンプ・コード・テーブルから削除されます。

ADD

このシステム・ダンプ・コードは、システム・ダンプ・コード・テーブルに追加されます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソースは、**SET SYSDUMPCODE** コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS によって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CURRENT (value)

値が最後に 0 にリセットされたとき以降、このダンプ・コードについて行われたダンプ呼び出しの回数を表示します。

DAEOPTION

CICS のために作成されたダンプが、MVS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによる抑止の対象になるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

DAE

システム・ダンプは DAE コンポーネントによる抑止の対象です。

NODAE

システム・ダンプは DAE コンポーネントによって抑止されません。ただし、ADYSETxx parmlib メンバーに **SUPPRESS** および **SUPPRESSALL** オプションが指定されていると、NODAE がここで設定されていてもダンプが抑止される可能性があります。これらのオプションは、SDWA 内の VRADAE キーと VRANODAE キーによって制御されます。DAE、SUPPRESS、および SUPPRESSALL については、[z/OS MVS 診断: ツールと保守援助プログラム](#)を参照してください。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DSPLIST(data-area)

ダンプ対象であるデータ・スペースのリストを返します。データ・スペース名はコンマで区切られます。このフィールドには、最大 255 文字が含まれます。

DUMPSCOPE (value)

ダンプが開始された CICS 領域に関連した、XCF/MRO 接続の CICS 領域を実行するシスプレックス内の MVS イメージに、システム・ダンプ要求を送信するかどうかを表示します。

注: 関連した CICS 領域とは、1 つ以上のタスクの作業単位 ID (APPC トークンの形式) が、ダンプ要求を発行した CICS 領域内の ID と一致する領域を指します。

RELATED

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプ要求が送信されます。

LOCAL

このシステム・ダンプ・コードについては、システム・ダンプ要求がシスプレックス内の他の MVS イメージに送信されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

JOBLIST(data-area)

ダンプ対象であるアドレス・スペースのリストを返します。アドレス・スペース名はコンマで区切られます。このフィールドには、最大 134 文字が含まれます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは、**SET SYSDUMPCODE ADD** コマンドによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM

CICS によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MAXIMUM (value)

システム・ダンプの作成が行われる、このシステム・ダンプ・コードのダンプ呼び出しの最大数を表示します。この値の範囲は 0 から 999 までで、SIT パラメーターの SYDUMAX を使用して指定できます。値 999 は、デフォルト (制限なし) を意味します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SHUTOPTION

このダンプ・コードに対応するエラーが発生した後、CICS がシャットダウンするかどうかを表示します。

SHUTDOWN

CICS はシャットダウンします。

NOSHUTDOWN

CICS はシャットダウンしません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SYDUMPCODE (value)

このパネルが SYDUMPCODE 照会に関連していることを示し、8 文字のシステム・ダンプ・コードを表示します。

SYSDUMPING

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプが作成されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

SYSDUMP

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプを作成します。

NOSYSDUMP

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプを作成しません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CEMT INQUIRE SYSTEM

CICS システムについての情報を取得します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE SYSTEM コマンドは、CICS システムに関する情報を戻します。

入力

Clear キーを押して画面をクリアし、**CEMT INQUIRE SYSTEM**と入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。複数の画面にわたってフィールドが表示されます。すべてのフィールドを表示するには、スクロール・ファンクション・キーを使用してください。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドを tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。

- 該当するフィールドにカーソルを移動させて、**INQUIRE** 画面で変更を上書き入力します ([235 ページの図 79](#) を参照してください)。
- **CEMT SET SYSTEM** コマンドを使用します。

サンプル画面

```
inq system
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Aging( 32768 )
Aidcount(000000)
Akp( 04000 )
Cicstslevel(050600)
Cmdprotect(Cmdprot)
Db2conn(RCTJT)
Debugtool( Nodebug )
Dfltuser(JSMITH1)
Dsalimit( 05242880 )
Dsrtprogram( NONE )
Dtrprogram( DFHDYP )
Dumping( Sysdump )
Edsalimit( 0838860800 )
Forceqr( Noforce )
Lastcoldtime(18/06/06 12:45:25)
Lastemertime()
+ Lastinittime(18/06/06 08:16:29)

RESPONSE: NORMAL
PF 1 HELP      3 END      5 VAR      7 SBH 8 SFH 9 MSG 10 SB 11 SF

SYSID=HT63 APPLID=CICSHT63
TIME: 13.38.00 DATE: 18/06/06
```

図 79. CEMT INQUIRE SYSTEM 画面 1

CEMT INQUIRE SYSTEM

► CEMT INQUIRE SYSTEM ◀

表示されるフィールド

AGING (value)

タスクの優先度を上げるために優先順位繰り上げアルゴリズムで使用する CICS の時間係数を表示します。この値は"優先順位繰り上げ単位当たりのミリ秒数"で表され、その範囲は 0 から 65535 までです。

優先順位繰り上げ係数は、最初は **PRTYAGE** システム 初期設定パラメーターで定義されます。このパラメーターの値は待機タスクの優先度を 1 ずつ上方調整するのにかかるミリ秒数を表します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

AIDCOUNT(data-area)

ローカル・システムの自動開始プログラム記述子 (AID) チェーン内にある AID の現在の数を示すフルワード・バイナリー値を戻します。

AKP (value)

活動キーポイント・トリガー値を表示します。この値は、キーポイント間の CICS システム・ログ・ストリーム出力バッファへの書き込み要求の数です。値は活動キーポイント処理をオフにすることを意味するゼロにするか、50 から 65535 までの範囲で指定します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

CICSTSLEVEL (value)

CICS 領域を実行する CICS Transaction Server for z/OS 製品のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを識別する 6 文字の値を表示します。値の形式は *wrrmm* です。例えば、CICS Transaction Server バージョン 5 リリース 6 は 050600 を戻します。

CMDPROTECT (value)

CICS コマンドで渡される開始アドレスを検証するコマンド保護がアクティブであるかどうか (CMDPROT システム 初期設定パラメーターが YES または NO のどちらであるか) を表示します。値は以下のとおりです。

CMDPROT

コマンド保護はアクティブです。CICS は、タスク自体にコマンド上で参照されるストレージへの書き込み権限があるかどうかを確認した後に、そのタスクに代わってストレージに書き込みます。

NOCMDPROT

コマンド保護はアクティブではありません。CICS は、タスクに代わってストレージに書き込む前に、タスク自体にコマンド上で参照されるストレージへの書き込み権限があるかどうかを確認しません。

DB2CONN (value)

現在インストールされている DB2CONN リソース定義の名前を表示します。DB2CONN 定義は一度に 1 つのみインストールできます。DB2CONN リソース定義は、CICS と Db2 の間の接続の属性を指定します。

DEBUGTOOL(value)

デバッグ・プロファイルを使用して、デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択できるかどうかを表示します。デバッグ・プロファイルを使用するデバッグ・ツールは、以下のとおりです。

- ・コンパイル言語アプリケーション・プログラム (COBOL、PL/I、C、C++、およびアセンブラで作成されたプログラム) 用のデバッグ・ツール
- ・リモート・デバッグ・ツール (コンパイル言語アプリケーション・プログラムおよび Java プログラムの場合)

CICS 実行診断機能 (CEDF) などの他のデバッグ・メカニズムは、デバッグ・プロファイルを使用しません。

値は以下のとおりです。

DEBUG

CICS デバッグ・プロファイルを使用して、デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択できます。

NODEBUG

デバッグ・ツールの制御下で実行するプログラムを選択するために CICS デバッグ・プロファイルを使用できません。

デバッグ・プロファイルについて詳しくは、[デバッグ・プロファイル](#)を参照してください。

DFLTUSER (value)

CICS 領域のこのインスタンスのデフォルト・ユーザーのユーザー ID を表示します。

DSALIMIT (value)

CICS が 16 MB 境界より下にある 4 つの個々の DSA で動的に割り振ることができるストレージの最大量をバイトの総数で表示します。詳しくは、[DSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

このパラメーターで現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DSRTPROGRAM (pgrmid)

分散ルーティング・プログラムの名前を表示します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DTRPROGRAM (pgrmid)

動的ルーティング・プログラムの名前を表示します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DUMPING(value)

CICS システム・ダンプが抑制されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

NOSYSDUMP

システム・ダンプは抑制されます。

TABLEONLY

sdumps の取得を可能にする項目がダンプ・テーブル内にあるもの以外の、システム・ダンプを抑制します。

SYSDUMP

システム・ダンプは抑制されません。

これらの値は、SIT パラメーターの DUMP=NO、TABLEONLY または YES で設定されます。

EDSALIMIT (value)

ストレージの最大容量を、合計バイト数で表示します。CICS はこの範囲内で、16 MB より上、ただし 2 GB より下にある DSA のそれぞれに動的にストレージを割り振ることができます。詳しくは、[EDSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

このパラメーターで現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

FORCEQR (value)

CICS が、スレッド・セーフとして定義されているすべての CICSAPI ユーザー・アプリケーション・プログラムを準再入可能 (QR) TCB 上で強制的に実行するかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

FORCE

CICS は、CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性で指定したすべてのユーザー・アプリケーション・プログラムを、CONCURRENCY(QUASIRENT) で指定したかのように、QR TCB の下で強制的に実行します。**FORCE** オプションは、特定のプログラム、例えば OPENAPI プログラムや、XPLINK でコンパイルされた C/C++ プログラムなどには適用されません。詳しくは、[FORCEQR システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

NFORCE

CICS は、CICSAPI ユーザー・アプリケーション・プログラムで CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を尊重し、不要な TCB 切り替えを避けるためにそのユーザー・プログラムがオープン TCB を実行することを許可します。

LASTCOLDTIME (value)

最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後のコールド・スタートの日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーター システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

最後の初期始動以来 CICS システムがコールド・スタートをしていない場合は、ヌル値が返されます。

LASTEMERTIME (value)

最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後の緊急始動の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーター システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

最後の初期始動以来 CICS システムが緊急始動をしていない場合は、ヌル値が返されます。

LASTINITTIME (value)

CICS システムの最後の初期始動の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーター システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

LASTWARMTIME (value)

最後の初期始動より後に行われた CICS システムの最後のウォーム・スタートの日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーター システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

最後の初期始動以来 CICS システムがウォーム・スタートをしていない場合は、ヌル値が返されます。

LOGDEFER (value)

ログ延期間隔をミリ秒で表示します。これは、CICS ログ・マネージャーが、MVS システム・ロガーを呼び出す前に強制ジャーナル書き込み要求をどれだけ遅らせるかを判断するのに使用する期間です。値の範囲は 0 から 65535 までです。この間隔は、MVS システム・ロガーを起動するまでの、強制ジャーナル書き込み要求を遅らせる期間を決定する場合に、CICS ログ・マネージャーで使用される期間です。値の範囲は 0 から 65535 までです。詳しくは、LGDFINT システム初期設定パラメーターを参照してください。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

MAXTASKS (value)

どの時点においても CICS システム内で許可される、実行中で、ディスパッチ可能で、中断状態にあるユーザー・タスクの最大数を表示します。値の範囲は 1 から 2000 です。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

注：この値をリセットすると、CICS ストレージの制約により、MAXTASKS に割り当てた値が要求値よりも小さくなる場合があります。この状態が発生すると、要求が行われたときに CEILING REACHED というメッセージが表示されます。

MEMLIMIT (value)

CICS 領域で利用できる 2 GB 境界より上のストレージの限度を表示します。値 NOLIMIT は、その領域で使用する試みることのできるストレージの量に制限がないことを意味します。

MQCONN(value)

CICS 領域に現在インストールされている MQCONN リソース定義の名前を表示します。MQCONN リソース定義が現在インストールされていない場合は、このフィールドはブランクになります。1つの CICS 領域に一度にインストールできる MQCONN リソース定義は、1つのみです。MQCONN リソース定義は、CICS と WebSphere MQ の間の接続の属性を指定します。

MROBATCH (value)

接続領域からの MRO 要求をいくつバッチ処理した後に、この領域に通知を送るかを表示します。値の範囲は 1 から 255 までです。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

OSLEVEL (value)

CICS が稼働する z/OS のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを表示します。値の形式は vvrmm です。例えば、z/OS バージョン 2 リリース 2 修正 0 の場合、値は 020200 です。

PLTPIUSR(value)

PLTPI 処理に使用可能なユーザー ID を、指定されたデータ領域に返します。

PROGAUTOCTLG(value)

自動インストールされたプログラム定義をカタログするかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

CTLGALL

自動インストールされたプログラム定義はすべてカタログされ、ウォーム・スタートまたは緊急始動時に復元されます。

CTLGMODIFY

自動インストールされたプログラム定義は、変更された場合 (例えば **CEMT SET PROGRAM** コマンドを実行した場合) にのみカタログされ、ウォーム・リスタートまたは緊急リスタートでは変更後の定義が復元されます。

CTLGNONE

自動インストールされたプログラム定義はカタログされません。ウォーム・スタートまたは緊急始動後にもう一度自動インストールされます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PROGAUTOEXIT (value)

モデル定義を選択または変更するためにプログラム自動インストール・コードによって呼び出されるユーザー提供プログラムの名前を表示します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PROGAUTOINST

プログラムの自動インストールがアクティブであるか非アクティブであるかを表示します。値は以下のとおりです。

AUTOACTIVE

プログラムの自動インストールはアクティブです。初回使用時にプログラム、マップ・セット、または区画セットが定義されていない場合は、定義が動的に作成されます。

AUTOINACTIVE

自動インストールはアクティブではありません。定義されていないプログラムが参照されると、PGMIDERR またはトランザクション異常終了が発生します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

REENTPROTECT (value)

再入可能プログラムで読み取り専用ストレージが使用されるかどうか (つまり、**RENTPGM** システム初期設定パラメーターが PROTECT を指定するか NOPROTECT を指定するか) を表示します。値は以下のとおりです。

NOREENTPROT

CICS は、読み取り専用 DSA (RDSA および ERDSA) 用のストレージを CICS キー・ストレージから割り振ります。再入可能プログラムは読み取り専用ストレージに入れられても保護されず、CICS キーで実行するプログラムにより変更可能です。

REENTPROT

CICS は、RDSA および ERDSA のストレージを、キー 0 で取り出し不可の保護ストレージから割り振ります。CICS は再入可能プログラムをこのストレージにロードし、プログラムは読み取り専用ストレージに置かれることで保護されます。

REGIONUSERID(data-area)

提供されたデータ域の領域ユーザー ID を返します。

RELEASE (value) (互換性の目的でのみサポート)

この領域を実行する CICS コードのレベルを表す 4 桁の数字 (CICS TS のこのリリースの場合は値 0730) を表示します。

このフィールドは、CICS の旧リリースとの互換性に関してのみ保守されます。CICS Transaction Server for z/OS の排他的エレメントに関しては、CICS には独自の製品バージョンおよびリリース番号

はありません。製品のリリース番号を確認するには、**CICSTSLEVEL** に表示される値を参照してください。

RUNAWAY (value)

タスクがループしていると想定されるまでに制御を保持できる間隔 (ミリ秒) を表示します。

この値をリセットする場合、0 を指定することも、500 から 2700000 までの値を指定することもできます。指定した値は、端数を切り捨てて 500 の倍数に丸められます。

この間隔が経過してもタスクが制御を放棄しない場合、CICS はこのタスクを消去します (つまり、CICS はタスクがループしていると判断します)。ゼロを指定すると、ランナウェイ・タスク制御は作動不能になります (つまり、タスクがループしているように見えても、そのタスクは消去されません)。この値は **TIME** 値には依存しないため、**TIME** 値より小さくすることができます。

CICS ランナウェイ・タスク検出は、タスク時間を基にして実行されます (つまり、間隔は、タスクがプロセッサの制御を受け取るたびにリセットされ、タスクが制御を得ている間に減分されます)。したがって、ランナウェイ値を設定する際には、他のジョブの結果を考慮する必要はありません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SCANDELAY (value)

z/OS Communications Server 要求の受信から CICS によるその要求の処理開始時刻までの最大時間 (ミリ秒) を表示します。この数値の範囲は 0 から 5000 までで、**TIME** 値以下です。

ディスパッチャー統計の要約報告書では、**SCANDELAY** の値が ICVTSD 時間値になっています。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SDTRAN (value)

通常または即時シャットダウンの開始時に実行されるトランザクションの 4 文字の名前を表示します。この値は、ユーザーが提供するトランザクションの名前、または CICS 提供のデフォルトのトランザクション CESD です。

SOSABOVEBAR(value)

CICS が 2 GB 境界より上の動的ストレージ域でストレージ不足になっているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS は、2 GB 境界より上のどの動的ストレージ域でもストレージ不足になっていません。

SOS

CICS は、2 GB 境界より上の 1 つ以上の動的ストレージ域でストレージ不足になっています。

SOSABOVELINE(value)

CICS で、16 MB より上で 2 GB より下の動的ストレージ域のストレージ不足が発生しているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS は、16 MB より上、ただし 2 GB より下の動的ストレージ域のいずれにおいてもストレージ不足ではありません。

SOS

CICS は、16 MB を超えるが 2 GB 未満の動的ストレージ域のうち少なくとも 1 つでストレージ不足です。

SOSBELOWLINE(value)

CICS で、16 MB より下の動的ストレージ域のストレージ不足が発生しているかどうかを表示します。

NOTSOS

CICS では、16 MB より下の動的ストレージ域のいずれにおいても、ストレージ不足ではありません。

SOS

CICS は、16 MB より下の動的ストレージ域のうち少なくとも 1 つでストレージ不足です。

STOREPROTECT (value)

CICS 領域でストレージ保護がアクティブかどうかを表示します。戻される値は以下のとおりです。

ACTIVE

CICS は、CICS ストレージ保護機能を有効にして作動しています。

INACTIVE

CICS は、CICS ストレージ保護機能を無効にして作動しています。

CICS ストレージ保護について詳しくは、[STGPROT システム 初期設定パラメーター](#)を参照してください。

TIME (value)

処理を再開できるトランザクションがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を解放する間隔(ミリ秒)を表示します。この間隔は、領域出口間隔と呼ばれます。

値は 100 から 3600000 までの範囲で、**SCANDELAY** の値以上でなければなりません。

ディスパッチャー統計の要約報告書では、**TIME** の値が ICV 時間値になっています。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TRANISOLATE

トランザクション分離の状況を表示します。戻される値は以下のとおりです。

ACTIVE

CICS 領域では トランザクション分離がアクティブです。

INACTIVE

CICS はトランザクション分離なしで実行されています。その理由は、サポートが利用できないためか、CICS 初期設定時に要求されなかったためのいずれかです。

CEMT INQUIRE TASK

ユーザー・タスクに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「タスク」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TASK は、ユーザー・タスクに関する情報を返します。ユーザー・タスクに関する情報のみを表示または変更でき、CICS 生成のシステム・タスクまたはサブタスクに関する情報を表示または変更することはできません。システム・タスクは、CICS によって開始され、内部で使用されるタスクであって、ユーザー・トランザクションの結果として開始されるものではありません。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TASK (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、すべてのタスクの状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TASK (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、CEMT INQ TA TE と入力した場合は、端末から開始されたタスクのみの詳細が結果に表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します ([画面の上書き](#)を参照)。
- **CEMT SET TASK** コマンドを使用します。

(value)

CICS 生成のタスク番号 (1 から 99999 の範囲)。

ALL

デフォルト値です。表示されるタスクの最大数は 32000 です。

TCLASS(value)

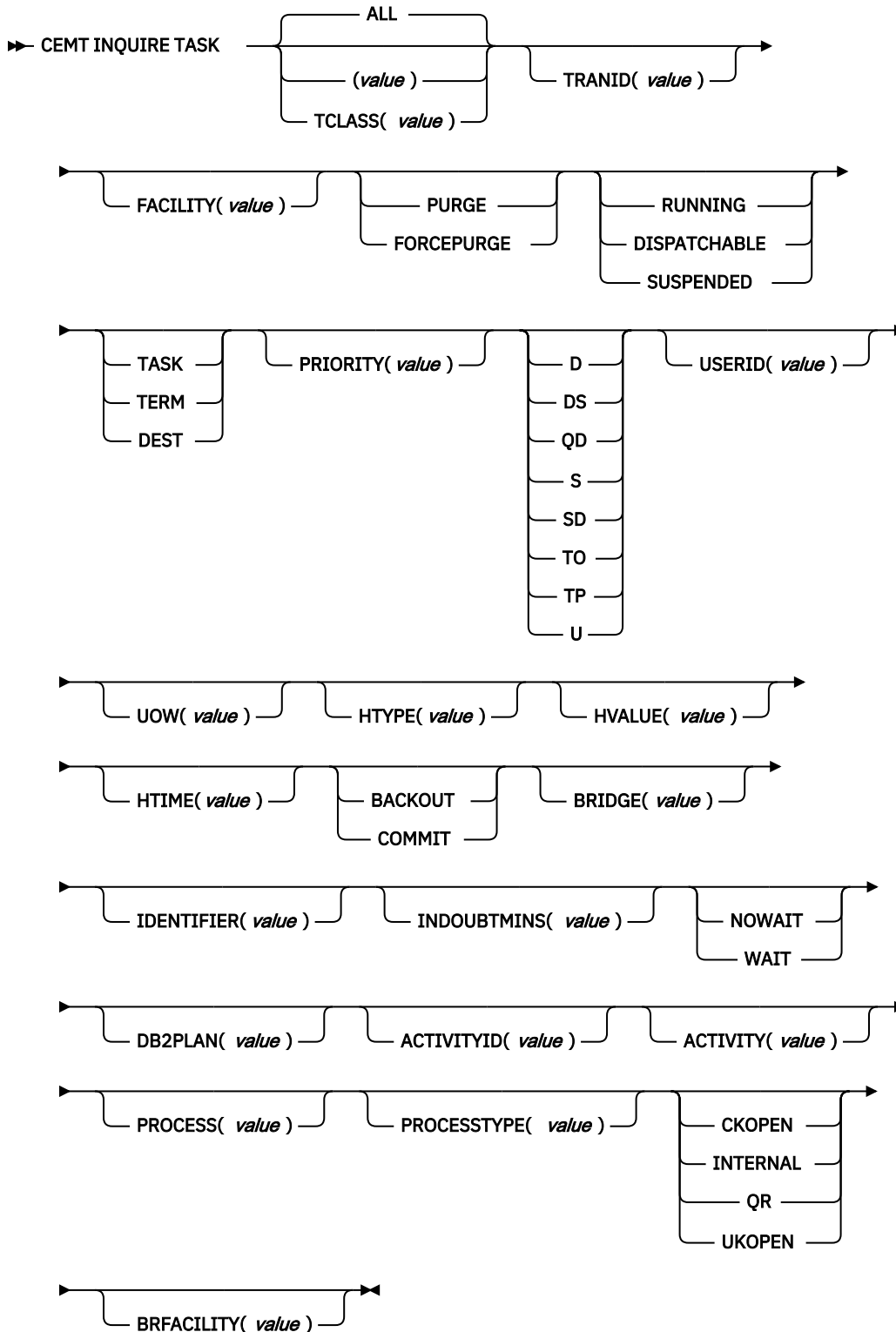
トランザクションが属する 8 文字のトランザクション・クラス名。表示されるタスクの最大数は 32000 です。

ID のリストを指定したり、アスタリスク (*) またはプラス (+) 記号を使用してタスクのファミリーを指定したりすることはできません。

値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は拡張フォーマットを表示します。

CEMT INQUIRE TASK



表示されるフィールド

ACTIVITY (value)

このタスクが代わりに実行する CICS ビジネス・トランザクション・サービス・アクティビティの 16 文字のユーザーが割り当てる名前を表示します。

ACTIVITYID (value)

このタスクが代わりに実行する CICS ビジネス・トランザクション・サービス・アクティビティの 52 文字の CICS が割り当てる ID を表示します。

BRFACILITY(value)

現行タスクが 3270 ブリッジ・メカニズムによって使用されている場合、その現行タスクによって使用される仮想端末を表す 8 バイトの機能トークンを表示します。タスクが現在 3270 ブリッジ環境で実行されていない場合は、ゼロが返されます。

BRIDGE (value)

現行タスクが 3270 ブリッジ環境で実行されていて、**START BREXIT TRANSID** コマンドを使用してブリッジ・モニター・トランザクションによって開始された場合、ブリッジ・モニター・トランザクションの 4 文字の名前を表示します。それ以外の場合は、ブランクが返されます。

DB2PLAN (value)

このタスクによって使用されている Db2 プランの 1 文字から 8 文字の名前、または Db2 プランが使用されていない場合はブランクを表示します。

FACILITY (value)

タスクを開始した端末またはキューの名前を示す 4 文字のストリングを表示します。FACILITY 値が表示されない場合、タスクは機能を指定せずに開始されたものです。

FTYPE

このタスクを開始した機能のタイプを表示します。値は以下のとおりです。

TASK

タスクは別のタスクから開始されました。

TERM

タスクは端末から開始されました。

DEST

タスクは、TDQUEUE リソース定義で定義されている宛先トリガー・レベルによって開始されました。

HTIME (value)

タスクが現在の中断状態であった時間 (秒単位) を表示します。

HTYPE (value)

タスクが中断された理由を表示します。ヌル値は、キューの先頭に到達する必要があることを除き、障害が存在しないことを示します。

HVALUE (value)

16 文字のリソース名 (ファイル名など)、または TCLASS 値などの値を表示します。

CICS が HTYPE オプションと HVALUE オプションで返す可能性がある値については、[「トラブルシューティング」の『CICS タスクが待機する可能性があるリソース』](#)のリソース・タイプとリソース名の詳細を参照してください。

INDOUBTMINS(value)

未確定期間中の障害が発生してから、INDOUBT 属性で戻されたアクションをタスクが行うまでの時間の長さ (分) を表示します。戻り値は、作業単位が未確定であり、INDOUBTWAIT 属性が WAIT を戻す場合にのみ有効です。

INDOUBT (value)

アクション (TRANSACTION リソース定義の ACTION 属性に基づく) を表示します。これは、CICS 領域がコーディネーターとの接続に失敗するかそれを失って、作業単位が未確定期間にある場合に実行されるアクションです。

アクションは、INDOUBTWAIT および INDOUBTMINS 属性で戻される値によって異なります。INDOUBTWAIT が WAIT を戻す場合、INDOUBTWAIT で戻される時間が満了するまでアクションは取られません。

値は以下のとおりです。

BACKOUT

リカバリー可能リソースに対するすべての変更はバックアウトされます。

COMMIT

リカバリー可能リソースに対するすべての変更はコミットされ、作業単位には完了というマークが付けられます。

INDOUBTWAIT (value)

作業単位 (UOW) が未確定状態の間に障害が発生した場合、その作業単位がどのように応答するか (TRANSACTION 定義の WAIT 属性に基づく) を表示します。値は以下のとおりです。

NOWAIT

障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機しません。CICS はただちに TRANSACTION 定義の ACTION 属性で指定されたアクションを実行します。

WAIT

障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機し、リカバリー可能リソースをバックアウトするかまたはコミットするかを判別します。

TRANSACTION 定義の ACTION および WAIT 属性の意味について詳しくは、[TRANSACTION 定義の属性](#)を参照してください。

IDENTIFIER (value)

タスクが 3270 ブリッジ環境で開始された場合、ブリッジ出口ルーチンで提供されたユーザー・データを含む 48 文字のフィールドを表示します。そうでない場合は、ブランクを表示します。このフィールドは、オンライン問題解決を支援することを目的としています。

例えば、このフィールドには CICS-MQ ブリッジ用の WebSphere MQ 相関関係子、または Web トークンが含まれることがあります。

PRIORITY (value)

タスクの優先順位を 0 から 255 の範囲で表示します。255 が最高の優先順位です。

注: この値は、別の値で上書きするとリセットできます。

PROCESS (value)

このタスクが代わりに実行する CICS ビジネス・トランザクション・サービス・プロセスの 36 文字の名前を表示します。

PROCESSTYPE (value)

このタスクが代わりに実行する CICS ビジネス・トランザクション・サービス・プロセスの 8 文字のプロセス・タイプを表示します。

PURGETYPE (入力専用フィールド)

タスクがパージされるか、強制的にパージされるかを指定します。値は以下のとおりです。

PURGE

タスクは終了されることになります。終了は、システム保全性およびデータ保全性を維持できる場合にのみ行われます。

FORCEPURGE

タスクは即時に終了されます。システム保全性は保証されません。一部の極端なケースでは (例えば、タスクがバックアウト処理中に強制的にパージされる場合)、CICS は異常終了します。タスクを終了させる一方、CICS は終了させない場合には、FORCEPURGE ではなく PURGE を使用してください。

RUNSTATUS

このタスクの状況を表示します。値は以下のとおりです。

RUNNING

タスクが実行しています。

DISPATCHABLE

タスクはディスパッチ可能です。

SUSPENDED

タスクは中断状態です。

STARTCODE (value)

このタスクがどのように開始されたかを表示します。値は以下のとおりです。

D

分散プログラム・リンク (DPL) 要求。プログラムは、基本機能に対して入出力要求を出すことも、同期点要求を出すこともできません。

DS

分散プログラム・リンク (DPL) 要求。プログラムが同期点要求を出すことができることを除いて、コード D と同じ。

QD

一時データのトリガー・レベルに達した。

S

開始コマンド (データなし)

SD

開始コマンド (データあり)

TO

オペレーターが端末でトランザクション・コードを入力した。

TP

端末のトランザクション ID を事前設定することによってトランザクションが開始された。

U

ユーザー生成のタスク

TASK (value)

このパネルが TASK 照会に関連していることを示し、CICS 生成のタスク番号 (範囲は 1 から 99999 まで) を表示します。

TCB (value)

タスクが実行している TCB のタイプを表示します。値は以下のとおりです。

CKOPEN

タスクは CICS キーのオープン TCB で実行しています。

INTERNAL

タスクは CICS 内部 TCB のいずれかで実行しています。内部 TCB は以下のいずれかです。

- 並行モード (CO) TCB
- ファイル所有モード (FO) TCB
- リソース所有モード (RO) TCB
- ONC/RPC モード (RP) TCB
- ソケット・リスナー・モード (SL) TCB
- Secure Sockets Layer モード (SO) TCB
- ソケット・モード (S8) TCB
- FEPI モード (SZ) TCB

QR

タスクは CICS QR TCB で実行しています。

UKOPEN

タスクはユーザー・キーのオープン TCB で実行しています。

TRANID (value)

タスクに関連したトランザクション名を示す 4 文字のストリングを表示します。

UOW (value)

このタスクに関連付けられている作業単位の 16 文字のローカル ID を表示します。

USERID(value)

タスクに現在関連付けられているユーザーを表示します。

CEMT INQUIRE TCLASS

タスク・クラス内のタスクに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「トランザクション・クラス」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TCLASS コマンドは、タスクの現在の数と最大数、ページしきい値、およびユーザー定義のタスク・クラスの状況に関する情報を返します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TCLASS (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TCLASS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i tc p(value)` と入力すると、指定した値のページしきい値が定義されたトランザクション・クラスの詳細が結果に表示されます。

各種の属性を変更するには、CEMT SET TCLASS コマンドを使用します。

(value)

8 文字のトランザクション・クラス名。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN TCLASS
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Tcl(DFHTCIND) Max( 010 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL01) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL02) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL03) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL04) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL05) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL06) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
Tcl(DFHTCL07) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
+ Tcl(DFHTCL08) Max( 001 ) Act(000) Pur( 0000000 )
Que(0000000)
```

図 80. CEMT INQUIRE TASK 画面

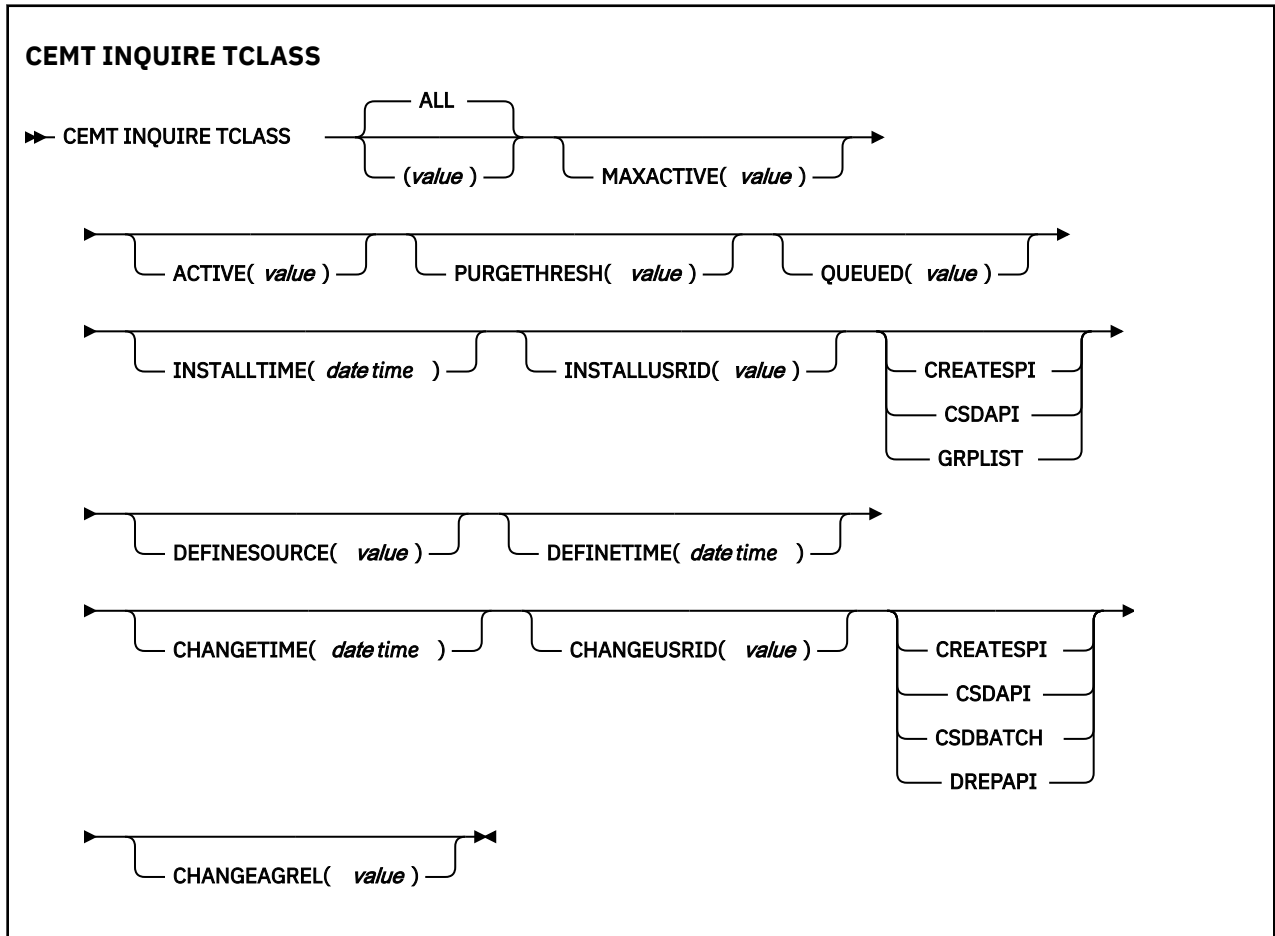
リスト内の特定のエンタリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [248 ページの図 81](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```

IN TCLASS
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Tclass(DFHTCIND)
Maxactive( 010 )

```

図 81. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

ACTIVE (value)

ユーザー定義のトランザクション・クラス内で現在アクティブであるトランザクションの総数を表示します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MAXACTIVE (value)

トランザクション・クラス内で同時に実行できるトランザクションの最大数を表示します。値の範囲として、0 から 999 までが可能です。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PURGETHRESH (value)

トランザクション・クラスのキューイング・トランザクションがパージされる制限を表示します。指定できる値の範囲は 0000000 から 1000000 までです。ゼロは、トランザクションがパージされないことを意味します。非ゼロの数値「n」は、最初に到着した (n-1) 個のトランザクションがキューに入れられ、n 番目がパージされることを意味します。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

QUEUED (value)

クラスの最大に達したために中断されている現行タスクの総数を表示します。

TCLASS(value)

このパネルが TCLASS 照会に関連していることを示し、8 文字のトランザクション・クラス名を表示します。

CEMT INQUIRE TCPIP

CICS 内部 TCP/IP サポート状況に関して照会します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TCPIP コマンドは、CICS 内部 TCP/IP サポートの現在の状況に関する情報を返します。

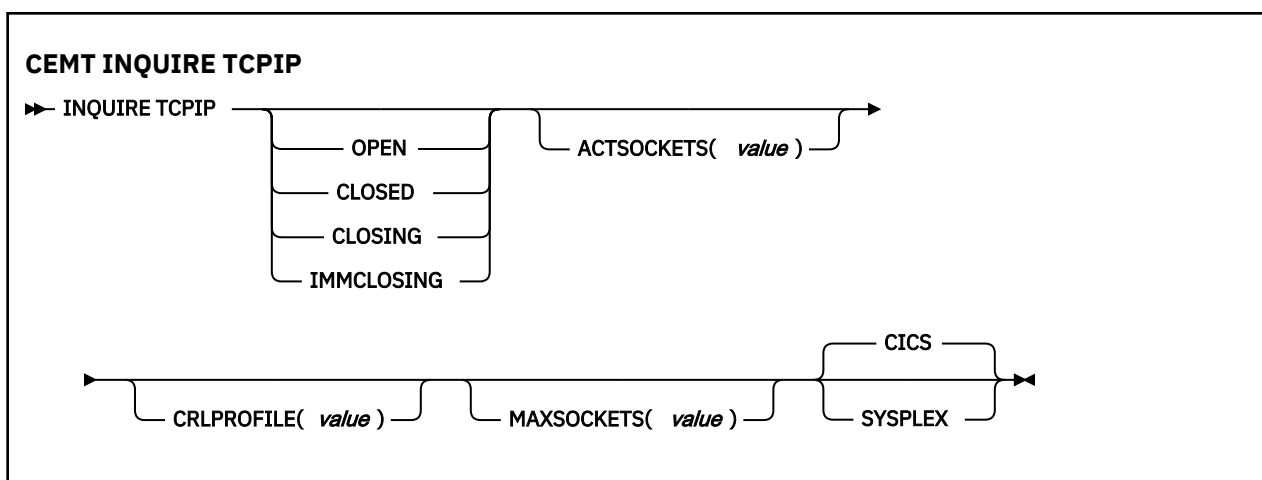
入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE TCPIP (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TCPIP (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、表示する他の属性の設定値を入力します。

以下のように、さまざまな属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します (54 ページの『画面の上書き』を参照)。
- **CEMT SET TCPIP** コマンドを使用します。



表示されるフィールド

ACTSOCKETS(value)

CICS ソケット・ドメインによって管理されるアクティブ IP ソケットの現在の数を表示します。

CRLPROFILE(value)

SSL 接続の証明書取り消しリストを保管する LDAP サーバーにアクセスすることを CICS に許可する、プロファイルの名前を表示します。

MAXSOCKETS (value)

CICS ソケット・ドメインによって管理できる IP ソケットの最大数を表示します。

OPENSTATUS

CICS 内部 TCP/IP サポートの状況を表示します。値は以下のとおりです。

OPEN

CICS 内部ソケット・サポートは開いています。

CLOSED

CICS 内部ソケット・サポートはまだ活動化されていないか、終了しました。

CLOSING

CICS 内部ソケット・サポートはクローズ中です。

IMMCLOSING

CICS 内部ソケット・サポートは、即時終了の処理中です。

SSLCACHE(value)

CICS がセッション ID のローカル・キャッシング、またはシスプレックス・キャッシングのどちらを使用するように構成されているかを表示します。値は以下のとおりです。

CICS

CICS は、ローカル CICS 領域内のキャッシュにセッション ID を入れるように構成されています。

SYSplex

CICS は、カップリング・ファシリティ内のキャッシュにセッション ID を入れるように構成されています。

CEMT INQUIRE TCPIPService

CICS 内部の TCP/IP サポートが他の CICS サービスに代わって listen している TCP/IP ポートに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「TCP/IP サービス」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TCPIPService コマンドは、CICS 内部の TCP/IP サポートを使用するサービスの状態に関する情報を戻します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

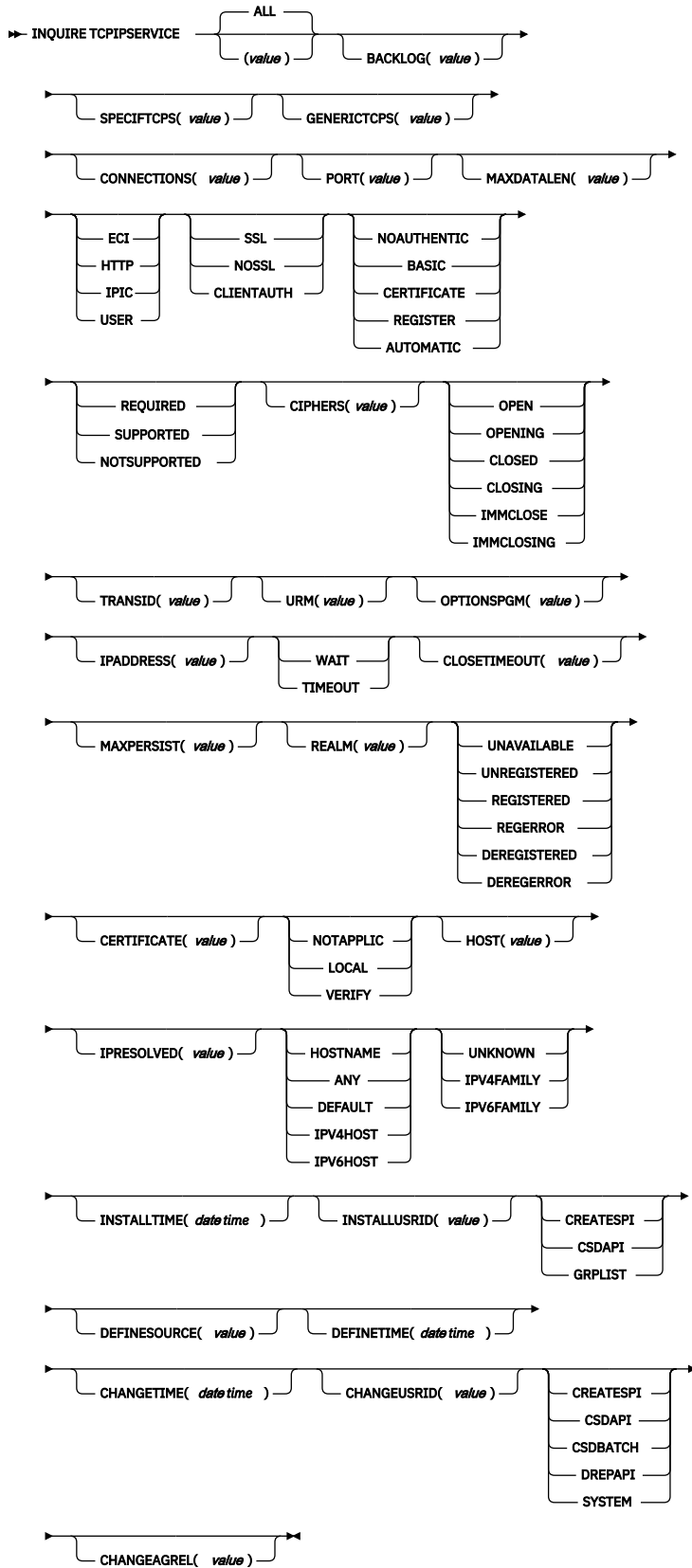
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TCPIPService (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE TCPIPService (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、表示する他の属性の設定値を必要な数だけ入力します。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- INQUIRE 画面で該当するフィールドに移動し、変更内容を入力します。
- CEMT SET TCPIPService コマンドを使用します。

CEMT INQUIRE TCPIPSERVICE



表示されるフィールド

ATTACHSEC(value)

接続に使用される接続時セキュリティのレベルを指定します。

LOCAL

CICS はクライアントからのユーザー ID またはパスワードを必要としません。

NOTAPPLIC

このオプションは、Web インターフェースでは意味がありません。

VERIFY

着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。

AUTHENTICATE(value)

クライアントの認証に使用されるスキームを示します。

BASIC

HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID およびパスワードが取得されます。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

CERTIFICATE

SSL クライアント証明書による認証を使用して、クライアントを認証および識別します。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

NOAUTHENTIC

クライアントは認証または識別情報を送信する必要がありません。ただし、セキュリティ・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている有効な証明書をクライアントが送信した場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

REGISTER

SSL クライアント証明書認証を使用して、クライアントが認証されます。クライアントの証明書がユーザー ID と関連付けられていない場合には、HTTP 基本認証を使用してクライアントのユーザー ID を取得し、それを証明書と関連付けます。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

AUTOMATIC

クライアントが証明書を送信しなかった場合は、HTTP 基本認証を使用してクライアントからユーザー ID およびパスワードが取得されます。そうでない場合は、SSL クライアント証明書認証を使用して、クライアントが認証されます。クライアントの証明書がユーザー ID と関連付けられていない場合には、HTTP 基本認証を使用してクライアントのユーザー ID を取得し、それを証明書と関連付けます。この値が戻されるのは、PROTOCOL の値が HTTP である場合のみです。

HTTP クライアントの認証および識別の詳細については、[識別と認証](#)を参照してください。

BACKLOG (value)

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数を変更します。BACKLOG の値が TCP/IP 属性 SOMAXCONN の値よりも小さい場合、TCPIPService は、BACKLOG 属性で指定されたバックログ値を使用してオープンされます。BACKLOG の値が SOMAXCONN よりも大きい場合、TCPIPService は SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用してオープンされます。値の 0 は、TCPIPService が SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用してオープンされることを示します。

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数を変更します。BACKLOG の値が SOMAXCONN の TCP/IP 構成値より大きい場合は、TCP/IP は SOMAXCONN 属性で指定された値を使用します。値 0 の場合、着信接続要求は使用不可になります。

CERTIFICATE(value)

TCP/IP サービスの SSL ハンドシェイクで使用される X.509 証明書のラベルを指定します。証明書ラベルは最大 32 バイトまで可能で、外部セキュリティ・マネージャーのデータベースで定義された (例えば RACDCERT コマンドによって定義された) 鍵リング内で、CICS 領域のユーザー ID 用に指定されます。この属性を省略した場合は、CICS 領域ユーザー ID の鍵リングに定義されているデフォルトの証明書が使用されます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CIPHERS(value)

SSL ハンドシェイクの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム 初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの security/ciphers サブディレクトリーにある z/OS UNIX ファイルです。詳しくは、[暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください](#)。

リストを指定しない場合、このリストのデフォルトは、**ENCRYPTION** システム 初期設定パラメーターに基づく暗号セットになります。

CLOSETIMEOUT (value)

タイムアウト期間に指定される秒数を含むフルワード値を返します。値の範囲は 0 から 86400 (24 時間) までです。HTTP プロトコルでは 0 を指定しないでください。この設定にすると持続接続を維持できなくなります。

CONNECTION (value)

このサービスに対する現在のソケット接続数を返します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約を参照してください](#)。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

GENERICTCPS(value)

この特定の TCPIP SERVICE が IPIC 高可用性クラスター内の構成の一部として使用されるときに関連付けられる、8 文字の汎用 TCPIP SERVICE 名を返します。この情報は、両方の TCPIP SERVICE が開いている場合にのみ存在します。汎用 TCPIP SERVICE が存在しない場合、またはこの汎用 TCPIP SERVICE が閉じている場合、これはブランクのままになります。

HOST(value)

リモート・システムのホスト名、IPv4、または IPv6 アドレスを表示します。使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスは、1.2.3.4 などの、IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示されます。受け入れられる IPv4 形式については、[IP アドレスを参照してください](#)。

HOSTTYPE(value)

HOST オプションのアドレス・フォーマットを表示します。HOSTTYPE オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。有効な値は、以下のとおりです。

HOSTNAME

HOST オプションには文字のホスト名が含まれます。

ANY

HOST オプションに ANY オプションが指定されています。

DEFAULT

HOST オプションに DEFAULT オプションが指定されています。

IPV4HOST

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6HOST

このアドレスは IPv6 アドレスです。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

IPADDRESS (value)

IP アドレスを戻します。TCPIPSERVICE 定義で IP アドレスを指定した場合はそのアドレスが戻され、そうでない場合はデフォルトの IP アドレスが戻されます。z/OS システムに複数の IP アドレスがある場合は、デフォルトだけが戻されます。

IPFAMILY(value)

IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを表示します。IPFAMILY オプションは拡張照会の使用時のみ使用可能になります。ワイルドカード文字を使用してフィルター操作すると、フィルター操作は IPFAMILY オプションと相互作用します。例えば、IPFAMILY の値が IPV6FAMILY の場合は、コロン文字を使用して IP アドレスを取得しなければなりません。有効な値は、以下のとおりです。

IPV4FAMILY

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6FAMILY

このアドレスは IPv6 アドレスです。

UNKNOWN

IPRESOLVED オプションがまだ使用されていないか、アドレスを解決できません。

IPRESOLVED(value)

ホストの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを表示します。IPRESOLVED オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。

MAXDATALEN (value)

HTTP サーバーとしての CICS が受信できるデータの最大長を示すフルワード値を返します。指定できる値は 3 KB から 524288 KB までです。デフォルトは 32 KB です。

MAXPERSIST(value)

どの時点においても CICS 領域がこのポートに対して許可する、Web クライアントからの持続接続の最大数を示すフルワード値を返します。この設定値は、HTTP プロトコルにのみ適用されます。NO は、持続接続の数に制限がないことを意味します。ゼロ設定値は、許可された持続接続がないことを意味します。ゼロ設定値は HTTP/1.1 の仕様に対応していないので、外部要求を処理する CICS 領域には設定できません。

OPENSTATUS(value)

サービスの状態を返します。

OPEN

CICS 内部ソケット・サポートは開いています。

OPENING

CICS 内部ソケット・サポートはオープン処理中です。

CLOSED

CICS 内部ソケット・サポートはまだ活動化されていないか、既に終了しました。

CLOSING

CICS 内部ソケット・サポートはクローズ中です。

IMMCLOSE

CICS 内部ソケット・サポートはこのサービスをすぐに終了します。

IMMCLOSING

CICS 内部ソケット・サポートは、即時終了の処理中です。

OPTIONSPGM(value)

このサービスに関連付けられた HTTP OPTIONS ハンドラー・プログラムの 8 文字の名前を返します。

PORT(value)

CICS がこのサービスに代わって listen するポートの番号を返します。

PRIVACY(value)

このサービスへのインバウンド接続に必要な SSL 暗号化のレベルを返します。

REQUIRED

暗号化を使用する必要があります。SSL ハンドシェイクの間、CICS は、サポートされる暗号スイートの中で、暗号化を提供するもののみを公示します。

SUPPORTED

暗号化は、クライアントとサーバーの両方が暗号化をサポートしている場合に使用されます。SSL ハンドシェイクの間、CICS は、サポートされるすべての暗号スイートを公示します。

NOTSUPPORTED

暗号化は使用できません。SSL ハンドシェイクの間、CICS は、サポートされる暗号スイートの中で、暗号化を提供しないもののみを公示します。

PROTOCOL(value)

CICS に対して、TCP/IP ポートで提供されるサービスのタイプを識別します。

ECI

接続は、CICS の ECI over TCP/IP サポートによって処理されます。

HTTP

接続は、CICS の Web サポートによって処理されます。

IPIC

IP 相互接続性

USER

ユーザー定義プロトコルが使用されます。要求は TCPIP SERVICE のアナライザー・プログラムに渡され、CICS Web サポート機能を使用して処理されますが、HTTP 仕様はメッセージの検査には使用されません。

REALM (value)

HTTP 基本認証の処理中に使用される 56 文字のレルムを返します。

SOCKETCLOSE(value)

タイムアウト値が TCPIPSERVICE で有効かどうかを示します。

WAIT

定義で NO が指定されていました。ソケット受信はデータを無期限に待機します。

TIMEOUT

定義において SOCKETCLOSE パラメーターに値が指定されました。

SPECIFTCPS(value)

この汎用 TCPIPSERVICE が高可用性 IPIC 接続要求を受け取る際に使用する特定の TCPIPSERVICE 名を 8 文字の名前で表示します。

SSLTYPE(value)

このサービスの SSL サポート状況を示します。

SSL

このポートでは、クライアント認証以外の SSL フローが処理されます。

NOSSL

このポートでは、SSL 以外のフローが処理されます。

CLIENTAUTH

このポートでは、SSL クライアント認証フローが処理されます。

ATTLSAWARE

CICS は、クライアント接続を照会して、AT-TLS がアクティブかどうかを判別します。認識アプリケーションは、AT-TLS を認識し、AT-TLS ポリシーの拡張設定を必要とせずに、AT-TLS 状況、パートナー証明書、取得した RACF ユーザー ID などの情報を照会することができます。クライアント証明書がパートナーによって提供された場合、CICS は TCP/IP からクライアント証明書を取得します。

TCPIPSERVICE(value)

このサービスを識別する 8 文字の名前を返します。

TRANSID(value)

新規要求を処理するために開始されたタスクの付加時に使用される 4 文字のトランザクション ID を返します。

URM (value)

付加されたタスクによって開始されるユーザー置き換え可能プログラムの 8 文字の名前を返します。

CEMT INQUIRE TDQUEUE

一時データ・キューに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「TD キュー」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TDQUEUE コマンドは、TDQUEUE リソース定義の中で定義されている、指定された一時データ (TD) キューに関する情報を返します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TDQUEUE (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TDQUEUE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i td ind en` と入力すると、間接キューであり有効になっている一時データ・キューのみの詳細が結果に表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。54 ページの『画面の上書き』を参照してください。
- **CEMT SET TDQUEUE** コマンドを使用します。

(value)

一時データ・キューの 1 から 4 文字の ID。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN TDQ
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Tdq(CADL)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CAIL)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CCPI)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CCSE)          Ind Nam(CCSO)
Tdq(CCSO)          Ext          Ena Ope
                   Mod Out Dat(001) Ddn(COUT   )
Tdq(CDBC)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CDUL)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CESE)          Ext          Ena Ope
                   Shr Out Dat(001) Ddn(CEEMSG )
Tdq(CESO)          Ext          Ena Ope
                   Shr Out Dat(001) Ddn(CEEOUT  )
Tdq(CMIG)          Ind Nam(CSSL)
Tdq(CRDI)          Ind Nam(CSSL)
+ Tdq(CSCS)        Ind Nam(CSSL)
```

図 82. CEMT INQUIRE TDQUEUE 画面の例

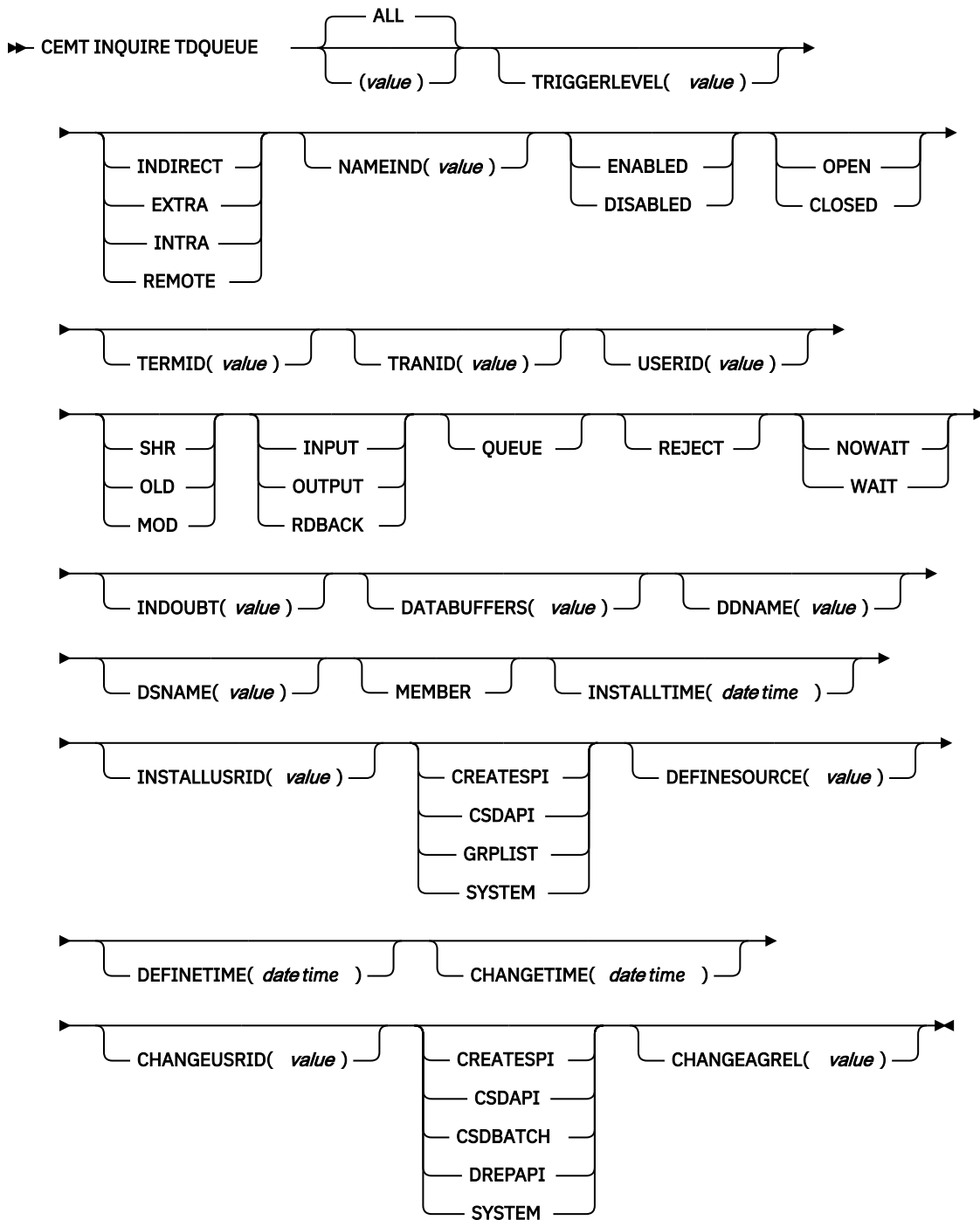
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は 259 ページの図 83 に示すような拡張フォーマットを表示します。

```
IN TDQ
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Tdqueue(CCS0)
Type(Extra)
Nameind()
Triggerlevel(      )
Enablestatus( Enabled )
Openstatus( Open )
Termid()
Tranid()
Userid()
Disposition(Mod)
Iotype(Output)
Indoubt()
Indoubtwait()
Databuffers(001)
Ddname(COUT)
Dsname(BELL.CICSHT61.JOB04382.D0000105.?)
```

図 83. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE TDQUEUE



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DATABUFFERS (value) (区画外キューのみ)

関連する QSAM データ・セットが使用できるバッファの数を 1 から 255 の範囲で表示します。

区分外キューは入力または出力ですが、その両方にする ことはできません。

DDNAME (value) (区画外キューのみ)

始動 JCL に定義されたデータ・セットを参照する可能性のある 1 から 8 文字の値を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DISPOSITION (区画外キューのみ)

関連付けられたデータ・セットの状況を表示します。

SHR

データ・セットはこのジョブ・ステップよりも前に存在していて、他の並行ジョブによって読み取り可能です。

OLD

データ・セットは、このジョブ・ステップよりも前に存在していました。

MOD

システムは、まず、データ・セットが存在すると仮定します。既存の順次データ・セットでは、MOD は読み取り/書き込み機構がデータ・セット内の最終レコードの後に配置されるようにします。read/write メカニズムは、データ・セットが出力のため開かれるたびに最終レコードの後に置かれます。

システムが DD ステートメントにあるデータ・セットのボリューム情報をカタログの中で見つけることができないか、前のステップからデータ・セットと一緒に渡された場合、システムは、データ・セットがこのジョブ・ステップの中で作成されると仮定します。新規データ・セットでは、MOD はデータ・セットの先頭に read/write メカニズムを配置します。

DSNAME (value) (区画外キューのみ)

データ・セットがこの一時データ・キューによって使用されるかどうかを示す、関連付けられた QSAM データ・セットの名前(長さは 1 から 44 文字)、またはダミー・データ・セット (またはダミー・データ・セット名) を表示します。このオプションは、出力リソースにのみ適用されます。

ENABLESTATUS (間接キューとリモート・キューを除くすべて)

アプリケーションがキューにアクセスできるかどうかを示す値を表示します。

ENABLED

アプリケーションがキューにアクセスできます。

DISABLED

キューはまだ開いておくことができますが、アプリケーションはキューにアクセスできません。C で始まる名前を持つキューは通常、CICS で使用するために予約されているため、使用不可にはできません。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。
2. キューは、現行ユーザーが存在しない場合のみ使用不可にすることができます。作業単位 (UOW) がキューを現在使用している場合、キューは「使用不可ペンディング」状態に入ります。キュー上の操作を最後に完了した UOW が、キューを完全に使用不可にします。
3. キューが「使用不可ペンディング」状態になると、ENABLESTATUS オプションの値は変更できなくなります。

INDOUBT (value) (区画内キューのみ)

このキューの定義が WAIT(YES) を指定している場合、CICS が未確定作業単位 (UOW) に対してとるアクションを示します。

INDOUBTWAIT (区画内キューのみ)

未確定の作業単位 (UOW) (論理的にリカバリー可能なキューを変更した) が、変更をコミットするか取り消すかを定めるために、コーディネーターとの再同期を待機する必要があるかどうかを指定します。

NOWAIT

UOW は待機しません。リカバリー可能リソースに対する変更は、トランザクション・リソース定義の ACTION 属性での指定に応じて、取り消されるかまたはコミットされます。

WAIT

UOW は待機して、待機中に必要なアクションは WAITACTION 属性によって判別されます。

この属性は、UOW トランザクション定義で定義された WAIT パラメーターをオーバーライドします。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

SYSTEM

リソースは、CICS または CICSplex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

IOTYPE (区画外キューのみ)

使用されるデータ・セットのタイプを表示します。

INPUT

入力データ・セット。

OUTPUT

出力データ・セット。

RDBACK

逆方向に読み取る入力データ・セット。

MEMBER (区画外キューのみ)

区分データ・セットのメンバー名を示す 1 から 8 文字の名前を返します。この名前は、QSAM データ・セットが区分データ・セットではない場合はブランクになります。

OPENSTATUS (区画外キューのみ)

区画外キューがオープンまたはクローズのどちらの状態であるかを表示します。

OPEN

キューはオープン状態です。

CLOSED

キューはクローズ状態です。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。
2. キューをオープンまたはクローズする前に、キューを使用可能にする必要はなくなりました。キューをオープンまたはクローズする前に、キューを使用不可にすることをお勧めします。

NAMEIND (value) (間接キューのみ)

間接キューが指すキューの名前を示す 4 文字のストリングを表示します。

QUEUE

UOW は未確定で、待機中です。このキューの UOW によって保持されているロックは、UOW の最終状態が認識されるまでアクティブのままです。したがって、LOCKED 応答を受信するのではなく、タスクが中断されます。UOW の最終状態が分かっている場合、その UOW が行った変更はコミットまたはバックアウトされます。それまで、アクティブなロックのいずれかを 必要とする次のタイプの今後の要求は待機する必要があります。

- READQ (未確定 UOW が READQ 要求または DELETEQ 要求を発行した場合)
- WRITEQ (未確定 UOW が WRITEQ 要求または DELETEQ 要求を発行した場合)
- DELETEQ (未確定 UOW が READQ 要求、WRITEQ 要求、または DELETEQ 要求を発行した場合)

REJECT

UOW は未確定で、待機中です。このキューに対して UOW が設定したロックは、UOW の最終状態が判別されるまで保持されます。最終状態が判別されると、UOW による変更はコミットされるかまたはバックアウトされます。そのときまで、保持されたロックの 1 つを必要とするそれ以降の要求は拒否されて、LOCKED 応答が戻されます。INDOUBT=REJECT を指定すると、INDOUBT=QUEUE によってトランザクションの待機が生じる場合とまったく同じ状況で、LOCKED 応答が生じるようになります。

TDQUEUE(value)

このパネルが TDQUEUE 照会に関連していることを示し、一時データ・キューの 4 文字の ID を表示します。C で始まるキュー名は通常、CICS で使用するために予約されています。

TERMID (value)

自動トランザクション開始 (ATI) が発生したときに、このキューに関連付けられる端末またはセッションの 4 文字の名前を表示します。TRANID および TRIGGERLEVEL も参照してください。

TRANID (value)

キュー・トリガー・レベルに到達したときに自動的に開始されるトランザクションの 4 文字の ID を表示します。

TRIGGERLEVEL (value) (区画内キューのみ)

自動トランザクション開始 (ATI) が行われるために、その前に発生する必要があるキューへの出力の要求数を表示します。数値は 0 から 32767 の範囲で指定できます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TYPE

この一時データ・キューのタイプを表示します。

INDIRECT

キュー・タイプは間接です。最後のターゲット・キューの名前が次のフィールドに表示されます。

EXTRA

キュー・タイプは区画外です。

INTRA

キュー・タイプは区画内です。

REMOTE

キュー・タイプはリモートです。

USERID

ATI の対象である区画内キューに関連付けられた 8 バイトの ID を表示します。

CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE

CICS 領域内の主一時記憶域キューで使用されるストレージについての情報を取得します。

説明

CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE コマンドは、主一時記憶域キューが使用する CICS 領域のストレージに関する情報、およびこれらのキューに使用可能な最大容量を返します。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには、**CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。状況が表示されます。

属性を変更するには、タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、**INQUIRE** 画面で変更を上書き入力します (54 ページの『画面の上書き』を参照)。

TSMMAINLIMIT 値を変更する場合は、z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の現在の設定を確認してください。

MEMLIMIT は、CICS アドレス・スペースが使用可能な 64 ビット・ストレージの量を制限します。

TSMMAINLIMIT の設定は、**MEMLIMIT** 値の 25% を超えてはなりません。

CEMT コマンド **INQUIRE DSAS** または **INQUIRE SYSTEM** を使用して、CICS システムに現在適用される **MEMLIMIT** の値を検索します。

表示されるフィールド

TSMMAININUSE(value)

主一時記憶域キューによって現在使用されているストレージの量を表示します。この値は、バイト単位、メガバイト単位 (文字 M が後に付く)、またはギガバイト単位 (文字 G が後に付く) で表示されます。

TSMMAINLIMIT(value)

CICS で主一時記憶域キューに使用可能なストレージの最大容量について、現在の設定を表示します。値はギガバイト単位で表示されるか、最も近いメガバイト数で表示されます。

TSMMAINLIMIT 設定を減らした場合、CICS は許容ストレージ内に現在の使用量の上に 25% 以上のフリー・スペースを維持するようにして、一時記憶域の書き込み要求数がすぐに **TSMMAINLIMIT** に達しないようにします。値は以下のとおりに設定します。

- 現在のフリー・スペースが 25% 未満の場合、**TSMMAINLIMIT** は変更されないままです。
- 新規の制限の 25% 以上がフリー・スペースである場合、選択した値に設定が引き下げられます。
- 新規の制限の 25% 未満がフリー・スペースである場合、現在の使用率にその使用率の 33% を加算した値まで設定が引き下げられます。

TSMMAINLIMIT の設定値を増やす場合、値は次のように設定されます。

- 新しい値が z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の値の 25% 以下である場合、選択した値が設定されます。
- 新しい値が **MEMLIMIT** 値の 25% より大きい場合、**TSMMAINLIMIT** は未変更のままです。

CEMT INQUIRE TERMINAL

端末に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「[端末](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TERMINAL は、端末管理テーブル (TCT) に存在している名前付きの端末に関する情報を戻します。

SNA 環境では、端末は CICS が通信できる SNA 論理単位の CICS による表現です。SNA 環境とは、CICS が SNA 論理装置との通信でのアクセス方式として z/OS Communications Server を使用している環境です。

この論理装置には、以下のものが可能です。

- 物理端末 (3277 など)
- クラスター・コントローラーの機能 (3790 タイプ 2 バッチ機能など)
- CEDA トランザクションにより生成された IP 相互接続 (IPIC) セッション、システム間連絡 (ISC) セッション、または領域間通信 (IRC) セッション
- リモート端末
- リモート・セッション。つまり、リモート接続のセッション

ネットワーク名がわかっている場合は、これらの名前を使用するコマンドを使用したほうがやりやすいでしょう。197 ページの『[CEMT INQUIRE NETNAME](#)』を参照してください。

表示される端末項目は、MVS コンソールでもある場合があります。

端末のリカバリーが進行中の場合は、TEMP OUT SERVICE というメッセージが表示される場合があります。TEMP OUT SERVICE 標識は、画面をリフレッシュするか、**INS** フィールドを INS または OUT と上書きするとリセットされます。TEMP OUT SERVICE の表示が消えない場合は、この標識の原因を調査する必要があります。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TERMINAL と入力します。状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TERMINAL と入力し、その後に、必要な情報の範囲を限定するために必要なその他の属性を入力します。したがって、例えば CEMT INQUIRE TERMINAL i at と入力すると、サービス中で使用可能な端末のみの詳細が結果として表示されます。CEMT INQUIRE TERMINAL rem(cicr) と入力すると、ローカル CICS が CICR として認識しているシステムが所有するリモート端末 (あるいは、リモート ISC または IRC セッション) のみが表示されます。

以下の方法を使用して、各種の属性を変更できます。

- Tab キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。54 ページの『[画面の上書き](#)』を参照してください。
- CEMT SET TERMINAL コマンドを使用します。

(value)

インストールされている端末定義で指定されている端末 ID (1 文字から 4 文字)。

例えば端末名が S201 の場合、このオプションを以下のようにコード化します。

```
CEMT INQUIRE TERMINAL(S201)
```

ALL

これがデフォルトです。例えば、端末について照会した場合、端末 ID、端末クラス ID、またはシステム ID を指定しない限り、すべての端末に関する情報を受け取ることになります。

CLASS (value)

端末リスト・テーブル (TLT) の 1 文字または 2 文字の接尾部です。

端末 ID もクラス ID も指定しない場合、デフォルトで、すべての端末に関する情報を受け取ります。

サンプル画面

```
IN TERM
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Ter(CBRF) Pri( 000 ) Pag Ins Ati Tti Rte
Net(CBRF ) Rem(CBR ) Rna(CBRF)
Ter(CERR) Pri( 000 ) Pag Ins Tti Loc
Con(*ERRCON* )
Ter(CTSO) Pri( 000 ) Pag Ins Tti Loc
Con(PKING )
Ter(KING) Pri( 000 ) Pag Ins Tti Loc
Con(PRUEKING )
Ter(RNAL) Pri( 000 ) Pag Ins Tti Loc
Con(INTERNAL )
Ter(S225) Tra(CEMT) Pri( 000 ) Pag Ins Ati Tti Loc
Net(IGCS225 ) Acq Tas(0000068) Nqn(GBIBMIYA.IGCS225 )
Ter(S280) Tra(CEMT) Pri( 000 ) Pag Ins Ati Tti Loc
Net(IGCS280 ) Acq Tas(0000063) Nqn(GBIBMIYA.IGCS280 )
Ter(TC12) Tra(CEMT) Pri( 000 ) Pag Ins Ati Tti Loc
Net(IYCWTC12) Acq Tas(0000072) Nqn(GBIBMIYA.IYCWTC12)
Ter(-AAZ) Pri( 000 ) Aut Ins Ati Tti Ses
Net(TMPLETE1) Rel Rem(CBPS)
Ter(-AA0) Pri( 000 ) Aut Ins Ati Tti Ses
Net(TMPLETE1) Rel Cre Rem(CBPS)
+ Ter(-AA1) Pri( 000 ) Aut Out Ati Tti Ses
Net(TMPLETE1) Rel Cre Rem(CBPS)
```

図 84. CEMT INQUIRE TERMINAL 画面

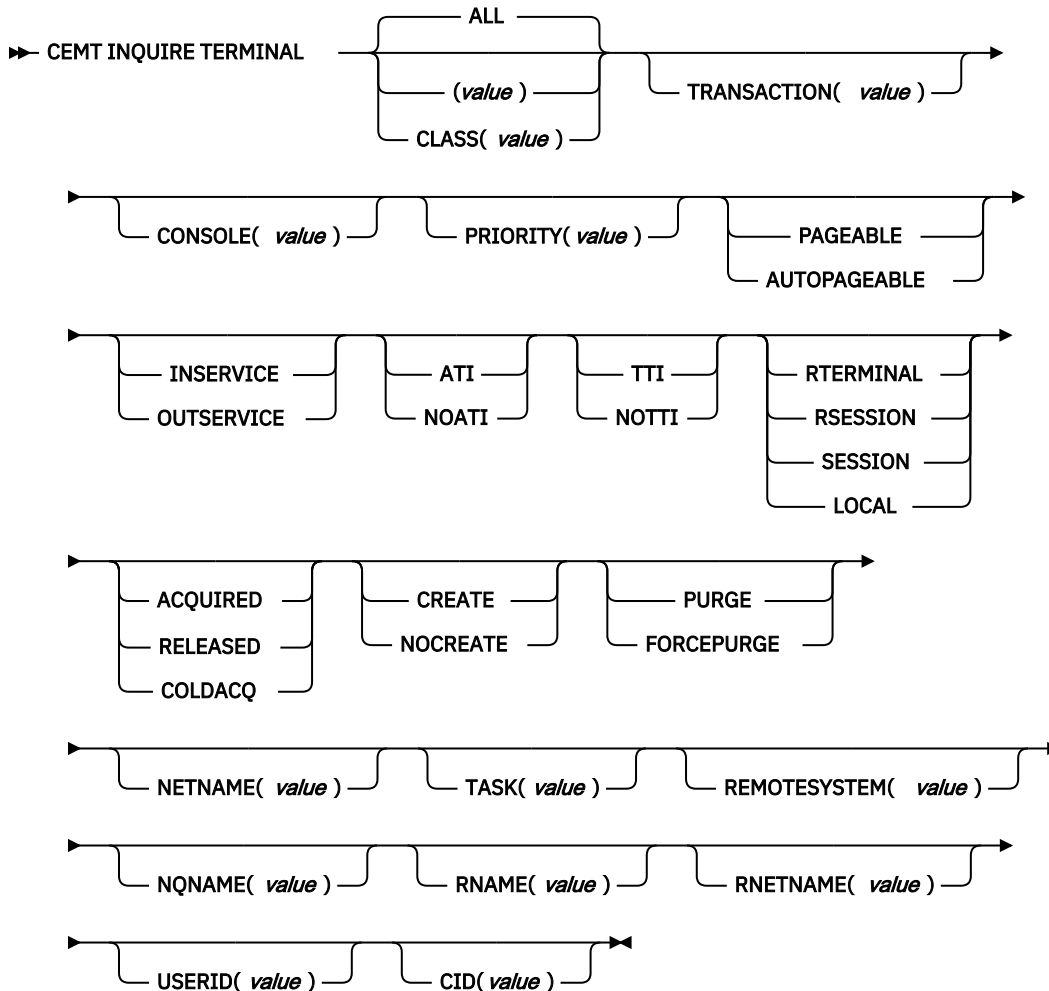
注: 画面にはブランク・フィールドがあり、ここでは値が適用されないか、「否定的」です。つまり、値は「No」で始まります。これらのフィールドを変更するには、Tab キーを使用してその位置を指定し(フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用の方が便利な場合があります。フィールドにその否定表現を上書きすれば済むため、否定の設定は簡単です。このようにすると、結果が表示されなくなります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は [266 ページの図 85](#) に示すような拡張フォーマットを表示します。

```
IN TERM
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Terminal(bell)
Transaction()
Priority( 000 )
Pagestatus( Pageable )
Servstatus( Inservice )
Atistatus( Noati )
Ttistatus( Tti )
Nature(Local)
Purgetype( )
Netname()
Console(BELL)
Termstatus( )
Createsess( )
Task(00000)
Remotesystem()
Nqn(GBIBMIYA.IYCQTC03)
Rname()
Rnetname()
+ Cid()
```

図 85. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE TERMINAL



表示されるフィールド

AIDCOUNT (data area)

指定した端末のキューに入れられた自動開始記述子 (AID) の数を示すフルワード 2 進数フィールドを返します。AID がいない場合、AIDCOUNT 値 0 が戻されます。この数は、コマンドを発行した CICS システム上の AID の数を表します。

ATISTATUS

端末が、CICS から自動的に開始されたトランザクションで使用できるかどうか、または端末が ISC セッションである場合に、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ATI

端末は使用可能です。

NOATI

端末は使用不可です。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。
2. 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

CID (value)

セッションのみに設定される 8 文字の相関 ID を、セッションが獲得された後のみに表示します。この値は、セッションが獲得されていない場合に、以前に獲得されたセッションがある場合はそれと関連付けられます。CID は、以下の方法で設定されます。

- LU6.2 セッションの場合、これは一緒に接続された両端のセッションに共通する 8 文字のトークンです。
- MRO セッションの場合、これはこのセッションの接続先であるシステムで行われているセッションの端末 ID に設定されます。
- IMS への LU6.1 セッションの場合、これは定義された、またはネゴシエーションされた NETNAMEQ の値に設定されます。
- 他の LU6.1 セッションの場合、これは 6.1 セッションの相手側で指定された値に設定されます。

CID を使用すると、LU6.2、MRO、または LU6.1 の会話の 2 つの部分に関連付けることができます。

- LU6.2 の場合は、同じ CID について照会できます。
- MRO の場合は、端末名を使用してセッションを見つけることができます。
- IMS に対する LU6.1 の場合は、そのネット名について照会できます。
- その他の LU6.1 の場合は、その名前を使用して、接続されたシステムについて照会できます。

CONSOLE (value)

MVS コンソールについてのみ、コンソールの ID を含む 12 バイトのストリングを、2 つの部分に分けて表示します。装置がコンソールでない場合、CICS は 12 個のブランクを返します。

コンソールが自動インストールされている場合、またはコンソール名を指定して明示的に定義されている場合、最初の 8 バイトで名前が返され、末尾の 4 バイトはブランクになります。

コンソールが数値 ID で定義されている場合、ストリングは 2 つの部分に分割され、9 番目のバイト位置のピリオド (.) で区切られます。12 バイトのストリングには、以下の情報が収められます。

- 最初の 8 バイトには MVS コンソール名が入ります (わかっている場合)。不明の場合はストリング *UNKNOWN になります。
- 名前と数字の ID を区切るピリオド。
- 最後の 3 バイトには数字のコンソール ID が入ります。

CREATESESS (z/OS Communications Server のみ)

端末が ATI トランザクションによって自動的に獲得できるかどうかを表示します。このフィールドは、IRC セッションについては指定できません。値は以下のとおりです。

CREATE

端末がセッション内になく、ATI 要求を満たすために必要な場合は、CICS がその端末を獲得します。

NOCREATE

端末がセッション内にない場合、CICS は ATI 要求を満たすためにそれを獲得することはしません。

例えば ATI 要求が満たされるようにするには、その前に、ログオン要求または **CEMT SET**

TERMINAL ACQUIRED コマンドによりセッションを開始する必要があります。

NOCREATE が LU6.1 ISC セッションに対して設定されており、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

NATURE

端末の性質を表示します。つまり、端末が物理装置であるかセッションであるか、およびローカルリモートかを表示します。値は以下のとおりです。

RTERMINAL

端末はリモート・デバイスです。

RSESSION

端末はリモート接続のセッションです。

SESSION

端末は ISC セッションまたは IRC セッションです。

LOCAL

端末はこのシステムに直接接続され、物理装置またはクラスター・コントローラーの機能になっています。

NETNAME (value)

8 文字のネットワーク名を表示します。

物理端末の場合、Netname は z/OS Communications Server が認識しているこの端末の名前です。

ISC セッションの場合、これは z/OS Communications Server がセッション (またはセッション群) を認識するための名前です。

IRC セッションの場合、これは接続領域が領域間通信プログラム (DFHIRP) にログオンするために使用する名前です。

リモート端末の場合、リモート領域で z/OS Communications Server が認識している端末の名前です。(CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 より前の領域からルーティングされるリモート端末の場合、Netname はブランクになります。)

ネット名が z/OS Communications Server LU 別名である場合は、常に実ネット名を含んでいる NQNAME のネット名コンポーネントとは異なります。

NQNAME (value)

17 文字のネットワーク修飾名を表示します。

リモート端末には NQNAME 値がありません。

状況 (Termstatus) が RELEASED の場合、NQNAME はネット名を表示します。

PAGESTATUS

一連のページの先頭以降のページが、オペレーターからの要求で端末に書き込まれるか、自動的に端末に書き込まれるかを表示します。値は以下のとおりです。

PAGEABLE

ページが要求に基づいて書き込まれます。

AUTOPAGEABLE

ページが自動的に書き込まれます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PRIORITY (value)

他の端末に対する端末の優先度を識別する 3 文字のストリングを表示します。タスクの優先度はトランザクションの優先度、端末の優先度、およびオペレーターの優先度の合計です。優先度は、代替機能として使用されている ISC セッションの端末では意味を持ちません。

この値は 0 から 255 の範囲内で、255 で優先度が最高になります。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

PURGETYPE (入力専用フィールド)

指定された端末で実行しているトランザクションをページするかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

PURGE

トランザクションが停止するのは、システムとデータの保全性を維持できる場合のみです。トランザクションの定義で SPURGE=NO が指定されている場合、トランザクションはページされます。

FORCEPURGE

トランザクションは即時にページされます。予測不能な結果が生じる可能性があるため、例外的な事情でのみ使用してください。

REMOTESYSTEM (value)

照会の対象がリモート端末の場合は、接続の先頭 4 文字の名前を表示します。指定された接続は、端末専有領域 (TOR) に対してリンクする接続エントリーか、TOR のネット名を提供する間接接続です。

それ以外の場合、このフィールドはブランクです。

RNAME (value)

定義されているシステム (TOR) 中でこの端末が認識されている 4 文字の名前を表示します。RNAME は、リモートとして定義されている端末にのみ適用されます。その他については、ブランクが表示されます。

RNETNAME (value)

この照会の対象がリモート端末の場合は、所有している TOR の 8 文字のネット名を表示します。このフィールドがブランクで端末がリモートの場合、REMOTESYSTEM に表示される間接接続には、TOR のネット名が入ります。

SERVSTATUS

端末が使用可能かどうかを表示します。値は次のとおりです。

INSERVICE

端末は使用可能です。z/OS Communications Server の場合、Ins(ervice) は、端末が ACQUIRED である可能性があることを意味します。IRC セッションの場合、Ins(service) は MRO パートナーへの接続が INSERVICE であることを意味します。

OUTSERVICE

端末は使用不可です。端末を Out(service) に設定した場合は、端末をトランザクションに使用できなくなっていることを意味します。PURGE または FORCEPURGE も指定されている場合、この端末を使用するトランザクションがあると、異常停止します。PURGE または FORCEPURGE が指定されない場合、トランザクションは正常終了しますが、以後のトランザクションが端末を使用できなくなります。

z/OS Communications Server の場合、端末を Out(service) に設定すると端末が解放されてオペレーターがサインオフされますが、これは即時に行われる場合と、現行のトランザクションが終了したときに行われる場合があります。IRC セッションの場合、Out(service) は MRO パートナーへの接続が OUTSERVICE であることを意味します。

LU6.1 ISC セッションでは、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は Out(service) に設定されます。

物理端末および LU6.1 セッションの場合、この値は、別の値を上書きすると再設定できます。

TASK (value)

この端末で実行しているトランザクションのタスク番号を表示します。

TERMINAL (value)

このパネルが TERMINAL 照会に関連していることを示し、インストールされている端末定義で定義されたおりの 4 文字の端末 ID を表示します。このオプションにはすべての端末とセッションが含まれますが、論理装置コード (LDC)、モデル TCTTE、モード・グループ、またはシステム・エントリーは含まれません。ネット名も参照してください。

TERMSTATUS (z/OS Communications Server のみ)

CICS が、この端末により表される論理装置とセッション中かどうかを表示します。値は次のとおりです。

ACQUIRED

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。

RELEASED

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中ではありません。このオプションを RELEASED に設定した場合、PURGE オプションも指定していると、セッションは即時に停止されます。それ以外の場合、セッションは、現行のアクティブなトランザクションが完了した時点で終了します。

物理端末および LU6.1 セッションの場合、この値は、別の値または以下の値で上書きすることにより再設定できます。

COLDACQ

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。再同期は不要です。

TRANSACTION (value)

この端末の基本機能または 2 次機能としてこの端末で現在処理されているトランザクションの名前を識別する 4 文字のストリングを表示します。

TTISTATUS

端末から開始されたトランザクションが、この端末を使用できるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

TTI

この端末は、トランザクションで使用できます。

NOTTI

この端末は、トランザクションで使用できません。

注:

1. この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。
2. 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

USERID(data-area)

この端末またはセッションでサインオンしたユーザーの 8 文字の ID を戻します。

サインオンしているユーザーがいない場合は、**DFLTUSER** システム初期化パラメーターで指定されたデフォルトのユーザー ID が戻されます。

CEMT INQUIRE TRANSACTION

トランザクションに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「トランザクション」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TRANSACTION コマンドは、トランザクション定義に関する情報を返します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TRANSACTION (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TRANSACTION (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i trans en pu` と入力すると、使用可能でありシステムによってパージ可能なトランザクションのみの詳細が結果に表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。54 ページの『[画面の上書き](#)』を参照してください。
- CEMT SET TRANSACTION コマンドを使用します。

(value)

1 文字から 4 文字のトランザクション ID。CEMT を介してアクセス可能なのは、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義されており、実行中の CICS システムにインストールされているトランザクションのみです。

ALL

デフォルト。

CLASS(value)

トランザクション・リスト・テーブル (XLT) の 2 文字の接尾部です。

サンプル画面

```
IN TRAN
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Tra(AADD) Pri( 001 ) Pro(DFH$AALL) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(ABRW) Pri( 001 ) Pro(DFH$ABRW) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(ADYN) Pri( 001 ) Pro(DFH99 ) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(AINQ) Pri( 001 ) Pro(DFH$AALL) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(AMNU) Pri( 001 ) Pro(DFH$AMNU) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(AORD) Pri( 001 ) Pro(DFH$AREN) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(AORQ) Pri( 001 ) Pro(DFH$ACOM) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
Tra(AREP) Pri( 001 ) Pro(DFH$AREP) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
+ Tra(AUPD) Pri( 001 ) Pro(DFH$AALL) Tc1( DFHTCL00 ) Ena Pur
  Prf(DFHCICST) Uda Bel Iso
```

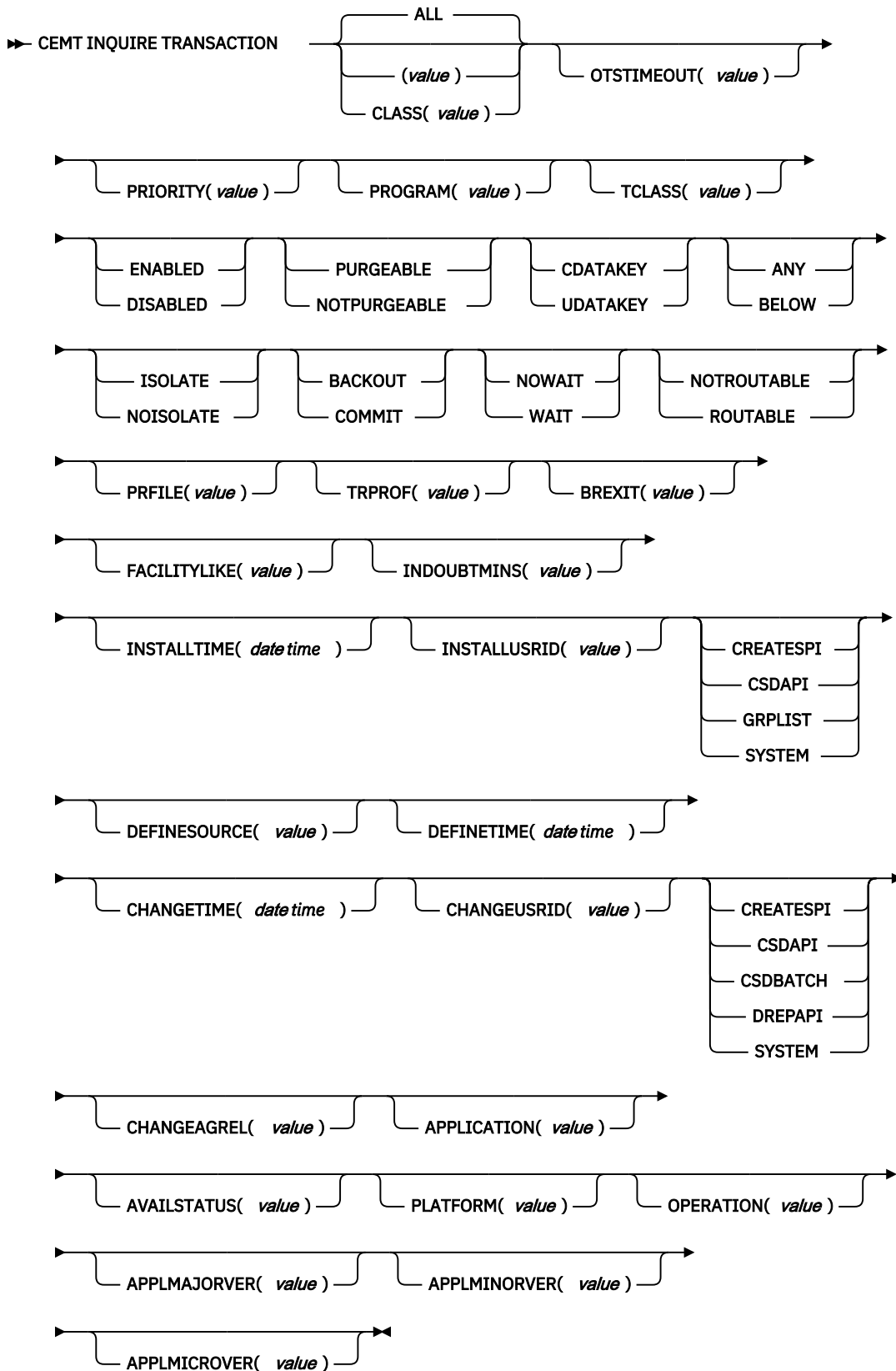
図 86. CEMT INQUIRE TRANSACTION 画面

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [272 ページの図 87](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
IN TRAN
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Transaction(AADD)
Priority( 001 )
Program(DFH$AALL)
Tclass( DFHTCL00 )
Status( Enabled )
Routing(Dynamic)
Routestatus(Notroutable)
Purgeability( Purgeable )
Prfile(DFHCICST)
Taskdatakey(Udatakey)
Taskdataloc(Below)
Isolate(Isolate)
Ttprof()
Indoubt
INdoubtwait
Brexid
Facilitylike
Otsttimeout(12000)
```

図 87. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE TRANSACTION



表示されるフィールド

APPLICATION(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションの名前を表示します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

APPLMAJORVER(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのメジャー・バージョン番号を表示します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

APPLMICROVER(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのマイクロ・バージョン番号を表示します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

APPLMINORVER(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのマイナー・バージョン番号を表示します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

AVAILSTATUS(value)

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションのアプリケーション・エントリー・ポイントとしての TRANSACTION リソースの可用性状況を表示します。

AVAILABLE

TRANSACTION リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていて、アプリケーション・エントリー・ポイントがその可用性を制御し、かつ使用可能であるため、呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できます。

UNAVAILABLE

TRANSACTION リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていますが、その可用性を制御するアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可であるため、呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できません。

NOTAPPLIC

呼び出し元は TRANSACTION リソースを使用できます。TRANSACTION リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていません。あるいは、アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていますが、そのアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可になっているか、TRANSACTION リソースの可用性を制御していません。

BREXIT(value)

指定されたトランザクション・リソース定義の BREXIT パラメーターで定義されたブリッジ出口ルーチンの名前 (8 文字) を返します。

BREXIT が定義されていない場合、ブランクが返されます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は EXEC CICS CREATE コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS または CICSplex システムによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

FACILITYLIKE(value)

指定されたトランザクション・リソース定義に関連付けられた PROFILE の FACILITYLIKE パラメーターにより定義された端末の 4 文字の名前を戻します。

INDOUBT

(TRANSACTION リソース定義の ACTION 属性に基づく) アクションを表示します。これは、CICS 領域がコーディネーターとの接続に失敗するかそれを失って、作業単位が未確定期間にある場合に実行されるアクションです。

アクションは、Indoubtwait および Indoubtmins で戻される値によって異なります。通常、Indoubtwait が WAIT を戻す場合、Indoubtmins で戻される時間が満了するまでアクションは取られません。この規則の例外については、Indoubtwait を参照してください。

値は以下のとおりです。

BACKOUT

リカバリー可能リソースに対するすべての変更はバックアウトされます。

COMMIT

リカバリー可能リソースに対するすべての変更はコミットされ、作業単位には完了というマークが付けられます。

INDOUBTMINS(value)

未確定期間中の障害が発生してから、トランザクションが Indoubt フィールドで戻されたアクションをとるまでの時間の長さ (分) を表示します。戻り値は、作業単位が未確定であり、Indoubtwait が WAIT を戻す場合にのみ有効です。

Indoubt および Indoubtwait も参照してください。

INDOUBTWAIT

(TRANSACTION 定義の WAIT 属性に基づいて) CICS の応答方法を表示します。これは、作業単位 (UOW) が未確定状態の間に障害が発生した場合の応答方法です。値は以下のとおりです。

NOWAIT

障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機しません。CICS はただちに TRANSACTION 定義の ACTION 属性で指定されたアクションを実行します。

WAIT

障害からのリカバリー処理中、作業単位は待機し、リカバリー可能リソースをバックアウトするかまたはコミットするかを判別します。

Indoubtwait が WAIT を戻す場合でも、作業単位が CICS に対して、即時の決定を強制する場合があります。即時の決定とは、トランザクション定義の ACTION 属性で指定されたアクションを即時に取るということです。そのような処理は、例えば作業単位に以下のいずれかのセッションが含まれているときに発生する場合があります。

- 従属 LU6.1 セッション

- CICS Transaction Server for z/OS より前のシステムに対する従属 MRO セッション。

TRANSACTION 定義の ACTION 属性と WAIT 属性の意味について 詳しくは、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM

リソースは、CICS または CICSplex SM システムによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

ISOLATEST

ユーザー・キー・タスク存続期間ストレージが、他のトランザクションのユーザー・キー・プログラムから分離されているかどうかを表示します。

ISOLATE

トランザクションのユーザー・キー・タスク存続期間ストレージは、それ自体のタスクのユーザー・キー・プログラムからのみアクセス可能です。トランザクションのユーザー・キー・タスク存続期間ストレージは、他のすべてのタスクのすべてのユーザー・キー・プログラムから分離されています。

NOISOLATE

トランザクションのユーザー・キー・タスク存続期間ストレージは、それ自体のプログラムと、ISOLATE(NO) オプションを使用して定義された他のトランザクションのユーザー・キー・プログラムからもアクセス可能です。

OPERATION(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのオペレーション名を、64 文字の領域に返します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

OTSTIMEOUT(value)

秒単位によるデフォルトの期間を含むフルワードのデータ域を表示します。この期間は、この CICS トランザクションで実行中の EJB 環境で作成された OTS トランザクションが、同期点の前に実行を許可される期間です。

PLATFORM(value)

このトランザクションがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーションのプラットフォーム名を表示します。トランザクションがアプリケーション・エントリー・ポイントとして定義されていない場合、このフィールドはブランクです。

PRFILE(value)

このトランザクションに関連付けられた追加のオプションを定義するプロファイル定義の名前を表示します。

PRIORITY (value)

トランザクションの、他のトランザクションに対する優先度を示す値を表示します。トランザクションが CICS タスクとして実行されている場合、タスクの優先順位は、トランザクション優先順位、端末優先順位、およびオペレーター優先順位の和です。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

この値は 0 から 255 の範囲内で、255 で優先度が最高になります。

PROGRAM(value)

このトランザクションを開始するときに実行する最初のプログラムの名前を識別する、8 文字のストリングを表示します。

PURGEABILITY

トランザクションが、システム停止状態でパージ可能かどうかを表示します。値は以下のとおりです。

PURGEABLE

トランザクションはシステムによりパージ可能です。この値はトランザクション・リソース定義の SPURGE パラメーターに関連し、CICS がデッドロック・タイムアウトのトランザクションをパージできることを示します。トランザクション・リソース定義の SPURGE パラメーターと DTIMOUT パラメーターについては、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

NOTPURGEABLE

トランザクションをパージできません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

ROUTSTATUS

トランザクションが、適格な EXEC CICS の START コマンドの対象である場合に、拡張ルーティング方式を使用して経路指定されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

NOTROUTABLE

トランザクションが START コマンドの対象である場合に、「従来型の」方式を使用して経路指定されます。

ROUTABLE

トランザクションが適格な START コマンドの対象である場合に、拡張方式を使用して経路指定されます。

EXEC CICS START コマンドが呼び出すトランザクションの拡張方式、および「従来型の」方式でのルーティングについて詳しくは、[CICS トランザクション・ルーティング](#)を参照してください。

STATUS

トランザクションが使用可能かどうかを表示します。

ENABLED

トランザクションは使用可能です。

DISABLED

トランザクションは使用不可です。

トランザクションが使用不可の場合でも、このトランザクションを指定する START コマンドがリモート領域にシップされることが妨げられることはありません。要求されたトランザクションにタスクが接続されると、CICS はトランザクションがリモート領域で使用可能かどうかを検査します。

注：この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TASKDATAKEY

このトランザクションが使用するすべてのストレージを CICS が取得するためのストレージ・キーを表示します。このストレージには、タスク存続時間ストレージ (つまりトランザクション作業域 (TWA) と EXEC インターフェース・ブロック (EIB)) と、CICS がこのトランザクションの下で実行するプログラムの代わりに取得するストレージが含まれます。

値は以下のとおりです。

CDATAKEY

CICS は CICS キー・ストレージからトランザクション用のストレージを取得します。CICS キーを実行するアプリケーション・プログラムは、このストレージへの読み取り/書き込みアクセス権限がありますが、ユーザー・キー・プログラムが持っているのは読み取り専用アクセス権限です。

UDATAKEY

CICS はユーザー・キー・ストレージからトランザクション用のストレージを取得します。任意のキーで実行するアプリケーション・プログラムには、このストレージへの読み取り/書き込みアクセス権限があります。

トランザクション・リソース定義の TASKDATAKEY パラメーターの説明は、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

TASKDATALOC

トランザクションに対する一部の CICS 制御ブロック (EIB および TWA を含む) が、16 MB 境界より上で獲得されるか、または 16MB 境界より下で獲得されるかを表示します。

ANY

トランザクションは、任意の場所にあるタスク関連のデータを受け入れます。

BELOW

トランザクションは、タスク関連のデータ (TWA と EIB に加えて、任意の内部制御ブロック) が 16 MB 境界より下にあることを要求します。

TCLASS(value)

トランザクションが属するトランザクション・クラスの名前を識別する 8 文字のストリングを表示します。トランザクションがクラスに属さない場合、DFHTCLOO が戻されます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

トランザクションをその TCLASS から除去するには、このフィールドを DFHTCLOO に設定します。追加または変更された TCLASS は、既に定義済みでなければなりません。

TRANSACTION(value)

このパネルが TRANSACTION 照会に関連していることを示し、4 文字のトランザクション ID を表示します。CEMT を介してアクセス可能なのは、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義されており、実行中の CICS システムにインストールされているトランザクションのみです。

TRPROF(value)

トランザクションがリモート・トランザクションとして定義されている場合に、このトランザクションに関連付けられた追加のオプションを定義するトランザクション・ルーティング・プロファイルの名前を表示します。

CEMT INQUIRE TRDUMPCODE

トランザクション・ダンプ・コードに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE TRDUMPCODE コマンドは、トランザクション・ダンプ・テーブル内のエントリーの現在の設定を表示します。ダンプの使用については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

注: SHUTDOWN と MAXIMUM の両方のオプションを同じコマンドで使用しないでください。

このコマンドは、ユーザー・アプリケーション・プログラムまたは CEMT コマンドによってダンプ・テーブルに追加されたエントリーを返し、また CICS がダンプ要求によってダンプ・テーブルに追加したエントリーも返します。CICS がダンプ・テーブルに追加したエントリーは一時的なものであり、ウォーム・スタート時にも、コールド・スタートまたは初期始動時にも復元されないことに注意してください。ユーザー・アプリケーション・プログラムまたは CEMT コマンドによって追加されたエントリーは、ウォーム・スタート時には復元されますが、コールド・スタートまたは初期始動時には復元されません。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TRDUMPCODE (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TRDUMPCODE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i trd sy sh` と入力すると、システム・ダンプが生成される対象のトランザクション・ダンプ・コード、および CICS システムがシャットダウンする対象のトランザクション・ダンプ・コードのみの詳細が結果に表示されます。

次のような方法でさまざまな属性を変更できます。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します (54 ページの『画面の上書き』を参照)。
- **CEMT SET TRDUMPCODE** コマンドを使用します。

(value)

4 バイトのトランザクション・ダンプ・コード。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
IN TRDU
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Trd(ATNI) Tra          Loc Max( 999 ) Cur(0002)
Trd(ERRS) Tra          Loc Max( 999 ) Cur(0001)
```

図 88. CEMT INQUIRE TRDUMPCODE 画面

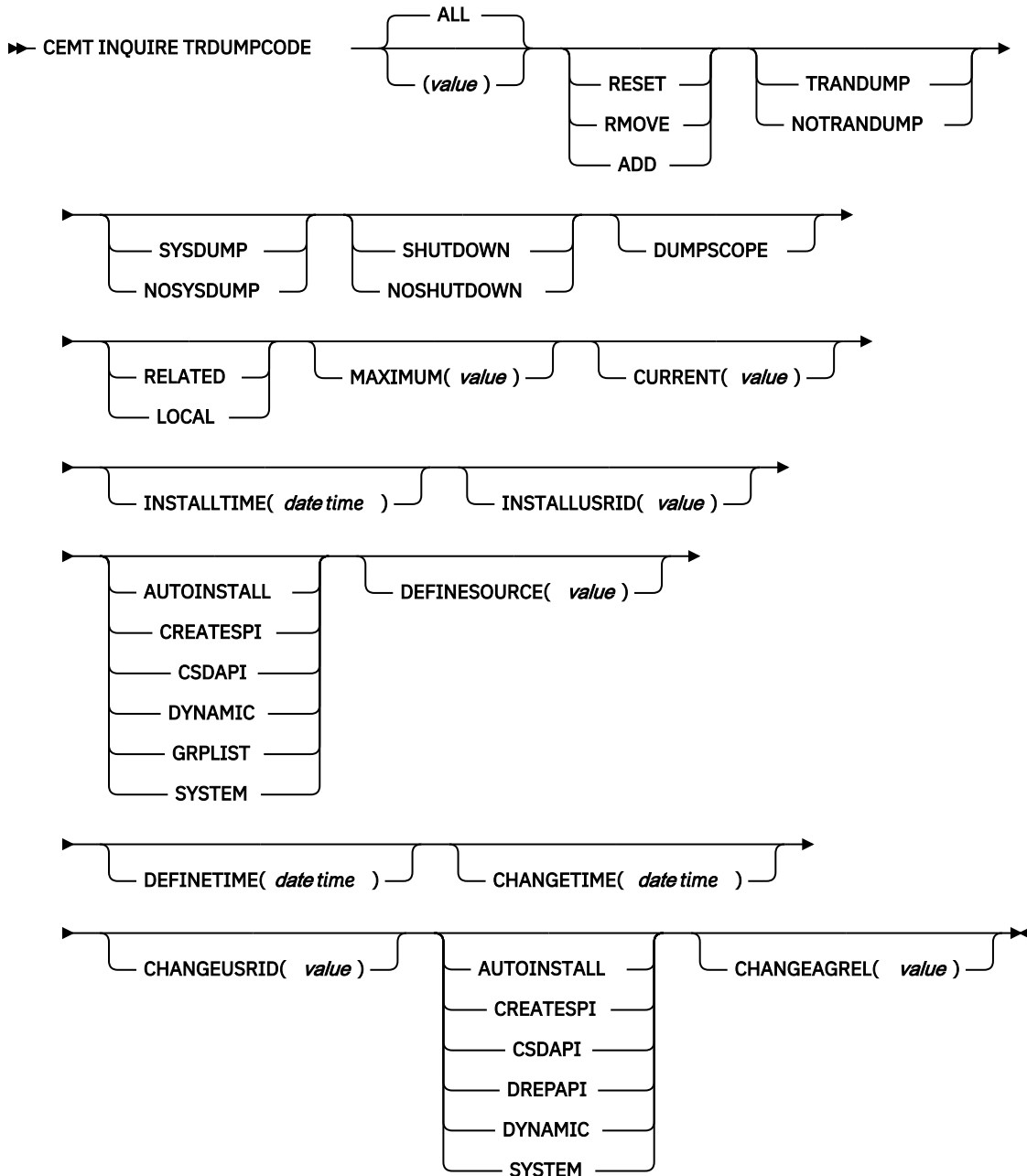
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用の方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は 279 ページの図 89 のような拡張フォーマットを表示します。

```
IN TRDU
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Trdumpcode(ATNI)
Trandumping( Trandump )
Sysdumping( Nosysdump )
Shutoption( Noshutdown )
Dumpscope( Local )
Maximum( 999 )
Current(0002)
Action(          )
Installtime(19/07/22 09:01:00)
Installuserid(userid)
Installagent(Csdapi)
Definesource(TEMP)
Definetime(19/07/22 09:02:00)
Changetime(19/07/22 09:04:00)
Changeusrid(userid)
Changeagent(Csdapi)
Changeagrel(0730)
```

図 89. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE TRDUMPCODE



表示されるフィールド

ACTION (入力専用フィールド)

指定されたトランザクション・ダンプ・コードがリセットされるか、ダンプ・コード・テーブルから削除されるか、またはダンプ・コード・テーブルに追加されるかを表示します。値は以下のとおりです。

RESET

このダンプ・コードの現在のダンプ呼び出し回数をゼロにリセットします。

REMOVE

指定されたトランザクション・ダンプ・コードをダンプ・コード・テーブルから削除します。

ADD

指定されたトランザクション・ダンプ・コードをダンプ・コード・テーブルに追加します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソースは、**SET TRANDUMPCODE** コマンドによって最後に変更されました。

SYSTEM

リソース定義は、CICS によって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CURRENT(value)

値が最後にゼロにリセットされたとき以降、このトランザクション・ダンプ・コードについて行われたダンプ呼び出しの回数を表示します。CURRENT の値は 4 文字に制限されています。最後にリセットされたとき以降、このトランザクション・ダンプ・コードについて 9999 回を超えるダンプ呼び出しがあった場合は、値の下 4 桁の数字のみが CURRENT に含まれます。

CURRENT 値は、SET SYDUMPCODE RESET コマンドを使用して明示的にリセットでき、また CICS のシャットダウン時に自動的にリセットすることもできます。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

DUMPSCOPE

ダンプが開始された CICS 領域に関連した、XCF/MRO 接続の CICS 領域を実行するシスプレックス内の MVS イメージに、システム・ダンプ要求を送信するかどうかを表示します。

注：関連した CICS 領域とは、その領域内にある 1 つ以上のタスクの作業単位 ID (APPC トークンの形式) が、ダンプ要求を発行した CICS 領域内の ID と一致する場合を指します。

RELATED

このシステム・ダンプ・コードについては、システム・ダンプ要求がシスプレックス内の他の MVS イメージに送信されます。

LOCAL

このシステム・ダンプ・コードについては、システム・ダンプ要求がシスプレックス内の他の MVS イメージに送信されません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

AUTOINSTALL

リソースは自動インストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは、**SET TRANDUMPCODE ADD** コマンドによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

SYSTEM

CICS によってリソースがインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MAXIMUM(value)

ダンプの作成が行われる、このダンプ・コードのダンプ呼び出しの最大数を表示します。この値の範囲は 0 から 999 までで、SIT パラメーターの TRDUMAX を使用して指定できます。値 999 は、デフォルト (制限なし) を意味します。

SHUTOPTION

このダンプ・コードに対応するエラーが発生した後、CICS システムがシャットダウンするかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

SHUTDOWN

CICS システムはシャットダウンします。

NOSHUTDOWN

CICS システムはシャットダウンしません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

SYSDUMPING

このトランザクション・ダンプ・コードのシステム・ダンプが生成されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

SYSDUMP

システム・ダンプを生成します。

NOSYSDUMP

システム・ダンプを生成しません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TRANDUMPING

このトランザクション・ダンプ・コードのトランザクション・ダンプが生成されるかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

TRANDUMP

トランザクション・ダンプを生成します。

NOTRANDUMP

トランザクション・ダンプを生成しません。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。

TRDUMPCODE(value)

このパネルが TRDUMPCODE 照会に関連していることを示し、4 文字のトランザクション・ダンプ・コードを表示します。

CEMT INQUIRE TSMODEL

一時記憶域 (TS) モデルに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「TS モデル」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE TSMODEL コマンドは、一時記憶域モデルに関する情報を戻します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TSMODEL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE TSMODEL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i tsm main` と入力すると、メインの一時記憶域キューの一時記憶域モデルに関する詳細だけが表示されます。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter を押すと、CICS は拡張フォーマットを表示します。

さまざまな属性を変更するには、タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します ([画面での上書き入力](#)を参照)。

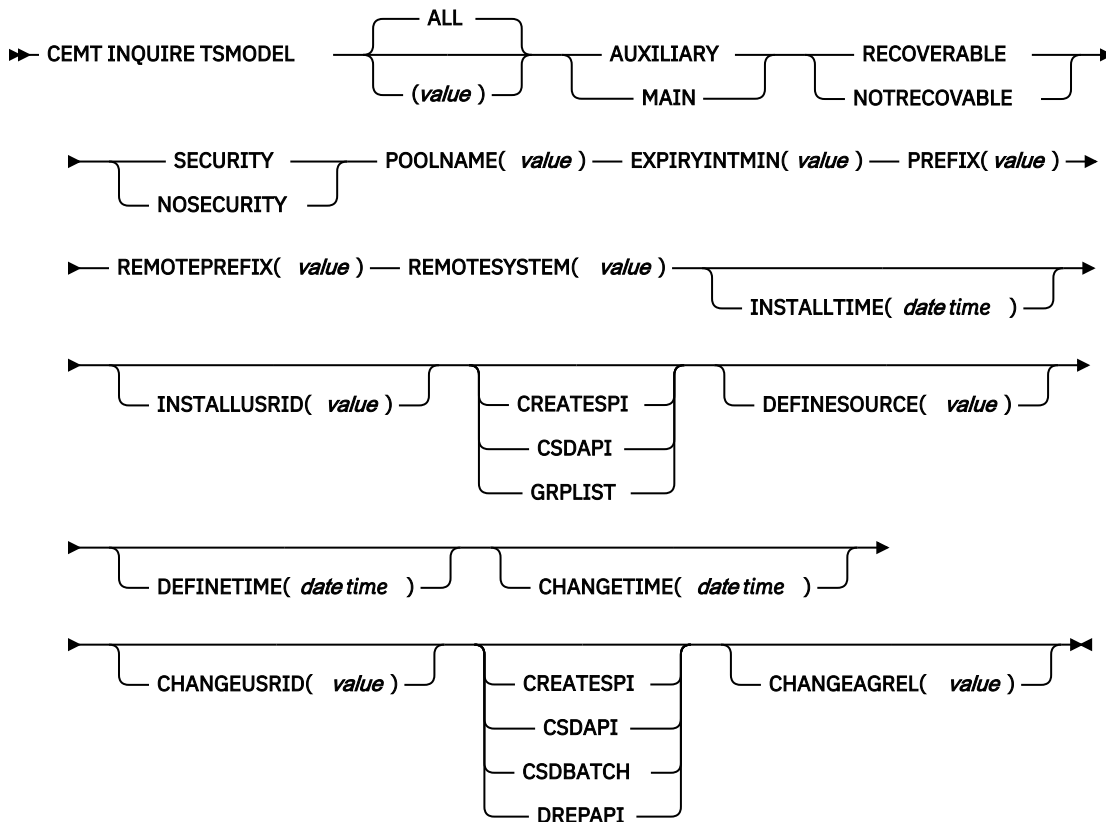
ALL

デフォルト。

(value)

情報が要求される一時記憶域モデルの名前。

CEMT INQUIRE TSMODEL



表示されるフィールド

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

EXPIRYINTMIN(value)

この TS モデルに関連付けられた一時記憶域キューの期限切れ間隔を分単位で表示します。CICS は、最も近い 10 分の倍数に切り上げた値を使用します。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。ゼロの値は、このモデルと一致するキューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。CICS は、リカバリー可能、リモート、または一時記憶域キュー、あるいは CICS によって作成された一時記憶域キューに期限切れ間隔を適用しません。CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されるようになりました。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

LOCATION

この TS モデルに関連付けられた一時記憶域キューが存在する場所を表示します。値は以下のとおりです。

AUXILIARY

この TS モデルに関連付けられた TS キューは、補助一時記憶域である VSAM データ・セット DFHTEMP 内、またはカップリング・ファシリティの一時記憶域プール内に保持されます。

MAIN

この TS モデルに関連付けられた TS キューは、主記憶域に保持されます。

POOLNAME(value)

8 文字の共用プール名を表示します。

PREFIX(value)

このモデルのプレフィックスを 16 文字ストリングで表示します。

RECOVSTATUS

一時記憶域キューのリカバリー状況を表示します。値は以下のとおりです。

RECOVERABLE

一時記憶域キューはリカバリー可能です。

NOTRECOVERABLE

一時記憶域キューはリカバリー可能ではありません。

REMOTEPREFIX(value)

このモデルのリモート・プレフィックスを 16 文字ストリングで表示します。

REMOTESYSTEM(value)

このモデルのリモート・システム名を 4 文字ストリングで表示します。

SECURITYST

このモデルのセキュリティー 状況を表示します。 値は以下のとおりです。

SECURITY

このモデルに一致するキュー名のセキュリティー 検査を実行します。

NOSECURITY

このモデルに一致するキュー名のセキュリティー 検査を実行しません。

TSMODEL(value)

このパネルが TSMODEL 照会に関連していることを示し、一時記憶域モデルの 8 文字の名前を表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。 拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

CEMT INQUIRE TSPPOOL

一時記憶域 (TS) プールに関する情報を取得します。

説明

INQUIRE TSPPOOL コマンドは、一時記憶域 (TS) プールに関する情報を返します。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。 このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE TSPPOOL (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。
- CEMT INQUIRE TSPPOOL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な数の属性を入力します。例えば、`cemt i tsp connected` と入力すると、接続されている共用一時記憶域プールの方のみの詳細が結果の表示にリストされます。

さまざまな属性を変更するには、タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します (54 ページの『画面の上書き』を参照)。

ALL

デフォルト。

(value)

情報が要求される一時記憶域プールの名前。

サンプル画面

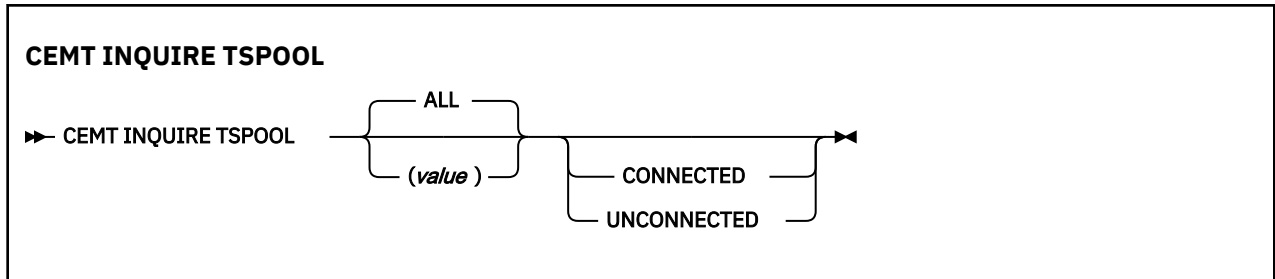
```
I TSP
STATUS: RESULTS
Tsp(DFHWEB ) Unc
```

図 90. CEMT INQUIRE TSPPOOL 画面

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は 287 ページの図 91 のような拡張フォーマットを表示します。


```
I TSP
RESULT
  Tspool(DFHWEB)
  Connstatus(Unconnected)
```

図 91. 各エントリーの拡張表示



表示されるフィールド

CONNSTATUS

この TS プールの接続状況を表示します。値は以下のとおりです。

CONNECTED

この TS プールは接続されています。

UNCONNECTED

この TS プールは接続されていません。

TSPOOL(value)

このパネルが TSPOOL の照会に関連していることを示し、一時記憶域プールの 8 文字の名前を表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

CEMT INQUIRE TSQUEUE / TSQNAME

CEMT INQUIRE TSQUEUE コマンドまたは **CEMT INQUIRE TSQNAME** コマンドを使用して、一時記憶域キューに関する情報を取得します。CEMT では、どちらのコマンドを使用しても、名前の長さが最大 16 文字の一時記憶域キュー (TS キュー) に対する操作が可能です。

CICS Explorer では、「TS キュー」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE TSQUEUE コマンドは、一時記憶域 (TS) キューに関する情報を戻します。INQUIRE TSQUEUE コマンドは、CICS 領域に存在するすべての一時記憶域キューに対して作動します。CICS が内部専用として作成する一時記憶域キュー (BMS で使用するキューなど) も含まれます。CICS が内部専用として作成する一時記憶域キューは、以下の文字ストリングで始まるキュー名で識別できます。

BMS ページング

\$\$

BMS 経路

X'FA' から X'FF'

CICS

CEBR

デフォルトの CEBR キュー名

DF

CICS

DFHM

メッセージ保護タスク用のメッセージ・キャッシュ

DFXXxx

CICS REQIDS (xx は 16 進値)

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE TSQUEUE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE TSQUEUE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i tsq main` と入力すると、主記憶域に存在する一時記憶域キューの詳細だけが表示されます。

さまざまな属性を変更するには、タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します ([画面での上書き入力](#)を参照)。

ALL

デフォルト。

(value)

情報が要求される一時記憶域キューの名前。

SYSID(value)

要求を TS サーバーに送る場合に、一時記憶域プール名に対応するシステム名。

この値は入力専用で、具体的でなければなりません。SYSID に総称名を指定することはできません。指定されたシステム名は、一時ストレージ・テーブル (TST) の TST TYPE=SHARED 項目で定義されている必要があります。SYSID が TST TYPE=SHARED 項目で見つからない場合、CICS は SYSID NOT FOUND エラーを戻します。

POOLNAME(value)

要求を TS サーバーに送る場合に、一時記憶域プールの 8 文字のプール名を指定します。このオプションを使用して、RDO リソース定義で定義された共用一時記憶域キューを表示します。

プールの名前が見つからない場合、CICS は POOLERR を戻します。

ブラウズ

一時記憶域キューのリスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter を押すと、CICS は拡張フォーマットを表示します。

拡張リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて B (大文字または小文字) を入力すると、CICS は CEBR トランザクションによって使用されるプログラム DFHEDFBR への直接リンクを呼び出して、この TS キューの内容を参照できるようにします。詳しくは、[CEBR - 一時記憶域ブラウズ](#)を参照してください。

セキュリティ警告: 機密漏れを防止するように十分に注意してください。この状態のとき、参照機能へのアクセスは CEBR トランザクションの場合とは異なり、DFHSIT の **XTRAN** パラメーターを使用するトランザクション接続セキュリティ検査によって制御されません。その代わりに、アクセスは DFHSIT の **XPPT** パラメーターを使用するアプリケーション・プログラム・セキュリティ検査によって制御されます。

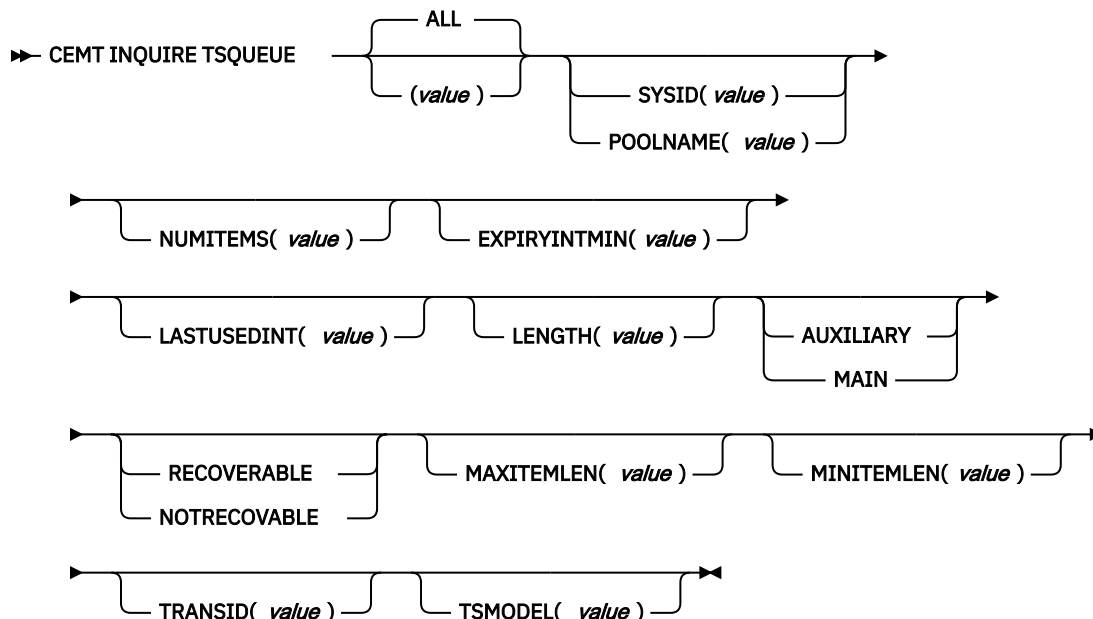
CEMT INQUIRE TSQUEUE 結果パネルに表示されるすべての TS キューが、CEBR を使用して参照できるとは限りません。共用 TS プールに存在するキューは、POOLNAME が INQUIRE TSQUEUE 要求に指定されているとき、参照できないこともあります。そのようなキューは、キュー名を TS プールにマップする TSMODEL リソース定義または一時ストレージ・テーブル (TST) の項目マッピングがあれば、参照できます。

また、一時ストレージ・テーブル (TST) 内の項目を使用して共用プールにマップする SYSID を指定することにより、共用プール内のキューを参照することもできます。ただし、SYSID は CEMT では使用できない

ので、キューの隣に B 入力すると NOT FOUND 応答が CEBR から出されます。その後、ユーザーによって適切な SYSID が提供されると、共用プールへの参照が解決されます。

一時ストレージ・テーブル (TST) に適切な項目がなく、キュー名を共用プールにマップする TSMODEL もない場合、そのキューを参照することはできません。CEBR は要求されたキューが存在しないことを示します。

CEMT INQUIRE TSQUEUE/TSQNAME



表示されるフィールド

EXPIRYINTMIN(value)

TSMODEL リソース定義で一時記憶域キューに定義されている期限切れ間隔を分単位で表示します。CICS は、最も近い 10 分の倍数に切り上げた値を使用します。一時記憶域キューが期限切れ間隔の間に参照されない場合、CICS によって自動的に削除される対象となります。共用 TS キューの自動削除が使用可能です。

ゼロの値は、一時記憶域キューに適用される期限切れ間隔がないことを意味するので、一時記憶域キューは自動削除の対象になりません。加えて、一致する TSMODEL リソース定義でゼロ以外の期限切れ間隔が設定されていても、以下のタイプの一時記憶域キューは、CICS によって自動で削除されることはありません。

- ・リカバリ可能として定義されている補助一時記憶域内のキュー。
- ・リモート CICS 領域内のキュー。
- ・CICS が独自に使用するために作成するキュー。

CICS TS 5.2 以降、期限切れ間隔は、共用一時記憶域キューにも適用されるようになりました。

LASTUSEDINT(value)

キューが最後に参照されてから経過した時間間隔をバイナリー秒単位で表示します。

LENGTH(value)

一時記憶域キューに含まれるすべての項目の合計の長さをバイト数で表示します。

キュー項目の長さは、切り上げられたヘッダー情報のユーザー・データに 8 バイトを足した合計の長さになります。

- ・主一時記憶域の場合、この長さは、保管するために使用されている MVS ストレージ・サブプールの境界に切り上げられます。

- ・ 補助一時記憶域の場合、この長さは、64 または 128 のいずれかの次に大きい倍数に切り上げられます。どちらが選択されるかは、一時記憶域データ・セットの制御インターバル・サイズにより決定されます。資料については、[補助一時記憶域の制御インターバル・サイズ](#)を参照してください。
- ・ 共用キューの場合、MINITEMLEN、MAXITEMLEN、および FLENGTH に戻される長さは、カップリング・ファシリティに保管されるデータ長を反映します。データ長には、各項目の長さが 2 バイトの接頭部で成る項目制御情報が含まれています。

すべてのタイプのキューで、戻される最大値は 32767 (X'7FFF') が上限です。

LOCATION

一時記憶域キューが存在する場所を表示します。値は以下のとおりです。

AUXILIARY

一時記憶域キューは、補助一時記憶域 (VSAM データ・セット DFHTEMP) 内、またはカップリング・ファシリティの一時記憶域プール内に保持されています。

MAIN

一時記憶域キューは主記憶域に保持されます。

MAXITEMLEN(value)

一時記憶域キューに含まれる最も長い項目の長さをバイト数で表示します。

キュー項目の長さは、切り上げられたヘッダー情報のユーザー・データに 8 バイトを足した合計の長さになります。

- ・ 主一時記憶域の場合、この長さは、保管するために使用されている MVS ストレージ・サブプールの境界に切り上げられます。
- ・ 補助一時記憶域の場合、この長さは、64 または 128 のいずれかの次に大きい倍数に切り上げられます。どちらが選択されるかは、一時記憶域データ・セットの制御インターバル・サイズにより決定されます。資料については、[補助一時記憶域の制御インターバル・サイズ](#)を参照してください。
- ・ 共用キューの場合、MINITEMLEN、MAXITEMLEN、および FLENGTH に戻される長さは、カップリング・ファシリティに保管されるデータ長を反映します。データ長には、各項目の長さが 2 バイトの接頭部で成る項目制御情報が含まれています。

すべてのタイプのキューで、戻される最大値は 32767 (X'7FFF') が上限です。

MINITEMLEN(value)

一時記憶域キューに含まれる最も小さい項目の長さをバイト数で表示します。

キュー項目の長さは、切り上げられたヘッダー情報のユーザー・データに 8 バイトを足した合計の長さになります。

- ・ 主一時記憶域の場合、この長さは、保管するために使用されている MVS ストレージ・サブプールの境界に切り上げられます。
- ・ 補助一時記憶域の場合、この長さは、64 または 128 のいずれかの次に大きい倍数に切り上げられます。どちらが選択されるかは、一時記憶域データ・セットの制御インターバル・サイズにより決定されます。資料については、[補助一時記憶域の制御インターバル・サイズ](#)を参照してください。
- ・ 共用キューの場合、MINITEMLEN、MAXITEMLEN、および FLENGTH に戻される長さは、カップリング・ファシリティに保管されるデータ長を反映します。データ長には、各項目の長さが 2 バイトの接頭部で成る項目制御情報が含まれています。

すべてのタイプのキューで、戻される最大値は 32767 (X'7FFF') が上限です。

NUMITEMS(value)

一時記憶域キューに含まれる項目数を表示します。

RECOVSTATUS

一時記憶域キューのリカバリー状況を表示します。値は以下のとおりです。

RECOVERABLE

一時記憶域キューはリカバリー可能です。

NOTRECOVERABLE

一時記憶域キューはリカバリー可能ではありません。

TRANSID(value)

TS キューを作成したトランザクションの 4 文字の ID を表示します。

TSMODEL(value)

TS キューの作成時に使用されていた一時記憶域モデルの 8 文字の ID が表示されます。TS キューの作成後にモデルが変更または削除されている可能性があることに注意してください。

TSQUEUE(value)

このパネルが TSQUEUE 照会に関連していることを示し、一時記憶域キューの 16 文字の名前を表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

CEMT INQUIRE UOW

作業単位 (UOW) に関する情報を取得します。

説明

INQUIRE UOW コマンドは、指定された作業単位に関する情報、または現在システム内にあるすべての UOW に関する情報を返します。UOW の状態 (例えば、INDOUBT)、および UOW がアクティブであるか、待機中であるか、または中断しているかを表示します。

リカバリー可能データ・セットまたは接続に問題があると考えられる場合は、**INQUIRE UOW** を使用して、接続またはデータ・セットの障害が原因で中断している UOW を表示できます。このコマンドは、場合によっては、UOW が中断される原因となったリソースの名前と、UOW を開始したトランザクション、ユーザー、および端末を表示します。

重要: 相互通信環境では、接続されている複数のシステムによってとられるアクションを 1 つの作業単位に含めることができます。そのような作業単位は、更新するリソースが複数のシステムに分散しているため、分散作業単位と呼ばれます。分散作業単位は複数のローカル作業単位からなり、それぞれ、参加システムの 1 つで行われる作業を表しています。

INQUIRE UOW コマンドは、常にローカル UOW に関する情報を返します。つまり、分散 UOW の場合は、コマンドが発行されたシステム上で必要な作業に関する情報のみが返されます。分散 UOW の情報は、NETUOWID フィールドで戻されたネットワーク全体での UOW ID と、他のシステムのローカル UOW のネットワーク全体での ID を突き合わせることで作成できます。

ローカル UOW と分散 UOW について詳しくは、[システム間の問題のトラブルシューティング](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE UOW (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。入力すると、すべての現行 UOW がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE UOW (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i uow sh con` と入力すると、接続の失敗のために中断された UOW のみの詳細が結果に表示されます。

(value)

UOW の 16 文字のローカル ID。

ALL

デフォルトです。UOW ID を指定しない場合は、システム内のすべての UOW に関する情報が表示されます。

サンプル画面

```
IN UOW
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Uow(AB8FFF37584B6601) Inf Act Tra(CSSY) Tas(00000005)
    Age(00004090) Use(BELL )
Uow(AB8FFF3758786C01) Inf Act Tra(CSSY) Tas(00000006)
    Age(00004090) Use(BELL )
Uow(AB8FFF376D9B6601) Inf Act Tra(CSTP) Tas(00000008)
    Age(00004090) Use(BELL )
Uow(AB900BD865417C04) Inf Act Tra(CSNE) Tas(00000018)
    Age(00000700) Use(BELL )
Uow(AB900BE2010AC401) Inf Act Tra(CEMT) Tas(00000043)
    Age(00000689) Ter(S21D) Netn(IGBS21D ) Use(BELL )
```

図 92. CEMT INQUIRE UOW 画面

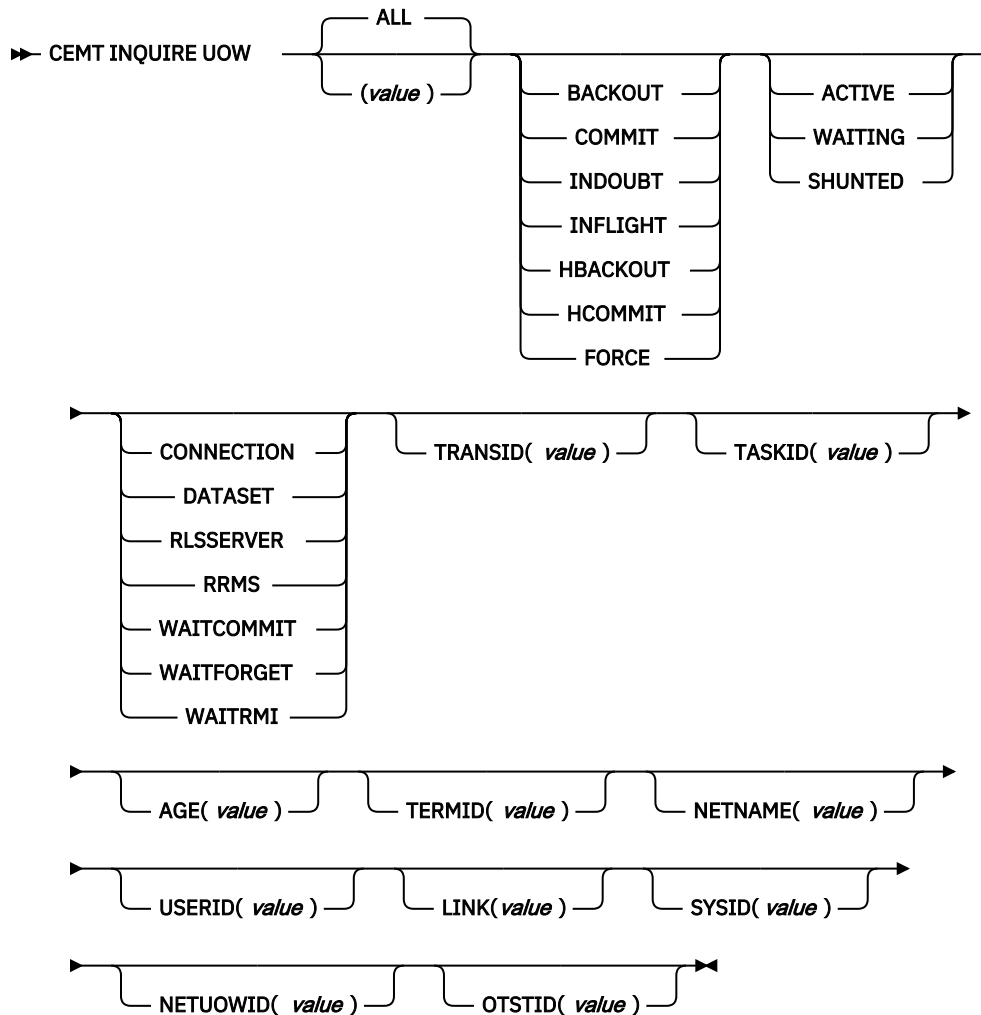
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [292 ページの図 93](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
IN UOW
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Uow(AB8FFF37584B6601)
Uowstate( Inflight )
Waitstate(Active)
Transid(CSSY)
Taskid(00000005)
Age(00004233)
Termid()
Netname()
Userid(BELL)
Waitcause()
Link()
Sysid()
Netuowid(..GBIBMIYA.CICSHT61.....)
Otstid()
```

図 93. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE UOW



表示されるフィールド

AGE (value)

UOW の経過時間を秒単位で表示します。これは、UOW が現在の状態に入ってから秒数、または UOW の開始以降の秒数です。

LINK(value)

WAITCAUSE 値が CONNECTION である場合は、UOW の待機または中断の原因となったリモート・システムのネット名である 8 文字の値を表示します。その他の WAITCAUSE 値の場合、LINK はブランクを表示します。

NETNAME (value)

UOW が開始された端末の 8 文字のネットワーク名を表示します。

UOW が ISC セッションまたは MRO セッションから開始された場合、NETNAME はリモート領域のネットワーク名を表示します。

UOW が端末、ISC セッション、または MRO セッションのどれからも開始されなかった場合、NETNAME はブランクを表示します。

NETUOWID (value)

このネットワーク内の UOW の LU6.2 名、つまり UOW のネットワーク全体の ID を含む 27 文字のストリングを表示します。

表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

分散 UOW の情報は、ネットワーク全体での UOW ID と、他のシステムのローカル UOW のネットワーク全体での ID を突き合わせることによって作成できます。

OTSTID(value)

UOW が一部となっている OTS トランザクションのトランザクション ID (TID) の最初の 128 バイトを表示します。OTS 名が 128 バイトよりも短い場合は、2 進ゼロで右側が埋め込まれます。

SYSID(value)

WAITCAUSE 値が CONNECTION である場合は、UOW の待機または中断の原因となった接続の sysid である 4 文字の sysid を表示します。接続が破棄されている場合や、WAITCAUSE 値がそれ以外のときは、SYSID はブランクを返します。

TASKID (value)

この UOW に当初関連付けられていたタスク番号を表示します。UOW が中断されている場合、タスクは終了します。この場合、番号は別のタスクによって再利用された可能性があります。

TERMID (value)

この UOW が開始された端末またはセッションの 4 文字の ID を表示します。これは、タスクの基本機能です。トランザクションがミラー・トランザクション (CSMI) である場合、これはセッションです。OTS トランザクションに属する UOW の場合は、タスクを接続した要求ストリームによって使用されるセッションです。

TRANSID (value)

この UOW を開始したトランザクションの 4 文字の ID を表示します。

UOW(value)

このパネルが UOW 照会に関連していることを示し、16 文字の UOW ローカル ID を表示します。

UOWSTATE

UOW の状態を表示します。値は以下のとおりです。

BACKOUT

この UOW はバックアウトされている途中か、この UOW に関係するリカバリー可能リソースの 1 つ以上のバックアウトに失敗しました。

COMMIT

UOW をコミットする決定が行われましたが、UOW が待機中か、中断されています。この理由としては、同期点ですべての参加プログラムに決定がまだ通知されていないか、またはコミット処理中に障害が発生したことが考えられます。

INDOUBT

この UOW は未確定状態です。

INFLIGHT

UOW は正常に実行されています。

HBACKOUT

UOW は強制的にバックアウトされました。UOW が未確定の解決を待機できない場合に、強制的な決定が行われます。例えば、トランザクションが WAIT(NO) として定義されていた場合や、CEMT SET UOW コマンドを使用してバックアウトされた場合などです。

HCOMMIT

UOW は強制的にコミットされました。

注：この値は、以下の値を入力して変更するとリセットできます。

COMMIT

この UOW に対する指定に従って、同期点コミット処理の強制を試みます。

BACKOUT

この UOW に対する指定に従って、同期点バックアウト処理の強制を試みます。

FORCE

TRANSACTION リソース定義の ACTION オプションの指定に従って、UOW のバックアウトまたはコミットの強制を試みます。

これらの値はすべて、中断された未確定の UOW のみに対して有効です。TRANSACTION リソース定義の未確定属性については、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

USERID(value)

このトランザクションの開始に使用された 8 文字のユーザー ID を表示します。

WAITCAUSE

UOW が待機中または中断の状態にある場合に、その状態になる原因となったリソースのタイプを表示します。

注：待機の場合は、タスクではなく UOW が待機しています。

値は以下のとおりです。

CONNECTION

この UOW は、未確定期間中に UOW のコーディネーターに対するセッションで起こった障害が原因で待機しているか、中断されました。NETNAME と SYSID には、障害が起こったリンクのネット名とシステム名が含まれています。

DATASET

この UOW は、1 つ以上のデータ・セットの障害が原因で待機しているか、中断されました。INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドを使用すると、関連したデータ・セットと、これらが UOW の障害を引き起こした理由が示されます。

NOTAPPLIC

UOW は待機していません。

RLSSERVER

この UOW は、RLS サーバーの障害が原因で、OTS コーディネーターを待機しているか中断されました。

RRMS

この UOW は、RRS/MVS との通信が失われたために待機しているか、中断されました。

WAITCOMMIT

この UOW は、コミット処理中に障害が発生したために待機しているか、中断されました。

WAITFORGET

この UOW は、同期点で参加プログラムからの FORGET を待機しています。INQUIRE UOWLINK コマンドを使用して、参加プログラムのネット名と sysid を取得してください。

WAITRMI

この UOW は、RMI からの FORGET を待機しています。INQUIRE UOWLINK コマンドを使用して、タスク関連ユーザー出口の入り口名と修飾子を取得してください。

WAITSTATE

UOW の同期点処理が延期されているかどうかを表示します。値は以下のとおりです。

ACTIVE

UOW は正常に実行されているか、または再開中です。

WAITING

同期点処理は、このシステム上では完了しましたが、分散 UOW に関係するすべてのシステムでは完了していません。WAITFORGET または WAITRMI、および BACKOUT または COMMIT の値は、このシステム上で UOW がどのように解決されたかを示しています。

SHUNTED

UOW の同期点処理は延期されています。SHUNTED はさらに、タスク、端末、およびプログラムのストレージが解放され、ロックが保持されていることを示します。

CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL

CICS ファイル制御管理データ・セットを更新した、障害が起こった作業単位に関する情報を取得します。

説明

INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドは、特定のデータ・セットに関連した作業単位 (UOW) の障害に関する情報を返します。属性を指定せずに基本コマンド **CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL** を入力すると、すべてのデータ・セットに関して、障害が起こった UOW がすべて表示されます。

INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドの発行時に、障害が起こった UOW の再試行処理が行われている場合、その UOW はリストされません (現時点で中断されておらず、障害も起こっていません)。再試行が正常に行われると、その特定のデータ・セットに関連した UOW の障害は解消されます。再試行に失敗した場合、UOW は再び中断され、INQUIRE UOWDSNFAIL は UOW をそのデータ・セットに関して障害が起きているものとして表示します。

また、特定のデータ・セットについて障害のある UOW のみに注目する場合は、特定のデータ・セット名または総称データ・セット名のいずれかを指定することによって、DSNAME パラメーターをフィルターとして使用できます。他の属性をフィルターとして使用することもできます。例えば、障害が起こった未確定の UOW の CONNECTION、またはバックアウト時に障害が起こった UOW の DATASET などです。INQUIRE UOWDSNFAIL コマンドの結果をフィルターに掛けるために使用できる、UOW の障害理由のリスト (および関連した原因) を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。結果の表示には、失敗した UOW がすべてリストされます (存在する場合)。該当するものが存在しない場合、CICS は NOT FOUND エラー条件を返します。
- CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i uowd ds(applb.*)` と入力すると、高位修飾子 APPLB を持つデータ・セットに関連した、障害のある UOW のみの詳細が結果に表示されます。

サンプル画面

```
INQ UOWDSN
STATUS: RESULTS
Dsn(RLS.ACCOUNTS.ESDS.DBASE1)          ) Dat Del
Uow(AA6DB080C40CEE01)                   Rls
Dsn(RLS.ACCOUNTS.ESDS.DBASE1)          ) Dat Ind
Uow(AA6DB08AC66B4000)                   Rls
```

図 94. CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL 画面

サンプル画面

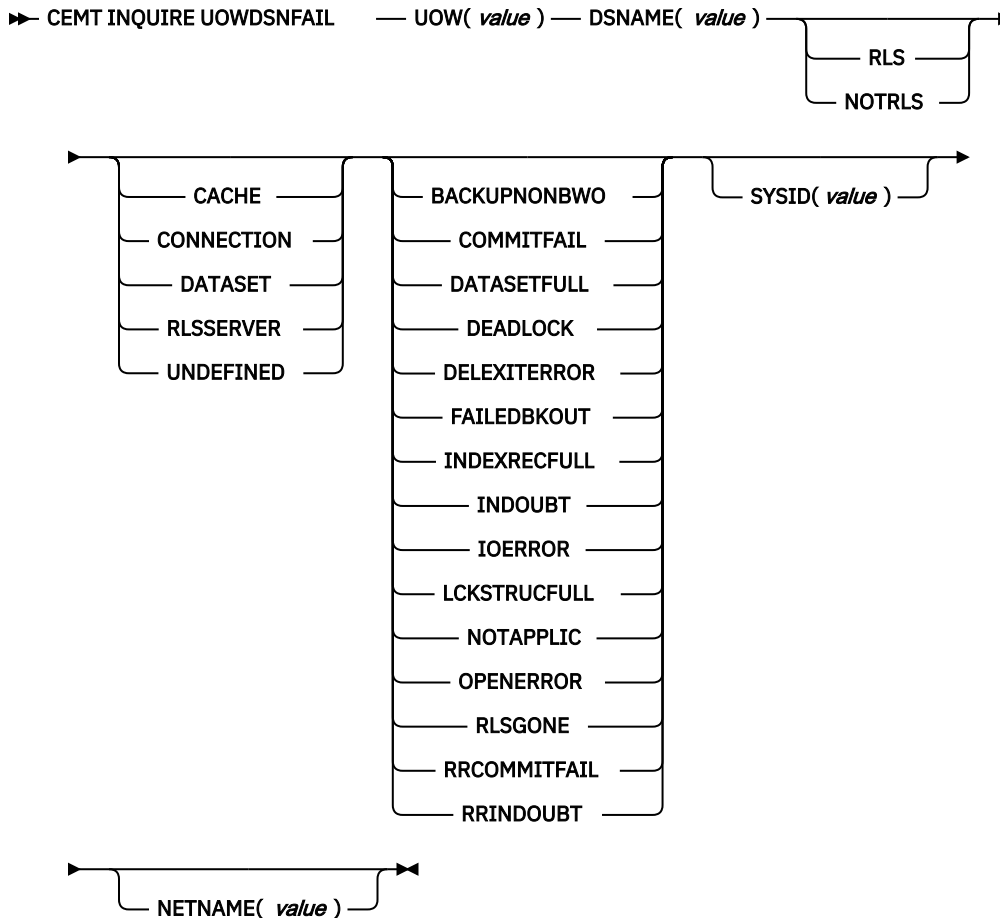
注: 値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [296 ページの図 95](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
INQ UOWDSN
RESULT
Uowdsnfail
Dsname(RLS.ACCOUNTS.ESDS.DBASE1)
Cause(Dataset)
Reason(Delexiterror)
Uow(AA6DB080C40CEE01)
Sysid()
Netname()
Rlsaccess(Rls)
```

図 95. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL



表示されるフィールド

CAUSE

UOW がこのデータ・セットに関するロックを保持する原因となった、障害のあるコンポーネントを表示します。値は以下のとおりです。

CACHE

キャッシュ構造、またはこのキャッシュ構造への接続に障害が発生しました。

CONNECTION

未確定の間に UOW に障害が起こる原因となったシステム間接続エラーがあります。接続が失われたシステムの名前は SYSID パラメーターで返され、そのネット名は NETNAME パラメーターで返されます。CICS は CONNECTION の失敗について REASON パラメーターに追加情報を返します。

DATASET

このデータ・セットで UOW のバックアウトに障害発生。データ・セットの障害の理由が、REASON パラメーターで返されます。

RLSSERVER

SMSVSAM サーバーに障害が発生しました。データ・セットの障害の理由が、REASON パラメーターで返されます。

UNDEFINED

UOW は、緊急時再始動の後に未完了だったことが考えられます。

DSNAME (value)

この UOW のロックを保持していたデータ・セットの 44 文字のデータ・セット名を表示します。

NETNAME (value)

接続が失われたリモート・システムの 8 文字のネット名 (原因が CONNECTION の場合) を表示します。

REASON

原因が RLSSERVER、CONNECTION、または DATASET の場合に、このデータ・セットに対するエラーの具体的な理由を表示します。値は以下のとおりです。

BACKUPNONBWO

UOW がバックアウトされていたときに非 BWO バックアップが進行中でした。バックアップが完了すると、CICS は自動的に UOW を再試行します。

COMMITFAIL

ロックが解放されているときに、ある時点でエラーが発生しました。これは通常、サーバーのリサイクルによって解決できるエラーです (自動で行われます)。データ・セットに対して、リカバリー可能な要求が発行された結果、ロックが獲得されました。

DATASETFULL

レコードをデータ・セットに追加するために使用できるスペースが、直接アクセス装置にない。より多くのスペースがあるデータ・セットを再度割り振る必要があります。その後で、SET DSNAME RETRY を使用してバックアウトを再試行できます。

保存ロックを持つリカバリー可能データ・セットの移動を参照してください。

DEADLOCK (非 RLS データ・セットのみ)

デッドロックが検出されました。UOW が再試行されると、この問題は解消する可能性があります。

DELEXITERROR

論理削除のグローバル・ユーザー出口プログラムが使用可能でなかったか、論理削除のグローバル・ユーザー出口プログラムが論理削除を実行しないように決定したために、ESDS への書き込みのバックアウトに障害が発生しました。

FAILEDDBKOUT

これは、重大エラーが識別された結果として発生し、CICS か VSAM のどちらかのエラーの可能性があります。UOW が再試行されると、この問題は解消する可能性があります。エラーが最初に検出される時点で、CICS は特定の First Failure Data Capture (FFDC) を実行します。

INDEXRECFULL

より大きい代替索引のレコード・サイズを、データ・セットに定義する必要があります。 保存ロックを持つリカバリー可能データ・セットの移動を参照してください。

また、非 RLS データ・セットの固有の代替索引キーが再使用され、CICS が現在そのキー値を除去した要求をバックアウトしているときにも、このエラーが発生する可能性があります。

INDOUBT

作業単位がデータ・セットに対してリカバリー可能な要求を発行しましたが、未確定で失敗しました。調整システムへの接続を再確立する必要があります。

IOERROR

ハード入出力エラーが発生しました。このエラーを修正するには、データ・セットのフルバックアップ・コピーをリストアし、順方向リカバリーを実行します。順方向リカバリー・ユーティリティとして CICS VSAM Recovery を使用する場合、RLS データ・セットに対してバックアウトは自動的に再試行されます。非 RLS データ・セットの場合は、SET DSNAME コマンドの RETRY オプションを使用して、バックアウトの再試行を実行します。

LCKSTRUCFULL

RLS ロック構造が満杯だったため、このデータ・セットの更新のバックアウト時におけるロックの取得の試行が失敗しました。使用可能なカップリング・ファシリティでより大きいロック構造を割り振り、既存のロック構造をカップリング・ファシリティに再構築してから、SET DSNAME (...) RETRY コマンドを使用して、バックアウトの再試行を実行する必要があります。

NOTAPPLIC

CAUSE の値は、CONNECTION、RLSSERVER、または DATASET ではありません。

OPENERROR

バックアウトのためにファイルを開く際のエラー。ユーザーは、コンソール・メッセージでオープン時のエラーの理由について通知されます。1つの理由として、データ・セットが静止していたことが考えられます。

RLSGONE

RLS サーバーが使用不可であったために、UOW をバックアウトするときにエラーが発生しました。これは、最初に UOW がバックアウト状態に入った理由である可能性があります。これは、サーバーのリサイクルによって解決できるエラーです (自動で行われます)。通常は、サーバーがリカバリするときに、UOW が自動的に再試行されます。きわめて例外的な状況で、**SET DSNAME(...)**

RETRY コマンドを発行して、サーバーの戻り時に再試行されなかった UOW を再試行する必要があることがあります。

RRCOMMITFAIL

作業単位の RLS ロックの解放中にエラーが生じました。このデータ・セットの場合、解放されるロックはすべて反復可能な読み取りロックであるため、RLS サーバーが使用できないことが障害の原因である場合、ロックは解放されます。障害の原因が SMSVSAM サーバーの他のエラーである場合、ロックは引き続き保持される可能性があります。

RRINDOUBT

作業単位がデータ・セットに対して反復可能読み取り要求を発行しましたが、未確定で失敗しました。ロックは解放されるので、この障害によって、データ・セットに対するバッチ・ジョブの実行が妨げられることはありません。しかし、CICS から非 RLS モードでデータ・セットを開く場合、RLSACCESS(NO) をファイルに定義する前に、未確定の障害を解決する必要があります。作業単位が他のデータ・セット、または他のリソースを更新した場合は、未確定の障害を正しく解決してください。作業単位が VSAM データ・セットに対して反復可能な読み取りのみを実行し、他のリソースを更新していない場合、SET DSNAME コマンドまたは SET UOW コマンドを使用して、作業単位を強制してもかまいません。

以下の表に示すように、それぞれの理由はただ 1 つの原因の値に対応します。

原因	理由
CACHE	NOTAPPLIC
CONNECTION	INDOUBT
CONNECTION	RRINDOUBT
DATASET	BACKUPNONBWO
DATASET	DELEXITERROR
DATASET	DATASETFULL
DATASET	DEADLOCK
DATASET	FAILEDDBKOUT
DATASET	INDEXRECFULL
DATASET	IOERROR
DATASET	LCKSTRUCFULL
DATASET	OPENERERROR
RLSSERVER	COMMITFAIL
RLSSERVER	RLSGONE
RLSSERVER	RRCOMMITFAIL
UNDEFINED	適用外

RLSACCESS

データ・セットが、この CICS 領域内で RLS または非 RLS のどちらのモードで最後に開かれたかを表示します。値は以下のとおりです。

RLS

この CICS 領域では、最後に RLS モードで開かれました。

NOTRLS

この CICS 領域では、最後に非 RLS モードで開かれました。

SYSID(value)

接続が失われたリモート・システムの 4 文字の SYSID (原因が CONNECTION の場合) を表示します。

UOW (value)

関連付けられている作業単位の 16 文字のローカル ID を表示します。

UOWDSNFAIL

このパネルが、UOW の障害の原因に関する照会に関連したものであることを示します。

CEMT INQUIRE UOWENQ

作業単位 (UOW) が保持または待機しているエンキューに関する情報、または指定されたエンキューを保持または待機している UOW に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、「作業単位エンキュー」ビューが、このコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE UOWENQ コマンドは、UOW が保持するエンキューに関する情報を返します。エンキューは、ファイル・レコードやキューなどのリカバリー可能リソースを更新する UOW を対象として、これらのリソースをロックするために CICS によって使用されます。**EXEC CICS ENQ** コマンドによって取得されたユーザー・エンキューも返されます。

INQUIRE UOWENQ コマンドを使用して、UOW が強制された場合に影響を受けるレコードとキューを表示できます。

トランザクションは、エンキューを待機している UOW に関する情報も返します。このトランザクションを使用して、同じリソースを更新する必要があるタスク間のエンキュー・デッドロックを診断できます。

エンキューは通常、アクティブ状態で保持されます。つまり、ほかのタスクはエンキューを待機できます。ただし、エンキューを所有している UOW に未確定の障害が発生すると、通常はその未確定の障害を解決できるようになるまでエンキューはリティン済み状態に変換されます。**INQUIRE UOWENQ** コマンドは、これらのエンキューに関する情報も取得し、UOW が強制された場合に影響を受けるレコードとキューを識別するために使用できます。

注:

1. UOW 存続期間エンキューとタスク存続期間エンキューの両方が **INQUIRE UOWENQ** コマンドによって返されます。(UOW 存続期間エンキューとタスク存続期間エンキューの説明については、[ENQ](#) コマンドの **MAXLIFETIME** オプションを参照してください。)
2. 未確定の障害が発生すると、ユーザー・エンキューが解放されます。ただし例外として、**EXEC CICS ENQ** コマンドが **MAXLIFETIME(TASK)** を指定していて、障害が発生している箇所がタスクの終わりの同期点ではない場合は、解放されません。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- **CEMT INQUIRE UOWENQ** (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。結果の表示に、すべての現行 UOW に対するすべてのエンキューがリストされます。
- **CEMT INQUIRE UOWENQ** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、**cemt i uowe d** と入力すると、非 RLS モードで開いている VSAM データ・セット内のレコード、または CICS によって保守されているデータ・テーブル内のレコードに対するエンキューのみの詳細が結果に表示されます。

サンプル画面

```
INQ UOWE
STATUS: RESULTS
Uow(AC143001D4A72601) Tra(CECI) Tas(0000038) Act Exe Own
Res(ACCOUNTS.DBASE1) Rle(015) Enq(00000000)
Uow(AC143001D4A72601) Tra(CECI) Tas(0000038) Act Add Own
Res(g...) Rle(004) Enq(00000000)
```

図 96. CEMT INQUIRE UOWENQ 画面

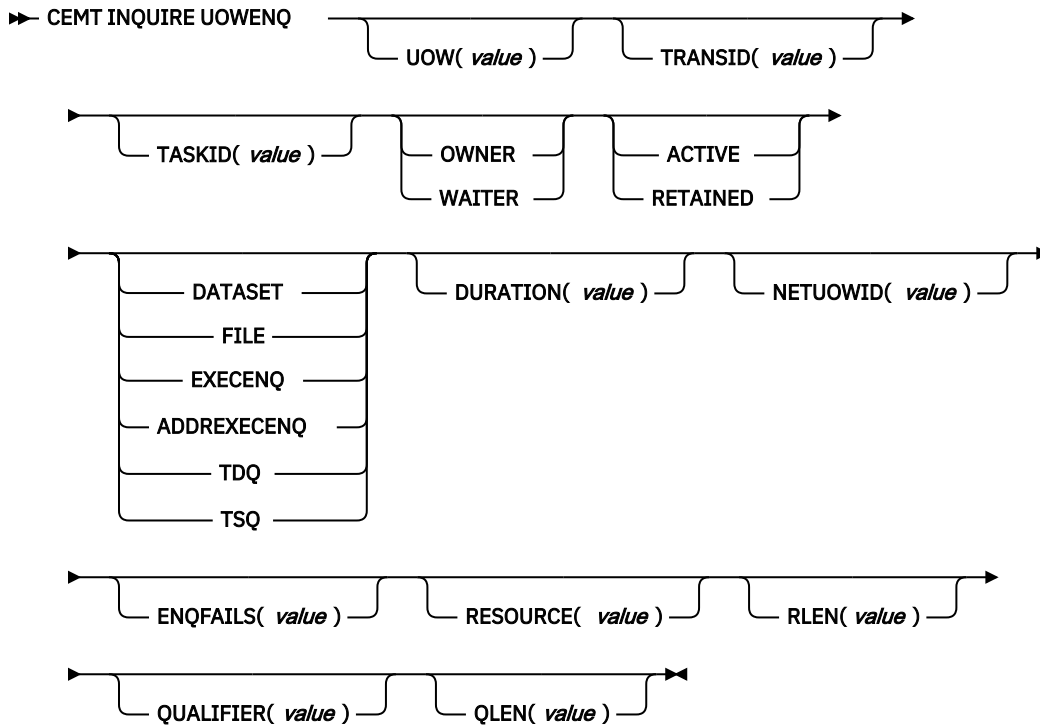
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて ENTER を押すと、CICS は [301 ページの図 97](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
INQ UOWE
RESULT
Uowenq
Uow(AC143001D4A72601)
Transid(CECI)
Taskid(0000038)
State(Active)
Type(Execenq)
Relation(Owner)
Resource(ACCOUNTS.DBASE1)
Rlen(015)
Enqfails(00000000)
Netuowid(..GBIBMIYA.IYA2T5C2...Mx...)
Qualifier()
Qlen(000)
```

図 97. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE UOWENQ



表示されるフィールド

DURATION(value)

エンキューが現在の OWNER、WAITER、または RETAINED の状態に入ってから経過した時間 (秒単位) を表示します。

ENQFAILS (value)

リテイン済み状態で保持されているエンキューの場合は、エンキューが最後に獲得されたときからこのリソースに対してエンキューが試行されて失敗した回数を表示します。これは、このエンキューのために LOCKED 応答を受け取った UOW の数を示しています。ENQFAILS オプションは、ボトルネックの原因となっている UOW を識別するために役立ちます。

アクション状態で保持されているエンキューの場合、ENQFAILS はゼロを表示します。

ENQSCOPE (value)

エンキューのスコープがシスプレックスである場合、ENQSCOPE は、この CICS 領域によって発行されたシスプレックス全体にわたる ENQUEUE 要求に限定するために使用された 4 文字の名前を表示します。スコープが領域である場合は、ENQSCOPE はブランクを表示します。

同じ ENQSCOPE 値を持つすべての CICS システムが、同じシスプレックス・エンキュー名前空間を共有します。

NETUOWID(value)

エンキューを所有している、またはエンキューを待機している UOW のネットワーク全体の LU6.2 名を含む、27 文字のストリングを表示します。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

QLEN (value)

QUALIFIER フィールドに表示されるデータの長さ (0 から 255 までの範囲) を表示します。

QUALIFIER (value)

エンキュー・ロックに関連付けられたリソースを詳しく識別する 1 文字から 255 文字の修飾子 (例えば、レコード ID) を表示します。表示されるデータは、[304 ページの表 7](#) に示すように、エンキュー

のタイプによって異なります。QUALIFIER データが適用されない場合 (すなわち、EXECENQ、ADDREXECENQ、または TSQ の場合) は、ゼロの値が表示されます。

RELATION

データが、エンキューの所有者またはエンキューを待機しているタスクのどちらに関連するかを表示します。値は以下のとおりです。

OWNER

(value)、NETUOWID、TASKID、および TRANSID は、エンキューの所有者のものです。

WAITER

(value)、NETUOWID、TASKID、および TRANSID は、エンキューの待機側のものです。

RESOURCE (value)

エンキュー・ロックに関連付けられたリソースの名前を含む 1 文字から 255 文字のストリングを表示します。表示されるデータは、[304 ページの表 7](#) に示すように、エンキューのタイプによって異なります。

注: 表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

RLEN (value)

RESOURCE フィールドに表示されるデータの長さ (0 から 255 までの範囲) を表示します。

STATE

保持されているエンキューの状態を表示します。値は以下のとおりです。

ACTIVE

エンキューはアクティブ状態で保持されています。

RETAINED

エンキューはリティン済み状態で保持されています。所有している UOW は中断されたか、または中断処理中です。

TASKID (value)

UOW に関連付けられたタスクの番号を表示します。UOW が中断されている場合は、中断される前にその UOW に関連付けられていたタスク番号です。

TRANSID (value)

UOW に関連付けられたトランザクションの 4 文字の ID を表示します。UOW が中断されている場合は、中断される前にその UOW に関連付けられていたトランザクションの ID です。

TYPE

キューが置かれるリソースのタイプを表示します。値は以下のとおりです。

DATASET

リソースは、VSAM データ・セット (または CICS によって保守されるデータ・テーブル) 内のレコードです。RESOURCE はデータ・セットの名前を含み、QUALIFIER はレコード ID を含んでいます。

FILE

リソースは、BDAM ファイル内またはユーザーによって保守されるデータ・テーブル内のレコードです。RESOURCE はファイルの名前を含み、QUALIFIER はレコード ID を含んでいます。

ファイルが BDM ファイルである場合、レコード ID の接頭部は BDM ブロック ID です。この組み合わせが 255 文字を超える場合は、切り捨てが行われます。

EXECENQ

リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE は、要求時に渡されるエンキュー引数を含んでいます。

ADDREXECENQ

リソースは、EXEC CICS ENQ 要求に関連付けられています。RESOURCE は、要求時に渡されるアドレス・エンキュー引数を含んでいます (つまり、要求では LENGTH パラメーターは省略される)。

TDQ

リソースは、論理的にリカバリー可能な一時データ・キューです。RESOURCE はキューの名前を含んでいます。QUALIFIER には、キューに対して読み取りまたは書き込みのどちらのロックが保持されているかを示す、ストリング FROMQ または SAVE が含まれています。

READQ TD 要求は FROMQ ロックを獲得するのに対して、WRITEQ TD 要求は、キューに関連した TOQ ロックを獲得します。DELETEQ TD 要求は、TOQ と FROMQ の両方のロックを獲得します。

TSQ

リソースは、リカバリー可能な一時記憶域キューです。RESOURCE はキューの名前を含んでいます。

RESOURCE フィールドと QUALIFIER フィールドに表示されるデータは、[304 ページの表 7](#) に示すように、リソース・タイプによって異なります。

表 7. RESOURCE と QUALIFIER に表示されるデータ		
タイプ	リソース	Qualifier (修飾子)
DATASET	Data set name (データ・セット名)	レコード ID
EXECENQ	EXEC エンキュー引数	なし
ADDREXECENQ	EXEC エンキュー引数のアドレス	なし
FILE	ファイル名 (File name)	レコード ID
TDQ	TD キュー名	FROMQ または TOQ
TSQ	TS キュー名	なし

UOW(value)

関連付けられている作業単位の 16 文字のローカル ID を表示します。

CEMT INQUIRE UOWLINK

作業単位 (UOW) に関係する接続に関する情報を取得します。

説明

INQUIRE UOWLINK コマンドは、作業単位に関係する接続に関する情報を返します。接続はリモート・システムへの接続、またはタスク関連ユーザー出口への接続のどちらかです。リモート・システムへの接続の場合、**INQUIRE UOWLINK** は接続のネット名、その SYSID、およびコーディネーターまたは従属のどちらであるかを表示します。タスク関連ユーザー出口の場合、**INQUIRE UOWLINK** は出口の入り口名と修飾子を表示します。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE UOWLINK (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。入力すると、すべての現行 UOW リンクがリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE UOWLINK (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i uowl rmi` と入力すると、外部リソース・マネージャーへの UOW リンクのための詳細が結果に表示されます。

(value)

データが返される対象の UOW リンクを識別する 8 バイトのトークン。

ALL

デフォルト。

サンプル画面

```
I UOWL
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Uowl(01840009) Uow(AC142A977E6F3204) Con Lin(IY LX1 )
Coo Appc War Sys(ISC1) Net(..GBIBMIYA.IYCWTC13..p...
Uowl(01C40006) Uow(AC142A977E6F3204) Con Lin(IY LX3 )
Sub Irc War Sys(MR03) Net(..GBIBMIYA.IYCWTC13..p...
```

図 98. CEMT INQUIRE UOWLINK 画面

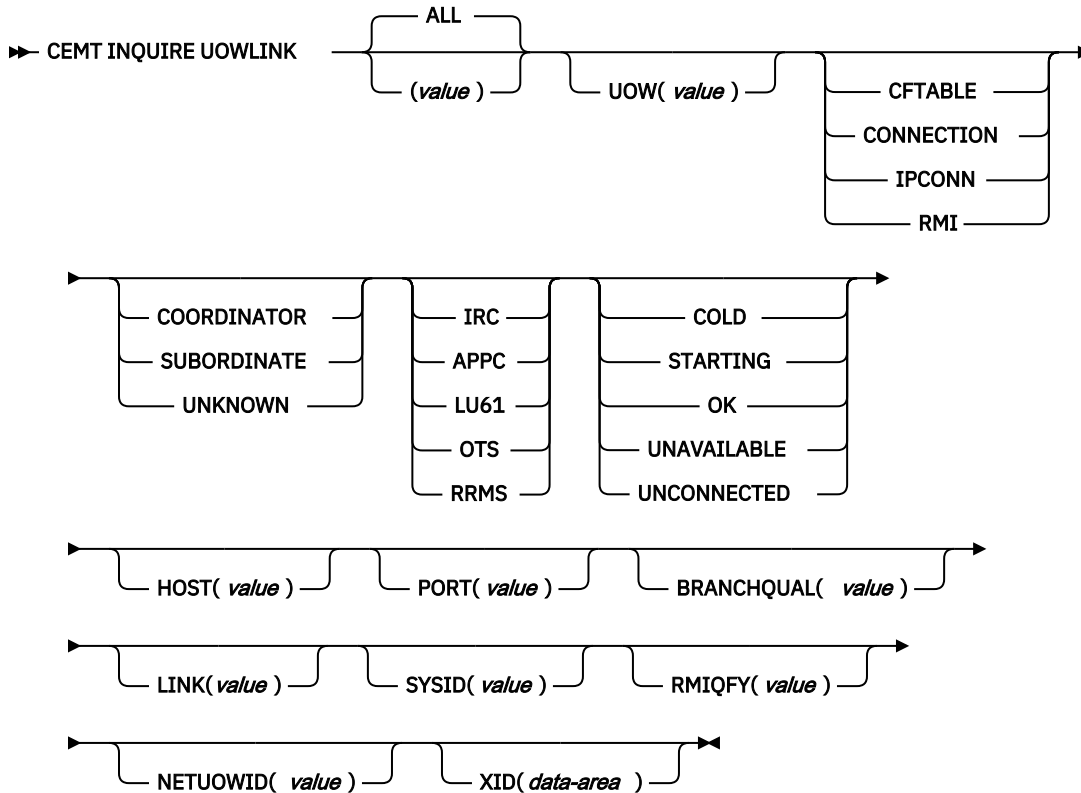
注：値が適用対象外の場合や、否定形の場合 (値が No で始まっている場合) は、画面上のフィールドがブランクになります。これらのフィールドを変更するには、タブ・キーを使用してその位置を指定し (フィールドは拡張フォーマットの場合と同じ順序で表示されます)、そのフィールドに有効なデータを上書き入力します。これらの値を設定するときには、拡張フォーマットを使用する方が便利な場合もあります。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter を押すと、CICS は [305 ページの図 99](#) のような拡張フォーマットを表示します。

```
I UOWL
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Uowlink(01840009)
Uow(AC142A977E6F3204)
Type(Connection)
Link(IY LX1)
Action( )
Role(Coordinator)
Protocol( )
Resyncstatus( )
Sysid( )
Rmiqfy( )
Netuowid( )
Urid( )
Host( )
Port(000000)
Xid( )
Branchqual( )
```

図 99. 各エントリーの拡張表示

CEMT INQUIRE UOWLINK



表示されるフィールド

BRANCHQUAL(value)

XA トランザクション ID の 64 文字のブランチ修飾子 (存在する場合) を返します。

HOST(value)

TYPE 値が IPCONN の場合は、OTS トランザクションに關係するノードを参照するために使用される TCP/IP ホスト名 (またはドット 10 進 TCP/IP アドレスを含むストリング) が返される、255 文字の領域を表示します。255 文字よりも少ないストリングには、空白が埋め込まれます。この埋め込みは、特に問題が発生した場合に、關係するノードを識別するのに便利です。

他の TYPE 値の場合、この値はブランクを表示します。

LINK(value)

返される値は、返される TYPE によって以下のように異なります。

CFTABLE

カップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前。

CONNECTION

リモート・システムの 8 文字のネット名。

IPCONN

リモート・システムの 8 文字のアプリケーション ID。

JVMSERVER

この UOWLINK が関連しているトランザクションを開始した JVMSERVER の名前。

RMI

タスク関連ユーザー出口の入り口名。

CONNECTION の TYPE 値では、リモート・システムの 8 文字のネット名を表示します。RMI の TYPE 値では、LINK はタスク関連ユーザー出口の入り口名を表示します。TYPE 値が CFTABLE の場合、Link はカップリング・ファシリティー・データ・テーブル・プールの 8 文字の名前を表示します。

NETUOWID(value)

UOW のネットワーク全体の LU6.2 名を含む 27 文字のストリングを表示します。

表示できない文字は、ピリオドとして示されます。拡張パネルで PF2 キーを使用すると、値を 16 進数で表示できます。

PORT(value)

TYPE 値が IPIC の場合は、接続が獲得されたときにパートナー・システムが listen していた TCP/IP ポート番号を返します。ポートは 1 から 65535 までの範囲の数値で、その他の TYPE 値の場合はゼロになります。

PROTOCOL

接続に使用される通信プロトコルを表示します。値は以下のとおりです。

IRC

領域間通信。この接続は MRO 接続です。

APPC

拡張プログラム間通信。

LU61

LUTYPE 6.1。

IPIC

IPIC 接続。

OTS

Java プログラムのオブジェクト・トランザクション・サービス。JTA の XID のグローバル・トランザクション ID (GTRID) を含むリンク。

RRMS

UOW が RRS/MVS によって調整されていることを示します。

RESYNCSTATUS

接続の再同期状況を表示します。値は以下のとおりです。

COLD

接続のコールド・スタートがパートナー・システムによって実行されました。パートナーは、このシステムの未確定状態を調整できなくなりました。さらに、このシステムはパートナーに対して記憶していた決定をパートナーに渡すことができません。

STARTING

接続を獲得中ですが、交換ログ名処理がまだ完了していません。

OK

接続は正常に動作しています。パートナー・システムに障害が起こっていた場合、パートナーは再始動されており、接続は関連した UOW を再同期できます。

UNAVAILABLE

接続は現在獲得されていません。

UNCONNECTED

関連した接続がありません。

RMIQFY(value)

接続タイプが RMI の場合は、タスク関連ユーザー出口の 8 文字の入り口修飾子。接続タイプが CONNECTION、IPCONN、または CFTABLE の場合、RMIQFY はブランクを表示します。

ROLE

接続の役割を表示します。値は以下のとおりです。

COORDINATOR

この接続は、UOW の同期点コーディネーターへの接続です。

SUBORDINATE

この接続は、UOW の同期点従属への接続です。

UNKNOWN

この接続の同期点の役割は判別できません。

SYSID(value)

TYPE 値が CONNECTION の場合は、接続の 4 文字のシステム ID を表示します。接続が破棄されたか、接続タイプが RMI、IPCONN、または CFTABLE であるか、PROTOCOL フィールドに RRMS が表示されている場合、SYSID はブランクを表示します。

TYPE

接続のタイプを表示します。値は以下のとおりです。

CFTABLE

CFDT サーバーへの接続。

CONNECTION

CONNECTION リソース定義によって定義された接続。

IPCONN

IPCONN リソース定義によって定義された接続。

JVMSERVER

Liberty JVM サーバーへの接続。

RMI

リソース・マネージャー・インターフェース (RMI) を使用した外部リソース・マネージャーへの接続。

UOWLINK(value)

このパネルが UOW リンクに関する照会に関連していることを示し、8 文字の UOW リンク ID を表示します。

UOW(value)

関連付けられている作業単位の 16 文字のローカル ID を表示します。

URID(value)

PROTOCOL フィールドに RRMS が表示されている場合、このフィールドには RRMS リカバリー単位 ID の 32 バイトの 16 進表記が含まれます。PROTOCOL フィールドの値がその他の場合 (OTS を含む)、URID はブランクを表示します。

XID(data-area)

XA トランザクション ID の 64 文字のグローバル・トランザクション ID (存在する場合) を返します。

CEMT INQUIRE URIMAP

URIMAP リソース定義に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「URI マップ」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

URIMAP 定義の USAGE 属性は、この URIMAP 定義内に指定されている他の属性を判別します。また、特定の属性の意味を判別することもあります。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE URIMAP (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。その結果、現在の状況がリスト表示されます。

- CEMT INQUIRE URIMAP (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、必要な情報の範囲を限定するために必要な属性を入力します。例えば、`cemt i ur tcpipSERVICE` と入力すると、(ポートを定義する) 選択された TCPIP SERVICE 定義に適用される URIMAP リソース定義の詳細だけが表示されます。

強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

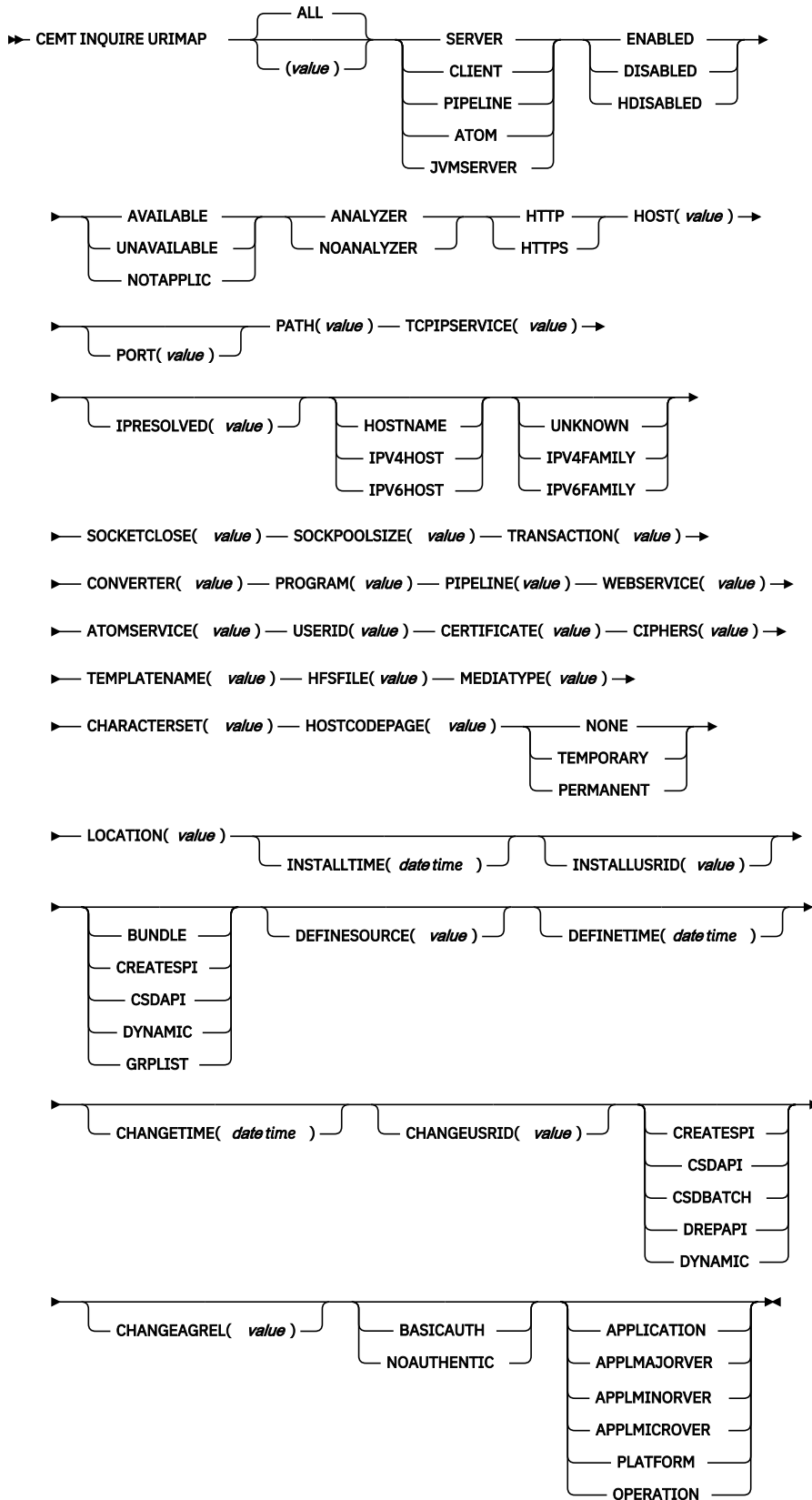
ALL

デフォルト。

(value)

情報を要求する対象の URIMAP 定義の名前。

CEMT INQUIRE URIMAP



表示されるフィールド

ANALYZERSTAT(value)

URIMAP 定義に関するアナライザー・プログラムの設定を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ANALYZER

TCIPSERVICE 定義に関連付けられたアナライザーが、HTTP 要求の処理中に使用されます。

NOANALYZER

アナライザー・プログラムは使用されません。

APPLICATION(data-value)

この URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されているアプリケーションのアプリケーション名を表示します。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されていない場合、APPLICATION はブランクを表示します。

APPLMAJORVER(data-value)

アプリケーションのメジャー・バージョン番号が表示されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されている場合、このアプリケーションのメジャー・バージョン番号が返されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されていない場合、APPLMAJORVER は -1 を返します。

APPLMINORVER(data-value)

アプリケーションのマイナー・バージョン番号が表示されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されている場合、このアプリケーションのマイナー・バージョン番号が返されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されていない場合、APPLMINORVER は -1 を返します。

APPLMICROVER(data-value)

アプリケーションのマイクロ・バージョン番号が表示されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されている場合、このアプリケーションのマイクロ・バージョン番号が返されます。URIMAP リソースがアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されていない場合、APPLMICROVER は -1 を返します。

ATOMSERVICE(value)

Atom フィードに関する ATOMSERVICE リソース定義の 1 文字から 8 文字までの名前を表示します。ATOMSERVICE リソース定義は、Atom サービス、フィード、コレクション、またはカテゴリ文書を定義し、Atom 構成ファイル、CICS リソースまたはアプリケーション・プログラム、およびフィード用のデータを提供するために使用される XML バインディングを識別します。

AUTHENTICATE(value)

認証情報を Web サービス・プロバイダーに提供するかどうかを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

BASICAUTH

Web サービス・プロバイダーは HTTP 基本認証を要求します。Web サービス・リクエスターへの資格情報 (ユーザー ID とパスワード) をグローバル・ユーザー出口 XWBAUTH に提供できます。このユーザー出口が使用可能になっている場合、そこから Web サービス・プロバイダーに資格情報が送られます。

NOAUTHENTIC

Web サービス・プロバイダーは認証を要求しません。

AVAILSTATUS(value)

プラットフォームにデプロイされたアプリケーションのアプリケーション・エン트리・ポイントとしての URIMAP リソースの可用性状況を表示します。

AVAILABLE

URIMAP リソースはアプリケーション・エン트리・ポイントとして宣言されていて、アプリケーション・エン트리・ポイントがその可用性を制御し、かつ使用可能であるため、呼び出し元は URIMAP リソースを使用できます。

UNAVAILABLE

URIMAP リソースはアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていますが、その可用性を制御するアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可であるため、呼び出し元は URIMAP リソースを使用できません。

NOTAPPLIC

呼び出し元は URIMAP リソースを使用できます。URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていません。あるいは、アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていますが、そのアプリケーション・エントリー・ポイントが使用不可になっているか、URIMAP リソースの可用性を制御していません。

CERTIFICATE(value)

HTTP クライアントとしての CICS によって、HTTP 要求に関する SSL クライアント証明書として使用される証明書のラベルを表示します。証明書ラベルは 32 文字以下です。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソース定義は、PIPELINE スキャンによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CHARACTERSET(value)

静的応答の文字セットの名前を表示します。文字セットの名前は 40 文字以下です。

CIPHERS(value)

SSL ハンドシェイクの際にクライアントとネゴシエーションするために使用される暗号スイートのリストを格納する 56 文字の領域か、または SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前のいずれかを返します。後者の場合、このファイルは、**USSCONFIG** システム初期設定パラメーターで指定されたディレクトリーの `security/ciphers` サブディレクトリーにある `z/OS UNIX` ファイルです。詳しくは、[暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください](#)。

CONVERTER(value)

要求の内容に対して変換などの処理を実行するコンバーター・プログラムの 8 文字の名前を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約を参照してください](#)。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS(value)

URIMAP 定義の状況を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

ENABLED

URIMAP 定義にアクセスできます。

DISABLED

URIMAP 定義にアクセスできません。この状況の URIMAP 定義は、削除できます。

HDISABLED

URIMAP 定義がその一部を成している仮想ホストが使用不可になっているので、この定義にアクセスできません。仮想ホスト内のすべての URIMAP 定義を再び使用可能にするには、CEMT SET HOST を使用します。この状況の URIMAP 定義は、削除できません。

HFSFILE(value)

静的応答を形成する UNIX システム・サービス・ファイルの完全修飾名を表示します。完全修飾ファイル名は、最大 256 文字です。

HOST(value)

URL のホスト名、IPv4、または IPv6 アドレスを表示します。使用されるアドレス・フォーマットのタイプにかかわらず、すべての IPv4 アドレスは、1.2.3.4 などの、ネイティブの IPv4 ドット 10 進アドレスとして表示されます。HTTP クライアントとしての CICS (USAGE(CLIENT)) に関する URIMAP 定義を使用しており、ネイティブ IPv4 アドレスまたはホスト名が使用される場合は、アドレスまたはホスト名とポート番号が表示されます (例えば 1.2.3.4:80 または hostname.com:443)。長さが 110 文字を超えるホスト名を指定すると、HOST オプションでポート情報は表示されません。ポート番号を表示するには、PORT オプションを使用します。

HOSTCODEPAGE(value)

静的応答を構成するテキスト文書がエンコードされる IBM コード・ページ (EBCDIC) を表示します。この値は 10 文字以内で指定できます。

HOSTTYPE(value)

HOST オプションのアドレス・フォーマットを表示します。HOSTTYPE オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。有効な値は、以下のとおりです。

HOSTNAME

HOST オプションには文字のホスト名が含まれます。

IPV4HOST

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6HOST

このアドレスは IPv6 アドレスです。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、EXEC CICS CREATE コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは、PIPELINE スキャンを使用してインストールされました。

GRPLIST

リソースは、GRPLIST INSTALL によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム 初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

IPFAMILY(value)

IPRESOLVED オプションのアドレス・フォーマットを表示します。IPFAMILY オプションは拡張照会の使用時のみ使用可能になります。ワイルドカード文字を使用してフィルター操作すると、フィルター操作は IPFAMILY オプションと相互作用します。例えば、IPFAMILY の値が IPV6FAMILY の場合は、コロン文字を使用して IP アドレスを取得しなければなりません。有効な値は、以下のとおりです。

IPV4FAMILY

このアドレスは IPv4 アドレスです。

IPV6FAMILY

このアドレスは IPv6 アドレスです。

UNKNOWN

IPRESOLVED オプションがまだ使用されていないか、アドレスを解決できません。

IPRESOLVED(value)

ホストの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを表示します。IPRESOLVED オプションは、拡張照会の使用時のみ使用可能になります。このオプションは、USAGE(SERVER) および USAGE(JVM SERVER) を除くすべてのタイプ用です。

LOCATION(value)

Web クライアントからの一致する HTTP 要求のリダイレクト先の URL を表示します。URL は 255 文字以下です。リダイレクトは、REDIRECTTYPE オプションで指定される設定によってアクティブにされます。

MEDIATYPE(value)

静的応答のデータ内容の説明を表示します。メディア・タイプは 40 文字以下です。

OPERATION(data-value)

この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのオペレーション名を表示します。URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていない場合、OPERATION はブランクを表示します。

PATH(value)

URL のパス・コンポーネントを表示します。パス・コンポーネントは 255 文字以下です。

PLATFORM(data-value)

この URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されているアプリケーションのプラットフォーム名を表示します。URIMAP リソースがアプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されていない場合、PLATFORM はブランクを表示します。

PORT(value)

USAGE(CLIENT) で使用される、サーバーへの接続に関する数字のポート番号の値を、1 から 65535 までの範囲で表示します。HOST にネイティブの IPv4 アドレスまたはホスト名が入っている場合には、HOST オプションにもポート番号が表示されます。USAGE(CLIENT) の場合、URIMAP で定義時に PORT(NO) が指定されていても、PORT 属性には通信で使用されるポート番号が常に含まれています。USAGE(ATOM)、USAGE(SERVER)、または USAGE(PIPELINE) の場合、PORT オプションは () を表示します。

PROGRAM(value)

応答を構成するアプリケーション・プログラムの 8 文字の名前を表示します。

REDIRECTTYPE(value)

この URIMAP 定義と一致する要求に関するリダイレクトのタイプを表示します。ロケーション・オプションで指定されたリダイレクトの URL。有効な値は、以下のとおりです。

NONE

要求はリダイレクトされません。LOCATION オプションで指定された URL は無視されます。

TEMPORARY

要求は一時ベースでリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 302 (Found) です。

PERMANENT

要求は永続的にリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 301 (Moved Permanently) です。

SCHEME(value)

URL のスキーム・コンポーネントを表示します。有効な値は、以下のとおりです。

HTTP

Secure Sockets Layer (SSL) を使用しない HTTP

HTTPS

Secure Sockets Layer (SSL) を使用する HTTP

SOCKETCLOSE(value)

CICS アプリケーションがクライアント HTTP 接続の使用を終えた後に、CICS がその接続を再使用に備えて開いたままにする期間の長さの最大値を秒数で表示します。値が 0 の場合、CICS は再使用のために接続を開いたままにしません。値が表示されるのは、URIMAP 定義の使用タイプが CLIENT のときだけです。その他の使用タイプでは、SOCKETCLOSE は () を表示します。

SOCKPOOLSIZE(value)

CICS が現在プール内に休止状態で保持しているクライアント HTTP 接続の数を表示します。これらの接続は、同じホストおよびポートに Web クライアントとして接続する CICS アプリケーションで再使用できます。値が表示されるのは、URIMAP 定義の使用タイプが CLIENT のときだけです。その他の使用タイプでは、SOCKPOOLSIZE は () を表示します。

TCPIPSERVICE(value)

この URIMAP 定義に関係するインバウンド・ポートを指定する TCPIPSERVICE 定義の 8 文字の名前を表示します。この定義を指定しないと、URIMAP 定義はすべての TCPIPSERVICE 定義に関係します。

TEMPLATENAME(value)

静的応答の形成に使用する CICS 文書テンプレートの名前を表示します。テンプレート名は 40 文字以下です。

TRANSACTION(value)

応答を構成するユーザー・アプリケーションを実行する別名トランザクションの 4 文字の名前を表示します。

USAGE(value)

URIMAP リソースの使用法を表示します。

SERVER

URIMAP リソースは、HTTP サーバーとしての CICS に対するものです。これは、Web クライアントから着信する HTTP 要求の URL を、CICS アプリケーション・リソースにマップします。

CLIENT

URIMAP リソースは、HTTP クライアントとしての CICS に対するものです。これは、CICS がサーバー上の HTTP リソースに関するクライアント要求を行う際に使用されます。

PIPELINE

URIMAP リソースは Web サービスに対するものです。これは、クライアントが CICS で Web サービスを呼び出すときの要求に対して実行される処理を指定します。

ATOM

URIMAP リソースは Atom フィードに対するものです。これは、CICS が Atom フィードとして使用可能にするデータに関する着信要求で使用されます。

JVMSERVER

URIMAP リソースは JVM サーバーに対するものです。これは、適切なセキュリティーを備えた CICS トランザクション下で実行する Java Web アプリケーションに関する着信要求をマップします。

USERID(value)

別名トランザクションが付加される 8 文字のユーザー ID を表示します。

WEBSERVICE(value)

Web サービスの名前を表示します。この名前として、WEBSERVICE リソース定義の名前 (1 文字から 8 文字)、または CICS Web サービス・アシスタントが生成した Web サービスを表す名前 (32 文字以内)

が可能です。このリソース定義では、配置される CICS アプリケーション・プログラムの実行時環境の性質を Web サービスの設定で定義します。

CEMT INQUIRE VTAM

CICS と z/OS Communications Server の間の接続の状態を照会します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE VTAM コマンドは、CICS と Communications Server の間の接続の状態、汎用リソース名、Communications Server 持続セッション・サポートのタイプ、および持続セッション遅延間隔を照会します。

VTAM は、z/OS Communications Server と呼ばれるようになりました。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE VTAM (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。以下の例のような画面が表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

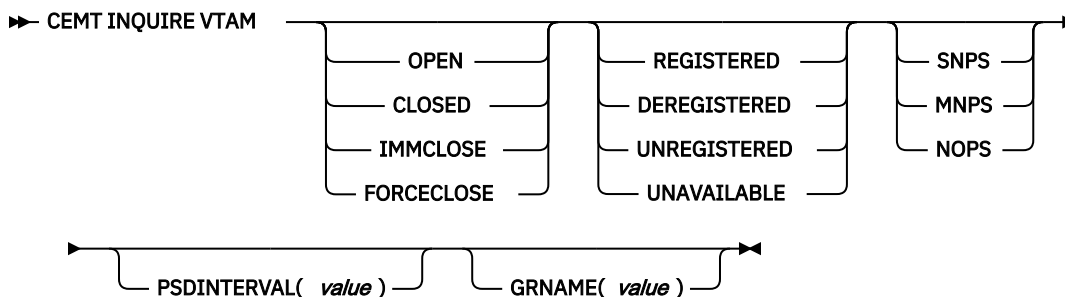
- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。画面での上書き入力を参照してください。
- CEMT SET VTAM コマンドを使用します。

サンプル画面

```
IN VT  
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY  
Vtam  
Openstatus( Open )  
Pstype(SNPS)  
Psdinterval( 000000 )  
Grstatus()  
Grname()
```

図 100. CEMT INQUIRE VTAM 画面

CEMT INQUIRE VTAM



表示されるフィールド

GRNAME(value)

この CICS 領域を Communications Server に登録するのに使用している 8 文字の総称リソース名を表示します。

GRSTATUS(value)

汎用リソース登録の状況を表示します。値は以下のとおりです。

REGISTERED

CICS は、GRNAME オプションで名前指定された Communications Server 汎用リソースのメンバーとして正常に登録されました。

DEREGISTERED

CICS は、GRNAME で名前指定された汎用リソースのメンバーとして登録され、正常に登録解除されました。

UNREGISTERED

汎用リソース名 (GRNAME) が指定されましたが、CICS は登録を試行していません。

UNAVAILABLE

汎用リソース名 (GRNAME) が指定されましたが、CICS の接続先の Communications Server のバージョンは汎用リソースをサポートしていません。

CICS の登録の試行が失敗すると、状況は UNREGISTERED として示され、横に REGISTER ERROR という語が表示されます。

CICS の登録解除の試行が失敗すると、状況は REGISTERED として示され、横に DEREGISTER ERROR という語が表示されます。

OPENSTATUS(value)

CICS と Communications Server の間の接続の状況を表示します。値は以下のとおりです。

OPEN

CICS と Communications Server の間に接続が存在します。

CLOSED

CICS と Communications Server の間の接続が停止しています。

この値は、別の値を入力して変更するとリセットできます。例えば以下のような値です。

IMMCLOSE

EXEC CICS SET VTAM IMMCLOSE または CEMT SET VTAM IMMCLOSE コマンドの後で、CICS と Communications Server の間の接続がクローズ処理中です。

FORCECLOSE

EXEC CICS SET VTAM FORCECLOSE または CEMT SET VTAM FORCECLOSE コマンドの後で、CICS と Communications Server の間の接続がクローズ処理中です。

PSDINTERVAL(value)

持続セッション遅延間隔を、hhmmss 形式で表して表示します。障害の発生時に Communications Server セッションがリカバリー保留状態に保持されるかどうか、および保持される期間の長さを指定します。この値は、別の値で上書きするとリセットできます。許可されている範囲は 000000 から 235959 までです (両端を含む)。

000000

障害が発生すると、セッションは終了します。この値はデフォルトで、持続セッション・サポートが活用されないことを意味します。**Pstype** が NOPS として表示される場合は、持続セッション遅延間隔はゼロでなければなりません。

HHMMSS

障害が発生すると、指定された間隔以下の期間に渡って、セッションは Communications Server によってリカバリー保留状態に保持されます。

PSTYPE(value)

CICS 領域に関する Communications Server 持続セッション・サポートのタイプを表示します。値は以下のとおりです。

SNPS

単一ノード持続セッション。CICS が失敗して再始動した後に、Communications Server セッションをリカバリーできます。

MNPS

マルチノード持続セッション。シスプレックス内での Communications Server または z/OS の失敗後にも Communications Server セッションをリカバリーできます。

この CICS 領域には Communications Server 持続セッション・サポートは使用されません。

VTAM

このパネルが Communications Server 照会に関係していることを示します。

CEMT INQUIRE WEB

CICS Web サポートについての情報を取得します。

CICS Explorer では、「領域」 ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE WEB は、CICS Web サポートの状態に関する情報を返します。

入力

Clear キーを押して、CEMT INQUIRE WEB (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。以下の例のような画面が表示されます。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

サンプル画面

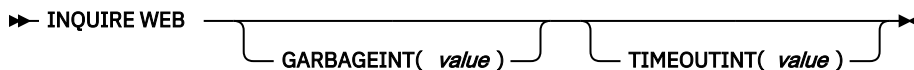
```
IN WE
STATUS:  RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Web Gar( 00060 ) Tim( 00005 ) Loc
```

図 101. CEMT INQUIRE WEB 画面

結果にカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は、318 ページの図 102 に示されているような拡張フォーマットを表示します。

```
I WEB
RESULT - OVERTYPE TO MODIFY
Web
Garbageint( 00060 )
Timeoutint( 00005 )
```

図 102. 展開表示

CEMT INQUIRE WEB

表示されるフィールド

GARBAGEINT

Web ガーベッジ・コレクション・タスクが、端末タイムアウト間隔が満了した Web 3270 状態データをクリーンアップするために実行される間隔。間隔の単位は分です。

TIMEOUTINT

非アクティブな Web 3270 セッションがガーベッジ・コレクションの対象になるまでの期間。期間の単位は分です。

CEMT INQUIRE WEBSERVICE

インストール済み WEBSERVICE リソースに関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「Web サービス」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT INQUIRE WEBSERVICE コマンドは、インストール済み WEBSERVICE リソースに関する情報を取得するために使用します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法のどちらかでこのトランザクションを開始してください。

- CEMT INQUIRE WEBSERVICE と入力します。現在の状況をリストする画面が表示されます。
- CEMT INQUIRE WEBSERVICE と入力し、その後に、必要な情報の範囲を限定するために一連の他の属性を入力します。例えば、CEMT I WEBSERVICE EN と入力すると、使用可能なリソース・タイプの詳細だけが表示されます。

各種の属性を変更する方法は以下のとおりです。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- **CEMT SET WEBSERVICE** コマンドを使用します。

ALL

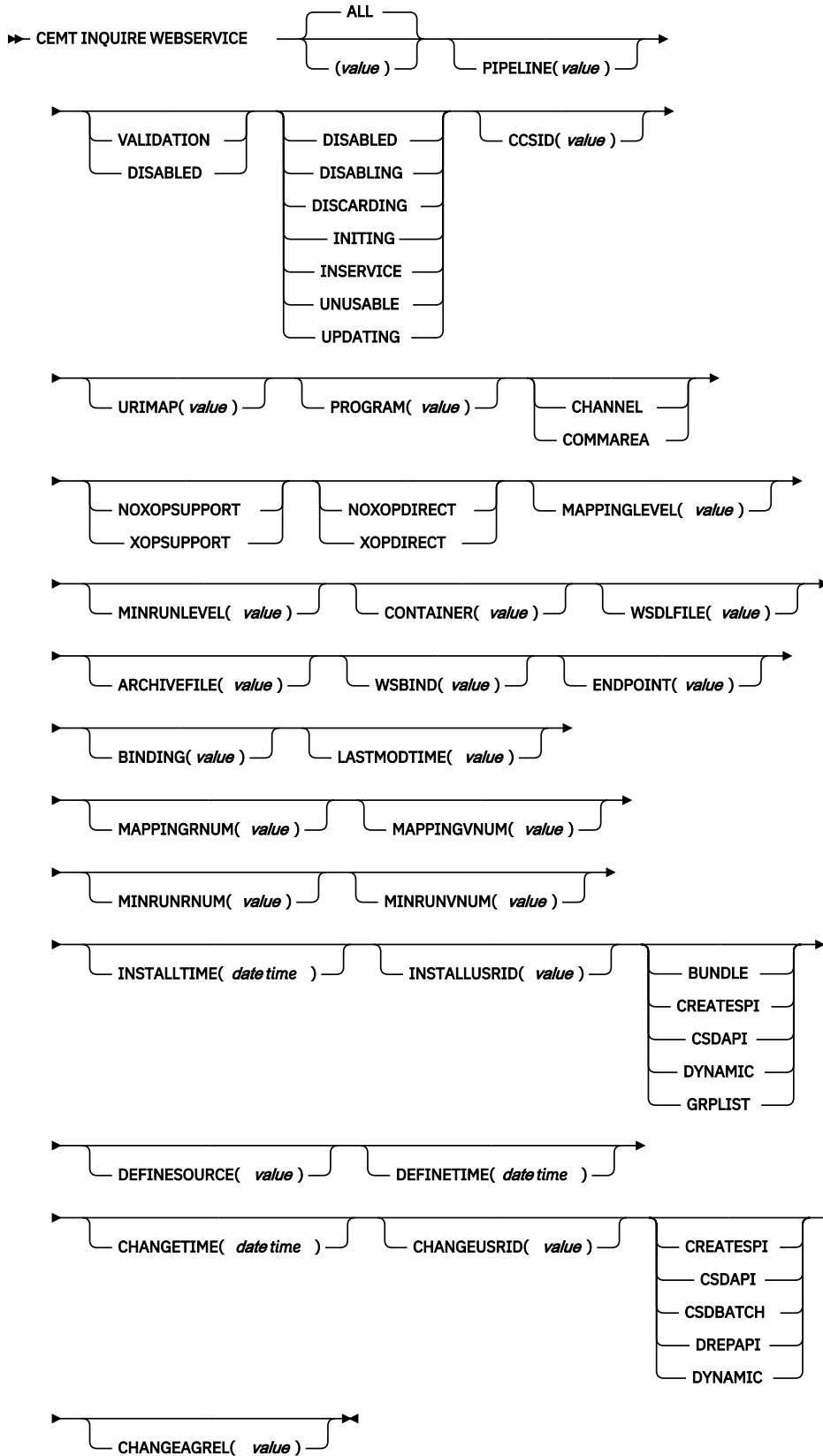
これがデフォルトです。照会の対象となる Web サービスを選んで指定しない限り、すべての WEBSERVICE リソースに関する情報が表示されます。

(value)

インストール済みの WEBSERVICE 定義を示す 1 文字から 32 文字の名前。リソースは、RDO を使用してインストールした場合には最大 8 文字、動的にインストールされた場合には最大 32 文字です。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は指定された WEBSERVICE リソースのすべての属性の拡張フォーマットを表示します。

CEMT INQUIRE WEBSERVICE



表示されるフィールド

ARCHIVEFILE(value)

Web サービスに関連付けられたアーカイブの名前および場所 (1 文字以上 255 文字以下) を表示します。アーカイブには、1 つ以上の WSDL ファイルが含まれます。名前の長さは 255 文字以下です。

BINDING(value)

WEBSERVICE リソースによって表現される WSDL バインディングを表示します。このバインディングは、WEBSERVICE リソースに関連した WEBSERVICE 構成ファイルに多数出現する可能性のあるバインディングのうちの 1 つです。名前の長さは 255 文字以下です。

CCSID(value)

実行時にアプリケーション・プログラムと Web サービス・バインディング・ファイルとの間でデータをエンコードするために使用する CCSID を表示します。この値は、Web サービス・バインディング・ファイルの生成時に、Web サービス・アシスタントでオプションの **CCSID** パラメーターを使用して設定します。*value* が 0 の場合は、CICS 領域のデフォルト CCSID (**LOCALCCSID** システム初期設定パラメーターで指定されます) が使用されます。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSEDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソース定義は、PIPELINE スキャンによって最後に変更されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

CONTAINER(value)

PGMINTERFACE が値 CHANNEL を戻す場合に使用されるコンテナの名前を表示します。名前の長さは 16 文字以下です。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENDPOINT(value)

リモート WEBSERVICE リソースのエンドポイント URI を表示します。このエンドポイント URI は、リモートの Web サービスの WSDL ファイルで指定されます。CICS アプリケーション・プログラムがサービス・プロバイダーの場合、ENDPOINT は空です。URI は、255 文字以内の長さにすることができます。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

CREATESPI

リソースは、**EXEC CICS CREATE** コマンドによってインストールされました。

CSDAPI

リソースは、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは、PIPELINE スキャンを使用してインストールされました。

GRPLIST

リソースは、**GRPLIST INSTALL** によってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

LASTMODTIME(value)

z/OS UNIX 上に配置されている WSBind ファイルが最後に更新された時刻を表示します。最終変更時刻は、ピックアップ・ディレクトリー内の WSBind ファイルが最後に更新された後に CICS 自体がリフレッシュされたかどうかを判別するために使用できます。

動的にインストールされた (つまり CICS スキャン・メカニズムによってインストールされた) Web サービスの場合、LASTMODTIME の値は、Web サービス定義が最後にインストールまたは更新されたときに WSBind 定義によって指し示されていた z/OS UNIX ファイルのタイム・スタンプです。静的にインストールされた (つまり CSD から、または CREATE WEBSERVICE によってインストールされた) Web サービスの場合、LASTMODTIME の値は、WEBSERVICE リソースがインストールされたときに WEBSERVICE 定義によって指し示されていた WSBind z/OS UNIX ファイルのタイム・スタンプです。

新たにインストールまたは更新された Web サービスが完全に初期化される前に **INQUIRE WEBSERVICE** コマンドを発行すると、戻される LASTMODTIME 値はゼロです。

MAPPINGLEVEL(value)

言語構造と Web サービス記述 (WSDL) 文書との間でデータを変換するのに使用するマッピング・レベルを表示します。マッピング・レベルの値は 1.0、1.1、1.2、2.0、または 2.1 です。デフォルトでは、マッピング・レベル 1.0 が使用されます。

MINRUNLEVEL(value)

CICS で Web サービスを実行するのに必要な最小ランタイム・レベルを表示します。ランタイム・レベルの値は 1.0、1.1、1.2、2.0、または 2.1 です。

PGMINTERFACE

Web サービスをインプリメントする CICS プログラムが、チャンネルでの入力を予期するか、または COMMAREA での入力を予期するかを表示します。

CHANNEL

プログラムは、チャンネルでの入力を予期します。

COMMAREA

プログラムは、COMMAREA での入力を予期します。

PIPELINE(value)

Web サービスのインストール場所である PIPELINE の名前、つまりこの Web サービス・リソースが含まれる PIPELINE リソースの名前を表示します。名前の長さは 8 文字以下です。

PROGRAM(value)

Web サービスをインプリメントする CICS プログラムの名前を表示します。この WEBSERVICE リソースがリモートの Web サービスを表している場合 (つまり CICS がサービス・プロバイダーではない場合、PROGRAM は空です。名前の長さは 8 文字以下です。

STATE(value)

WEBSERVICE リソースの状態を表示します。

DISABLED

この状態になる可能性があるのは、CICS バンドルで定義されている WEBSERVICE リソースの場合のみです。この Web サービスは静止処理が完了したため、新しい処理を受け入れていません。

DISABLING

この状態になる可能性があるのは、CICS バンドルで定義されている WEBSERVICE リソースの場合のみです。Web サービスは静止の過程にあります。新規処理は受け入れませんが、現在実行中の処理は完了できます。この Web サービスが使用されなくなると、その WEBSERVICE リソースの状態は DISABLED に変更されます。

DISCARDING

この WEBSERVICE リソースのために DISCARD コマンドが発行されました。Web サービスは静止の過程にあります。新規処理は受け入れませんが、現在実行中の処理は完了できます。この Web サービスが使用されなくなると、その WEBSERVICE リソースの破棄が完了します。

INITING

Web サービス・バインディング・ファイルおよび WSDL ファイルをシェルフにコピー中です。

INSERVICE

シェルフ上の WSBIND ファイルのコピーの解決が成功し、Web サービスが使用可能です。

UNUSABLE

このリソースの Web サービス・バインディング・ファイル (WSBIND) で問題があるため、Web サービスを使用できません。

UPDATING

WEBSERVICE の更新要求が保留中です。

URIMAP(value)

動的にインストールされた URIMAP 定義の名前 (この WEBSERVICE リソースに関連付けられている場合) を表示します。PIPELINE リソースの SCAN 機能を実行することによって WEBSERVICE リソースがインストールされなかった場合、あるいは WEBSERVICE リソースがリモート Web サービスを表している場合は、URIMAP 定義が空になります。名前の長さは 8 文字以下です。

VALIDATIONST(value)

この WEBSERVICE リソースに対して、SOAP メッセージの完全妥当性検査が現在使用可能に設定されているかどうかを示します。

VALIDATION

完全妥当性検査は使用可能です。

DISABLED

完全妥当性検査は使用不可です。

WSBIND(value)

Web サービス・バインディング・ファイルの名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

WSDLFILE(value)

WEBSERVICE リソースに関連付けられている Web サービス・バインディング・ファイルの名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

XOPDIRECTST(value)

Web サービスが XOP 文書およびバイナリー添付ファイルをダイレクト・モードで処理できるかどうかを示します。

NOXOPDIRECT

Web サービスは XOP 文書およびバイナリー添付ファイルをダイレクト・モードで処理できません。その理由は、Web サービスの妥当性検査が有効になっているため、あるいは Web サービス実装で XOP 文書とバイナリー添付ファイルの処理がサポートされていないためです。代わりに互換モードが使用されます。

XOPDIRECT

この Web サービスは、XOP 文書およびバイナリー添付ファイルをダイレクト・モードで 処理できます。

XOPSUPPORTST(value)

Web サービス実装が XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを処理できるかどうかを示します。

NOXOPSUPPORT

Web サービス実装は XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを処理できません。

XOPSUPPORT

Web サービス実装は XOP 文書およびバイナリー添付ファイルを処理できます。これは、MTOM/XOP をサポートする CICS レベルで作成されたすべての CICS 生成 Web サービスに当てはまります。

CEMT INQUIRE WLMHEALTH

CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービス設定に関する情報を取得します。

CICS Explorer では、[「操作」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

INQUIRE WLMHEALTH コマンドは、CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービス設定に関する情報を返します。

入力

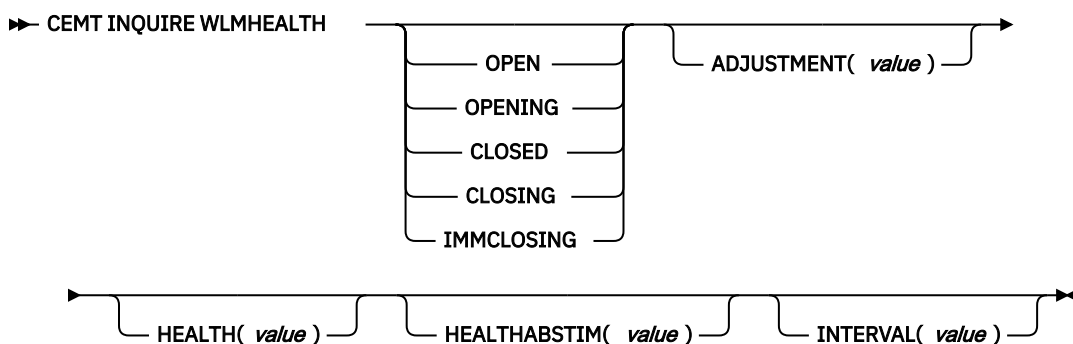
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT INQUIRE WLMHEALTH (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT INQUIRE WLMHEALTH (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、表示する他の属性の設定値を入力します。

以下のような方法で各種の属性を変更できます。

- INQUIRE 画面で、Tab キーを使用して該当するフィールドまで移動した後、変更する値をフィールドに上書き入力します。詳しくは、[画面の上書き](#)を参照してください。
- **CEMT SET WLMHEALTH** コマンドを使用します。

CEMT INQUIRE WLMHEALTH



表示されるフィールド

ADJUSTMENT(value)

指定された間隔ごとに CICS 領域の z/OS WLM ヘルス値を調整するために CICS が使用する調整値を表示します。

HEALTH(value)

CICS 領域の現行 z/OS WLM ヘルス値を表示します。

HEALTHABSTIM(value)

CICS 領域の z/OS WLM ヘルス値が CICS によって z/OS WLM に報告された最後の時刻 (ABSTIME 形式) を表示します。

INTERVAL(value)

領域のヘルス値を調整するために CICS が z/OS ワークロード・マネージャーを呼び出す間隔の秒数を表示します。

OPENSTATUS

z/OS WLM ヘルス・サービスの状況を表示します。値は以下のとおりです。

OPEN

CICS は z/OS WLM ヘルス値の加算を完了し、ヘルス値の値が 100 に達しました。

OPENING

CICS は、z/OS WLM 正常性値を増やすプロセスを開始しました。現在の値は 0 から 99 の範囲になっています。

CLOSED

CICS は、z/OS WLM 正常性値が 0 になるまで値を減らすプロセスを完了しました。

CLOSING

CICS は、指定された各間隔で指定された調整値まで z/OS WLM 正常性値を減らすプロセスを開始しました。正常性値は、現在 100 から 1 の範囲にあります。

IMMCLOSING

CICS は、z/OS WLM 正常性値をすぐに 0 に設定するプロセスを実行しています。

CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM

インストールされている XMLTRANSFORM リソースについての情報を取得します。

CICS Explorer では、[「XML 変換」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

リソース・シグニチャー

このコマンドを使用してリソース・シグニチャー・フィールドを表示できます。これらのフィールドを使用すると、リソースの定義時、インストール時、および最終変更時の詳細データを収集して、リソースを管理できます。詳しくは、[リソースの監査](#)を参照してください。リソース・シグニチャー・フィールドは CHANGEAGENT、CHANGEAGREL、CHANGETIME、CHANGEUSRID、DEFINESOURCE、DEFINETIME、INSTALLAGENT、INSTALLTIME、および INSTALLUSRID です。リソース・シグニチャー・フィールドの内容について詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM と入力します。現在の状況をリストする画面が表示されます。
- CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM と入力し、続けてその他の属性を必要な数だけ入力して、必要な情報の範囲を限定します。例えば、CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM EN と入力すると、使用可能なリソースの詳細だけが表示されます。

各種の属性を変更する方法は以下のとおりです。

- タブ・キーを使用して該当するフィールドに移動した後、INQUIRE 画面で変更を上書き入力します。
- CEMT SET XMLTRANSFORM コマンドを使用します。

ALL

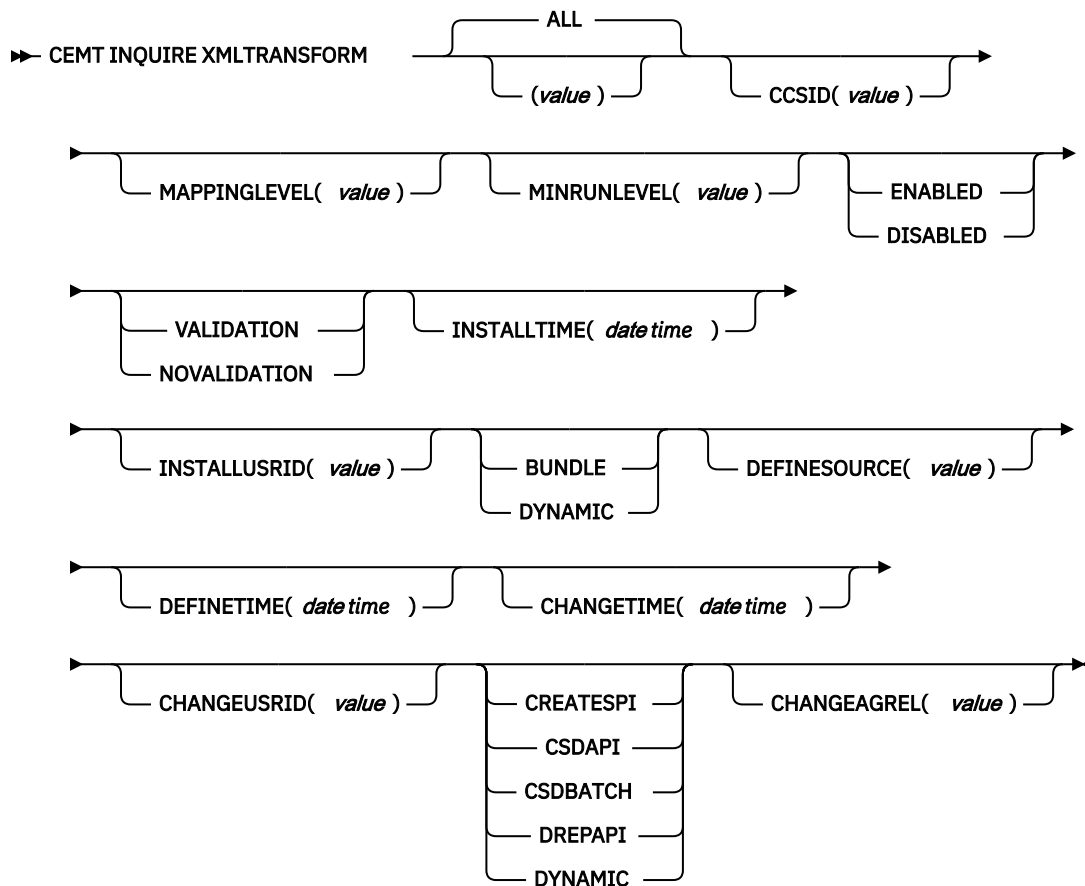
これがデフォルトです。照会の対象となるリソースの選択を指定しない限り、すべての XMLTRANSFORM リソースに関する情報が表示されます。

(value)

インストール済み XMLTRANSFORM リソースの名前 (1 文字から 32 文字まで)。

リスト内の特定のエントリーにカーソルを置いて Enter キーを押すと、CICS は指定された XMLTRANSFORM リソースのすべての属性の拡張フォーマットを表示します。

CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM



表示されるフィールド

CCSID(value)

実行時にアプリケーション・データ構造内の文字データをエンコードするために使用される CCSID を表示します。この値は、XML バインディング・ファイルの生成時に、XML アシスタントでオプションの **CCSID** パラメーターを使用して設定します。value が 0 の場合、CICS は **LOCALCCSID** システム 初期設定パラメーターで指定されているデフォルトの CCSID を使用します。

CHANGEAGENT(value)

リソース定義に最終変更を行ったエージェントを識別する値を表示します。これらの値のいくつかは重複しているため、CEMT を使用してフィルターに掛けることはできません。有効な値は、以下のとおりです。

CREATESPI

リソース定義は **EXEC CICS CREATE** コマンドによって最後に変更されました。

CSDAPI

リソース定義は、CEDA トランザクション、または DFHEDAP に対するプログラマブル・インターフェースによって最後に変更されました。

CSDBATCH

リソース定義は、DFHCSDUP ジョブによって最後に変更されました。

DREPAPI

リソース定義は、CICSplex SM BAS API コマンドによって最後に変更されました。

DYNAMIC

リソースは ATOMSERVICE リソースによって定義されました。

CHANGEAGREL(value)

リソース定義の最終変更時に実行していた CICS リリースの 4 桁の数値を表示します。

CHANGETIME(date time)

リソース定義の最終変更時の日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

CHANGEUSRID(value)

変更エージェントを実行した 8 文字のユーザー ID を表示します。

DEFINESOURCE(value)

リソース定義のソースを表示します。DEFINESOURCE 値は CHANGEAGENT オプションに依存します。詳しくは、[リソース・シグニチャー・フィールド値の要約](#)を参照してください。

DEFINETIME(date time)

リソースが作成された日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

ENABLESTATUS(value)

インストール済みの XMLTRANSFORM リソースの状況を表示します。可能な値は以下のとおりです。

ENABLED

XMLTRANSFORM リソースは使用可能です。

DISABLED

XMLTRANSFORM リソースは使用不可です。

INSTALLAGENT(value)

リソースをインストールしたエージェントを識別する値を表示します。有効な値は、以下のとおりです。

BUNDLE

リソースは、バンドルのデプロイメントによってインストールされました。

DYNAMIC

リソースは ATOMSERVICE リソースによってインストールされました。

INSTALLTIME(date time)

リソースがインストールされた日時を表示します。日付の形式は、CICS 領域の DATFORM システム初期設定パラメーターに選択した値によって異なります。時刻の形式は、hh:mm:ss です。

INSTALLUSRID(value)

リソースをインストールした 8 文字のユーザー ID を表示します。

MAPPINGLEVEL (value)

XML バインディング・ファイルの生成時に使用されたマッピング・レベルを表示します。マッピング・レベルの値は、1.0、1.1、1.2、2.0、2.1、2.2、または 3.0 です。

MINRUNLEVEL (value)

CICS で XMLTRANSFORM リソースを使用するために必要な最小ランタイム・レベルを表示します。ランタイム・レベルの値は 3.0 です。

VALIDATIONST(value)

この XMLTRANSFORM リソースに対して完全妥当性検査が現在使用可能であるかどうかを表示します。

VALIDATION

完全妥当性検査は使用可能です。

NOVALIDATION

完全妥当性検査は使用不可です。

XMLSCHEMA(value)

XML バインディング・ファイルの名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

XSDBIND(value)

XML バインディング・ファイルの名前を表示します。名前の長さは 255 文字以下です。

CEMT PERFORM コマンド

CEMT PERFORM コマンドを使用して、z/OS UNIX 内のディレクトリーのスキャン、システム・ダンプの生成、統計の収集、CICS のシャットダウンなどのアクションを CICS 内で実行します。

CEMT PERFORM コマンドの説明は、アルファベット順に編成されています。コマンドごとのオペランドの詳細も、アルファベット順に記載されています。

CEMT PERFORM DELETSHIPED

CICS タイムアウト削除メカニズムをただちに呼び出します。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CICS タイムアウト削除メカニズムは、シップされた端末定義のうち、DSHIPIDL システム初期設定パラメーター、またはそれに続く SET DELETSHIPED IDLE コマンドで指定された時間よりも、長く未使用状態にあったものを除去します。このメカニズムのスケジュールされた呼び出し間の間隔は、DSHIPINT システム初期設定パラメーター、またはそれに続く SET DELETSHIPED INTERVAL コマンドで指定されます。

PERFORM DELETSHIPED は、タイムアウト削除を即時に呼び出します。

注：

1. シップされた定義は、その端末に自動開始記述子 (AID) が関連付けられている場合には削除されません。
2. PERFORM DELETSHIPED コマンドを実行しても、タイムアウト削除メカニズムの次の呼び出しが始まるまでの時間間隔は、リセットされません。つまり、タイムアウト削除メカニズムを即時に呼び出すようにしても、スケジュールされた次の呼び出しまでの残り時間には影響しません。

構文

CEMT PERFORM DELETSHIPED

➡ CEMENT PERFORM DELETSHIPED ➡

CEMT PERFORM DUMP|SNAP

CICS システム・ダンプを取得します。

説明

CICS システムにダンプさせ、処理を続行させるためには、**CEMT PERFORM DUMP** コマンドと **CEMT PERFORM SNAP** コマンドのいずれかを使用します。どちらのコマンドも、CICS システムの「スナップショット」を生成します。

CEMT PERFORM DUMP または **CEMT PERFORM SNAP** を使用すると他のすべてのタスクは実行できなくなります。結果として、アプリケーション・ユーザーまたはサービス・ユーザーへの応答が遅延する可能性があります。

構文

CEMT PERFORM DUMP

➡ CEMENT PERFORM DUMP SNAP TITLE(*value*) DUMPCODE(*data-value*) ➡

オプション

DUMP

システム・ダンプの生成を指定します。

DUMPCODE (data-value)

このダンプ要求に最大 8 文字のダンプ・コードを指定します。この値はユーザー定義コードであり、先頭にも内部にもブランク文字がない任意の文字ストリングにすることができます。ダンプ・コードが指定されない場合、CICS はデフォルトのダンプ・コード MT0001 を使用します。

SNAP

CICS が **MVS SDUMP** マクロを発行して CICS 領域の SDUMP (システム・ダンプ) を生成するように指定します。

TITLE (value)

最大 32 文字のタイトルを指定します。これはダンプの先頭に追加されます。タイトルにスペースが含まれている場合、タイトル全体を単一引用符 (' ') で囲む必要があります。

CEMT PERFORM ENDAFFINITY

CICS が所有する類縁性を終了します。

CICS Explorer では、[「ISC/MRO 接続」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CICS が z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、PERFORM ENDAFFINITY は CICS に所有される親和性を終了させるように z/OS Communications Server に指示します (接続が削除された場合も、削除されていない場合も)。接続が削除されていない場合、接続はサービス休止の状態になっている必要があり、未解決のリカバリー情報が存在してはなりません。つまり、RECOVSTATUS (CEMT INQUIRE/SET CONNECTION によって表示される) が NORECOVDATA であることが必要です。

汎用リソースと親和性については、[シスプレックスにおけるワークロード・バランシング](#)で説明されています。

構文

CEMT PERFORM ENDAFFINITY

➡ CEMT PERFORM ENDAFFINITY — NETNAME(value) ———— NETID(value) —➡

オプション

NETID (value)

接続されている LU を含むネットワークを認識するために z/OS Communications Server が使用する、8 文字の名前を指定します。

NETID を指定しない場合は、インストールされている接続が存在すれば、CICS はその接続から値を取得します。NETID を指定せず、接続が存在しない場合、コマンドは失敗します。

NETNAME (value)

接続されている LU の 8 文字の APPLID を指定します。接続されている LU が汎用リソースのメンバーである場合は、汎用リソース名ではなくメンバー名を指定する必要があります。

注：親和性を問い合わせる機能が z/OS Communications Server にはないため、CICS では特定の接続に親和性が存在することをはっきりとは認識しません。明示的に終了させる必要があるアフィニティが作成された可能性がある場合、CICS はメッセージ DFHZC0177 を必ず発行します。このメッセージは、z/OS Communications Server に渡される NETNAME と NETID を示します。

親和性を終了させる要求が、そのような親和性が存在していないために z/OS Communications Server により拒否される場合、CICS はメッセージ DFHZC0181 を発行します。これは、間違った NETNAME または NETID を入力したか、親和性が存在するというユーザー (または CICS) の想定が間違っていたことを意味します。

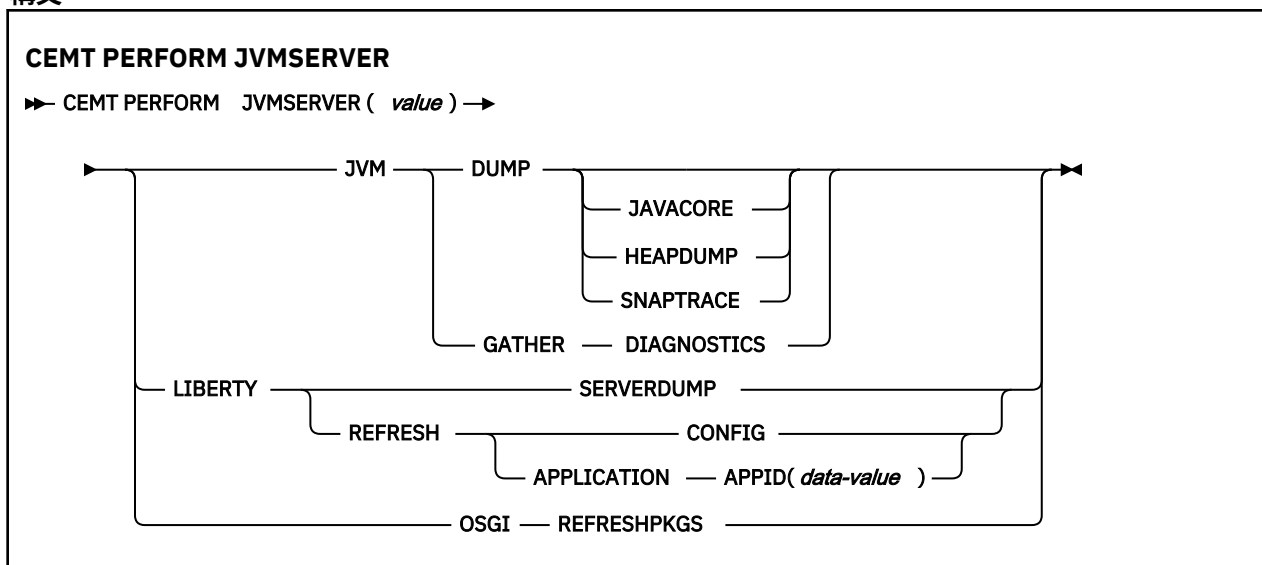
CEMT PERFORM JVMSERVER

CICS 領域内の JVM サーバーを管理します。

説明

CEMT PERFORM JVMSERVER コマンドを使用して、さまざまな JVM サーバー管理作業を行うことができます。背景や詳細については、[CICS SPI を使用した JVM サーバーの管理](#)を参照してください。

構文



オプション

DUMP

JVM サーバーに対して Java ダンプを実行します。オプションは以下のとおりです。

JAVACORE

Javacore ダンプ。実行している JVM プロセスについての重要な情報が含まれます。

HEAP

Javacore ヒープ・ダンプ。JVM ヒープに存在するすべてのオブジェクトのスナップショットが含まれます。

SNAPTRACE

Java スナップ・トレース。トレース・ポイント・データが含まれます。

オプションを選択しない場合は、すべてのダンプが生成されます。

GATHER DIAGNOSTICS

使用可能なすべての JVM 診断を収集します。詳細については、[PERFORM JVMSERVER SPI を使用した JVM 診断情報の収集](#)を参照してください。

JVM

意図したアクションをすべての JVM サーバー・タイプに適用することを指定します。

JVMSERVER (value)

アクションを適用する予定の JVM サーバーの 8 文字の名前を指定します。

LIBERTY

Liberty JVM サーバーに対してアクションを実行することを指定します。

OSGI

OSGi JVM サーバーに対してアクションを実行することを指定します。

REFRESHPKGS

JVM サーバーの OSGi フレームワークのパッケージをリフレッシュします。それにより、更新された OSGi バンドルがフレームワークにインストールされた後に、インポート・パッケージおよびエクスポート・パッケージを再ワイヤリングできます。

REFRESH

Liberty に、アプリケーションまたは構成リソースをリフレッシュするように指示します。オプションは以下のとおりです。

APPLICATION APPID(data-value)

アプリケーション・ファイルをリフレッシュします。**data-value** は、Liberty JVM サーバーでリフレッシュするアプリケーション・ファイルの **id** です。Liberty server.xml 構成の **id** 属性で定義されています。

CONFIG

構成ファイルをリフレッシュします。

SERVERDUMP

JVM サーバーに関連付けられた Liberty サーバーで Liberty サーバー・ダンプ・コマンドを実行します。このコマンドは稼働中のサーバーにも停止しているサーバーにも適用できます。

CEMT PERFORM PIPELINE

PERFORM PIPELINE コマンドを使用して、PIPELINE 定義の **WSDIR** 属性で指定された Web サービス・バインディング・ディレクトリーのスキャンを開始します。

CICS Explorer では、「[パイプライン](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

WSDIR 属性が指定されていない場合は、スキャンする対象はなく、制御はプログラムに戻ります。指定されたディレクトリーの場所が有効である場合、CICS はディレクトリー内の Web サービス・バインディング・ファイルを検査して、システムにインストールする必要があるかどうかを以下のように判別します。

- CICS は、まだインストールされていないことを検出したファイルをすべてインストールします。
- ファイルが既にインストールされているが、ディレクトリー内のファイルが現在使用中のものより新しい場合は、使用中のものが破棄され、新しいファイルが代わりにインストールされます。

何らかの理由で、CICS が個々の Web サービス・バインディング・ファイルのインストールに失敗した場合は、ディレクトリー内の残りのファイルに対して処理が続行されます。スキャンが完了すると、正常にインストールされたバインディング・ファイルのいずれかに対して PIPELINE が使用可能になります。

要求されたアクションの実行に失敗すると、コマンドから条件および RESP2 値が返され、また場合によっては CSMT にメッセージが書き込まれることによって、失敗が報告されます。失敗によってコマンドの効果がバックアウトされることはないため、要求されたアクションは部分的には正常に実行された可能性があります。また、失敗によってコマンドの実行が必ずしも停止されるとは限らず、正常に実行された部分を増やすためにコマンドが続行されることがあります。

構文

CEMT PERFORM PIPELINE

➡ CEMENT PERFORM PIPELINE(*value*) — SCAN ➡

オプション

PIPELINE(*value*)

8 文字の PIPELINE 名を指定します。

SCAN

PIPELINE の Web サービス・バインディング・ディレクトリーをスキャンします。

CEMT PERFORM RESET

CICS の日時をシステムの日時と同期させます。

説明

すべての CICS 機能が確実に正しい現地時間を使用するように、**CICS 領域の実行中に MVS TOD クロック内でシステムの日付または時刻を変更したときは必ず、CEMT PERFORM RESET コマンドを直ちに使用してください。**例えば、夏時間や冬時間に合わせた調整のためにクロックの設定時刻を進めたり戻したりする際には、このコマンドを使用して CICS が正しい現地時間を直ちに更新するようにします。

注：アプリケーションが確実に正しい時刻を受け取るように、MVS TOD クロックを変更する際には必ず **CEMT PERFORM RESET** を使用してください。CICS は、CICS の開始時、および CEMT PERFORM RESET コマンドの実行時にのみ、現地時間オフセットを取得し、保管します。

構文

CEMT PERFORM RESET

➡ CEMT PERFORM RESET ➡

CEMT PERFORM SECURITY

インストア RACF リソース・プロファイルを再作成します。RACF リソース・プロファイルは、アクティブ・クラス名に対して RACLIST マクロを再発行することによって再作成されます。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

構文

CEMT PERFORM SECURITY

➡ CEMT PERFORM SECURITY 

外部セキュリティー・マネージャーが RACF 2.1 または同等の製品の場合、リソース検査に使用されたクラスをリフレッシュするために PERFORM SECURITY コマンドは必要ありません。NOT REQUIRED というメッセージが表示され、アクションは行われません。

オプション

REBUILD

オプション・キーワードです。トランザクションのアクションを変更するものではありません。

CEMT PERFORM SHUTDOWN

CICS 領域をシャットダウンします。

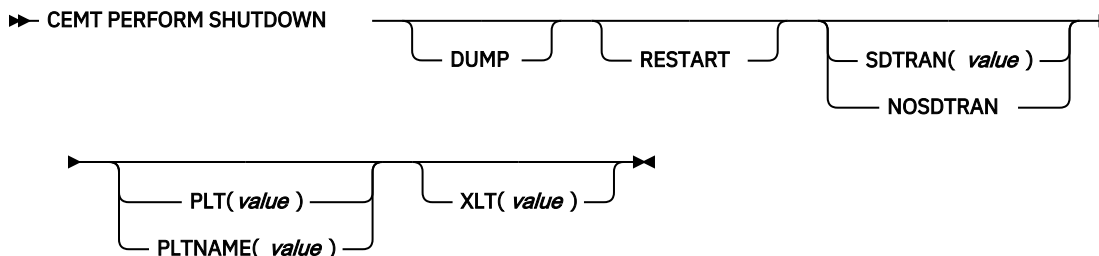
CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

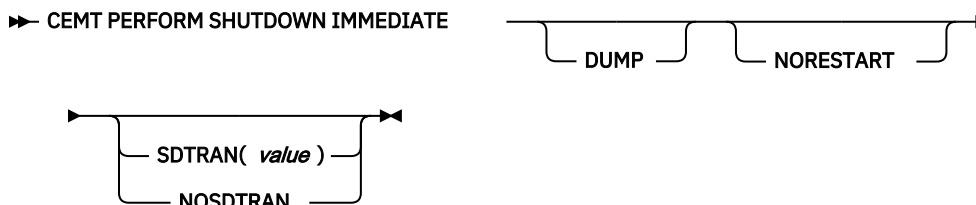
制御されたシャットダウン、または即時シャットダウンができます。シャットダウン (通常または即時) がハングすると、後続の SHUTDOWN IMMEDIATE がシャットダウン処理を再開します。

構文

CEMT PERFORM SHUTDOWN



CEMT PERFORM SHUTDOWN IMMEDIATE



CEMT PERFORM SHUTDOWN TAKEOVER



オプション

DUMP

動的ストレージ・ダンプは、終了処理の完了時に作成されます。

IMMEDIATE

すべてのアクティブ・タスクと SNA セッションを終了して、システムを即時にシャットダウンすることを指定します。IMMEDIATE を指定しない場合は、すべてのタスクを最後まで実行でき、SNA セッションは正常に終了できます。

NORESTART

CICS 領域が MVS Automatic Restart Manager (ARM) に登録されている場合、領域はシャットダウンの過程で登録解除され、領域の再始動を自動的に行わないことを指定します。

NOSDTRAN

CICS のシャットダウン時にシャットダウン支援トランザクションを実行しません。

SDTRAN も NOSDTRAN も指定されない場合のデフォルト・シャットダウン・トランザクションは CESD です。

PLT (value)

シャットダウンに使用されるプログラム・リスト・テーブル (PLT) の 1 または 2 文字の接尾部を指定します。

PLTNAME (value)

シャットダウンに使用するプログラム・リスト・テーブル (PLT) の 1 文字から 8 文字の名前を指定します。1 文字または 2 文字を指定した場合は接尾部として扱われ、接頭部の DFHPLT に付加されたものが、テーブルの名前になります。3 文字から 8 文字を指定した場合は、テーブルのフルネームとして扱われます。

RESTART

CICS 領域が正常にシャットダウンした場合に、MVS ARM によって再始動することを指定します。

SDTRAN

シャットダウン支援トランザクションの 4 文字の ID

TAKEOVER

この CICS 領域を閉じ、代替 CICS 領域に引き継ぐことを指定します。これは、CICS の始動に XRF=YES システム 初期設定パラメーターが指定された場合にのみ有効です。

XLT (value)

シャットダウンに使用されるトランザクション・リスト・テーブル (XLT) の 2 文字の接尾部を指定します。

指定された XLT にリストされたトランザクションは、SHUTDOWN 要求の後、システムが静止する前に開始できます。デフォルトの XLT には、マスター端末トランザクションのエントリーが含まれている必要があります。通常の (即時でない) シャットダウンが要求された後、タスクが中断されていることが検出された場合に、即時シャットダウンを発行できるようになります。

334 ページの表 8 は、アクティブ CICS システムに対する TAKEOVER オプションと IMMEDIATE オプションの影響を示しています。

表 8. アクティブ CICS システムに対する TAKEOVER オプションと IMMEDIATE オプションの影響			
	CEMT PERFORM SHUTDOWN		
(通常)	TAKEOVER	IMMEDIATE	
タスク	完了	完了	終了
SNA セッション (XRF)	アンバインド	離脱	離脱
SNA セッション (非 XRF)	アンバインド	アンバインド	アンバインド

334 ページの表 9 は、代替 CICS に対する TAKEOVER オプションと IMMEDIATE オプションの影響を示しています。

表 9. 代替 CICS システムに対する TAKEOVER オプションと IMMEDIATE オプションの影響			
	CEMT PERFORM SHUTDOWN		
(通常)	TAKEOVER	IMMEDIATE	
CICS 代替	シャットダウン	テークオーバー	テークオーバー

CEMT PERFORM SSL

CICS 領域の SSL 環境と証明書のキャッシュをリフレッシュします。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

注: **PERFORM SSL REBUILD** コマンドは、CICS が SSL(ATTLSAWARE) で定義された TCPIPService を使用 (AT-TLS で保護されたクライアント接続を指示) している SSL/TLS 環境には適用されません。このような SSL 環境およびキャッシュをリフレッシュする場合は、[Application Transparent Transport Layer Security \(AT-TLS\)](#) の概要の説明に従ってください。

説明

CEMT PERFORM SSL REBUILD コマンドは、CICS 領域の SSL 環境を再作成する要求です。z/OS System SSL が SSL 環境を管理します。SSL 環境には、CICS 領域用に指定された鍵リングにある証明書のコピーが入ったキャッシュが含まれます。

PERFORM SSL REBUILD コマンドが発行されたときに CICS 領域で進行中の SSL ハンドシェークは、引き続き古い証明書情報に基づいて処理を続行し、既存の SSL セッションが維持されます。

SSL 環境の再作成が成功すると、次の影響があります。

- 外部セキュリティ・マネージャーのデータベース内に保持されている CICS 領域の鍵リングから、証明書のキャッシュが再作成されます。新しいキャッシュには、新規証明書または更新された証明書のコピーが含まれます。この証明書は、SSL 環境の以前の作成後に鍵リングに置かれたものです。再作成の完了後に CICS 領域内で開始される新しい SSL ハンドシェークまたはセッションでは、リフレッシュされた証明書情報が使用されます。

- CICS の **SSLCACHE=CICS** システム初期設定パラメーターで指定されたとおり、SSL 環境が CICS 領域のローカル SSL キャッシュを管理する場合、新しいキャッシュが作成されます。この SSL キャッシュは SSL セッションのセッション ID を保持します。新しいキャッシュには、CICS 領域で確立された新規 SSL セッションによってデータが取り込まれます。古いキャッシュを使用した最後の接続がドロップされると、古いキャッシュは除去されます。SSL キャッシュが複数の CICS 領域のシスプレックス・レベル (**SSLCACHE=SYSPLEX**) で保持される場合は、影響を受けません。
- CICS 領域で、証明書失効リスト (CRL) の保管に LDAP サーバーを使用する場合、SSL 環境でその LDAP サーバー用に保持されるバインド情報はリフレッシュされます。LDAP サーバーの詳細は、外部セキュリティー・マネージャーによって保持される LDAPBIND 定義から取られます。これは、CICS の **CRLPROFILE** システム初期設定パラメーターによって参照されます。このプロファイルの初期セットアップが無効であるため、CICS 領域で LDAP サーバーへのアクセスが無効になった (メッセージ DFHSO0128 または DFHSO0129 で報告されます) 場合、SSL 環境の再作成で LDAP サーバーへのアクセスを復元することはできません。再作成が実行される時点で CICS 領域から利用可能な LDAP サーバーのみのリフレッシュが行われます。


注: SSL 環境の再作成では、LDAP サーバー上の証明書失効リストはリフレッシュされません。これを実行する手順については、[Running the CCRL transaction](#) を参照してください。

SSL 環境の再作成が正常に行われない場合は、以前の SSL 環境と以前の証明書キャッシュが保持され、CICS 領域によって引き続き使用されます。

CICS 領域が SSL を使用しない場合、CICS は **CEMT PERFORM SSL REBUILD** コマンドへの応答としてエラー・メッセージを生成します。CICS 領域が SSL を使用するとエラー・メッセージが出される場合は、MSGUSR ログを確認してください。MSGUSR ログ内のメッセージ DFHSO0123 は、CICS 領域の鍵リングに問題があることを示しています。

構文

CEMT PERFORM SSL

➡ CEMENT PERFORM SSL 

オプション

REBUILD

オプションのキーワード。コマンドのアクションを変更するものではありません。

CEMT PERFORM STATISTICS

すべての、または指定したリソース・タイプの統計を、現在の統計収集間隔が期限切れになるのを待たずにすぐに SMF データ・セットに書き込みます。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

統計の設定が ON か OFF かに関係なく記録されます。これらのコマンドの説明については、[225 ページの『CEMT INQUIRE STATISTICS』](#)および [408 ページの『CEMT SET STATISTICS』](#)も参照してください。

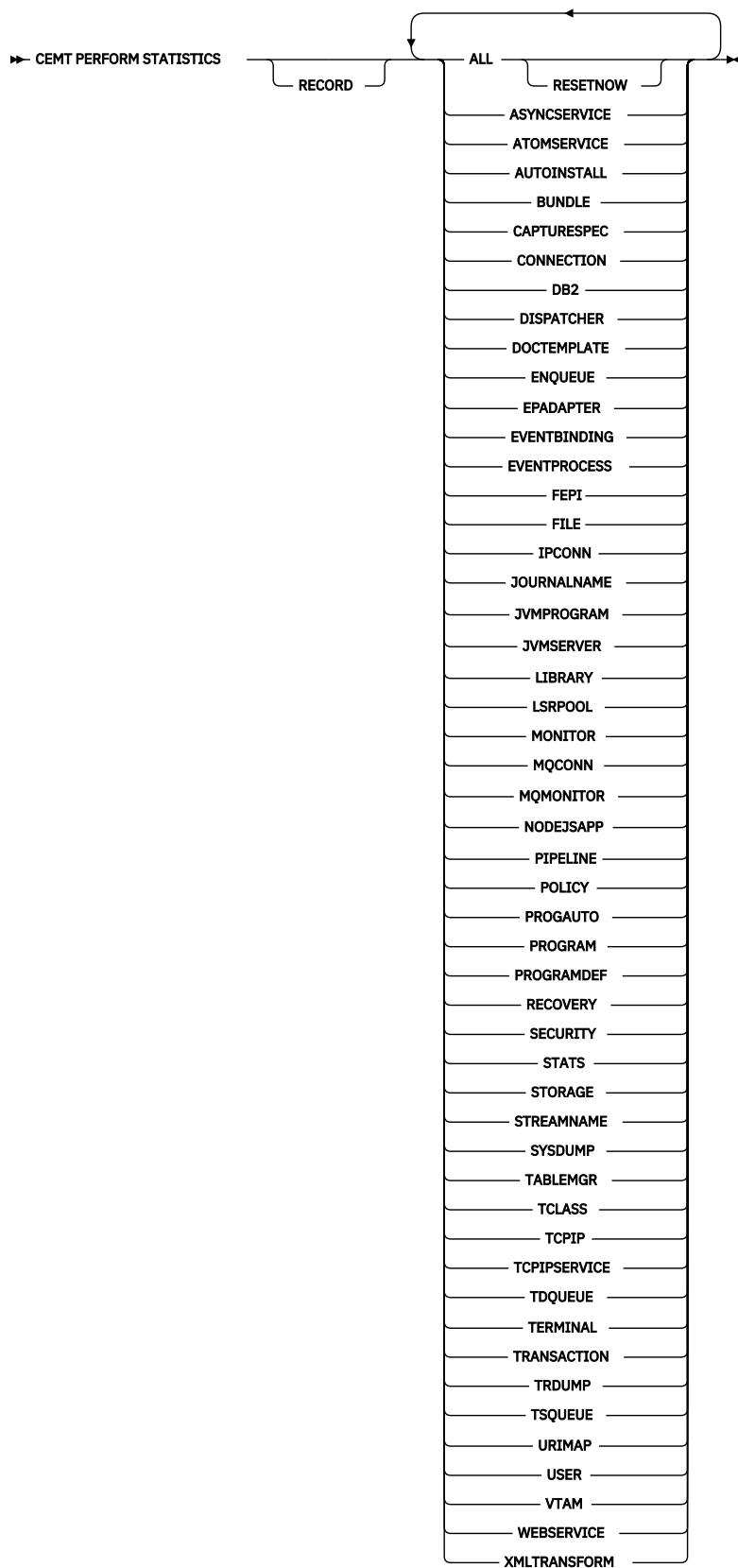
すべてのリソース (ALL) の統計を要求することも、リストから 1 つ以上のキーワードを選択して個々のリソースの統計をさまざまな組み合わせで要求することもできます。

リソース・タイプが機能していない場合や使用できない場合には、STATS MISSING というメッセージが表示されます。できるだけ多くのデータが記録されます。

[CICS 提供の統計ユーティリティー・プログラム DFHSTUP](#) を使用して、CICS® 統計データ・レポートをオフラインで作成し、印刷できます。

構文

CEMT PERFORM STATISTICS



オプション

ALL

すべてのリソースの統計は、即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

ALL RESETNOW は、統計収集のカウンターをリセットします。RESETNOW が機能するのは、ALL オペランドが設定されて ALL RESETNOW となっている場合だけです。

ASYNCSERVICE

非同期サービス統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

ATOMSERVICE

Atom フィード統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

AUTOINSTALL

自動インストール統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

BUNDLE

バンドル統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

CAPTURESPEC

キャプチャー仕様統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

CONNECTION

接続統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

DB2

CICS Db2 統計が SMF データ・セットに即時に書き込まれます。

DISPATCHER

ディスパッチャー統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

DOCTEMPLATE

文書テンプレート統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

ENQUEUE

エンキュー統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

EPADAPTER

EP アダプター統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

EVENTBINDING

イベント・バインディング統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

EVENTPROCESS

イベント処理統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

FEPI

FEPI 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

FILE

ファイル制御統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

IPCONN

IPCONN 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

JOURNALNAME

CICS ジャーナル統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

注：リソース名 JOURNALNUM は廃止され、リソース名 JOURNALNAME で置き換えられています。

JVMPROGRAM

JVM プログラム統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

JVMSERVER

JVMSERVER 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

LIBRARY

LIBRARY 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

LSRPOOL

LSRPOOL 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

MONITOR

モニター統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

MQCONN

WebSphere MQ 接続統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

MQMONITOR

CICS MQ モニター統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

NODEJSAPP

NODEJSAPP 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

PIPELINE

PIPELINE 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

POLICY

ポリシー・ルール統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

PROGAUTO

自動インストールされた プログラム統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

PROGRAM

プログラム統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

PROGRAMDEF

プログラム定義統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

RECORD

RECORD はオプションのキーワードで、トランザクションのアクションを変更するものではありません。

RECOVERY

リカバリー統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

RESETNOW

統計 カウンターがリセットされます。

SECURITY

セキュリティ・ドメイン統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

STATS

統計ドメイン統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

STORAGE

ストレージ・マネージャー統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

STREAMNAME

ログ・ストリーム統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

SYSDUMP

システム・ダンプ統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TABLEMGR

テーブル・マネージャー統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TCLASS

トランザクション・クラス統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TCPIP

IP ソケットの 要求グローバル統計。

TCIPSERVICE

TCP/IP サービス統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TDQUEUE

一時データ統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TERMINAL

端末統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TRANSACTION

トランザクション統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TRDUMP

トランザクション・ダンプ統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

TSQUEUE

一時記憶域統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

URIMAP

URIMAP 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

USER

ユーザー・ドメイン統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

VTAM

VTAM は、現在は z/OS Communications Server と呼ばれています。z/OS Communications Server 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

WEBSERVICE

WEBSERVICE 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

XMLTRANSFORM

XMLTRANSFORM 統計が即時に SMF データ・セットに書き込まれます。

CEMT SET コマンド

SET コマンドは、リソース (端末など)、複数リソースの特定のサブグループ (端末のクラスなど)、または特定のタイプのリソースすべて (すべての端末など) の指定したインスタンス (1 つ以上) の状況を変更します。

SET コマンドを使用すると、指定した変更を加え、リソースの新しい状況を表示できます。SET コマンドに構文エラーがある場合は、変更が加えられません。

リソースの属性を変更するには、コマンド行に SET (または適切な省略形) を入力します。CEMT SET と共に使用できるキーワードについては、このセクションの残りの部分で説明されています。

すべての SET コマンドに、引数、総称引数、または ALL を指定する必要があります。例:

```
SET TERMINAL (TRM1) INSERVICE
```

TRM1 をサービス中に設定します。

```
SET TERMINAL (TRM1 TRM2 TRM3) INSERVICE
```

または

```
SET TERMINAL (TRM1,TRM2,TRM3) INSERVICE
```

端末 TRM1、TRM2、および TRM3 をサービス中に設定します。

```
SET TERMINAL (TRM*) INSERVICE
```

TRM で始まる ID を持つすべての端末をサービス中に設定します。

```
SET TERMINAL ALL INSERVICE
```

すべての端末をサービス中に設定します。

ただし、

```
SET TERMINAL INSERVICE
```

はエラーを生成します。

CEMT SET ATOMSERVICE

ATOMSERVICE リソース定義を使用可能または使用不可に設定します。

CICS Explorer では、[「Atom サービス」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

オプション属性を省略した場合、このコマンドは効力を発揮しません。

ATOMSERVICE リソース定義を使用不可にすると、CICS は Web クライアントに HTTP 応答を 503 (サービス利用不可) の状況コードを付けて戻します。

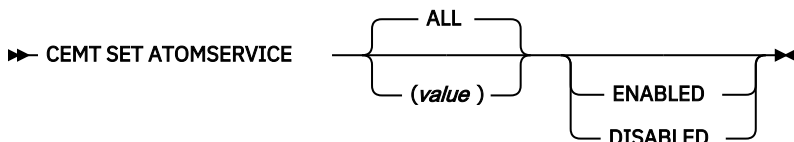
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET ATOMSERVICE (または適切なキーワードの省略語) と入力し、続いて 1 つ以上の ATOMSERVICE ID または ALL を入力します。その結果、**CEMT INQUIRE ATOMSERVICE** コマンドを使用することによって取得される表示内容と同じように、現在の状況がリスト表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET ATOMSERVICE (または適切なキーワードの省略語) と入力し、続いて 1 つ以上の ATOMSERVICE ID または ALL を入力してから、その後に変更する属性設定値を入力します。例えば、`cemt s ato al e` と入力すると、すべての ATOMSERVICE リソース定義の値がリセットされて、使用可能 (Enabled) になります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

SET ATOMSERVICE



条件: NOTAUTH、NOTFND

オプション

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

(value)

ATOMSERVICE リソース定義の 1 文字から 8 文字の名前を指定します。

ENABLESTATUS

以下のように ATOMSERVICE リソース定義の状況を設定します。

ENABLED

ATOMSERVICE リソース定義は使用する準備ができています。

DISABLED

ATOMSERVICE リソース定義は使用不可です。この状態の ATOMSERVICE リソース定義は、破棄できます。

CEMT SET AUTOINSTALL

z/OS Communications Server 端末、APPC 接続、3270 ブリッジ機構によって使用される仮想端末 (ブリッジ機能)、および MVS コンソールの自動インストールを制御する属性を変更します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT SET AUTOINSTALL コマンドを使用して、自動インストールを制御する値を変更できます。自動インストールについては、[自動インストール](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

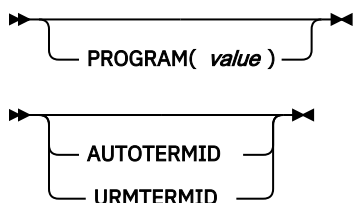
- CEMT SET AUTOINSTALL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE AUTOINSTALL** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET AUTOINSTALL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEMT S AUT M(NEWVALUE P(NEWNAME)) は、新しいプログラムに対する要求の最大数の値をリセットします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET AUTOINSTALL



SETA2



オプション

AIBRIDGE

自動インストールのユーザー置換可能モジュール (URM) がブリッジ機能のために呼び出されるかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

AUTOTERMID

ブリッジ機能は CICS によって自動的に定義されます。自動インストール URM は呼び出されません。

URMTERMID

自動インストール URM が呼び出されます。

CONSOLES

定義されていないコンソールから MVS MODIFY コマンドを受信したときに、CICS が MVS コンソール装置を自動インストールするかどうかを指定します。

PROGAUTO

MVS コンソールは自動インストールされ、CICS はユーザー自動インストール制御プログラムを呼び出して termid とその他のユーザー指定情報を取得します。

FULLAUTO

MVS コンソールは、ユーザー自動インストール制御プログラムを呼び出さずに、自動的に CICS によって自動インストールされます。CICS は、先頭文字として ¬ (論理 NOT) 記号を使用して、コンソールの termid を自動的に割り当てます。

NOAUTO

コンソールの自動インストールは許可されません。

MAXREQS (value)

一度にキューに入れることができる自動インストール要求の最大数 (0 から 999 の範囲内) を指定します。

この値を 0 に設定することによって、他の端末が自動インストールによってログオンしないようにすることができます。これにより、現在ログオンしている端末の自動インストール・エントリーを、ログオフ時に自動インストール・プログラムによって削除できます。

PROGRAM(value)

自動インストール・プロセスを制御するユーザー・プログラムの名前を指定します。デフォルトのプログラムが提供されています。

CEMT SET AUXTRACE

補助トレース・オプションを変更します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

トレースについて詳しくは、[CICS トレースの使用](#)を参照してください。CETR トランザクションの説明を読むと役に立つ場合があります。

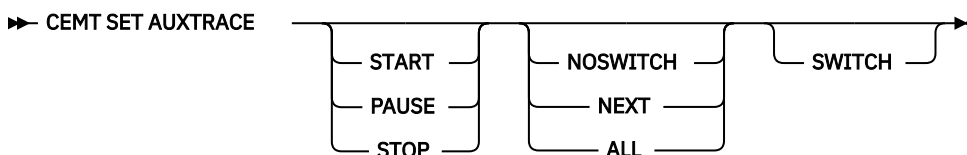
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET AUXTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE AUXTRACE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET AUXTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s aux sto a` は補助トレースを停止して、必要に応じて自動切り替えが行われるようにします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET AUXTRACE



オプション

ALL

この CICS セッションの終了まで、オペレーター介入の必要なく、必要に応じて 2 つの補助トレース・データ・セット間で自動切り替えを行うように指定します。

NEXT

現行トレース・データ・セットが満杯になると補助トレース・データ・セットの自動切り替えが行われますが、その後は行われません。

NOSWITCH

補助トレース・データ・セット間の切り替えは、オペレーターの介入なしでは行われません。

PAUSE

補助トレースは停止しますが、データ・セットは開いたままになります。後続の START 要求によって、PAUSE 要求の前に書き込まれた項目の直後にトレース項目が書き込まれます。

START

CICS は補助トレースを開始し、現在閉じている場合は補助トレース・データ・セットを開きます。

STOP

CICS は補助トレースを停止し、補助トレース・データ・セットを閉じます。後続の START 要求によって、データ・セットの先頭に新規トレース項目が書き込まれ、STOP 要求の前に書き込まれていたトレース項目は上書きされます。

SWITCH

現在の補助トレース・データ・セットから代替トレース・データ・セットへの即時切り替えを行うように指定します。

CEMT SET BRFACILITY

3270 ブリッジ機構で使用される仮想端末 (ブリッジ機能) を解放します。

説明

CEMT SET BRFACILITY コマンドを使用して、3270 ブリッジ機構によって使用される仮想端末 (ブリッジ機能) の削除を要求できます。

トランザクションが現在実行中の場合、ブリッジ機能はトランザクションの終了時に削除されます。ブリッジ機能が現在 AVAILABLE の場合、この機能は次のガーベッジ・クリアランス時に削除されます。

ブリッジ機能が解放されると、XFAINTU グローバル・ユーザー出口の削除機能が実行されます。

注: ブリッジ機能は、コマンドが発行された領域内でのみ削除されます。ブリッジ機能は、ルーターと AOR の両方の領域に存在する可能性があります。このコマンドは、コマンドが発行された領域にある機能を削除します。他方の領域には影響を与えませんが、このためにブリッジ機能は使用できなくなります。ただし、ブリッジ機能が専有するストレージを解放するためには、このコマンドを両方の領域で発行する必要があります。このコマンドは、ブリッジ機能が作成されたルーター領域または AOR 領域でのみ発行できます。

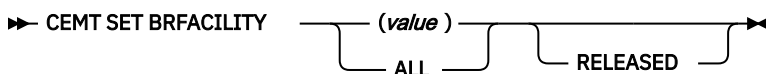
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET BRFACILITY (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (*value*) または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE BRFACILITY** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示されたフィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET BRFACILITY (CEMT S BR) (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(*value*) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s br(value) rel` は指定されたブリッジ機能を解放します。

構文プロンプトを表示するには、`?CEMT S BR` と入力します。

CEMT SET BRFACILITY



オプション

(*value*)

8 バイトのブリッジ機能トークン。

ALL

要求した 変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

RELEASED

ブリッジ機能に削除のマークを付けるように指定します。

CEMT SET BUNDLE

インストール済み BUNDLE リソースの状況を変更します。このリソースは、CICS バンドルを表します。

CICS Explorer では、[「バンドル」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT SET BUNDLE は、スタンドアロン CICS バンドルの状況を変更するために使用します。

SET BUNDLE コマンドは、単一の CICS 領域にあるアプリケーションに関してインストールされた 1 つの CICS バンドルに対して機能しますが、これは、各種アプリケーションの CICS バンドルの通常の管理を意図したものではありません。プラットフォームにデプロイされるアプリケーションの一部としてインストールされた CICS バンドルの場合、CICS Explorer の **CICS クラウド・パースペクティブ**にある「**クラウド・エクスプローラー**」ビューを使用してアプリケーションを操作します。アプリケーションに対して実行する操作は、そのアプリケーションのすべての CICS バンドルに対して適用されます。アプリケーションの個々の CICS バンドルの状況をトラブルシューティングする必要がある場合は、CICS Explorer を使用して、複数の CICS 領域にある個々のバンドルの問題を調べることもできます。

正常にインストールされた CICS バンドルは、インストールされた CICS 領域で有効状態または無効状態の可能性があり、また、使用可能状態または使用不可状態の可能性もあります。CICS バンドルが無効状態または使用不可状態の場合、CICS バンドルのリソースは動的に作成されましたが、まだ使用できません。

- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言する CICS バンドルでは、まずバンドルを有効にし、次にそれを使用可能にして、ユーザーがリソースにアクセスできるようにする必要があります。バンドルが使用可能になると、呼び出し元は CICS でアプリケーション・エントリー・ポイントにアクセスできるようになるため、CICS バンドル内のすべてのリソースにアクセスできるようになります。
- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言しない CICS バンドルについては、バンドルを有効にするだけで構いません。アプリケーション・エントリー・ポイントによって制御されないリソースは、有効になるとすぐにユーザーが使用できるようになります。

CICS バンドルをアンインストールする場合、その前にそのバンドルへのユーザーのアクセスを取り消し、無効にする必要があります。その後、スタンドアロン CICS バンドルの BUNDLE リソースを破棄することもできますし、CICS バンドルがインストールされたアプリケーションをアンインストールすることもできます。

- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言する CICS バンドルについては、まずバンドルを使用不可にしてから無効にする必要があります。
- アプリケーション・エントリー・ポイントを宣言しない CICS バンドルについては、バンドルを使用不可にする必要はありません。必要なのは無効にすることだけです。

AVAILABLE、DISABLED、ENABLED、PHASEIN、または UNAVAILABLE を指定するには、別個の SET BUNDLE コマンドを発行する必要があります。CICS は、CICS バンドルの状態の整合性を保つため、それぞれの操作を別個に完了する必要があります。

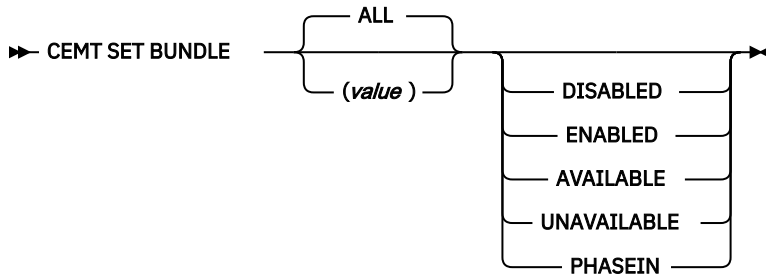
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET BUNDLE を入力し、続いて 1 つ以上の BUNDLE ID または ALL を入力します。CEMT により、BUNDLE リソースのリストと、各 BUNDLE リソースの現在の状況が表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET BUNDLE と入力し、続いて 1 つ以上の BUNDLE ID または ALL を入力し、その後に変更する属性設定値を入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET BUNDLE



オプション

ALL

アクセス権限のある指定のリソースすべてに対して、いずれの変更も適用します。

AVAILABLE

1つ以上の BUNDLE リソースを使用可能にします。呼び出し元は、CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるリソースに CICS でアクセスできます。

DISABLED

1つ以上の BUNDLE リソースを使用不可に設定します。CICS は、CICS 領域に CICS バンドル用に動的に作成されたリソースの無効化と、BUNDLE リソースの無効化を試行します。

ENABLED

1つ以上の BUNDLE リソースを使用可能に設定します。CICS は、BUNDLE リソースの有効化と、CICS 領域に CICS バンドル用に動的に作成されたリソースの有効化を試行します。DISABLING または DISCARDING 以外であれば、どの状態の BUNDLE リソースでも使用可能に設定できます。

PHASEIN

1つ以上の BUNDLE リソースによって参照される OSGi バンドルの新規バージョンを登録します。CICS バンドルのルート・ディレクトリーにあるすべての OSGi バンドルの最上位セマンティック・バージョンが CICS によって判別され、まだ登録されていない場合は、そのバージョンが OSGi フレームワークに登録されます。以前に登録されたバージョンは OSGi フレームワークから除去されます。それ以後のすべての要求では新しいバージョンが使用されますが、アクティブ・タスクでは、そのタスクが完了するまで古いバージョンが引き続き使用されます。

UNAVAILABLE

1つ以上の BUNDLE リソースを使用不可にします。CICS バンドルでアプリケーション・エントリー・ポイントとして識別されるリソースに CICS でアクセスできなくなるため、呼び出し元は CICS バンドルのどの専用リソースにもアクセスできません。

value

BUNDLE リソース定義の 1 文字から 8 文字の名前を指定します。

CEMT SET CONNECTION

MRO または ISC over SNA 接続の属性を変更します。

CICS Explorer では、「ISC/MRO 接続」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT SET CONNECTION コマンドを使用して、MRO または ISC over SNA 接続を定義するいくつかの属性を変更できます。

注：383 ページの『CEMT SET IPCONN』も参照してください。**CEMT SET IPCONN** コマンドは、IPIC 接続（「IPCONN」とも呼ばれる）の属性を変更するために使用します。

各種の相互通信接続について詳しくは、[相互通信方式](#)を参照してください。

接続が INDIRECT として定義されている場合、その参照先の直接接続がインストールされているのでない限り、何の情報も与えられません。

インストール済みの接続定義がある状態で新規の接続定義をインストールするには、接続の OUTSERVICE を設定する必要があります。それが z/OS Communications Server 接続である場合は、いったん解放して、新規定義に CEDA INSTALL コマンドを使用します。

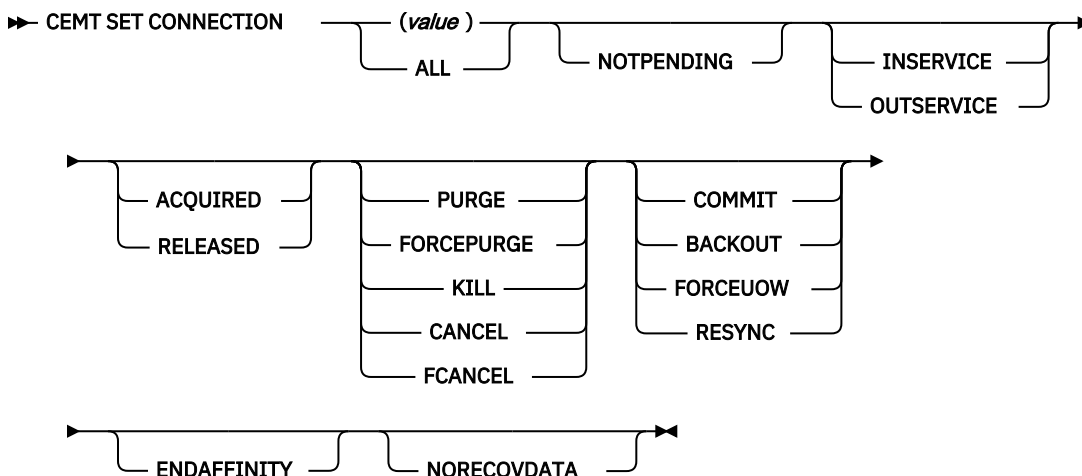
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET CONNECTION (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の接続 ID を入力するか、ALL を入力します。CEMT INQUIRE CONNECTION コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET CONNECTION (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の接続 ID を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s c al i` と入力すると、すべての接続の値がリセットされて、それらの接続が使用可能 (サービス中) になります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET CONNECTION



オプション

(value)

領域間通信 (IRC) 接続またはシステム間連絡 (ISC) 接続用に定義される、1 つ以上の名前 (1 文字から 4 文字)。

このパラメーターは、ローカル・システムの名前も受け入れます。ローカル・システム・エントリーの場合、有効なオプションは **CANCEL** と **FORCECANCEL** のみです。

ACQUIRED (APPC のみ)

CONNECTION 名で表される論理装置とのセッションを、CICS が取得するかどうかを指定します。接続エレメントの可用性の状況に関する詳細情報を入手するには、CEMT INQUIRE MODENAME コマンドを使用してください。接続を ACQUIRED と OUTSERVICE の両方にすることはできません。

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

BACKOUT (APPC 並列セッション、CICS 間 MRO、および LU61 のみ)

この接続障害のために中断した UOW はすべてバックアウトされます。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている作業単位すべてに対して、決定がお

こなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

CANCEL

指定された接続の AID (自動開始記述子) キューイングを取り消します。

ローカル CICS システム内で指定された接続を待機している、スケジュールに入れられて割り振られている要求を表す AID が取り消されます。しかし、関連の起動されるタスクが既に開始されている TD AID は取り消されません。さらに、以下の CICS システム AID は、FCANCEL が指定されない限りページされません。

表 10. 除去するのに FCANCEL が必要なシステム AID	
説明	Tranid (トランザクション ID)
リモート削除 AID	
リモート・スケジューラー AID	CRSR
LU6.2 サービス・マネージャー 1 AID	CLS1
LU6.2 サービス・マネージャー 3 AID	CLS3
リモート・スケジューラー・ページ AID	CRSQ
リソース・マネージャー再同期 AID	CRSY
自動インストール端末削除 AID	CATD
自動インストール端末再始動 AID	CATR

取り消された SCHEDULE 要求の先行版がリモート CICS システムにある、つまり AID がもともとリモート・システムでスケジュールに入れられていたことが分かった場合、そのリモート AID は非同期的に取り消されます。

メッセージ DFHTF0100 が CSMT に書き込まれ、接続に関する AID が削除された数と、残っている数が示されます。

CEMT SET CONNECTION コマンドの CANCEL オプションを使用して AID が削除されるたびに、AIDS CANCELED メッセージが CEMT パネルに表示されます。

COMMIT (APPC 並列セッション、CICS 間 MRO、および LU61 のみ)

この接続障害のために中断した UOW はすべてコミットされます。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている作業単位すべてに対して、決定がおこなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

ENDAFFINITY (APPC および LU6.1 のみ)

CICS が z/OS Communications Server 汎用リソース・グループのメンバーである場合、z/OS Communications Server が CICS に所有される親和性を終了させることを指定します。このオプションは APPC および LU6.1 接続の場合にのみ有効です。この接続はサービス休止でなければならず、APPC の場合は NORECOV DATA 状態でなければなりません。

注:

- z/OS Communications Server には親和性を照会する機能がないため、CICS は特定の接続に親和性が存在することを確実に認識できません。明示的に終了させる必要があるアフィニティーが作成された可能性がある場合、CICS はメッセージ DFHZC0177 を必ず発行します。このメッセージは疑わしい接続の NETNAME を示します。
- 親和性が存在しないために、親和性を終了させる要求が z/OS Communications Server によって拒否されると、CICS はメッセージ DFHZC0181 を発行します。
- 「NETID 0 USE PRFRM」という応答は、SET CONNECTION を使用してアフィニティーを終了させることができないという意味です。これは、インストールされた接続の NETID の値が 0 であるためです。(NETID は、接続された LU を含むネットワークを認識するために z/OS Communications Server

が使用する名前です。) アフィニティーを終了させるには、PERFORM ENDAFFINITY コマンドに正しい NETID を指定して、使用する必要があります。

この応答は、親和性が終了した後に繰り返し ENTER キーを押した場合にも生じることがあります。

4. 汎用リソースと親和性については、[相互通信入門](#)で説明されています。

FCANCEL

指定された接続のためにキューイングしているすべての AID (システム AID を含む) が取り消されます。除去するのに FCANCEL が必要なシステム AID のリストについては、[347 ページの表 10](#) を参照してください。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

注: FCANCEL は関連の起動されるタスクがある一時データ AID は除去しません。これらの AID は関連するタスクをパージすると除去できます。

CEMT SET CONNECTION コマンドの FCANCEL オプションを使用して AID が削除された場合には、CEMT パネルに「AIDS CANCELED (AID が取り消されました)」というメッセージが必ず表示されます。

FORCEPURGE (z/OS Communications Server のみ)

接続されたシステムのセッションで実行されているトランザクションをすべて即時に異常終了させます。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

FORCEPURGE は、互換性のためだけに保存されている PURGE FORCE に取って代わるものです。新規アプリケーションでは、FORCEPURGE を使用する必要があります。

FORCEUOW (APPC 並列セッション、CICS 間 MRO、および LU6.1 のみ)

TRANSACTION 定義の ACTION オプションの指定に従って、この接続の障害が原因で棚上げされているすべての UOW が、強制的にバックアウトまたはコミットされます。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている作業単位すべてに対して、決定がおこなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

INSERVICE

システムをサービス中の状態に、つまり使用可能にします。

MRO 接続の場合、すべてのセッションがサービス中になり、次の処理が実行されます。

- 発行元システムとシステム sysid の両方で IRC が開いていて、システム sysid 内での発行元システムの状況が INSERVICE 状況である場合、2 つのシステムの間に接続が確立され、使用可能になります。
- そうでない場合は、システムの状況 (および、基礎となるセッションの状況) が INSERVICE に設定されます。それによって両方のシステムで、IRC がオープンされて互いに関して INSERVICE になり、接続が確立されます。なお、INQUIRE では、使用できる接続がなくても、システム (およびその基礎となるセッション) が INSERVICE であることを示すことに注意してください。
- システムの基礎セッションの状況は、必ずシステムそのものの状況と同じです。

ISC システムの場合は、以下が発生します。

- LU6.1 システム (すなわち、sysid へのリンクがシステム間連絡によるもの): すべての基礎セッションがサービス中になります。
- APPC システム: SNASVCMG セッションがサービス中になり、それ以後に接続が確立されるようになります。

KILL

タスクを終了します。システムおよびデータの保全会性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、最初にパージまたは強制パージを試行した後でのみ使用してください。KILL オプションはどのような種類の保全会性も保証しませんが、特定の状況においては停止した領域を解放して、領域が処理を継続できるようにします。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

NORECOVDATA (APPC のみ)

通常の再同期プロセスが指定変更されることを指定します。NORECOVDATA は、すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制し、接続が未解決であったすべての再同期を対象として、パートナー・システムから以前に受け取ったログ名を消去します。接続の状態はリセットされます。

注: SET CONNECTION NORECOVDATA は例外的な状況でのみ使用してください。これはリカバリー情報を消去し、リモート・システム上のリソースを更新した作業単位のデータ保全性を損なう場合があります。

これを使用する必要がある状況の例としては、次の場合があります。

- 接続を破棄するかまたは SET CONNECTION ENDAFFINITY コマンドを発行する必要があり、パートナー・システムとの静止プロトコルを完了させることができない。(リカバリー・データが未解決の場合、APPC 接続にはどちらのアクションも不可能です。)
- 操作エラーまたは論理エラーにより接続のログ名のミスマッチになる。接続状態をリセットして、交換ログ名プロセスを完了できるようにする必要があります。

注: NORECOVDATA を指定する場合、COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、RESYNC、または NOTPENDING を指定することはできません。

NOTPENDING (APPC および CICS MRO のみ)

以下のいずれかの種類の接続の場合に、通常の再同期プロセスが指定変更されることを指定します。

- 初期始動を実行した、CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 パートナーへの接続
- コールド・スタートを実行した、CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 より前のパートナーへの接続

NOTPENDING は、パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) 前に接続によって作成された、すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制します。さらに、パートナーの初期始動 (またはコールド・スタート) 前に作成された、接続が未解決の再同期 (FORGET 待機 UOW リンク) には FORGET が実行されます。

PENDING 条件は、パートナーとのログ名にミスマッチがあった接続に関するリカバリー情報 (パートナーについて記憶されている中断された UOW または決定) が存在することを示します。CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 パートナーの場合、ログ名のミスマッチはパートナーが初期始動を実行したことを示します。CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 より前のパートナーの場合、ログ名のミスマッチはパートナーがコールド・スタートを実行したことを示します。どちらの場合も、リカバリー・プロトコルはパートナー側でのログ・データの消失により破壊されています。

このシステムがパートナーと接続して、それから新しいログ名を受け取るまでは、接続を NOTPENDING 状態 (未確定を強制して NOFORGET UOW を消去する) に設定することはできません。

接続全体の決定は FORGET 可能ですが、そのことは UOW に関係する他の接続の決定の記憶には影響しません。

注:

1. NOTPENDING を指定する場合、COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、RESYNC、または NORECOVDATA を指定することはできません。使用するオプションについての情報は、[CEMT SET CONNECTION - RESync](#) についての注を参照してください。
2. NOTPENDING は、CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 より前のシステムへの MRO 接続には有効ではありません。ただし、CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 より前の MRO パートナーをコールド・スタートすると、SET CONNECTION NOTPENDING 機能がセッションごとに自動的に実行されることになります。

交換ログ名機能と再同期機能については、[複数領域操作のリンクの定義](#)で説明されています。

OUTSERVICE

システムをサービス休止に、つまり使用不可にします。

MRO 接続では、すべてのセッションはサービス休止にされ (PURGE が指定された場合は即時に、指定されない場合はタスクの終了時に)、次のことが発生します。

- 接続が現在 ACQUIRED である場合、セッションは中断 (静止) しています。接続は再度 INSERVICE になるまで使用できません。
- 接続が現在 RELEASED である場合、接続の状況は OUTSERVICE に設定され、再度 INSERVICE になるまで使用できません。
- 接続の基礎セッションの状況は、必ず接続そのものの状況と同じです。

ISC システムの場合は、以下が発生します。

- LU6.1 システム - システムが所有する基礎セッションがすべて解放され、サービス休止になります (PURGE または FORCEPURGE が指定された場合は即時に、PURGE または FORCEPURGE のいずれも指定されていない場合はタスクの終了時に)。

INQUIRE CONNECTION コマンドへの応答で OUTSERVICE と表示されたとしても、接続が明示的に SET OUTSERVICE と設定されたことを意味するわけではありません。状況によっては、このような接続を再インストールできない場合もあります。

- APPC システム - このオプションは、システムが解放された場合にのみ有効になります。ISC システムによって所有されるすべてのセッションがサービス休止になり、解放されます。

PURGE (z/OS Communications Server のみ、および IRC のみ)

接続されたシステムで実行中のトランザクションをすべて異常終了させます。トランザクションはシステムおよびデータ保全性を維持できる場合にのみ終了します。トランザクションの定義で SPURGE=NO が指定されている場合、トランザクションはページされません。

RELEASED (APPC のみ)

CICS が、CONNECTION 名で表された論理装置とのセッションを解放するかどうかを指定します。接続エレメントの可用性の状況に関する詳細情報を入手するには、CEMT INQUIRE MODENAME コマンドを使用してください。

RESYNC (CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 以降のシステムへの MRO、および APPC のみ) (APPC 並列セッション、CICS 間 MRO、および LU6.1 のみ)

この接続障害のために中断した UOW はすべて再試行されます (つまり、この接続に関する交換ログ名の再同期が試行されます)。接続が獲得されたかまたは UOW が再開されたときに、通常、このプロセスは自動的に開始されます。通常の再同期プロセスの一部がオーバーライドされ、接続障害のために未確定の作業単位に関する決定が行われますが、決定の記録とデータの不整合の報告は、次に接続が獲得される際に行われます。

注:

1. COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、および RESYNC の操作は、UOW の状態設定と同期されます。つまり、SET CONNECTION BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC の後に INQUIRE UOW を実行すると、新しい UOW の状態が戻されます。
2. これらのいずれかのオプションを指定すると、接続障害のために失敗したすべての作業単位が再開されます。SET CONNECTION FORCEUOW を実行する前に、SET UOW コマンドを使用して、未確定の各作業単位についてデフォルトのままにせず、コミットまたはバックアウトを明示的に指定しても構いません。ローカル・プロシージャが、データの重要度と、INQUIRE UOW、INQUIRE UOWENQ、および INQUIRE UOWLINK の各コマンドを使用して正しいアクションを確立するメソッドとを判別します。
3. BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、RESYNC、NOTPENDING、および NORECOVDATA のオプションは、いずれか 1 つのみを指定できます。SET CONNECTION NORECOVDATA は例外状況のみで使用する必要があります。
4. 接続の障害により未確定になった作業単位を強制的に同じ方向で処理するには、SET CONNECTION COMMIT または SET CONNECTION BACKOUT を使用してください。
5. SET CONNECTION および SET UOW の BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC のオプションは、再同期情報をクリアしません。クリアするには、SET CONNECTION NOTPENDING または SET CONNECTION NORECOVDATA を使用しなければなりません。
6. BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC の各コマンドは、SET CONNECTION NOTPENDING または SET CONNECTION NORECOVDATA を実行する前に実行できます。

CEMT SET DB2CONN

プールとコマンド・スレッドの属性を含む、CICS Db2 接続の属性を設定します。

CICS Explorer では、「DB2 接続」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

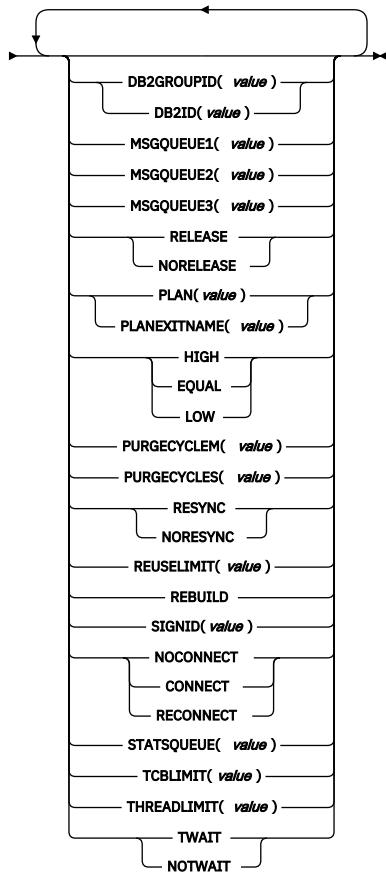
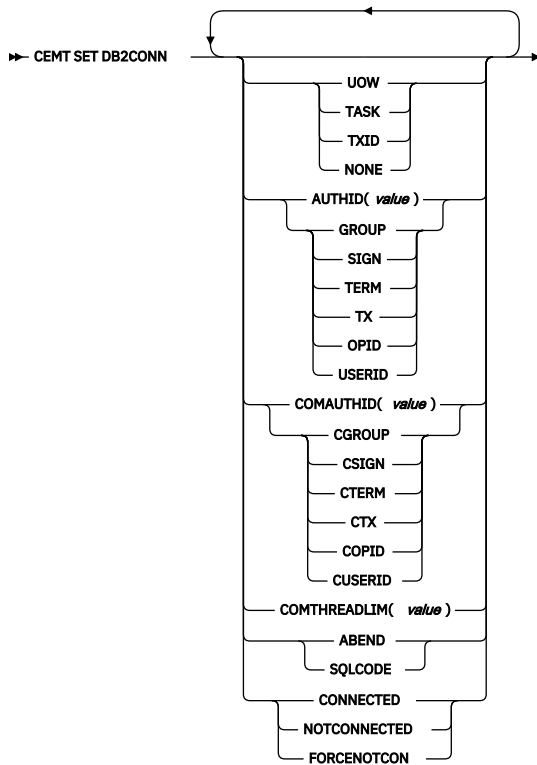
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET DB2CONN (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。現在の状況が表示されます。この表示は、**CEMT INQUIRE DB2CONN** コマンドを使用して得られる結果と同様です。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DB2CONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET DB2CONN



オプション

ACCOUNTREC

プール・スレッドを要求するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を指定します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。

UOW

CICS Db2 接続機能により、各作業単位 (UOW) のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドが UOW の終わりに解放されることを前提として)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して最小 1 つのアカウンティング・レコードが作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW に異なるスレッドを使用できます (スレッドが同期点で解放されることを前提として)。結果として、各 UOW に対して作成されたアカウンティング・レコードになります。

TXID

CICS Db2 接続機能により、スレッドを使用するトランザクション ID が変更されるときに、アカウンティング・レコードが作成されます。

プール・スレッドは通常、複数の異なるトランザクション ID によって使用されるため、複数の UOW を含むトランザクションが各 UOW に異なるスレッドを使用する可能性があります (このスレッドが同期点で解放されることを前提として)。この場合、UOW ごとにアカウンティング・レコードが生成されることがあります。

NONE

プール・スレッドを使用するトランザクションに必要なアカウンティング・レコードはありません。

ただし Db2 は、スレッドが終了するときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウンティング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウンティング・レコードが作成されます。

AUTHID

プール・スレッドのセキュリティ検査にどの ID を使用する必要があるかを指定します。AUTHID を指定した場合、AUTHTYPE はクリアされます。

AUTHTYPE

プール・スレッドに使用する ID のタイプを指定します。AUTHTYPE を指定した場合、AUTHID はクリアされます。

GROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

GROUP オプションを使用するには、CICS システムの CICS システム初期設定テーブル (SIT) に SEC=YES が指定されている必要があります。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN

リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

TERM

許可 ID として端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) は使用できません。

TX

許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

OPID

ユーザー ID (CICS トランザクションに関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

COMAUTHID

コマンド・スレッドを使用するときに、セキュリティチェックに使用される ID を指定します。

COMAUTHID を指定した場合、COMAUTHTYPE はクリアされます。

COMAUTHTYPE

コマンド・スレッドを使用する際に、セキュリティチェックで使用する ID のタイプを指定します。

COMAUTHTYPE を指定した場合、COMAUTHID はクリアされます。

CGROUP

8 文字のユーザー ID および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

CGROUP オプションを使用するには、CICS システムの CICS システム初期設定テーブル (SIT) に SEC=YES が指定されている必要があります。

このユーザー ID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

CSIGN

リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

CTERM

許可 ID として端末 ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用するトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、COMAUTHTYPE(TERM) を使用できません。

CTX

許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

COPID

ユーザー ID (CICS トランザクション・サインオン機能に関連付けられている) に関連付けられたオペレーター ID が、許可 ID (8 文字に当てる 3 文字) として使用されます。

CUSERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字のユーザー ID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、COMAUTHTYPE(CUSERID) と COMAUTHTYPE(CGROU) の間に違いはありません。

COMTHREADLIM

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される現在のコマンド・スレッドの最大数を指定します。この数を超えると、要求はプールにオーバーフローします。

CONNECTERROR

アダプターが待機モードのために CICS が Db2 に接続されていない場合に、値を返します。この値は、SQL 要求を発行したアプリケーションにこの情報がどのように返されるかを示しています。

ABEND

アプリケーションは、異常終了コード AEY9 で停止します。

SQLCODE

アプリケーションは、-923 SQLCODE を受け取ります。

CONNECTST

CICS Db2 接続の状況を設定します。つまり、CICS Db2 接続を開始または停止します。

CONNECTED

これは、DSNC STRT を発行して CICS Db2 接続を開始することと同じです。要求された Db2 サブシステムがアクティブである場合、CICS および Db2 が接続されたときに制御が戻されます。要求された Db2 サブシステムがアクティブではない場合、STANDBYMODE の設定に応じて応答が戻されます。Db2 が初期化されておらず、DB2CONN で STANDBYMODE(NOCONNECT) が指定されている場合は、INVREQ および RESP2=39 が返されます。STANDBYMODE(CONNECT) または STANDBYMODE(RECONNECT) を指定した場合は、NORMAL とともに RESP2=38 が返されます。これは、CICS Db2 接続が待機モードであり、アクティブになると直ちに Db2 に接続することを示しています。

NOTCONNECTED

CEMT は、CICS Db2 接続の静止終了を開始し、暗黙的に NOWAIT オプションを使用します。これにより、静止が完了する前に制御が直ちに CEMT に戻ります。

FORCENOTCON

FORCENOTCON は、現在 Db2 を使用しているトランザクションを強制的にパージすることによって、接続を強制的に停止します。接続が停止するまで、制御を戻しません。

DB2GROUPID

Db2 サブシステムのデータ共用グループの名前 (最大 4 文字) を指定します。CICS は、グループ接続を使用して、このグループの任意のアクティブ・メンバーへの接続を試行します。DB2 バージョン 10 では、この名前が、データ共用グループのサブセットを識別するサブグループ名になることがあります。

CICS が Db2 システムに接続されていないときにのみ、DB2GROUPID を変更できます。DB2GROUPID を指定すると、インストールされた DB2CONN 定義の DB2ID はブランクになります。個別のサブシステムの DB2ID が CEMT または **EXEC CICS SET DB2CONN** コマンド、または DSNC STRT コマンドで指定されている場合、インストールされている DB2CONN 定義で設定された DB2GROUPID が指定変更されます。DB2GROUPID がブランクになるので、グループ接続を使用するには、再び設定する (CEDA または SET DB2CONN コマンドを使用) 必要があります。DB2GROUPID と DB2ID を同じコマンドに設定できない点に注意してください。コマンドが失敗する原因になります。

DB2ID

CICS Db2 の接続の接続先となる Db2 サブシステムの名前を指定します。CICS が Db2 システムに接続されていないときにのみ、DB2ID を変更できます。DB2ID を指定すると、インストールされた

DB2CONN 定義の DB2GROUPID はブランクになります。グループ接続を使用するには、DB2GROUPID を再び設定する必要があります。DB2GROUPID が CEMT または **EXEC CICS SET DB2CONN** コマンドで指定されている場合、インストールされている DB2CONN 定義で設定された DB2ID が指定変更され、DB2ID がブランクになります。DB2ID と DB2GROUPID を同じコマンドに設定できない点に注意してください。コマンドが失敗する原因になります。

MSGQUEUE1

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージの送信先となる、最初の一時データ宛先を指定します。

MSGQUEUE2

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージの送信先となる、2 番目の一時データ宛先を指定します。

MSGQUEUE3

CICS Db2 接続からの非送信請求メッセージの送信先となる、3 番目の一時データ宛先を指定します。

NONTERMREL

非端末トランザクションが中間の同期点でスレッドを再利用のために解放するかどうかを指定します。

RELEASE

非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放します。

NORELEASE

非端末トランザクションは、中間の同期点でスレッドを再利用のために解放しません。

PLAN

プール内のすべてのスレッドに使用する計画の名前を指定します。PLAN を指定した場合、PLANEXITNAME はクリアされます。

PLANEXITNAME

プール・スレッドに使用する動的計画出口の名前を指定します。プールのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANExitname を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用する計画または出口を決定します。PLANExitname を指定した場合、PLAN はクリアされます。

PRIORITY

CICS メイン TCB (QR TCB) に対するプール・スレッド TCB の相対的な優先度を指定します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。

HIGH

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PURGECYCLEM

保護スレッド・パージ周期の時間 (00 から 59 の範囲の分数) を指定します。このパラメーターと PURGECYCLES を一緒に使用してください。

PURGECYCLES

保護スレッド・パージ周期の時間 (00 から 59 の範囲の秒数) を指定します。このパラメーターと PURGECYCLEM を一緒に使用してください。保護スレッド・パージ周期の最小時間は 5 秒、デフォルト値は 30 秒です。

保護スレッドは、解放されたときにすぐに終了しません。その間に再利用されなければ、パージ周期 2 回分の時間が経過した後に終了します。例えば、保護スレッド・パージ周期を 30 秒に設定すると、保護スレッドは、解放後 30 秒から 60 秒の間にパージされます。その DB2ENTRY でスレッドを待機している他のトランザクションがない場合、無保護スレッドは (同期点またはタスクの最後で) 解放されるときに終了します。

RESYNCMEMBER

このオプションは、グループ接続を使用している場合にのみ適用され、CICS が最後に接続された Db2 データ共用グループ・メンバーに対して未解決の作業単位が保持されている場合に、CICS が採用する方針を指定します。(未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解

決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。)

RESYNC

CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーに接続して、未解決の作業単位を再同期します。

NORESYNC

CICS は同じ Db2 データ共用グループ・メンバーへの接続を 1 回試行します。その試行が失敗した場合、CICS は Db2 データ共用グループのいずれかのメンバーに接続して、未解決の作業単位に関する警告を発行します。

REUSELIMIT

スレッドが強制終了される前に再利用できる最大回数を示す値を 0 から 10000 の範囲で指定します。デフォルトは、1000 です。0 の値は、スレッドが再利用される回数に制限がないことを意味します。

再利用の制限は、プールと DB2ENTRY の両方の無保護スレッド、および DB2ENTRY の保護スレッドに適用されます。

SECURITY

セキュリティを指定します。

REBUILD

CICS Db2 接続が、スレッドの次の再使用時に既存のスレッドすべてを強制的に再びサインオンすることを指定します。以下のコマンドを発行して RACF プロファイルが更新されたときに使用する必要があります。

- RACF 1.9.2 以前の場合は CEMT PERFORM SECURITY REBUILD
- RACF 2.1 以降の場合は TSO SETROP TS RACLIST(xxxxxxxx) REFRESH

SIGNID

AUTHTYPE(SIGN) を指定するプール・スレッドと DB2ENTRY スレッド、および COMAUTHTYPE(CSIGN) を指定するコマンド・スレッドのために Db2 にサインオンする際、CICS Db2 接続が使用する許可 ID を指定します。

STANDBYMODE

CICS から Db2 への接続の開始を試行するときに Db2 がアクティブではない場合、CICS Db2 接続が実行するアクションを指定します。

NOCONNECT

CICS Db2 接続は終了します。

CONNECT

CICS Db2 接続は、Db2 を待機するため待機モードに入ります。

RECONNECT

CICS Db2 接続は、待機モードに入り、Db2 を待機します。Db2 に接続した後に Db2 に障害が発生した場合、CICS Db2 接続は再び待機モードに戻り、後で Db2 が再び始動するときに再接続します。

STATSQUEUE

CICS Db2 接続がシャットダウンされるときに作成される CICS Db2 接続統計の一時データ宛先を指定します。

TCBLIMIT

Db2 要求の処理に使用できる TCB の最大数を指定します。DB2 バージョン 5 以前のバージョンに接続した場合、CICS Db2 接続機能は TCBLIMIT で指定された限度数までのサブタスクの形式で TCB を作成します。これらのサブタスクはそれぞれ Db2 に識別され、Db2 への接続を作成します。DB2 バージョン 6 以降に接続されている場合、CICS は、オープン TCB を使用して Db2 要求を処理します。DB2CONN 定義の TCBLIMIT 属性は、Db2 にアクセスするために使用できるオープン TCB の数、つまり、TCB が Db2 に識別され、Db2 への接続を作成できる数を規定します。

THREADLIMIT

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される現在のプール・スレッドの最大数を指定します。この数を超えると、THREADWait パラメーターに従って、要求は待機状態になるか拒否されます。

THREADWAIT

アクティブ・プール・スレッド数が THREADlimit の数値に達した場合に、トランザクションがプール・スレッドを待機するか、それとも異常終了するのかを指定します。

CICS Db2 接続は、THREADWAIT=NO がコーディングされ、プール・スレッド数が超過したときに、固有の異常終了コード AD3T、メッセージ DFHDB2011 を発行します。

TWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機している必要があります。トランザクションは CICS が待機を許可している限り待機できます。通常は、スレッドが使用可能になるまで待機します。

NOTWAIT

すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは異常終了コード AD3T または AD2P で終了します。

AUTHId、AUTHType、COMAUTHId、COMAUTHType、または SIgnid の値を変更する場合、セキュリティがアクティブになっていれば、代理ユーザー・セキュリティ検査が呼び出されることに注意してください。これにより、タスクに関連付けられているユーザー ID が、設定されているユーザー ID の代理になることが許可されるようになります。

SET DB2CONN NOTCONNECTED コマンドを発行して CICS-Db2 接続を停止すると、CEX2 の内部 CICS Db2 トランザクションもシャットダウンされ、セキュリティがアクティブであれば、開始されたトランザクションのリソース・セキュリティ検査が呼び出されます。これにより、タスクに関連付けられたユーザー ID に CEX2 トランザクションを操作する権限が付与されます。これはトランザクションのタイマーを取り消すことによって行われ、これによってシャットダウンが発生します。

SET DB2CONN コマンドを指定する際には、CICS Db2 接続がアクティブであれば、DB2ID (接続されるサブシステム) 以外のすべてのパラメーターを設定できることに注意してください。DB2ID は、接続を停止して再始動することによってのみ変更できます。

エントリーまたはプールのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANEXITNAME を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用して計画または出口が決定されます。

CEMT SET DB2ENTRY

Db2 にアクセスする際に特定のトランザクションまたはトランザクション・グループのリソースを定義するために使用する特定の DB2ENTRY リソースの属性を設定します。

CICS Explorer では、「[DB2 エントリー](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

このエントリーは、CEDA で識別された名前でも識別されます。

CICS Db2 接続がアクティブであり、トランザクションがアクティブである間は、**SET DB2ENTRY** コマンドのすべてのパラメーターを設定できます。

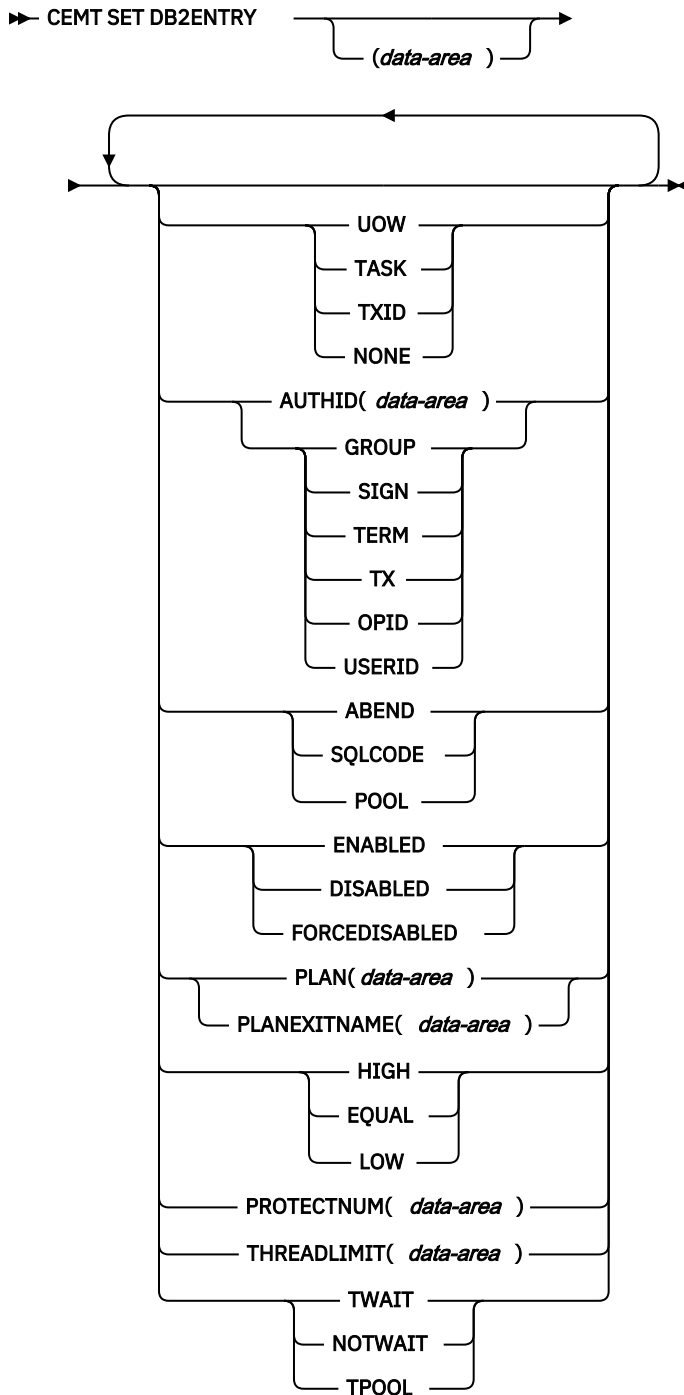
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET DB2ENTRY (またはこれらのキーワードの正しい省略形) と入力し、続いて Db2 エントリー名に対応する値、または ALL を入力します。結果として、現在の状況がリスト表示されます。この表示は、**CEMT INQUIRE DB2ENTRY** コマンドを使用して得られる結果と同様です。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DB2ENTRY (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、Db2 エントリー名に対応する値を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s db2e all ena` はすべての DB2ENTRY リソースを使用可能にします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET DB2ENTRY



オプション

ACCOUNTREC

この DB2ENTRY リソースを使用するトランザクションに必要な Db2 アカウンティングの最小量を指定します。以下のオプションで説明されているように、指定した最小値を超える可能性があります。

UOW

CICS Db2 接続機能により、各作業単位 (UOW) のアカウンティング・レコードが作成されます (このスレッドが UOW の終わりに解放されることを前提として)。

TASK

CICS Db2 接続機能により、各 CICS タスクに対して 1 つのアカウントिंग・レコードの最小値が作成されます。

複数の UOW が含まれるトランザクションでは、各 UOW に異なるスレッドを使用できます (スレッドが同期点で解放されることを前提として)。結果として、各 UOW に対して作成されたアカウントング・レコードになります。

TXID

CICS Db2 接続機能は、スレッドを使用する transid が変更されるときに、少なくとも 1 つのアカウントング・レコードを作成します。

このオプションは、複数のトランザクション ID によって使用される DB2ENTRY リソースに適用されます。スレッドは通常、同期点で解放されるため、複数の UOW が含まれているトランザクションは、UOW ごとに異なるスレッドを使用できます。その結果、UOW ごとに会計レコードを生成できます。

NONE

この DB2ENTRY リソースからのスレッドを使用するトランザクションに必要なアカウントング・レコードはありません。

ただし Db2 は、スレッドが終了するときに、各スレッドに対して少なくとも 1 つのアカウントング・レコードを作成します。さらに、権限を変更してもアカウントング・レコードが作成されます。

AUTHID

この DB2ENTRY リソースを使用する際のセキュリティ検査に使用する ID を指定します。AUTHID を指定した場合、AUTHTYPE はクリアされます。

AUTHTYPE

この DB2ENTRY リソースの使用時にセキュリティ検査に使用できる ID のタイプを返します。AUTHTYPE を指定した場合、AUTHID はクリアされます。

GROUP

8 文字の USERID および接続されたグループ名を許可 ID として指定します。以下の表に、これらの 2 つの値が Db2 でどのように解釈されるかを示します。

Db2 へ渡される ID	Db2 が値を解釈する方法
CICS サインオン・ユーザー ID (USERID)	1 次 Db2 許可 ID を表します。
RACF 接続グループ名	グループ・オプションの RACF リストがアクティブではない場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を 2 次 Db2 許可 ID として使用します。グループ・オプションの RACF リストがアクティブな場合、Db2 は CICS 接続機能が提供する接続されたグループ名を無視しますが、2 次 Db2 許可 ID の Db2 リストには値が表示されます。

GROUP オプションを使用するには、CICS システムの CICS システム初期設定テーブル (SIT) に、RACF 外部セキュリティの SEC=YES が指定されている必要があります。

この USERID に対して使用できる RACF グループ ID がない場合、ブランクの 8 文字フィールドがグループ ID として Db2 に渡されます。

SIGN

リソース許可 ID として使用する必要のある DB2CONN の SIGNID パラメーターを指定します。

TERM

端末 ID (4 文字に埋め込みが行われ 8 文字になります) を許可 ID として指定します。端末がトランザクションに接続されていない場合、この方法で許可 ID を取得することはできません。

CICS コマンドを使用してトランザクションを開始しても、それに関連付けられた端末がない場合、AUTHTYPE(TERM) は使用できません。

TX

許可 ID としてトランザクション ID (8 文字に当てられる 4 文字) を指定します。

OPID

CICS トランザクションに関連付けられているオペレーター ID が、許可 ID (3 文字に埋め込みが行われて 8 文字になります) として使用されます。

USERID

CICS トランザクションに関連付けられた 8 文字の USERID が、許可 ID として使用されます。

AUTHTYPE(USERID) を指定して Db2 サンプル・サインオン出口 DSN3@SGN を使用すると、この出口はユーザー ID を 1 次許可 ID として、RACF グループ ID を 2 次許可 ID として、それぞれ Db2 に送ります。サンプル・サインオン出口が使用されている場合、AUTHTYPE(USERID) と AUTHTYPE(GROUP) の間に違いはありません。

DISABLEDACT

DB2ENTRY リソースが使用不可になったとき、または使用不可にされるとときに、DB2ENTRY リソースにアクセスする新規トランザクションのアクションを指定します。

POOL

CICS Db2 接続機能は、要求をプールに経路指定します。プールへの経路を指定された各トランザクションの DB2CONN 上の MSGQUEUE によって指定された一時データ宛先に、メッセージ DFHDB2072 が送信されます。

ABEND

CICS Db2 接続機能は、トランザクションを異常終了します。異常終了コードは AD26 です。

SQLCODE

DB2ENTRY リソースが使用不可であることを示す SQLCODE がアプリケーションに返されます。

ENABLEDSTATUS

DB2ENTRY リソースがアプリケーションからアクセス可能かどうかを指定します。

ENABLED

アプリケーションは DB2ENTRY リソースにアクセスできます。

DISABLED

アプリケーションは DB2ENTRY リソースにアクセスできません。DB2ENTRY リソースを再インストールまたは破棄するには、まずリソースを使用不可にする必要があります。

FORCEDISABLED

DB2ENTRY リソースを使用するすべてのタスクと、DB2ENTRY リソースに対するキューに入れられているタスクが、強制的にページされます。その後、DB2ENTRY リソースは使用不可になります。

PLAN

この DB2ENTRY リソースに使用される計画の名前を指定します。

PLAN を指定した場合、PLANEXITNAME はクリアされます。

PLANEXITNAME

この DB2ENTRY リソースに使用される動的計画出口の名前を指定します。DB2ENTRY リソースのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANEEXITNAME を変更する場合、次回トランザクションがスレッドを解放するときに、新しい規則を使用する計画または出口を決定します。

PLANEXITNAME を指定した場合、PLAN はクリアされます。

PRIORITY

CICS メイン TCB (QR TCB) に対する、この DB2ENTRY リソースのスレッド TCB の相対的な優先度を指定します。スレッド TCB は、CICS オープン L8 TCB です。

HIGH

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも高くなります。

EQUAL

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB と等しくなります。

LOW

スレッド TCB の優先度が、CICS QR TCB よりも低くなります。

PROTECTNUM

この DB2ENTRY リソースの保護スレッドの最大数を指定します。

THREADLIMIT

アクティブであることが CICS Db2 接続によって許可される、この DB2ENTRY リソースのスレッドの最大数を指定します。この数を超えると、要求は待機状態になるか、拒否されるか、プールに経路指定されます。

THREADWAIT

アクティブな DB2ENTRY スレッドの数が THREADLIMIT 数に達した場合に、トランザクションが DB2ENTRY スレッドを待つか、異常終了するか、プールにオーバーフローするかを指定します。

TWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。

NOTWAIT

すべてのスレッドが使用されている場合、トランザクションは異常終了コード AD2P により終了します。

TPOOL

すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションの送信先が変更され、スレッドのプールを使用します。プールも使用中で、DB2CONN の THREADWAIT パラメーターに NOTWAIT が指定されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T を出して異常終了します。

CICS Db2 接続がアクティブであり、トランザクションがアクティブである間は、**SET DB2ENTRY** のすべてのパラメーターを設定できます。

CEMT SET DB2TRAN

DB2ENTRY リソースに関連付けられた、特定の DB2TRAN リソースの属性を設定します。

CICS Explorer では、「[DB2 トランザクション](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

DB2ENTRY のインストール時に DB2ENTRY リソースに対してトランザクション ID が指定されている場合、CICS は DFHxxxx という名前の DB2TRAN リソースをインストールします (ここで、xxxx はトランザクション ID)。

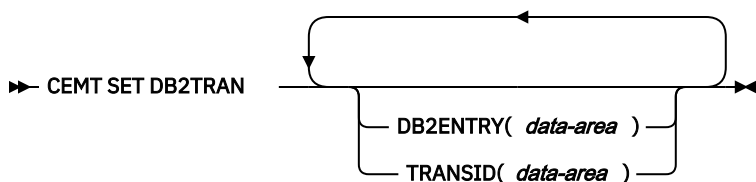
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET DB2TRAN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) と入力し、続いて Db2 トランザクション名に対応する値、または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE DB2TRAN** で得られる結果と同様に、現在の状況がリストで表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET DB2TRAN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、Db2 トランザクション名に対応する値を入力するか ALL を入力し、さらにその後、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s db2t all db2e(entry1)` は、entry1 という名前の DB2ENTRY リソースを参照するすべての DB2TRAN リソースを設定します。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

構文

CEMT SET DB2TRAN



オプション

DB2ENTRY

この DB2TRAN が参照する DB2ENTRY の名前を指定します (つまり、この追加のトランザクション ID を関連付ける DB2ENTRY)。

TRANSID

エントリーに関連付けるトランザクション ID を指定します。トランザクション ID には、ワイルドカード文字を含めることができます。ワイルドカード文字の使用については、[トランザクション ID のワイルドカード文字](#)を参照してください。接続がアクティブである間に DB2TRAN リソースの TRANSID を変更した場合、スレッドを使用するすべてのトランザクションは、再使用のために解放されるまで、そのエントリーからのスレッドを引き続き使用します。そのトランザクションが次の SQL ステートメントを発行すると、新しい定義に基づいて、エントリーまたはプールからスレッドが獲得されます。

DB2TRAN パラメーターはいつでも設定できます。

CEMT SET DELETSHIPED

CICS タイムアウト削除メカニズムを制御するシステム設定を変更します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

構文

CICS タイムアウト削除メカニズムは、ユーザー指定の間隔で呼び出され、シップされた端末定義のうち、ユーザー指定の期間を超えて未使用状態にあったものを除去します。

SET DELETSHIPED コマンドを使用して、メカニズムを制御する値を変更できます。

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMENT SET DELETSHIPED (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。CEMT INQUIRE DELETSHIPED コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMENT SET DELETSHIPED (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性を 1 つ以上入力します。例えば、cemt s de idl(0150000) と入力すると、シップされた端末定義が非アクティブになってから最低 15 時間は、その定義をインストールしたままにするよう指定します。

CEMT SET DELETSHIPED



オプション

IDLE(value)

シップされた非アクティブの端末定義がこの領域にインストールされた状態で維持する必要がある最小時間を、0hhmmss+ の形式で指定します。CICS タイムアウト削除メカニズムが呼び出されるときに、この時間より長く非アクティブであるシップされた定義だけが削除されます。

時間間隔は 00 から 99 時間、00 から 59 分、および 00 から 59 秒です。

CICS の始動時に、DSHIPIDL システム 初期設定パラメーターで指定された値に、間隔が設定されます。

INTERVAL(value)

CICS タイムアウト削除メカニズムの各呼び出しの間隔を、0hhmmss+ という形式で指定します。タイムアウト削除メカニズムは、シップされた端末定義のうち、IDLE オプションで 指定された時間よりも長期間未使用状態にあったものを削除します。

時間間隔は 00 から 99 時間、00 から 59 分、および 00 から 59 秒です。0 を指定した場合、タイムアウト削除メカニズムは呼び出されません。

CICS の始動時に、DSHIPINT システム 初期設定パラメーターで指定された値に、間隔が設定されます。間隔をリセットすると、一括削除操作を行う時刻を変更できます。

注：この変更された間隔の開始点は、コマンドが発行された時点です。タイムアウト削除メカニズムが最後に呼び出されたときでも、CICS 始動時でもありません。

CEMT SET DISPATCHER

CICS ディスパッチャーによって使用されるシステム値を変更します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

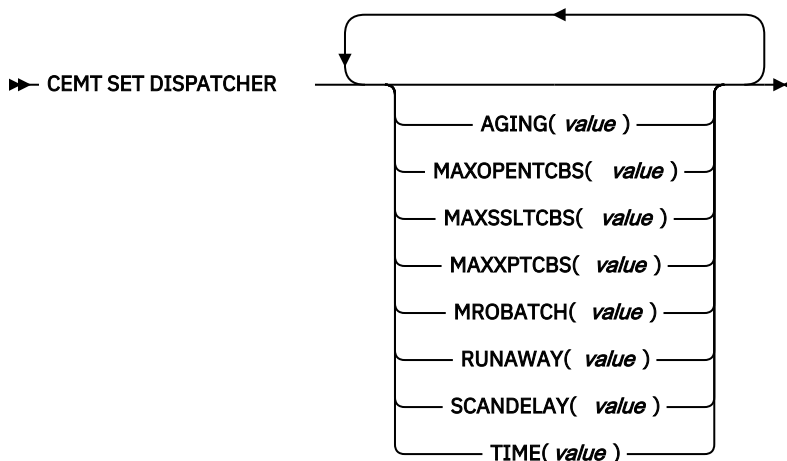
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET DISPATCHER (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE DISPATCHER** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DISPATCHER (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて変更する 1 つ以上の属性を入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。

CEMT SET DISPATCHER



オプション

AGING(value)

タスクの優先度を上げるために優先順位繰り上げアルゴリズムで使用する CICS の時間係数を指定します。この値は"優先順位繰り上げ単位当たりのミリ秒数"で表され、その範囲は 00000 から 65535 でなければなりません。優先順位繰り上げ要因は、PRTYAGE システム 初期設定パラメーターによって初期

定義されています。このパラメーターの値のミリ秒数が経過すると、待機中のタスクの優先順位が 1 単位ずつ上がるよう調整されます。

MAXOPENTCBS(value)

CICS 領域内に同時に存在できる L8 および L9 モードのオープン TCB の最大数を指定します。指定値の範囲は 32 から 4032 までです。MAXOPENTCBS を以前に定義されていた値より減らし、その新規値が現在許可されているオープン TCB の数よりも少ない場合、CICS は TCB を切り離し、これらの TCB がユーザー・タスクにより解放されたときにのみその新規限度に達するようにします。TCB を切り離して新しい限度を設けるために、トランザクションが異常終了することはありません。L8 または L9 モードの TCB を待機してキューに入れられているタスクがあり、MAXOPENTCBS を以前に定義されていた値から増やした場合、CICS は新規 TCB を付加し、キューに入れられた各タスクを再開して新規限度の数になるようにします。

重要: デフォルトでは、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して MAXOPENTCBS に自動的に値を割り当てます。MAXOPENTCBS に値を明示的に割り当てる前に、最大タスク仕様 (MXT) の設定の情報を確認してください。

MAXSSLTCBS(value)

CICS 領域中に同時に存在できる S8 モードのオープン TCB の最大数を指定します。指定値の範囲は 1 から 1024 までです。

MAXXPTCBS(value)

CICS 領域内に同時に存在できる X8 および X9 モードのオープン TCB の最大数を指定します。指定値の範囲は 1 から 2000 までです。MAXXPTCBS を以前に定義されていた値より減らし、その新規値が現在許可されているオープン TCB の数よりも少ない場合、CICS は TCB を切り離し、これらの TCB がユーザー・タスクにより解放されたときにのみその新規限度に達するようにします。TCB を切り離して新しい限度を設けるために、トランザクションが異常終了することはありません。X8 または X9 モードの TCB を待機するキューに入れられたタスクがある場合に、MAXXPTCBS を以前の定義値より大きくすると、CICS は新しい TCB に接続し、新しい限度まで、キューに入れられた各タスクを再開します。

重要: デフォルトでは、CICS は MAXTASKS パラメーターを使用して MAXXPTCBS に自動的に値を割り当てます。MAXXPTCBS に値を明示的に割り当てる前に、最大タスク仕様 (MXT) の設定の情報を確認してください。

MROBATCH (value)

この領域が通知される前にバッチ処理される接続済みの領域からの MRO 要求の数を指定します。この値は 001 から 255 までの範囲です。

RUNAWAY (value)

タスクがループしていると想定されるまでに制御を保持できる間隔 (ミリ秒) を指定します。

0 または 250 から 2700000 までの範囲の値を指定できます。選択した値は、250 の倍数で切り捨てられます。CICS は、この間隔の後に制御から解放されない場合 (つまり、タスクがループしているように思われる場合) にタスクをページします。ゼロを指定すると、ランナウェイ・タスク制御は作動不能になります (つまり、タスクがループしているように見えても、そのタスクは消去されません)。この値は TIME オペランドの値には依存せず、それより小さくてもかまいません。

CICS ランナウェイ・タスク検出はタスク時間に基づいているので、タスクがプロセッサの制御権を持つ場合のみ間隔が小さくなります。したがって、値の設定時に他のジョブの影響を考慮に入れる必要はありません。

SCANDELAY (value)

最初に ICVTSD システム初期設定パラメーターで設定された、CICS 領域の端末スキャン遅延時間の値を指定します。デフォルト値はゼロです。端末スキャン遅延機能は、以前のリリースでは、オーバーヘッドを分散して要求を処理するために、アプリケーションによる一部のタイプの端末出力要求を CICS が処理する速度を制限する目的で使用されていました。CICS システムが SNA 以外のネットワークを使用していたときには、ゼロ以外の値を指定することが適切な場合もありました。ただし SNA および IPIC ネットワークでは、応答時間を向上させ、仮想ストレージを最良の方法で使用するには、ICVTSD を 0 に設定するのが適切です。必要に応じて、この値は 0-5000 ミリ秒の範囲で別の値を上書き入力してリセットすることができます。

TIME (value)

処理を再開できるトランザクションがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を解放する間隔 (ミリ秒) を指定します。この間隔は、領域出口間隔と呼ばれます。

使用できる値は 100 から 3600000 までの範囲で、SCANDELAY 値以上でなければなりません。

ディスパッチャー統計の要約報告書では、TIME が ICV になっています。

CEMT SET DOCTEMPLATE

CICS 領域にインストールされた文書テンプレートのキャッシュ・コピーをリフレッシュするか、または文書テンプレートとして定義された CICS プログラムまたは出口プログラムの新規コピーを段階的に利用します。

CICS Explorer では、「[文書テンプレート](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET DOCTEMPLATE に続けて、1 つ以上の DOCTEMPLATE リソース定義名または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。
- CEMT SET DOCTEMPLATE に続けて 1 つ以上の DOCTEMPLATE リソース定義名または ALL を入力し、さらに続けて NEWCOPY を入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。

CEMT SET DOCTEMPLATE

► CEMT SET DOCTEMPLATE — NEWCOPY ◄

オプション

ALL

要求したアクションは、アクセスが許可されている、指定したタイプのすべてのリソースに実行されます。

(value)

DOCTEMPLATE リソース定義の 1 文字から 8 文字の名前を指定します。

NEWCOPY

文書テンプレートのキャッシュ・コピーが存在する場合は、削除することを指定します。文書テンプレートが CICS プログラムまたは出口プログラムにある場合、プログラムの新規コピーが段階的に利用されます。文書テンプレートにキャッシングが必要な場合、その文書テンプレートの新規コピーがキャッシュ内にロードされます。

CEMT SET DSAS

16 MB より下の動的ストレージ域 (DSA)、および 16 MB より上かつ 2 GB より下の DSA に関するシステム・ストレージ属性を変更します。

CICS Explorer では、「[グローバル動的ストレージ域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

構文

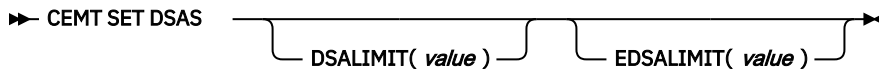
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET DSAS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。結果として、現在の状況が表示されます。この表示は、**CEMT INQUIRE DSAS** コマンドを使用して得られる結果と同様です。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DSAS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、cemt s dsa ds(value) ed(value) は、16 MB より下 (16 MB 境界よ

り下)の動的ストレージの値、および 16 MB より上かつ 2 GB より下 (16 MB 境界より上)の動的ストレージの値をリセットします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET DSAS



オプション

DSALIMIT (value)

CICS が 16 MB 境界より下にある 4 つの個々の DSA で動的に割り振ることができるストレージの最大量をバイトの総数で指定します。詳しくは、[DSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。DSALIMIT で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

EDSALIMIT (value)

ストレージの最大容量を、合計バイト数で指定します。CICS はこの範囲内で、16 MB より上、ただし 2 GB より下にある DSA のそれぞれに動的にストレージを割り振ることができます。詳しくは、[EDSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。EDSALIMIT で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

注: DSA と EDSA の制限を動的に変更することは可能ですが、緊急状況への対処中に領域の循環を避けようとしている場合を除いては、制限を変更しないことをお勧めします。DSA と EDSA の制限の変更は CICS の観点からは正常に行われたとしても、大きくなった DSA/EDSA は連続しなくなるので、制限を増やすことによって他の問題が生じる可能性があります。MVS は、高位の専用域からは低位に向かってストレージを割り振り、低位の専用域からは高位に向かって割り振ります。DSA/EDSA の制限を動的に増やすと、MVS 専用ストレージ域の中央にある新しいストレージの部分が CICS によって割り振られます。MVS がこの領域のストレージを使用している状況によっては、結果として S878 または S80A 異常終了が発生するリスクが高まる可能性があります。

同様に、DSA/EDSA の制限を動的に減らすと、MVS が使用するためのストレージが実際に戻されたとしても、ストレージが戻される場所は不確定であり、MVS が必要とする場所には存在しない可能性が高くなります。

CICS の統計を定期的に監視し、問題が起こる前に DSA/EDSA の制限と MXT の制限を調整してください。

CEMT SET DSNAME

外部データ・セットの状況を変更します。

説明

SET DSNAME コマンドを使用して、VSAM 基本データ・セットの状況を変更できます。このコマンドを使用して、データ・セットに対して以下のアクションを実行できます。

- ・ シスプレックス全体で、VSAM データ・セットに静止または非静止としてマークを付けます。
- ・ CICS 領域に対して VSAM データ・セットを使用可能または使用不可にします、また、データ・セットへの全アクセス権限を REPLICATOR プログラムのみに制限します。(可用性の機能はシスプレックス全体で作動するわけではありません。つまり、SET DSNAME (...) AVAILABILITY コマンドは、このコマンドを発行した CICS 領域内のみで有効になります。)
- ・ このデータ・セットの障害 (未確定障害を除く) のために中断しているすべての作業単位 (UOW) ログ・レコードを再試行します。
- ・ 未確定障害のために中断している、このデータ・セットを更新した UOW を強制的に完了させます。
- ・ 中断 UOW ログ・レコード (未確定障害による場合を除く) のうち、データ・セット中のレコードに関する保存ロックを保持しているものをページし、保存ロックを解除します。

- UOWACTION および ACTION(RESETLOCKS) オプションを使用して、データ・セットに関する失われた RLS ロックの回復の試行を取り消します。

SET DSNAME コマンドは、RLS モードと非 RLS モードでアクセスされるデータ・セットの区別をしません。

SET DSNAME コマンドの新規オプションには、処理の順序と、同一コマンド上のキーワードの組み合わせや複数のキーワードに関連した以下の規則が当てはまります。

- REMOVE を指定すると、他の属性は使用できません。
- オプションは以下の順序で処理されます。

1. RECOVERED
2. UNQUIESCED
3. AVAILABLE
4. RETRY
5. UOWACTION
6. RESETLOCKS
7. UNAVAILABLE
8. RREPL
9. QUIESCED

RETRY を指定する場合に、UNAVAILABLE または QUIESCED も指定すると、バックアウトの再試行が失敗するため、一緒に指定しないでください。UNQUIESCE は他の属性とともに指定しないでください。これは、他のオプションが失敗する可能性があるからです。

データ・セットの一部の属性は、そのデータ・セットを参照する最初のファイルが開かれるまでは設定できません。ファイルが開かれるまで属性が無効な場合は、エラーが返されます。QUIESCESTATE は、指定されたデータ・セットに対するファイルが開かれる前に使用できる属性です。

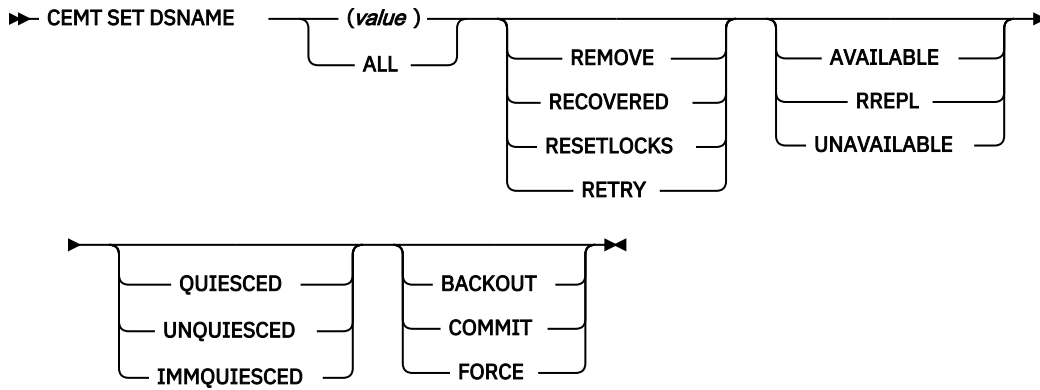
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET DSNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) と入力し、続いてデータ・セット名に対応する値、または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE DSNAME** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DSNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、データ・セット名に対応する値を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性を 1 つ以上入力します。例えば `cemt s dsn(applb.*) q` は、シスプレックス内のすべての CICS 領域にある、高位修飾子 APPLB を持つすべてのデータ・セットを静止します。

値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET DSNAME



オプション

(value)

外部データ・セットの1つ以上の名前(1から44文字)を指定します。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更が加えられます。

AVAILABLE

この CICS 領域内のデータ・セットに使用可能のマークを付けるかどうかを指定します。このコマンドは可用性の標識を設定します。この標識は、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) 中に保守するローカル・フラグです。CICS は、このデータ・セットに関する RLS オープン要求または非 RLS オープン要求のいずれかを発行できます。

BACKOUT

このデータ・セットのロックを保持する、すべての中断された未確定 UOW がバックアウトされることを指定します。

COMMIT

このデータ・セットのロックを保持する、すべての中断された未確定 UOW がコミットされることを指定します。

FORCE

このデータ・セットのロックを保持するすべての中断された未確定 UOW が、トランザクション・リソース定義の ACTION 属性による指定に従って、強制的にバックアウトまたはコミットされることを指定します。

IMMQUIESCED

シスプレックス全体で既存の CICS オープン RLS モード・ファイルがすべて閉じられ、ICF カタログではデータ・セットに静止のマークが付けられます。シスプレックス中の各 CICS は、データ・セットにアクセスしている実行中の UOW をすべて異常終了してからファイルを閉じるので、実行中の UOW はバックアウトされます。バックアウトに失敗した UOW は中断されます。このデータ・セットに対して開くことができる RLS モード・ファイルはありませんが、非 RLS モードのオープン要求は許可されます。

また、IMMQUIESCED はファイルの状態が ENABLED の場合に UNENABLED に設定します。以後の **SET DSNAME UNQUIESCED** コマンドは、QUIESCED または IMMQUIESCED アクションによってファイルの状態が UNENABLED に設定された場合はファイルの状態を ENABLED に復元しますが、別のイベントのために UNENABLED 状態になっている場合は復元しません。この状態変更は CICS グローバル・カタログ中に記録されます。

注: IMMQUIESCED オプションを使用すると、現在そのデータ・セットを使用しているタスクが、CICS タスク FORCEPURGE メカニズムを使用して即時終了します。極端な場合は、CICS が異常終了することもあります。この理由で、IMMQUIESCED オプションを使用してデータ・セットを静止として設定することは、例外的な状況だけに限定する必要があります。

QUIESCED

シスプレックス全体で RLS モードで開いている既存の CICS ファイルがすべて閉じられ、ICF カタログではデータ・セットに静止のマークが付けられます。シスプレックス中の各 CICS は、データ・セットにアクセスしている実行中の UOW がすべて同期点に達するまで待ってからファイルを閉じます。つまり、UOW は以下のいずれかの状態になります。

- 正常にコミットされる
- 正常にバックアウトされる
- 未確定の障害が起こったため、中断される
- コミットに失敗したため、中断される
- バックアウトに失敗したため、中断される

このデータ・セットに対して RLS モードでファイルを開くことはできませんが、非 RLS オープン要求は許可されます。

また、QUIESCED はファイルの状態が ENABLED の場合に UNENABLED に設定します。以後の **SET DSNAME UNQUIESCED** コマンドは、QUIESCED または IMMQUIESCED アクションによってファイルの状態が UNENABLED に設定された場合はファイルの状態を ENABLED に復元しますが、別のイベントのために UNENABLED 状態になっている場合は復元しません。この状態変更は CICS グローバル・カタログ中に記録されます。

RECOVERED

データ・セットはバックアップ・バージョンから復元されており、順方向リカバリーが正常に実行され、完了しています。通常、CICS は、MVS/DFP 3.2 呼び出し可能サービスを使用して、基本クラスター・データ・セット BASEDSNAME のオープン時バックアップ (BWO) 属性を更新します。

BWO を使用して取られたデータ・セットのバックアップ・コピーを復元した後に BWO 属性が更新されていない場合、データ・セットに下位レベルのマークが付けられるため、それ以降、CICS ではファイルを開くことができません。

REMOVE

このオプションは、ローカル・システム上でデータ・セットが必要なくなったときに使用します。これにより、指定されたデータ・セットのデータ・セット名ブロックが削除されます。REMOVE オプションを使用できるのは、指定されたデータ・セットを参照するファイル制御リソース定義の項目がない場合のみです。**SET DSNAME REMOVE** の入力時に、いずれかのファイル定義がデータ・セット名を参照している場合は、データ・セット名ブロックの使用回数がゼロではないことを示すエラー・メッセージを受け取ります。ファイル定義がデータ・セット名を参照しないようにするには、以下のようになります。

- データ・セットを参照するすべてのファイルを閉じます。これらのファイルは、以下のコマンドを使用して検索できます。

```
CEMT INQUIRE FILE(*) DSNAME(dsname)
```

- (CEMT 画面のデータ・セット名をブランクで上書き入力して) 各ファイル項目からデータ・セット名を除去するか、ファイル定義を完全に破棄します。

1 つ以上の代替索引を含む基本データ・セットがある場合は、基本データ・セットへのすべての参照とパスへのすべての参照を除去するまでは、基本データ・セット名ブロックを除去することはできません。

RESETLOCKS (VSAM のみ)

このデータ・セットに対するロックを保持しているバックアウト失敗 UOW およびコミット失敗 UOW に関して、中断された UOW ログ・レコードをページし、保持されているロックを解除します。

- バックアウト失敗 UOW とは、バックアウト処理中に失敗した UOW のことです。
- コミット失敗 UOW とは、2 フェーズ・コミット同期点処理の第 2 フェーズ中に、RLS データ・セットを更新したが、ロック解除に失敗した UOW のことです。

このオプションを指定すると、ロックを保存してトランザクションが遅延することよりも、バックアウトの失敗とデータ安全性が多少失われることを受け入れることになるので、最終手段としてのみ使用してください。

データ・セットに対するロックを保持しているバックアウト失敗 UOW およびコミット失敗 UOW の場合、このデータ・セットに関連したすべてのレコードがシステム・ログから除去され、この CICS で保持されているデータ・セットに関する保持レコード・ロックはすべて解除されます。RESETLOCKS 操作の結果として除去されるバックアウト失敗ログ・レコードごとに、診断メッセージが CSFL 一時データ・キューに書き込まれます。

RESETLOCKS は、バックアウト失敗およびコミット失敗として分類される中断 UOW ログ・レコードにのみ適用されます。そのため、BDAM データ・セットに対しては発行できません。BDAM データ・セットの場合、バックアウト失敗ログ・レコードとコミット失敗ログ・レコードは中断されません。

データ・セットに対する失われたロックのリカバリーが、バックアウトに失敗した、またはコミットに失敗したログ・レコードによって妨げられていて、他に解決する方法がない場合は、RESETLOCKS を使用できます。

注:

1. このオプションは中断された未確定 UOW には適用されません。RESETLOCKS を発行する前に他の方法で、データ・セットに対するロックを保持する中断された未確定 UOW の解決を試みてください。例えば、COMMIT、BACKOUT、または FORCEUOW を使用します。
2. コミット・フェーズ中には RESETLOCKS は失敗することがあります (例えば、CICS による RLS ロックの解除の試行中にエラーが生じた場合)。この場合、UOW はコミット失敗 UOW として中断状態に戻ります。

RETRY

このデータ・セットの障害が原因で失敗したバックアウトおよびコミットの処理によって発生した、中断された UOW ログ・レコードを再試行することを指定します。これは、**EXEC CICS RESYNC** コマンドと処理が類似していますが、バックアウト失敗 UOW とコミット失敗 UOW のみに適用され、未確定 UOW には適用されません。

中断されたバックアウト失敗 UOW またはコミット失敗 UOW がデータ・セットに関連付けられており、データ・セットの問題の一部またはすべてが一時的なもの、あるいは解決済みと思われる場合に、RETRY を使用します。

UOW の中断原因となるデータ・セット障害が発生したときに発行されるメッセージでは、障害から回復するために必要なアクションが推奨されます。

RETRY はデータ保全性に影響しないため、一部の失敗したリカバリー処理を完了できるようにするためにいつでも安全に使用できます。

RREPL

データ・セットへの全アクセス権限を、REPLICATION(REPLICATOR) として定義されているプログラムの上に制限し、他のプログラムには読み取りアクセスのみを許可します。このコマンドは、使用可能性標識を設定します。これは、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) 内で保守するローカル・フラグです。

UNAVAILABLE

データ・セットを使用不可としてマークし、データ・セットが RLS モードまたは非 RLS モードで開かれないようにします。このコマンドは可用性の標識を設定したり設定解除したりします。この標識は、CICS 領域がデータ・セットごとにデータ・セット名ブロック (DSNB) 中に保守するローカル・フラグです。

UNQUIESCED

ICF カタログ内でデータ・セットに非静止のマークが付けられるようにします。このデータ・セットに対して RLS または非 RLS モードのファイルを開くことができます。アクセス・モード (RLS または非 RLS) は、最初のオープン時に設定されます。

SET DSNAME IMMQUIESCED コマンドまたは QUIESCED コマンドによってファイルが UNENABLED に設定されていた場合、UNQUIESCED はファイルを再び ENABLED に設定します。ただし、使用可能化状態に他方で明示的な変更がなかった場合に限られます。この状態変更は CICS グローバル・カタログ中に記録されます。

CEMT SET DUMPDS

CICS ダンプ・データ・セットの属性を変更します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET DUMPDS コマンドを使用して、アクティブな CICS ダンプ・データ・セットを開いたり閉じたりすることができます。また、アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えを行うかどうかを指定します。

ダンプについて詳しくは、[ダンプ・テーブル・エントリーがない場合のダンプ要求](#)を参照してください。

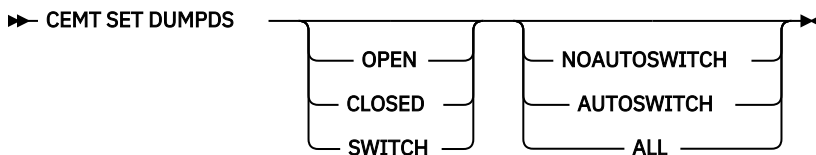
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET DUMPDS (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE DUMPDS** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET DUMPDS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s du o a` はアクティブ・ダンプ・データ・セットを開き、アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合にのみ、非アクティブ・ダンプ・データ・セットに切り替えます。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET DUMPDS



オプション

OPEN

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは開いています。

CLOSED

アクティブな CICS ダンプ・データ・セットは閉じています。

SWITCH

現在アクティブなダンプ・データ・セットは非アクティブになり、現在非アクティブなデータ・セットはアクティブになります。

NOAUTOSWITCH

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になったときに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの自動切り替えは行われません。

AUTOSWITCH

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になった場合にのみ非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの切り替えが行われますが、その後は行われません。

ALL

アクティブ・ダンプ・データ・セットが満杯になるたびに、非アクティブ・ダンプ・データ・セットへの切り替えが行われます。

CEMT SET ENQMODEL

ローカル・システムの enqmodel 定義の状況を設定します。

説明

各 ENQMODEL 定義は以下のいずれかの状態になります。

ENABLED

一致する ENQ 要求は通常の方法で処理されます。

DISABLED

一致する ENQ 要求は拒否され、発行元のタスクは異常終了コード ENQ_DISABLED を出して異常終了します。一致する INSTALL/CREATE/DISCARD 要求は処理されます。

WAITING

一致する ENQ 要求は拒否され、発行元のタスクは異常終了コード ENQ_DISABLED を出して異常終了します。処理を待機している INSTALL/CREATE/DISCARD 要求があります。

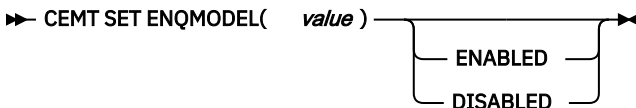
このコマンドは、ローカル・システムにインストールされた ENQmodel リソースに ENABLED および DISABLED の状態を設定する手段になります。一致する EXEC ENQ 要求を処理できるようにするには、enqmodel を使用可能にする必要があります。enqmodel を使用不可にすると、より固有性の高い enqmodel が使用可能になります。

ネストされた総称 enqname を形成する Enqmodel は、最も固有性の高いものから最も固有性の低いものまでの順序で使用可能にする必要があります。例えば、ABCD*、ABC*、AB* の順に使用可能にします。固有性の低い enqmodel が既に使用可能になっているときに、より固有性の高い enqmodel を使用可能にしようとすると、結果としてメッセージ DFHNQ0107 が発行されます。

待ち状態の enqmodel を使用可能/使用不可にすることはできません。

構文

CEMT SET ENQMODEL



オプション

(value)

リソース定義の 8 文字の ID。

DISABLED

ENQNAME パターンと一致するエンキューがローカル・システムからなくなるまで、ENQMODEL は WAITING 状態になります (Inquire Enqmodel を参照)。その後、DISABLED になります。使用不可になると、一致する ENQ 要求は拒否され、発行元のタスクは異常終了コード ENQ_DISABLED を出して異常終了します。

ENABLED

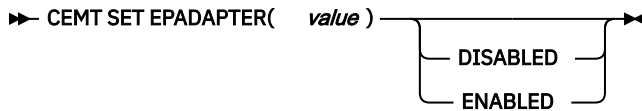
enqmodel が DISABLED の場合は、ENABLED になります。使用可能になった後、一致する ENQ 要求は通常の方法で処理されます。

CEMT SET EPADAPTER

EP アダプターを使用可能または使用不可に設定します。

CICS Explorer では、「[EP アダプター](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

CEMT SET EPADAPTER



オプション

(value)

EP アダプターの 32 文字の名前です。

DISABLED

EP アダプターを使用不可にするよう指定します。

ENABLED

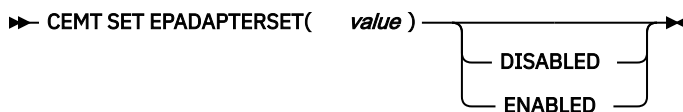
EP アダプターを使用可能にするよう指定します。

CEMT SET EPADAPTERSET

EP アダプター・セットを使用可能または使用不可に設定します。

CICS Explorer では、[「EP アダプター・セット」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

CEMT SET EPADAPTERSET



オプション

(value)

EP アダプター・セットの 32 文字の名前。

DISABLED

EP アダプター・セットを使用不可にすることを指定します。

ENABLED

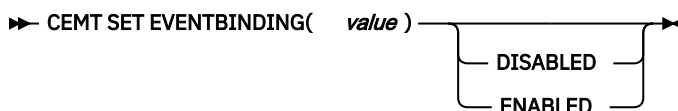
EP アダプター・セットを使用可能にするように指定します。

CEMT SET EVENTBINDING

イベント・バインディングを使用可能または使用不可にします。

CICS Explorer では、[「イベント・バインディング」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

CEMT SET EVENTBINDING



オプション

(value)

イベント・バインディングの 32 文字の名前です。

DISABLED

イベント・バインディングを使用不可にするよう指定します。

ENABLED

イベント・バインディングを使用可能にするよう指定します。DISABLING または DISCARDING 以外であれば、どの状態のイベント・バインディングでも使用可能に設定できます。

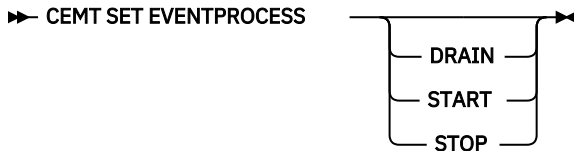
CEMT SET EVENTPROCESS

イベント処理の状況を変更します。

注：同期的な複数のトランザクション・イベントをキャプチャーする作業単位が進行中である間は、イベント処理の状況の変更（つまり開始、ドレーン、または停止の設定）を行わないでください。それを行った場合、イベントがバックアウトされてトランザクションが異常終了する可能性があります。

CICS Explorer では、[「イベント処理」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

CEMT SET EVENTPROCESS



オプション

DRAIN

イベント処理の状況をドレーン中に設定します。イベント・キャプチャーは直ちに停止します。

ディスパッチャー・キューにトランザクション・イベントがあれば削除されます。同期点が発生するまで、トランザクション・イベントはキャプチャーされたとみなされず、同期イベントはこの時点でキャプチャーされません。

非トランザクション・イベントがあれば送出されます。キュー上の最後のイベントが送出されると、イベント処理は停止状態に変わります。

START

イベント処理の状況を開始済みに設定します。未完了トランザクションについては、非トランザクション・イベントのキャプチャーは直ちに開始され、トランザクション・イベントのキャプチャーは次の同期点で開始されます。

STOP

イベント処理の状況を停止済みに設定します。イベント・キャプチャーは直ちに停止します。

ディスパッチャー・キューにあるすべてのイベントが削除されます。

CEMT SET FEPI

FEPI の状態を変更します。

コメント

CEMT SET FECONNECTION、**CEMT SET FEPOOL**、**CEMT SET FEPROPSET**、および **CEMT SET FETARGET** については、[FEPI システム・プログラミング・リファレンス](#)を参照してください。

CEMT SET FILE

1 つ以上の VSAM ファイルまたは BDAM ファイルの一部の属性を変更します。

CICS Explorer では、[「ローカル・ファイル」ビュー](#)と [「リモート・ファイル」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT トランザクションを使用して、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされているファイルを変更できます。

CICS バンドルの中で定義され、インストールされた FILE リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。

定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために SET FILE コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。

CICS バンドル内で定義され、インストールされている FILE リソースの状況を変更するには、CICS バンドルまたはそのデプロイに使用されるアプリケーションの状況を変更してください。FILE リソースを定義する CICS バンドルに対して無効化アクションを実行する際、ファイルの使用が解除されて保持ロックが解決されるとアクションは完了します。

FILE リソースを定義する CICS バンドルを無効にする操作に問題が発生した場合、動的に生成されたリソースに対して、**CEMT SET FILE** コマンドを **FORCECLOSE** オプション付きで発行できます (このアクションが必要になる場合)。[アプリケーション・エラーの診断](#)のトラブルシューティング手順に従って問題を診断し、適切なアクションを実行してください。

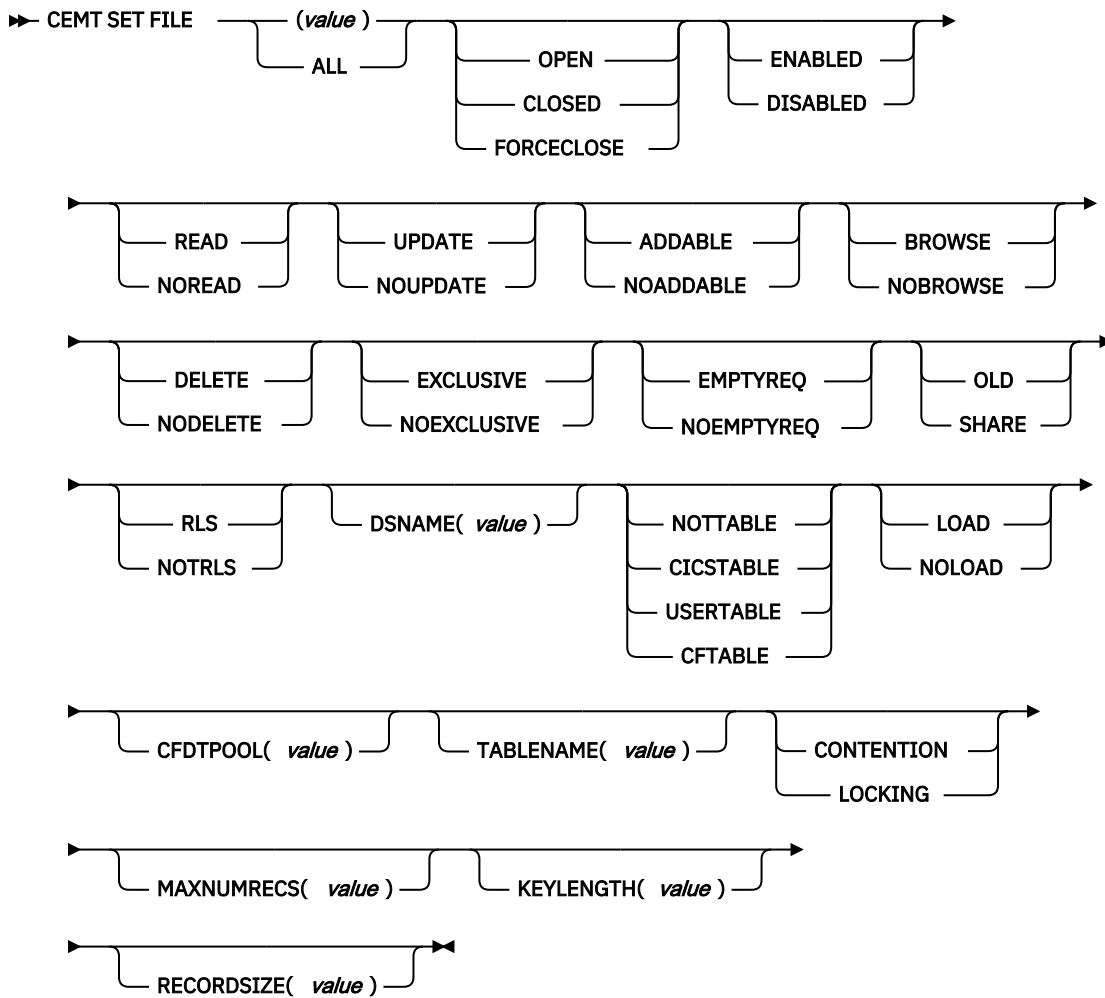
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- **CEMT SET FILE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) と入力し、続いてファイル名に対応する値、または **ALL** を入力します。結果の表示には、**CEMT INQUIRE FILE** によって得られる結果と同様に、現在の状況がリストされます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- **CEMT SET FILE** (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、ファイル名に対応する値を入力するか **ALL** を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、**cemt s fi al op en** は、すべてのファイルを開いて使用可能に設定することを試みます。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットは、即時に有効になります。

注: 1 つのコマンド上に、複数のオプションを任意に組み合わせて設定できます。ファイルを閉じることまたは使用不可にすること以外すべての変更では、ファイルが **CLOSED** 状態で、**ENABLESTATUS** が **DISABLED** または **UNENABLED** でなければなりません。変更内容は、ファイルを次に開くときまで有効になりません。SET FILE CLOSED を使用する場合に、ファイルが即時に閉じなければ、ファイルが **CLOSED** 状態であることと **DISABLED** または **UNENABLED** のどちらかを必要とするその他の属性は無視されます。

CEMT SET FILE



オプション

(value)

1つ以上のファイル名 (1 から 8 文字)。

ADDABLE

ファイルにレコードを追加できます。

ALL

ユーザーが要求する変更は、アクセスを許可されているすべてのファイルに対して行われます。

BROWSE

ファイル内のレコードを参照できます。

CFDTPOOL (value)

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルが存在する CFDT プールの名前を指定します。

CFTABLE

ファイル名はカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを表します。

CICSTABLE

ファイル名は CICS 保守データ・テーブルを表します。

CLOSED

ファイルは閉じています。このアクセス方式では、ファイルが開くまでデータにアクセスできません。ファイルはユーザーが明示的に開くこともできますし、そのファイルに ENABLED 属性があれば、そのファイルを次に参照するときに CICS が暗黙的に開くこともできます。

SET FILE CLOSED コマンドを使用すると、ファイルは閉じられ、さらに使用不可になります (UNENABLED に設定される)。(このようにファイルを使用不可にすることにより、ファイルがアクセス要求によって再び暗黙的に開かれないようになります。) コマンドの時点でクローズが行われるのは、ファイルに現在アクセスしているタスクがない場合だけに限定されます。現行ユーザーが存在する場合には、CLOSE が要求されたことが画面に示されます。つまり、最後のユーザーがそのファイルの使用を完了した時点で、実際のクローズが行われます。

SET FILE CLOSED コマンドによって使用不可にされているファイルは、後続の SET FILE OPEN コマンドによって再び使用可能になります。SET FILE CLOSED によって使用不可にされたファイルと、SET FILE DISABLED コマンドによって使用不可にされたファイルを区別するために、SET FILE CLOSED コマンドは UNENABLED 属性を指定してファイルを閉じます。

DISABLED 属性を持つファイルは、SET FILE ENABLED コマンドでのみ使用可能にできます。UNENABLED 属性を持つファイルは、SET FILE ENABLED コマンドまたは SET FILE OPEN コマンドで使用可能にできます。

CONTENTION (CFDT のみ)

カップリング・ファシリティー・データ・テーブルは、競合モデルを使用します。このモデルでは、レコードが更新のために読み取られるときにロックされませんが、レコードが更新のために読み取られた後で変更または削除されると、後続の REWRITE または DELETE に対してエラーが返されます。

DELETE

ファイルからレコードを削除できます。

DISABLED

ファイルは、現在そのファイルを使用中のトランザクション以外のトランザクションでは使用できません。使用中のユーザーがいる場合は、"BEING DISABLED" も表示されます。CEMT SET FILE DISABLED コマンドは、既存のユーザーには効果がなく、新規ユーザーがファイルにアクセスできなくなります。

ファイルは、SET FILE ENABLED コマンドで再び使用可能にできます。(UNENABLED も参照。)

リモート・ファイルを使用不可にすることはできません。

DSNAME (value)

このファイルに関連する VSAM または BDAM データ・セットの名前 (1 文字から 44 文字まで) を指定します。CEMT SET FILE(value) DSNAME(value) は、データ・セットをファイルに関連付け、データ・セットの FILECOUNT を 1 だけ増分します。ヌルの DSNAME 値を指定して CEMT SET FILE DSNAME を使用すると、現行データ・セットからファイルの関連付けを解除できます。

注: DSNAME が OBJECTNAME の代替になりました。

EMPTYREQ (VSAM のみ)

VSAM に対して REUSE パラメーターを指定してクラスターとして定義され、非 RLS アクセス・モードで開かれた VSAM ファイルにのみ適用されます。次にファイルを開いたときに、そのデータが消去されることを示します。

ファイルが RLS アクセス・モードで開かれている場合は、このパラメーターは無効です。

CEMT SET FILE EMPTYREQ コマンドは、閉じていて disabled または unenabled のどちらかの状況にあるファイルのみに適用でき、ファイルが開かれるまでデータに影響はありません。SET FILE EMPTYREQ コマンドは、SET FILE NOEMPTYREQ コマンドによって取り消すことができます。

ENABLED

ファイルはトランザクションで使用でき、閉じていても最初の要求で開きます。ファイルの使用中にコマンド CEMT SET FILE(value) CLOSED ENABLED が指定された場合、ファイルの状況は closed-unenabled になります。ファイルの使用中にコマンド CEMT SET FILE(value) CLOSED が指定された場合は、新規ユーザーがファイルにアクセスしないように、ファイルは使用不可になります。

EXCLUSIVE

このファイルのレコードは、更新のための読み取り要求の発行時に排他制御下に置かれることにより、同時更新から保護されます。

FORCECLOSE

ファイルの既存のユーザーが異常終了する (異常終了コード AKC3 または ATCH) を除いては、SET FILE CLOSED と同様です。CLOSED の場合と同様に、クローズは最後のユーザーが完了した時点で有効になります。

注: FORCECLOSE オプションを使用してファイルを閉じると、ファイルの現行ユーザーのタスクは、CICS タスク FORCEPURGE メカニズムによって即時に終了します。このメカニズムでは、データ保全本性は保証されません。いくつかの極端なケースでは (バックアウト処理中にエラーが発生した場合など)、CICS が異常終了することがあります。この理由から、FORCECLOSE オプションを使用したファイルのクローズは例外的な状況だけに制限する必要があります。

KEYLENGTH (value)

ソース・データ・セットからのプリロードを必要としない、カップリング・ファシリティ・データ・テーブル内のレコードのキー長を指定します。キー長を設定するには、1 から 16 までの範囲の値を指定します。キー長をクリアする (ヌル値に設定する) には、KEYLENGTH(0) を指定します。

現在はカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照していなくても、後日、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、キー長を指定できます。

LOAD

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルが完全に使用可能な状態になるには、ソース・データ・セットからロードする必要があります。このカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを使用するトランザクションは、それが指定されたソース・データ・セットからのレコードを含んでいることに依存します。

LOCKING (CFDT のみ)

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルはロック・モデルを使用します。このモデルでは、レコードは更新時にロックされます。

MAXNUMRECS (value)

このファイルの データ・テーブルが保持できるレコードの最大数を指定します。

いずれかのタイプのテーブルに対して限度を設定するには、1 から 99999999 までの範囲の値を指定します。制限を適用しないためには、MAXNUMRECS(0) を指定します。CICS はこれを制限なしと解釈して、内部的に正のフルワードの最大値 (+2147483647 または X'7FFFFFFF') を設定します。

注: 新しい値は、新しいデータ・テーブルを作成するときのみ有効になります。これは、CICS 保守またはユーザー保守のデータ・テーブルに対してファイルを開くたびに行われますが、CF データ・テーブル用のテーブルがまだ存在していない場合に限られます。カップリング・ファシリティ・データ・テーブルが作成された後は、レコードの最大数を変更するには CFDT サーバー MVS コマンド・インターフェースを使用する必要があります。

リカバリー可能なカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに MAXNUMRECS を指定するには、テーブルに含まれることが予想されるレコードの最大数よりも 5% から 10% 大きい値を使用します。これにより、リカバリー可能要求を処理する際に内部で作成されることのあるレコードを追加できます。この内部処理のために残しておくマージンは、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルの使用レベルと、その使用の性質によって異なります。この内部処理の影響として、レコード数が MAXNUMRECS 制限によって指定される数よりも明らかに少ないリカバリー可能カップリング・ファシリティ・データ・テーブルへの WRITE 要求または REWRITE 要求で、(RESP2 が 102 の) NOSPACE 条件が生じる可能性があります。

NOADDABLE

ファイルにレコードを追加することはできません。

NOBROWSE

ファイル内のレコードを参照できません。

NODELETE

ファイルからレコードを削除できません。

NOEMPTYREQ (VSAM のみ)

VSAM ファイルにのみ適用されます。 ファイルを次に開くときに、データが消去されないことを指定します。

CEMT SET FILE NOEMPTYREC コマンドは、閉じていて disabled または unenabled のどちらかの状況にあるファイルにのみ適用でき、前の **SET FILE EMPTYREQ** コマンドの暗黙的な要求を取り消します。

NOEXCLUSIVE

ファイル上のレコードは、同時更新から保護されません。

NOLOAD

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからのロードを必要としません。作成されるとすぐに完全に使用可能になり、テーブルを使用するトランザクションによって全体のデータが取り込まれます。

NOREAD

ファイル内のレコードを読み取ることができません。

NOTRLS (VSAM のみ)

非 RLS モード (LSR または NSR) でファイルにアクセスするように定義します。

RLS から非 RLS モードへの切り替えについては、[リカバリー処理のためのトラブルシューティング](#)を参照してください。

NOTTABLE

ファイル名はデータ・テーブルを表しません。

NOUPDATE

ファイル内のレコードを更新できません。

OLD

このファイルに関連するデータ・セットのファイル属性指定は、動的割り振りに対して 非共用と定義されています。

OPEN

ファイルは開かれています。ファイルが OPEN ENABLED である場合は、CICS トランザクションによるデータ・アクセスに使用できます。OPEN DISABLED である場合、利用するためにはその前にまず使用可能にしなければなりません。

ファイルが前の SET FILE CLOSED コマンドによって unenabled 状態にされた場合、**SET FILE OPEN** コマンドはファイルを暗黙的に再び使用可能にします。

READ

ファイル内のレコードを読み取ることができます。

RECORDSIZE

ソース・データ・セットからのプリロードを必要としない、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルの最大レコード・サイズを指定します。

現在はカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照していなくても、後日、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルを使用するように切り替えられる可能性のあるファイルに対しては、レコード・サイズを指定できます。1 から 32767 バイトのレコード・サイズを指定します。また、以前に定義した値を削除する場合は、レコード・サイズとしてゼロを指定します。

RLS (VSAM のみ)

RLS モードでファイルにアクセスするように定義します。

SHARE

このファイルに関連するデータ・セットのファイル属性指定は、動的割り振りに対して共用と定義されています。

TABlename (value)

カップリング・ファシリティ・データ・テーブルのテーブル名を指定します。

UPDATE

ファイル内のレコードを更新できます。

USERTABLE

ファイル名は、ユーザー保守のデータ・テーブルを表します。

CEMT SET GTFTRACE

GTF トレースの状況を変更します。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET GTFTRACE コマンドを使用して、MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースのオン/オフを切り替えることができます。このコマンドは、CETR フルスクリーン・トレース・トランザクションをサポートしない端末で使用するためのものです。

GTF トレースの使用方法については、[汎用トレース機能 \(GTF\)](#)を参照してください。

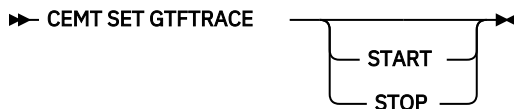
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE GTFTRACE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示されたフィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET GTFTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて変更する属性設定値を入力します。例えば、`cemt s g sta` は CICS GTF トレースを開始します。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET GTFTRACE



オプション

START

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースが開始されます。

STOP

MVS 汎用トレース機能 (GTF) に対する CICS トレースは停止します。

CEMT SET HOST

仮想ホストを使用可能または使用不可に設定します。

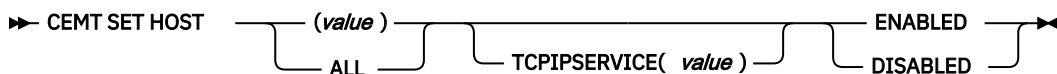
説明

SET HOST コマンドは、仮想ホストの状況を使用可能または使用不可に設定するために使用します。仮想ホストを使用不可に設定すると、その仮想ホストを構成しているすべての URIMAP 定義にアクセスできなくなります。仮想ホストが使用不可の場合、CICS は Web クライアントに 503 (サービス利用不可) 状況コードが付いた HTTP 応答を返します。

個別の URIMAP 定義を照会すると、仮想ホストが使用不可であることを示す特殊な状況 HDISABLED が返されます。URIMAP 定義の使用不可状況を個別に変更する必要はありません。SET HOST コマンドを使用して、仮想ホストを構成するすべての URIMAP 定義を再び使用可能にすることができます。ただし、HDISABLED 状況を指定した URIMAP 定義は破棄できないことに注意してください。この定義を廃棄する場合は、SET URIMAP コマンドを使用して定義を個別に使用不可にする必要があります。

構文

CEMT SET HOST



オプション

(value)

仮想ホストの名前を指定します。それぞれの仮想ホスト名は、仮想ホストを構成する URIMAP 定義で指定されているホスト名から取られます。例えば、CICS 領域にホスト名 `www.example.com` を指定した URIMAP 定義が含まれる場合、CICS は同じ名前の仮想ホストを作成します。URIMAP 定義のホスト名は最大 120 文字まで可能です。

ENABLED

仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアクセスできます。

DISABLED

仮想ホストを構成する URIMAP 定義にアクセスできません。

TCPIP SERVICE((value)

この仮想ホストが関連するインバウンド・ポートを指定する TCPIP SERVICE リソース。値を指定しない場合、仮想ホストはすべての TCPIP SERVICE リソースに関連します。

CEMT SET INTTRACE

CICS 内部トレースをオンまたはオフに切り替えます。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET INTTRACE を使用して、CICS 内部トレースのオン/オフを切り替えることができます。このコマンドは、フルスクリーン・トレース・トランザクション CETR をサポートしない端末で使用するためのものです。

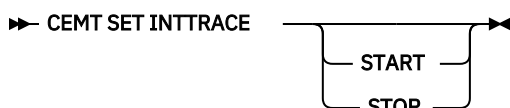
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET INTTRACE (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。CEMT INQUIRE INTTRACE コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示されたフィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET INTTRACE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて変更する属性設定値を入力します。例えば、`cemt s in sta` と入力すると、CICS 内部トレースがオンに切り替わります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET INTTRACE



オプション

START

CICS 内部トレースが開始されます。

STOP

CICS 内部トレースは停止します。

CEMT SET IPCONN

IPCONN リソースの属性を変更するか、未処理の自動開始記述子 (AID) を取り消します。

CICS Explorer では、「[IPIC 接続](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET IPCONN コマンドを使用して、IPCONN リソースの一部の属性を変更できます。

IPCONN 定義がすでにインストールされているときに、新しい IPCONN 定義をインストールする場合は、その新しい定義のために CEDA INSTALL コマンドを使用する前に、OUTSERVICE への接続を設定する必要があります。

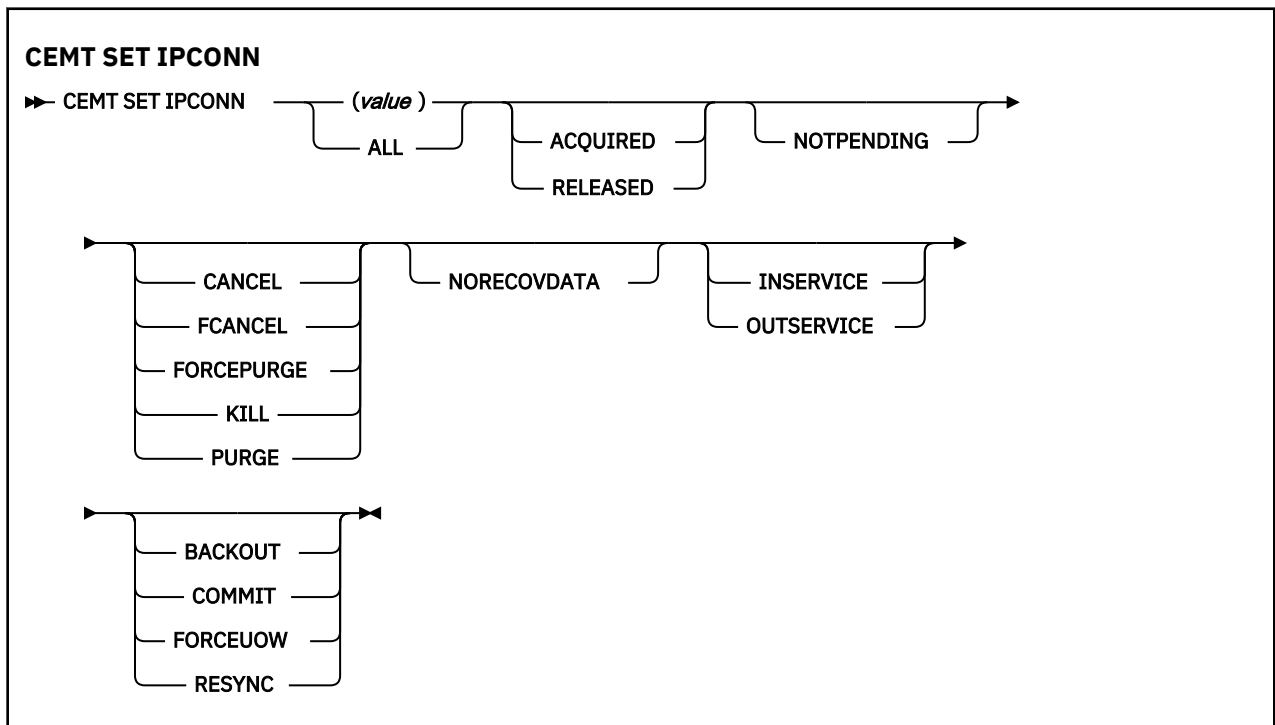
各種の相互通信接続について詳しくは、[相互通信方式](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET IPCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の接続 ID を入力するか、ALL を入力します。 **CEMT INQUIRE IPCONN** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET IPCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の接続 ID を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s ip al i` と入力すると、すべての接続の値がリセットされて、それらの接続が使用可能 (サービス中) になります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(value)

変更する接続の名前 (1 から 8 文字) を指定します。これは、IPCONN コマンドの IPCONN オプションで指定されているリモート・システムまたは領域の名前です。複数の名前を指定することができます。

ACQUIRED

CICS が、IPCONN 名で表されたシステムとのセッションを獲得することを指定します。接続を ACQUIRED と OUTSERVICE の両方にすることはできません。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

BACKOUT

この接続失敗のために中断されたすべての作業単位 (UOW) がバックアウトされることを指定します。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている UOW すべてに対して、決定がおこなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

CANCEL

この IPCONN を使用するようにトランザクションによってキューに入れられた要求が取り消されることを指定します。

IPCONN 間での通信を管理する CICS システム・トランザクションによってこの IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求は、FCANCEL を指定しない限り、ページされません。

メッセージ DFHISnnnn が CSMT に書き込まれ、IPCONN に関してこの IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求のうちの削除された数と残っている数が示されます。

この IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求が **CEMT SET IPCONN** コマンドの CANCEL オプションを使用して削除される度に、「QUEUED REQUESTS CANCELED」メッセージが CEMT パネルに表示されます。

COMMIT

この接続障害のために中断した UOW がすべてコミットされることを指定します。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている作業単位すべてに対して、決定がおこなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

FCANCEL

この IPCONN を使用するようにトランザクションによってキューに入れられたすべての要求が取り消されることを指定します。取り消される要求には、この IPCONN 間での通信を管理する CICS システム・トランザクションによる要求も含まれます。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

この IPCONN を使用するようにキューに入れられた要求が **CEMT SET IPCONN** コマンドの FCANCEL オプションを使用して削除される度に、「QUEUED REQUESTS CANCELED」メッセージが CEMT パネルに表示されます。

FORCEPURGE

接続したシステムへのセッションで実行しているすべてのトランザクションが即時に異常終了されることを指定します。これは予測不能な結果になる場合があり、例外的な状況でのみ使用する必要があります。

極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

FORCEUOW

この接続障害のために中断したすべての UOW が、TRANSACTION 定義の ACTION オプションでの指定どおりに、強制的にバックアウトまたはコミットされることを指定します。通常の再同期プロセスが、部分的に指定変更されます。接続の障害のために未確定になっている作業単位すべてに対して、決定がおこなわれます。ただし、これらの決定が記録され、データの矛盾が報告されるのは、次に接続が取得されたときになります。

INSERVICE

システムがサービス中、すなわち、使用可能であることを指定します。

KILL

タスクが終了されることを指定します。システムおよびデータの保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、最初にページまたは強制ページを試行した後でのみ使用してください。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、特定の状況においては停止した領域を解放して、領域が処理を継続できるようにします。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

NORECOVDATA

通常の再同期プロセスがオーバーライドされることを指定します。NORECOVDATA は、すべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制し、接続に未解決のすべての再同期を対象とし、パートナー・システムから以前に受け取ったログ名を消去します。接続の状態はリセットされます。

注: SET IPCONN NORECOVDATA は例外的な状況でのみ使用してください。このオプションはリカバリー情報を消去し、リモート・システム上のリソースを更新した作業単位のデータ保全性を損なう場合があります。

このオプションを使用する必要がある状況の例としては、次の場合があります。

- 接続を破棄する必要がある、パートナー・システムとの静止プロトコルを完了させることができない。
- 操作エラーまたは論理エラーにより接続のログ名のミスマッチになる。接続状態をリセットして、交換ログ名プロセスを完了できるようにする必要があります。

注: NORECOVDATA を指定した場合は、COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、RESYNC、NOTPENDING のいずれも指定できません。

NOTPENDING

初期始動を実行した CICS Transaction Server for z/OS パートナーへの接続の場合に、通常の再同期プロセスがオーバーライドされることを指定します。

NOTPENDING は、パートナーの初期始動前に接続により作成されたすべての未確定作業単位を (トランザクション定義に従って) 強制します。さらに、パートナーの初期始動前に作成された、接続が未解決の再同期タスク (FORGET 待機 UOW リンク) には FORGET が実行されます。

PENDING 条件は、パートナーとのログ名にミスマッチがあった接続に関するリカバリー情報 (パートナーについて記憶されている中断された UOW または決定) が存在することを示します。これは、パートナーが初期始動を実行しており、リカバリー・プロトコルがパートナー側でのログ・データの消失により破壊されていることを示します。

CICS がパートナーと接続して、それから新しいログ名を受け取るまでは、接続を NOTPENDING 状態 (未確定を強制して NOFORGET UOW を消去する) に設定することはできません。

接続全体の決定は FORGET 可能ですが、そのことは UOW に関係する他の接続の決定の記憶には影響しません。

注: NOTPENDING を指定する場合、COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、RESYNC、または NORECOVDATA を指定することはできません。使用するオプションについての情報は、RESYNC オプションの説明の後にある注を参照してください。

交換ログ名機能と再同期機能については、[システム間の問題のトラブルシューティング](#)で説明しています。

OUTSERVICE

システムをサービス休止、つまり、使用不可にします。

PURGE

接続されたシステムで実行されているトランザクションが異常終了することを指定します。トランザクションはシステムおよびデータ保全性を維持できる場合にのみ終了します。トランザクションの定義で SPURGE=NO が指定されている場合、トランザクションはページされません。

RELEASED

CICS が、IPCONN 名で表されたシステムとのセッションを解放することを指定します。

RESYNC

この接続障害のために中断されている UOW をすべて再試行するように指定します。つまり、この接続の交換ログ名再同期が試行されます。接続が獲得されるか、または UOW が再開されるときに、このプロセスは通常は自動的に開始されます。通常の再同期プロセスの一部がオーバーライドされ、接続障害のために未確定の作業単位に関する決定が行われますが、決定の記録とデータの不整合の報告は、次に接続が獲得される際に行われます。

注：

1. COMMIT、BACKOUT、FORCEUOW、および RESYNC の操作は、UOW の状態設定と同期されます。つまり、SET IPCONN BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC の後に INQUIRE UOW を実行すると、新しい UOW の状態が戻されます。
2. これらのいずれかのオプションを指定すると、接続障害のために失敗したすべての作業単位が再開されます。**SET IPCONN FORCEUOW** コマンドを発行する前に、**SET UOW** コマンドを使用して、デフォルトのアクションを許可せずに、未確定の作業単位ごとにコミットまたはバックアウトを明示的に行うように指定できます。ローカル・プロシーチャーは、データの重要性和、**INQUIRE UOW**、**INQUIRE UOWENQ**、および **INQUIRE UOWLINK** コマンドの使用方式を判別し、正しいアクションを確立します。
3. BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、RESYNC、NOTPENDING、および NORECOVDATA のオプションは、いずれか 1 つのみを指定できます。**SET IPCONN NORECOVDATA** コマンドは、例外的な環境でのみ使用してください。
4. 接続の障害により未確定になった作業単位を強制的に同じ方向で処理するには、**SET IPCONN COMMIT** または **SET IPCONN BACKOUT** を使用してください。
5. **SET IPCONN** および **SET UOW** の BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC のオプションは、再同期情報をクリアしません。クリアするには、**SET IPCONN NOTPENDING** または **SET IPCONN NORECOVDATA** を使用しなければなりません。
6. **SET IPCONN NOTPENDING** または **SET IPCONN NORECOVDATA** を発行する前に BACKOUT、COMMIT、FORCEUOW、または RESYNC コマンドを発行できます。

CEMT SET IRC

領域間通信 (IRC) 機能の開閉を行います。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

事前に IRC を閉じなくても新規 MRO 接続をインストールできます。ただし、既存の MRO 接続を変更する場合は、SET IRC CLOSED コマンドを使用して IRC を閉じる必要があります。例：

```
CEMT SET IRC CLOSED
CEDA INSTALL GROUP(groupname)
CEMT SET IRC OPEN
```

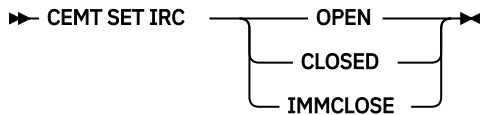
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET IRC (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE IRC** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示されたフィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET IRC (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて変更する属性設定値を入力します。例えば、`cemt s ir o` は、領域間通信を初期設定します。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET IRC



オプション

CLOSED

IRC セッションを使用するすべてのタスクの正常終了後に、この CICS システムに関する領域間通信が終了します。

IMMCLOSE

IRC セッションを使用するタスクはすべて、次にそのセッションの使用が試行された時点で異常終了します。IRC を使用しているすべてのタスクが異常終了するか、正常に終了した場合、領域間通信は終了します。

OPEN

この CICS システムに関する領域間通信は初期化されています。これにより、このシステムと他のシステムの間で接続を確立できます。例えば、DL/I バッチ領域や、外部 CICS インターフェース (EXCI) を使用する非 CICS クライアント・プログラムに接続できます。個々の接続の可用性は、接続名に `INSERVICE|OUTSERVICE` 設定を指定することによって、制御できます。

CEMT SET JOURNALNAME

CICS ユーザー・ジャーナルを使用可能または使用不可に設定します。

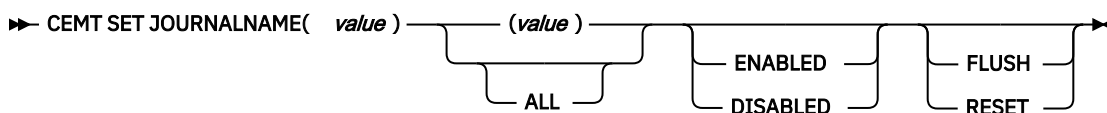
説明

`SET JOURNALNAME` コマンドを使用して CICS ユーザー・ジャーナルを使用可能または使用不可にすることができます。ファイルが次に開かれるときまで VSAM ファイルの順方向リカバリー・ログまたは自動ジャーナルとして使用されるジャーナル、またはシステム・ログに対しては、このコマンドの影響はありません。

現在 CICS に認識されていないジャーナル名に対して `SET JOURNALNAME` を使用できます。CICS は、指定されたジャーナルのエントリーを動的に作成し、必要に応じて、一致する `JOURNALMODEL` 定義を使用して MVS システム・ロガーに対してそのエントリーを定義します ([JOURNALMODEL リソース](#)を参照)。

構文

CEMT SET JOURNALNAME



オプション

(value)

ジャーナル名を指定します。

1 から 99 までの範囲の数値 ID を指定して定義されたジャーナルを変更するには、ジャーナル名 `DFHJnn` を指定します (ここで、`nn` はジャーナル番号)。

システム・ログの状況を変更することは許可されていないので、`DFHLOG` または `DFHSHUNT` を指定することはできません。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、必要な変更を加えるよう指定します。

DISABLED

ジャーナルは使用不可になります。SET JOURNALNAME(...) STATUS(ENABLED) コマンド、または ACTION(RESET) コマンドによって再び使用可能になるまで、再使用することはできません。

ENABLED

ジャーナルは開き、使用可能になります。

FLUSH

ログ・バッファはログ・ストリームに書き出されますが、ジャーナルは閉じません。

このオプションを使用すると、ストリームがバッチ・ユーティリティを使用して処理される前に、すべての現行レコードがログ・ストリームに書き出されるようにすることができます。

RESET

ジャーナルは使用不可ですが、このジャーナルに対する次の SET JOURNALNAME STATUS(ENABLED) または ACTION(RESET) コマンドによって再び使用可能にすることができます。

CEMT SET JVMSERVER

JVM サーバーの属性を変更します。

CICS Explorer では、「[JVM サーバー](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT SET JVMSERVER コマンドは JVM サーバーを有効化、無効化、および変更します。

CICS バンドル内で定義され、インストールされた JVMSERVER リソースの状況を変更するには、CICS バンドルを使用可能または使用不可にします。CICS バンドルを使用不可にしたにもかかわらず、JVM サーバーで引き続き実行しているタスクをパージする必要がある場合、タスクをパージするための PURGE、FORCEPURGE、または KILL オプションを使用して、動的に生成された JVMSERVER リソースに対して SET JVMSERVER DISABLED コマンドを発行できます。

CICS バンドルの中で定義され、インストールされた JVMSERVER リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために SET JVMSERVER コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・スタートの後に回復されません。

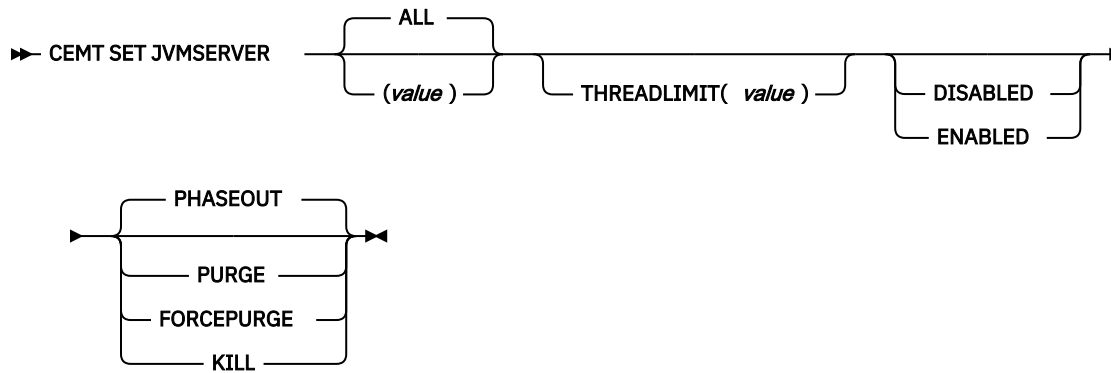
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET JVMSERVER を入力し、続いて 1 つ以上の JVMSERVER ID または ALL を入力します。CEMT により、JVMSERVER リソースのリストと、各 JVMSERVER リソースの現在の状況が表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET JVMSERVER と入力し、続いて 1 つ以上の JVMSERVER ID または ALL を入力し、その後に変更する属性設定値を入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET JVMSERVER



オプション

ALL

アクセス権限のある指定のリソースすべてに対して、いずれの変更も適用します。

DISABLED

1つ以上の JVMSERVER リソースを使用不可に設定します。JVMSERVER リソースを使用不可に設定すると、JVM サーバーとその Language Environment エンクレーブがシャットダウンされます。

ENABLED

1つ以上の JVMSERVER リソースを使用可能に設定します。JVMSERVER リソースを使用可能に設定すると、Language Environment エンクレーブと JVM サーバーが初期設定されます。

JVMProfile および LERUNOPTS に対する変更を使用して JVMServer を更新することに注意してください。JVMServer が DISABLED 状態になった後に使用可能にすると、JVMServer は完全にリフレッシュされます。

FORCEPURGE

指定された JVM サーバーで実行されているタスクを強制的にパージします。CICS は、**SET TASK FORCEPURGE** コマンドを使用してタスクを強制的にパージします。指定された JVM で実行されているすべてのスレッドが停止します。JVMSERVER リソースが BEING DISABLED 状態のままの場合、強制的にパージできなかったタスクが存在する可能性があります。

このオプションは、PURGE オプションを使用しても正常にパージできなかったタスクが存在する場合にだけ使用してください。データ保全本性は保証されません。

KILL

指定された JVM サーバーで実行されているタスクを強制終了します。CICS は、**SET TASK KILL** コマンドを使用してタスクを停止します。指定された JVM で実行されているすべてのスレッドが停止します。JVMSERVER リソースは DISABLED 状態になり、すべての作業は終了します。ただし、CICS が不安定状態のままである可能性があります。

このオプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを使用しても正常にパージできなかったタスクが存在する場合にだけ使用してください。システムおよびデータ保全本性は保証されていません。CICS が異常終了する可能性があります。

PHASEOUT

JVM サーバーとその Language Environment エンクレーブをシャットダウンします。現在実行中のすべてのタスクは完了するまで続行されますが、新しい作業を JVM サーバーは受け付けません。すべてのタスクが完了した際、JVMSERVER リソースは DISABLED 状態になります。

PURGE

指定された JVM サーバーで実行されているタスクをパージします。CICS は、**SET TASK PURGE** コマンドを使用してタスクをパージします。指定された JVM で実行されているすべてのスレッドが停止します。CICS は、システムとデータ保全本性を維持できる場合のみ、タスクをパージします。JVMSERVER リソースが BEING DISABLED 状態のままの場合、パージできなかったタスクが存在する可能性があります。

THREADLIMIT(value)

スレッド化システム JVM で使用可能なスレッドの最大数を指定します。各スレッドは T8 TCB で実行します。この値を 1 から 256 スレッドまでの範囲で指定できます。CICS 領域で許可される最大スレッド数 2000 を超えるスレッド限度を指定した場合、使用可能および使用不可状態の他のすべての JVMSERVER リソースを考慮に入れて、CICS はスレッド限界値の 2000 に達するまで、残りのスレッドをリソースに割り振ります。

value

JVMSERVER リソースの名前を 1 から 8 文字で指定します。

CEMT SET LIBRARY

LIBRARY リソースの属性を変更します。

説明

SET LIBRARY は、動的プログラム LIBRARY 連結のランキング、クリティカル状況、および使用可能化状況を変更します。

CEMT トランザクションを使用して、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされている LIBRARY リソースだけを変更できます。**CEMT SET LIBRARY** コマンドを使用して、CICS バンドルに定義およびインストールされている LIBRARY リソースの状況を変更することはできません。

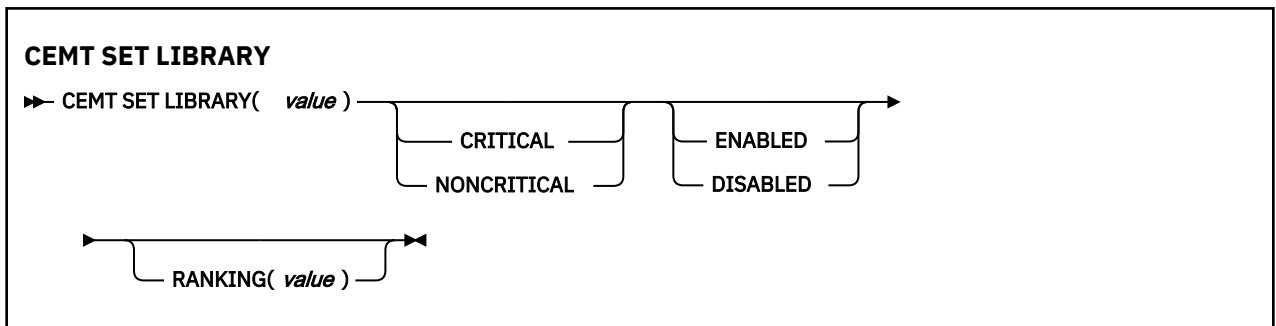
- 動的に生成された LIBRARY リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された LIBRARY リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET LIBRARY と入力し、続いて LIBRARY リソースの名前を入力します。CEMT は、現在の状況を表示します。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET LIBRARY を入力し、続いて LIBRARY リソースの名前と、変更する 1 つ以上の属性設定値を入力します。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

CRITICAL

LIBRARY 連結は CICS を始動するために重要です。CICS の始動中に何らかの理由で LIBRARY リソースが正常にインストールできない場合は、「GO or CANCEL」メッセージが発行されます。オペレーターは、その重要性をオーバーライドして CICS の開始を許可するかどうかを決定できます。オペレーターが「GO」を選択すると、例えばストレージ不足の状態などのためにインストールが不可能な場合を除いて、LIBRARY が DISABLED 状態でインストールされます。

注：オペレーターが「GO」を選択した場合に、LIBRARY リソースが NONCRITICAL として自動的に再定義されることはありません。以後は LIBRARY 連結が重要でないものと見なされるようにする場合は、クリティカル状況を NONCRITICAL に手動で設定してください。

DISABLED

この LIBRARY 連結は、LIBRARY 検索順序に含まれていません。この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索しません。LIBRARY リソースを DISABLED に設定すると、CICS は LIBRARY 連結をクローズし、LIBRARY 連結内のデータ・セットの連結と割り振りを解除します。

注：LIBRARY リソースを使用不可にすると、プログラムがロードされた元に関する情報が無効になります。LIBRARY リソースを再び使用可能にする場合は、プログラムを再びロードする前に、NEWCOPY コマンドまたは PHASEIN コマンドを発行する必要があります。

ENABLED

この LIBRARY 連結は、LIBRARY 検索順序に含まれます。ロードするプログラム成果物を取得するために、この LIBRARY 連結内のデータ・セットが検索されます。

NONCRITICAL

LIBRARY 連結が CICS を始動するために重要なものと見なしません。CICS の始動時に LIBRARY リソースを正常にインストールできない場合、ライブラリーはインストール済みでも使用不可の状態のままになります。警告メッセージが発行されますが、CICS の始動は続行します。

RANKING(value)

LIBRARY 検索順序全体でこの LIBRARY 連結が配置される位置を、他の LIBRARY 連結との相対で指定します。値の範囲は 1 から 99 までです。検索順序の中で LIBRARY 連結は、ランキング順に現れます。値が小さい場合、ロードするプログラムを取得するために、ランキング番号が大きい他の LIBRARY 連結の前にこの LIBRARY 連結が検索されることを示します。DFHRPL には RANKING 値 10 が予約されており、この RANKING 値を動的プログラム LIBRARY 連結に対して指定することはできません。

RANKING 値の等しい LIBRARY 連結が検索順序の中で現れる順序は、ローカル CICS システム内でそれらがインストールまたは作成された順序です。インストールされた時期が早い LIBRARY 連結の検索順序は、遅くインストールされたものより先になります。

value

LIBRARY リソースの名前を 1 から 8 文字で指定します。

CEMT SET LINE

回線の状況を変更します。

説明

SET LINE コマンドを使用して、回線のページまたは強制ページ、回線のサービス中またはサービス休止の設定、および相対回線番号の調整を行うことができます。

ID のリストを指定できますが (54 ページの『リソース ID のリスト』を参照)、アスタリスク (*) および正符号 (+) を使用して ID のファミリーを指定することはできません。

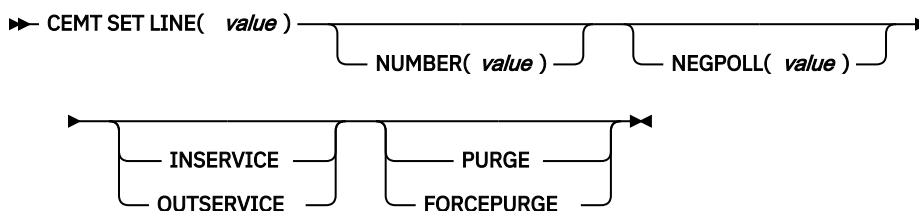
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET LINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて端末 ID を入力します。CEMT INQUIRE LINE コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET LINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、端末 ID を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s 1(value) i` と入力すると、回線が使用可能 (サービス中) になります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET LINE



オプション

(value)

回線上の端末の ID を指定します。この要求は非 z/OS Communications Server 端末の場合にのみ有効です。

FORCEPURGE

回線上の端末で実行されているトランザクションは、即時に異常終了します。データ保全本性は保証されません。極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

INSERVICE

回線は使用可能です。回線の状況を変更しても、その回線上にある端末の同等な状況には影響しません。

NUMBER (value)

プール回線の相対回線番号を指定します。これは、プール回線について照会する場合には必須です。プール回線については、[Terminal control table \(TCT\)](#) を参照してください。

OUTSERVICE

回線は使用不可です。回線の状況を変更しても、その回線上にある端末の同等な状況には影響しません。

PURGE

回線に関連付けられている端末で実行されているタスクは異常終了しますが、タスクの終了はシステムとデータの保全本性を維持できる場合のみ行われます。

CEMT SET MODENAME

モード名の状況を変更します。

説明

SET MODENAME コマンドを使用して、リモート・システムまたは別の CICS 領域への接続のリセット、使用可能なセッション数の変更、およびモード名に関連付けられたセッションの獲得またはクローズを行うことができます。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET MODENAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (modename) または ALL を入力します。CEMT INQUIRE MODENAME コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET MODENAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(modename) または ALL を入力し、さらにその後、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、cemt s mod(modename) acq と入力すると、モード名で指定されたグループ内にある、折衝された競合勝者セッションのすべてを、CICS が獲得します。

CEMT SET MODENAME

オプション

セッションのグループの名前(1文字から8文字)を、1つ以上指定します。モード名は固有である必要はありません。名前のリストは指定できませんが、アスタリスク(*)と正符号(+)を使用して、モード名のファミリーを指定できます。

MODENAME(' ')

グループ内にある、折衝されたすべての競合勝者セッションを、CICSが獲得(またはバインド)します。

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、必要な変更を加えるよう指定します。

グループ内で、並行して割り振って使用することができるセッションの最大数を指定します。セッションに關与する双方に対して、同じ値を指定する必要があります。

CICSによって、グループ内のすべてのセッションを解放します。セッションは静止し、アンバインドされます。以後、別のCICSシステムがセッションを獲得することはありません。グループをクローズしたのと同じCICSシステムがグループを再獲得するまで、グループ内のセッションでのアクティビティーは不可能になります。

IRC 接続または ISC 接続用に定義された ID (1 文字から 4 文字) を指定します。

モニターの状況を変更します。

説明

SET MONITOR コマンドを使用して、収集するモニター・データのクラスの選択、モニターのオン、オフの切り替え、モニター・オプションの状況の設定を行います。CICS モニターの状況を OFF から ON に変更すると、CICS はその変更後に開始するすべてのタスクに対して、モニター・データの累積と、アクティブ・モニター・クラスのモニター・レコードの書き込みを開始します。処理中のタスクのモニター状況は影響を受けません。

CICS モニターの状況を ON から OFF に変更すると、CICS は即時にモニター・データの書き込みを停止します。変更後に開始されるタスクに対しては、モニター・データは累積されません。モニターをオフにする場合は、NOPERF も設定して、完了タスクに関する記録データが入ったバッファをフラッシュしてください。そうしないと、そのようなデータの一部が失われる可能性があります。

モニターが ON または OFF のどちらであっても、モニター・クラス設定を変更できます。モニターが OFF の場合は、STATUS が次に ON に設定されるときに備えて、必要に応じてクラス設定を変更できます。

モニターが ON の場合は、クラス設定を変更すると以下のような結果になります。

- ・クラスを非アクティブからアクティブに変更しても、実行中のタスクの書き込みデータには影響はありません。
- ・クラスをアクティブから非アクティブに変更すると、そのクラスのモニター・データが、以下のように、実行中のタスクに対して書き込めなくなります。

PERFORMANCE

出力バッファに残っているパフォーマンス・クラス・データは記録されますが、それ以上のデータは収集されません。

EXCEPTION

モニター・データが、例外条件の完了時に書き込まれません。

RESOURCE

出力バッファに残っているトランザクション・リソース・モニター・データは記録されますが、それ以上のデータは収集されません。

IDENTITY

出力バッファに残っている ID クラス・データは記録されますが、それ以上のデータは収集されません。

例外クラス、トランザクション・リソース・クラス、ID クラス、およびパフォーマンス・クラスのデータが、実行中のトランザクションの存続期間にわたって収集されます。これらの設定を変更する場合は、実行中のトランザクションに与える影響に注意してください。例えば、パフォーマンス・クラスを PERF に設定し、モニターが ON のときにトランザクションを開始すると、そのトランザクションのパフォーマンス・クラス・データが累積されます。トランザクションの実行中にパフォーマンス・クラスを NOPERF に変更し、トランザクションの終了前に PERF に戻すと、トランザクションの開始時と終了時にパフォーマンス・クラスが PERF に設定されていたとしても、そのトランザクションの最終のモニター・データからはパフォーマンス・データが欠落してしまいます。トランザクション・リソース・クラスおよび ID クラスのデータは、タスクの終了時に書き込まれます。これが書き込まれるのは、タスクの終了時点で、モニター・クラスが(トランザクション・リソース・クラスでは RESRCE、ID クラスでは IDNTY に)設定されている場合だけです。

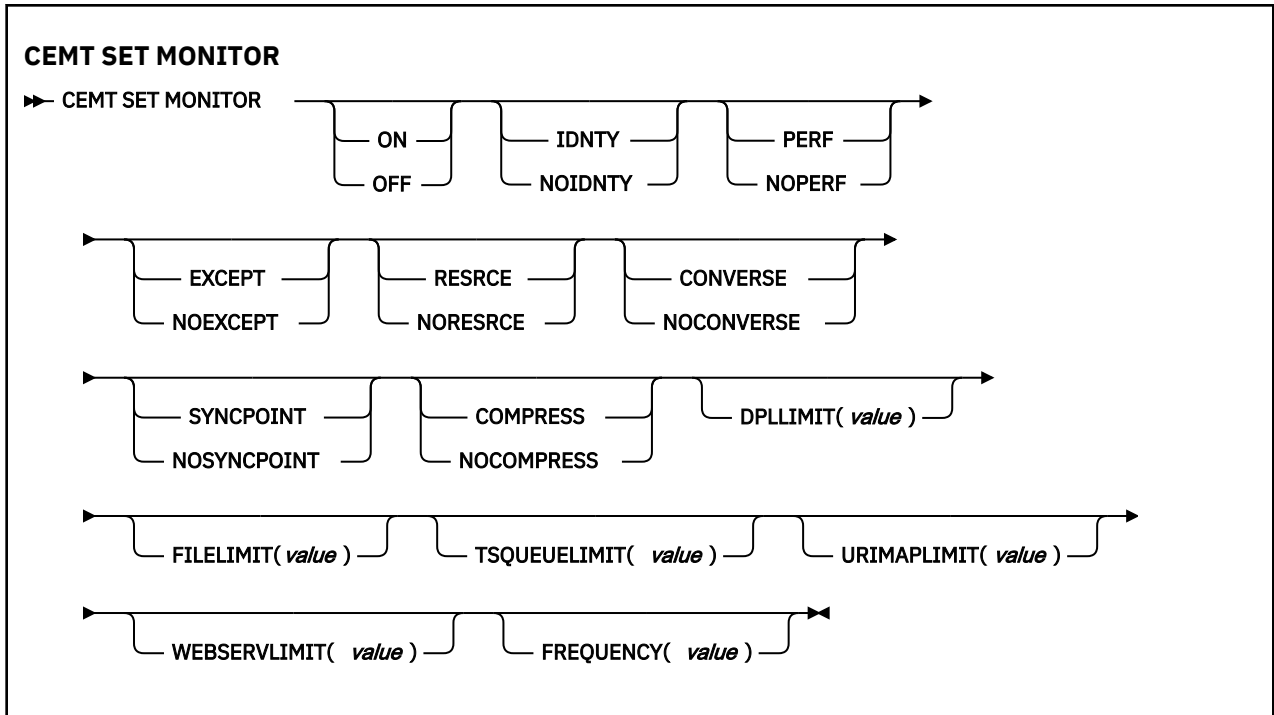
デフォルトではモニター・レコードが圧縮されます(ただし、圧縮されない ID クラス・レコードを除きます)。データ圧縮オプションの設定を変更すると、新しい設定は、その時点以降に書き込まれるすべてのモニター SMF レコードに適用されます。これは、変更時に処理中だったタスクのレコードについても同じです。さらに、変更時点で SMF に書き込まれるのをバッファ内で待機していたレコードにも、その新しい設定が適用されます。この変更が適用されるのは CICS の再始動までの間だけで、再始動すると、データ圧縮オプションの設定は、DFHMCCT マクロが制御するモニター管理テーブル (MCT) で指定したオプションに戻ります。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET MONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE MONITOR** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET MONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s mon on p ex` と入力すると、CICS モニターが ON に設定され、パフォーマンス・クラスおよび例外クラスのデータが収集されます。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

COMPRESS

モニター・レコードのデータ圧縮を実行します。デフォルトでは、モニター・レコードは圧縮されません。

CONVERSE

会話型タスクは、端末管理入出力要求の各ペア (Converse または Send/Receive のペア) に対して生成された個別のパフォーマンス・クラス・レコードを持ちます。

DPLLIMIT (value)

CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する分散プログラム・リンク要求の最大数。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

EXCEPT

例外クラスのモニター・データを収集します。

FILELIMIT (value)

CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行するファイルの最大数。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

FREQUENCY=(0/hhmmss)

長実行トランザクション (一定の間隔より長くシステム内にあるトランザクション) に対してモニターがトランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードを自動的に生成する間隔。初期頻度値は、MNFREQ システム初期設定パラメーターによって設定されます。

デフォルトの頻度値は 0 で、これは FREQUENCY モニターが非アクティブであることを意味します。つまり、長実行トランザクションに対してはパフォーマンス・クラス・レコードは生成されません。長期実行トランザクションに対するパフォーマンス・クラス・レコードを生成するには、hhmmss という

形式で 000100 から 240000 までの範囲の 1 から 6 桁の数値として間隔を指定します。6 桁より短い数値には、先行ゼロを埋め込む必要があります。

CICS がこの方法でパフォーマンス・クラス・モニター・レコードを生成できるのは、長期実行トランザクションが準再入可能 (QR) または並行 (CO) モード TCB で実行される場合のみです。

IDNTY

ID クラスのモニター・データを収集します。

NOCOMPRESS

モニター・レコードに対してデータ圧縮を実行しません。

NOCONVERSE

会話型タスクは、端末管理入出力要求の各ペア (Converse または Send/Receive のペア) に対して生成された個別のパフォーマンス・クラス・レコードを持ちません。

NOEXCEPT

例外クラスのモニター・データを収集しません。

NOIDNTY

ID クラスのモニター・データを収集しません。

NOPERF

パフォーマンス・クラスのモニター・データを収集しません。

NORESRC

トランザクション・リソースのモニター・データは収集されません。

NOSYNCPPOINT

同期点がタスク終了や同期点ロールバックの一部である場合を除いて、トランザクションは明示的または暗黙的な同期点 (作業単位) を取得するときにトランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードを生成しません。

OFF

CICS モニターをオフに切り替えます。モニターが OFF の場合は、モニター・データ・クラスの設定に関係なく、モニター・データは累積も収集もされません。

ON

CICS モニターをオンに切り替えます。モニターが ON の場合、アクティブなモニター・データの各クラスに対してモニター・データが連続的に累積および収集されます (SMF データ・セットに書き出される)。

PERF

パフォーマンス・クラスのモニター・データを収集します。

RESRC

トランザクション・リソース・クラスのモニター・データが収集されます。

SYNCPPOINT

同期点がタスク終了や同期点ロールバックの一部である場合を除いて、トランザクションが明示的または暗黙的な同期点 (作業単位) を取得するときにトランザクション・パフォーマンス・クラス・レコードを生成します。

TSQUEUELIMIT (value)

CICS がトランザクション・リソース・モニターを実行する一時記憶域キューの最大数。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

URIMAPLIMIT(value)

WEB OPEN URIMAP コマンドに指定された URIMAP のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

WEBSERVLIMIT(value)

INVOKE SERVICE コマンドに指定された WEBSERVICE のうち、CICS のトランザクション・リソース・モニターの実行対象にする最大数。0 から 64 までの範囲の値を指定しなければなりません。

CEMT SET MQCONN

CICS と IBM MQ との間の接続の属性に関する情報を変更し、接続を開始または停止します。

CICS Explorer では、[「MQ 接続」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

SET MQCONN コマンドは、現在インストールされている MQCONN リソース定義 (IBM MQ の接続の定義) の属性を変更し、接続を開始および停止する場合に使用します。

一度にインストールできる MQCONN リソース定義は 1 つだけであるため、入力時に MQCONN リソース定義の名前を指定する必要はありません。

このコマンドは、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性 (開始キューの名前を指定する属性) を設定するコマンドではありません。MQMONITOR リソース定義 DFHMQINI の QNAME 属性 (MQCONN リソース定義を使用して動的にインストールされ、デフォルトの開始キューを表す) を変更する場合は、MQCONN リソース定義の INITQNAME 属性を変更してから、MQCONN リソース定義を再インストールする必要があります。

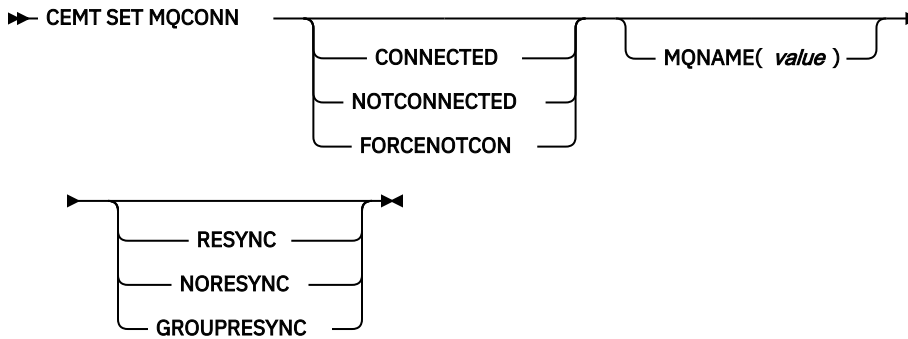
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET MQCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE MQCONN** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET MQCONN (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。

SET MQCONN



条件: NOTAUTH、NOTFND

オプション

CONNECTST(value)

CICS と IBM MQ との間の接続を開始または停止します。有効な値は、以下のとおりです。

CONNECTED

CICS-MQ 接続を開始します。要求されたキュー・マネージャーがアクティブになっていれば、CICS と IBM MQ が接続されたときに、制御権がアプリケーションに戻されます。要求先のキュー・マネージャーがアクティブになっていなければ、CICS は、要求先のキュー・マネージャーがアクティブになった時点ですぐに IBM MQ に接続します。

NOTCONNECTED

CICS-MQ 接続を停止します。接続が停止する前に、実行中のトランザクションを完了できます。この要求は非同期的な性質を持っています。つまり、要求の完了前に、制御はアプリケーションに戻されます。

FORCENOTCON

CICS-MQ 接続を停止します。IBM MQ を現在使用している CICS トランザクションがすべて異常終了し、IBM MQ への接続が停止します。この要求は同期的な性質を持っています。つまり、接続が停止するまで、制御はアプリケーションに戻されません。

MQNAME(value)

CICS の接続先の IBM MQ のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループの名前 (1 から 4 文字) を指定します。CICS は、キュー・マネージャーまたはキュー共用グループのアクティブなメンバーへの接続を試行します。MQNAME を変更できるのは、CICS が IBM MQ に接続していない場合に限り限られます。

MQNAME を指定すると、インストール済みの MQCONN リソース定義の MQNAME 属性で指定したキュー・マネージャー名またはキュー共用グループが、このコマンドで指定した名前に置き換えられます。元のキュー・マネージャーまたはキュー共用グループに戻す場合、MQNAME を再び設定する必要があります。

RESYNCMEMBER(value)

このオプションは、CICS-MQ 接続でキュー共用グループを指定している場合にのみ適用されます。これは、CICS がキュー共用グループから最後に接続したキュー・マネージャーで未処理の作業単位が保留になっている場合に CICS が採用する方針を指定するオプションです。未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体がそれらの作業単位を解決できないので、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。有効な値は、以下のとおりです。

RESYNC

CICS は、同じキュー・マネージャーに接続します。

NORESINC

CICS は同じキュー・マネージャーへの接続を一回試行します。CICS は、この試行に失敗すると、キュー共用グループの任意のメンバーに接続し、未処理の作業単位に関する警告を出します。

GROUPRESYNC

CICS は、キュー共用グループの任意のメンバーに接続します。キュー・マネージャーが IBM MQ によって選択され、そのキュー・マネージャーは、キュー共用グループ内のすべての適格キュー・マネージャーの代わりに、未確定の作業単位を解決することを CICS に要求します。この機能のことをグループ・リカバリー単位といいます。GROUPRESYNC オプションを使用できるのは、CICS のグループ・リカバリー単位をサポートしているリリースの IBM MQ を実行していて、IBM MQ キュー・マネージャーで GROUPUR 属性が有効になっている場合に限り限られます。

EXEC CICS SET MQCONN CONNECTED コマンドを使用し、RESYNCMEMBER(GROUPRESYNC) を設定して、CICS から IBM MQ に接続しようとしたときに、IBM MQ でグループ・リカバリー単位がサポートされていなかったり、グループ・リカバリー単位が有効になっていなかったりすると、IBM MQ によってその接続試行は拒否されます。その接続試行は、SET コマンドの失敗という結果になり、INVREQ と RESP2=9 (接続エラー) が生成されます。

IBM MQ で作業単位が未処理になっている場合は、RESYNCMEMBER の設定を変更しないでください。変更すると作業単位を解決できなくなるからです。CICS で保留になっている作業単位は、リソース・マネージャーの修飾子で特定できます。RESYNCMEMBER(GROUPRESYNC) を使用する場合は、キュー共用グループの名前が修飾子になり、そうでない場合は、個々のキュー・マネージャーの名前が修飾子になります。

CEMT SET MQMONITOR

MQMONITOR リソース定義を使用可能または使用不可に設定します。MQ モニターを開始または停止します。MQ モニターの自動再始動を設定します。

SET MQMONITOR コマンドを使用して、MQMONITOR リソース定義の使用可能または使用不可化 (**ENABLESTATUS** 属性)、MQ モニターの開始または停止 (**MONSTATUS** 属性)、または MQ モニターの自動再始動の設定 (**AUTOSTART** 属性) を行います。

このコマンドは、他の MQMONITOR 属性を設定しません。これらの属性を変更する場合は、リソース定義を変更した後、リソースを再インストールする必要があります。

予約済み MQMONITOR リソース定義 DFHMQINI の **QNAME** 属性を変更したい場合は、DFHMQINI がインストールされている MQCONN リソース定義の **INITQNAME** 属性を変更してから、MQCONN リソース定義を再インストールする必要があります。

構文

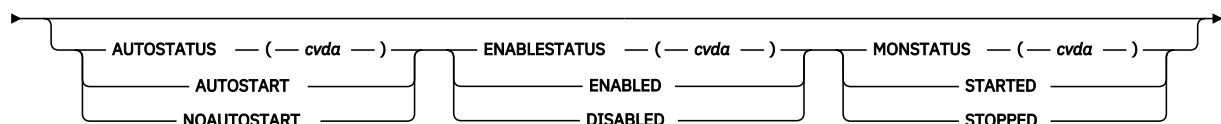
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET MQMONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE MQMONITOR** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET MQMONITOR (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。

SET MQMONITOR

➡ SET MQMONITOR — (— *data-value* —) ➡



状態: IOERR、INVREQ、NOTAUTH、NOTFND、TRANIDER、USERIDERR

オプション

AUTOSTART(*cvda*)

MQ モニターを自動的に開始するかどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

AUTOSTART

MQ モニターは、次のいずれかのシチュエーションで自動的に開始します。

- IBM MQ キューへの接続が確立された場合。
- z/OS ワークロード・マネージャー (WLM) ヘルス・サービスがアクティブで (WLMHEALTH を参照)、CICS 領域の z/OS WLM **HEALTH** 値のすべての増分がゼロから 100% の場合。詳しくは、[MQMONITOR に対する z/OS ワークロード・マネージャー正常性サービスの影響およびアラート・モニター \(CKAM\)](#) を参照してください。

NOAUTOSTART

MQ モニターは自動的に開始しません。

ENABLESTATUS(*cvda*)

MQMONITOR リソース定義が使用可能かどうかを指定します。CVDA 値は以下のとおりです。

ENABLED

MQMONITOR リソース定義を使用可能にします。

DISABLED

MQMONITOR リソース定義を使用不可にします。

MONSTATUS(*cvda*)

MQ モニターを開始または停止します。CVDA 値は以下のとおりです。

STARTED

MQ モニターを開始します。

STOPPED

MQ モニターを停止します。

MQMONITOR(*data-value*)

設定する MQMONITOR リソースの 8 文字の名前を指定します。

CEMT SET NETNAME

ネットワークの状況を変更します。

CICS Explorer では、[「端末」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

ネットワーク名がわかっている場合は、**CEMT SET TERMINAL** コマンドの代わりにこのコマンドを使用できます (425 ページの『**CEMT SET TERMINAL**』を参照)。ただし、APPC セッションには **CEMT SET NETNAME** コマンドは使用できません。

ネット名は、リモート・システムまたは端末がネットワーク上で認識される名前です。NETNAME の残りのオペランドは、TERMINAL のオペランドと同一です。

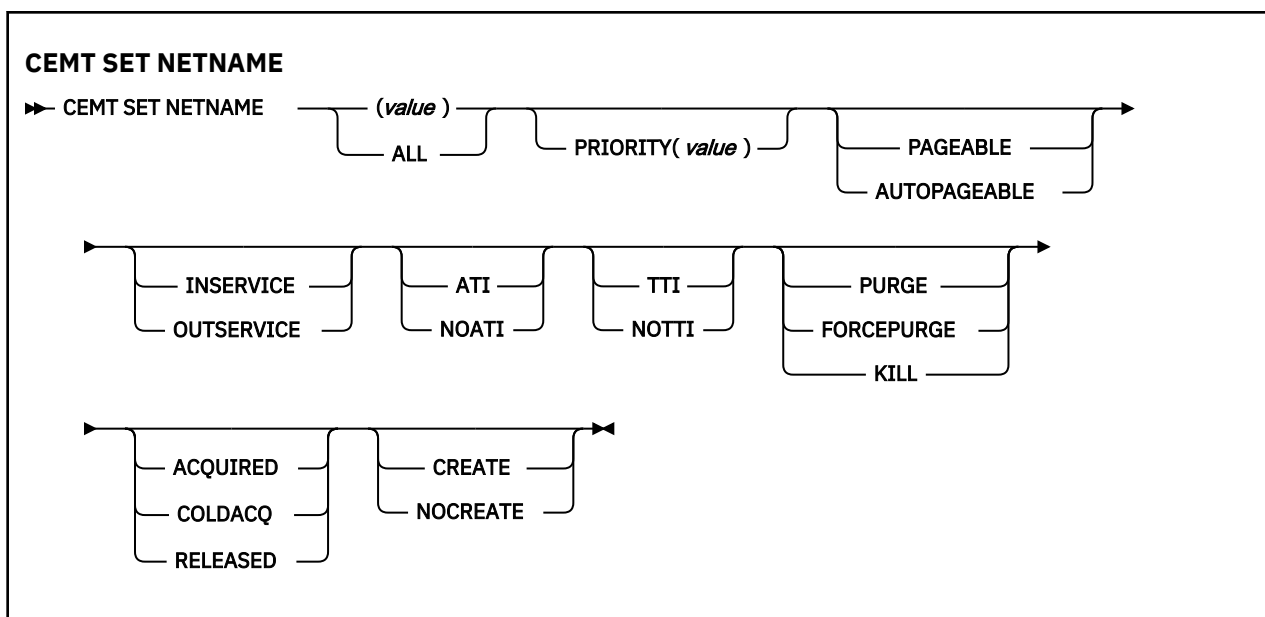
ネット名が固有である必要はなく、名前のリストを指定することはできません。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET NETNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いてネット名または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE NETNAME** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET NETNAME (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、ネット名または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt sn(netname) i at` は、指定したリモート・システムまたは端末を、サービス中で使用可能な状態にリセットします。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(value)

ネットワーク内でリモート 端末が認識される名前を指定します。

ACQUIRED (z/OS Communications Server のみ)

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

ATI (z/OS Communications Server のみ)

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションで使用でき、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できます。

AUTOPAGEABLE (z/OS Communications Server のみ)

一連のページのうちの最初のものより後のページが、自動的に端末に書き込まれます。

COLDACQ (z/OS Communications Server のみ)

これは特殊な形式の ACQUIRED で、再同期が必要ありません。直前のセッションが異常終了した場合、COLDACQ を使用すると CICS の保全性制御が無効になります。これは、保全性の問題につながります。また、CICS の障害後にセッションを再開したあとで、CSMT ログでアクティビティー・キーポイントを検査する必要があります。アクティビティー・キーポイントがない場合は、次の緊急時再始動後に COLDACQ を再発行する必要があります。

CREATE (z/OS Communications Server のみ)

端末がセッション内にない場合、ATI 要求を満たすために必要であれば、CICS がその端末を獲得します。これは、IRC セッションについて指定することはできません。

FORCEPURGE

この端末で実行されているトランザクションは、即時に異常終了します。データ保全性は保証されません。極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

INSERVICE (z/OS Communications Server のみ)

端末は使用可能です。z/OS Communications Server の場合、INSERVICE は端末を ACQUIRED (獲得) できることを意味します。

KILL

タスクを終了します。システムおよびデータの保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、最初にページまたは強制ページを試行した後でのみ使用してください。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、特定の状況においては停止した領域を解放して、領域が処理を継続できるようにします。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

NOATI (z/OS Communications Server のみ)

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションでは使用できず、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できません。

注: 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

NOCREATE (z/OS Communications Server のみ)

端末がセッション中でない場合、CICS は ATI 要求を満たすためにその端末を獲得することはありません。例えば ATI 要求が満たされるようにするには、その前に、ログオン要求または CEMT SET TERMINAL ACQUIRED コマンドによりセッションを開始する必要があります。

NOCREATE が LU6.1 ISC セッションに対して設定されており、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

NOTTI (z/OS Communications Server のみ)

この端末は、トランザクションで使用できません。

注: 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

OUTSERVICE (z/OS Communications Server のみ)

端末は使用不可です。端末を OUTSERVICE に設定することは、その端末をトランザクションが使用できなくなることを意味します。PURGE または FORCEPURGE も指定される場合、端末を使用するトランザクションは異常終了します。PURGE または FORCEPURGE が指定されない場合、トランザクションは正常終了することを許可されますが、以後のトランザクションは端末を使用できなくなります。z/OS Communications Server の場合はさらに、端末を OUTSERVICE に設定すると、即時に、または現行トランザクションが終了したときに端末が解放され、オペレーターはサインオフされます。

LU6.1 ISC セッションでは、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

IRC セッションを OUTSERVICE に設定するには、MRO パートナーへの接続を OUTSERVICE に設定する必要があります。

PAGEABLE (z/OS Communications Server のみ)

一連のページのうち最初のものより後のページは、書き込みを要求した場合にのみ端末に書き込まれます。

PRIORITY (value) (z/OS Communications Server のみ)

他の端末との対応で表される、その端末の優先順位を指定します。タスクの優先度はトランザクションの優先度、端末の優先度、およびオペレーターの優先度の合計です。優先度は、代替機能として使用されている ISC セッションの端末では意味を持ちません。この値は 0 から 255 の範囲内で指定する必要があります、255 で優先度が最高になります。

PURGE

この端末で実行されているタスクは異常終了しますが、タスクの終了はシステム 保全性を維持できる場合のみ行われます。

RELEASED (z/OS Communications Server のみ)

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中ではありません。端末を RELEASED に設定すると、セッションが終了します。PURGE または FORCEPURGE も指定されていない限り、トランザクションの実行は完了することができます。

TTI (z/OS Communications Server のみ)

この端末は、トランザクションで使用できます。

CEMT SET PIPELINE

PIPELINE リソースを有効または無効にします。

CICS Explorer では、[「パイプライン」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT トランザクションを使用して、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされているパイプラインだけを変更できます。オプション属性を省略した場合、このコマンドは効力を発揮しません。

CEMT SET PIPELINE コマンドを使用して、CICS バンドルに定義およびインストールされている PIPELINE リソースの状況を変更することはできません。

- 動的に生成された PIPELINE リソースの属性は変更できますが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。バンドルによってインストールされたリソースの属性を変更する場合、その CICS バンドルを無効にして破棄してから、必要な変更を行った新しいバージョンのバンドルをインストールする必要があります。
- 動的に生成された PIPELINE リソースの状況は、インストール元の BUNDLE リソースを使用可能または使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された PIPELINE リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

構文

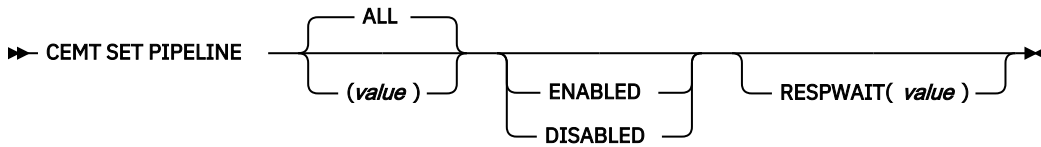
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET PIPELINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の PIPELINE ID を入力するか、ALL を入力します。CEMT INQUIRE PIPELINE コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

- CEMT SET PIPELINE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の PIPELINE ID を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s pi al e` と入力すると、すべての PIPELINE リソースが使用可能 (有効) になります。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

SET PIPELINE



条件: NOTAUTH、NOTFND

オプション

ALL

要求した 変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

(value)

PIPELINE リソースの名前 (1 から 8 文字) を指定します。

ENABLESTATUS

PIPELINE の状況を 設定します。

ENABLED

パイプラインは使用する準備ができています。

DISABLED

パイプラインは要求を処理しておらず、新しい作業を受け入れることができません。初期化が失敗したか、明示的に無効にされた可能性があります。

RESPWAIT(value)

アプリケーション・プログラムがリモート Web サービスからの応答メッセージを待つ時間 (秒) を指定します。値の範囲は 0 秒から 9999 秒までです。

値が指定されていない場合、トランスポート・プロトコルのデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

- HTTP のデフォルトのタイムアウト値は 10 秒です。
- MQ のデフォルトのタイムアウト値は 60 秒です。

CEMT SET PROCESSTYPE

CICS ビジネス・トランザクション・サービスのプロセス・タイプの属性を変更します。

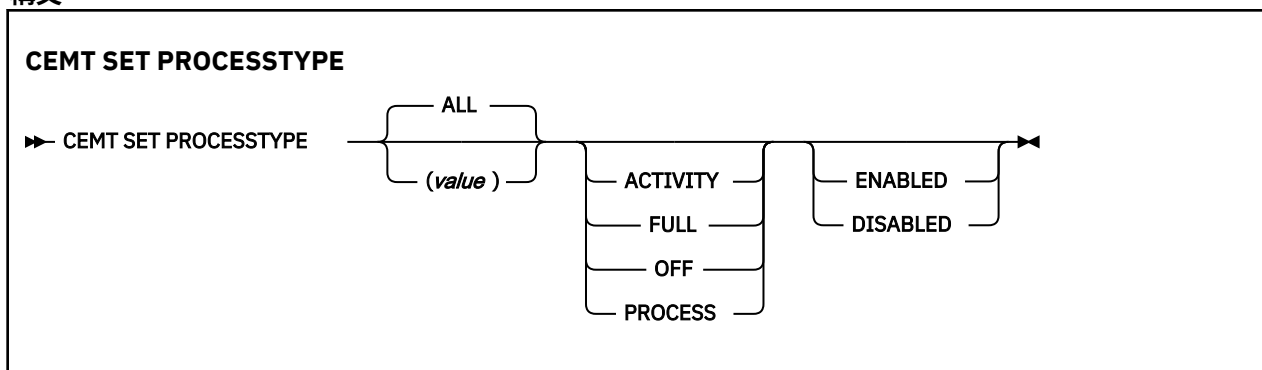
CICS Explorer では、[「プロセス・タイプ」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET PROCESSTYPE を使用して、監査ログの現在の状態、およびこの CICS 領域にインストールされている BTS PROCESSTYPE 定義の使用可能化状況を変更できます。

注: プロセス・タイプは、プロセス・タイプ・テーブル (PTT) に定義されています。CICS はこのテーブル内のエントリーを使用して、外部データ・セットのプロセス (およびそれを構成するアクティビティ) のレコードを保守します。BTS を単一の CICS 領域で使用する場合は、SET PROCESSTYPE コマンドを任意に使用して、プロセス・タイプを変更できます。ただし、CICSplex で BTS を使用する場合は、そのような変更を行うためには CICSplex SM を使用することを強くお勧めします。これは、CICSplex 全体で、リソース定義を互いにそろった状態に保つことが欠かせないためです。

構文



オプション

ACTIVITY|FULL|OFF|PROCESS

このタイプのプロセスに適用される監査ログのレベルを指定します。

注：インストールされている PROCESSTYPE 定義の AUDITLOG 属性は CICS ジャーナルの名前に設定されることはなく、OFF 以外の値を指定しようとすると、エラーが返されます。

値は以下のとおりです。

ACTIVITY

アクティビティー・レベルの監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティー 1 次監査ポイント

FULL

全監査。監査レコードは以下から書き込まれます。

1. プロセス監査ポイント
2. アクティビティー 1 次監査ポイントおよび 2 次監査ポイント

OFF

監査証跡レコードは書き込まれません。

PROCESS

プロセス・レベルの監査。監査レコードは、プロセス監査ポイントのみから書き込まれます。

プロセス、アクティビティー 1 次監査ポイント、およびアクティビティー 2 次監査ポイントから書き込まれるレコードの詳細については、[を参照してください。 監査ログのレベルの指定。](#)

ALL

指定した変更が、アクセスを許可されているすべてのプロセス・タイプに対して行われることを指定します。

ENABLED|DISABLED

このタイプの新規プロセスを作成できるかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

DISABLED

プロセス・タイプのインストール済み定義は使用不可です。このタイプの新しいプロセスを定義できません。

ENABLED

プロセス・タイプのインストール済み定義は使用可能です。このタイプの新しいプロセスを定義できます。

PROCESSTYPE(value)

属性を変更するプロセス・タイプの 8 文字の名前を指定します。

CEMT SET PROGRAM

インストール済みプログラムの属性を変更します。

CICS Explorer では、「[プログラム](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT トランザクションを使用して、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされているプログラムだけを変更できます。**CEMT SET PROGRAM** コマンドは、CICS バンドル内で定義およびインストールされたプログラムに対して使用できません。

- 動的に生成された PROGRAM リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された PROGRAM リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、CICS Explorer 製品資料内の『[Working with bundles](#)』を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

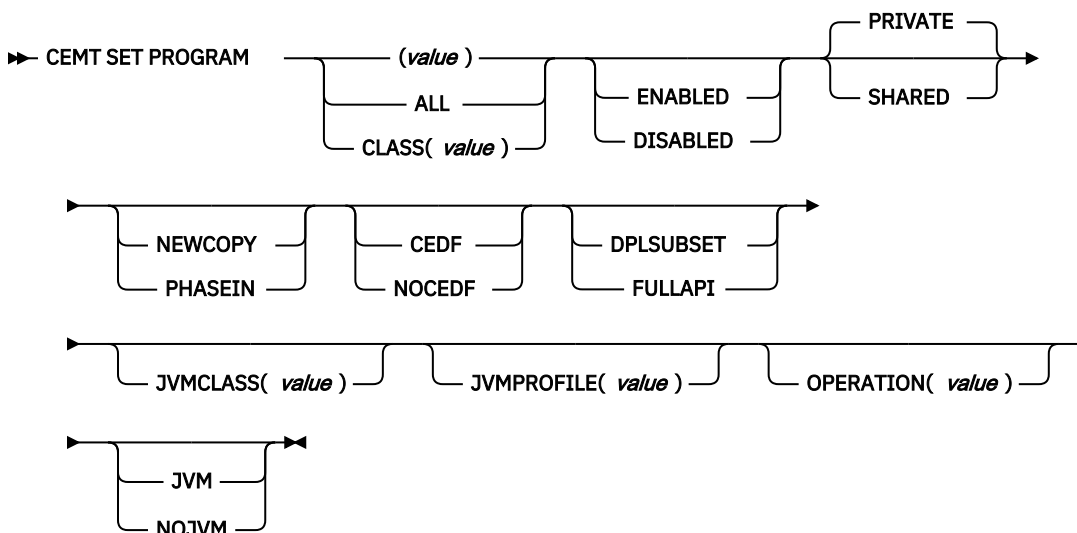
構文

CLEAR キーを押します。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET PROGRAM を pgrmid、CLASS(value)、または ALL と共に入力します。**CEMT INQUIRE PROGRAM** で取得される状況に類似した状況が表示されます。その後、タブ・キーを使用して強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドにナビゲートし、必要な値を入力できます。
- CEMT SET PROGRAM と入力し、それに続けて、変更する 1 つ以上の属性設定値を入力します。例えば、`cemt s prog(pgrmid) e ne` と入力すると、指定されたプログラムの値がリセットされて、使用可能 (有効) になります。プログラムを現在使用しているすべてのトランザクションが終了すると、プログラムの新しいコピーが使用されます (NEWCOPY)。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET PROGRAM



オプション

(value)

インストールされたプログラム定義のテーブルに含まれる特定のプログラム項目の名前である、プログラム ID (1 文字から 8 文字) を指定します。プログラム名を省略した場合、ALL オプションがデフォルトで想定されます。

CLASS オプションとプログラム名とを指定することはできません。

ALL

アクセスを許可されている、指定したタイプのすべての (最大 32766 までの) リソースに対して、要求した変更が行われることを指定します。この限度を超過した場合、要求は失敗して、どのリソースも更新されません。

CEDF

EDF がアクティブのとき、このプログラムの実行中に CEDF の開始画面および終了画面が CEDF によって表示されます。プログラムが NOEDF 変換プログラム・オプションを使用して変換されたのでない限り、他の画面も表示されます。

CLASS (value)

プログラム・リスト・テーブル (PLT) の 2 文字のサフィックスを指定します。このオプションを使用して、指定の PLT に定義されたプログラムを照会します。シャットダウン PLT とは異なり、始動 PLT ではプログラム定義を定義することは必須ではありません。ただし、CLASS オプションを使用する場合、*clasid* で指定された PLT のプログラム・リソース定義を定義してインストールする必要があります。

指定された *clasid* がプログラム定義のない PLT のサフィックスである場合、**INQUIRE PROGRAM CLASS(*clasid*)** コマンドは CLASS NOT FOUND メッセージを戻します。

CLASS とプログラム名とを指定することはできません。

DISABLED

プログラムは使用不可です。「DFH」で始まるプログラムは、これらの文字が CICS で使用するために予約されているので、使用不可にすることはできません。

DPLSUBSET

プログラムがローカル CICS 領域で実行されるとき、分散プログラム・リンク要求と同様に、DPL API サブセットに制限されます。

プログラムがリモート領域で DPL 要求を介して呼び出されるときには、このオプションには関係なく、常に DPL サブセットに制限されます。

ENABLED

プログラムは使用可能です。

FULLAPI

プログラムがローカル CICS 領域で実行されるとき、CICS API の DPL サブセットに制限されないで、全機能 API を使用できます。

JVM

プログラムは、プールされた Java 仮想マシン (JVM) で実行されます。

JVMCLASS (value)

JVM から制御を渡される Java プログラム内のメインクラスの名前を指定します。

JVMPROFILE (value)

この Java プログラムが実行されている JVM プールで使用する JVM プロファイルの 8 文字の名前を指定します。このプログラムのインスタンスのうち、プールされた JVM 内で古い JVM プロファイルを使用して現在実行中のものは影響を受けないため、実行を完了できます。JVM プロファイルは JVMSERVER リソースで設定されているため、JVM サーバーで実行される Java プログラムについては JVM プロファイルを入力できません。

実際の z/OS UNIX ファイル名と同じ大文字/小文字の組み合わせを使用して、プロファイル名を入力する必要があります。CEMT トランザクションを使用中に JVM プロファイルの名前を大/小文字混合で入力するならば、端末では必ず、大文字変換を無効にしてください。

NEWCOPY

CICS は、プログラムがトランザクションで使用されなくなると、そのプログラムの新規コピーを使用します。モジュールが使用中かどうかは、**INQUIRE PROGRAM** コマンドの **RESCOUNT** オプションで判別できます。値ゼロは、プログラムが使用されていないことを意味します。CICS は、単一トランザクション中、プログラムの使用が完了し、それ以降の使用がまだ開始していない時点で、プログラムを新規バージョンと置換することができます。

CICS は、**PRIVATE** オプションか **SHARED** オプションかに応じて、**DFHRPL** または動的 **LIBRARY** 連結から新規バージョンをロードするか、または **LPA** 常駐バージョンを使用します。**PRIVATE** がデフォルト設定です。

HOLD オプションで指定されたプログラムに、**NEWCOPY** を指定することはできません。

JVM で実行される Java プログラムに、**PHASEIN** を指定することはできません。プールされた JVM で実行する Java プログラムをリフレッシュするには、**PERFORM JVMPPOOL PHASEOUT** コマンドを使用します。JVM サーバーで実行する Java プログラムをリフレッシュするには、**JVMSEVER** リソースを無効にしてから有効にします。

CICS バンドルに定義およびインストールされている **PROGRAM** リソースに対して **NEWCOPY** を指定することはできません。新しいバージョンのプログラムを実装するには、古いバージョンの **CICS** バンドルを更新済みバージョンに置き換えます。**CICS** バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

NOJVM

プログラムは JVM では実行されません。**JVMCLASS** オプションの値は無視され、プログラムのランタイム環境は、そのプログラムが次に **CICS** でロードされ、そのランタイム環境が判別されるまでは認識されません。

NOCEDF

開始画面と終了画面を含むすべての **CEDF** アクティビティーが、プログラムの処理中に停止します。

OPERATION

このプログラムがエントリー・ポイントとして定義されているアプリケーション操作の名前を (最大 64 文字で) 指定します。

以下の条件が当てはまる場合は、**OPERATION** オプションを設定できません。

- プログラム・リソース自体にバンドルが定義されている。
- エントリー・ポイントとして使用されるプログラムを変更するバンドルのインストールにより、プログラム・リソースが変更された。
- プログラム・リソースが **CICS** プログラムである (「**DFH**」で始まるプログラム・リソース)。

プログラムがエントリー・ポイントとして使用されなくなったことを **CICS** に通知するには、**OPERATION** オプションでスペース 文字の値を指定します。

PHASEIN

CICS は、すべての新しいトランザクション要求に対して、プログラムの新しいコピーを使用するようになりました。現在実行中のすべてのトランザクションに対しては、それらが終了する (**RESCOUNT** がゼロに等しくなる) まで、**CICS** は引き続き従来のコピーを使用します。**CICS** は、**PRIVATE** オプションか **SHARED** オプションかに応じて、**DFHRPL** または動的 **LIBRARY** 連結から新規バージョンをロードするか、または **LPA** 常駐バージョンを使用します。**PRIVATE** がデフォルト設定です。

PHASEIN は **REFRESH PROGRAM** 機能を実行して、ローダー・ドメインに、プログラムの新しいバージョンがカタログされること、および指名されたプログラムのこのバージョンが将来のすべての **ACQUIRE** 要求で使用されなければならないことを知らせます。

プログラムの **RESCOUNT** がゼロになり、後続の **ACQUIRE PROGRAM** が実行されるまで、**CEMT INQUIRE PROGRAM ()** はプログラムの最初のコピーに関する情報を戻します。

HOLD オプションで指定されたプログラムに、**PHASEIN** を指定することはできません。

JVM で実行される Java プログラムに、**PHASEIN** を指定することはできません。プールされた JVM で実行する Java プログラムをリフレッシュするには、**PERFORM JVMPPOOL PHASEOUT** コマンドを使用し

ます。JVM サーバーで実行する Java プログラムをリフレッシュするには、JVMSERVER リソースを無効にしてから有効にします。

CICS バンドルに定義およびインストールされている PROGRAM リソースに対して PHASEIN を指定することはできません。新しいバージョンのプログラムを実装するには、古いバージョンの CICS バンドルを更新済みバージョンに置き換えます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

PRIVATE

プログラムの次の新しいコピーは DFHRPL または動的 LIBRARY 連結からロードされます。これはデフォルトのアクションです。

SHARED

CICS は、プログラムの次の新しいコピーとして、LPA からのプログラムの共用コピーを使用します。この値は、JVM で実行される Java プログラムでは無視されます。

CEMT SET QUEUE

キューの属性を変更します。

コメント

423 ページの『[CEMT SET TDQUEUE](#)』を参照してください。(QUEUE は、INQUIRE コマンドに対しては受け入れられますが、正しいキーワードは TDQUEUE です。)

CEMT SET STATISTICS

統計属性を変更します。

CICS Explorer では、[「領域」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET STATISTICS コマンドを使用して、統計の累積と記録を制御するいくつかの値を変更できます。

CICS 提供のユーティリティー・プログラム DFHSTUP を使用した統計の印刷については、[統計ユーティリティー・プログラム \(DFHSTUP\)](#)を参照してください。

INQUIRE コマンドまたは SET STATISTICS コマンドに NEXTTIME を指定することはできませんが、INQUIRE STATISTICS が発行されるとその値が表示されます。NEXTTIME は、統計が次に記録およびリセットされる時刻を示します。SET STATISTICS が OFF 条件の場合、これは 1 日の終わりです。それ以外の場合 (ON 条件では)、次の間隔が発生するか、1 日の終わりになるか、どちらか早いほうの時刻です。

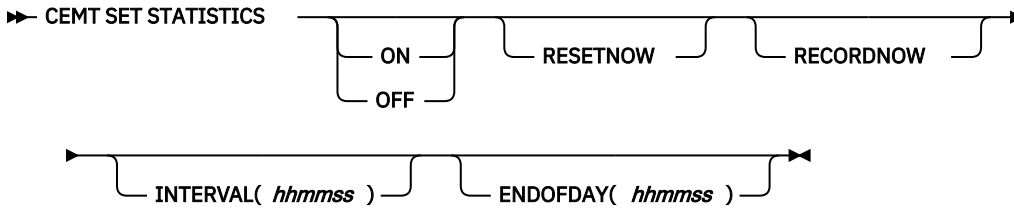
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET STATISTICS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE STATISTICS** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET STATISTICS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s st on res` は、CICS 統計を ON に切り替えて、統計カウンターをリセットします。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET STATISTICS



オプション

ENDOFDAY(hhmmss)

統計記録用の1日の終わり時刻を指定します。終業時に、CICS統計カウンターの現行値がSMFデータ・セットに書き出され、統計カウンターがリセットされます。

終業時刻の範囲は000000から235959でなければなりません。デフォルトの終業時刻は真夜中の12時(000000)です。

INTERVAL(hhmmss)

統計カウンターのインクリメントを行う時間間隔を指定します。各間隔の終わりに、累積した統計が記録され、統計カウンターがリセットされます。

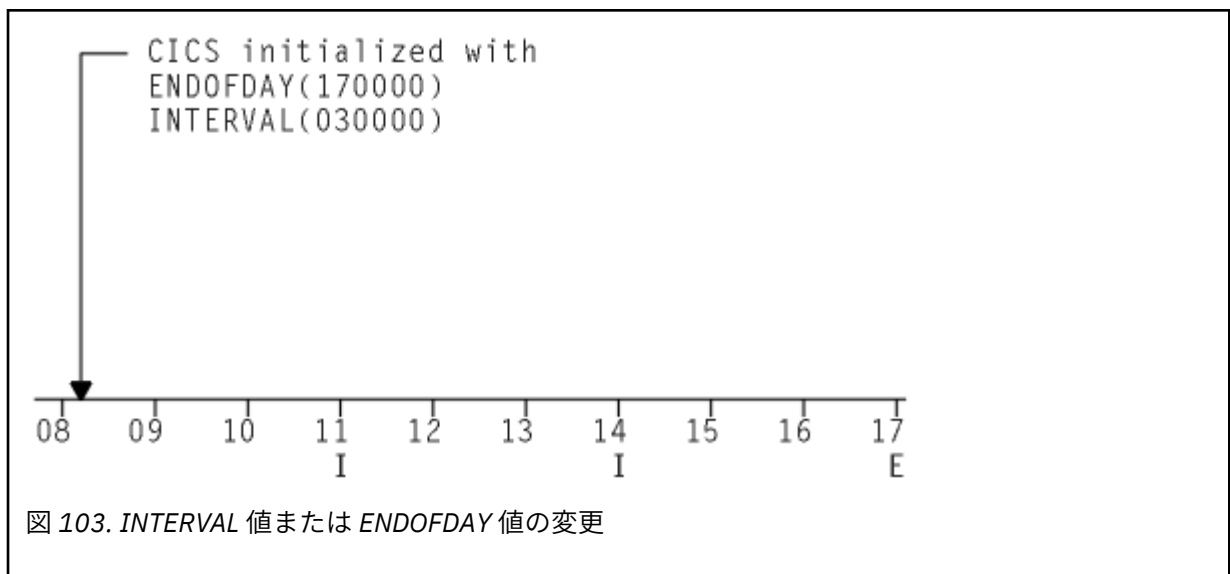
間隔時間の範囲は000100から240000でなければなりません。デフォルトの間隔値は010000(1時間)です。これらの間隔設定は、統計記録状況をONに設定した場合にのみ行われます。このコマンドでRECORDINGオプションを使用するか、**STATRCD**システム初期設定パラメーターを使用して、統計記録状況をONまたはOFFに設定できます。

1日の終わりになると、現行間隔は常に終了し(完全でない可能性があります)、新規間隔が開始されます。1日の終わり時刻が間隔の満了時刻と正確に一致する場合でも、1日の終わり時刻には1日の終わり統計のみが記録されます。

ENDOFDAYの値を変更すると、間隔統計が記録される時刻に直ちに影響があります。新しい間隔の有効期限時刻は、新しい1日の終わり時刻に従って再調整されます。

INTERVAL値またはENDOFDAY値を変更する場合(およびCICSを初期設定する場合にも)、1日の終わり時刻を起点にして整数回の間隔の経過後に満了するように、現行の(または最初の)間隔の長さが調整されます。

これらの規則の例を以下に示します。ここで、**I**は間隔記録を指定し、INTERVALは3時間ごとの間隔に設定され、CICSは08:15に初期設定され、**E**はENDOFDAYの設定を17:00に指定します。



注：この例では、CICS の初期設定がこれより早い時刻に行われていた場合、間隔は 08:00 に設定されます。

1 日の終わり記録が 24 時間をカバーするようにする場合は、INTERVAL を 240000 に設定します。

OFF

間隔統計の記録は OFF に切り替えられます。終了時刻、要求、および非送信請求統計は、常に記録されます。引き続き、カウンターは通常どおり増分され、終業時、要求、および非送信請求の各統計の記録が行われます。統計は、CEMT PERFORM STATISTICS コマンドを発行すればいつでも記録できます。

ON

間隔統計の記録は ON に切り替えられます。カウンターは通常どおり増分され、各間隔の満了時および終業時にリセットされます。統計は、CEMT PERFORM STATISTICS コマンドを発行すればいつでも記録できます。

RECORDNOW

既存の統計は SMF データ・セットに書き込まれます。書き込まれる統計は、最後の ENDOFDAY または INTERVAL の収集以降、またはこのコマンドまたは PERFORM STATISTICS コマンド内で RESETNOW 機能が最後に使用された時点以降に収集されたものです。RECORDNOW RESETNOW は、記録状況が変更されたときにのみ有効になります。

注：RECORDNOW RESETNOW は、両方とも統計カウンターをリセットするとともに、既存の統計を SMF データ・セットに書き込みます。書き込まれる統計は、最後の ENDOFDAY または INTERVAL の収集以降、またはこのコマンドまたは PERFORM STATISTICS コマンド内で RESETNOW 機能が最後に使用された時点以降に収集されたものです。RECORDNOW RESETNOW は、記録状況が変更されたときにのみ有効になります。

RESETNOW

統計 カウンターがリセットされます。リセットは、記録オプションを OFF から ON に、または ON から OFF に変更する場合にのみ有効になります。個々のカウンターをリセットした場合の影響については、[DFHSTUP レポート](#)の CICS 統計テーブルの説明を参照してください。

各カウンターのアクションは、以下のいずれかです。

- リセットされない
- ゼロにリセットされる
- 1 にリセットされる
- 現行値にリセットされる (ピーク値の場合)
- 上記に対する例外

CEMT SET SYDUMPCODE

システム・ダンプ・コードの属性を変更します。

説明

SET SYDUMPCODE コマンドを使用して、システム・ダンプ・テーブルに必要なエントリーを定義できます。システム・ダンプを制御するには、デフォルト・アクションから変更する必要があるダンプ・コードごとに、システム・ダンプ・テーブル内にエントリーを作成します。

システム・ダンプ・コードは、DFH 接頭部を除いた CICS メッセージ番号です。通常、2 つの英字と 4 つの数字からなる 6 文字のコードが残ります (例えば、AP0001)。コマンド構文には、最大 8 文字のダンプ・コードを指定でき、ユーザーが指定するダンプ・コードには末尾スペースが埋め込まれます。

各メッセージには固有のデフォルト・アクションがあり、SET コマンドを使用してこれらのアクションを必ずしもオーバーライドできるとは限りません。例えば、重大なエラーが発生したときは、ユーザーがシャットダウンを行わないように要求した場合でも、CICS はシャットダウンします。

他のシステム・パラメーターも、ダンプ・テーブル・エントリーより優先されることがあります。例えば、EXEC CICS SET SYSTEM NOSYSDUMP コマンド、または DUMP=NO システム初期設定パラメーターは、システム・ダンプを抑制します。ダンプの使用について詳しくは、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

トランザクション・ダンプ・コマンド **SET TRDUMPCODE** により、指定されたトランザクション・ダンプ・コードのシステム・ダンプを生成するように CICS に指示することもできます。

SET コマンドを使用すると、以下のことが可能です。

- 新規エントリーをシステム・ダンプ・テーブルに追加する
- システム・ダンプ・テーブルからエントリーを除去する
- システム・ダンプを作成するかどうかを指示する
- システム・ダンプ要求がローカルか関連かを指示する
- CICS がダンプの後にシャットダウンするかどうかを指示する
- ダンプの最大数を設定する
- 現在のダンプ数のカウンターをゼロにリセットする
- CICS によって生成されたダンプが、MVS ダンプ分析重複回避機能 (DAE) コンポーネントによる抑止の対象であるかどうかを判別する

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET SYDUMPCODE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて *value* または ALL を入力します。 **CEMT INQUIRE SYDUMPCODE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET SYDUMPCODE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、*value* または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、以下のコマンドはシステム・ダンプ・コードを追加します。

```
CEMT SET SYDUMPCODE(value) ADD
```

以下のコマンドは、システム・ダンプ・コードを削除します。

```
CEMT SET SYDUMPCODE(value) REMOVE
```

以下のコマンドは、このシステム・ダンプ・コードのダンプ呼び出しの最大数を 10 に変更します。

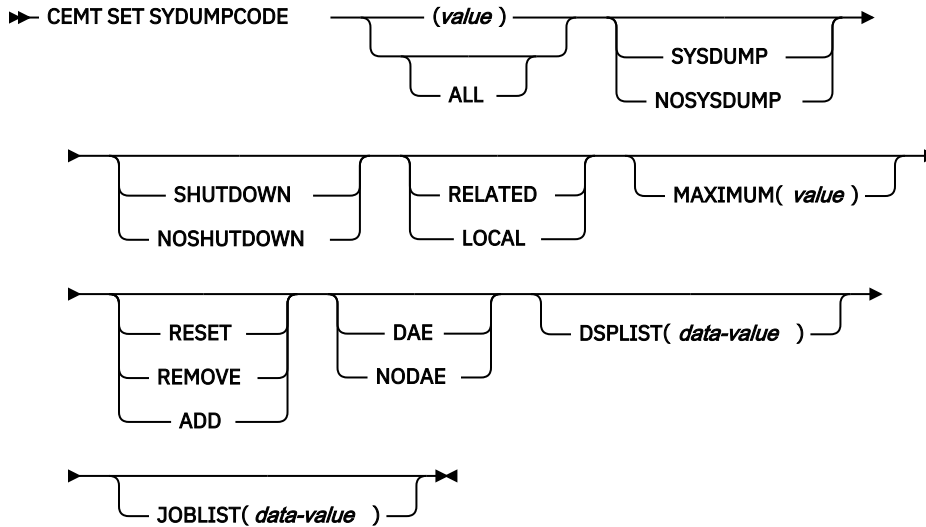
```
CEMT SET SYDUMPCODE(value) MAX(10)
```

以下のコマンドは、このシステム・ダンプ・コードの発生時に CICS をシャットダウンします。

```
CEMT SET SYDUMPCODE(value) SHUTDOWN
```

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET SYDUMPCODE



オプション

(value)

8 文字のシステム・ダンプ・コードを指定します。

ADD

指定したシステム・ダンプ・コードをシステム・ダンプ・コード・テーブルに追加します。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

DAE

システム・ダンプは DAE コンポーネントによる抑止の対象です。

DSPLIST(data-value)

ダンプを作成するデータ・スペースのリストを指定します。このフィールドには、最大 255 文字が含まれます。データ・スペース名はコンマで区切られます。ワイルドカードもサポートされています。データ・スペースを指定するには、その所有アドレス・スペース名と、それに続けてピリオド、およびデータ・スペース名を指定する必要があります。以下の例は、SMSVSAM とカップリング・ファシリティのデータ・スペースのダンプを要求する方法を示しています。

```
DSPLIST(SMSVSAM.*,XCFAS.*)
```

詳しくは、「[z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference \(Volume 3\)](#)」の SDUMPX に関する説明を参照してください。

注：ユーザーは、**CEMT SET SYDUMPCODE** で **DSPLIST** を指定するために、少なくとも SET コマンドに対する CONTROL アクセス権限を持っている必要があります。

JOBLIST(data-value)

ダンプ対象であるアドレス・スペースのリストを指定します。このフィールドには、最大 134 文字が含まれます。アドレス・スペース名はコンマで区切られます。ワイルドカードもサポートされています。最大 15 個のアドレス・スペース名を入力できます。ただし、一致する結果として 15 を超えるアドレス・スペースが存在する場合は、最初の 15 個のスペースのみがダンプ対象になります。以下の例は、SMSVSAM とカップリング・ファシリティのアドレス・スペースのダンプを要求する方法を示しています。

```
JOBLIST(SMSVSAM,XCFAS)
```

注：ユーザーは、**CEMT SET SYDUMPCODE** で **JOBLIST** を指定するために、少なくとも SET コマンドに対する CONTROL アクセス権限を持っている必要があります。

詳しくは、「[z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference \(Volume 3\)](#)」の SDUMPX に関する説明を参照してください。

LOCAL

このシステム・ダンプ・コードについては、システム・ダンプ要求がシスプレックス内の他の MVS イメージに送信されません。

MAXIMUM (value)

システム・ダンプの作成が行われる、このシステム・ダンプ・コードのダンプ呼び出しの最大数を指定します。値は 0 から 999 までの範囲の値である必要があります。値 999 は、デフォルト (制限なし) を意味します。

NODAE

システム・ダンプは DAE コンポーネントによって抑止されません。ただし、ADYSETxx parmlib メンバーに SUPPRESS および SUPPRESSALL オプションが指定されていると、NODAE がここで設定されていてもダンプが抑止される可能性があります。これらのオプションは、SDWA 内の VRADAE キーと VRANODAE キーによって制御されます。DAE、SUPPRESS、および SUPPRESSALL については、[z/OS MVS 診断: ツールと保守援助プログラム](#)を参照してください。

NOSHUTDOWN

このダンプ・コードに対応するエラーが発生した後、CICS はシャットダウンしません。

NOSYSDUMP

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプを作成しません。

RELATED

ダンプが開始された CICS 領域に関連した、XCF/MRO 接続の CICS 領域を実行するシスプレックス内の MVS イメージに、システム・ダンプ要求が送信されます。

注：関連した CICS 領域とは、その領域内にある 1 つ以上のタスクの作業単位 ID (APPC トークンの形式) が、ダンプ要求を発行した CICS 領域内の ID と一致する場合を指します。

REMOVE

このシステム・ダンプ・コードをシステム・ダンプ・コード・テーブルから削除します。

RESET

このダンプ・コードの現在の呼び出し回数をゼロにリセットします。

SHUTDOWN

CICS をシャットダウンする。

SHUTDOWN オプションを指定する場合、1 日の終わり統計 (シャットダウン統計) は SMF に書き込まれないので、これらの統計は失われます。

SYSDUMP

このシステム・ダンプ・コードのシステム・ダンプを作成します。

CEMT SET SYSTEM

CICS システム属性を変更します。

CICS Explorer では、「[領域](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

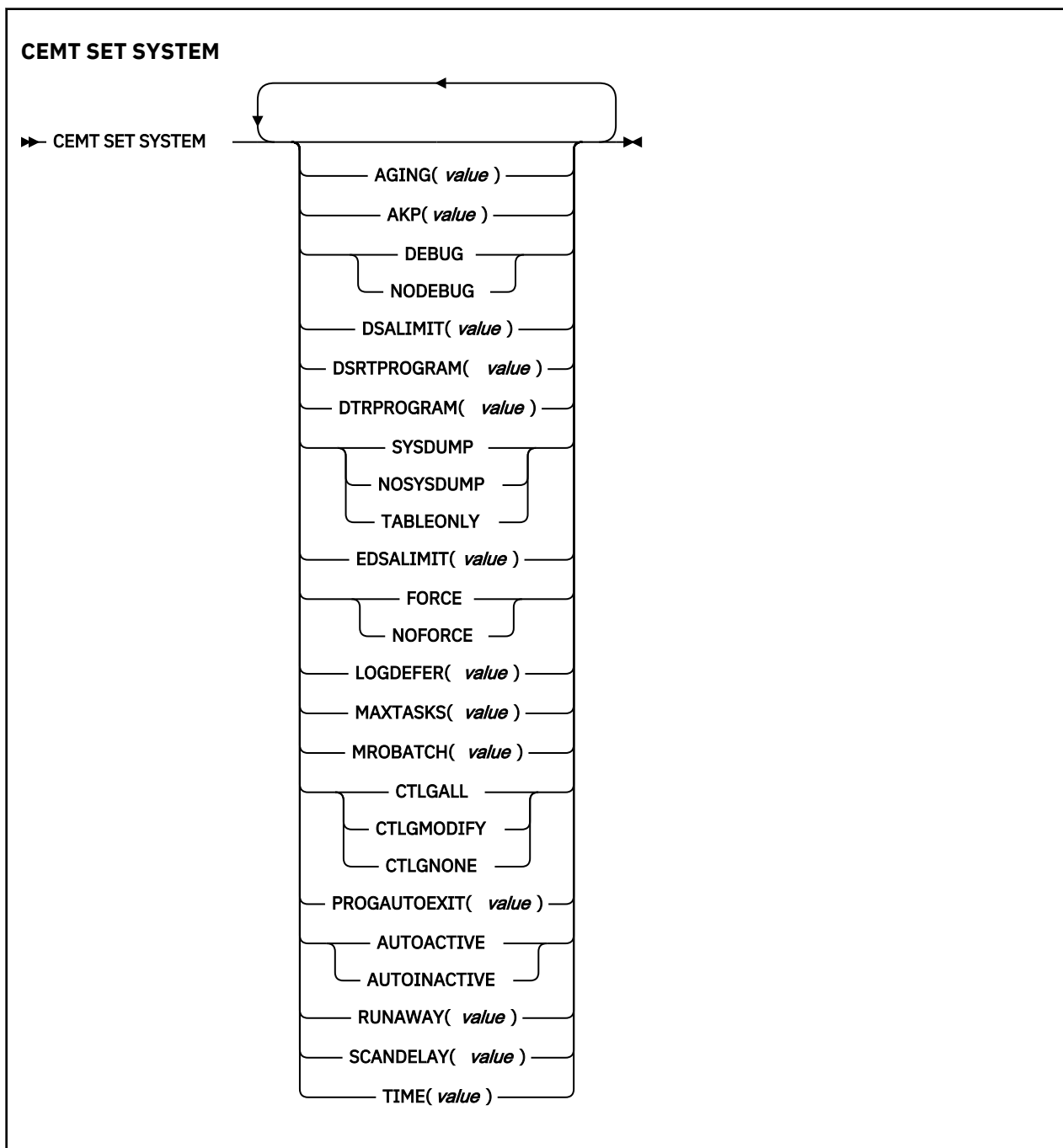
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMENT SET と入力します。SYSTEM キーワードはデフォルトであると想定されるため、入力する必要はありません。その結果、CEMT INQUIRE SYSTEM を使用して取得される内容に類似した、現在の状況がリスト表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。

- CEMT SET と入力し、それに続けて、変更する 1 つ以上の属性設定値を入力します。例えば、`cemt set ag(value) ma(value)` は、優先順位繰り上げの値、および CICS システムで一度に許可されるタスクの最大数を再設定します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

AGING (value)

タスクの優先度を上げるために優先順位繰り上げアルゴリズムで使用する CICS の時間係数を指定します。この値は"優先順位繰り上げ単位当たりのミリ秒数"で表され、その範囲は 0 から 65535 でなければなりません。優先順位繰り上げ係数は、最初は **PRTYAGE** システム 初期設定パラメーターで定義されます。このパラメーターの値は待機タスクの優先度を 1 ずつ上方調整するのににかかるミリ秒数を表します。

AKP (value)

活動キーポイント・トリガー値を指定します。この値は、キーポイント処理間の CICS システム・ログ・ストリーム出力バッファへの書き込み要求の数です。値は活動キーポイント処理をオフにすることを意味するゼロにするか、50 から 65535 までの範囲で指定します。システム初期設定で AKPFREQ=0 が指定されている場合は、この値は変更できません。

AUTOACTIVE

プログラムの自動インストールはアクティブです。初回使用時にプログラム、マップ・セット、または区画セットが定義されていない場合は、定義が動的に作成されます。

AUTOINACTIVE

自動インストールはアクティブではありません。定義されていないプログラムが参照されると、PGMIDERR またはトランザクション異常終了が発生します。

CTLGALL

自動インストールされたプログラム定義はすべてカタログされ、ウォーム・リスタートまたは緊急リスタートにより復元されます。

CTLGMODIFY

自動インストールされたプログラム定義は、変更された場合 (例えば CEMT SET PROGRAM コマンドを実行した場合) にのみカタログされ、ウォーム・リスタートまたは緊急リスタートでは変更後の定義が復元されます。

CTLGNONE

自動インストールされたプログラム定義はカタログされません。ウォーム・リスタートまたは緊急リスタート後もう一度自動インストールされます。

DEBUG

デバッグ・ツールの制御下で実行するプログラムを選択するために CICS デバッグ・プロファイルを使用できることを指定します。デバッグ・プロファイルを使用するデバッグ・ツールは、以下のとおりです。

- コンパイル言語アプリケーション・プログラム (COBOL、PL/I、C、C++、およびアセンブラで作成されたプログラム) 用のデバッグ・ツール
- リモート・デバッグ・ツール (コンパイル言語アプリケーション・プログラムおよび Java プログラムの場合)

CICS 実行診断機能 (CEDF) などの他のデバッグ・メカニズムは、デバッグ・プロファイルを使用しません。

デバッグ・プロファイルについて詳しくは、[デバッグ・プロファイル](#)を参照してください。

DSALIMIT (value)

CICS が 16 MB 境界より下にある 4 つの個々の DSA で動的に割り振ることができるストレージの最大量をバイトの総数で指定します。詳しくは、[DSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。このパラメーターで現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

注: DSA 限界に対する動的な変更は *local* カタログにカタログされ、初期、コールド、ウォームのすべての形式の再始動でシステム初期設定テーブルで指定された値をオーバーライドします。次の場合には、カタログ値は使用されません。

- 始動値をシステム初期設定パラメーターのオーバーライドとして (例えば SYSIN で) 指定した場合。
- CICS カタログ・データ・セットを再初期化する場合。

注: DSA の制限を動的に変更することは可能ですが、緊急状況への対処中に領域の循環を避けようとしている場合を除いては、制限を変更しないことをお勧めします。DSA の制限の変更は CICS の観点からは正常に行われたとしても、大きくなった DSA は連続しなくなるので、制限を増やすことによって他の問題が生じる可能性があります。MVS は、高位の専用域からは低位に向かってストレージを割り振り、低位の専用域からは高位に向かって割り振ります。DSA の制限を動的に増やすと、MVS 専用ストレージ域の中央にある新しいストレージの部分が CICS によって割り振られます。MVS がこの領域のストレージを使用している状況によっては、結果として S878 または S80A 異常終了が発生するリスクが高まる可能性があります。

同様に、DSA の制限を動的に減らすと、MVS が使用するためのストレージが実際に戻されたとしても、ストレージが戻される場所是不確定であり、MVS が必要とする場所には存在しない可能性が高くなります。

CICS の統計を定期的に監視し、問題が起こる前に DSA の制限と MXT の制限を調整してください。

DSRTPROGRAM (value)

分散ルーティング・プログラムの名前を指定します。

DTRPROGRAM (value)

動的ルーティング・プログラムの名前を指定します。

EDSALIMIT (value)

ストレージの最大容量を、合計バイト数で指定します。CICS はこの範囲内で、16 MB より上、ただし 2 GB より下にある DSA のそれぞれに動的にストレージを割り振ることができます。詳しくは、[EDSALIM システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。**EDSALIMIT** で現在の制限より低い値を指定すると、CICS が新しい制限をすぐにインプリメントしない場合がありますが、個々の DSA で動的ストレージが解放されるにつれて、インプリメントを試みます。

注：EDSA 限界に対する動的な変更は *local* カタログにカタログされ、初期、コールド、ウォームのすべての形式の再始動でシステム初期設定テーブルで指定された値をオーバーライドします。次の場合には、カタログ値は使用されません。

- ・ 始動値をシステム初期設定パラメーターのオーバーライドとして (例えば SYSIN で) 指定した場合。
- ・ CICS カタログ・データ・セットを再初期化する場合。

注：EDSA の制限を動的に変更することは可能ですが、緊急状況への対処中に領域の循環を避けようとしている場合を除いては、制限を変更しないことをお勧めします。EDSA の制限の変更は CICS の観点からは正常に行われたとしても、大きくなった EDSA は連続しなくなるので、制限を増やすことによって他の問題が生じる可能性があります。MVS は、高位の専用域からは低位に向かってストレージを割り振り、低位の専用域からは高位に向かって割り振ります。EDSA の制限を動的に増やすと、MVS 専用ストレージ域の中央にある新しいストレージの部分が CICS によって割り振られます。MVS がこの領域のストレージを使用している状況によっては、結果として S878 または S80A 異常終了が発生するリスクが高まる可能性があります。

同様に、EDSA の制限を動的に減らすと、MVS が使用するためのストレージが実際に戻されたとしても、ストレージが戻される場所是不確定であり、MVS が必要とする場所には存在しない可能性が高くなります。

CICS の統計を定期的に監視し、問題が起こる前に EDSA の制限と MXT の制限を調整してください。

FORCE

CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を使用して定義されている場合でも、すべての CICS API ユーザー・アプリケーション・プログラムを QR TCB の下で強制的に実行します。**FORCE** オプションは、特定のプログラム、例えば OPENAPI プログラムや、XPLINK でコンパイルされた C/C++ プログラムなどには適用されません。詳しくは、[FORCEQR システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

LOGDEFER (value)

ログ延期間隔をミリ秒で指定します。この間隔は、MVS システム・ロガーを起動するまでの、強制ジャーナル書き込み要求を遅らせる期間を決定する場合に、CICS ログ・マネージャーで使用される期間です。値の範囲は 0 から 65535 までです。詳細については、[LGDFINT システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

MAXTASKS (value)

CICS システム内で常に許可される、アクティブおよび中断状態の両方のタスクの最大数を指定します。値の範囲は 10 から 2000 までです。

注：MAXTASKS に割り当てられる値は、CICS ストレージの制約により、要求値より小さくなる場合があります。その場合は、要求時に CEILING REACHED というメッセージが表示されます。

MROBATCH (value)

接続領域からの MRO 要求をいくつバッチ処理した後に、この領域に通知を送るかを指定します。値の範囲は 1 から 255 までです。

NODEBUG

デバッグ・ツールの制御下で実行されるプログラムを選択するために、CICS デバッグ・プロファイルを使用しないことを指定します。デバッグ・プロファイルを使用するデバッグ・ツールは、以下のとおりです。

- ・コンパイル言語アプリケーション・プログラム (COBOL、PL/I、C、C++、およびアセンブラで作成されたプログラム) 用のデバッグ・ツール
- ・リモート・デバッグ・ツール (コンパイル言語アプリケーション・プログラムおよび Java プログラムの場合)

CICS 実行診断機能 (CEDF) などの他のデバッグ・メカニズムは、デバッグ・プロファイルを使用しません。

デバッグ・プロファイルについて詳しくは、[デバッグ・プロファイル](#)を参照してください。

NOFORCE

ユーザー・アプリケーション・プログラムを QR TCB の下で実行するように強制しません。CICS は、ユーザー・アプリケーション・プログラムで CONCURRENCY(THREADSAFE) 属性を尊重し、不要な TCB 交換を避けるためにそのユーザー・プログラムがオープン TCB を実行することを許可します。

NOSYSDDUMP

システム・ダンプが抑制されるように指定します。

PROGAUTOEXIT (value)

モデル定義を選択または変更するためにプログラム自動インストール・コードによって呼び出されるユーザー提供プログラムの名前を指定します。

RUNAWAY (value)

タスクがループしていると想定されるまでに制御を保持できる間隔 (ミリ秒) を指定します。

0、または 250 から 2700000 までの範囲の値を指定できます。選択した値は、250 の倍数で切り捨てられます。CICS は、この間隔の後に制御から解放されない場合 (つまり、タスクがループしているように思われる場合) にタスクをページします。ゼロを指定すると、ランナウェイ・タスク制御は作動不能になります (つまり、タスクがループしているように見えても、そのタスクは消去されません)。この値は **TIME** 値には依存しないため、**TIME** 値より小さくすることができます。

CICS ランナウェイ・タスク検出はタスク時間に基づいているので、タスクがプロセッサの制御権を持つ場合のみ間隔が小さくなります。したがって、値を設定する際には、他のジョブの結果を考慮する必要はありません。

SCANDELAY (value)

最初に ICVTSD システム初期設定パラメーターで設定された、CICS 領域の端末スキャン遅延時間の値を指定します。デフォルト値はゼロです。端末スキャン遅延機能は、以前のリリースでは、オーバーヘッドを分散して要求を処理するために、アプリケーションによる一部のタイプの端末出力要求を CICS が処理する速度を制限する目的で使用されていました。CICS システムが SNA 以外のネットワークを使用していたときには、ゼロ以外の値を指定することが適切な場合もありました。ただし SNA および IPIC ネットワークでは、応答時間を向上させ、仮想ストレージを最良の方法で使用するには、ICVTSD を 0 に設定するのが適切です。必要に応じて、この値は 0-5000 ミリ秒の範囲で別の値を上書き入力してリセットすることができます。

SYSDUMP

システム・ダンプが抑制されないように指定します。

TABLEONLY

sdump の取得を許可するエントリーがダンプ・テーブルに含まれているシステム・ダンプ以外は、システム・ダンプを抑止することを指定します。

TIME (value)

処理を再開できるトランザクションがない場合に CICS がオペレーティング・システムに制御を解放する間隔 (ミリ秒) を指定します。この間隔は、領域出口間隔と呼ばれます。

値は 100 から 3600000 までの範囲で、**SCANDELAY** の値以上でなければなりません。

ディスパッチャー統計の要約報告書では、**TIME** の値が ICV 時間値になっています。

CEMT SET TASK

1 つ以上のタスクの状況を変更して、タスクを終了するか、優先順位を変更します。

CICS Explorer では、「[タスク](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

タスクを終了でき、タスクの終了前にシステムとデータの保全性を維持するか、システム保全性のみを維持するか、またはどちらも維持しないかを指定できます。タスクの優先順位を設定できます。

ID のリストを指定したり、アスタリスク (*) やプラス (+) 記号を使用してタスクのファミリーを指定したりすることはできません。

Java のタスクが PURGE 要求に応答する方法に関する重要情報については、[Java タスクのページ](#)を参照してください。

CICS は、タスクをパージまたは強制パージするときに、そのタスクに Db2 で現在アクティブな Db2 スレッドがあることを検出すると、CICS タスクのパージを進める前に Db2 スレッド取り消し要求を発行します。これにより、パージによって Db2 の問題が発生することがなく、Db2 の更新が安全にバックアウトされるようになります。タスクに Db2 スレッドがあっても、そのスレッドが現在 Db2 でアクティブでなければ、スレッドの取り消しは必要ありません。タスクをパージした結果として CICS が作業単位をバックアウトする場合には、その Db2 スレッドが、Db2 の更新をバックアウトするために通常どおり使用されます。この機能を実行するには、DB2 バージョン 11 以降で APAR PI92893 が必要です。

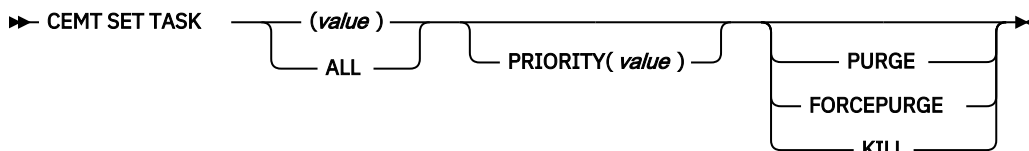
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TASK (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (*value*) または ALL を入力します。結果として、現在の状況がリスト表示されます。この表示は、**CEMT INQUIRE TASK** コマンドを使用して得られる状況と同様です。その後、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに移動して、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET TASK (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(*value*) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s ta(value) pu` は、指定したタスクをシステム停止状態でパージ可能にします。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET TASK



オプション

(*value*)

CICS によって生成されるタスク番号。この範囲は 1 から 99999 までです。

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

FORCEPURGE

システム保全性と整合した時点で直ちにタスクを終了し、データ保全性は考慮しません。CICS は、強制パージが安全であるかどうか常に判断することはできず、このオプションを指定するとシステムが異常終了する可能性があります。バックアウト処理中にタスクが強制的にパージされると、CICS は異常

終了します。タスクを終了させる一方、CICS は終了させない場合には、代わりに PURGE オプションを使用してください。

KILL

タスクを終了します。システムおよびデータの保全本性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、最初にページまたは強制ページを試行した後でのみ使用してください。KILL オプションはどんな種類の保全本性も保証しませんが、特定の状況においては停止した領域を解放して、領域の処理を続行可能にするために使用できます。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

PRIORITY (value)

タスクの優先順位を 0 から 255 の範囲で指定します。255 が最高の優先順位です。

PURGE

システムとデータの保全本性が両方とも維持できるようになると、直ちにタスクを終了します。

タスクがオープン TCB に関連付けられている場合は、タスクが最終的にページされるまで、約 1 分間の遅延が発生する場合があります。

注: 実行している TRANSACTION の定義が SPURGE=NO を指定している場合、**SET PURGE** を発行することはできません。

CEMT SET TCLASS

トランザクション・クラスのタスクおよび消去のしきい値の最大数をリセットします。

CICS Explorer では、「[トランザクション・クラス](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

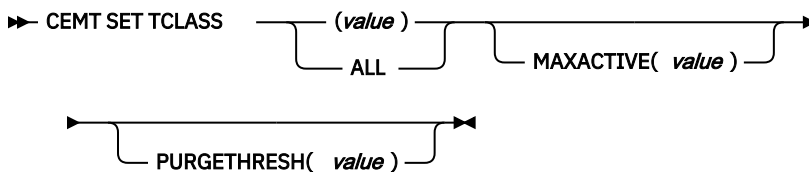
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET TCLASS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (value) または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE TCLASS** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET TCLASS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s tc(value) p(3)` は、ページしきい値を 3 にリセットします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET TCLASS



オプション

(value)

8 文字のトランザクション・クラス名を指定します。トランザクション・クラス名が割り当てられていない場合は、デフォルトで DFHTCL00 に設定されます。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

MAXACTIVE (value)

トランザクション・クラス内で同時に実行できるトランザクションの最大数を指定します。0 から 999 までの範囲の値を指定できます。

PURGETHRESH (value)

トランザクション・クラスのキューイング・トランザクションがページされる制限を指定します。指定できる値の範囲は 0 から 10000000 までです。ゼロは、トランザクションがページされないことを意味します。非ゼロの数値「n」は、最初に到着した (n-1) 個のトランザクションがキューに入れられ、n 番目がページされることを意味します。

CEMT SET TCPIP

CICS TCP/IP サービスをオープンまたはクローズします。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET TCPIP コマンドを使用して、CICS 内部ソケット・サポートを開いたり閉じたりすることができます。

注：このコマンドは、TCP/IP for z/OS の CICS ソケット機能によって提供されるソケット・サポートには影響を与えません。

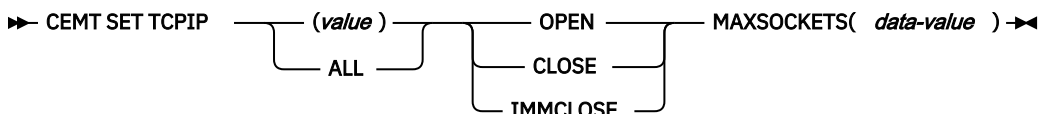
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TCPIP (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE TCPIP** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET TCPIP (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(value) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s tcpip status open` は、CICS 内部ソケット・サポートを開きます。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET TCPIP



オプション

OPENSTATUS

TCP/IP サポートを開くか閉じるかを指定します。また、TCP/IP サポートを閉じる場合は、閉じる方法を指定します。

OPEN

CICS 内部ソケット・サポートを開きます (つまり、新規に着信する作業を処理でき、進行中の作業を完了できます)。

注：CEMT SET TCPIP OPEN を使用して CICS ソケットを初期設定する場合は、CICS 初期設定時に SIT または SIT オーバーライドによって TCPIP=YES も設定する必要があります。そうしなければ、「NOT IN SYSTEM」が返されます。

CLOSE

CICS 内部ソケット・サポートを閉じます。現在開いている場合、CICS はすべての内部ソケットのアクティビティを休止してから、CICS が着信する作業を listen しているソケットを閉じます。CICS 内部ソケットを使用しているタスクは完了できます。

IMMCLOSE

CICS 内部ソケット・サポートを閉じます。現在開いている場合、内部ソケットを使用しているタスクは異常終了し、その後で CICS は着信する作業を listen しているソケットを閉じます。

MAXSOCKETS(data-value)

CICS ソケット・ドメインが管理できる IP ソケットの最大数を指定します。

CICS ジョブを実行しているユーザー ID がスーパーユーザー権限を持っている場合、ソケット・ドメインは最大 65535 個のソケットを管理できます。

CICS ジョブを実行しているユーザー ID がスーパーユーザー権限を持っていない場合、ソケット・ドメインが管理できるソケットの最大数は、SYS1.PARMLIB メンバー BPXPRMxx 内の **MAXFILEPROC** パラメーターで指定されている数に限られます。**SET SYSTEM** コマンドを使用して **MAXFILEPROC** の値より大きい値を指定した場合、CICS はこの制限を **MAXFILEPROC** の値にリセットします。要求が行われると、メッセージ「MAXFILEPROC LIMIT REACHED」が表示されます。

CICS によって管理されていないスレッド上で実行中の Java プログラムによって作成されたソケットは、制限のカウント対象にならないことに注意してください。

現在アクティブであるソケットの数より制限を小さくすると、CICS は、アクティブ・ソケットの数が限度を下回るまで、新しいソケットが作成されないようにします。

CEMT SET TCPIP SERVICE

CICS 内部 TCP/IP サポートを使用するサービスの状況または属性を変更します。

CICS Explorer では、「TCP/IP サービス」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET TCPIP SERVICE コマンドを使用して、CICS 内部 TCP/IP サポートを使用するサービスに関連する情報を更新できます。

注：このコマンドは、TCP/IP for CICS ソケット機能によって提供されるソケット・サポートには影響を及ぼしません。

CICS バンドル内で定義され、インストールされた TCPIP SERVICE リソースの状況を変更するには、CICS バンドルを使用可能または使用不可にします。CICS バンドルを使用不可にしたにもかかわらず、サービスがまだクローズしていない場合、動的に生成されたリソースに対して **SET TCPIP SERVICE IMMCLOSE** コマンドを発行して、サービスを即時にクローズすることができます。

CICS バンドルの中で定義され、インストールされた TCPIP SERVICE リソースの属性に変更を加えるには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用することにより、CICS バンドル内の定義に変更を加え、CICS バンドルまたはそのデプロイ時に使用されたアプリケーションの新しいバージョンをインストールします。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。

- CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。
- CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

動的に生成されたリソースの属性を変更するために **SET TCPIP SERVICE** コマンドを使用することは可能ですが、変更内容はカタログされず、CICS のウォーム・リスタートの後に回復されません。

構文

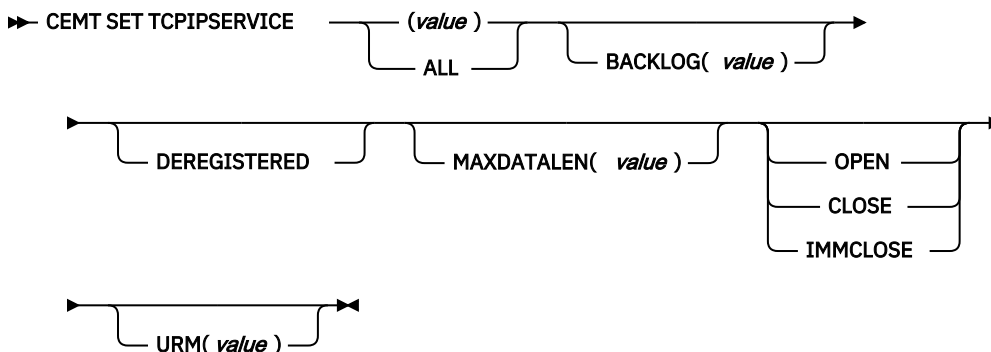
Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TCPIP SERVICE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。CEMT INQUIRE TCPIP SERVICE コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。

- CEMT SET TCPIPS (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(value) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s tcpips status open` は、CICS 内部ソケット・サポートを開きます。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET TCPIP SERVICE



オプション

BACKLOG

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数。この値を変更する前に、サービスの状況がクローズになっている必要があります。BACKLOG の値が TCP/IP 属性 SOMAXCONN の値より小さい場合は、BACKLOG 属性によって指定されたバックログ値を使用して TCPIPService が開かれます。BACKLOG の値が SOMAXCONN よりも大きい場合、TCPIPService は SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用して開かれます。デフォルトは 0 です。これは、TCPIPService が SOMAXCONN で指定されたバックログ値を使用して開かれることを示しています。

TCP/IP でサービスによる処理を待機するキューに入れることができる要求の最大数。この値を変更する前に、サービスの状況がクローズになっている必要があります。BACKLOG をゼロに設定すると、CICS は接続を受信しません。BACKLOG の値が SOMAXCONN の TCP/IP 構成値よりも大きい場合、TCP/IP は SOMAXCONN 属性で指定された値を使用します。

MAXDATALEN

HTTP サーバーとしての CICS によって受信することが可能なデータの最大長。指定できる値は 3 から 524288K までです。デフォルトは 32K です。

OPENSTATUS

サービスの状況。以下のとおりです。

OPEN

CICS は、指定されたポートで着信要求の listen を開始します。TCPIPService が SPECIFTCPS 値を指定している場合は、その名前を持つオープン状態の TCPIPService が検出される必要があります。OPEN を正常に実行するには、同じセキュリティ属性が設定されている必要があります。SPECIFTCPS に指定されている TCPIPService が、別のオープン状態の TCPIPService に既に関連付けられている場合、OPEN は失敗します。

CLOSED

CICS は、このサービスの新規接続の受け入れを停止します。関連したすべてのソケットがクローズすると、サービスがクローズします。このサービスを使用している開始済みのタスクは完了できません。

SET TCPIPService OPENSTATUS(CLOSED) コマンドが発行された後、CICS は以下のように HTTP 持続接続をクローズしようとします。

- HTTP 持続接続の要求がある場合、CICS は次の要求の処理を許可します。処理が完了すると、CICS はクライアントに close ヘッダーを送信してから、HTTP 持続接続をクローズします。

- HTTP 持続接続の要求がない場合、CICS は、30 秒以内、またはこの値が 30 秒未満である場合は、TCPIP SERVICE の SOCKETCLOSE 属性で指定された時間内に、HTTP 持続接続をクローズします。

IPIC 高可用性環境では、CLOSED は、これに関連付けられているすべての汎用 TCPIP SERVICE に適用されます。汎用 TCPIP SERVICE 名は、このリソースの GENERIC TCPS オプションに記録されます。

IMMCLOSE

CICS は、このサービスの新規接続の受け入れを停止します。サービスは即時に閉じられ、関連したすべてのソケットが閉じられます。このサービスを使用して開始されたタスクは、データ伝送がソケットを介して試行されたときにのみ、エラー応答を受け取ります (タスク終了時に行われる可能性があります)。IPIC 高可用性環境では、IMMCLOSE はこのサービスに関連付けられた総称 TCPIP SERVICE に適用されます。総称 TCPIP SERVICE 名は、このリソースの GENERIC TCPS オプションに記録されます。

URM

接続されたタスクによってサービス・ユーザー置き換え可能モジュールとして使用されるプログラムの 8 文字の名前を戻します。インストール固有のプログラム、またはこのサービスに対する CICS 提供のデフォルトのいずれかを指定できます。

CEMT SET TDQUEUE

一時データ・キューの属性を変更します。

CICS Explorer では、「[TD キュー](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET TDQUEUE コマンドは、一時データ・キューの一部の属性を変更します。キューは REMOTE または INDIRECT であってはなりません。

次の属性は、キューが完全に使用不可にならない限り変更できません。

- ATIFACILITY
- ATITERMID
- ATITRANID

一時データ宛先を使用不可にするには、キューが現在使用中であってはなりません。使用中の場合、キューは「使用不可ペンディング」状態になります。キューを最後に使用した作業単位 (UOW) はキューを完全に使用不可にします。TRIGGERLEVEL、OPENSTATUS、および ENABLESTATUS の各属性は、キューが使用可能または使用不可のどちらであっても変更できます。キューが「使用不可ペンディング」状態になっているときに、ENABLESTATUS 属性の値を変更することはできません。

一時データ・キューは、使用中のとき、またはタスクがその使用を待機しているときに使用不可にすることはできません。

間接キューとリモート・キューは、使用中という概念がないため、いつでも使用不可にすることができます。

タスクが区画外キュー、物理的にリカバリー可能なキュー、またはリカバリー不能な区画内キューを使用するため待機している場合に、キューを使用不可にしようとすると、キューは「使用不可の保留」状態になります。区画外キューを使用する最後のタスクが、キューを完全に使用不可にします。

キューに入れられた UOW が存在する場合に、論理的にリカバリー可能な区画内 TD キューを使用不可にしようとすると、キューは「使用不可ペンディング」状態になります。エンキューを最後に取得した UOW が、キューを完全に使用不可にします。UOW が論理的にリカバリー可能なキューを更新した場合に、未確定障害が発生すると、そのキューは未確定障害が解決するまで使用不可にできません。

UOW が、「使用不可ペンディング」状態のキューのエンキューを所有している場合は、更新を続行できます。

キューが「使用不可ペンディング」状態である場合、新規タスクがキューの状態やその内容を変更することはできません。「使用不可ペンディング」状態の宛先に対して READQ、WRITEQ、または DELETEQ のいずれかの要求が発行されると、使用不可の応答が返されます。

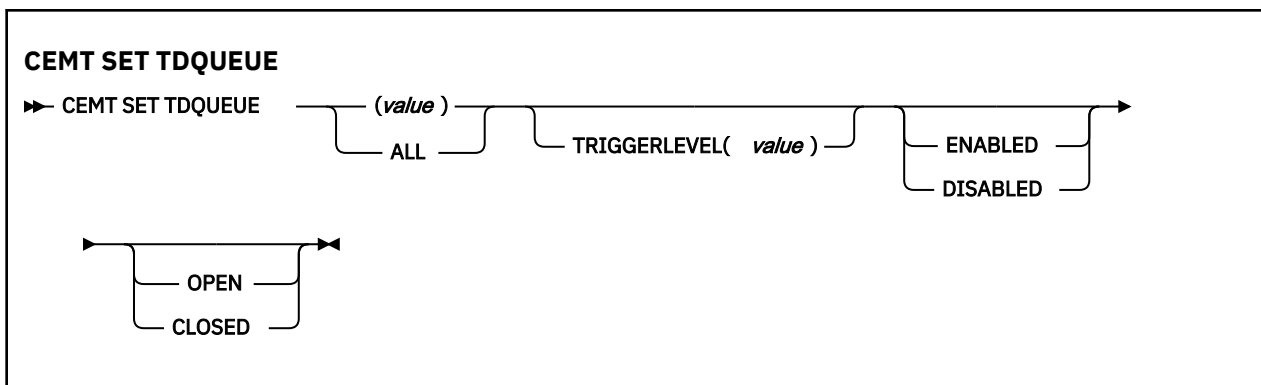
タスクが論理的にリカバリー可能な一時データ・キューを更新した場合に、同じ UOW 内でキューを使用不可にしてキューの属性 (例えば、ATITRANID) を変更しようとする、呼び出しは失敗します。これは、UOW がキューのユーザーであり、キューが「使用不可ペンディング」状態になっているためです。キュー属性の SET 操作 (この例では ATITRANID) は、失敗します。同期点で UOW のコミットまたはバックアウトが行われるまで、キューは完全に使用不可になりません。**SET TDQUEUE** コマンドを使用してキュー属性 (ATITRANID) を更新する前に、**EXEC CICS SYNCPOINT** コマンドを発行することをお勧めします。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TDQUEUE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (*value*) または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE TDQUEUE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドを tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET TDQUEUE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(*value*) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s td(value) en op` を入力すると、指定した区画外キューはアプリケーションからアクセス可能になり、開かれます。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(*value*)

一時データ・キューの 1 から 4 文字の ID。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

CLOSED

キューはクローズ状態です。

DISABLED

キューはまだ開いておくことができますが、アプリケーションはキューにアクセスできません。未確定障害が発生したキューは使用不可にできません。

ENABLED

アプリケーションによって、キューにアクセスできます。

OPEN

区画外キューが開いています。

TRIGGERLEVEL (value)

自動トランザクション開始 (ATI) が行われるために、その前に発生する必要があるキューへの出力の要求数を指定します。値は 0 から 32767 までです。ゼロの値を指定すると、ATI は使用不可になります。

CEMT SET TEMPSTORAGE

CICS 領域内の主一時記憶域キューで使用可能なストレージの量を設定します。

CICS Explorer では、「[TS キュー](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT SET TEMPSTORAGE コマンドは、主一時記憶域キューが使用できるストレージの量の限度を変更します。

この限度を変更する際には、z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の現在の設定を確認してください。**MEMLIMIT** は、CICS アドレス・スペースが使用可能な 64 ビット・ストレージの量を制限します。**TSMMAINLIMIT** の設定は、**MEMLIMIT** 値の 25% を超えてはなりません。CEMT コマンド **INQUIRE DSAS** または **INQUIRE SYSTEM** を使用して、CICS システムに現在適用される **MEMLIMIT** の値を検索します。

構文

CEMT SET TEMPSTORAGE

➡ CEMENT SET TEMPSTORAGE — TSMMAINLIMIT(value) →

オプション

TSMMAINLIMIT(value)

CICS で主一時記憶域キューに使用可能なストレージの最大容量を指定します。最小値は 1048576 バイト (1 MB) で、最大値は 34359738368 バイト (32768 MB または 32 GB) です。

この値は、バイト単位、メガバイト単位 (文字 M を後に付ける)、またはギガバイト単位 (文字 G を後に付ける) で入力できます。値をバイト単位で入力する場合は、最も近いメガバイトに切り捨てられます。

TSMMAINLIMIT 設定を減らした場合、CICS は許容ストレージ内に現在の使用量の上に 25% 以上のフリー・スペースを維持するようにして、一時記憶域の書き込み要求数がすぐに TSMMAINLIMIT に達しないようにします。値は以下のとおりに設定します。

- 現在のフリー・スペースが 25% 未満の場合、TSMMAINLIMIT は変更されないままです。
- 新規の制限の 25% 以上がフリー・スペースである場合、選択した値に設定が引き下げられます。
- 新規の制限の 25% 未満がフリー・スペースである場合、現在の使用率にその使用率の 33% を加算した値まで設定が引き下げられます。

TSMMAINLIMIT の設定値を増やす場合、値は次のように設定されます。

- 新しい値が z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の値の 25% 以下である場合、選択した値が設定されます。
- 新しい値が **MEMLIMIT** 値の 25% より大きい場合、TSMMAINLIMIT は未変更のままです。

CEMT SET TERMINAL

指名された端末の属性を変更します。

CICS Explorer では、「[端末](#)」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET TERMINAL コマンドは、指定された端末の一部の値を変更します。これは、APPC セッションには使用できません。

SNA 環境では、端末は CICS が通信できる SNA 論理単位の CICS 表現です。(SNA 環境とは、CICS が SNA 論理装置と通信するためのアクセス方式として z/OS Communications Server を使用していることを意味します。)

この論理装置には、以下のものが可能です。

- 物理端末 (3277 など)
- クラスター・コントローラーの機能 (3790 タイプ 2 バッチ機能など)
- CEDA トランザクションにより生成されたシステム間連絡 (ISC) または領域間通信 (IRC) セッション。

ネットワーク名がわかっている場合は、これらの名前を使用するコマンドを使用したほうがやりやすいでしょう。399 ページの『CEMT SET NETNAME』を参照してください。

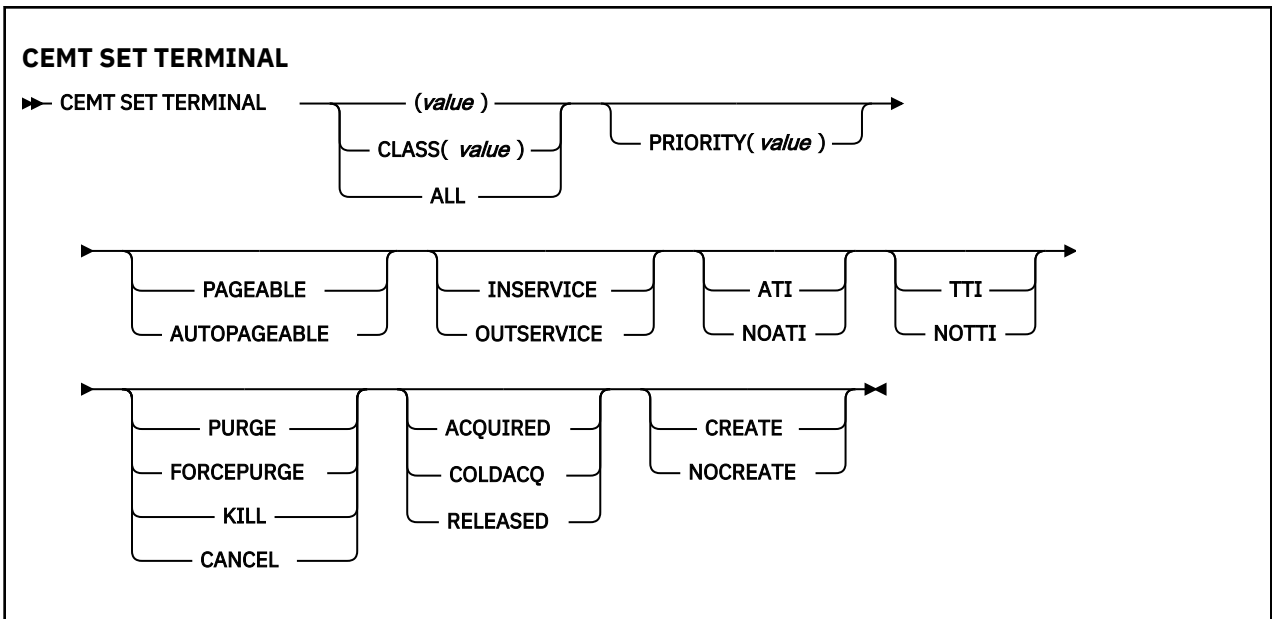
端末のリカバリーが進行中の場合は、「TEMP OUT SERVICE」というメッセージが表示される場合があります。「TEMP OUT SERVICE」標識をリセットするには、画面を最新表示するか、INS フィールドに INS または OUT を上書きします。「TEMP OUT SERVICE」が引き続き表示される場合は、この標識の原因を調べてください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TERMINAL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (value)、CLASS(value)、または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE TERMINAL** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET TERMINAL (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (value)、CLASS(value)、または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s te(value) i cr` は、指定した端末が使用可能であり (ins ervice)、ATI トランザクションによって自動的に取得可能である (create) ことを示しています。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(value)

インストールされている端末定義で指定されている端末 ID (1 文字から 4 文字)。

例えば、端末名が S201 の場合、このオプションは次のようになります。

```
CEMT SET TERMINAL(S201)
```

ACQUIRED (z/OS Communications Server のみ)

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

ATI (z/OS Communications Server のみ)

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションで使用でき、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できます。

AUTOPAGEABLE (z/OS Communications Server のみ)

一連のページのうちの最初のものより後のページが、自動的に端末に書き込まれます。

CANCEL

指定した端末に対する自動開始記述子 (AID) のキューイングを取り消します。指定の端末のためにローカル CICS システムで待機している AID (スケジュールされた割り振り済みの要求を表すもの) が取り消されます。しかし、関連の起動されるタスクが既に開始されている TD AID は取り消されません。

取り消されたスケジュール済み要求に先行する要求がリモート CICS システムに存在する場合、このリモート AID は非同期に取り消されます。メッセージ DFHTF0100 が CSMT に書き込まれます。このメッセージには、端末において削除された AID の数と、残っている AID の数が示されています。

CEMT SET TERMINAL コマンドの CANCEL オプションを使用して AID が削除された場合には、CEMT パネルに「AIDS CANCELED (AID が取り消されました)」というメッセージが必ず表示されます。

CLASS (value)

端末リスト・テーブル (TLT) の 1 文字または 2 文字の接尾部。

COLDACQ (z/OS Communications Server のみ)

これは特殊な形式の ACQUIRED で、再同期が必要ありません。直前のセッションが異常終了した場合、COLDACQ を使用すると CICS の保全性制御が無効になります。これは、保全性の問題につながります。また、CICS の障害後にセッションを再開したあとで、CSMT ログでアクティビティ・キーポイントを検査する必要があります。アクティビティ・キーポイントがない場合は、次の緊急時再始動後に COLDACQ を再発行する必要があります。

CREATE (z/OS Communications Server のみ)

端末がセッション内でない場合で、ATI 要求を満たすために必要な場合は、CICS がその端末を獲得します。

FORCEPURGE

この端末で実行するトランザクションは即時異常終了します。データ保全性は保証されません。極端な場合 (バックアウト処理中にエラーが発生するなど)、CICS は異常終了することがあります。

INSERVICE

端末は使用可能です。z/OS Communications Server の場合、INSERVICE は端末を ACQUIRED (獲得) できることを意味します。

KILL

タスクを終了します。システムおよびデータの保全性は保証されません。KILL オプションは、PURGE および FORCEPURGE オプションを拡張します。このオプションは、最初にページまたは強制ページを試行した後でのみ使用してください。KILL オプションはどのような種類の保全性も保証しませんが、特定の状況においては停止した領域を解放して、領域が処理を継続できるようにします。場合によっては (例えば、タスクがバックアウト処理中に kill される場合)、CICS は異常終了します。

NOATI (z/OS Communications Server のみ)

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションでは使用できず、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できません。

注: 端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

NOCREATE (z/OS Communications Server のみ)

端末がセッション内でない場合、CICS は ATI 要求を満たすためにそれを獲得することはしません。例えば ATI 要求が満たされるようにするには、その前に、ログオン要求または **CEMT SET TERMINAL ACQUIRED** コマンドによりセッションを開始する必要があります。

NOCREATE が LU6.1 ISC セッションに対して設定されており、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

NOTTI (z/OS Communications Server のみ)

この端末から開始されるトランザクションは、この端末を使用できません。

注：端末を、NOATI と NOTTI の両方として定義することはできません。

OUTSERVICE

端末は使用不可です。端末を OUTSERVICE に設定することは、その端末をトランザクションが使用できなくなることを意味します。PURGE または FORCEPURGE も指定される場合、端末を使用するトランザクションは異常終了します。PURGE または FORCEPURGE が指定されない場合、トランザクションは正常終了できますが、以後のトランザクションが端末を使用できなくなります。z/OS Communications Server の場合はさらに、端末を OUTSERVICE に設定すると、即時に、または現行トランザクションが終了したときに端末が解放され、オペレーターはサインオフされます。

LU6.1 ISC セッションでは、割り振り可能なセッションが残っていない場合、接続は OUTSERVICE に設定されます。

IRC セッションを OUTSERVICE に設定するには、MRO パートナーへの接続を OUTSERVICE に設定する必要があります。

PAGEABLE (z/OS Communications Server のみ)

一連のページのうち最初のものより後のページは、書き込みを要求した場合にのみ端末に書き込まれます。

PRIORITY (z/OS Communications Server のみ)

他の端末との対応で表される、その端末の優先順位を指定します。タスクの優先度はトランザクションの優先度、端末の優先度、およびオペレーターの優先度の合計です。優先度は、代替機能として使用されている ISC セッションの端末では意味を持ちません。この値は 0 から 255 の範囲内で指定する必要がありますが、255 で優先度が最高になります。

PURGE

この端末で実行されるトランザクションは、システムおよびデータの保全性を維持できる場合にのみページされます。

RELEASED (z/OS Communications Server のみ)

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中ではありません。端末を RELEASED に設定すると、セッションが終了します。PURGE または FORCEPURGE も指定されていない限り、トランザクションの実行は完了することができます。

TTI (z/OS Communications Server のみ)

この端末は、トランザクションで使用できます。

CEMT SET TRANSACTION

選択したトランザクションの属性を変更します。

CICS Explorer では、[「トランザクション」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

CEMT トランザクションを使用して変更できるトランザクションは、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされているもののみです。**CEMT SET TRANSACTION** コマンドは、CICS バンドル内で定義およびインストールされたトランザクションに対して使用できません。

- 動的に生成された TRANSACTION リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された TRANSACTION リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、または

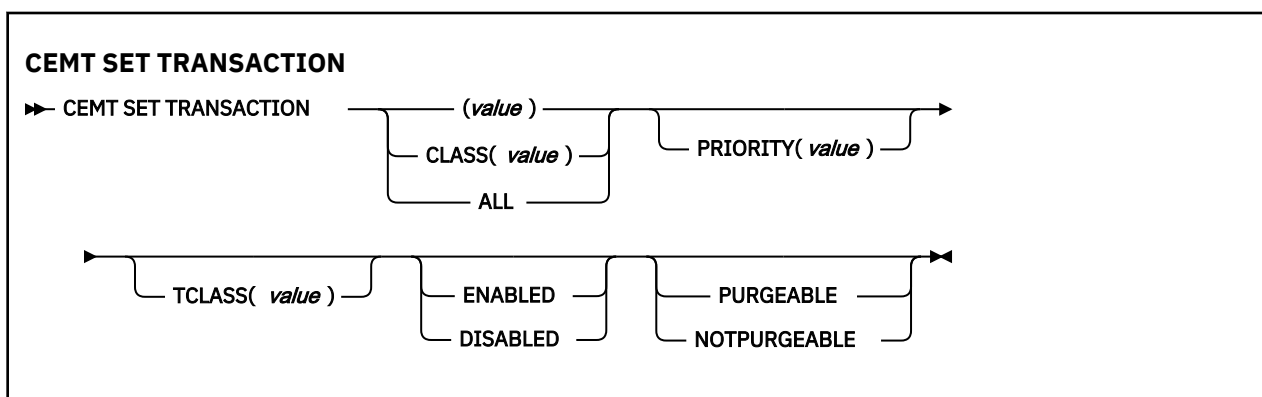
アプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには2つの方法があります。

- CEMT SET TRANSACTION (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (value)、CLASS(value)、または ALL を入力します。CEMT INQUIRE TRANSACTION コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET TRANSACTION (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を1つ以上入力します。例えば、cemt s trans(value) e pu は、指定したトランザクションが使用可能 (有効) であり、システムによるパージが可能であることを指定します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(value)

トランザクション ID (1 から 4 文字) を指定します。CEMT を介してアクセス可能なのは、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義されており、稼働中の CICS システムにインストールされているトランザクションのみです。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

CLASS (value)

トランザクション・リスト・テーブル (XLT) の 2 文字の接尾部を指定します。

DISABLED

トランザクションは使用できません。文字 C から始まる ID を持つトランザクションは、CICS による使用のために予約されているので、使用不可にすることはできません。

CEMT SET TRANSACTION DISABLED コマンドを使用すると、既存のトランザクションは使用不可になる前に、完了するまで実行されます。

注: トランザクションが使用不可になっても、このトランザクションを指定する START コマンドをリモート領域にシップすることは引き続き可能です。要求されたトランザクションにタスクが付加されると、CICS はトランザクションがリモート領域で使用可能かどうかを検査します。

ENABLED

トランザクションは使用可能です。

NOTPURGEABLE

トランザクションをパージできません。

PRIORITY (value)

他のトランザクションに対するトランザクションの相対的な優先度を指定します。トランザクションが CICS タスクとして実行されている場合、タスクの優先順位は、トランザクション優先順位、端末優先順位、およびオペレーター優先順位の和です。この値は 0 から 255 の範囲内で指定する必要があり、255 で優先度が最高になります。

PURGEABLE

トランザクションは、システムによってパージできます。このオペランドはトランザクション・リソース定義の SPURGE 属性に関連し、CICS がデッドロック・タイムアウト状態のトランザクションをパージできることを示します。トランザクション・リソース定義の SPURGE 属性と DTIMOUT 属性については、[TRANSACTION リソース](#)を参照してください。

TCLASS(value)

トランザクションが属する 8 文字のトランザクション・クラス名を指定します。トランザクションがクラスに属さない場合、DFHTCLOO が戻されます。トランザクションをそのトランザクション・クラスから削除するには、TCLASS フィールドを DFHTCLOO に設定します。一連の空白を挿入することもでき、その場合には DFHTCLOO が戻されます。追加または変更されるトランザクション・クラスは、定義されている必要があります。

CEMT SET TRDUMPCODE

トランザクション・ダンプの状況を変更します。

説明

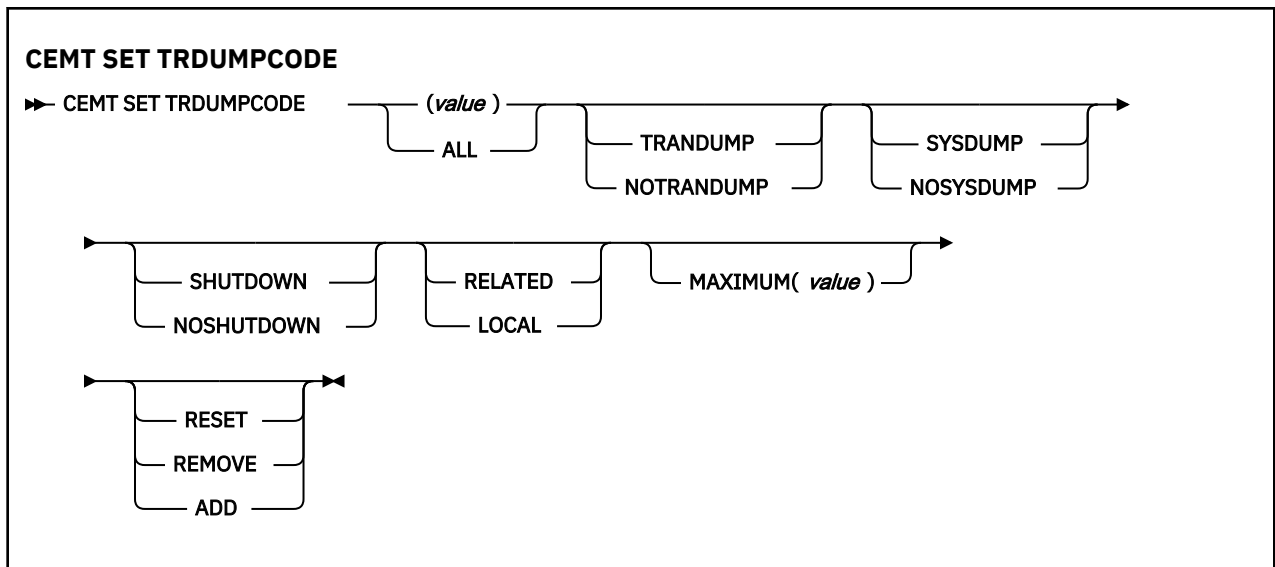
トランザクション・ダンプ・テーブル内の項目を変更してトランザクション・ダンプを要求するには、**SET TRDUMPCODE** コマンドを使用できます。作成できる最大のダンプ数を設定することもできます。ダンプの使用については、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET TRDUMPCODE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力し、続いて (value) または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE TRDUMPCODE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたは空白・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET TRDUMPCODE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s trd(value) t sh` は、指定したトランザクション・ダンプ・コードに対するトランザクション・ダンプを生成し、このダンプ・コードに対応するエラーが発生した後は CICS システムをシャットダウンするように指定します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

(value)

4 バイトのトランザクション・ダンプ・コードを指定します。

ADD

指定されたトランザクション・ダンプ・コードをダンプ・コード・テーブルに追加します。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

LOCAL

ダンプが開始された CICS 領域に関連した、XCF/MRO 接続の CICS 領域を実行するシスプレックス内で、他の MVS イメージにシステム・ダンプ要求を送信しません。

注：関連した CICS 領域とは、その領域内にある 1 つ以上のタスクの作業単位 ID (APPC トークンの形式) が、ダンプ要求を発行した CICS 領域内の ID と一致する場合を指します。

MAXIMUM (value)

ダンプの作成が行われる、このダンプ・コードのダンプ呼び出しの最大数を指定します。範囲は 0 から 999 までですが、値 999 は制限がないことを示します。

NOSHUTDOWN

CICS システムをシャットダウンしません。

NOSYSDDUMP

システム・ダンプを生成しません。

NOTRANDUMP

トランザクション・ダンプを生成しません。

RELATED

ダンプが開始された CICS 領域に関連した、XCF/MRO 接続の CICS 領域を実行するシスプレックス内の MVS イメージに、システム・ダンプ要求を送信します。

注：関連した CICS 領域とは、その領域内にある 1 つ以上のタスクの作業単位 ID (APPC トークンの形式) が、ダンプ要求を発行した CICS 領域内の ID と一致する場合を指します。

REMOVE

このコードをダンプ・コード・テーブルから削除します。

RESET

このダンプ・コードの現在のダンプ呼び出し回数をゼロにリセットします。

SHUTDOWN

このダンプ・コードに対応するエラーが発生したとき、CICS システムをシャットダウンします。

SYSDUMP

システム・ダンプを生成します。

TRANDUMP

トランザクション・ダンプを生成します。

CEMT SET TSQUEUE / TSQNAME

一時記憶域キュー (TS キュー) を削除します。このトピックは、代替コマンドの **CEMT SET TSQNAME** にも適用されます。CEMT では、どちらのコマンドを使用しても、名前の長さが最大 16 文字の一時記憶域キュー (TS キュー) に対する操作が可能です。

CICS Explorer では、[「TS キュー」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

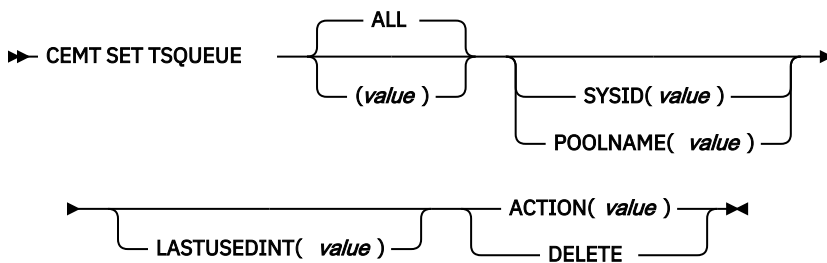
説明

SET TSQUEUE コマンドを使用して、一時記憶域キュー (TS キュー) を削除できます。

LASTUSEDINT オプションを使用して、削除されるキューが、INQUIRE の前回の発行の後に参照されていないことを確認できます。このオプションを使用して、指定の期間内に参照されていないキューを削除することもできます。

構文

CEMT SET TSQUEUE



オプション

(value)

TS キューの ID を指定します。

ALL

アクセスを許可されている、指定したタイプのすべての (最大 32766 までの) リソースに対して、要求した変更が行われることを指定します。この限度を超過した場合、要求は失敗して、どのリソースも更新されません。

ACTION(value)

キューに対して実行するアクションを指定します。値は以下のとおりです。

DELETE

キューは削除されます。

LASTUSEDINT

このオプションが指定されている場合、最後に使用したインターバルが、指定された値以上である場合にのみ、キューが削除されます。

POOLNAME(data-value)

8 文字のプール名を指定します。

SYSID(data-value)

4 文字の共用システム ID を指定します。

TSQUEUE(data-value)

TS キューの 16 文字の ID を指定します。

システム・コマンドおよび応答コードについては、[システム・コマンド](#)を参照してください。

CEMT SET UOW

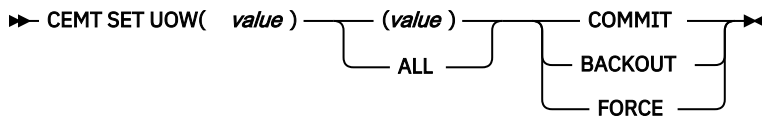
中断された作業単位のコミットまたはバックアウトを行います。

説明

SET UOW コマンドを使用して、トランザクションの未確定期間中に中断されていた作業単位のコミット、バックアウト、または強制を行うことができます。

構文

CEMT SET UOW



オプション

(value)

コミット、バックアウト、または強制を行う UOW の 16 文字の ID を指定します。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、必要な変更を加えるよう指定します。

BACKOUT

この UOW に対する指定に従って、同期点バックアウト処理の強制を試みます。

COMMIT

この UOW に対する指定に従って、同期点コミット処理の強制を試みます。

FORCE

TRANSACTION リソース定義の ACTION オプションの指定に従って、UOW のバックアウトまたはコミットの強制を試みます。

これらの値はすべて、中断された未確定の UOW のみにに対して有効であることに注意してください。

TRANSACTION 定義の未確定属性については、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

CEMT SET UOWLINK

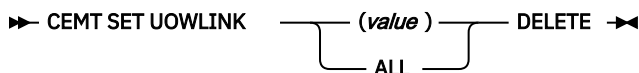
破棄された接続によって作成された作業単位へのリンクを削除します。RRS と関連付けられた UOWLINKS は、RRS がコールド・スタートした時点で削除できます。

説明

作業単位と接続の間の関連は、UOW リンク と呼ばれます。INQUIRE UOWLINK コマンドを使用して、現在システムに存在するすべての UOW リンクを表示できます。一部の UOW リンクは、後で破棄された接続によって作成されている可能性があります。その場合は、SET UOWLINK コマンドを使用してそれらの接続を削除できることがあります。UOW リンクを安全に削除できる条件については、[システム間の問題のトラブルシューティング](#)を参照してください。

構文

CEMT SET UOWLINK



オプション

(value)

このコマンドが適用される UOW 接続依存関係 (UOW リンク) の 4 文字の ID を指定します。

ALL

指定したタイプのリソースのうち、アクセスを許可されたものすべてに対して、要求した変更を行うように指定します。

DELETE

UOW リンクを削除することを指定します。

CEMT SET URIMAP

URIMAP 定義を使用可能または使用不可にし、URIMAP 定義のリダイレクトを適用または除去します。

CICS Explorer では、[「URI マップ」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

URIMAP 定義を使用不可にすると、CICS は Web クライアントに HTTP 応答を 503 (サービス利用不可) の状況コードを付けて戻します。

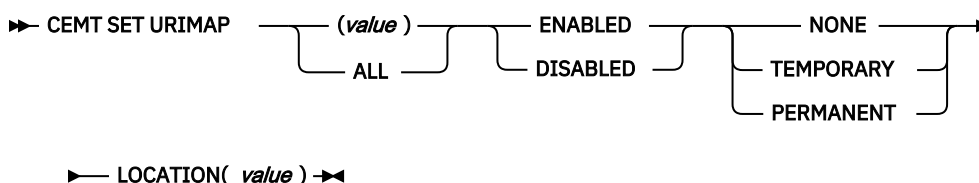
リダイレクト・オプションを使用して、一致する HTTP 要求のリダイレクトを設定し、要求のリダイレクト先の URL を指定できます。このコマンドを使用して、既存の URIMAP 定義にリダイレクトを適用できます。例えば、通常は HTTP 要求に回答するアプリケーションが使用不可の場合にリダイレクトが適用されます。このコマンドを使用して URIMAP 定義からリダイレクトを削除することもできます。

CEMT トランザクションを使用して変更できる URIMAP 定義は、CICS システム定義 (CSD) ファイルで定義され、実行中の CICS システムにインストールされているもののみです。**CEMT SET URIMAP** コマンドは、CICS バンドル内で定義およびインストールされた URIMAP 定義に対して使用できません。

- 動的に生成された URIMAP リソースの状況は、インストール元の BUNDLE バンドルを使用可能にしたり使用不可にすることで制御できます。
- 動的に生成された URIMAP リソースの定義を変更するには、CICS Explorer のリソース・エディターを使用できます。定義を更新するには、古いバージョンの CICS バンドルを新しいもので置き換えます。その手順については、[CICS Explorer 製品資料内の『Working with bundles』](#)を参照してください。CICS バンドルが単体としてデプロイされた場合、またはプラットフォームと一緒にデプロイされた場合は、個別に更新できます。CICS バンドルがアプリケーションの一部としてデプロイされた場合、またはアプリケーション・バインディングと一緒にデプロイされた場合は、アプリケーション全体を更新してください。

構文

CEMT SET URIMAP



オプション

(value)

このコマンドが適用される URIMAP リソース定義の 8 文字の名前を指定します。

ENABLED

URIMAP 定義にアクセスできます。

DISABLED

URIMAP 定義にアクセスできません。

NONE

要求はリダイレクトされません。LOCATION オプションで指定された URL は無視されます。

TEMPORARY

要求は一時ベースでリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 302 (Found) です。

PERMANENT

要求は永続的にリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 301 (Moved Permanently) です。

LOCATION (value)

Web クライアントからの一致する HTTP 要求をリダイレクトできる、最大 255 文字の URL を指定します。この URL は、スキーム、ホスト、パス・コンポーネント、および適切な区切り文字を含む完全な URL である必要があります。CICS は、URL が完全であり正しく区切られているかどうかをチェックしますが、宛先が有効であるかどうかについては CICS はチェックしません。

REDIRECTTYPE オプションはリダイレクトのタイプを指定する際に使用します。一時または永続のリダイレクトが指定される場合、LOCATION 属性内の URL がリダイレクトに使用されます。リダイレクトが指定されない場合、LOCATION オプション内の URL は無視されます。

CEMT SET VTAM

z/OS Communications Server ACB のオープンまたはクローズ、持続セッション遅延間隔の設定、あるいは総称リソースのメンバーシップの CICS からの登録解除を行います。

CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

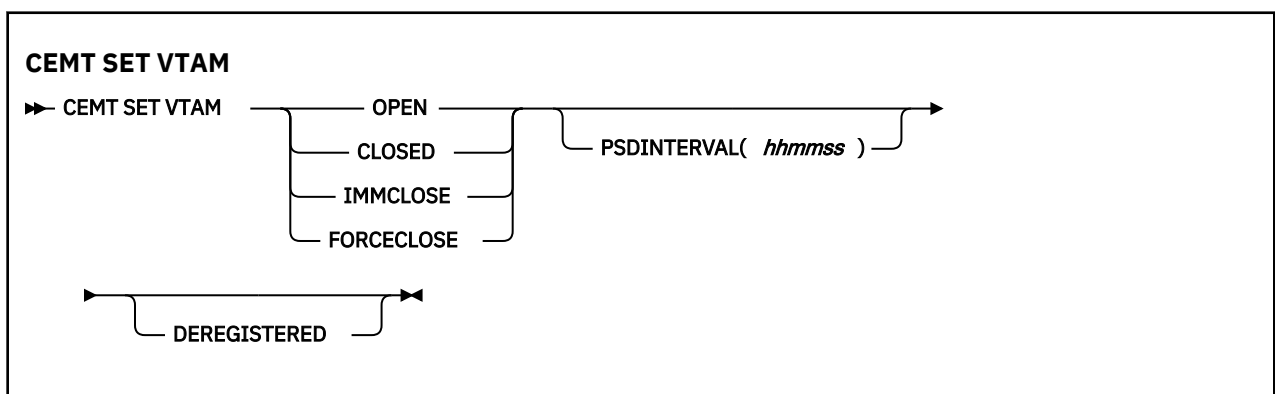
構文

注：VTAM は現在 z/OS Communications Server です。

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET VTAM (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE VTAM** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET VTAM (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、cemt s vt o と入力すると、CICS と Communications Server との間の接続を確立するよう指定します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



オプション

CLOSED

CICS と Communications Server との間の接続が正常に終了します。すなわち、トランザクションは完了でき、端末が正常に解放されます。

DEREGISTERED

CICS が現在メンバーになっている Communications Server 汎用リソースから、その CICS を除去することを指定します。汎用リソースのメンバーシップから領域を登録解除する場合は、そのリソースが持つ親和性を終了させる必要があります。PERFORM ENDAFFINITY コマンドを参照してください。

汎用リソースについては、[シスプレックスにおけるワークロード・バランシング](#)で説明されています。

FORCECLOSE

接続は即時に停止し、Communications Server ACB (アクセス方式制御ブロック) を使用しているすべての端末接続が、それらに関連したトランザクションとともに異常終了します。FORCECLOSE 発行時の状態が原因でトランザクションが停止しない場合は、ACB を再オープンする前に CEMT SET TASK(nn) PURGE または FORCEPURGE を発行する必要があります。

IMMCLOSE と FORCECLOSE の相違は、IMMCLOSE では Communications Server SNA 論理装置 (LU) でタスクを取り消してから、LU セッションを適切に閉じるという点にあります。FORCECLOSE の場合は、タスクを取り消して、Communications Server ACB を閉じ、すべてのセッションを即時に閉じます。

IMMCLOSE

CICS と Communications Server の間の接続は即時に停止されます。Communications Server 接続 LU を使用するトランザクションはすべて異常終了し、そのようなすべての LU は CICS に認識されなくなります。

IMMCLOSE と FORCECLOSE の相違は、IMMCLOSE では Communications Server SNA LU でタスクを取り消してから、LU セッションを適切に閉じるという点にあります。FORCECLOSE の場合は、タスクを取り消して、Communications Server ACB を閉じ、すべてのセッションを即時に停止します。

OPEN

CICS と Communications Server の間の接続が確立されます。ACF/Communications Server では、このイベントは、ACF/Communications Server が CICS との通信に使用する ACF/Communications Server ACB のオープン時に発生します。

前の強制的テークオーバーの処理中に **CEMT SET VTAM OPEN** コマンドを発行すると、このコマンドは「STILL CLOSING」メッセージを出して失敗します。強制的テークオーバーのために Communications Server ACB は閉じたままになっているので、Communications Server ACB を開く試みは行われません。強制的テークオーバーが完了すると、**CEMT SET VTAM OPEN** コマンドは正常に機能します。障害の通知は、RESP=INVREQ および RESP2=14 条件によって行われます。

CICS が Communications Server マルチノード持続セッションを使用していて、Communications Server が異常終了後に再始動される場合に Communications Server ACB を開くと、CICS は Communications Server が保存している持続セッションを復元します。ただし、アンバインドされた APPC synclevel 2 セッションは、CICS では復元しません。

PSDINTERVAL (hhmmss)

持続セッション遅延間隔を指定します。書式は *hhmmss* です。障害の発生時に Communications Server セッションがリカバリー保留状態に保持されるかどうか、および保持される期間の長さを指定します。許可されている範囲は 000000 から 235959 までです (両端を含む)。

000000

障害が発生すると、セッションは終了します。この値はデフォルトで、持続セッション・サポートが活用されないことを意味します。

HHMMSS

指定された間隔以内の期間にわたって、セッションは Communications Server によってリカバリー保留状態に保持されます。

持続セッション遅延間隔を設定しようとして失敗した場合に、受け取る可能性のある CEMT エラー・メッセージは、[437 ページの表 11](#)にあるとおりです。これらのメッセージの意味の詳細については、EXEC CICS SET VTAM コマンドの RESP2 値のリストを参照してください。

表 11. 持続セッション遅延間隔を設定する際に表示された CEMT エラー・メッセージ	
メッセージ	RESP/RESP2
INVALID PSDINT	RESP=INVREQ, RESP2=4
NOT WITH XRF	RESP=INVREQ, RESP2=8
SETLOGON FAILURE	RESP=INVREQ, RESP2=9
BACK LEVEL VTAM	RESP=INVREQ, RESP2=10
ACB CLOSED	RESP=INVREQ, RESP2=12
NOT WITH PSTYPE=NOPS	RESP=INVREQ, RESP2=22
RECOVERY ERROR	INVREQ の他のすべてのケース

CEMT SET WEB

Web ガーベッジ・コレクションの設定または 3270 端末のタイムアウト設定を変更します。

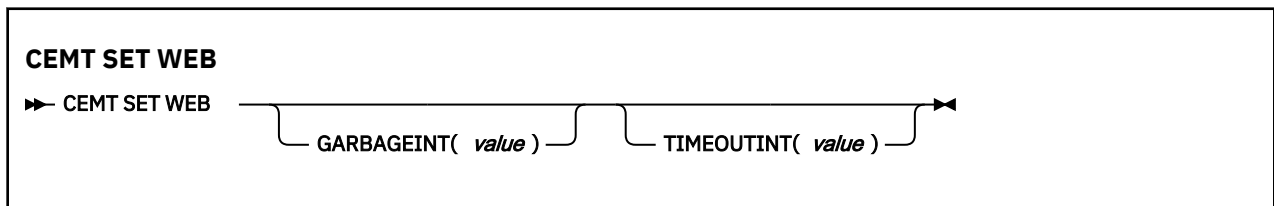
CICS Explorer では、「領域」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

入力

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには 2 つの方法があります。

- CEMT SET WEB (またはこれらのキーワードの適切な省略形) を入力します。**CEMT INQUIRE WEB** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET WEB (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、`cemt s we g` は、GARBAGEINT オプションを変更することを指定します。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



表示されるフィールド

GARBAGEINT

Web ガーベッジ・コレクション・タスクが、端末タイムアウト間隔が満了した Web 3270 状態データをクリーンアップするために実行される間隔。間隔の単位は分です。

TIMEOUTINT

非アクティブな Web 3270 セッションがガーベッジ・コレクションの対象になるまでの期間。期間の単位は分です。

CEMT SET WEBSERVICE

WEBSERVICE リソースの妥当性検査状況を設定します。

CICS Explorer では、「Web サービス」ビューがこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

オプション属性を省略した場合、このコマンドは効力を発揮しません。

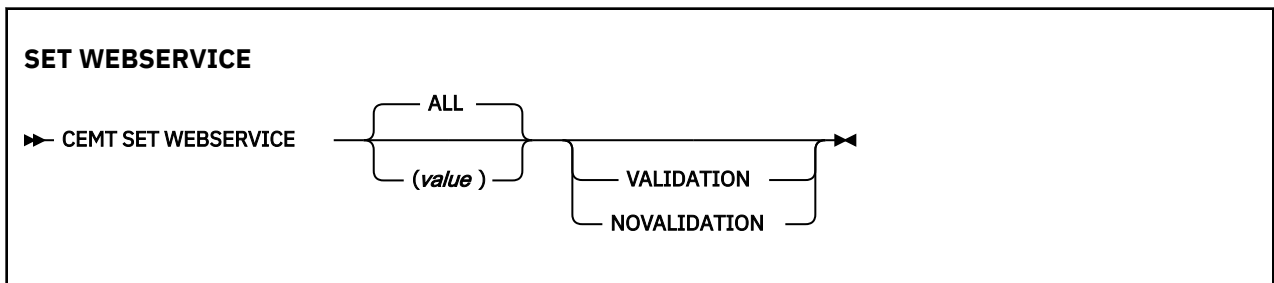
このコマンドを使用して、CICS バンドルに定義およびインストールされた WEBSERVICE リソースの VALIDATIONST 属性を変更することもできます。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET WEBSERVICE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の WEBSERVICE ID を入力するか、ALL を入力します。 **CEMT INQUIRE WEBSERVICE** コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET WEBSERVICE (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、1 つ以上の WEBSERVICE ID を入力するか ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEMT SET WEBSERVICE AL V はすべての WEBSERVICE リソースの妥当性検査状況をリセットします。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



条件: NOTAUTH、NOTFND

オプション

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

(value)

WEBSERVICE リソースの名前を指定します。リソースがパイプライン・スキャンを使用して動的にインストールされる場合、名前の長さは 32 文字までです。それ以外の場合、名前の長さは 1 から 8 文字です。

VALIDATIONST

この Web サービスに対して SOAP メッセージの完全妥当性検査が必要かどうかを指定します。

VALIDATION

完全妥当性検査は必要です。

NOVALIDATION

完全妥当性検査は必要ではありません。

妥当性検査をオン/オフにするには、その前に WEBSERVICE を INSERVICE にする必要があります。

CEMT SET WLMHEALTH

CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスを更新します。

CICS Explorer では、[「操作」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

説明

SET WLMHEALTH コマンドを使用して、CICS 領域の z/OS WLM ヘルス・サービスの設定を更新できます。

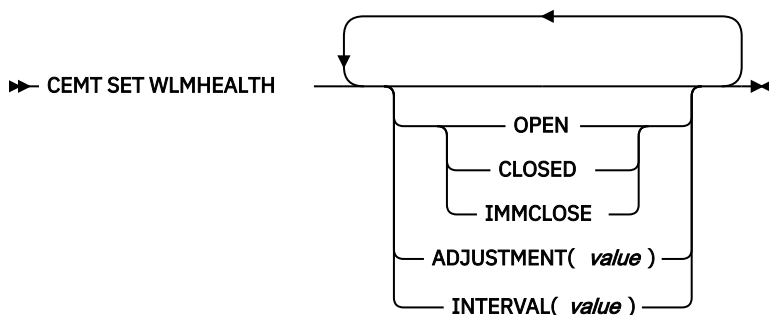
構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。以下の 2 つの方法でこのトランザクションを開始できます。

- CEMT SET WLMHEALTH (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力します。CEMT INQUIRE WLMHEALTH コマンドを使用した場合と同様に、入力すると、現在の状況がリストで表示されます。強調表示したフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力できます。
- CEMT SET WLMHEALTH (またはこれらのキーワードの正しい省略形) を入力した後に、(value) または ALL を入力し、さらにその後に、変更する属性の設定値を 1 つ以上入力します。例えば、CEMT S WLMHEALTH STATUS OPEN と入力すると、CICS 内部ソケット・サポートがオープンします。

1 行目または 2 行目の先頭に ? を入力すると、構文プロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

CEMT SET WLMHEALTH



オプション

ADJUSTMENT(value)

指定された間隔ごとに CICS 領域の z/OS WLM ヘルス値を調整するために CICS が使用する調整値を指定します。

INTERVAL(value)

CICS 領域の正常性値を調整するために CICS が z/OS Workload Manager を呼び出す間隔を秒数で指定します。

OPENSTATUS

CICS 領域の z/OS WLM 正常性値を増やすか、減らすように CICS に指示します。値は以下のとおりです。

OPEN

z/OS WLM 正常性値を増やすプロセスを開始するように、CICS に指示します。調整値による初回の増加は即時に行われ、その後、値が 100 に達するまで間隔ごとに調整値で正常性値が増やされます。

注: CICS 初期化時に SIT または SIT オーバーライドによって WLMHEALTH=OFF を設定した場合に、CEMT SET WLMHEALTH OPEN を使用して CICS に z/OS WLM ヘルス値の加算を開始するように指示すると、NOT IN SYSTEM メッセージが返されます。

CLOSED

z/OS WLM 正常性値を減らすプロセスを開始するように、CICS に指示します。調整値による初回の減少は即時に行われ、その後、値が 0 に達するまで間隔ごとに調整値で正常性値が減らされます。

IMMCLOSE

z/OS WLM ヘルス値を即時に 0 に設定するように CICS に指示します。

CEMT SET XMLTRANSFORM

XMLTRANSFORM リソースの妥当性検査状況を変更します。

CICS Explorer では、[「XML 変換」ビュー](#)がこのコマンドと同等の機能を提供します。

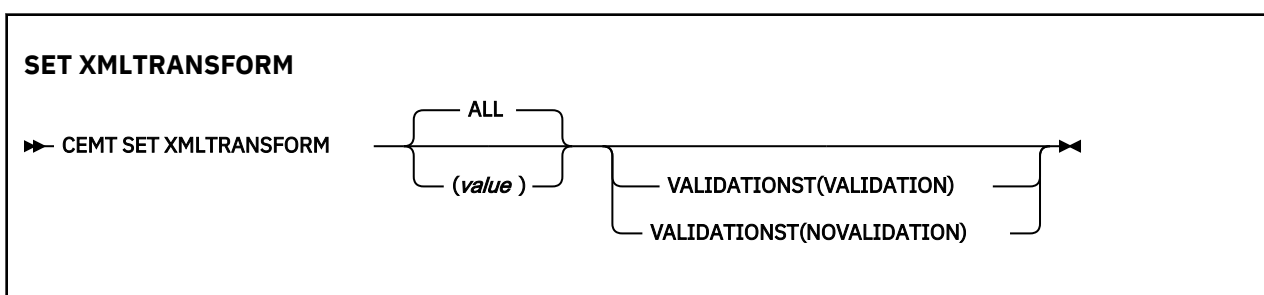
オプション属性を省略した場合、このコマンドは効力を発揮しません。

構文

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションを開始するには2つの方法があります。

- CEMT SET XMLTRANSFORM を入力し、続いて1つ以上の ID または ALL を入力します。**CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM** で取得されるものと同様に、現在の状況がリストで表示されます。これで、強調表示されたフィールドまたはブランク・フィールドに Tab キーで移動し、必要な値を上書き入力することができます。
- CEMT SET XMLTRANSFORM と入力し、続けて1つ以上の ID を入力するか ALL と入力して、さらに、変更したい1つ以上の属性設定値を入力します。例えば、CEMT SET XMLTRANSFORM AL V はすべての XMLTRANSFORM リソースの妥当性検査状況をリセットします。

1 行目か 2 行目の先頭に ? と入力すると、構文プロンプトが出ます。値のリセットはすぐに有効になります。



条件: NOTAUTH、NOTFND

オプション

ALL

要求した変更が、指定したタイプのリソースのうち、アクセスが許可されているすべてのリソースに適用されます。

(value)

XMLTRANSFORM リソースの 1 文字から 32 文字の名前を指定します。

VALIDATIONST

この XMLTRANSFORM リソースに対して完全妥当性検査が必要であるかどうかを表示します。

VALIDATION

完全妥当性検査は必要です。

NOVALIDATION

完全妥当性検査は必要ではありません。

妥当性検査をオン/オフにするには、その前に XMLTRANSFORM リソースを使用可能にする必要があります。

第 14 章 CEOT - 端末状況

CEOT コマンドを使用して、ユーザー自身の端末の状況を照会し、その値の一部を変更できます。CEOT を使用して、他の端末について照会したり、値を変更したりすることはできません。

CSD リソース定義のいくつかの属性、特に Java アプリケーションを参照するものは、大/小文字混合のセットを使用して指定されます。CEOT 大文字変換状況オプション (442 ページの『設定モードでの CEOT の使用』を参照) を使用して、特定の要件に合うように大文字変換オプションを切り替えることができます。例えば、CEDA トランザクションを使用して HFSFILE、SHELF、CERTIFICATE、DESCRIPTION などの大/小文字混合入力を必要とする属性を持つリソースを定義する前に、CICS 大文字変換を抑止したい場合があります。

CEOT は、3270 ファミリーのディスプレイ 装置または同等な端末から開始することも、オペレーティング・システム・コンソールから開始することもできます。

Clear キーを押して、画面をクリアしてください。このトランザクションは、照会モードと設定モードの 2 とおりの方法で使用できます。

照会モードでの CEOT の使用

このタスクについて

CEOT と入力します。以下のように表示されます。

```
STATUS: RESULTS - OVERTYPE TO MODIFY
Ter(TC37) Trans(CEOT) Pri(000) Pag Ins Ati Tti
Net(IYCQTC37) Acq Tra

CEOT SYNTAX:
< PAgeable | AUtopageable >
< ATi | NOAti >
< TTi | NOTTi >
< Uctran | NOUctran | TRANIdonly >

RESPONSE: NORMAL          SYSID=HT61 APPLID=CICSHT61
PF 1 HELP                 TIME: 13.47.07 DATE: 02.01.01
                          9 MSG
                          3 END
```

図 104. CEOT トランザクション: 初期画面

画面の上半分には、端末の現在の状況が表示されます。画面の下半分には、CEOT コマンドの構文が表示されます。

注: NET、ACQ、および CRE は、z/OS Communications Server 以外の端末には表示されません。

状況項目は以下の順序で表示されます。

注: 項目の値が「否定的」である (例えば NOATI) 場合、その値はブランク・スペースに置き換えられます。

Acq

CICS は、この端末により表される論理装置とセッション中です。この値を上書きすることはできません。

Aut

以下のコマンド・オプションの「AUTOPAGEABLE」を参照してください。

ページング状況は上書きによって変更できます。

ATi

以下のコマンド・オプションの「ATI」を参照してください。

作成

この端末は、ATI トランザクションによって自動的に獲得できます。この値を上書きすることはできません。

Ins

端末は INSERVICE です。この値を上書きすることはできません。

Net (netname)

この端末が z/OS Communications Server によって認識されている名前を表示します。

Pag

以下のコマンド・オプションの「PAGEABLE」を参照してください。

ページング状況は上書きによって変更できます。

Pri (nnn)

他の端末に対するこの端末の相対的な優先度を、0 から 255 までの範囲の数値で表示します。

Ter (xxxx)

端末の 4 文字の ID を表示します。

Tra (ceot)

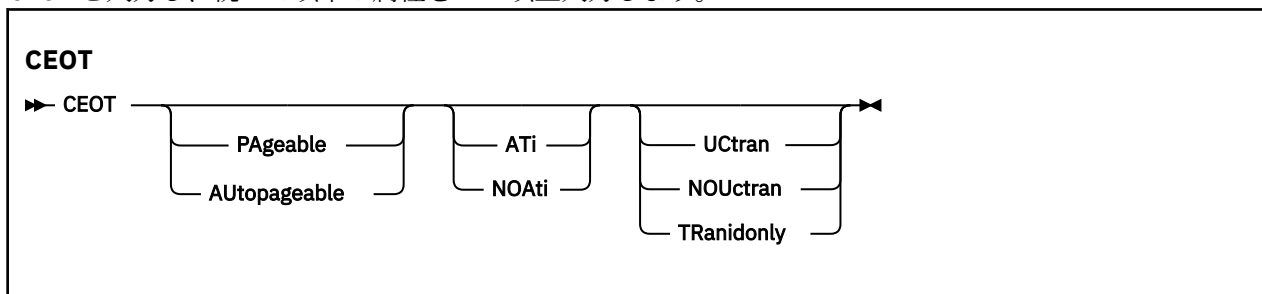
端末上で実行されているトランザクションを表示します。これは常に CEOT です。

Tti

端末は、この端末から開始されたトランザクションによって使用できます。TTI 設定をブランクで上書きして変更することはできません。

設定モードでの CEOT の使用

CEOT と入力し、続いて以下の属性を 1 つ以上入力します。



ATi

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションで使用でき、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できます。

AUtopageable

一連のページのうち最初のものより後のページが、自動的に端末に書き込まれます。このオプションは、ディスプレイ 装置で使用してはなりません。

NOAti

端末は、CICS から自動的に開始されたトランザクションで使用できず、また端末が ISC セッションである場合は、別のシステムと通信するための代替方法としてこのセッションを使用しているトランザクションで使用できません。

NOTti

この端末から開始されるトランザクションは、この端末を使用できません。NOTTI の設定は、順次装置に対してのみ有効です。

NOUCTRAN

現行セッションでは、端末の大文字変換状況がオフに設定されます。

PAGEABLE

一連のページのうち最初のものより後のページが、オペレーターからの要求に応じて端末に書き込まれます。

TRANIDONLY

現行セッションでは、端末で入力されたトランザクション ID のみを変換するように端末の大文字変換状況が設定されます。

TTI

この端末は、トランザクションで使用できます。

UCTRAN

現行セッションでは、端末の大文字変換状況がオンに設定されます。

最初の行の先頭で ? を入力すると構文のプロンプトが表示されます。値のリセットはすぐに有効になります。

端末の現在の状況を表示しない場合 (CEOT 画面の上半分に表示される) は、画面の下半分に表示される CEOT 構文を使用して、ページング状況と ATI 状況を変更できます。このため、例えば端末を PAGEABLE にする場合は、ディスプレイのコマンド行に CEOT PAGEABLE と入力して Enter キーを押します。

注:

1. ルーティング・トランザクション (CRTE) に対して CEOT を使用できます。
 - ・ ユーザーは自身の端末に関する情報のみを照会でき、属性を変更することはできません。
 - ・ 返される属性は、アプリケーション所有領域 (AOR) 内のリモート端末 TCTTE のものです。
 - ・ CRTE トランザクションを取り消すには、コマンド行に CANCEL と入力する必要があります。
2. TOR で CEOT を使用する場合は、以下に注意してください。
 - ・ 端末がシップ不可として定義されていて、CEOT を使用して端末の状況を変更する場合は、トランザクション・ルーティング要求の結果として AOR 内で作成されたリモート端末には変更内容が反映されません。リモート端末の状況は、AOR 内の端末のリモート定義によって決定されます。
 - ・ 端末がシップ可能として定義されている場合でも、CEOT を使用して TOR 内で行われた状況の変更は、AOR 内の既存のリモート端末定義には反映されません。AOR 内のリモート端末は、プログラムを実行するために AOR 内で最初に必要になったとき、シップ可能な定義から作成されます。返されるリモート端末の状況は、TOR 内での現在の状況です。以降の更新内容はリモート端末に渡されません。
3. 無効な要求を行った場合、CICS はキーワード・オプションをリストし、有効なキーワードの入力を待ちます。

第 15 章 CESF - サインオフ

CESF トランザクションを使用して、CICS システムからサインオフします。

このトランザクションは、以下の操作を行います。

- 端末にサインオフ・メッセージを書き込む。
- 一時データ宛先 CSCS にメッセージを記録する。
- 一時データ宛先 CSMT にエラー・メッセージを記録する

CESF を使用して端末を切断する場合に、セキュリティがアクティブになっていると、サインオフ操作が失敗してもメッセージがログに送られます。ただし、事前設定端末の場合、または端末にサインオンしていない場合には、これによって端末の切断が停止されることはありません。

以下の端末では CESF を使用できません。

- 固定形式端末 (3608、3614、3653 など)
- 数値専用端末

これらの装置では、**EXEC CICS SIGNOFF** コマンドを使用してユーザー独自のトランザクションをコーディングする必要があります。

構文

CESF トランザクションの構文は以下のとおりです。



CESF の効果

GMTRAN=(, DISCONNECT) が有効な場合に CESF、CESF、LOGOFF、または CESF GOODNIGHT を発行すると、CICS システムからサインオフされ、端末セッションが切断されて、端末でトランザクションを開始できなくなります。

GMTRAN=(, DISCONNECT) が有効ではない場合に CESF を発行した結果については、445 ページの表 12 にまとめています。GOODNIGHT 値または LOGOFF 値を指定して CESF を発行した結果は、使用中のアクセス方式によって異なることに注意してください。CESF 単体で発行した場合、CICS システムからサインオフされますが、端末はユーザーが要求しなくてもトランザクションを開始でき、メッセージを端末に送信することもできます。その端末にはいつでもサインオンしなおすことができます。

表 12. 各種アクセス方式を使用する場合の CESF の結果		
発行されたコマンド	VTAM DISCREQ=YES	その他の場合
CESF	TTI	TTI
CESF LOGOFF	Disc、TTI	TTI
CESF GOODNIGHT	Disc、TTI	NOTTI

ここで、

Disc

端末は切断されます。

TTI

端末トランザクションの開始が許可されます。

NOTTI

端末トランザクションの開始は許可されず、端末は RECEIVE 状況になります。これにより、次に接続が行われるときにメッセージを受信できます。

注:

- ここで、VTAM は z/OS Communications Server です。
- DISCREQ=YES は端末に関連付けられた TYPETERM 定義のオペランドであり、CICS が切断要求を受け入れることを示します。DISCREQ=NO が TYPETERM 定義で指定されている場合、切断要求 (例えば、CESF LOGOFF 要求) は受け入れられません。

未処理の自動トランザクション開始 (ATI) 要求が存在するときに CESF GOODNIGHT が指定されると、ATI 要求が処理され、端末に使用される TYPETERM 属性とは関係なくセッションが再獲得されます。

第 16 章 CESL - サインオン長

CESL を使用して、パスワード、パスワード・フレーズなどの認証子を使って CICS にサインオンします。

CESL トランザクションは、3270 端末からの 3270 トランザクションとして、または 3270 装置と非 3270 装置の両方からの単一行コマンドとして使用可能です。このセクションでは、3270 トランザクションについて説明します。行コマンドについては、[サインオン - 非 3270 ファミリー端末](#)を参照してください。

CESL では、9 文字から 100 文字までのパスワード・フレーズ、または 8 文字までの標準パスワードを使用してサインオンできます。9 文字から 100 文字までのパスワードを入力した場合、CESL はそのパスワードをパスワード・フレーズとして扱います。他の点でも、CESL は CESN サインオン・トランザクションと同じように作動します。CESN はパスワード・フレーズをサポートしませんが、CESN を CESL の別名として指定できます。CESL の別名を作成する方法について詳しくは、[パスワード・フレーズを許可するための CESN の変更](#)を参照してください。

CESL サインオン・トランザクションは BMS マップを表示します。トランザクションは疑似会話型であり、EXEC CICS SIGNON コマンドを使用します。BMS マップのパラメーターについては、[SIGNON](#)を参照してください。

```

                                Signon to CICS                                APPLID DBDCCICS
. . . . . This is where the "good morning" message appears. . . . .
. . . . . It can be up to four lines in depth to contain the. . . .
. . . . . maximum message length of 246 characters (that is, three.
. . . . . full lines and six characters on the fourth line) . . . .

Type your userid and password, then press ENTER:

      Userid . . . . _____ Groupid . . . . _____
      Password . . . . _____
-----
      Language . . . . ____
      New Password . . . . _____
-----

DFHCE3520 Please type your userid.
DFHCE3540 Ensure that passwords are entered in the correct case.
F3=Exit
```

図 105. CESL トランザクション: 初期画面

注:

1. 既にサインオン済みの端末でユーザーがサインオンを行う場合、CESL は前のユーザーをサインオフさせます。ただし、この動作が行われるためには、ENTER キーを押す前にユーザーが CESL パネルの入力を完了していなければなりません。
2. サインオン・トランザクション CESL の PROFILE が UCTRAN(NO) と指定されていることを確認してください。これは、CICS 提供の定義の値です。その他の場合、パスワードおよびパスワード・フレーズは大文字に変換されます。
3. CICS は、端末の UCTRAN オプションの値を保管し、ユーザーに資格情報の入力を求めるプロンプトが表示されている間だけ一時的にオプションを UCTRAN(NO) に設定します。ユーザー ID およびその他のパラメーターは常に大文字に変換されますが、パスワードはユーザーが入力した大/小文字のままになります。CESL トランザクションが完了すると、UCTRAN 属性は元の値に復元されます。トランザクションが完了する前にユーザーが端末を切断してしまうと、端末は、UCTRAN(NO) 属性が設定された状態のままになることがあります。
4. 古いパスワードの有効期限が切れた場合、このダイアログは、新規パスワードの入力を求めるプロンプトを出します。また、パスワードが期限切れになる前にそれを変更することもできます。

5. デフォルトでは、PF3 または PF15 を使用すると、CICS サインオン・トランザクションは終了されますが、端末セッションは接続したままです。端末セキュリティを向上させるために、GMTRAN システム初期設定パラメーターの DISCONNECT オプションを使用できます。このオプションを指定すると、PF3 または PF15 により端末セッションが切断されます。詳しくは、[GMTRAN システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。
6. 新規パスワード・フレーズを入力する権限として標準パスワードを使用しないでください。新規標準パスワードを許可するためにパスワード・フレーズを使用しないでください。
7. BMS マップの自動インストールは、CESL トランザクション内では実行されません。まだインストールされていない BMS マップを CESL から送信しようとする、CESL は英語の BMS マップを送信します。
8. シンボリック・マップ・セットのフォーマットを変更しない場合にのみ、CESL マップ・セットをカスタマイズできます。CESL マップのソースは、SDFHSAMP ライブラリー内のマップ・セット DFHSNLE に含まれています。カスタマイズ後に、通常の方法で物理マップ・セットをロード・ライブラリーに再生成します。ロード・ライブラリーは、DFHRPL 連結内で CICS ライブラリーの前に組み込む必要があります。詳しくは、[基本マッピング・サポート](#)を参照してください。
9. 40 x 12 マップはパスワード・フレーズをサポートしません。
10. サインオンとサインオフに失敗してエラーが発生すると、DFHCEnnnn メッセージが発行されます。
11. カード読取機構が DFHOPID アテンション ID (AID) をサポートしている場合、RACF OIDCARD ユーザーは CESL を使用してサインオンできます。サポートしていない場合は、EXEC CICS SIGNON コマンドを使用して、独自のサインオン・プログラムを作成する必要があります。プログラミング情報については、[SIGNON](#) を参照してください。

第 17 章 CESN - サインオン

CESN を使用して、ユーザー ID とパスワードなどの認証子を使って CICS にサインオンします。

CESN トランザクションは、3270 端末からの 3270 トランザクションとして、または 3270 装置と非 3270 装置の両方からの単一行コマンドとして使用可能です。このセクションでは、3270 トランザクションについて説明します。行コマンドについては、[サインオン - 非 3270 ファミリー端末](#)を参照してください。

CESN サインオン・トランザクションは BMS マップを表示します。トランザクションは疑似会話型であり、EXEC CICS SIGNON コマンドを使用します。BMS マップのパラメーターについては詳しくは、[SIGNON](#) を参照してください。

```
Signon to CICS                                APPLID DBDCCICS

. . . . . This is where the "good morning" message appears. . . . .
. . . . . It can be up to four lines in depth to contain the. . . . .
. . . . . maximum message length of 246 characters (that is, three. .
. . . . . full lines and six characters on the fourth line) . . . . .

Type your userid and password, then press ENTER:

      Userid . . . . _____      Groupid . . . . _____
      Password . . . . _____
      Language . . . . ____
      New Password . . . . _____

DFHCE3520 Please type your userid.
F3=Exit
```

図 106. CESN トランザクション: 初期画面

画面サイズ 40 x 12 のパネルを以下に示します。これらの画面には、リリース番号や「good morning」メッセージを表示するためのスペースがありません。

```
Signon to CICS                                APPLID DBDCCICS

      Userid . . . . _____
      Groupid . . . . _____
      Password . . . . _____
      Language . . . . ____
      New Password . . . . _____

DFHCE3520 Please type your userid.
F3=Exit
```

図 107. CESN トランザクション: 40 x 12 画面

注:

1. 既にサインオン済みの端末でユーザーがサインオンを行う場合、CESN は前のユーザーをサインオフさせます。ただし、この動作が行われるためには、ENTER キーを押す前にユーザーが CESN パネルの入力を完了していなければなりません。
2. 大/小文字混合のパスワードがサポートされるようにするには、サインオン・トランザクション CESN の PROFILE が UCTRAN(NO) と指定されていることを確認してください。これは、CICS 提供の定義の値です。このように指定されていない場合は、CESN トランザクション内で指定されたパスワードが大文字に変換されます。
3. 大/小文字混合パスワードのサポートが使用されている場合、CICS は、端末の UCTRAN オプションの値を保管し、ユーザーに資格情報の入力を求めるプロンプトが表示されている間だけ一時的にオプション

を UCTRAN(NO) に設定します。ユーザー ID およびその他のパラメーターは常に大文字に変換されますが、パスワードはユーザーが入力した大/小文字のままになります。CESN トランザクションが完了すると、UCTRAN 属性はもともと設定されていた値に復元されます。トランザクションが完了する前にユーザーが端末を切断してしまうと、端末は、UCTRAN(NO) 属性が設定された状態のままになることがあります。

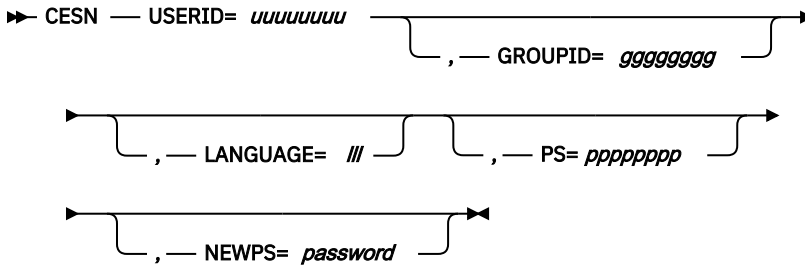
4. 古いパスワードの有効期限が切れた場合、このダイアログは、新規パスワードの入力を求めるプロンプトを出します。また、パスワードが期限切れになる前にそれを変更することもできます。
5. デフォルトでは、PF3 または PF15 を使用すると、CICS サインオン・トランザクションは終了されますが、端末セッションは接続したままです。端末セキュリティを向上させるために、GMTRAN システム初期設定パラメーターの DISCONNECT オプションを使用できます。このオプションを指定すると、PF3 または PF15 により端末セッションが切断されます。詳しくは、[GMTRAN システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。
6. BMS マップの自動インストールは、CESN トランザクション内では実行されません。まだインストールされていない BMS マップを CESN から送信しようとする、CESN は英語の BMS マップを送信します。
7. シンボリック・マップ・セットのフォーマットを変更しない場合にのみ、CESN マップ・セットをカスタマイズできます。CESN マップのソースは、SDFHSAMP ライブラリー内のマップ・セット DFHSNLE に含まれています。カスタマイズ後に、通常の方法で物理マップ・セットをロード・ライブラリーに再生成します。ロード・ライブラリーは、DFHRPL 連結内で CICS ライブラリーの前に組み込む必要があります。詳しくは、[基本マッピング・サポート](#)を参照してください。
8. サインオンとサインオフに失敗してエラーが発生すると、DFHCEnnnn メッセージが発行されます。
9. カード読取機構が DFHOPID アテンション ID (AID) をサポートしている場合、RACF OIDCARD ユーザーは CESN を使用してサインオンできます。サポートしていない場合は、EXEC CICS SIGNON コマンドを使用して、独自のサインオン・プログラムを作成する必要があります。プログラミング情報については、[SIGNON](#) を参照してください。

サインオン: 非 3270 ファミリーの端末

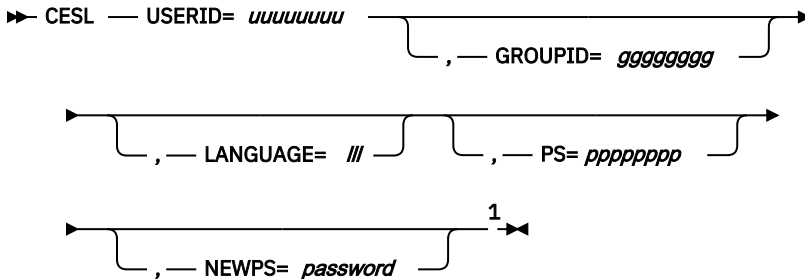
CESL または CESN トランザクションにより、非 3270 端末から CICS にサインオンできます。CESN では、ユーザー ID とパスワード、または同様の認証子が必要になります。ユーザー ID とパスワードまたはパスワード、あるいは同様の認証子とともに CESL を使用できます。

次のいずれかのトランザクションおよびユーザー資格情報を入力してサインオンします。

CESN



CESL



注:

¹ コンマ区切りリスト内のパラメーターの間では、ブランクを使用しないでください。

このスタイルの入力はビデオ・ディスプレイ 端末で使用できますが、IBM 3270 ファミリーの端末に属さない順次端末や順次装置の場合に特に便利です。

既にサインオンしている状態で RACF に対する許可呼び出しがあると、サインオフが起きる場合があります。

オプション

GROUPID=gggggggg

グループ・ユーザー ID (最大 8 文字)。このパラメーターを指定すると、ユーザー ID と一緒にリモート・システムに伝搬される場合があります。

LANGUAGE=///

端末宛メッセージの各国語。お使いのインストール済み環境で利用できるコードに含まれる、標準の 3 文字の IBM コードからなる各国語 ID を入力します。省略した場合、CICS は以下のいずれかのソース (優先度順) から各国語を使用します。

1. サインオン・テーブル内でユーザーに対して指定された言語
2. サインオンが行われた端末にインストールされている端末定義に指定された言語
3. NATLANG システム 初期設定パラメーターに指定された言語

無効なコードを入力した場合は、メッセージ DFHCE3537 が発行されます。

NEWPS=password

新規パスワード (8 文字まで) またはパスワード・フレーズ (9 から 100 文字)。

- PS が 8 文字以下の場合は、標準パスワードと見なされ、NEWPS も標準パスワードであることが必要です。PS が 9 から 100 文字の場合は、パスワード・フレーズと見なされ、その場合は NEWPS もパスワード・フレーズであることが必要です。
- スペース文字のみで構成される値は、パスワード更新要求として解釈されません。確認を要求されることはありません。
- パスワード・フレーズにブランクまたは句読点が含まれている場合、パスワードは単一引用符で囲む必要があります。

- パスワード・フレーズに単一引用符が含まれている場合は、それぞれの単一引用符をさらに 2 つの単一引用符で囲む必要があります。
- z/OS® コンソールからパスワード・フレーズを入力する場合、入力できる最大文字数は 120 です。ただし、NEWPS を省略することによって文字数を増やすことができます。文字ストリングがこの長さ制限を超える可能性があるため、パスワード・フレーズに多数の単一引用符を使用しないでください。

PS=pppppppp

パスワード (8 文字まで) またはパスワード・フレーズ (9 から 100 文字)。必須のパスワードが省略された場合は、CICS がパスワードを再度要求する前に、RACF はセキュリティー違反を報告します。

- パスワード・フレーズにブランクまたは句読点が含まれている場合、パスワードは単一引用符で囲む必要があります。
- パスワード・フレーズに単一引用符が含まれている場合は、それぞれの単一引用符をさらに 2 つの単一引用符で囲む必要があります。
- z/OS® コンソールからパスワード・フレーズを入力する場合、入力できる最大文字数は 120 です。ただし、PS を省略することによって文字数を増やすことができます。
- このインターフェースでは、パスチケットおよび多要素認証子を使用できます。

USERID=uuuuuuuu

ユーザー ID (最大 8 文字)。

パスワード・フレーズを許可するための CESN の変更

通常、CESN トランザクションを使用して CICS にサインオンする際には、標準のパスワードを認証に使用するように制限されています。パスワード・フレーズは許可されていません。ただし、CESL の別名として CESN を指定することにより、パスワード・フレーズ・マップを呼び出すように CESN の動作を変更できます。

このタスクについて

パスワード・フレーズを許可するように CESN を構成するには、CESL 定義を変更し、CESN トランザクションを含まない変更された始動グループを使用するように CICS の始動を変更する必要があります。このタスクは、デフォルトで提供されている始動 CSD グループ DFHSIGN を使用することを前提としています。DFHSIGN のコピーを使用する場合は、ステップ 2 をスキップして、代わりにステップ 3 および 4 でコピーを変更できます。

このタスクは、CICS Explorer、BAS、CEDA、または CSD コマンドを使用して実行できます。

手順

1. デフォルトの CICS 始動リスト DFHLIST を使用する場合は、新規始動リストを指定して、そのリストに DFHLIST の内容を追加します。
独自の始動リストを既に使用している場合は、このステップをスキップできます。
2. デフォルトで提供されている CSD グループ DFHSIGN を別のグループにコピーします。
指定された名前のグループが存在しない場合は、この操作によって新規グループが作成されます。
3. 新規グループから CESN トランザクションを削除します。
4. CESL トランザクション定義を更新して、別名として CESN を指定します。
5. 始動リストから DFHSIGN を削除して、新規グループをその場所に追加します。
指定した名前が付いたリストが存在しない場合は、新規に作成されます。
6. DFHLIST の代わりに指定した始動リストを使用して、CICS 領域のコールド・リスタートを実行します。

第 18 章 CEST - 監視端末

CEST を使用して、マスター端末 (CEMT) トランザクションのサブセットを呼び出します。CEST コマンドを使用すると、回線、ネット名、タスク、および端末の一部の値を照会し、変更することができます。

CEST は、3270 ファミリーのディスプレイ 装置または同等な端末から起動することも、オペレーティング・システム・コンソールから起動することもできます。

すべての CEST コマンドには、SUPRID キーワードを指定する必要があります。SUPRID は、トランザクションを呼び出す監視プログラムを指定し、その値は端末リスト・テーブル (TLT) の 1 文字または 2 文字の接尾部です。SUPRID キーワードについては、[Terminal list table \(TLT\)](#)を参照してください。

例えば、CEST INQ TERMINAL SUPRID(AL) は DFHTLT1 テーブル内の端末すべての状況を表示します。画面に上書きするか、CEST SET コマンドを使用して値を変更できます。SUPRID を指定する必要があるという要件のほかに、コマンドの構文と値の意味は CEMT INQUIRE|SET LINE、NETNAME、TASK、および TERMINAL で説明されているとおりです。

第 19 章 CETR - トレース制御

CETR は、CICS のトレース・アクティビティを制御するために使用します。

トランザクションを開始するには、コマンド行に CETR と入力して Enter キーを押します。

以下の画面が表示され、各フィールドにシステムからの値が示されます。必要な新しい値を入力フィールドに上書きできます。Enter キーを押すと、CETR によって新しい値を設定するために必要なコマンドが発行されます。エラーがある場合は、PF9 キーを押して、エラー・メッセージを表示します。短いエラー・メッセージが 1 つのみある場合、この表示内容の下部付近に表示されます。

CETR CICS Trace Control Facility

Type in your choices.

Item	Choice	Possible choices
Internal Trace Status	==> STOPPED	STArted, STOpped
Internal Trace Table Size	==> 12288 K	1024K - 1048576K
Auxiliary Trace Status	==> PAUSED	STArted, STOpped, Paused
Auxiliary Trace Dataset	==> B	A, B
Auxiliary Switch Status	==> ALL	NO, NExt, All
GTF Trace Status	==> STARTED	STArted, STOpped
Master System Trace Flag	==> OFF	ON, OFF
Master User Trace Flag	==> OFF	ON, OFF

When finished, press ENTER.

PF1=Help 3=Quit 4=Components 5=Ter/Trn 9=Error List

図 108. CETR トランザクション: 初期画面

トレース・フィールドの説明

この画面例では、フィールドは以下のとおりです。

- 内部トレース状況が「STOPPED」であるため、通常のトレースが明示的に内部トレース・テーブルに送られることはありません。しかし、内部トレース・テーブルは他のトレース宛先用のバッファとして使用されるので、1 つ以上のトレース・エントリーが「開始 (STARTED)」の場合には最新のトレース・エントリーが常に入れられます。

内部トレース・テーブルは例外トレース・エントリーの宛先としても使用されます。このエントリーは、CICS が例外条件を検出するつど作成されます。この例に示したオプションが設定されているときに例外条件が検出されると、内部トレース・テーブルおよび GTF トレース・データ・セットで例外トレース・エントリーを検索することができます。

- 内部トレース・テーブルのサイズは、デフォルト・サイズの 12288 KB です。内部トレース状況が「STARTED」であった場合、トレース・テーブルはいっぱいになったときに循環します。

内部トレース・テーブルのサイズを変更する場合は、z/OS パラメーター **MEMLIMIT** の現在の設定値を確認してください。**MEMLIMIT** は、CICS アドレス・スペースが使用可能な 64 ビット・ストレージの量を制限します。**TRTABSZ** の設定値は **MEMLIMIT** の範囲内でなければならず、CICS 領域での 64 ビット・ストレージを他の用途で使用することも考慮に入れる必要があります。

内部トレース・テーブル用のストレージの使用について詳しくは、[CICS トレース: パフォーマンスおよびチューニング](#)を参照してください。

- 現行の補助トレース・データ・セットは B で、補助トレースの開始時にトレース・エントリーが DFHBUXT に書き込まれます。状況が「休止 (PAUSED)」と示されているので、この宛先に対するトレースは行われ

ません。補助スイッチ状況は「すべて (ALL)」なので、ある補助トレース・データ・セットがフルになるつど、他のデータ・セットに対するスイッチが作成されます。

- GTF トレース状況は「開始 (STARTED)」と示されており、CICS トレース・エントリーは MVS に定義されている GTF トレース・データ・セットに書き込まれます。トレース項目を GTF に書き込むには、TRACE=USR オプションを使用して MVS のもとで GTF トレースを開始する必要があります。

CICS GTF 状況が開始済みであっても、GTF トレースが MVS のもとで開始されていなかった場合、トレース項目は書き込まれません。この状況では、エラー条件は報告されません。

- 主システム・トレース・フラグは「オフ (OFF)」です。この場合、一部のタスクに標準トレースが指定されていても、標準トレースは全く行われません。しかし、特殊なタスク・トレースには影響はありません。主システム・トレース・フラグは、標準タスク・トレースが行われるかどうかのみ判別します。

CETR には以下の機能もあります。

- コンポーネント・トレース・オプションの設定 (PF4 を押す)
- トランザクションおよび端末トレース・オプションの設定 (PF5 を押す)
- JVM トレース・オプションの設定 (PF6 を押す)

問題判別の支援としてさまざまな CETR オプションを使用する方法については、[CICS トレースの使用](#)を参照してください。

コンポーネント別のトレース・レベルの定義

特定の CICS コンポーネントのトレース・レベルは、2つの値によって表現されます。1つの値は標準トレースのアクティブなトレース・レベルを示し、もう1つの値は特殊トレースのレベルを示します。CETR では、個々のコンポーネントまたはコンポーネントのグループを対象に、標準トレースまたは特殊トレースのアクティブ・トレース・レベルを設定できます。

このタスクについて

トレース・レベルを含む標準トレースまたは特殊トレースについては、[CICS トレースの使用](#)を参照してください。

手順

1. CETR と入力し、PF4 を押して「**Component Trace Options**」画面を表示します。

以下の画面が表示され、ユーザーが使用しているシステムの値がそれぞれのフィールドに示されます。

CETR		Component Trace Options		CI41 IYAHZCCV	
Over-type where required and press ENTER.				PAGE 1 OF 4	
Component	Standard	Special			
-----	-----	-----			
AP	1	1-2			
AS	1	1-2			
BA	1	1-2			
BM	1	1			
BR	1	1-2			
CP	1	1-2			
DC	1	1			
DD	1	1			
DH	1	1-2			
DM	1	1-2			
DP	1	1-2			
DS	1	1-2			
DU	1	1-2			
EC	1	1-2			
EI	1	1			
EJ	1	1-2			
EM	1	1-2			
EP	1	1-2			
PF: 1=Help 3=Quit 7=Back 8=Forward 9=Messages ENTER=Change					

図 109. CETR トランザクション: コンポーネント・トレース・オプション画面

2. PF7 と PF8 を使用して、コンポーネントのリストを上下にスクロールします。
 3. コンポーネントに必要なトレースのレベルを指定します。
以下のいずれかの方法を使用して、トレース・レベルの範囲を指定できます。通常は「1」と「2」が最も適切な範囲です。
 - ・ 表示されている値を上書き入力して、トレース・レベルを指定します (例えば、1-2 または 1.2)。
 - ・ 関連する見出しの下に、大文字または小文字で ALL を入力します。
 - ・ 複数のフィールドを変更する場合は、等号 = を使用します。これは、特定のフィールドを上のものと同じ値に変更することを示しています。
- CETR を使用して特定のコンポーネントのトレースをオンにすると、CICS はどのような種類の CICS の再始動後にもコンポーネント・トレース・フラグの変更を保管しません。
4. OFF を入力して、特殊ヘッダーまたは標準ヘッダーの下にある特定コンポーネントのトレースをオフにします。

トランザクションおよび端末に関連したトレース・オプションの指定

CETR では、タスクの開始に使用されるトランザクション ID、またはタスクを実行する端末の ID を指定して、特定の CICS タスクのトレースを制御できます。タスクの標準トレースまたは特殊トレースを設定することも、タスクのトレースを抑止することもできます。また、特定の端末 ID またはネット名に対して、z/OS Communications Server 出口トレースと ZCP トレースを使用可能にすることもできます。Db2 に接続する場合は、単一のトランザクションで CETR を使用すると新規 TXDINST が生成され、トレースのレベルが標準から特殊に変更されることに注意してください。その結果、DB2TRAN に対する新しい LOCATE が実行されます。

手順

- ・ 特殊トレースを使用して単一トランザクションをトレースするには、以下の手順で行います。
 - a) CETR を入力し、主システム・トレース・フラグを OFF に設定します。
この設定は、標準トレースをオフにします。
 - b) PF4 を押して、「Special」ヘッダーの下にある必要なコンポーネントのトレース・レベルを選択します。
 - c) メイン CETR 画面に戻り、PF5 を押します。
以下のように表示され、各フィールド内に独自のシステムの値が入れられます。

CETR	Transaction and Terminal Trace	CI41 IYAHZCCV
Type in your choices.		
Item	Choice	Possible choices
Transaction ID	====>	Any valid 4 character ID
Transaction Status	====>	STandard, SPecial, SUPpressed
Terminal ID	====>	Any valid Terminal ID
Netname	====>	Any valid Netname
Terminal Status	====>	STandard, SPecial
Terminal VTAM Exit Trace	====>	ON, OFF
Terminal ZCP Trace	====>	ON, OFF
VTAM Exit override	====> NONE	All, System, None
When finished, press ENTER.		
PF1=Help	3=Quit	6=Cancel Exits 9=Error List

図 110. CETR トランザクション: トランザクションおよび端末トレース画面

注: VTAM は、現在は z/OS Communications Server と呼ばれています。

d) トレースするトランザクション ID と、トランザクション状況 SPECIAL を指定します。

特定のトランザクションに対して特殊トレースを設定すると、タスクの処理中いずれかの時点で特定のトレース項目を作成するかどうかの決定に、コンポーネントごとの特殊フラグが使用されるようになります。

- 特定の端末に関連したタスクをトレースするには、以下の手順で行います。

- 標準コンポーネント・トレース・フラグをレベル 1 のみに設定します。
- 特殊コンポーネント・トレース・フラグをレベル 1 とレベル 2 に設定します。
- 端末のトレースを特殊に設定します。

これにより、指定した端末から実行されるすべてのタスクに、レベル 1 とレベル 2 のトレースが設定されます。その他すべてのタスクには、レベル 1 トレースのみが設定されます。

- AOR 内で z/OS Communications Server 出口トレースを設定するには、「Netname」として TOR のアプリケーション ID を入力し、「Terminal z/OS Communications Server Exit Trace」に対して ON と入力します。
- 動的 LU 別名が有効になっている CICS 領域内で自動インストールされた端末のバインド・フローをトレースする場合、指定する NETNAME は実際のネットワーク名である必要があります。実際のネットワーク名を使用する場合に、その名前を使用するネットワークが複数あると、そのネットワーク名が出現するたびに、z/OS Communications Server 出口トレースが活動化されます。
- LU 別名がわかっている場合に自動インストールされた端末をトレースする場合は、LUALIAS 名を指定します。

コンポーネント名と省略形

CICS コンポーネントは、CETR トランザクションなどのインターフェースでコンポーネントを使用しやすくするために、2 文字のコードの省略形で表されます。

コード	コンポーネント名
AP	アプリケーション・ドメイン
AS	非同期サービス
BA	ビジネス・アプリケーション・マネージャー
BF*	組み込み関数
BM*	基本マッピング・サポート
BR*	3270 ブリッジ
CP*	共通プログラミング・インターフェース
DC*	ダンプ互換性レイヤー
DD	ディレクトリー・マネージャー・ドメイン
DH	文書処理ドメイン
DI*	データ交換
DM	ドメイン・マネージャー・ドメイン
DP	デバッグ・プロファイル・ドメイン
DS	ディスパッチャー・ドメイン
DU	ダンプ・ドメイン
EC*	イベントの取り込みと発行
EI*	Exec インターフェース

コード	コンポーネント名
EJ	Enterprise Java ドメイン
EM	イベント・マネージャー・ドメイン
EP	イベント処理ドメイン
FC*	ファイル制御
GC	グローバル・カタログ・ドメイン
IC*	インターバル制御
IE	TCP/IP 上の ECI ドメイン
IS*	ISC または IRC
KC*	タスク制御
KE	カーネル
LC	ローカル・カタログ・ドメイン
LD	ローダー・ドメイン
LG	ログ・マネージャー・ドメイン
LM	ロック・ドメイン
ME	メッセージ・ドメイン
ML	マークアップ言語ドメイン
MN	モニター・ドメイン
MP	管理対象プラットフォーム・ドメイン
NQ	エンキュー・ドメイン
OT	オブジェクト・トランザクション・ドメイン
PA	パラメーター・ドメイン
PC*	プログラム制御
PG	プログラム・マネージャー・ドメイン
PI	パイプライン・ドメイン
PT	パートナー・ドメイン
RA	リソース・マネージャー・アダプター
RI*	リソース・マネージャー・インターフェース (RMI)
RL	リソース・ライフサイクル・ドメイン
RM	リカバリー・マネージャー・ドメイン
RS	領域状況ドメイン
RX	RRS 調整 EXCI ドメイン
RZ	要求ストリーム・ドメイン
SC*	ストレージ制御
SH	スケジューラー・サービス・ドメイン
SJ	JVM および Node.js ランタイム・ドメイン

コード	コンポーネント名
SM	ストレージ・マネージャー・ドメイン
SO	ソケット・ドメイン
ST	統計ドメイン
SZ*	フロントエンド・プログラミング・インターフェース
TC*	端末管理
TD*	一時データ
TI	タイマー・ドメイン
TR	トレース・ドメイン
TS	一時記憶域ドメイン
UE*	ユーザー出口インターフェース
US	ユーザー・ドメイン
WB	Web ドメイン
WU	CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) ドメイン
W2	Web 2.0 ドメイン
XM	トランザクション・マネージャー・ドメイン
XS	セキュリティー・マネージャー・ドメイン

注：

1. マーク * が付けられたコンポーネントは、AP ドメインのサブコンポーネントです。これらのコンポーネントのトレース・エントリーは AP nnnn のトレース・ポイント ID を使用して生成されます。
2. DS ドメインの関数 CHANGE_MODE については、DS レベル 2 または 3 のトレースがアクティブになっている場合にトレース項目が生成されます。

第 20 章 CIDP - デバッグ・プロファイルの非活動化

トランザクション CIDP は、システム内のすべてのデバッグ・プロファイルを非活動化するために使用できるユーティリティー・トランザクションです。例えば、無人のシステムにアクティブ・プロファイルが残らないようにするために、平日の終業時刻にこのトランザクションを実行できます。

以下の方法で、システム内のすべてのデバッグ・プロファイルを非活動化できます。

3270 端末からトランザクション CIDP を実行する

入力パラメーターはありません。トランザクションは、非活動化されたデバッグ・プロファイルの数を示す端末メッセージとコンソール・メッセージを発行します。

プログラム DFHDPIN の呼び出し

別のプログラムからプログラム DFHDPIN にリンクでき、第 2 フェーズのプログラム・リスト・テーブル (PLT) にプログラムを組み込むこともできます。入力 commarea はありません。プログラムは、非活動化されたデバッグ・プロファイルの数を示すコンソール・メッセージを発行します。

デバッグ・プロファイルに対するその他の操作には、アプリケーション・デバッグ・プロファイル・マネージャーを使用します。

第 21 章 CIND - 未確定テスト・ツール

CIND トランザクションを使用して、アプリケーション・プログラムに対する未確定の障害の影響をテストします。また、このトランザクションを使用して中断された作業単位 (UOW) を生成し、SPI コマンドを使用して中断された UOW の照会と特性の変更を行うプログラムをテストでき、CIND を使用して中断された UOW を再開することもできます。

分散アプリケーションの同期に関係する概念の説明 (未確定期間および中断された UOW など) については、[システム間の問題のトラブルシューティング](#)を参照してください。

CIND は、スタンドアロン・システムで操作することができます。これにより、UOW を分散 UOW に変更したり、未確定ウィンドウ内での同期点処理中に障害を発生させたりすることができます。

以下のように、CIND を使用して同期点処理中に障害を発生させることができます。

- CIND は、同期点のイニシエーターおよびコーディネーターとして UOW に自身を追加することによって、UOW を分散 UOW に変更します。この結果、同期点コーディネーターの役割を実行して同期点 PREPARE 要求を CICS に送信したリモート CICS システムへのリンクがシミュレートされます。さらにこれにより、CICS は同期点従属の役割を担うようになります。同期点従属になるとは、2 フェーズ・コミット同期点プロトコルの実行中に、CICS 自身が UOW の結果について未確定になることを意味します。CICS が未確定であるとき、CIND は同期点コーディネーターへのリンク障害をシミュレートします。
- TRANSACTION リソース定義が WAIT(YES) を指定している場合は、未確定ウィンドウ内で障害が発生すると CICS は UOW を中断します。
- TRANSACTION リソース定義が WAIT(NO) を指定すると、TRANSACTION ACTION オプションで定義されているように、UOW をコミットまたはバックアウトするための強制的な決定が行われます。この場合、UOW は中断されませんが、分散 UOW のコーディネーターに問い合わせずに強制的にバックアウトまたはコミットが行われます。

CIND を使用して、複数の CICS システム間で実際に分散している UOW を中断することもできます。同期点が開始される CICS システム上で CIND が活動化されている必要があります。これにより、このシステムが他の CICS システムより先に、同期点のイニシエーターとコーディネーターの役割を担当できるようになります。特に、ミラーが同期点イニシエーターになることが保証されている (つまり、サーバー・トランザクションを実行しているミラーが DPL によって SYNCONRETURN を指定する) 場合を除き、CICS ミラー・トランザクションに対しては CIND を活動化しないでください。

CIND がアクティブになると、新規トランザクション・クラス DFHTCIND に属するように定義されたすべてのトランザクションが、同期点に達したときに未確定状態で障害を起こすように強制されます。

注: 内部 CICS システム・トランザクションに対して CIND を使用することはできません。トランザクション・クラス DFHTCIND 内で定義されるようにシステム・トランザクションを変更すると、CIND はこのトランザクションが CICS システム・タスクで使用されることを検出し、CSMT にメッセージ DFHIN1014 を発行します。システム・タスクは実行を続け、このタスクが同期点に達したときに未確定状態で障害を起こすことはありません。

CIND に必要なリソース定義は、グループ・リスト DFHLIST のメンバーであるグループ DFHINDT で提供されます。

CIND 未確定ツールの実行

端末から CIND 未確定ツールを実行して、アプリケーション・プログラムでの未確定障害の影響をテストします。また、このトランザクションを使用して中断された作業単位を生成し、作業単位の変更できます。

このタスクについて

このツールをアクティブにすると、トランザクション・クラス DFHTCIND 内で定義されているすべてのトランザクションが、同期点に達したときに未確定状態で障害を起こすように強制されます。内部 CICS システム・トランザクションに対して CIND を使用することはできません。

手順

1. 未確定状態にするトランザクションのトランザクション・クラスを DFHTCIND に変更します。
2. CIND ON と入力します。

このコマンドは、ツールを活動化し、タスク開始のためのタスク関連ユーザー出口を使用可能にします。

ツールがアクティブであることを確認するメッセージが表示されます。

開始されるすべてのトランザクションについて、タスク関連のユーザー出口がトランザクション・クラスを照会します。クラスが DFHTCIND である場合、タスク関連のユーザー出口は CICS コーディネーター・システム DFHINDSP として動作し、CICS リカバリー管理への呼び出しを発行して、CIND へのリンクを追加します。

3. トランザクションを実行します。

トランザクションがリカバリー可能リソースを更新し、TRANSACTION リソースが属性 WAIT(YES) を指定している場合、これらのトランザクションは未確定状態で障害を起こします。

トランザクションは異常終了コード ASP1 を出して障害を起こし、作業単位は中断されます。中断された作業単位について照会を行うことができます。

リカバリー不能リソースを更新するトランザクション、または READ 要求のみを発行するトランザクションは、異常終了コード ASPR を出して失敗します。作業単位は、読み取り専用であるため、中断されません。

4. CIND OFF と入力します。

このコマンドはタスク関連のユーザー出口を使用不可にし、トランザクションが未確定にならないようにします。

このツールがアクティブでなくなったことを確認するメッセージが表示されます。

5. CIND RESYNC COMMIT または CIND RESYNC BACKOUT と入力します。

これらのコマンドは、CICS 領域に再接続するコーディネーター CICS システムをシミュレートします。コーディネーターは DFHINDSP です。

タスクの結果

CICS リカバリー・マネージャーは、ツールのために以前中断されていたすべての作業単位を再開します。コミットまたはバックアウトは、再開が行われるときにリカバリー・マネージャーが行うアクションを指定します。再開される作業単位ごとに、メッセージ DFHIN1012 が CSMT に送られます。このメッセージは、DFHINDSP およびリカバリー・マネージャーによって定義された作業単位の状況の詳細を示します。

また、これらのコマンドを使用して、同期化されていない作業単位の動作をシミュレートすることもできます。例えば、TRANSACTION リソースが属性 WAIT(NO) と WAITACTION(COMMIT) を指定している場合、作業単位は中断されず、強制的にコミットされます。この時点で CIND RESYNC BACKOUT を入力すると、作業単位の同期が失われることが DFHIN1012 メッセージ出力に示され、これはメッセージ DFHRM0111 と同様です。

CIND の状況の照会

このタスクについて

CIND INQUIRE と入力します。これにより、CIND の現在の状況が返され、以下のいずれかのメッセージが出されます。

```
DFHIN1003 date time applid. The indoubt tool  
is active for DFHTCIND tranclass transactions.
```

```
DFHIN1006 date time applid. The indoubt tool is  
not active.
```

EXEC CICS LINK コマンドを使用した未確定ツールの実行

このタスクについて

端末とトランザクションを使用して未確定 CIND ツールを実行する代わりに、EXEC CICS LINK コマンドを使用して、アプリケーションから COMMAREA を渡して未確定ツールにリンクできます。例:

```
EXEC CICS LINK PROGRAM('DFHINDT') COMMAREA(COMM)
```

ここで、COMM は DFHINDT に渡すコマンドを含むデータ域です。COMM は、以下のいずれかを含んでい
る必要があります。

```
' ON '  
' OFF '  
' RESYNC COMMIT '  
' RESYNC BACKOUT '
```

単一トランザクションの未確定への設定

このタスクについて

トランザクション・クラスとは関係なく単一トランザクションを未確定にする場合は、アプリケーションをプログラム DFHINDAP にリンクできます。(この場合、commarea は不要です。)これにより、CIND ON と入力する必要なく単一トランザクションを未確定にすることができます。463 ページの『CIND 未確定ツールの実行』で説明するように、CIND RESYNC COMMIT などを入力することによって、この単一トランザクションを再同期できます。

DFHINDAP が実行する機能は、必要に応じて未確定タスク関連ユーザー出口を使用可能にした後、未確定タスク関連ユーザー出口の API 呼び出しを行って、ダミー・コーディネーターを追加することです。この利点として、テスト・アプリケーションが開始された後で、未確定状態を強制するかどうか決定できます。したがって、トランザクション内の最初のものを除く UOW は、強制的に未確定にすることができます。

CIND メッセージ

未確定ツールは、以下の時点で CSMT に監査証跡 DFHINxxxx メッセージを出力します。

- CIND ON を使用して CIND が活動化されたとき
- CIND OFF を使用して CIND が非活動化されたとき
- CIND RESYNC COMMIT または CIND RESYNC BACKOUT を使用して再同期が開始されたとき
- 処理される UOW ごとに、以下の時点で出力します。
 - CIND が自身をコーディネーターとして UOW に追加したとき
 - コーディネーター・システムへのリンク喪失を CIND がシミュレートし、UOW が中断されたとき
 - コーディネーター・システムへのリンク喪失を CIND がシミュレートしたが、UOW は中断されないとき
 - CIND によって UOW の再同期が行われたとき

それぞれのメッセージは、トランザクション ID、タスク番号、および UOW ID を示します。

第 22 章 CKQC - CICS®-MQ アダプター制御トランザクション

CICS-MQ アダプターを制御する 1 つの方法として、CKQC トランザクションを使用できます。CKQC トランザクションは、CICS-MQ アダプター制御パネルを介してか、コマンド行またはアプリケーション・プログラムから使用できます。

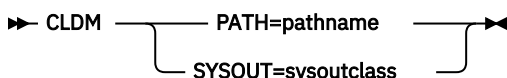
CKQC の機能およびそれら呼び出すさまざまな方法について詳しくは [CICS-MQ アダプターの管理](#) を参照してください。

第 23 章 CLDM - CICS ロード・モジュール・マップ

トランザクション CLDM を使用して、CICS ロード・モジュール・マップを生成します。ロード・モジュール・マップは、z/OS ハードウェア・インストールメンテーション・サービスによって使用されるほか、問題判別の際に使用され、CICS ローダー・ドメインによってロードされたプログラムを識別するために役立ちます。

構文

CICS ロード・モジュール・マップは、以下の構文図に示されているオプションを使用して、さまざまなフォーマットで生成できます。



オプション

PATH=pathname

pathname は、z/OS ハードウェア・インストールメンテーション・サービスの CICS ロード・モジュール・マップを保管するために CLDM が使用する、既存の USS ファイル・システム・パスの名前です。パス名は絶対パス名であることが必要です。つまり、スラッシュ (/) で始まる必要があります。

既存の USS ファイル・システム・パスは、通常は小文字または大/小文字混合です。デフォルトでは、**PATH** オプションに入力した値に含まれるすべての文字が、CLDM によって小文字に変換されます。大/小文字混合で USS ファイル・システム・パスを指定するには、端末の TYPETERM 定義の UCTRAN 属性が TRAN または NO に設定されていることを確認して、**PATH** オプションに入力する値を単一引用符で囲みます。(UCTRAN が YES に設定されている場合に、値を単一引用符で囲むと、値は大文字に変換されます。)

指定した USS ファイル・システム・パスに書き込まれるファイル名は CLDM によって生成され、フォーマットは SYSHISTyyyymmdd.hhmmss.asidx.jobname.CICSMAP です。ここで、それぞれの値は以下のとおりです。

- *yyyymmdd* は、CLDM が実行された年、月、および日です。
- *hhmmss* は、CLDM が実行された時、分、および秒です。
- *asidx* は、CICS 領域の 4 バイトの 16 進アドレス・スペース ID です。
- *jobname* は CICS ジョブ名です。

USS ファイル・システムに書き込まれるレコードのフォーマットについては、「z/OS システム・コマンド」資料の表『ハードウェア・データ収集で生成される .MAP ファイルの情報の解釈』を参照してください。ただし、以下の条件が適用されます。

- CLDM は、レコード・タイプ M (モジュール) および C (CSECT) のデータ・レコードのみを生成します。
- モジュール (レコード・タイプ M) レコードの場合は、モジュールが LPA 領域 (つまり、MLPA、PLPA、または FLPA) 内にあれば、メモリー領域は常に M に設定されます。
- モジュール・レコードの場合、長い名前 (VOLSER および DSN) のフィールドは常にブランクです。

注: USS ファイル・システムにファイルを作成する権限のチェックが行われる対象は CICS 領域ユーザー ID であり、CLDM トランザクションに関連付けられたユーザー ID ではありません。

SYSOUT=sysoutclass

sysoutclass は、CLDM がローダー・プログラム・マップ・レポートを作成するために使用する必要がある SYSOUT クラスです。SYSOUT オペランドが有効であるためには、CICS 上で CICS スプール・インターフェースがアクティブになっている (SIT 内で SPOOL= YES) 必要があります。他のスプール関連属性を指定する必要はありません。CLDM は次の方法で呼び出すことができます。

- 3270 端末からトランザクションを実行します。端末から入力を受信し、端末にメッセージが送信されます。
- CICS API START コマンドから CLDM を開始できます。START コマンドから入力を取得し、コンソールにメッセージが送信されます。
- DFHLDMP にリンクします。コンテナ DFHLDMP.INPUT 内の現行チャンネルから入力を取得し、コンテナ DFHLDMP.OUTPUT にメッセージが書き込まれます。

注：このサポートは、実行可能コードをマップするためのものです。このリリースの CSECT マッピングに、リテラル・プールを含めることはできません。

第 24 章 CLER - Language Environment ランタイム・オプション

CLER トランザクションは Language Environment によって提供され、CICS Transaction Server 製品には付属していません。

CLER トランザクションを使用して、Language Environment ランタイム・オプションを表示します。オプションのサブセットを変更することもできます。ランタイム・オプションを印刷する場合は、CESE キューに書き込むことができます。

CLER は、[471 ページの図 111](#) に示す表示パネルを提供する会話型トランザクションです。

CLER

CICS IYCLZCFE

LANGUAGE ENVIRONMENT REGION LEVEL RUNTIME OPTIONS

TYPE IN YOUR CHOICES.

RUNTIME OPTION	CHOICE	POSSIBLE CHOICES
ALL31	==> ON	ON, OFF
CBLPSHPOP	==> ON	ON, OFF
CHECK	==> ON	ON, OFF
INFOMSGFILTER	==> OFF	ON, OFF
RPTOPTS	==> OFF	ON, OFF
RPTSTG	==> OFF	ON, OFF
TERMTHDACT	==> DUMP	QUIET,MSG,TRACE,DUMP,UAONLY,UADUMP,UAIMM,UATRACE
TRAP	==> OFF	ON, OFF

WHEN FINISHED, PRESS ENTER.

図 111. CLER ランタイム・オプション・トランザクション

注:

1. CLER トランザクションは基本マッピング・サポート (BMS) を使用するので、この機能は BMS によってサポートされる端末装置によってのみ使用できます。
2. CLER を実行するために必要なトランザクション、プログラム、およびマップ・セットのリソース定義は、DFHLE グループ内にあります。

CLER トランザクションの使用法については、「[z/OS Language Environment デバッグ・ガイド](#)」を参照してください。

第 25 章 CMAC - メッセージおよびコードの表示

CMAC を使用して、CICS メッセージおよびコードに関する情報を表示します。

CMAC トランザクションを使用するには、以下の手順で行います。

- 初期設定リスト (DFHLIST) に CICS システム定義 (CSD) ファイルの DFHCMAC グループを追加します。
- DFHCMAC グループ内の DFHCMACD ファイルの定義に、CICS メッセージ・ファイルのデータ・セット名を追加します。

注: DFHCMACD ファイルは、CICS に適用されている PTF によっては更新されません。最新のメッセージの更新については、[CICS メッセージの説明](#)を参照してください。

このトランザクションは MVS コンソールでは無効で、情報は英語でのみ表示されます。

以下のいずれかのコマンドを入力してトランザクションを開始します。

1. CMAC

2. **CMAC abcd** (ここで「abcd」は異常終了コード)

3. **CMAC xxxx** (ここで「xxxx」はメッセージ番号のみ)

4. **CMAC yyxxxx** (ここで「yy」はコンポーネント ID、「xxxx」はメッセージ番号)

5. **CMAC DFHxxxx** (ここで「xxxx」はメッセージ番号)

6. **CMAC DFHyxxxx** (ここで「yy」はコンポーネント ID、「xxxx」はメッセージ番号)

方式 1 を使用すると、[473 ページの図 112](#) に示す画面が表示されます。

```
DFHCMC01          Display On-line Messages and Codes

Type the required message identifier, then press Enter.

Component ID ==> (for example, TC for Terminal Control
                  FC for File Control, etc.)
                  This field is required for Messages in the
                  form DFHxyyyyy, Where xx is the Component ID.

Message Number => (for example, 1060, 5718, or Abend Code
                  such as ASRA, etc.)

F3=Exit to CICS
```

図 112. CMAC トランザクション: 初期画面

コンポーネント ID とメッセージ番号を入力して、目的のメッセージを CICS に指示します。メッセージにコンポーネント ID がない場合は、フィールドを空白のままにします。

この画面の見出しの下に以下の情報が示されます。

説明

メッセージの原因の説明。

システム処置

システムが実行しているアクション。

ユーザー応答

実行できる、または実行できないアクション。

宛先

メッセージを表示する場所。これは、コンソール、ユーザー端末、または一時データ・キューのいずれかです。

Module

エラーを報告しているモジュールの名前。

例えば、コンポーネント ID のないメッセージ DFH5130 に関する情報を表示するには、以下のように入力します。

```
CMAC 5130
```

以下のように表示されます。

```
DFH5130    UNABLE TO LOCATE MODULE DFHCICS.  PRIMARY
           CSD NOT INITIALIZED.
EXPLANATION: The DFHCICS module is missing from the library.
SYSTEM ACTION: Processing of the INITIALIZE command is
terminated.
USER RESPONSE: Ensure that the DFHCICS module is present in
the library.
DESTINATION:  SYSPRINT
MODULE(S):    DFHCSDUP
F3=CANCEL
```

図 113. CMAC トランザクション: 最初の画面例

メッセージ CE3528 を表示するには、コンポーネント ID CE およびメッセージ番号 3528 を入力します。以下のように表示されます。

```
DFHCE3528 Signon failed during SECLABEL checking.

EXPLANATION: The signon request has failed because the
external security manager (ESM) detected a critical error.

SYSTEM ACTION: The signon transaction terminates.

USER RESPONSE: Refer to message DFHSN0108 on the CSCS log
for the information and actions necessary to resolve this
problem.

DESTINATION: Terminal End User

MODULE(S): DFHSNP

F3=CANCEL
```

図 114. CMAC トランザクション: 2 番目の画面例

方式 2 から 6 を使用する場合、初期画面はバイパスされ、メッセージ情報画面に直接進みます。

第 26 章 CMSG - メッセージ交換

CMSG を使用して、使用している端末から 1 つ以上の宛先にメッセージを送信します。

宛先としては以下のいずれかが考えられます。

- 別の端末
- 別の端末、ただし指定されたオペレーターがその端末にサインオンしている場合のみ
- 別の端末、ただしその端末にサインオンしているオペレーターが指定されたクラスに属している場合のみ
- 別のオペレーター (現在サインオンしていれば CICS がそのオペレーターを見つけ、そのオペレーターの端末にメッセージを送信する)
- すべての端末
- 特定のクラスに属するオペレーターがサインオンしているすべての端末
- 上記の宛先の組み合わせ

メッセージを将来いずれかの時点で送信するように指定できます。メッセージを送信できない場合は、端末に通知されます。

さらに、端末リスト・テーブル (TLT) を使用して標準ルーティング・リストを提供することもできます。これには、端末 ID およびオペレーター ID を含めることができます。メッセージを入力する時点で複数のルーティング・リストを指定でき、この時点で個々の宛先をリストから削除したり、リストに追加したりすることができます。

CICS メッセージ交換は、ユーザー定義のトランザクション ID によって呼び出されるサービス・プログラムによって提供され、このトランザクション ID が CICS に対して定義されている必要があります。このトランザクション ID は、CMSG、または任意の 4 文字のユーザー定義トランザクション ID です。本書では、CMSG がトランザクション ID であることが想定されています。

メッセージ交換を拡張して事前定義のメッセージを組み込むことができ、完全なメッセージ交換トランザクション入力フォーマットを組み込むこともできます。

メッセージ交換が開始される端末、およびメッセージ宛先のすべての端末が、BMS をサポートしている必要があります。

区画をサポートする端末 (トランザクション端末を含む) を宛先としてメッセージを送付できます。ただし、これらのメッセージによって端末は「ベース」状態にリセットされます。

メッセージの送信

別の端末にメッセージを送信するには、トランザクション ID (CMSG) を入力し、続いて該当するオプションを入力します。

このタスクについて

479 ページの『[CMSG コマンド](#)』の構文図は、CMSG のオプションを示しています。479 ページの『[CMSG コマンド・オプション](#)』に、オプションの詳細が記載されています。

CMSG を入力した後、少なくともメッセージ・テキスト、宛先 (ROUTE または OPCLASS、あるいはその両方)、およびオプション SEND (S に省略可能) を含める必要があります。例えば、以下のコマンドはメッセージ 'GOOD MORNING' をすべての端末に送信します。

```
CMSG 'GOOD MORNING',R=ALL,S
```

すべてが正常であれば、メッセージは送信され、以下の応答が端末に戻されます。

```
MESSAGE HAS BEEN ROUTED
```

この応答は、メッセージ交換トランザクションが正常に完了した場合に返されます。これは、メッセージがその宛先に正常に送付されたことを示していますが、送信状況は反映していません。

入力ではバックスペース文字を使用できます。

メッセージの一部ではない改行文字 (また、ハードコピー端末の場合は復帰) はコンマに変更されます。ただし、これらの文字が入力の最初または最後に出現する場合は、削除されます。これにより、NL 文字をコンマの代わりにオプションの区切り記号として使用できます。例えば、ディスプレイ 装置の場合は、以下のように入力できます。

```
CMMSG R=(T001,T002)#  
T=1500#  
'THE TIME IS 1500 HOURS'#  
SQ
```

CMMSG と 1 つ以上のスペースの後に、オプションを任意の順序で入力できます。ただし、SEND と CANCEL は例外で、どちらかを最後に入力する必要があります。CANCEL を除くすべてのオプションを 1 文字に省略でき、単一の入力に 1 つ以上のオプションを含めることができます。複数のオプションを指定する場合は、最後のオプションを除き、各オプションの後にコンマを付ける必要があります。最後のオプションに続いては、入力の終わりを示すスペースまたはデータ終了 (EOD) 条件を入力する必要があります。同じ入力の中で、スペースの後にあるデータは無視されます。

単一の入力の最後を示すには、以下のようにします。

- IBM 3270 などのディスプレイ 装置で Enter キーを押す
- IBM 2741 などのハードコピー端末で復帰を押す

端末との会話を維持するために、SEND オプションを含む最後の入力を除くすべての入力の状況が、単一の一時記憶域レコードに保管されます。

メッセージ交換トランザクションは、終了まで会話を維持します。つまり、すべての入力 (他のトランザクション ID であっても) がメッセージ交換プログラムに渡されます。別のトランザクションを開始する前に、メッセージ交換トランザクション (複数の入力に関連している可能性がある) を終了する必要があります。

メッセージの取り消し

このタスクについて

以下のように入力して、現行のメッセージ交換トランザクションを取り消すことができます。

- 入力の最後の 6 文字として CANCEL と入力します。以下の応答が表示されます。

```
TERMINATED BY OPERATOR.
```

- 最初の 4 文字として CMMSG と入力し、続いてデータの終わり (EOD) を入力します。以下の応答が表示されます。

```
NO INPUT - REENTER.
```

- 最初の 5 文字として CMMSGx と入力します (ここで、x はスペースまたは C 以外の任意の文字)。以下の応答が表示されます。

```
SPACE MUST FOLLOW TRANSID.
```

- 最初の 4 文字として CMMSG と入力し、続いてスペースと EOD を入力します。これにより、新規のメッセージ交換トランザクションが開始されます。以下の応答が表示されます。

```
CONTINUE INPUT.
```

このリストの 3 つ目までの例では、会話が終了し、他のトランザクションを開始できます。

メッセージ交換の継続

メッセージ交換トランザクションは、外部から見れば会話型です。内部では、それぞれのメッセージ交換の入力を処理するために新規タスクが作成されます。

タスクがトランザクションを完了するために追加の情報を必要とする場合は、トランザクションの現在の状況が一時記憶域に保管され、端末に応答が送信され、次に開始されるタスクをメッセージ交換タスクにするように要求してタスクが終了します。

状況が保管されると、その端末から前に保管されていたメッセージ交換トランザクションの状況は置き換えられます。

メッセージ交換トランザクションが正常に完了するか、ユーザーがトランザクションを取り消した場合は、該当する応答が端末に送信され、トランザクションの状況は保管されず、トランザクション再始動を指定せずにタスクが終了します。保管された状況は、端末からの会話型入力を続行するためにメッセージ交換タスクによって常に使用されます。Cを追加したトランザクション ID (例えば CMSGC) を入力して、保管された状況を再呼び出しできます。追加の入力を含めることができますが、CMSGC に続けてスペースを挟まずに入力する必要があります。

この方法を使用すると、CANCEL を入力して現在の入力に含まれるエラーをバイパスしながら、会話は継続しないようにすることができるので便利です。その後、例えば CMSGC と入力してから EOD と入力すると、取り消されていない、またはメッセージの送付を引き起こしていない最新の入力の時点で実行されていた会話に端末が参加します。この時点で、オプションを追加することもできます (例えば、CMSGCT=1030)。(トランザクション ID、C、または後続のデータの間にスペースが入っていないことに注意してください)

例えば、以下のように入力します。

```
CMSG R=(T40,T41)
```

以下のような結果を受け取ります。

```
R OK CONTINUE INPUT,
T=1500
RT OK CONTINUE INPUT
'THERE WILL BE ..... AT THE
RT OK CONTINUE MSG
MAIN NIO;FOMH PM VS;OGPTMOS SBR, CANCEL (see Note)
TERMINATED BY OPERATOR
CMSGCMAN BUILDING ON CALIFORNIA AVENUE
RT OK CONTINUE MSG
IN ROOM 407',SEND
MRTS OK MESSAGE HAS BEEN ROUTED
```

注: 入力を訂正する代わりに、取り消して再入力できます。これにより、トランザクション全体が終了します。前に行った入力を保管するには、CMSGC と入力して前に保管された状況ポイントで再始動し、メッセージを継続します。

メッセージ交換の応答から次の入力までの間、端末は空き状態になります。また、端末が TRANSCEIVE 状況であれば、メッセージ交換トランザクションを続行できるようになる前に、自動開始タスクを端末上で開始できます。

この新規タスクの完了時に、ユーザーからの応答が必要であった場合でも、メッセージ交換トランザクションは介入がなかった場合と同様に続行します。ただし、介入タスクが RETURN を発行したことを示す応答が返された場合は、トランザクション ID の後に C を入力して、直前のメッセージ交換トランザクションを強制的に継続する必要があります。

メッセージの送達

以下の条件が満たされると、メッセージを宛先に送信できます。

- 指定された送信時刻になった
 - 端末が INSERVICE 状況であり、以下のどちらかが当てはまる
 - サインオンしているオペレーターの opid が、要求された opid と一致する (ROUTE オプションで指定されている場合)
- または

- サインオンしているオペレーターのクラスが、OPCLASS オプションで指定されているいずれかのクラスと一致する

端末の処理とページングの状況 (対象となるメッセージの送信にも影響を及ぼす) は、初期に CEDA DEFINE TYPETERM コマンドで指定されます。CEMT、CEST、および CEOT の各トランザクションを使用して、状況を変更できます。

処理状況が RECEIVE または TRANSCEIVE の場合は、トランザクションが接続されていなければ、メッセージは自動的に端末に送信されます。

処理状況が TRANSACTION の場合は、ページング・コマンドを入力してメッセージの送信を要求する必要があります。505 ページの『[第 30 章 CSPG - ページ検索](#)』を参照してください。

メッセージは 1 つ以上の「ページ」に構成され、そのサイズはシステム・プログラマーによって宛先に対して事前定義されます。端末の処理状況によって、メッセージの最初または唯一のページの送信が決定されます。後続のページ (ある場合) は、システム・プログラマーによって定義されたとおり、端末のページング状況に応じて送信されます。

端末が PAGE 状況の場合は、ページング・コマンドによって後続のページを要求する必要があります。

端末が AUTOPAGE 状況の場合は、完全なメッセージが印刷されます。

サブシステムと端末システム

CMSG メッセージ交換機能の ROUTE オプションを使用して、ディスプレイ 装置、通信端末、および順次端末からの応答を管理できます。応答を必要とする可変条件を常に予期することはできず、メッセージ交換タスクは有効な応答を受信するまで入力を読み取り、エラー・メッセージを発行することによって、この機能を実行します。

ROUTE オプションに関連する具体的な詳細については、[CMSG コマンド・オプション、ROUTE](#) を参照してください。その他の情報については、[IBM 3767/3770/6670 ガイド](#)を参照してください。

IBM 3270 ディスプレイ装置

3270 ファミリーのディスプレイ 装置への応答は、モデル 1 ディスプレイの単一の 40 文字行に適合するように設計されています。応答により多くのスペースを使用できるように、応答の前に付けられる標識の間には、3270 以外の端末に表示されるスペースが入りません。3270 ファミリーのディスプレイ 装置への応答は、画面に表示されている内容を消去せずに、行の末尾 40 文字の位置に表示されます。

メッセージ交換トランザクションが開始された後、空の画面から続行したい場合は、CLEAR キーを押すことができます。「CLEAR/CANCEL OR CONT xxxxx」という応答が表示されます (ここで、xxxxx は INPUT、ROUTE、または MSG のいずれか)。トランザクションを続行でき、また連続して 2 回目の CLEAR キーを押すとトランザクションを取り消すことができます。より良い画面消去方法は、ERASE INPUT キーを押すことです。この方法では、プロセッサとの対話が生じないからです。

入力されていない画面の位置は受信されないため、画面のデータの配置と表示はさまざまな方法で行うことができます。例えば、表示画面にそれぞれのオプションを改行して入力できます。連続するオプションの間にはコンマを挿入する必要があります。また、メッセージ・テキスト内で改行する場合は、現在行の終わりを示すためにフィールド・マーク文字を入力する必要があります。メッセージ内のフィールド・マーク文字 (メッセージの先頭文字を含む) はすべて NL 文字として解釈され (3270 ファミリーのディスプレイ装置に対応するキーはありません)、他のすべての端末でメッセージが正しく配置されます。

IBM 3767 通信端末装置

3767 のキーボード/プリンター装置は、メッセージの入力と受信に適格です。

順次端末

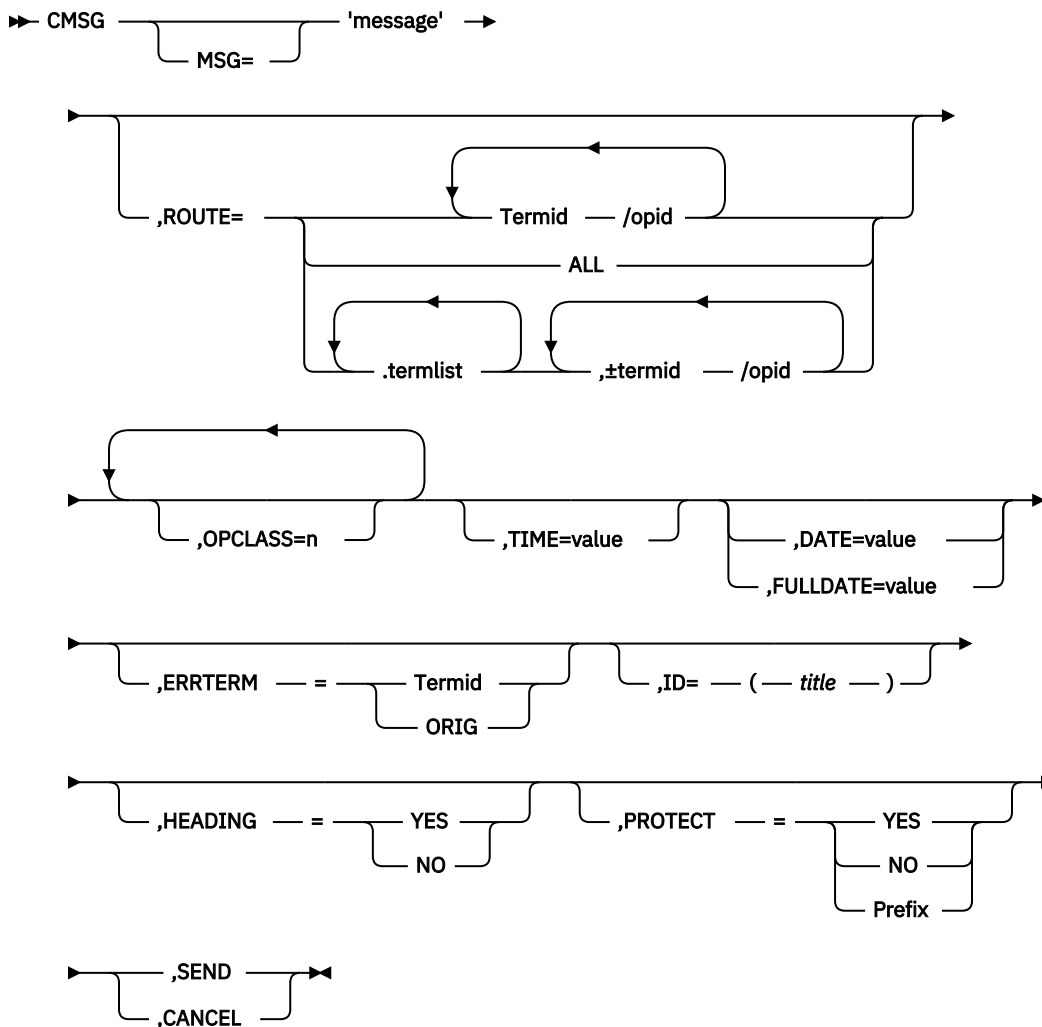
順次 (BSAM) 端末では、メッセージ交換トランザクションが完了するか取り消されるまで、CMSG メッセージ交換機能は会話を維持します。オペレーターがサインオンしていない場合など、応答を必要とする可変条件は、対話式端末から容易に処理できます。ただし、これらの条件を常に予期することはできず、メッセージ交換タスクは有効な応答を受信するまで、入力の読み取りとエラー・メッセージの発行を続けます。このような処理によって、順次入力ストリームの全体が消費される可能性があります。予期しない応

答を必要とする可能性があるそれぞれのメッセージ交換トランザクションの後、順次入力に CMSG CANCEL レコードが含まれるようにする必要があります。最後のメッセージ交換トランザクションの後にも、この CMSG CANCEL レコードを使用することをお勧めします。

CMSG コマンド

CMSG コマンドの構文と属性を説明します。

CMSG



CMSG コマンド・オプション

CMSG コマンドを使用して、端末から送信されるメッセージを変更できます。

メッセージ交換オプションを以下にリストします。CANCEL の場合を除いて、オプション全体の代わりに、各オプションの最初の文字を指定することができます。

CANCEL

現行の入力を無視するように指定し、端末とメッセージ切り替えトランザクションの間で非会話型状況を開始します。CANCEL は入力の最後の 6 文字であることが必要です。CANCEL はメッセージ内でも有効です。

DATE=value

メッセージを送信する日付。以下のいずれかの形式で指定できます。

yy.ddd

年 (00 から 99) と日 (001 から 366)。

mm/dd/yy

月 (01 から 12)、日 (01 から 31)、および年 (00 から 99)。

mm/dd

月 (01 から 12) および日 (01 から 31)。

+d

日数 (0 から 4)。

これらの形式のうち最初の 3 つは、絶対日付を指定するために使用でき、年 (使用する場合は 2 桁の形式です。例えば、現在のシステム日付が 1997 年ならば、1997 年 1 月 31 日は 97.031、01/31/97、または 01/31 と指定できます。この最後の例では、現在のシステム日付の年がメッセージの送信される年であることが想定されます。

注: 「システム日付」、「システム時刻」、「システム年」などの記述は、EXEC CICS ASKTIME によって返される日時または年を意味しています。

DATFORM=DDMMYY が CICS システム 初期設定パラメーターで指定されていた場合は、上記の 2 つ目と 3 つ目を dd/mm/yy または dd/mm として入力します。

• 4 桁形式の年を指定して絶対日を指定する場合は、FULLDATE パラメーターを使用します。

4 つ目の形式では、今日からの日数を指定できます。例えば、DATE=+3 (または D=+3) という値は、メッセージを今日から 3 日後に送信することを意味します。数値は 0 から 4 までの範囲で指定する必要があります。システム時刻が 2330 から 0030 のときは、DATE=+d エントリは受け入れられません (午前 0 時付近での混乱を避けるために)。午前 0 時の前後 30 分以内にこの形式のコマンドを使用すると、以下のエラー・メッセージが発行されます。

```
+DATE INVLD FROM 2330 to 0030
```

TIME= オプションを使用してメッセージの送信時刻を指定することもできます。このオプションについては、[CMMSG コマンド・オプション](#)、[SEND](#) で説明されています。TIME= と DATE= を組み合わせた場合の効果は、以下のとおりです。

- 時刻も日付も指定しない場合は、受信側端末が空くと同時にメッセージが送信されます。
- 時刻を指定して日付は指定しない場合、メッセージは今日の指定された時刻に送信されます。例えば、現在の時刻が 09.00 のときに TIME=0930 (または TIME=+30) を指定した場合、メッセージは今日の 09.30 に送信されます。
- 日付を指定して時刻は指定しない場合、メッセージは指定された日の現在のシステム時刻に送信されます。例えば、現在の時刻が 10.30 のときに DATE=+2 を指定した場合、メッセージは 2 日後の 10.30 に送信されます。
- 日付と時刻の両方を指定した場合、メッセージは指定された日付の指定された時刻に送信されます。例えば、DATE=07/29/98 と TIME=1130 を指定した場合、メッセージは 98 年 7 月 29 日の 11.30 に送信されます。

注:

1. どの場合にも、要求する送信時刻は現在日の始まりから 100 時間未満であることが必要です。つまり、送信時刻を現在日から 4 日目の 03.59 より後にすることはできません。
2. yy.ddd、mm/dd/yy、および dd/mm/yy の形式で入力された日付オプションを処理する際に、CMMSG は「50 年のスライディング・ウィンドウ」を使用して、今世紀、前世紀、または次世紀のどの年であるかを判断します。2 桁の年は、最初は現在日付と同じ世紀の年であると想定されます。この想定された年が過去 50 年より前、またはこの先 50 年より後の場合は、適切に調整されます。例えば、今日の日付が 1997 年 12 月 31 日の場合、各種の DATE オプションは以下のように処理されます。
 - DATE=99.001 は、最初は 1999 年と想定されます。これはシステム年の 50 年以内なので、1999 年がメッセージの送信日付と判断されます。
 - DATE=00.001 は、最初は 1900 年と想定されます。この年は 50 年前よりさらに前なので、送信日付は 2000 年と判断されます。

上記のどちらの例でも、送信日付は受け入れられず、メッセージ「DATE TOO FAR IN FUTURE」が表示されます。

FULLDATE オペランドを使用すると 4 桁の年を指定でき、DATE オペランドを使用する場合のようにあいまいさが生じる可能性がなくなります。

ERRTERM

「termid」は、メッセージが配信不能のためにパージされると通知が送信される端末の ID です。

ORIG は、発信元端末の ID を指定する手段です。

注: 要求された送信時刻より後、指定された間隔内にメッセージが送信できない場合、メッセージは宛先に配信不能と見なされます。この間隔は、システム・プログラマーによって指定されます。間隔を指定しない場合、未配布メッセージに関してアクションは行われず、ERRTERM オプションの効果はありません。

PRGDLAY がシステム 初期設定テーブル (DFHSIT) 内で指定されている場合は、一時データ宛先 CSMT に、端末のパージされた配信不能メッセージの数が通知されます。また、ERRTERM を入力すると、指定された端末にメッセージのメッセージ番号、タイトル ID、および宛先が通知されます。

FULLDATE=value

FULLDATE オプションは DATE オプションと同様ですが、4 桁の年を入力する必要があります。メッセージを送信する日付を指定します。以下のいずれかの形式で指定できます。

yyyy.ddd

年 (0000 から 9999) と日 (001 から 366)。

mm/dd/yyyy

月 (01 から 12)、日 (01 から 31)、および年 (0000 から 9999)。

mm/dd

月 (01 から 12) および日 (01 から 31)。

+d

日数 (0 から 4)。

これらの形式のうち最初の 3 つは、絶対日付を指定するために使用でき、年 (使用する場合) は 4 桁の形式です。例えば、現在のシステム日付が 1997 年ならば、1997 年 12 月 31 日は 1997.365、12/31/1997、または 12/31 と指定できます。この最後の例では、現在のシステム日付の年がメッセージの送信される年であることが想定されます。

(DATFORM=DDMMYY が CICS システム 初期設定パラメーターで指定されていた場合は、上記の 2 つ目と 3 つ目を dd/mm/yyyy または dd/mm として入力します。)

4 つ目の形式では、今日からの日数を指定できます。例えば、FULLDATE=+3 (または F=+3) という値は、メッセージを今日から 3 日後に送信することを意味します。数値は 0 から 4 までの範囲で指定する必要があります。システム時刻が 2330 から 0030 のときは、FULLDATE=+d エントリは受け入れられません (午前 0 時付近での混乱を避けるために)。午前 0 時の前後 30 分以内にこの形式のコマンドを使用すると、以下のエラー・メッセージが発行されます。

```
+DATE INVLD FROM 2330 to 0030
```

TIME= オプションを使用してメッセージの送信時刻を指定することもできます。このオプションについては、[CMMSG コマンド・オプション](#)、[SEND](#) で説明されています。TIME= と FULLDATE= を組み合わせた場合の効果は、以下のとおりです。

- 時刻も日付も指定しない場合は、受信側端末が空くと同時にメッセージが送信されます。
- 時刻を指定して日付は指定しない場合、メッセージは今日の指定された時刻に送信されます。例えば、現在の時刻が 09.00 のときに TIME=0930 (または TIME=+30) を指定した場合、メッセージは今日の 09.30 に送信されます。
- 日付を指定して時刻は指定しない場合、メッセージは指定された日の現在のシステム時刻に送信されます。例えば、現在の時刻が 10.30 のときに FULLDATE=+2 を指定した場合、メッセージは 2 日後の 10.30 に送信されます。
- 日付と時刻の両方を指定した場合、メッセージは指定された日付の指定された時刻に送信されます。例えば、FULLDATE=07/29/1998 と TIME=1130 を指定した場合、メッセージは 1998 年 7 月 29 日の 11.30 に送信されます。

注: どの場合にも、要求する送信時刻は現在日の始まりから 100 時間未満であることが必要です。つまり、送信時刻を現在のシステム日付から 4 日目の 03.59 より後にすることはできません。

HEADING

見出し情報を指定します。HEADING=YES の代わりに H または HEADING を使用できます。

YES

発信元端末の現在の時刻、日付、および ID をメッセージ・テキストの前に付けるように指定します。

NO

前の見出し要求は無視されるようになります。

ID=(title)

title は、メッセージに関連付けるタイトル (最大長 62 文字) を指定します。

その端末への即時送信用のキューに入れているメッセージすべてのタイトルの表示を要求するコマンドについては、505 ページの『第 30 章 CSPG - ページ検索』を参照してください。

MSG=message

「message」は送信するメッセージのテキストです。キーワード MSG と等号はオプションです。テキストは単一引用符で囲む必要があります。メッセージの一部として含める単一引用符は、単一引用符のペアによって表す必要があります。複数の連続する入力にまたがってメッセージを継続できます。

終了の単一引用符を省略した場合は、入力全体がメッセージの一部として扱われ、メッセージを継続する要求が端末に送信されます。単一引用符の後にコンマを付けて MSG オプションを終了すると、トランザクション全体が取り消される場合があります、またはその代わりに、このトランザクションに対して以前に入力されたオプションが保管される場合もあります。この場合は、正しいメッセージを再入力でき、以前の誤ったメッセージは無視されます。

MSG オプションのデータの終わりに単一引用符がある場合は、MSG オプションの終わりであるか、または単一引用符がメッセージの一部として含まれることを示す単一引用符のペアの 1 つ目であるかのどちらかを意味しています。

この状態では、端末への応答は以下のようになります。

CONTINUE INPUT OR MSG

次の入力の最初にある文字が単一引用符の場合、それは単一引用符のペアの 2 つ目として扱われ、メッセージは継続します。単一引用符以外の文字の場合は、メッセージが完了し、その文字は新しいオプションの先頭文字として扱われます。

メッセージ内の改行 (NL) 文字は保持されます。(先頭文字が改行文字の場合は、削除されます。) これにより、オペレーターは M=' と入力した後に復帰 (CR) または CR に相当するものを入力して、左マージンからメッセージ・テキストの入力を開始できます。最初の CR は削除されます。送信されるメッセージの先頭にブランク行が必要な場合は、追加の CR を入力できます。

注: HEADING オプションを指定すると、これらのブランク行は見出し (時刻、日付、および発信元の端末 ID) とメッセージの間に表示されます。

NL 処理では、送信されたメッセージは左マージンに配置されます。不定形式メッセージ、または定様式メッセージ内の行が、受信側端末に定義されている行幅を超える場合は、幅を超えている行のセンテンスが単語の間で分割されます。

OPCLASS

メッセージを送信する前にサインオンする必要があるオペレーター・クラスを定義する、1 つ以上の番号 (それぞれが 1 から 24 までの範囲内)。複数の数値を指定する場合は、リストを括弧で囲む必要があります。例えば、OPCLASS=(8,2) を指定すると、メッセージはクラス 8 または 2 のオペレーターが現在サインオンしているすべての端末に送信され、さらにインストールされている定義でそのオペレーター・セキュリティ値が指定されているすべての端末に送信されます。OPCLASS=1 を指定すると、オペレーターがサインオンしているかどうかに関係なく、メッセージはサービス中のすべての端末に送付されます。

ROUTE も指定されている場合、メッセージは要求されたすべての宛先に送付されますが、サインオンしているオペレーターのクラスが OPCLASS によって指定された番号のいずれかに一致しない限り、端

末への送信対象にはなりません。ただし、ROUTE の宛先がオペレーター ID によって修飾されている場合、その宛先については OPCLASS が無視されます。ROUTE= と OPCLASS= を組み合わせて使用する方法について詳しくは、ROUTE オプションの説明を参照してください。

PROTECT

CICS 緊急時再始動のメッセージ・リカバリーを指定します。PROTECT=YES の代わりに P または PROTECT を使用できます。

YES

保管メッセージの一時記憶域データ ID の接頭部として \$\$ を付けることを指定します。

NO

前の保護要求を無視することを指定します。このために、デフォルト接頭部 ** が使用されます。オプションを完全に省略する場合も同じ方法が使用されます。

接頭部

保管メッセージの一時記憶域データ ID に使用される 1 または 2 文字の接頭部を指定します。単一の文字のみを指定した場合は、2 つ目の文字として \$ が提供されます。(例えば、PROTECT=T を指定すると接頭部は T\$ になります。)

このオプションを省略すると、デフォルト接頭部 ** が使用されます。** は、保護を指定しない (REQID オプションを省略) BMS メッセージ要求を発行するユーザー・アプリケーション・プログラムのデフォルトでもあります。

PROTECT オプションで指定する接頭部ごとに、その接頭部に対してメッセージ・リカバリーが有効になるように、一時記憶域モデルをリカバリー可能として CICS に定義する必要があります。

ROUTE

メッセージを受信する宛先を指定します。3600、3770 (バッチ)、または 3790 (バッチ) 端末へのルーティング・メッセージについては、[487 ページの『3600 および 3770 バッチ宛先の例』](#)を参照してください。

Termid

メッセージを送付する端末の ID。例えば、ROUTE=(LA04,OL,SF2) を指定すると、メッセージは LA04、OL、および SF2 の ID を持つ 3 つの端末に送付されます。同じ装置とマップの接尾部が付いた複数の端末に対してルーティングを実行する場合、CICS はすべての端末に対してメッセージを同一の方法で処理し、最も制限の大きい有効なページ・サイズが使用されます。

メッセージ交換トランザクション内で指定される端末 ID の長さは、1 から 4 文字の範囲内であることが必要で、以下のいずれかの文字を含んでいてはなりません。

/ スラッシュ
, コンマ
) 右括弧
(左括弧
+ 正符号
- 負符号
* アスタリスク
 ブランク

注: 同じ端末に単一のメッセージを複数回送信できます。例えば、命令 ROUTE=(T001,T001) を指定すると、単一のメッセージが端末 T001 に 2 回送信されます。宛先端末が TRANSCEIVE 状況である場合、メッセージは端末に連続して表示されます。端末が TRANSACTION 状況である場合、オペレーターはメッセージの送信を要求する必要があります。

/opid

スラッシュとそれに続く 1 から 3 文字のオペレーター ID。メッセージは、その ID を持つオペレーターが現在サインオンしている最初の端末に送付されます。例えば、ROUTE=/PJ は、PJ という ID を持つオペレーターが現在サインオンしている、最初に見つかった端末 (最初のもののみ) にメッセージを送付します。該当する端末が見つからない場合は、送信側のオペレーターに通知が出されます。指定するオペレーター ID には、以下のいずれかの文字が含まれていてはなりません。

,
コンマ
)
右括弧
スペース

Termid/opid

端末の場所で指定されたオペレーターのみメッセージの送信を制限する、オペレーター ID で修飾された端末 ID。例えば、ROUTE=(LA04,OL/LBS,SF2) を指定すると、メッセージは端末 LA04 と SF2 に送付されます。LBS という ID を持つオペレーターがその端末にサインオンしている場合のみ、メッセージが端末 OL に送付されます。

ROUTE=(T001,T001/OP1,/OP1) を指定すると、オペレーター OP1 が T001 にサインオンしている場合に、同じメッセージが同じ宛先に 3 回送信されます。

ALL

メッセージがすべての端末にブロードキャストされます。

メッセージを送信できる端末の数には、可変の制限があります。この制限は、要因の組み合わせによって異なります。重要な要因は、使用中の端末のタイプ、各タイプの数、および送信されるメッセージの長さです。限度を超えると、CMSG トランザクションは異常終了コード ABMC を出して異常終了します。

注: CMSG ROUTE=ALL が多数の端末に対して発行されると、各端末のタスクが MAXTASK 値に達するまで開始されます。タスクは単一スレッドであるため、中断され、SOS 状態を生じさせる可能性があります。この問題を回避するためのガイダンスについては、[ストレージ・ストレスの削減](#)を参照してください。

.termlist

1 または 2 文字の端末リスト・テーブル (TLT) 接尾部で、ピリオドが前に付きます。例えば、.H3 は端末リスト・テーブル DFHTLTH3 を示します。最大 10 個の端末リストを指定でき、指定した端末リストは 1 つにマージされます。端末リストのエントリーには、端末 ID またはオペレーター ID (あるいはその両方) が含まれています。単一の TLT 内で重複するエントリーは保持されますが、複数のリスト間で重複するエントリーは削除されます。(それぞれのエントリーに同じ端末 ID とオペレーター ID が含まれている場合、エントリーは重複すると見なされます。)

重複するエントリーを含む TLT をマージした結果を示す例を 2 つ挙げます。これらの例では、端末リスト・テーブル DFHTLTL1 に T001 が 2 回含まれていること、および DFHTLTL2 に T001 と T001/OP1 が含まれていることを前提とします。

- ROUTE=(.L1,.L2) を指定すると、DFHTLTL1 からすべてのエントリーが宛先として組み込まれます。DFHTLTL1 内の重複エントリーは保持されます。DFHTLTL2 からのエントリーはすべて、前に指定された DFHTLTL1 内のエントリーと重複していないか検査され、重複が見つかった場合、そのエントリーは繰り返されません。

結果の宛先リストは T001、T001、T001/OP1 になります。

- TLT を指定する順序は重要です。R=(.L2,.L1) を指定すると、DFHTLTL2 のエントリー T001 および T001/OP1 が宛先リストに含まれます。一方、T001 が既に DFHTLTL2 に含まれているので、DFHTLTL1 内の T001 のエントリー 2 つは含まれません。この例では、結果の宛先リストは T001、T001/OP1 です。

(±termid/opid,...)

+termid/opid は、指定された宛先 (重複していない場合) を、要求された TLT に含まれている宛先に追加します。-termid/opid は、要求された TLT から指定された宛先を削除します。opid が指定されていない -termid は、要求された TLT から得られる、その端末のすべての宛先 (オペレーター ID を

持つものも、持たないものも)を削除します。+ パラメーターまたは -termid/opid パラメーターは、要求された TLT から得られるエントリーのみに影響を及ぼし、同じ要求に含まれるほかの + または - termid/opid パラメーターには影響しません。+ パラメーターまたは - パラメーターの前に、すべての TLT 接尾部を入力する必要があります。

以下に、重複するエントリーと ± エントリーを含む両方の TLT を指定した結果を示す例をいくつか挙げます。これらの例では、端末リスト・テーブル DFHTLT1 に T001 が 2 回含まれていること、および DFHTLT2 に T001 と T001/OP1 が含まれていることを前提とします。

- ROUTE=(.L1,.L2,+T001) は、R=(.L1,.L2) と同じ結果になります。エントリー +T001 は DFHTLT1 からのエントリーと重複するので、追加されません。結果の宛先は T001、T001、T001/OP1 になります。
- ROUTE=(.L1,.L2,+T001/OP1,-T001) を指定すると、+T001/OP1 は DFHTLT2 内のエントリーと重複するので、追加されません。-T001 を指定すると、T001 を参照するエントリーが TLT からすべて削除されます (オペレーター ID によって修飾されているかどうかに関係なく)。メッセージ「ALL ROUTE ENTRIES DELETED」が発行されます。

DFHTLT2 にエントリー T001/OP1 が含まれていなかった場合、+T001/OP1 命令によってそのエントリーが宛先リストに追加されます。その後、-T001 命令によってリストから T001/OP1 エントリーが削除されることはありません。これは、+ 命令と - 命令の効果が累積されず、元の連結された TLT に対して別々に作用するからです。

- ROUTE=(.L1,.L2,-T001,+T001/OP1): -T001 によって、T001 を参照するすべてのエントリーが TLT から削除されます (DFHTLT2 内の T001/OP1 エントリーを含む)。次に、+T001/OP1 エントリーが追加され、結果として唯一の宛先になります。このエントリーは直前に削除されているので、重複はありません。

ROUTE オプションは、複数の連続入力に分割することができます。ただし、入力が TLT を参照する場合は、TLT が開始された入力と同じ入力ですべて完了する必要があります。個々の ROUTE パラメーター (termid/opid) を 2 つの入力に分割することはできません。

ROUTE と OPCLASS の両方を一緒に指定すると、OPCLASS はメッセージの送信をさらに制限します。例えば、ROUTE=(LA04/PJL,/MGK,OL)、OPCLASS=4 を指定すると、PJL という ID を持つオペレーターがサインオンしている場合に、メッセージが端末 LA04 に送付されます。このメッセージは、MGK という ID を持つオペレーターがサインオンしている最初の端末にも送信されます。メッセージを OL に送付するには、クラスが 4 であるオペレーターが OL にサインオンしている必要があります。OPCLASS 値は、オペレーター ID が指定されていない場合にのみ適用されることに注意してください。

SEND

すべてのオプションが入力され、メッセージが発送されることを指定します。SEND は最後のオプションであり、その後はスペースまたはデータの終わりであることが必要です。

TIME=value

「value」は、メッセージを送信する時刻です。以下の 4 つのうちいずれかの方法で、時刻を指定できます。

hhmm

ここで、「hhmm」は 0001 から 2400 の範囲の絶対時刻です。例えば、TIME=1145 を指定すると、メッセージは 11:45 に送信されます。分の値は 60 より小さくする必要があります。

+hhmm

ここで、「hhmm」は現在時刻からの時間数と分数です。分の値は 60 より小さくする必要があります。例えば、TIME=+0720 は、現在から 7 時間 20 分後にメッセージが送信されることを意味します。値 TIME=+2400 は、DATE=+1 と同じ意味です。

+mm

ここで、「mm」は現在時刻からの分数です。この値の範囲は 0 から 99 までです。したがって、例えば TIME=+75 という値を指定すると、メッセージは現在から 1 時間 15 分後に送信されます。値 TIME=+90 と TIME=+0130 のどちらを指定した場合も、メッセージは 90 分後に送信されます。

+m

ここで、「m」は現在時刻からの分数です。この値の範囲は 0 から 9 までです。したがって、例えば TIME=+5 という値を指定すると、メッセージは現在から 5 分後に送信されます。

現在日で 1 時間前までに含まれる送信時刻を指定すると、即時送信の要求として解釈されます。それより早い時刻は既経過したと見なされ、エラーとして扱われます。以下のメッセージが出されます。

TIME ALREADY PASSED

現在時刻が 00.15 の場合は、日付の変更があったために、T=2345 は今日の 23.45 として解釈されます。このため、メッセージは即時に送信されません。

論理装置の宛先

CMSG トランザクションを使用して、論理装置にメッセージを送信できます。CICS-SNA ネットワーク内のそれぞれの論理装置は、単一の端末 ID によって識別され、論理装置がメッセージ・テキストを受信できる場合は、非 SNA 端末に送信するときと同じ方法で論理装置にメッセージを送信できます。

論理装置がオペレーターのサインオンをサポートしている場合は、オペレーター ID によってメッセージを送付することもできます。同じ ROUTE オプションで、SNA 宛先と非 SNA 宛先を指定できます。

論理装置に送信されるメッセージの宛先は、表示装置またはプリンター、データ・セット、またはサブシステム・コントローラー内のアプリケーション・プログラムのいずれかです。メッセージの送信側にとっては、宛先は「端末」と同様に動作し、必要なフォーマット設定は CMSG トランザクションによって実行されるか、サブシステム・コントローラー自体の内部で実行されます。

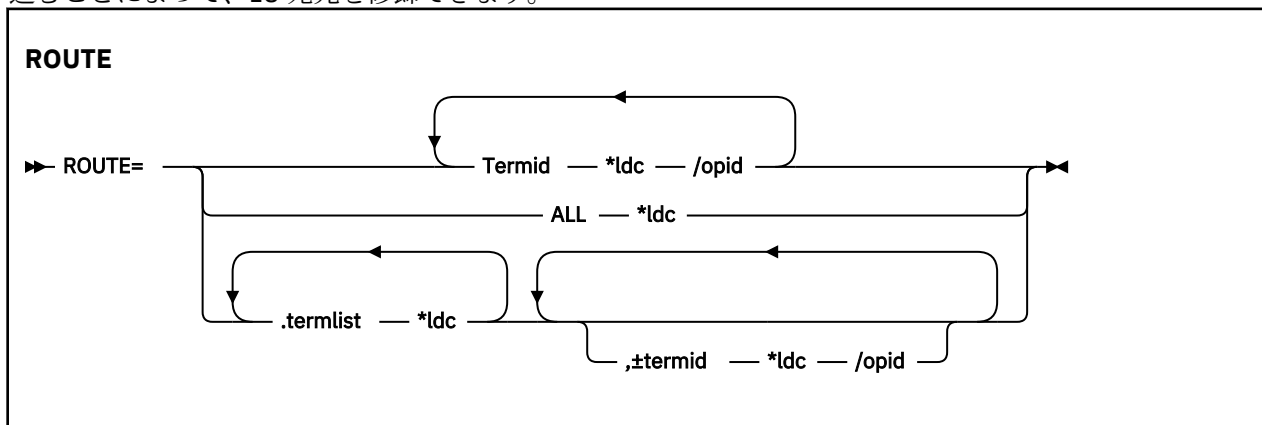
論理装置コード

いくつかのタイプの論理装置 (LU) を使用して、サブシステム内の複数のリソースにアクセスできます。例えば、3601 LU に送信されるデータは、IBM 3604 キーボード・ディスプレイ、IBM 3618 管理ライン・プリンター、または IBM 3600 金融機関通信システムのその他の要素を対象としている可能性があります。このタイプの LU 内で宛先選択を可能にするために CICS によって提供される機能は、論理装置コード (LDC) です。

LDC による宛先選択をサポートする LU は、次のとおりです。

- 3601 LU
- 3770 バッチ LU
- 3770 バッチ・データ交換 LU
- 3790 バッチ・データ交換 LU

メッセージ交換トランザクションのユーザーの場合、LDC は 2 文字の簡略コードで、その意味は CICS のインストール済み環境によって定義されます。以下の構文図に示す ROUTE オプションにこのコードを組み込むことによって、LU 宛先を修飾できます。



ここで、

*ldc

宛先を修飾する、アスタリスク (*) が前に付いた 2 文字の LDC 簡略記号。*ldc パラメーターは、LU ID (termid)、一般ブロードキャスト (ALL)、または端末リスト・テーブル指定 (.termlist) を修飾できます。*ldc パラメーターは LU にのみ適用され、スタート・ストップ端末や BSC 端末には適用されません。

1 つの ROUTE オプションの指定に異なる LDC 簡略記号を含めることができます。ただし、1 つのメッセージのすべての宛先が同じ装置タイプを指定している必要があります。

Termid*ldc

LDC 簡略記号を LU ID に関連付けます。

ALL*ldc

すべての LU を修飾する同じ LDC 簡略記号を指定して、すべての端末への一般ブロードキャストを行います。

Termlist*ldc

.termlist*ldc

指定した LDC 簡略記号によって、この端末リスト・テーブルのすべてのエントリーを修飾します。これは、端末リスト・テーブル内に指定された LDC をオーバーライドします。この LDC の指定は、スタート・ストップ端末または BSC 端末には適用されません。

注：後続の TLT または +/- エントリーが処理される前に、この TLT の修飾が行われます。[487 ページの『3600 および 3770 バッチ宛先の例』の例 9](#)を参照してください。

+termid*ldc/opid

要求された TLT に含まれているいずれかの宛先と完全に重複しなければ、宛先を追加します。

-termid*ldc/opid

要求された TLT から得られる、重複する宛先を削除します。opid が指定されていない -termid*ldc は、要求された TLT から得られる、その termid*ldc のすべての宛先 (オペレーター ID を持つもの、持たないもの) を削除します。LDC 簡略記号が指定されていない -termid/opid は、要求された TLT から得られる、その termid/opid のすべての宛先を削除します (LDC ニーモニックの有無に関係なく)。

termid を指定しない /opid によって宛先が指定されている場合、その宛先は termid/opid になります。ここで、termid は最初の端末の ID、またはその ID を持つオペレーターが現在サインオンしている LU の ID です。該当する端末または LU が見つからない場合、宛先は無効になり、オペレーターに通知が出されます。

3600 および 3770 バッチ宛先の例

これらの例では、以下のことを前提としています。

- 端末 ID T36n および T37n は、それぞれ 3600 論理装置および 3770 バッチ論理装置であり、その他はすべてスタート・ストップ端末または BSC 端末です。
- LDC 簡略記号 DS および LP が、リソース定義時にシステムおよび T361、T362、および T363 に対して定義されています。
- LDC 簡略記号 P1 が、リソース定義時にシステムおよび T371、T372、および T373 に対して定義されています。

示されている DFHTCT TYPE=TERMINAL マクロの代わりに、RDO の TYPETERM LDCLIST 属性を使用してこれらの簡略記号を定義することもできます。

- 端末リスト・テーブル DFHTLT3 には、以下のエントリーが含まれています。

```
T361*DS
T362*DS/OP1
T362*DS/OP2
T363
T371*P1
T372*P1/OP1
T372*P1/OP2
T373
T40.
```

- 端末リスト・テーブル DFHTLT4 には、以下のエントリーが含まれています。

```
T361*DS
T362*DS/OP1
T362*DS/OP2
T363
T40.
```

1. R=T361*DS

LDC 簡略記号 DS.2 によって修飾された端末 ID T361 にメッセージを送付します。

R=(T361*DS,T362*DS/OP1,T363,T371*P1,T372*P1/OP1,T373,T40) メッセージを以下に送付します。

- LDC 簡略記号 DS によって修飾される T361 および T362
- デフォルトの LDC を使用する T363
- LDC 簡略記号 P1 によって修飾される T371 および T372
- T373 コンソール・キーボード/プリンター
- T40 (スタート・ストップ端末または BSC 端末)

T362 および T372 にメッセージを送信するには、OP1 という ID を持つオペレーターがサインオンしている必要があります。

注: T363 のデフォルトの LDC 簡略記号は、LDC 簡略記号 DS と同じ装置タイプを指定している必要があります。

3. R=ALL*LP

簡略記号 LP によって修飾されるすべての 3600 宛先を持つすべての端末 (3600、3770 バッチおよび対話式論理装置、スタート・ストップ、および BSC) にメッセージを送付します。スタート・ストップおよび BSC の宛先では、LP は無視されます。

4. R=.L3

端末リスト・テーブル DFHTLT3 をメッセージ宛先に使用します。(これは、例 2 に T362*DS/OP2 と T372*P1/OP2 を加えたものと同じです。)

5. R=(.L3,-T362*DS/OP2,-T372*P1/OP2)

これは例 4 と同じですが、T362*DS/OP2 と T372*P1/OP2 を削除するので、例 2 と同じ結果です。

6. R=(.L3,-T362*DS)

これは例 4 と同じですが、T362*DS のエントリーをすべて削除します (opid の有無にかかわらず)。結果は、T361*DS、T363、すべての T37n 端末、および T40 です。

7. R=(.L3,-T362)

この例は、例 6 と同じです。-T362 は、T362 のエントリーをすべて削除します。

8. R=.L4*LP

LDC 簡略記号 LP は、DFHTLT4 内のすべてのエントリーを修飾 (オーバーライド) します。結果として得られる宛先は、T361*LP T362*LP/OP1 T362*LP/OP2 T363*LP T40*LP です。

注: LP 簡略記号は、スタート・ストップ端末または BSC 端末 T40 には影響しません。

9. R=(.L4*LP,-T362*DS)

-T362*DS に起因するアクションは行われません。これは、追加または削除が処理される前に TLT 宛先が LDC 簡略記号 LP によって修飾され、したがって削除対象として一致するエントリーがなくなるためです。

10. R=(.L4,+T363*LP)

エラー・メッセージ「INVALID LDC AT T363*LP」が生成されます。LDC 簡略記号 LP の装置タイプは、LDC 簡略記号 DS とは異なります (最初に検出される 3600 宛先は T361*DS)。1 つのメッセージに対するすべての 3600 宛先が、同じ装置タイプを示している必要があります。1 つのメッセージに対するすべての 3770 バッチ論理装置宛先が、同じ装置タイプを示している必要があります。

11. R=/OP2

オペレーター ID OP2 が現在サインオンしている、CICS 端末定義で最初に見つかった端末または論理装置にメッセージを送付します。OP2 が T362 にサインオンしている場合、結果の宛先は T362/OP2 であり、論理装置 T362 のデフォルトの LDC 簡略記号が付いたものです。デフォルトは DS です。これは、T362 に定義された最初の LDC 簡略記号であるためです。結果の宛先は T362*DS/OP2 です。

メッセージ交換の応答

端末からのすべての入力に対して、応答が返されます。ほとんどの応答の前には標識が付いており、「OK」より前の文字はそれぞれの CMSG オプションの先頭文字を表しています (CANCEL を除く)。これらの標識は、処理されたオプション、および現在有効であるオプションを示しています。

それぞれの CMSG オプションの先頭文字は以下のとおりです。

D	DATE
E	ERRTERM
H	HEADING
I	ID
M	MSG
O	OPCLASS
P	PROTECT
R	ROUTE
S	SEND
T	TIME

エラーは、以下の理由で発生します。

- 構文 (例えば、オプションのミススペル、括弧が対になっていない、端末 ID が 4 文字より長い、無効なオプション分離文字、メッセージと宛先が指定されていない)。
- 指定 (例えば、指定した端末が CICS に対して定義されていない)。
- 操作 (例えば、オペレーターがシステムに現在サインオンしていない)

オプション内に構文エラーがあると、メッセージ交換ルーチンによってオプションがリジェクトされます。既知のエラーを訂正するには、SEND キーワードを入力する前にオプションを再入力します。

構文エラーがあると、その入力内で検出されたエラーより先のデータは処理されなくなります。処理対象に含めるには、以降のデータをすべて再入力する必要があります。

指定または操作のエラー・メッセージは、問題のオプションが処理済みで、まだ有効であることを示す標識とともに端末に書き込まれる場合があります。考えられるエラー・メッセージの例を以下に 2 つ示します。

1. M OK TERMID GT 4 CHAR AT T004A

このメッセージが発行された理由は、端末 ID が 4 文字を超えていたことです。メッセージの前に R 標識が示されていないことは、ROUTE が現在は有効でなく、メッセージを再入力する必要があることを示しています。

2. MRHS OK INVLD TERMINL ID T004

このメッセージが発行された理由は、指定された端末が CICS に認識されていないことです。R 標識は、ROUTE がまだ有効であることを示しています。このタイプのメッセージの結果として行われるオペレーター・アクションは、以下のいずれかです。

- スペース (エントリーを削除)
- termid またはオペレーター ID (あるいはその両方) を指定する termid/opid
- 任意のオプション (route オプションまたは別のオプションを入力可能)

注: オプションを入力する場合は、SEND の前に新しい ROUTE オプションを入力しない限り、エラー・メッセージが繰り返し表示されます。応答としてスペースまたは termid/opid を使用して誤ったエントリーを変更または削除した場合は、その他のエラーがまだ存在しない限り、メッセージは送付されます。これらのエラーは、別のメッセージによって示されます。オプションを入力すると、複数のオプションを入力できる通常入力モードが指定され、入力を終了するには別の SEND オプションを入力する必要があります。

以下に、メッセージ交換プログラム (DFHMSP) から返される可能性がある応答すべてのリストを示します。装置依存の考慮事項があるため、すべての応答は 25 文字に標識を加えたものに限定されます。

ALL ROUTE ENTRIES DELETED

誤った宛先のメッセージに対する応答としてスペースが入力されたため、残りの宛先が削除され、メッセージを送送する宛先が残っていません。この条件が発生すると、強制的に通常オプション・モードに戻り、ROUTE オプションを再入力してメッセージの宛先を指定する必要があります。

CANCELED - TEMP STRG ERR N

N には 1 から 4 の範囲の値が入ります。

- N=1. 一時記憶域 (TS) 要求にエラーが発生しました。
- N=2. 一時記憶域 (TS) 要求にエラーが発生しました。この応答の考えられる原因 (TS の問題に関連しない) は、TS レコードの要求が存在しないことです。これは、以下の場合に起きる可能性があります。

- トランザクション ID に続いて C を入力した。この拡張トランザクション ID (CMSGC) は通常、メッセージ交換トランザクションの継続を要求しますが、この端末に以前の状況情報が存在しません。476 ページの『メッセージ交換の継続』を参照してください。

注：一時記憶域の CICS コールド・スタートにより、前の CICS プロセスから保管されていたすべての状況が失われます。

- 上下両段キーボードとして定義された、以前のメッセージ交換トランザクション状況が存在しない 3270 ファミリーのディスプレイ装置に、トランザクション ID が小文字で入力された。

注：端末入出力域 (TIOA) のトランザクション ID は変換されません。この問題を修正するには、トランザクション ID を大文字で入力してください。

N=2 はトランザクション・ルーティングが使用されている場合にも発生し、タスクの開始に使用されたトランザクション ID が CICS システム定義に指定されているものと異なることを示します。

- N=3. DFHBMS TYPE=TEXTBLD 要求にエラー (TS が原因の可能性が高い) が発生しました。
- N=4. DFHBMS TYPE=PAGEOUT 要求にエラー (TS が原因の可能性が高い) が発生しました。

CLEAR/CANCL or cont input|route|msg

3270 ファミリーのディスプレイ装置のオペレーターが CLEAR キーを押しました。メッセージは、以下の継続 (CONT) を示しています。

INPUT

前の入力で最後に指定されたオプションが完了しました。続行するにはオプションを入力します。

ROUTE

前の入力で最後に指定されたオプションは ROUTE で、右括弧が見つかりません。ROUTE 宛先の入力を続行します。

MSG

前の入力で最後に指定されたオプションは MSG で、メッセージを終了する単一引用符が見つからないか、入力の最後の文字として単一引用符が見つかり、それが単一引用符のペアの 1 つ目であることが考えられます。前の入力が単一引用符で終わっていない場合は、メッセージの入力を続行してください。前の入力が単一引用符で終わっている場合は、もう 1 つの単一引用符を入力してメッセージを継続するか (単一引用符がメッセージに含まれるようになります)、メッセージが完全なものとなされるようにするいずれかのオプションを入力します。

注：オペレーターがもう一度 CLEAR キーを押して (2 回連続) 応答すると、入力の最後の 6 文字に CANCEL と入力したときと同じ結果になります。

CONTINUE INPUT

SEND オプションは処理されず、ROUTE オプションまたは MSG オプションは継続されませんでした。いずれかのオプションを入力して続行します。

CONTINUE INPUT OR MSG

MSG オプションが処理されているときに、前の入力が単一引用符で終了しました。この単一引用符は、MSG オプションの終わりを指定しているか、単一引用符のペアの 1 文字目である (単一引用符がメッセージ内に含まれることを表す) が考えられます。

次の入力が単一引用符で始まる場合、メッセージは単一引用符をそのメッセージに含めて継続されます。MSG オプションを終了するには、ペアになっていない単一引用符が必要です。

次の入力が単一引用符以外の文字で始まる場合は、新しいオプションの開始として扱われ、MSG オプションは完了したものと見なされます。

CONTINUE MSG

MSG オプションが処理されているときに、前の入力が終了しましたが、入力されたテキストが単一引用符で終わっていません。メッセージを継続します。

CONTINUE ROUTE OPERAND

前の入力で ROUTE オプションが処理され、スペースまたは EOD が見つかりました。ROUTE オプションを継続します。

DATE ALREADY PASSED

現在日より前の送信日は無効です。

DATE INVALID AT xxxxxxxx

DATE は以下のいずれかの形式であることが必要です。

yy.ddd	year (00-99) and day (001-366)
mm/dd	month (01-12) and day (01-31)
mm/dd/yy	month (01-12), day (01-31), and year (00-99)
D=+d	day (0-4)

DATE NOT xx/xx at xxxxx

DATE は 2 桁の数字から始まり、続いてスラッシュ (月の場合) またはピリオド (年の場合) を指定する必要があります。DATE の 3 文字目がスラッシュまたはピリオドでない場合に、このメッセージが発行されます。

注:

1. 例えば、9 月 5 日は 09/05 と指定する必要があり、9/5 とは指定できません。
2. 日付は有効であることが必要で、例えば 06/31 は指定できません。

DATE TOO FAR IN FUTURE

現在日から 4 日目の午前 3 時 59 分より後に、将来の送信を指定することはできません。エラーは以下のいずれかです。

1. D=+n (ここで、n は 4 より大きい)
2. DATE が現在日から 4 日目より後に明示的に指定されている
3. 定められた限度を超える DATE および TIME の条件

条件 1 または 2 が発生した場合、DATE オプションは無効です (D 状況標識が存在しません)。条件 3 が発生した場合、DATE と TIME の両方のオプションが現在有効で (D と T の状況標識がメッセージの前に付きます)、これらのどちらかまたは両方を有効な送信時刻に変更する必要があります、そうしなければエラーが再び発生します。

ERRTERM INVALID AT xxxxx

ERRTERM は 1 から 4 文字であることが必要です。

ERRTERM INVLD/UNSUPP xxxxx

ERRTERM オプションに指定された端末 ID のエントリが CICS 端末定義に指定されていないか、BMS によってサポートされない端末タイプのものであるために無効です。これに対するオペレーターの有効な応答は以下のとおりです。

1. 通常の ERRTERM 宛先と同じ形式の端末 ID または ORIG (オプション ERRTERM または E を入力しない)。新しく指定された ERRTERM が無効である場合を除き、この入力の後でメッセージが送付されます。無効である場合は、メッセージが繰り返されます。
2. 先頭文字としてスペース (続いて EOB またはコメント)。これにより、ERRTERM の指定全体が除去されます。この入力の後、メッセージが送付されます。
3. 通常のオプション処理モードに復帰する結果になるいずれかのオプション。別の ERRTERM オプションを入力してこの条件が修正されていない場合は、SEND が再入力された後で同じエラー・メッセージが繰り返されます。

HEADNG NOT YES/NO AT xxxxx

HEADING オプションは、以下のいずれかのようにのみ指定できます。

```
HEADING
HEADING=YES
HEADING=NO
H
H=YES
H=NO
```

ID OPERAND GT 62 CHARS

ID オプションは長さが 1 から 62 文字で、括弧で囲む必要があります。

ID OPERAND MISSING

ID オプションを使用するには、ID を括弧で囲む必要があります。

ID PARAM MISSING OR NO)

ID オプションは長さが 1 から 62 文字で、括弧で囲む必要があります。

INVALID LDC AT xxxxxxxx

LDC 簡略記号が論理装置に対して無効であるか、前のエントリーに別の装置タイプを指定する LDC 簡略記号が含まれていました。

注：その端末のデフォルト簡略記号が、前に示された簡略記号 (指定された、またはデフォルトの) とは異なる装置タイプを示している場合は、LDC 簡略記号が指定されないためにこのメッセージが出される可能性があります。

INVALID OPND AT xxxxxx

オプション xxxxxx が無効です (キー入力エラーが原因である可能性があります)。このポイントより先のデータは処理されませんでした。状況標識は、有効であるオプションを表しています。

INVALID TBL SFX AT xxxxxx

端末リスト・テーブルの接尾部は 1 または 2 文字で、前にピリオドが付いている必要があります。

INVLD OPERATR ID AT xxxxxx

オペレーター ID は 1、2、または 3 文字で、前にスラッシュが付いている必要があります。

INVLD SEPARATOR AT xxxxxx

オプションの終わりに続いて、スペース、コンマ (SEND の場合を除く)、復帰 (改行文字)、またはデータの終わり (EOD) を指定する必要があります。

INVLD TERMINL ID xxxxx

ROUTE 宛先に対して指定された端末 ID の CICS 端末定義に、エントリーが存在しません。有効なオペレーター応答は、以下のいずれかです。

1. 端末 ID またはオペレーター ID (あるいはその両方)。形式は、無効な宛先を置き換える通常の termid/opid ROUTE 宛先 (オプション ROUTE= または R= を入力しない) と同じです。
2. 先頭文字としてスペース。これにより、無効な宛先が削除されます。
3. 通常のオプション処理モードに復帰する結果になるいずれかのオプション。別の ROUTE オプションを入力しない場合は、SEND オプションを再入力した後で同じ条件が発生します。

注：1 と 2 の場合は、結果として宛先が有効になればメッセージが送付され、そうでなければ別のエラー・メッセージが発行されます。

LDC NOT 2 CHARS AT xxxxxx

ROUTE 宛先の * に続く LDC 簡略記号は、2 文字であることが必要です。

MESSAGE HAS BEEN ROUTED

SEND オプションが処理され、メッセージが宛先に送付されました。これは、メッセージ交換トランザクションの正常な完了です。

MSG NOT SENT - NO RECEIVER

この条件が発生した原因は、ROUTE オプションなしの OPCLASS オプションが指定され、指定されたオペレーター・クラスのエンドユーザーが、BMS によってサポートされている端末タイプに現在サインオンしていないことです。この状態を修正するには、ROUTE オプションまたは OPCLASS オプション (あるいはその両方) によって新しい宛先を入力する必要があります。

NEED OPCLASS OR ROUTE

メッセージの宛先を指定せずに SEND オプションが入力されました。この状態を修正するには、ROUTE オプションまたは OPCLASS オプション (あるいはその両方) によって宛先を入力する必要があります。

NO INPUT - REENTER

トランザクション ID の入力後にデータの終わり (EOD) が続いていたか、いくつかのバックスペース文字が入力されたためにすべてのデータが削除されました (存在する場合は、トランザクション ID に続く桁を含む)。入力がトランザクション ID で始まっていない場合は、端末の会話が維持されます。それ以外の場合、会話は行われません。

NO MESSAGE PROVIDED

メッセージを指定せずに SEND オプションが入力されました。この状態を修正するには、メッセージを指定してください。

NO MSG STRT QUOT AT xxxxx

MSG パラメーターは単一引用符で囲む必要があります。単一引用符は、M または MESSAGE の後に続ける必要があります。

NO TRMID FOR LDC AT xxxxx

宛先がアスタリスク * で開始されています。論理装置 ID を LDC 簡略記号の前に指定する必要があります。

NO TERM LIST TBL-xx

接尾部 xx の付いた端末リスト・テーブル (DFHTLTxx) のエントリーが、CICS システム 定義に見つかりませんでした。

OPCLASS NOT 1-24 AT xxxxx

OPCLASS パラメーターは、1 から 24 の範囲で指定する必要があります。

OPERATORS NOT SIGNDON nnn

ROUTE オプションに、端末 ID なしでオペレーター ID が指定されていました (つまり、ROUTE=/opid)。nnn オペレーター ID は、現在サインオンしていません。

これに対する有効な応答は、次のいずれかを入力することです。

1. 先頭文字としてスペース。これにより、nnn 宛先が削除されます。
2. 文字 D (またはその他いずれかの文字)。これにより、nnn 宛先のそれぞれが、メッセージ OPRTR ID NOT SIGNDON によって個別に表示されます。
3. 通常のオプション処理モードに復帰する結果になるいずれかのオプション。追加の ROUTE オプションを入力しない場合、SEND オプションが再入力される前にオペレーターがサインオンしていなければ、これと同じ条件が発生します。

注: このメッセージは、nnn が 5 より大きい場合のみ発行されます。そうでなければ、それぞれの宛先が個別に表示されます。応答 1 を行うと、結果として宛先が有効になればメッセージが送付され、そうでなければ別のエラー・メッセージが発行されます。

OPRTR ID NOT SIGNDON /xxx

宛先として指定された (端末オペレーターによって入力されたか、指定された接尾部を持つ TLT のエントリーとして含まれていた)、ID xxx を持つオペレーターが、CICS によって制御されているどの端末にも現在サインオンしていません。

これに対する有効な応答は、次のいずれかを入力することです。

- 端末 ID またはオペレーター ID (あるいはその両方)。形式は、この /xxx 宛先を置き換える通常の termid/opid ROUTE 宛先 (オプション ROUTE または R を入力しない) と同じです。
- 先頭文字としてスペース。これにより、/xxx 宛先が削除されます。
- 通常のオプション処理モードに復帰する結果になるいずれかのオプション。追加の ROUTE オプションを入力しない場合、SEND オプションが再入力されるときまでに ID xxx を持つオペレーターがサインオンしていなければ、これと同じ条件が発生します。

注: 最初の 2 つの応答を行うと、結果として宛先が有効になればメッセージが送付され、そうでなければ別のエラー・メッセージが発行されます。

PROTECT OPND NOT 1-2 CHAR

PROTECT オプションの PREFIX オプションは、2 文字を超えて指定することはできません。

ROUTE INVALID AT xxxxx

最初の ROUTE パラメーターの前にフィールド分離文字が入力されたか、2 つの連続するフィールド分離文字が検出されました。有効な ROUTE オプションを再入力してください。

SPACE MUST FOLLOW TRANSID

最初のオプションを開始する前に、トランザクション ID に続けて 1 つ以上のスペースを入力する必要があります。(文字 C を入力すると、通常の完了または取り消しの前に行われた最後の入力から続きます。)

TERMID GT 4 CHAR AT xxxxx

端末 ID は 1 から 4 文字であることが必要です。

TERMINID NOT +/- at xxxxx

個々の宛先 (+ または - を前に付ける必要がある) を入力する前に、すべての TLT 接尾部が指定されている必要があります。TLT 接尾部を指定する ROUTE オプションが、後続の入力では継続されない可能性があります。ROUTE オプションに複数のパラメーターが含まれる場合は、括弧で囲む必要があります。

TERMINATED BY OPERATOR

オペレーターが前の入力の末尾 6 文字として CANCEL と入力したか、IBM 3275 (または 3277) ディスプレイ装置で CLEAR キーを 2 回連続して押しました。前の入力を取り消され、端末は CICS メッセージ交換を使用した会話モードではなくなります。

TIME ALREADY PASSED

現在日の送信時刻から現在時刻まで 1 時間より多く経過した場合、時刻は既に過ぎたと見なされ、無効になります。

メッセージを即時に送信する場合は、T=+0 を入力して、まだ有効になっている TIME オプションを置き換えます。

メッセージを以後の日付の指定時刻に送信する場合は、該当する DATE オプションを入力します。指定された時刻はまだ有効です。

メッセージを別の時刻に送信する場合は、TIME オプションを再入力します。

TIME INVALID AT xxxxx

TIME は、以下のいずれかである必要があります。

hhmm

0001–2400 (mm<60)

+hhmm

0000–2400 (mm<60)

+mm

00–99

+m

0–9

ここで、hh=時、mm=分です。

TIME NOT 4 CHARS AT xxxxx

TIME パラメーターは、+ が前に付いていなければ、4 桁の数値であることが必要です。

TOO MANY TBL SFX AT xxxxx

最大 10 個の TLT 接尾部を指定できます。

UNBALANCD PARENS AT xxxxx

ROUTE オプションまたは OPCLASS オプションが括弧で始まっていて最後に括弧がないか、括弧で終わっていて先頭に括弧がありません。xxxxx は、オプションの該当する端の近くにある文字を表しています。

UNSUP OPRT TRMNL xxxxxxxx

端末 ID を指定せずにオペレーター ID が ROUTE 宛先として指定されました。ただし、そのオペレーターは BMS によってサポートされない端末タイプにサインオンしているので、その端末は無効な宛先です。

これに対する有効な応答は、メッセージ「OPRTR ID NOT SIGNDON」の場合と同じです。

UNSUP TERMINAL xxxxxxxx

ROUTE 宛先として指定された端末 ID は、BMS によってサポートされない端末タイプにサインオンしているので、その端末は無効な宛先です。

これに対する有効な応答は、メッセージ「INVLD TERMINL ID」に対するものと同じです。

ZERO LENGTH MSG AT "

メッセージには単一引用符で囲まれた文字が少なくとも 1 つ必要です。メッセージの一部として含める単一引用符は、2 つの別々の単一引用符文字として入力する必要があります。メッセージは単一引用符で始める必要があり、その直後に単一引用符のペアを続けることができます。

+DATE INVLD 2330 TO 0030

真夜中の 30 分前から真夜中の 30 分後まで、DATE=+ オプションは無効です。

CMSG の例

以下の例では、パラメーターを変更することによって CMSG の動作を変更する方法を示します。

ここでは、CMSG トランザクションの代表的な例をいくつか示します。例 1、2、3、および 9 は、始動時に順次 (BSAM) 端末の入力ストリームに含まれる可能性があるものです。

これらの例で、# は改行文字を表します。

1. CMSG R=ALL,'GOOD MORNING#TODAY IS FRIDAY FEB 1',S

これは、すべての端末に good morning メッセージを送信します。

2. CMSG 'GOOD MORNING',R=.G1,T=0900,S

これは、9 時 00 分に送信される good morning メッセージを、DFHTLTG1 に含まれるすべての宛先に送付します。(東部標準時の時間帯に属する場所。)

3. CMSG 'GOOD MORNING',R=(.G2,+CHI4),T=1000,S

このメッセージは、中央時間帯 (DFHTLTG2) の端末に 10 時 00 分に送信されます。termid CHI4 も宛先として含まれています。この端末は最近追加されましたが、まだ TLT に含まれていません。

4. CMSG 'SUPERVISORS' 'MEETING IN 5 MINUTES',O=(4,7),S

これは、オペレーター・クラス 4 または 7 が割り当てられていて、現在 CICS にサインオンしているスーパーバイザー全員にメッセージを送付します。

5. CMSG R=ALL,'NEW PRICE MODEL 402 - \$28.70',S

これにより、新しいモデルの価格がすべての端末に送信されます。

6. CMSG 'FRED - WHAT IS CURRENT STOCK ON P/N 4837-LP4# BPK',R=BLD3,H,S

これは、要求者のイニシャル (オペレーター ID) を含む Fred への質問メッセージを BLD3 に送付します。Fred が発信元の termid も把握できるように、ヘッダーも含まれます。

7. CMSG 'PNO 4837-LP4, QTY 26?',R=/BPK,H,S

これは、オペレーター ID BPK が現在サインオンしている端末に送付された Fred の回答を示します。

8. CMSG 'BRID KADDER ARRIVING 3:15 PST. PLEASE MAKE RESERVATION# M. KRN',R=PADC,H,S

これは、Mr Kadder の予約に関する要求を行います。

9. CMSG 'SHUTDOWN IN 5 MINUTES',R=ALL,T=1655,S

これは、すべての端末にシャットダウン・メッセージを送信します。

第 27 章 CPIA - 作業単位再同期トランザクション

ウォーム・リスタートを回避するために、CPIA トランザクションを使用して Web Services Atomic Transaction (WS-AT) 作業単位を再同期し、中断された作業単位を削除します。

CPIA トランザクションを実行するには、端末に **CPIA** コマンドを入力します。

第 28 章 CSFE - 端末およびシステムのテスト

端末に関する問題およびソフトウェアに関する問題を診断するために、CSFE を使用します。このトランザクションは主に、システム・プログラマーおよび IBM 技術員が使用します。

このトランザクションを使用して、以下の作業を行うことができます。

- 端末をテストする
- システム・スプーリング・インターフェース・トレースを活動化する
- 端末ビルダー・トレースを活動化する
- ストレージの凍結、記憶保護違反トラップ、およびグローバル・トラップ/トレース・プログラム出口ルーチンのいずれかを活動化する
- 選択したデバッグ・オプションを照会する

これらのアクティビティーそれぞれについて、CSFE トランザクションが正常終了すると以下のメッセージが出されます。

```
DFHFE3301 Transaction complete
```

このトランザクションの使用について詳しくは、[問題判別におけるダンプの使用](#)を参照してください。

CSFE 端末テストの使用

CSFE を使用して端末をテストできます。ただし、CICS でサポートされる端末の 1 つである場合に限りです。

このタスクについて

CSFE を使用して以下のテストを行うことはできません。

- IBM 2780 データ伝送端末
- IBM 3600 金融機関通信システム 端末
- IBM 3614 自動取引装置 端末
- IBM 3735 プログラム記憶式 端末装置
- 出力専用プリンター (例えば、IBM 3270 情報表示システムのプリンター)

手順

1. 以下のように、画面のコマンド行に CSFE と入力することによって、トランザクションを開始します。

```
CSFE
```

2. ENTER キーを押します。

以下のように表示されます。

```
DFHFE3304 Enter PRINT for character set, END to  
terminate. All other data will be echoed.
```

END

画面のコマンド行に END と入力すると、テストは終了します。

PRINT

PRINT と入力すると、印刷可能な文字、または端末のディスプレイに表示可能な文字すべてが端末に送信されます。

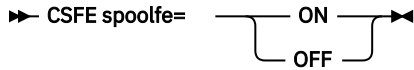
その他の入力すべて、他の CSFE 要求のいずれかの形式である場合を除いて、端末に返されます (つまり、エコー出力されます)。

CSFE によるトレース

CSFE を使用して、システム・スプーリング・インターフェースに対する追加のトレースおよび診断機能を要求できます。

このタスクについて

CSFE SPOOLFE



OFF

システム・スプーリング・インターフェースのトレースおよび 診断機能をオフに切り替えます。

ON

システム・スプーリング・インターフェースに対して、システム・タイプの追加トレース項目が提供されることを指定します。

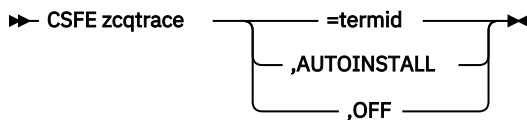
SPOOLFE

システム・スプーリング・インターフェースのトレースおよび 診断機能です。

端末ビルダー・トレース

CSFE トランザクションを使用して、端末ビルダー・トレースを活動化または非活動化することができます。

CSFE ZCQTRACE



,AUTOINSTALL

自動インストール端末のトレースをオンに切り替えます。

,OFF

個別の端末、および自動インストール端末のトレースをオフに切り替えます。

=termid

termid によって指定される端末または接続のトレースをオンに切り替えます。

CSFE デバッグ機能の使用

ストレージのフリーズ、記憶保護違反トラップ、グローバル・トラップ/トレース出口、および CONFDATA 設定はすべて、CSFE トランザクションによって制御されるデバッグ機能です。

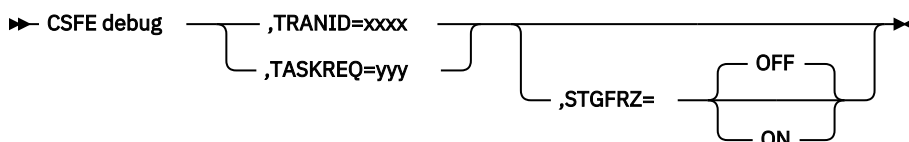
これらの機能については、以降のセクションで説明します。

ストレージの凍結

CSFE DEBUG を使用して、通常はトランザクションの処理中に解放されるストレージを凍結することができます。凍結されたストレージは、トランザクションの終了まで解放されません。このストレージの凍結は、処理中に発生した可能性がある問題を後から診断する際に役立ちます。

オプションは、構文図に示されている順序でコーディングする必要があります。

CSFE DEBUG TRANID



パラメーター

STGFRZ= {OFF|ON}

ストレージ凍結機能をオンまたはオフに設定することを指定します。このオプションを省略すると、ストレージ凍結はデフォルトで OFF に設定されます。効率性を高めるために、ストレージ凍結は必要がないときはオフに切り替えてください。

TASKREQ= yyy

これはトランザクションを指定する代替方式です。yyy は、ストレージ凍結を適用するトランザクションを示す、3270 ディスプレイ 装置上のファンクション・キー定義です (例えば、TASKREQ=PA1)。

TRANID= xxxx

ストレージ凍結を適用するトランザクションを指定します。

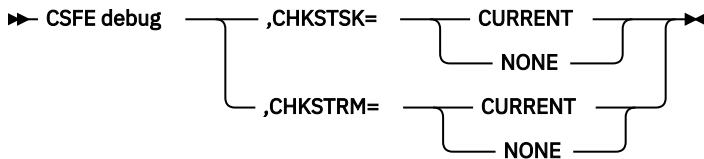
記憶保護違反トラップ

CSFE DEBUG を使用して、トレース・プログラム (DFHTRP)、EXEC インターフェース・プログラム (DFHEIP)、およびリソース・マネージャー・インターフェース・プログラム (DFHERM) 内の記憶保護違反トラップを活動化および非活動化します。

このトラップを使用して、現在アクティブなタスクに関連付けられたユーザー・ストレージを検査できます。トレース項目の作成後、トレース・プログラムが呼び出し側に戻る前に記憶保護違反トラップに入ります。

記憶保護違反がトラップによって検出されると、例外トレース項目が作成され、CICS システム・ダンプが生成されて (ダンプが使用不可になっていなければ)、記憶保護違反トラップはオフに切り替えられます。

CSFE DEBUG CHKSTSK



パラメーター

,CHKSTSK= {CURRENT|NONE}

CURRENT

トレース・プログラムに入るたびに、現行タスクのユーザー・ストレージ (CICS ストレージではない) で妥当性検査を実行することを指定します。以下のように、現在アクティブなタスクに対して妥当性検査が実行されます。

- ・タスクのストレージ・チェーンの妥当性検査
- ・トランザクション・ストレージ・チェーン上のすべてのストレージ域を対象とした、アドレスとストレージ・アカウンティング領域の妥当性検査

NONE

ユーザー・ストレージ検査機能を非活動化します。

,CHKSTRM= {CURRENT|NONE}

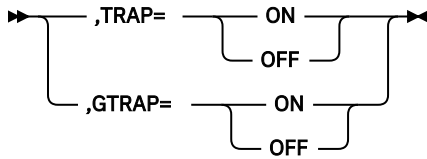
現行タスクが存在するか (CURRENT)、またはタスクが存在しない (NONE) か、16 MB 境界より上または下の端末サブプールが検査されます。

グローバル・トラップ/トレース・プログラム出口とグローバル・カーネル出口

TRAP オペランドまたは GTRAP オペランドを指定した CSFE DEBUG を使用して、グローバル・トラップ/トレース・プログラム出口ルーチン、またはグローバル・カーネル出口ルーチンをそれぞれ活動化および非活動化できます。

これらの出口は、IBM サポート担当員の指示のもとでのみ使用してください。

CSFE DEBUG TRAP



TRAP={ON|OFF}

グローバル・トラップ/トレース・プログラム出口ルーチンを活動化または非活動化します。

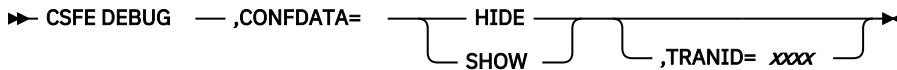
GTRAP={ON|OFF}

グローバル・カーネル出口ルーチンを活動化または非活動化します。ドメインの呼び出しと戻りごと、およびサブルーチンの呼び出しと戻りごとに、カーネルは活動化されていればグローバル・カーネル出口ルーチンを呼び出します。

CONFDATA 設定

CSFE DEBUG を使用して、実行中のシステムの **CONFDATA** システム初期設定パラメーターの値を変更できます。必要に応じて、これを使用してトランザクションの CONFDATA オプションを変更することもできます。

CSFE DEBUG CONFDATA



パラメーター

CONFDATA= {HIDE|SHOW}

CICS トレース・エントリーに含まれるユーザー機密データをリダクションするかどうかを CICS に指示する **CONFDATA** システム初期設定パラメーターの値を設定します。詳しくは、[CONFDATA システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

TRANID= xxxx

CONFDATA システム初期設定パラメーターの設定に加えて、**CSFE DEBUG, CONFDATA** でトランザクション ID を指定する場合は、指定したトランザクション ID でインストールされているトランザクションに対して CONFDATA オプションを以下のように設定することになります。

- CONFDATA=SHOW を指定した場合、トランザクションに CONFDATA(NO) が設定されます。
- CONFDATA=HIDE を指定した場合、トランザクションに CONFDATA(YES) が設定されます。

CONFDATA トランザクション・リソース・オプションについて詳しくは、[TRANSACTION 属性](#)を参照してください。

CSFE はこれらの変更をカタログしません。

重要: CONFDATA を SHOW に変更すると、トレース内にパスワードが露出する可能性があります。したがって、CONFDATA 設定の変更は、機密データがないとデバッグできないトレースを取得する必要がある場合にのみ一時的に行うことをお勧めします。トレースの収集が完了したら、ただちに CONFDATA を HIDE に戻してください。

第 29 章 CSGM - 「good morning」 パネル

デフォルトでは、CICS のユーザーが VTAM アプリケーションとして CICS にログオンすると、「good morning」 パネルが表示されます。

```
. . . . . This is where the good morning message appears. . . . . 12:56:28
```

```
*****\ *****\ *****\ *****\ (R)
*****\ *****\ *****\ *****\
**\\|\\|**\ **\\|\\| **\\|\\|**\ **\\|\\|**\
**\      \\ **\      \\ **\      \\ **\      \\
**\      **\      **\      *****\
**\      **\      **\      *****\
**\      **\      **\      \\|\\|**\
**\      **\      **\      **\      **\
*****\ *****\ *****\ *****\
*****\\ *****\\ *****\\ *****\\
\\|\\|\\| \\|\\|\\| \\|\\|\\| \\|\\|\\|
```

図 115. CICS の「good morning」 パネル

このパネルは、CICS 提供のトランザクション CSGM によって表示されます。CSGM を使用する代わりに、GMTRAN システム 初期化パラメーターで独自のトランザクション・パネルを指定することもできます。

ユーザーは CLEAR キーを押してから、トランザクション ID を入力できます。ユーザーがサインオンするまでは、すべてのトランザクションが、DFLTUSER SIT パラメーターによって定義されたデフォルト・ユーザー ID で実行されます。

ユーザーは、CESL または CESN トランザクションのいずれかを使用して CICS にサインオンできます。

ユーザーは、LOGOFF または GOODNIGHT オプションとともに CESF トランザクションを使用することによって、CICS から切断できます。

第 30 章 CSPG - ページ検索

一部のトランザクション、特に画面上で実行されるものにおいては、大きすぎて一度に表示や印刷ができないという応答を生成するものがあります。応答の全体は、直接アクセス・ストレージ上に保持されますが、表示されるのは最初の部分 (ページと呼ばれます) だけです。これらのページは、基本マッピング・サポート (BMS) を介した CSPG ページ検索トランザクションによって、操作できます。

ページングを使用すると、応答のすべてのページをさまざまな順序で表示することができます。トランザクションで生成されるすべてのページは、論理メッセージを構成します。

最初のページ検索コマンドを入力したとき、または自動トランザクション開始 (ATI) によって最初のページが表示されたときに、ページ検索セッションが開始されます。このセッション中、CICS は通常のトランザクション識別手順に従わずに、コマンドを直接 BMS 端末ページングに渡します。

IBM 3780 通信端末装置トランザクションに BMS を使用する場合は、SPACE COMPRESS EXPAND (標準機構)、TRNSPCY (特殊機構)、および INHIBIT IRS (特殊機構) のスイッチをオフに切り替えます。

ページング・コマンドで操作されるページは、BMS で作成されたものでなければなりません。この BMS は、コマンドをサービスするために、システムでアクティブになっている必要があります。ページング・コマンドによって、以下のことが行えます。

- ページを検索する。
- 端末用にキューに入れている論理メッセージについて、情報を表示する。
- 論理メッセージをチェーニングする。つまり、新規トランザクションを入力しているときに、前の論理メッセージを直接アクセス・ストレージに保存する。
- 論理メッセージをパージする。つまり、論理メッセージを直接アクセス・ストレージから消去する (ページング・セッションは、メッセージのパージで終わる必要があります)。
- 別の端末に、ページをコピーする。

これらの機能を選択するには、各機能の固有の識別コードを入力します。このコードは 1 文字から 7 文字の長さで、PGRET、PGCHAIN、PGPURGE、および PGCOPY の各システム初期設定パラメーターによって定義されます。

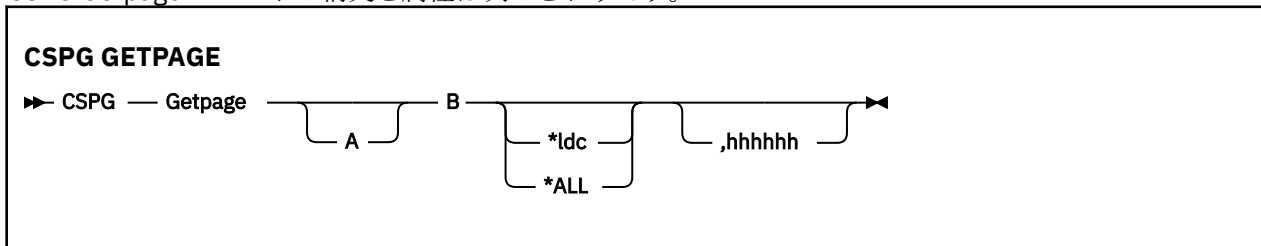
TRANSACTION リソース定義によって CICS に定義されたいずれかのトランザクションの先行文字と同じコードは、使用しないでください。

ページの検索

CSPG ページ検索コマンドを使用して、指定したページを検索できます。区分画面が使用されている場合、ページ検索コマンドはコマンドが入力された区分画面を参照します。

このタスクについて

CSPG Getpage コマンドの構文と属性は次のとおりです。



Getpage

これは、検索トランザクションのユーザー定義の ID コードで、長さは 1 から 7 文字です。このコードは、PGRET システム初期設定パラメーターによって定義されます。利便性のために、コードは可能な限り短縮してください (例えば、P)。

A

チェーニングを使用していない限り、このオプションは無視できます。これは、検索される論理メッセージのレベル (論理メッセージのチェーン内) です。括弧で囲んで指定する必要があります。次のいずれかです。

n

メッセージはレベル n

+n

メッセージは n レベル前方

-n

メッセージは n レベル後方

P

前のレベルに戻る

C

現行レベル (デフォルト)

N

次のレベルに進む

L

最後のレベル

メッセージのレベルについて詳しくは、[508 ページの『CSPG を使用したメッセージ・チェーニング』](#)を参照してください。

B

現行レベル、または A オプションによって指定されるレベルで、論理メッセージに対して実行される次の操作を定義します。以下のいずれかです。

n

ページ n

+n

n ページ先のページ

-n

n ページ前のページ

P

前のページ

C

現行ページを再表示 (画面を消去した後)

N

次のページ

L

最後のページ

A

一時的にページング・モードになっている自動ページング (つまりハードコピー) 端末の場合: 端末を自動ページング・モードに戻し、残りのすべてのページを出力します。

これについて詳しくは、[512 ページの『CSPG での自動ページングの使用』](#)を参照してください。

X

ページング・コマンドとして認識されないデータを入力します。

これについて詳しくは、[507 ページの『単一キー・ストローク検索 \(SKR\)』](#)を参照してください。

***ldc**

メッセージを送信する装置の LDC を指定します。 ([507 ページの『論理装置のページ検索』](#)を参照してください。)

***ALL**

*ldc の特殊なケース。

Hhhhhh

検索される未送信論理メッセージの 6 桁の 16 進 ID。通常、この ID は、ページ照会コマンドを入力することによって判別します (508 ページの『[論理メッセージに関する情報の表示](#)』を参照)。

ID を指定しない場合は、最も古いメッセージが検索されます。 ページング・セッションが開始された後、後続のページはすべて現行メッセージから取得されるので、hhhhh は省略できます。

以下の例では、P/ はページ検索トランザクション ID です。

P/7

このメッセージのページ 7 を検索します。

P/N

このメッセージの次のページ (表示されているページの後) を検索します。

P/(N)9

次のメッセージ (チェーニングされているいくつかのページのうちの) のページ 9 を検索します。

単一キー・ストローク検索 (SKR)

z/OS Communications Server で 3270 ディスプレイ 装置を使用している場合に、ページ検索コマンドを入力するには、SKRxxxx システム初期設定パラメーターで定義されているように、PA または PF キーを使用でき、ページ検索セッションに必要なキー・ストロークの数を大幅に削減できます。

セッションが終了した後、PA キーと PF キーを再び使用して、通常の方法でトランザクションを開始できます。このトピックについて詳しくは、[SKRxxxx システム初期設定パラメーター](#)を参照してください。

論理装置のページ検索

アプリケーション・プログラムは、IBM 3600 などの通信システムにメッセージを送信できます。また、アプリケーション・プログラムは、システム内の各論理装置に異なるページを送信することもできます。これらのページは、ストレージに保管される単一の論理メッセージとしてグループ化する必要があります。

論理メッセージの各部分には、その宛先を識別する論理装置コード (LDC) が付随します。論理装置のページを取り出すときは、その装置の LDC を指定する必要があります。ただし、論理装置コントローラーのユーザー作成プログラムがデフォルト LDC 簡略記号を提供する場合は、このようにする必要はありません。

ページ番号と *ldc を指定する場合は、その論理装置に対して指定されたページから送信が始まります。論理装置が AUTOPAGE 状況の場合は、要求されたページから始まる、その論理装置のすべてのページが書き込まれます。論理装置が PAGE 状況の場合は、指定されたページのみが書き込まれます。

*ldc を省略し、論理装置内のアプリケーション・プログラムがデフォルトを提供しない場合、BMS は、現在 PAGE 状況にある論理装置を宛先とする最初のページを選択します。最初に指定したもの以外の論理装置にページが送信される可能性があるため、論理装置内のアプリケーション・プログラムはデフォルト LDC を提供する必要があります。

どちらの場合も、行っている要求が論理メッセージからページを要求する最初のものである場合は、最初のページまたは指定されたページが PAGE 状況の装置に送信された後、現在 AUTOPAGE 状況にある論理装置を宛先とするすべてのページ (論理メッセージ内の) が送信されます。

getpageA コマンドは、3601 論理装置用に作成された経路指定されないメッセージに対する *ldc の指定をサポートします。getpageA の各種形式は以下のように解釈されます。

- getpageA*ALL - 自動ページングにリセットして、端末定義で自動ページが指定されていながら、CICS アプリケーション・プログラマーによって一時的にページ状況に設定されている、論理装置のすべてのページを送信します。
- getpageA*ldc - 指定された論理装置を自動ページにリセットし、その *ldc のページを送信します。このコマンドは、指定された論理装置に対してのみ動作することを除き、getpageA*ALL に似ています。
- getpageA - 自動ページングにリセットし、現在ページの表示対象である論理装置の残りのページを送信します。

ページ検索と区分画面

ページ検索コマンド (単一キー・ストローク検索で使用される PA キーと PF キーを含む) は、コマンドが入力された区分画面を参照します。最後のページング・コマンドが入力された区分画面は、現区分画面です。

非区分画面に入力された (つまり、CLEAR の後で) 区分メッセージのページング・コマンドは、現区分画面を参照します。

基本 (非区分) 状態から区分状態に移行した後、または区分セットの変更後 (つまり、初期ページ表示、CLEAR 後のページ表示、またはページ・チェーニングのレベルの変更後)、現行ページがそれぞれの区分画面に表示されます。現行ページは、初期はその区分画面の最初のページです。このページは、ページ検索コマンドによって更新されます。

論理メッセージに関する情報の表示

getpageQ コマンドは、この端末のキューに入れられている論理メッセージのメッセージ ID とタイトルを表示します。

Getpage

検索トランザクションのユーザー定義の ID コードで、長さは 1 から 7 文字です。PGRET システム初期設定パラメーターがこのコードを定義します。

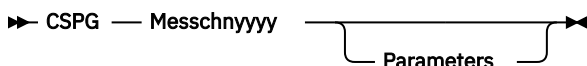
Q

(照会)。この端末を宛先とするすべての論理メッセージの ID が表示されます。メッセージがセキュリティー保護されている場合 (つまり、特定のオペレーター ID またはオペレーター・クラスに送付されている場合) は、サインオンしているオペレーターのオペレーター ID またはクラスがメッセージ内のものと一致する場合のみ、メッセージの ID が表示されます。この ID は、6 桁の 16 進数、2 文字の一時記憶域接頭部、およびオプションのタイトルで構成されます。6 桁の 16 進数は、この画面のページを検索するために、ページ検索コマンドの hhhhhh オプションとして使用できます (505 ページの『ページの検索』を参照)。

CSPG を使用したメッセージ・チェーニング

通常、トランザクションからの出力ページを表示した後で、ページを保持する必要はありません。ただし、新規トランザクションを開始しながら以前のページを維持することもでき、このようにすれば新規トランザクションからの出力を表示した後で以前のページを再び表示できます。これはメッセージ・チェーニングと呼ばれ、以下のコマンドを使用して行うことができます。

CSPG MESSCHNYYYY



Messchn

インストール済み環境で定義されているメッセージ・チェーニング・トランザクション識別コード (例えば、C/)。これは、PGCHAIN システム初期設定パラメーターで定義されています。

Yyyy

メッセージ・チェーンに追加するデータを生成するトランザクションの ID。

パラメーター

トランザクション yyyy に必要なパラメーター (ある場合)。

新規トランザクションが端末管理または TERMINAL モードの BMS を使用している場合、出力は即時に表示されます。新規トランザクションが終了すると、入力するその他の内容は最初のメッセージのページング・コマンドと解釈されます。例:

TRAN

トランザクションは、複数の出力ページを生成するアプリケーション・プログラムを呼び出します。最初のページが表示されます。

P/2

メッセージの 2 番目のページが表示されます。

C/CEMT INQ TIM

CEMT データが表示されます。

P/2

メッセージの 2 ページ目が再表示されます

新規トランザクションが PAGING モードで BMS を使用し、RETAIN または RELEASE がアプリケーション・プログラムの SEND PAGE コマンドで指定されている場合、出力は既存の出力にチェーニングされ、新しいレベルのチェーニングが作成されます。

RELEASE が指定された場合、このチェーニング処理は無期限に繰り返すことができます。ただし、チェーニングの最上位のページを表示するときには、チェーニング要求を常に行う必要があります。そうでなければ、現行レベルより高いレベルのメッセージが自動的にページされるか (アプリケーション・プログラムの SEND PAGE コマンドで OPERPURGE が指定されていなければ)、ページするように要求されます。RETAIN が指定されている場合、2 番目の論理メッセージが終了するまで、追加のチェーニング (TERMINAL または PAGING モードの) は実行できません。その他のチェーニング要求はリジェクトされます。

RETAIN または RELEASE のどちらも指定されていなければ、2 番目のトランザクションからの出力は新規メッセージとして端末のキューに入れられ、以前のメッセージがすべて終了するまでは受信されません。したがって、このメッセージは現行メッセージにチェーニングされません。

メッセージ・チェーニング・セッション中にページング・コマンド以外のデータを入力した場合、現行レベルより高いレベルのページはすべて削除されます (SEND PAGE コマンドで OPERPURGE=YES を使用して作成されたメッセージがチェーンに含まれていなければ)。

PAGING モードの BMS のもとでメッセージ・チェーニングを使用する一例は、フランス語を話す人々を対象とした職員ファイルの検索です。最初の照会で 3 つの名前が検出されたとします。名前を含んでいるページを終了せずに、名前が示されている 3 人のレコードをそれぞれ調べることができます。チェーニング・トランザクションを使用して、3 つの名前を消去せずにレコードを読み取ることができます。

これにより、チェーニングの第 2 レベルで出力が作成されます (元のトランザクションからの出力を第 1 レベルの出力として)。個人のレコードの表示を終了したら、ページング・コマンドを入力して現行レベルを終了します (510 ページの『CSPG メッセージ終了』を参照)。個人のレコードを表示するメッセージはページされ、3 つの名前を含む元のページが再表示されます。メッセージ・チェーニング・トランザクション ID が C/であることを前提として、以下のように入力します。

```
LANG DEPT=J34,FRENCH
```

以下の出力を受け取ります。

```
BERESFORD, J.A. 1043
LEVY, A.R.      7121
WALTON, J.      8143
```

Beresford の詳細を調べるために、以下のように入力します。

```
C/PREC 1043
```

これにより、従業員番号 1043 の職員レコードが検索されます。PREC は、職員レコードを検査するためのユーザー作成トランザクションの ID です。以下の出力を受け取ります。

```
NAME - BERESFORD, JERRY A.
EMPLOYEE NO - 1043
(and so on)
```

名前のリストに戻るには、次のように入力します。

```
T/C
```

T/ は、チェーニングの現行レベルでメッセージを終了するユーザー定義トランザクション ID です (510 ページの『CSPG メッセージ終了』を参照)。

以下の出力を受け取ります。

```
BERESFORD, J.A. 1043
LEVY, A.R.      7121
WALTON, J.      8143
```

次に、Levy のレコードを調べることができます。

一連のメッセージをまとめてチェーニングし、ページング・コマンドを使用してその系列を同時に表示することもできます。前の例を使用すると、サマリー・ページを基本メッセージ (第 1 レベル)、それぞれの職員レコードを後続のチェーン・レベルとすることができます。現在、以下のサマリーを表示しているとします。

以下のように入力します。

```
C/PREC 1043
```

以下の出力を受け取ります。

```
NAME - BERESFORD...
```

以下のように入力します。

```
C/PREC 7121
```

以下の出力を受け取ります。

```
NAME - LEVY...
```

以下のように入力します。

```
C/PREC 8143
```

以下の出力を受け取ります。

```
NAME - WALTON...
```

端末には現在、4 つのレベルの論理メッセージがあります。これで、職員レコード間をページングによって前後に移動できるようになります。以下のように入力します。

```
P/(2)1
```

以下の出力を受け取ります。

```
NAME - BERESFORD...
```

以下のように入力します。

```
P/(L)1
```

以下の出力を受け取ります。

```
NAME - WALTON...
```

最後の論理レベルを表示しているときにのみ、新しいトランザクションをチェーニングできます。4 つのレベル (上の例のように) がある場合、サマリー・ページ (レベル 1) を表示し、その後で C/PREC 3642 と入力すると、新しいトランザクションはレベル 2 になり、その下にあるチェーニングされた他のメッセージはすべて消去されます (OPERPURGE オプションを省略した SEND PAGE コマンドを使用して作成されたことを前提とすると)。

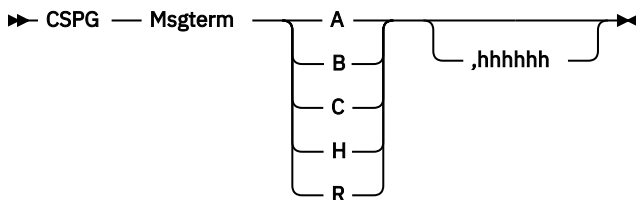
異なる区分画面レイアウトを使用するメッセージ (非区分を含む、異なる区分セット) をチェーニングできます。メッセージ・レベルが変更されると、それぞれの区分画面の現行ページが再表示されます。

CSPG メッセージ終了

メッセージ終了コマンドを使用して、論理メッセージを消去できます。

論理メッセージがセキュリティー保護されている場合は、ID またはクラスがメッセージ内にあるものと一致する場合にのみメッセージが終了します。消去の後、まだチェーン内にある最後のメッセージが表示されます。メッセージ終了コマンドの形式は次のとおりです。

CSPG MSGTERM



Msgterm

メッセージ終了トランザクション (例えば, T/) に対して PGPURGE システム 初期設定パラメーター内で定義されたユーザー定義トランザクション ID (1 から 7 文字)。

A

その端末を宛先として送信され、表示されるすべての論理メッセージを終了します (まだ表示されていない、経路指定されたメッセージを含む)。終了処理が完了すると、以下のメッセージが返されます。

```
DFHTP4122 Requested purge completed successfully
```

B

その端末に表示されている論理メッセージ、およびその論理メッセージにチェーニングされたすべての論理メッセージを終了します。これには、経路指定されたメッセージは含まれません。トランザクションからのすべての出力の処理が完了したら、msgtermB という形式のコマンドを入力することによって、基本メッセージを終了する必要があります。OPERPURGE オプションを省略した SEND PAGE コマンドを使用してメッセージが作成された場合は、ページング・コマンド以外のデータを入力することによって、ページング・セッションを終了できます。

C

現行 (レベル) の論理メッセージとその下にチェーニングされたメッセージを終了します。

H

その端末に表示されている基本論理メッセージにチェーニングされたすべての論理メッセージを終了します。最も新しく表示された基本メッセージのページが、端末に再表示されます。

R

端末への即時送達 (送付) のためにキューに入られているすべての論理メッセージを終了します。端末に表示されていたページが再表示されます。

Hhhhhh

消去される未送信論理メッセージに固有の 6 桁の 16 進 ID。 (この ID は、ページ照会コマンドを使用して判別できます。) 指定されているメッセージがセキュリティー保護されている場合は、オペレーターのセキュリティー・コードが、メッセージに含まれるものと一致する必要があります。

メッセージ ID (hhhhh) が終了要求に指定されておらず、現在表示されているメッセージがない場合は、最も古いメッセージが自動的に取得されます。

CSPG を使用したページのコピー

表示されているページのコピーを別の端末 (通常はハードコピー) に送信できます (最初に送信されたときの表示内容のとおり)。

このタスクについて

これは以下のように行います。

手順

ページ・コピー・トランザクション ID、およびコピーを受信する端末の ID を以下のように入力します。

```
msgcopytttt
```

ここで、

Msgcopy

コピー・トランザクション ID (1 から 7 文字)。例えば、D/ と指定します。これは、**PGCOPY** システム初期設定パラメーターに定義されています。

Tttt

ページをコピーする先の端末の ID。

タスクの結果

以下のメッセージが表示されます。

```
DFHTP4124 Page copied from terminal tttt
(message number msgno)
```

ターゲット端末がサポートしていないコピー・ページのフィールドおよび文字属性は無視されます。コピーされたページは、ターゲット端末に適合しない場合は再フォーマットされます。フィールドおよび文字属性は、再フォーマット設定で廃棄されます。区分画面が使用されている場合、ページ・コピー・コマンドは、コピー・コマンドが入力された区分画面に表示されているページをコピーします。

CSPG での自動ページングの使用

ページング端末 (要求時にページを表示するもの) として定義されていないハードコピー 端末は、自動ページング端末 (ユーザーの介入なしにすべてのページを表示するもの) です。

このタスクについて

SEND PAGE コマンドの NOAUTOPAGE オプションを使用して、ユーザーのアプリケーション・プログラムによって自動ページング端末を一時的にページング端末として指定できます。最初のページを端末に表示する時点でこの指定を行うと、端末はメッセージの期間にわたって一時的にページング端末として扱われます。

この状態は、以下のいずれかが行われるまで続きます。

1. P/A (端末を自動ページング状況にリセット) を入力して、以後は介入なしにすべての後続ページが表示されるように指定する。
2. T/C (現行メッセージの終了) を入力する。その論理メッセージのすべてのページがパージされ、端末が再び自動ページング状況になります。

P/ はページング・トランザクション ID、T/ は終了トランザクション ID です。

CSPG による送付されたページの表示

メッセージを送信した先の端末が TRANSCEIVE 状況であり、トランザクションに関与しておらず、ページを表示していない場合は、そのメッセージの最初のページが表示されます。ただし、端末が TRANSACTION 状況の場合は、CSPG、CSPG P/1、または単に P/1 と入力して、待機メッセージの最初のページのみを表示できます。

このタスクについて

ここでは、ページング・コマンドとして P/ を使用しています。待機しているページがない場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
DFHTP4104 A paging request has been received but
there are no pages for display
```

メッセージ交換トランザクションを使用して、ユーザーが使用しているもの以外の端末に出力を送信できます。メッセージ交換について詳しくは、[475 ページの『第 26 章 CMSG - メッセージ交換』](#)を参照してください。

第 31 章 CWTO - コンソール・オペレーター宛メッセージ

コンソール・オペレーターにメッセージを送信するには、CWTO を使用します。

画面のコマンド行で以下のように CWTO と入力して (オプションでメッセージのテキストを続ける)、トランザクションを開始します。

CWTO

➡ CWTO — Message ➡

ENTER キーを押します。トランザクションが正常に実行された場合は、メッセージがコンソールに送信され、以下のように正常終了応答が返されます。

MESSAGE HAS BEEN SENT

メッセージ・テキストを指定せずに CWTO を入力すると、以下のようにメッセージの入力を要求されます。

ENTER MESSAGE

メッセージの最後の 6 文字として CANCEL と入力して、CWTO トランザクションを取り消すことができます。トランザクションは終了して、以下の応答が返されます。

TERMINATED BY OPERATOR

以下に、メッセージの形式に関する一般的な注意点をいくつか示します。

- メッセージがコンソールの行の長さを超える場合は、単語の間で複数の行に分割されます。分割されたメッセージの各部分には、ユーザーの ID と発信元端末の ID が接頭部として付けられます。
- メッセージ内の改行 (NL) 文字は保持されますが、先行する NL 文字は削除されます。
- 必要な回数だけ Enter キーを押す (または復帰を使用する) ことによって、送信メッセージの最上部に空白行を挿入できます。
- 削除のためにバックスペース文字をいくつでも入力できます。空白文字のみを入力した場合、または入力した削除文字の数が多すぎてすべてのデータが削除された場合は、以下のメッセージが表示されます。

NO INPUT - REENTER

第 32 章 DSNC - CICS Db2 トランザクション DSNC

DSNC を使用して Db2 コマンドを入力し、その他の幅広い CICS Db2 タスクを実行します。

DSNC トランザクションを使用して、以下の操作を実行できます。

- CICS 端末から Db2 コマンドを入力します。
- スレッドが解放されるときに終了するようにします (DSNC DISCONNECT)。
- CICS Db2 インターフェースを使用してトランザクションに関する情報を表示し、統計を表示します (DSNC DISPLAY)。
- 非送信請求メッセージの宛先を変更し、DB2ENTRY、プール、またはコマンドで使用されるアクティブ・スレッドの数を変更します (DSNC MODIFY)。
- CICS Db2 インターフェースをシャットダウンします (DSNC STOP)。
- CICS Db2 インターフェースを開始します (DSNC STRT)。

CICS Db2 トランザクション DSNC について詳しくは、[CICS Db2 用の CICS 提供トランザクション](#)を参照してください。

第 33 章 CICS トランザクションのリスト

これらのトランザクションは、CICS に付属しています。CICS に付属するさまざまなサンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクションや、CICS が内部的に使用するトランザクション、CICS システム状況の管理および変更するために用意されているトランザクションがあります。次の表では、オペレーター・インターフェースを備えたトランザクションを、アスタリスク (*) を付けて示しています。「トランザクション」は、トランザクション ID です。「プログラム」は、提供されたトランザクション定義に指定されているプログラム (存在する場合) を示します。「CSD グループ」は、トランザクション定義を含む、提供されたリソース定義グループを示します。「セキュリティ・カテゴリー」は、トランザクションの RACF プロファイル定義を示しています。カテゴリー 2 のトランザクションについては、そのサンプルの CLIST、DFH\$CAT2 で使用されるサブカテゴリーも示しています。

このセクションでは、以下の CICS トランザクションについてまとめています。

- 517 ページの『すべての CICS トランザクションのリスト (サンプル・トランザクションを除く)』
- 526 ページの『CICS サンプル・トランザクションのリスト』
- 532 ページの『カテゴリー 1 CICS トランザクション』
- 537 ページの『カテゴリー 2 CICS トランザクション』
- 540 ページの『カテゴリー 3 CICS トランザクション』。

すべての CICS トランザクションのリスト (サンプル・トランザクションを除く)

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリー (サブカテゴリー)	説明
CADP*	DFHDPLU	DFHDP	2 (DEVELOPER)	アプリケーション・デバッグ・プロファイル・マネージャー
CATA	DFHZATA	DFHSPI	1	自動端末の自動インストールを定義
CATD	DFHZATD	DFHSPI	1	自動インストール端末を削除
CATR	DFHZATR	DFHSPI	3	自動インストール再始動端末を削除
CBAM*	DFHECBAM	DFHOPER	2 (OPERATOR)	BTS オブジェクト・ブラウザー
CCIN	DFHZCN1	DFHCLNT	3	CICS クライアント
CCRL*	DFHSOCRL	DFHOPER	2 (SYSADM)	CICS 証明書失効リスト・トランザクション
CDBC*	DFHDBME	DFHDBCTL	2 (SYSADM、DBCTL)	DBCTL インターフェース・メニュー・トランザクション
CDBD	DFHDBDI	DFHDBCTL	1	DBCTL 使用不可化機能
CDBE	DFHD2CM3	DFHDB2	1	CICS Db2 接続機能強制シャットダウン・トランザクション
CDBF	DFHD2CM3	DFHDB2	2	CICS Db2 接続機能強制シャットダウン・トランザクション
CDBI*	DFHDBIQ	DFHDBCTL	2 (INQUIRE、DBCTL)	DBCTL インターフェース 照会トランザクション
CDBM*	DFHDBMP	DFHDBCTL	2 (DBCTL)	DBCTL オペレーター・トランザクション

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CDBN	DFHDBCON	DFHDBCTL	3	DBCTL インターフェース 接続トラ ンザクション
CDBO	DFHDBCT	DFHDBCTL	1	DBCTL 制御機能
CDBP	DFHD2CM2	DFHDB2	1	CICS Db2 接続機能シャットダウン 静止トランザクション
CDBQ	DFHD2CM2	DFHDB2	2	CICS Db2 接続機能シャットダウン 静止トランザクション
CDBT	DFHDBDSC	DFHDBCTL	2 (DBCTL)	DBCTL インターフェース 切断トラ ンザクション
CDFS	DFHDFST	DFHISC	2 (INTERCOM)	間隔を指定した動的開始
CDTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート単一削除トランザクション を提供
CEBR*	DFHEDFBR	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	一時ストレージの参照
CECI*	DFHECIP	DFHINTER	2 (DEVELOPER)	コマンド・レベル・インタープリタ ー
CECS	DFHECSP	DFHINTER	2 (DEVELOPER)	コマンド・レベル・インタープリタ ー
CEDA*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (SYSADM)	オンライン・リソース定義 - 完全 (RDO)
CEDB*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (DEVELOPER)	オンライン・リソース定義 - 制限付 き (RDO)
CEDC*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (INQUIRE)	オンライン・リソース定義を表示 (RDO)
CEDF*	DFHEDFP	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	実行診断機能
CEDG*	DFHEDFP	DFHEDF	2	CEDF の読み取り専用形式。
CEDX*	DFHEDFP	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	非端末タスク用の実行診断機能
CEDY*	DFHEDFP	DFHEDF	2	CEDX の読み取り専用形式。
CEGN	DFHCEGN	DFHSIGN	3	good night トランザクションのスケ ジュール設定
CEHP	DFHCHS	DFHISC	2 (INTERCOM)	LU タイプ 2 ミラー・トランザクシ ョン (サポートされない)
CEHS	DFHCHS	DFHISC	2 (INTERCOM)	LU タイプ 2 ミラー・トランザクシ ョン (サポートされない)
CEKL*		必要なし	3	緊急用のマスター端末トランザクシ ョン。このトランザクションは、 CICS 領域に対して MODIFY コマン ドを発行する権限があるオペレーテ ィング・システム・コンソールでの み使用できます。

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリ (サブカテゴリ)	説明
CEMN*	DFHCEMNA	DFHOPER	2 (SYSADM)	CICS モニター機能トランザクション
CEMT*	DFHEMTP	DFHOPER	2 (SYSADM)	マスター端末
CEOT*	DFHEOTP	DFHOPER	2 (OPERATOR)	端末状況
CEPD	DFHEPDS	必要なし	1	イベント処理ディスパッチャー
CEPF	DFHECDF	必要なし	1	イベント処理据え置きフィルター・タスク
CEPH	DFHECEAH	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の HTTP EP アダプター
CEPM	DFHEPSY	必要なし	1	イベント処理キュー・マネージャー
CEPQ	DFHECEAM	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の WebSphere MQ EP アダプター
CEPR	DFHECEAQ	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の TDQ EP アダプター
CEPS	DFHECEAS	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用のトランザクション開始アダプター
CEPT	DFHECEAT	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の TSQ EP アダプター
CESC*	DFHCESC	DFHSIGN	1	アイドル端末のタイムアウトとサインオフを処理
CESD	DFHCESD	DFHSDAP	2 (SYSADM)	シャットダウン支援
CESF*	DFHSFP	DFHSIGN	3	端末ユーザーのサインオフ
CESL*	DFHSNP	DFHSIGN	3	パスワードまたはパスワード・フレーズを使用して端末ユーザーをサインオン
CESN*	DFHSNP	DFHSIGN	3	パスワードを使用して端末ユーザーをサインオン
CEST*	DFHESTP	DFHOPER	2 (OPERATOR)	監視端末
CETR*	DFHCETRA	DFHOPER	2 (SYSADM)	トレース・オプションの照会および設定
CEX2	DFHD2EX2	DFHDB2	1	CICS Db2 保護スレッド・ページ・メカニズムおよびその他の CICS Db2 サービス
CFCL	DFHFCDL	必要なし	1	CFDT ロード
CFCR	DFHFERN	DFHFERN	1	CICS バンドル内のファイルを使用不可にする
CFCT	DFHFCLJ1	必要なし	1	指定された間隔でレプリカ生成ログにファイルのタイアップ・レコードを提供する

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CFOR	DFHFCQT	必要なし	1	RLS オフサイト・リカバリー
CFQR	DFHFCQT	必要なし	1	RLS 静止受信
CFQS	DFHFCQT	必要なし	1	RLS 静止送信
CFTL	DFHDTLX	必要なし	1	共用 DT ロード
CFTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート一括フラグ・トランザクシ ョンを提供
CGRP	DFHZCGRP	必要なし	1	z/OS Communications Server 持続 セッションを提供します。CGRP ト ランザクション名は、一部の CICS タスクによって使用されます。
CHCK	DFHHCHK	必要なし	1	ヘルス・チェッカー長期実行システ ム・タスク
CHLP	DFHCMAC	DFHCMAC	2 (ALLUSERS)	CMAC の別名
CIDP*	DFHDPIN	DFHDP	2 (OPERATOR)	デバッグ・プロファイル・ユーティ リティーの非活動化
CIEP	DFHIEP	DFHIPECI	3	TCP/IP リスナー用の ECI
CIND*	DFHINDT	DFHINDT	2 (SYSADM)	CICS 未確定テスト・ツール
CIS1	DFHISPRP	DFHISCIP	1	IPIC 接続ハートビート・リクエスト ・トランザクション
CIS4	DFHCIS4	DFHISCIP	1	IPIC 外部セキュリティ・インター フェース (ESI) トランザクション
CISB	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のサーバー側で IPIC が IPCONN を解放する (BIS 処理)
CISC	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のクライアント側で IPIC が IPCONN を獲得する
CISD	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のクライアント側で IPIC が IPCONN を解放する
CISE	DFHISEMP	DFHISCIP	1	IPIC エラーおよびメッセージ・プロ グラム
CISM	DFHISRSP	DFHISCIP	1	IPIC リモート・スケジューラー
CISP	DFHISPHP	DFHISCIP	1	IPIC 接続ハートビート制御ラン ザクション
CISQ	DFHISLQP	DFHISCIP	1	IPIC ローカル・キュー処理
CISR	DFHISRRP	DFHISCIP	1	IPIC 要求/応答受信側
CISS	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のサーバー側で IPIC が IPCONN を獲得する
CIST	DFHISCOP	DFHISCIP	1	IPIC が IPCONN を終了する
CISU	DFHISREU	DFHISCIP	1	IPIC リカバリー・トランザクション

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリ (サブカテゴリ)	説明
CISX	DFHISREX	DFHISCIP	1	XA クライアント用の IPCONN リカバリーおよび再同期トランザクション
CITS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート自動インストール・トランザクションを提供
CJLR	DFHSJTHP	必要なし	1	Liberty リカバリー・トランザクション
CJSA	DFHSJTHP	DFHJAVA	2 (JVMUSER)	JVM サーバー要求プロセッサ・トランザクション
CJSL	DFHSJL	必要なし	1	JVM サーバー・リスナー (CICS によって自動インストールされる)
CJSP	DFHSJTHP	必要なし	1	JVM サーバーの Liberty プログラム管理
CJSR	DFHSJITL	DFHJAVA	1	CICS JVM サーバー解決トランザクション
CJSU	DFHSJTHP	DFHJAVA	2 (JVMUSER)	JVM サーバーの未分類要求プロセッサ・トランザクション
CJTR	DFHOTR	DFHOTS	1	Object Transaction Services (OTS) 再同期トランザクション
CJXA			2 (DEVELOPER)	JVM サーバーの JCISX 要求プロセッサ・トランザクション
CKAM	DFHMQMON	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター・アラート・モニター
CKBC	DFHMQBP3	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	チャネルおよびコンテナー DPL ブリッジ用の CICS-MQ ブリッジ・プログラム・リンク・トランザクション
CKBM	DFHMQBAS	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 基本パネル・トランザクション
CKBP	DFHMQBPO	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	CICS-MQ ブリッジ DPL ブリッジ・タスク (COMMAREA)
CKBR	DFHMQBRO	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	CICS-MQ ブリッジ・モニター・タスク
CKCN	DFHMQQCN	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 接続開始トランザクション
CKDL	DFHMQDSL	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター、状況表示トランザクション
CKDP	DFHMQDIS	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター、表示トランザクション
<u>CKQC*</u>	DFHMQCTL	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 制御トランザクション

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリ (サブカテゴリ)	説明
CKRS	DFHMQRS	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 変更トランザクション
CKRT	DFHMQRET	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 画面リターン・トランザクション
CKSD	DFHMQDSC	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 接続停止トランザクション
CKSQ	DFHMQSSQ	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター CKTI 開始/停止トランザクション
CKTI	DFHMQTSK	DFHMQ	2 (MQMONITOR)	CICS-MQ アダプター - タスク・イニシエーター・トランザクション
CLDM*	DFHLDMAP	DFHOPER	2 (INQUIRE)	CICS ロード・モジュール・マップ
CLQ2	DFHLUP	DFHISCT	3	APPC および MRO のアウトバウンド再同期
CLR1	DFHZLS1	DFHISCT	3	APPC および MRO 用のインバウンド CNOS
CLR2	DFHLUP	DFHISCT	3	MRO のインバウンド再同期
CLS1	DFHZLS1	DFHISC	3	Provides ISC LU サービス・モデルを提供
CLS2	DFHLUP	DFHISC	3	Provides ISC LU サービス・モデルを提供
CLS3	DFHCLS3	DFHISC	3	ISC LU サービス・モデル
CLS4	DFHCLS4	DFHISC	3	パスワードの有効期限を管理
CMAC	DFHCMAC	DFHCMAC	2 (ALLUSER)	メッセージ・ユーティリティー
CMPE	DFHMPDE	必要なし	1	ポリシー据え置きルール評価
CMPX	DFHMPX	DFHISC	3	ISC ローカル・キューイングのシブ
CMMSG*	DFHMSP	DFHMSWIT	2 (OPERATOR)	メッセージ交換
CMTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート一括削除トランザクション
CNJL	DFHSJNS	必要なし	1	Node.js 関連の通知を listen する
CNJW	DFHSJNW	DFHNODEJ	2 (PIPEUSER)	CICS パイプライン Node.js インバウンド・ルーター
COHT	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM TRAN モード履歴受信側タスク
COIE	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM TRAN モード・メソッド受信側タスク
COIR	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM RTA EVALDEF タスク
COIO	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM ESSS 受信タスク

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CONA	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM MAS エージェント代 替長期実行タスク
COND	EYU9NPS2	必要なし	1	CICSPlex SM MAS シャットダウン・ トランザクション
CONH	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM MAS 履歴タスク
CONL	EYU9XLEV	必要なし	1	CICSPlex SM MAS エージェント長 期実行タスク
CONM	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM MAS モニター・タスク
COVR	DFHZCOVR	必要なし	1	オープン z/OS Communications Server 再試行トランザクションを 提供
COWC	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSPlex SM WLM ガーベッジ・コレ クション・タスク
CPCT	DFHZPCT	DFHPSSGN	1	持続セッション・サインオン保存の ためにサインオン済み端末をカタロ グ
CPIA*	DFHPITE	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	端末から CPIS を起動
CPIH	DFHPIDSH	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	CICS パイプライン HTTP インバウ ンド・ルーター
CPIL	DFHPILSQ	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	SOAP WebSphere MQ インバウン ド・リスナー
CPIQ	DFHPIDSQ	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	SOAP WebSphere MQ インバウン ド・ルーター
CPIR	DFHPIITL	DFHSTAND	1	パイプライン解決トランザクション
CPIS	DFHPIR	DFHPIPE	1	再同期が必要ときに接続される WS-AT トランザクション
CPLT	DFHSIPLT	必要なし	1	PLT 処理を初期化
CPMI	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	CICS LU 6.2 同期レベル 1 ミラー
CPSS	DFHZSGN	DFHPSSGN	3	持続セッション・サインオン
CQPI	DFHCLS5	DFHISC/ DFHISCQ	3	接続静止。体系化トランザクション (インバウンド)。
CQPO	DFHCLS5	DFHISC/ DFHISCQ	3	接続静止。体系化トランザクション (アウトバウンド)。
CQRY	DFHQRY	DFHSTAND	3	ATI 照会サポートを提供
CRLR	DFHRLR	DFHRL	1	バンドル・リソース解決トランザク ション
CRMD	DFHZATMD	DFHSPI	1	リモート一括削除トランザクション を提供

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリ (サブカテゴリ)	説明
CRMF	DFHZATMF	DFHSPI	1	リモート一括フラグ・トランザクションを提供
CRPA	DFHRPAS	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC 別名トランザクション
CRPC	DFHRPC00	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC 更新トランザクション
CRPM	DFHRPMS	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC サーバー・コントローラー
CRSQ	DFHCRQ	DFHISC	1	リモート・スケジュール・ページ (ISC)
CRSR	DFHCRS	DFHISC	3	ISC リモート・スケジューラーを提供
CRST	DFHRSTK	必要なし	1	領域状況長期実行タスク
CRSY	DFHRMSY	DFHRMI	1	リソース・マネージャー再同期
CRTE*	DFHRTE	DFHISC	2 (OPERATOR)	トランザクション・ルーティング
C RTP	DFHZRTP	DFHPSSGN	1	持続セッション再始動タイマー・トランザクション
C RTX		DFHISC	2 (ALLUSER)	動的トランザクション・ルーティングのトランザクション定義
CSAC	DFHACP	DFHSTAND	3	プログラム異常条件を提供
CSCY	DFHCPY	DFHVTAMP	3	3270 画面出力を提供
CSFE*	DFHFEP	DFHFE	2 (OPERATOR)	端末テスト、トレース、ストレージ
CSFR	DFHFCRD	必要なし	1	RLS クリーンアップ
CSFU	DFHFCU	DFHOPCLS	1	ファイル・オープン・ユーティリティー
CSGM	DFHGMM	DFHVTAM	2 (ALLUSER)	「Good-morning」サインオン
CSHA		必要なし	1	スケジューラー・サービス (CICS によって自動インストールされる)
CSHQ	DFHSHSY	必要なし	1	スケジューラー・サービス・ドメイン長期実行タスク
CSHR	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	スケジューラー・サービス・リモート・ルーティング
CSKP	DFHRMXN3	必要なし	1	システム・ログ・アクティビティー・キーポイントの書き込み
CSMI	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	ミラー・トランザクション
CSM1	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	SYSMSG モデル
CSM2	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	スケジューラー・モデル
CSM3	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	キュー・モデル
CSM5	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	DL/I モデル
CSNC	DFHCRNP	DFHISC	1	領域間制御プログラム (MRO)

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリ (サブカテゴリ)	説明
CSNE	DFHZNAC	DFHVTAM	1	z/OS Communications Server (以前の呼称は VTAM) ノードのエラー・リカバリーを提供
CSOL	DFHSOL	必要なし	1	TCP/IP リスナー (CICS によって自動インストールされる)
CSPG*	DFHTPR	DFHBMS	3	BMS 端末ページング
CSPK	DFHPRK	DFHVTAMP	3	3270 画面出力サポートを提供
CSPP	DFHP3270	DFHHARDC	3	3270 出力サポートを提供
CSPQ	DFHTPQ	DFHBMS	1	端末ページ・クリーンアップ (BMS)
CSPS	DFHTPS	DFHBMS	3	BMS 端末ページングのスケジュール設定
CSQC	DFHLGQC	DFHLGQC	1	システム・ログ障害発生後の CICS 静止
CSRK	DFHRKB	DFHVTAMP	3	3270 画面出力を提供 - キーボードを解放
CSRS	DFHZRSP	DFHRSEND	3	3614 メッセージを同期
CSSF	DFHRTC	DFHISC	3	CRTE トランザクション・ルーティング・セッションを取り消し
CSSY	DFHAPATT	必要なし	1	エントリー・ポイント接続を提供。CSSY トランザクション名は、一部の CICS タスクによって使用されます。
CSTE	DFHTACP	DFHSTAND	1	端末異常条件を処理
CSTP	DFHZCSTP	必要なし	1	端末管理トランザクションを提供。CSTP トランザクション名は、一部の CICS タスクによって使用されます。
CSXM		必要なし	3	トランザクション環境を取得および解放するために CICS サービスによって使用されるトランザクション。CSXM トランザクション名は、一部の CICS タスクによって使用されます。
CSZI	DFHSZRMP	DFHFEPI	1	フロントエンド・プログラミング・インターフェース (FEPI)、FEPI がインストールされている場合のみアクティブ
CTIN	DFHZCT1	DFHCLNT	2 (INTERCOM)	CICS クライアント
CTSD	DFHTSDQ	必要なし	1	一時ストレージ削除リカバリー可能キュー
CVMI	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	CICS LU6.2 同期レベル 1 ミラー

表 13. IBM 提供の CICS トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CWBA	DFHWBA	DFHWEB	2 (WEBUSER)	CICS Web サポート別名トランザク ション
CWBG	DFHWBGB	DFHWEB	1	CICS Web サポート・クリーンアッ プ・トランザクション
CWDP	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CMCI CICS バンドル・デプロイメン ト API 用 Web サポート別名ラン ザクション
CWGQ	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CICS 管理クライアント・インターフ ェース GraphQL API 用の Web サポ ート別名トランザクション
<u>CWTO*</u>	DFHCWTO	DFHCONS	2 (OPERATOR)	コンソール・オペレーター宛メッセ ージ
CWWU	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CICS 管理クライアント・インターフ ェース用 Web サポート別名ラン ザクション
CWXN	DFHWBXN	DFHWEB	1	CICS Web サポート接続トランザク ション
CWXU	DFHWBXN	DFHWEB	1	CICS Web サポート USER プロトコ ル接続トランザクション
CW2A	DFHW2A	DFHWEB2	2 (WEBUSER)	Atom フィード別名トランザクシ ョン
CXCU	DFHCXCU	DFHSTAND	1	XRF トレースのキャッチアップを実 行
CXRE	DFHZXRE	DFHSTAND	1	XRF テークオーバー後に端末を再接 続
CXRT	DFHCRT	DFHISC	3	トランザクション・ルーティング・ リレーを提供
DSNC	DFHD2CM1	DFHDB2	2 (OPERATOR)	Db2 接続機能トランザクション

CICS サンプル・トランザクションのリスト

サンプル・トランザクションは、CICS に付属するさまざまなサンプル・プログラムで利用できます。

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
AADD	DFH\$AALL	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AADD	DFH\$AALL	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AADD		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
ABRW	DFH\$ABRW	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
ABRW	DFH\$ABRW	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
ACCT	ACCT00	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
ACEL	ACCT03	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
ACLG	ACCT03	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC01	ACCT01	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC02	ACCT02	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC03	ACCT03	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC05	ACCT03	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC06	ACCT03	DFH\$ACCT	2	CICS アプリケーション・プログラ ミング入門用のサンプル・アプリケ ーション・トランザクション
AC2A	DFH0VSAS	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ションのサンプル・トランザクシ ョン
AC2C	DFH0VHLP	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ションのサンプル・トランザクシ ョン
AC2D	DFH0VAB	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ションのサンプル・トランザクシ ョン
AC2E	DFH0VHP	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ションのサンプル・トランザクシ ョン
AC2F	DFH0VABT	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ションのサンプル・トランザクシ ョン

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
AC20	DFHOVT1	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC21	DFHOVOL	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC22	DFHOVOPN	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC23	DFHOVLST	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC24	DFHOVNEW	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC25	DFHOVBRW	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC26	DFHOVUPD	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC27	DFHOVDEL	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
AC28	DFHOVPRT	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケーションのサンプル・トランザクシ ョン
ADDS	DFHOCALL	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
ADYN	DFH99	DFH\$UTIL	2	一時データ・ユーティリティー 動的 割り振り
AINQ	DFH\$AALL	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AINQ	DFH\$AALL	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AINQ		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AMNU	DFH\$AMNU	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
AMNU	DFH\$AMNU	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
AMNU		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORD	DFH\$AREN	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORD	DFH\$AREN	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORD		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORQ	DFH\$ACOM	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORQ	DFH\$ACOM	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AORQ		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AREP	DFH\$AREP	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AREP	DFH\$AREP	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AREP		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
ASMC	DFH\$DLAC	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
ASME	DFH\$DLAE	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
AUPD	DFH\$AALL	DFH\$AFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AUPD	DFH\$AALL	DFHMROFA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
AUPD		DFHMROFT	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
BRWS	DFHOCBRW	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
COBC	DFH0DLCC	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
COBE	DFH0DLCE	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
CW2Q	DFHOW2TQ	DFH\$WEB2	2	Web 2.0 シナリオのサンプル・トラ ンザクション
DADD	DFH\$DALL	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
DBRW	DFH\$DBRW	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザク ション
DELQ	DFH\$VDQ	DFH\$CTXT	2	CUA テキスト・モデル・アプリケー ション・トランザクション
DINQ	DFH\$DALL	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
DMNU	DFH\$DMNU	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
DORD	DFH\$DREN	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
DORQ	DFH\$DCOM	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
DREP	DFH\$DREP	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
DUPD	DFH\$DALL	DFH\$DFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
EPAT	DFH\$EPAC	DFH\$EPAG	2	サンプル・カスタム・イベント処理 アダプター・トランザクション
EXCI	DFH\$MIRS	DFH\$EXCI	2	EXCI バッチ呼び出しインターフェ ースのサンプル・トランザクション
HPJC	DFH\$MIRS	DFH\$EXCI	2	EXCI バッチ呼び出しインターフェ ースのサンプル・トランザクション
ICIC	DFH\$ICIC	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
IFBL	DFH\$IFBL	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
IFBR	DFH\$IFBR	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
IIHE		DFH\$IIOP	2	IIOP サンプル・アプリケーション・ トランザクション
IMSN	DFH\$IMSN	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
IMSO	DFH\$IMSO	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
INQY	DFH\$OCALL	DFH\$CFLA	2	FILA IVP サンプル・トランザクシ ョン
IQRD	DFH\$IQRD	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション
IQRL	DFH\$IQRL	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・ト ランザクション

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
IQRR	DFH\$IQRR	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・トランザクション
IQXL	DFH\$IQXL	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・トランザクション
IQXR	DFH\$IQXR	DFH\$ICOM	2	システム間連絡 (ISC) サンプル・トランザクション
JHE1	DFH\$JSAM	DFH\$OSGI	2	Java サンプル・アプリケーション・トランザクション
JHE2	DFH\$JSAM	DFH\$OSGI	2	Java サンプル・アプリケーション・トランザクション
JPC1	DFH\$JSAM	DFH\$OSGI	2	Java サンプル・アプリケーション・トランザクション
JPC2	DFH\$JSAM	DFH\$OSGI	2	Java サンプル・アプリケーション・トランザクション
JTD1	DFH\$JSAM	DFH\$OSGI	2	Java サンプル・アプリケーション・トランザクション
MENU	DFH0CMNU	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
OREN	DFH0CREN	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
OREQ	DFH0COMM	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PADD	DFH\$PALL	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PBRW	DFH\$PBRW	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PINQ	DFH\$PALL	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PLIC	DFH\$DLPC	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
PLIE	DFH\$DLPE	DFH\$DLIV	2	IMS IVP サンプル・トランザクシ ョン
PMNU	DFH\$PMNU	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PORD	DFH\$PREN	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PORQ	DFH\$PCOM	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PPKO	DFH\$PPKO	DFH\$BMSP	2	BMS パーティション・サポートのサ ンプル・アプリケーション・トラン ザクション

表 14. CICS サンプル・プログラムで利用できるサンプル・トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
PPLA	DFH\$PPLA	DFH\$BMSP	2	BMS パーティション・サポートのサ ンプル・アプリケーション・トラン ザクション
PREP	DFH\$PREP	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
PUDP	DFH\$PALL	DFH\$PFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
REPT	DFH0CREP	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
TDWT	DFH\$TDWT	DFH\$UTIL	2	一時データ・ユーティリティー 動的 割り振りのサンプル・トランザクシ ョン
UPDT	DFH0CALL	DFH\$CFLA	2	FILEA IVP サンプル・トランザクシ ョン
WBCA_2	DFH\$WBCA	DFH\$WEB	2	クライアント・チャンク化サンプル (アセンブラー)
WBCC_2	DFH\$WBCC	DFH\$WEB	2	クライアント・チャンク化サンプル (C)
WBCO_2	DFH0WBCO	DFH\$WEB	2	クライアント・チャンク化サンプル (COBOL)
WBPA_2	DFH\$WBPA	DFH\$WEB	2	パイプライン処理サンプル (アセン ブラー)
WBPC_2	DFH\$WBPC	DFH\$WEB	2	パイプライン処理サンプル (C)
WBPO_2	DFH0WBPO	DFH\$WEB	2	パイプライン処理サンプル (COBOL)
XPKO	DFH0CPKO	DFH\$BMSP	2	BMS パーティション・サポートのサ ンプル・アプリケーション・トラン ザクション
XPLA	DFH0CPLA	DFH\$BMSP	2	BMS パーティション・サポートのサ ンプル・アプリケーション・トラン ザクション

カテゴリ 1 CICS トランザクション

カテゴリ 1 のトランザクションは、CICS の内部でのみ使用され、ユーザー端末からは開始できません。

表 15. カテゴリ 1 トランザクション

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
CATA	DFHZATA	DFHSPI	1	自動端末の自動インストールを定 義
CATD	DFHZATD	DFHSPI	1	自動インストール端末を削除

表 15. カテゴリー 1 トランザクション (続き)

トランザクショ ン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
CDBD	DFHDBDI	DFHDBCTL	1	DBCTL 使用不可化機能
CDBE	DFHD2CM3	DFHDB2	1	CICS Db2 接続機能強制シャットダ ウン・トランザクション
CDBO	DFHDBCT	DFHDBCTL	1	DBCTL 制御機能
CDBP	DFHD2CM2	DFHDB2	1	CICS Db2 接続機能シャットダウン 静止トランザクション
CDTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート単一削除トランザクショ ンを提供
CEPD	DFHEPDS	必要なし	1	イベント処理ディスパッチャー
CEPF	DFHECDF	必要なし	1	イベント処理据え置きフィルター・ タスク
CEPM	DFHEPSY	必要なし	1	イベント処理キュー・マネージャー
CESC*	DFHCESC	DFHSIGN	1	アイドル端末のタイムアウトとサ インオフを処理
CEX2	DFHD2EX2	DFHDB2	1	CICS Db2 保護スレッド・ページ・ メカニズムおよびその他の CICS Db2 サービス
CFCL	DFHFCDL	必要なし	1	CFDT ロード
CFCR	DFHFCRN	DFHFCRL	1	CICS バンドル内のファイルを使用 不可にする
CFCT	DFHFCLJ1	必要なし	1	指定された間隔でレプリカ生成ロ グにファイルのタイアップ・レコー ドを提供する
CFOR	DFHFCQT	必要なし	1	RLS オフサイト・リカバリー
CFQR	DFHFCQT	必要なし	1	RLS 静止受信
CFQS	DFHFCQT	必要なし	1	RLS 静止送信
CFTL	DFHDTLX	必要なし	1	共用 DT ロード
CFTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート一括フラグ・トランザクシ ョンを提供
CGRP	DFHZCGRP	必要なし	1	z/OS Communications Server 持続 セッションを提供します。CGRP トランザクション名は、一部の CICS タスクによって使用されま す。
CHCK	DFHHCHK	必要なし	1	ヘルス・チェッカー長期実行システ ム・タスク
CIS4	DFHCIS4	DFHISCIP	1	IPIC 外部セキュリティー・インター フェース (ESI) トランザクション
CISB	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のサーバー側で IPIC が IPCONN を解放する (BIS 処理)

表 15. カテゴリー 1 トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
CISC	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のクライアント側で IPIC が IPCONN を獲得する
CISD	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のクライアント側で IPIC が IPCONN を解放する
CISE	DFHISEMP	DFHISCIP	1	IPIC エラーおよびメッセージ・プログラム
CISM	DFHISRSP	DFHISCIP	1	IPIC リモート・スケジューラー
CISP	DFHISPHP	DFHISCIP	1	IPIC 接続ハートビート制御トランザクション
CISQ	DFHISLQP	DFHISCIP	1	IPIC ローカル・キュー処理
CISR	DFHISRRP	DFHISCIP	1	IPIC 要求/応答受信側
CISS	DFHISCOP	DFHISCIP	1	接続のサーバー側で IPIC が IPCONN を獲得する
CIST	DFHISCOP	DFHISCIP	1	IPIC が IPCONN を終了する
CISU	DFHISREU	DFHISCIP	1	IPIC リカバリー・トランザクション
CISX	DFHISREX	DFHISCIP	1	XA クライアント用の IPCONN リカバリーおよび再同期トランザクション
CIS1	DFHISPRP	DFHISCIP	1	IPIC 接続ハートビート・リクエスト・トランザクション
CITS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート自動インストール・トランザクションを提供
CJLR	DFHSJTHP	必要なし	1	Liberty リカバリー・トランザクション
CJSL	DFHSJL	必要なし	1	JVM サーバー・リスナー (CICS によって自動インストールされる)
CJSP	DFHSJTHP	必要なし	1	JVM サーバーの Liberty プログラム管理
CJSR	DFHSJITL	DFHJAVA	1	CICS JVM サーバー解決トランザクション
CJTR	DFHOTR	DFHOTS	1	Object Transaction Services (OTS) 再同期トランザクション
CMPE	DFHMPDE	必要なし	1	ポリシー据え置きルール評価
CMTS	DFHZATS	DFHSPI	1	リモート一括削除トランザクション
CNJL	DFHSJNS	必要なし	1	Node.js 関連の通知を listen する
COHT	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM TRAN モード履歴受信側タスク

表 15. カテゴリー 1 トランザクション (続き)

トランザクショ ン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
COIE	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM TRAN モード・メソッド受信側タスク
COIR	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM RTA EVALDEF タスク
COIO	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM ESSS 受信タスク
CONA	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM MAS エージェント代替長期実行タスク
COND	EYU9NPS2	必要なし	1	CICSplex SM MAS シャットダウン・トランザクション
CONH	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM MAS 履歴タスク
CONL	EYU9XLEV	必要なし	1	CICSplex SM MAS エージェント長期実行タスク
CONM	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM MAS モニター・タスク
COVR	DFHZCOVR	必要なし	1	オープン z/OS Communications Server 再試行トランザクションを提供
COWC	EYU9XLOP	必要なし	1	CICSplex SM WLM ガーベッジ・コレクション・タスク
CPCT	DFHZPCT	DFHPSSGN	1	持続セッション・サインオン保存のためにサインオン済み端末をカタログ
CPIR	DFHPIITL	DFHSTAND	1	パイプライン解決トランザクション
CPIS	DFHPIR	DFHPIPE	1	再同期が必要なときに接続される WS-AT トランザクション
CPLT	DFHSIPLT	必要なし	1	PLT 処理を初期化
CRLR	DFHRLR	DFHRL	1	バンドル・リソース解決トランザクション
CRMD	DFHZATMD	DFHSPI	1	リモート一括削除トランザクションを提供
CRMF	DFHZATMF	DFHSPI	1	リモート一括フラグ・トランザクションを提供
CRSQ	DFHCRQ	DFHISC	1	リモート・スケジュール・ページ (ISC)
CRST	DFHRSTK	必要なし	1	領域状況長期実行タスク
CRSY	DFHRMSY	DFHRMI	1	リソース・マネージャー再同期
CRTP	DFHZRTP	DFHPSSGN	1	持続セッション再始動タイマー・トランザクション
CSFR	DFHFCRD	必要なし	1	RLS クリーンアップ

表 15. カテゴリー 1 トランザクション (続き)

トランザクショ ン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
CSFU	DFHFCU	DFHOPCLS	1	ファイル・オープン・ユーティリテ ィー
CSHA		必要なし	1	スケジューラー・サービス (CICS に よって自動インストールされる)
CSHQ	DFHSHSY	必要なし	1	スケジューラー・サービス・ドメイ ン長期実行タスク
CSKP	DFHRMXN3	必要なし	1	システム・ログ・アクティビティ ー・キーポイントの書き込み
CSNC	DFHCRNP	DFHISC	1	領域間制御プログラム (MRO)
CSNE	DFHZNAC	DFHVTAM	1	z/OS Communications Server (以前 の呼称は VTAM) ノードのエラー・ リカバリーを提供
CSOL	DFHSOL	必要なし	1	TCP/IP リスナー (CICS によって自 動インストールされる)
CSPQ	DFHTPQ	DFHBMS	1	端末ページ・クリーンアップ (BMS)
CSQC	DFHLGQC	DFHLGQC	1	システム・ログ障害発生後の CICS 静止
CSSY	DFHAPATT	必要なし	1	エントリー・ポイント接続を提供。 CSSY トランザクション名は、一部 の CICS タスクによって使用されま す。
CSTE	DFHTACP	DFHSTAND	1	端末異常条件を処理
CSTP	DFHZCSTP	必要なし	1	端末管理トランザクションを提供。 CSTP トランザクション名は、一部 の CICS タスクによって使用されま す。
CSZI	DFHSZRMP	DFHFEPI	1	フロントエンド・プログラミング・ インターフェース (FEPI)、FEPI が インストールされている場合のみ アクティブ
CTSD	DFHTSDQ	必要なし	1	一時ストレージ削除リカバリー可 能キュー
CWBG	DFHWEBGB	DFHWEB	1	CICS Web サポート・クリーンアップ・トランザクション
CWXN	DFHWEBXN	DFHWEB	1	CICS Web サポート接続トランザク ション
CWXU	DFHWEBXN	DFHWEB	1	CICS Web サポート USER プロトコ ル接続トランザクション
CXCU	DFHCXCU	DFHSTAND	1	XRF トレースのキャッチアップを実 行

表 15. カテゴリー 1 トランザクション (続き)

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
CXRE	DFHZXRE	DFHSTAND	1	XRF テークオーバー後に端末を再 接続

カテゴリー 2 CICS トランザクション

カテゴリー 2 のトランザクションは、CICS ユーザーによって開始されるか、CICS ユーザーに関連付けら
れます。サブカテゴリーの説明については、[Security for CICS-supplied transactions](#) を参照してください。

表 16. カテゴリー 2 トランザクション

トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリー (サブカテ ゴリー)	説明
CADP*	DFHDPLU	DFHDP	2 (DEVELOPER)	アプリケーション・デバッグ・プロ ファイル・マネージャー
CBAM*	DFHECBAM	DFHOPER	2 (OPERATOR)	BTS オブジェクト・ブラウザー
CCRL*	DFHSOCRL	DFHOPER	2 (SYSADM)	CICS 証明書失効リスト・トランザク ション
CDBC*	DFHDBME	DFHDBCTL	2 (SYSADM、DBCTL)	DBCTL インターフェース・メニュ ー・トランザクション
CDBI*	DFHDBIQ	DFHDBCTL	2 (INQUIRE、DBCTL)	DBCTL インターフェース 照会トラ ンザクション
CDBF	DFHD2CM3	DFHDB2	2	CICS Db2 接続機能強制シャットダ ウン・トランザクション
CDBM*	DFHDBMP	DFHDBCTL	2 (DBCTL)	DBCTL オペレーター・トランザクシ ョン
CDBQ	DFHD2CM2	DFHDB2	2	CICS Db2 接続機能シャットダウン 静止トランザクション
CDBT	DFHDBDSC	DFHDBCTL	2 (DBCTL)	DBCTL インターフェース 切断トラ ンザクション
CDFS	DFHDFST	DFHISC	2 (INTERCOM)	間隔を指定した動的開始
CEBR*	DFHEDFBR	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	一時ストレージの参照
CECI*	DFHECIP	DFHINTER	2 (DEVELOPER)	コマンド・レベル・インタープリタ ー
CECS	DFHECSP	DFHINTER	2 (DEVELOPER)	コマンド・レベル・インタープリタ ー
CEDA*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (SYSADM)	オンライン・リソース定義 - 完全 (RDO)
CEDB*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (DEVELOPER)	オンライン・リソース定義 - 制限付 き (RDO)
CEDC*	DFHEDAP	DFHSPI	2 (INQUIRE)	オンライン・リソース定義を表示 (RDO)
CEDF*	DFHEDFP	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	実行診断機能

表 16. カテゴリー 2 トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CEDX*	DFHEDFP	DFHEDF	2 (DEVELOPER)	非端末タスク用の実行診断機能
CEHP	DFHCHS	DFHISC	2 (INTERCOM)	LU タイプ 2 ミラー・トランザクシ ョン (サポートされない)
CEHS	DFHCHS	DFHISC	2 (INTERCOM)	LU タイプ 2 ミラー・トランザクシ ョン (サポートされない)
CEMN*	DFHCEMNA	DFHOPER	2 (SYSADM)	CICS モニター機能トランザクシ ョン
CEMT*	DFHEMTP	DFHOPER	2 (SYSADM)	マスター端末
CEOT*	DFHEOTP	DFHOPER	2 (OPERATOR)	端末状況
CEPH	DFHECEAH	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の HTTP EP アダプ ター
CEPQ	DFHECEAM	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の WebSphere MQ EP アダプター
CEPR	DFHECEAQ	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の TDQ EP アダプタ ー
CEPS	DFHECEAS	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用のトランザクション 開始アダプター
CEPT	DFHECEAT	DFHEP	2 (EVENTUSER)	イベント処理用の TSQ EP アダプタ ー
CESD	DFHCESD	DFHSDAP	2 (SYSADM)	シャットダウン支援
CEST*	DFHESTP	DFHOPER	2 (OPERATOR)	監視端末
CETR*	DFHCETRA	DFHOPER	2 (SYSADM)	トレース・オプションの照会および 設定
CHLP	DFHCMAC	DFHCMAC	2 (ALLUSERS)	CMAC の別名
CIDP*	DFHDPIN	DFHDP	2 (OPERATOR)	デバッグ・プロファイル・ユーティ リティーの非活動化
CIND*	DFHINDT	DFHINDT	2 (SYSADM)	CICS 未確定テスト・ツール
CJSA	DFHSJTHP	DFHJAVA	2 (JVMUSER)	JVM サーバー要求プロセッサー・ト ランザクション
CJSU	DFHSJTHP	DFHJAVA	2 (JVMUSER)	JVM サーバーの未分類要求プロセ ッサー・トランザクション
CJXA			2 (DEVELOPER)	JVM サーバーの JCICSX 要求プロセ ッサー・トランザクション
CKAM	DFHMQMON	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター・アラート・モ ニター
CKBC	DFHMQBP3	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	チャネルおよびコンテナ DPL ブ リッジ用の CICS-MQ ブリッジ・プ ログラム・リンク・トランザクシ ョン

表 16. カテゴリー 2 トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリティー・カ テゴリ (サブカテ ゴリー)	説明
CKBM	DFHMQBAS	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 基本パネル・ト ランザクション
CKBP	DFHMQBPO	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	CICS-MQ ブリッジ DPL ブリッジ・ タスク (COMMAREA)
CKBR	DFHMQBRO	DFHMQ	2 (MQBRIDGE)	CICS-MQ ブリッジ・モニター・タス ク
CKCN	DFHMQQCN	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 接続開始トラ ンザクション
CKDL	DFHMQDSL	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター、状況表示トラ ンザクション
CKDP	DFHMQDIS	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター、表示トランザ クション
<u>CKQC*</u>	DFHMQCTL	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 制御トランザ クション
CKRS	DFHMQRS	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 変更トランザ クション
CKRT	DFHMQRET	DFHMQ	2 (MQSTATUS)	CICS-MQ アダプター 画面リター ン・トランザクション
CKSD	DFHMQDSC	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター 接続停止トラ ンザクション
CKSQ	DFHMQSSQ	DFHMQ	2 (MQADMIN)	CICS-MQ アダプター CKTI 開始/停 止トランザクション
CKTI	DFHMQTSK	DFHMQ	2 (MQMONITOR)	CICS-MQ アダプター - タスク・イニ シエーター・トランザクション
<u>CLDM*</u>	DFHLDMAP	DFHOPER	2 (INQUIRE)	CICS ロード・モジュール・マップ
CMAC	DFHCMAC	DFHCMAC	2 (ALLUSER)	メッセージ・ユーティリティー
<u>CMSG*</u>	DFHMSP	DFHMSWIT	2 (OPERATOR)	メッセージ交換
CNJW	DFHSJNW	DFHNODEJ	2 (PIPEUSER)	CICS パイプライン Node.js インバ ウンド・ルーター
<u>CPIA*</u>	DFHPITE	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	端末から CPIS を起動
CPIH	DFHPIDSH	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	CICS パイプライン HTTP インバウ ンド・ルーター
CPIL	DFHPILSQ	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	SOAP WebSphere MQ インバウン ド・リスナー
CPIQ	DFHPIDSQ	DFHPIPE	2 (PIPEUSER)	SOAP WebSphere MQ インバウン ド・ルーター
CPMI	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	CICS LU 6.2 同期レベル 1 ミラー
CRPA	DFHRPAS	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC 別名トランザクション
CRPC	DFHRPC00	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC 更新トランザクション

表 16. カテゴリー 2 トランザクション (続き)				
トランザクション	プログラム	CSD グループ	セキュリティ・カテゴリー (サブカテゴリー)	説明
CRPM	DFHRPMS	DFHRPC	2 (RPCUSER)	ONC/RPC サーバー・コントローラー
CRTE*	DFHRTE	DFHISC	2 (OPERATOR)	トランザクション・ルーティング
CRTX		DFHISC	2 (ALLUSER)	動的トランザクション・ルーティングのトランザクション定義
CSFE*	DFHFEP	DFHFE	2 (OPERATOR)	端末テスト、トレース、ストレージ
CSGM	DFHGMM	DFHVTAM	2 (ALLUSER)	「Good-morning」サインオン
CSHR	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	スケジューラー・サービス・リモート・ルーティング
CSM1	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	SYSMSG モデル
CSM2	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	スケジューラー・モデル
CSM3	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	キュー・モデル
CSM5	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	DL/I モデル
CSMI	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	ミラー・トランザクション
CTIN	DFHZCT1	DFHCLNT	2 (INTERCOM)	CICS クライアント
CVM1	DFHMIRS	DFHISC	2 (INTERCOM)	CICS LU6.2 同期レベル 1 ミラー
CWBA	DFHWBA	DFHWEB	2 (WEBUSER)	CICS Web サポート別名トランザクション
CWGQ	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CICS 管理クライアント・インターフェース GraphQL API 用の Web サポート別名トランザクション
CWDP	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CMCI CICS バンドル・デプロイメント API 用 Web サポート別名トランザクション
CWTO*	DFHCWTO	DFHCONS	2 (OPERATOR)	コンソール・オペレーター宛メッセージ
CWWU	DFHWBA	DFHWU	2 (CMCIUSER)	CICS 管理クライアント・インターフェース用 Web サポート別名トランザクション
CW2A	DFHW2A	DFHWEB2	2 (WEBUSER)	Atom フィード別名トランザクション
DSNC	DFHD2CM1	DFHDB2	2 (OPERATOR)	Db2 接続機能トランザクション

カテゴリー 3 CICS トランザクション

カテゴリー 3 のトランザクションは、サインオンしているかどうかにかかわらず、すべてのユーザーが使用できるトランザクションです。これらのトランザクションは、セキュリティ検査の対象にはなりません。

表 17. カテゴリー 3 トランザクション

トランザクショ ン	プログラム	CSD グループ	セキュリテ ィー・カテ ゴリー	説明
CATR	DFHZATR	DFHSPI	3	自動インストール再始動端末を削除
CCIN	DFHZCN1	DFHCLNT	3	CICS クライアント
CDBN	DFHDBCON	DFHDBCTL	3	DBCTL インターフェース 接続トランザクション
CEGN	DFHCEGN	DFHSIGN	3	good night トランザクションのスケジュール設定
CEKL*		必要なし	3	緊急用のマスター端末トランザクション。このトランザクションは、CICS 領域に対して MODIFY コマンドを発行する権限があるオペレーティング・システム・コンソールでのみ使用できます。
CESF*	DFHSFP	DFHSIGN	3	端末ユーザーのサインオフ
CESL*	DFHSCP	DFHSIGN	3	パスワードまたはパスワード・フレーズを使用して端末ユーザーをサインオン
CESN*	DFHSCP	DFHSIGN	3	パスワードを使用して端末ユーザーをサインオン
CIEP	DFHIEP	DFHIPECI	3	TCP/IP リスナー用の ECI
CLQ2	DFHLUP	DFHISCT	3	APPC および MRO のアウトバウンド再同期
CLR1	DFHZLS1	DFHISCT	3	APPC および MRO 用のインバウンド CNOS
CLR2	DFHLUP	DFHISCT	3	MRO のインバウンド再同期
CLS1	DFHZLS1	DFHISC	3	Provides ISC LU サービス・モデルを提供
CLS2	DFHLUP	DFHISC	3	Provides ISC LU サービス・モデルを提供
CLS3	DFHCLS3	DFHISC	3	ISC LU サービス・モデル
CLS4	DFHCLS4	DFHISC	3	パスワードの有効期限を管理
CMPX	DFHMPX	DFHISC	3	ISC ローカル・キューイングのシップ
CPSS	DFHZSGN	DFHPSSGN	3	持続セッション・サインオン
CQPI	DFHCLS5	DFHISC/ DFHISCQ	3	接続静止。体系化トランザクション (インバウンド)。
CQPO	DFHCLS5	DFHISC/ DFHISCQ	3	接続静止。体系化トランザクション (アウトバウンド)。
CQRY	DFHQRY	DFHSTAND	3	ATI 照会サポートを提供

表 17. カテゴリー 3 トランザクション (続き)				
トランザクシ ョン	プログラム	CSD グループ	セキュリ ティー・カテ ゴリー	説明
CRSR	DFHCRS	DFHISC	3	ISC リモート・スケジューラーを提 供
CSAC	DFHACP	DFHSTAND	3	プログラム異常条件を提供
CSCY	DFHCPY	DFHVTAMP	3	3270 画面出力を提供
CSPG*	DFHTPR	DFHBMS	3	BMS 端末ページング
CSPK	DFHPRK	DFHVTAMP	3	3270 画面出力サポートを提供
CSPP	DFHP3270	DFHHARDC	3	3270 出力サポートを提供
CSPS	DFHTPS	DFHBMS	3	BMS 端末ページングのスケジュー ル設定
CSRK	DFHRKB	DFHVTAMP	3	3270 画面出力を提供 - キーボード を解放
CSRS	DFHZRSP	DFHRSEND	3	3614 メッセージを同期
CSSF	DFHRTC	DFHISC	3	CRTE トランザクション・ルーティ ング・セッションを取り消し
CSXM		必要なし	3	トランザクション環境を取得およ び解放するために CICS サービスに よって使用されるトランザクショ ン。CSXM トランザクション名は、 一部の CICS タスクによって使用さ れます。
CXRT	DFHCRT	DFHISC	3	トランザクション・ルーティング・ リレーを提供

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができません。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス涉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119 Armonk,

NY 10504-1785

United States of America

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関す

る実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

CICS には、プログラミング・インターフェースと見なすことのできる資料と、プログラミング・インターフェースと見なすことのできない資料があります。

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが含まれています。

- [アプリケーションの開発](#)
- [システム・プログラムの開発](#)
- [CICS TS セキュリティー](#)
- [外部インターフェースに向けた開発](#)
- [アプリケーション開発のリファレンス](#)
- [リファレンス: システム・プログラミング](#)
- [リファレンス: 接続](#)

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が含まれています。

- [トラブルシューティングおよびサポート](#)
- [CICS TS 診断参照](#)

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが以下のマニュアルに含まれています。

- [アプリケーション・プログラミング・ガイドおよびアプリケーション・プログラミング・リファレンス](#)
- [Business Transaction Services](#)
- [Customization Guide](#)
- [C++ OO Class Libraries](#)
- [Debugging Tools Interfaces Reference](#)
- [Distributed Transaction Programming Guide](#)
- [External Interfaces Guide](#)
- [Front End Programming Interface Guide](#)

- IMS Database Control Guide
- インストール・ガイド
- セキュリティー・ガイド
- Supplied Transactions
- CICSplex SM Managing Workloads
- CICSplex SM Managing Resource Usage
- CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・ガイドおよび CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・リファレンス
- CICS における Java アプリケーション

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が以下のマニュアルに含まれています。

- Data Areas
- Diagnosis Reference
- Problem Determination Guide
- CICSplex SM Problem Determination Guide

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用範囲

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商用使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM これらの資料の内容 についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (ソフトウェア・オファリング) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (メイン・インターフェース) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (データ・インターフェース) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名またはその他の個人情報を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (「Hello World」ページ) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、個人情報を収集しないセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICS Explorer の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの設定および持続的な設定を使用して収集する場合があります。これらの設定を無効にすることはできませんが、ユーザー・パスワードの暗号化形式でのディスクへの保管は、サインオン中にチェック・ボックスにチェック・マークを付けることによるユーザーの明示的な操作によってのみ有効化することができます。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビー

コン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス方式制御ブロック (ACB) [316](#), [435](#)
値

16 進数 [56](#)

宛先、複数 [475](#)

アプリケーション・プログラムからの CEMT の呼び出し [56](#)

一時記憶域ブラウズ・トランザクション、CEBR [17](#)

インターフェース、マスター端末へのプログラマブル [56](#)

オペレーター・インターフェースによるトランザクション

CBAM [1](#)

CDBC [5](#)

CDBI [9](#)

CDBM [11](#)

CEMN [49](#)

CESF [445](#)

CETR [455](#)

CIDP [461](#)

CLER [471](#)

CMAC [473](#)

オンライン・リソース定義トランザクション、CEDA [31](#)

[カ行]

獲得、z/OS Communications Server 端末の [400](#), [427](#)

画面中のブランク・フィールド [55](#)

画面の上書き [54](#)

画面のスクロール [55](#)

監視端末オペレーター (supervisory terminal operator)

トランザクション CEST [453](#)

キー、タブ [55](#)

キーワードの省略形

CEMT トランザクション [53](#)

疑似表示フィールド [54](#)

基本マッピング・サポート (BMS)

ページ検索 [505](#)

ページング・コマンド [505](#)

論理メッセージ [508](#)

キュー、CEMT 要求 [257](#), [408](#), [420](#)

区分画面 [507](#)

クラス・タスク、CEMT 要求 [247](#), [419](#)

グループ ID [451](#)

コード、表示 [473](#)

互換性、CSD、CICS リリース間 [35](#)

固定形式端末 [445](#)

コマンド

ページング [505](#)

CEBT INQ|SET [19](#)

CEBT PERFORM [27](#)

CEMT DISCARD [65](#)

CEMT INQUIRE [70](#)

CEMT PERFORM [328](#)

CEMT SET [339](#)

コマンド構文チェッカー (CECS) [29](#)

コンソール・オペレーター宛メッセージ (CWTO) [513](#)

コンポーネント・トレース (component tracing)

特殊トレース・レベルの設定 [458](#)

標準トレース・レベルの設定 [458](#)

コンポーネント・トレースのオプション [455](#)

[サ行]

サインオフ、CESF

固定形式端末 [445](#)

サインオン、CESN

非 3270 画面 [450](#)

作業単位再同期トランザクション (CPIA) [497](#)

サブグループ定義

リソース・グループ [54](#)

サブシステム・メッセージ交換 [478](#)

時刻のリセット [332](#)

システム・スプーリング・インターフェース・トレース [500](#)

実行診断機能 (EDF) [37](#)

シッパされた端末定義

削除

CEMT INQUIRE DELETSHPED [112](#)

CEMT PERFORM DELETSHPED コマンド [328](#)

CEMT SET DELETSHPED コマンド [363](#)

自動トランザクション開始 (ATI) [263](#)

自動ページング端末 [512](#)

シャットダウン、CICS

CEBT [27](#)

CEMT [332](#)

順次端末 [478](#)

情報表示システム [478](#)

証明書、リフレッシュ [334](#)

証明書取り消しリスト・トランザクション (CCRL) [3](#)

ストレージ・サブプール [501](#)

スプーリング・インターフェース・トレース [500](#)

正符号、CEMT でのスクロール [55](#)

セキュリティー検査 [36](#), [57](#)

総称名 [53](#)

送付されたページ [512](#)

送付されたページの表示 [512](#)

[タ行]

タスク

CEKL INQUIRE TASK [44](#)

CEKL INQUIRE 要求 [43](#)

CEKL SET TASK [47](#)

CEKL SET 要求 [46](#)

CEMT INQUIRE 要求 [241](#)

CEMT SET 要求 [418](#)

単一キー・ストローク検索 (SKR) [507](#)

端末

固定形式 [445](#)

自動ページング [512](#)

順次 [478](#)

テスト [499](#)

ページング [505](#)

端末 (続き)

- メッセージ交換トランザクション [478](#)
- 3270 ディスプレイ [478](#)
- 3767 キーボード/プリンター [478](#)
- CEMT INQUIRE 要求 [265](#)
- CEMT SET 要求 [423](#), [425](#)
- status [441](#)

端末オペレーター

- コンソール・オペレーター宛メッセージ (CWTO) [513](#)
- ページング [505](#)

端末およびシステムのテスト・トランザクション、CSFE [499](#)

端末のテスト [499](#)

端末ビルダー・トレース [500](#)

定位置フィールド [54](#)

データ・セット

- CEMT SET 要求 [375](#)
- CEMT 要求 [149](#)

データベース制御 (DBCTL)

- 接続 [5](#)
- 切断 [5](#)

データベース制御インターフェース・トランザクション (CDBM) [11](#)

データベース制御照会トランザクション (CDBI) [9](#)

データベース制御メニュー・トランザクション (CDBC) [5](#)

トランザクション

- オペレーター・インターフェースによるトランザクシ

- ン [517](#)
- すべて (リスト) [517](#)

- CBAM [1](#)

- CCRL [3](#)

- CEBT [19](#)

- CECS [29](#)

- CEDA [31](#)

- CEDB [31](#)

- CEDC [31](#)

- CEDF [37](#)

- CEKL [43](#)

- CEMT [51](#)

- CEOT [441](#)

- CESL [447](#)

- CESN [449](#)

- CEST [453](#)

- CMSG [475](#)

- CPIA [497](#)

- CSFE [499](#)

- CSGM [503](#)

- CSPG [505](#)

- CWTO [513](#)

- DSNC [515](#)

トランザクション ID [517](#)

トランザクション、BTS ブラウザー [1](#)

トランザクション、トレース制御 [455](#)

トランザクション、未確定テスト・ツール [463](#)

トランザクション、モニター機能 [49](#)

トランザクション、ロード・モジュール・マップ [469](#)

トランザクションの取り消し [477-479](#), [513](#)

トレース

制御

- 特殊トレース・レベル [458](#)

- 標準トレース・レベル [458](#)

トレース制御トランザクション [455](#)

トレース・プログラム出口ルーチン [501](#)

[ナ行]

ネットワーク

- CEMT INQUIRE トランザクション [197](#)

- CEMT SET トランザクション [399](#)

[ハ行]

ハードコピー端末 [512](#)

パスワード・フレーズ

- および CESN トランザクション [452](#)

汎用リソース ID [53](#)

日付のリセット [332](#)

表示トランザクション [473](#)

ファンクション・キー [52](#)

複数の宛先、メッセージ交換 [475](#)

ブリッジ機能

- CEMT INQUIRE 要求 [79](#)

- CEMT SET 要求 [343](#)

プログラマブル・インターフェース、マスター端末への [56](#)

プロファイル、再作成 [332](#)

ページ検索

- および区分画面 [507](#)

- セッション [505](#)

- 単一キー・ストローク [507](#)

- トランザクション、CSPG [505](#)

- 論理装置 [507](#)

ページの検索 [505](#)

ページのコピー

- CSPG [511](#)

ページング・コマンド [505](#)

保管された状況、メッセージ交換 [477](#)

補助トレース

- CEBT [19](#)

- CEBT SET [23](#)

- CEMT [77](#)

- CEMT SET [342](#)

[マ行]

マスター端末機能オペレーター

- トランザクション、CEBT [19](#)

- トランザクション、CEKL [43](#)

- トランザクション、CEMT [51](#)

マスター端末へのプログラマブル・インターフェース [56](#)

メッセージ

- 終了 [510](#)

- 送信 [475](#), [477](#)

- チェーニング [508](#)

- 取り消し [476](#)

- 表示 [508](#)

- ALL ROUTE ENTRIES DELETED [488](#)

- CANCELED - TEMP STRG ERR N [488](#)

- CLEAR/CANCL または CONT INPUT/ROUTE/MSG [488](#)

- CONTINUE INPUT [488](#)

- CONTINUE INPUT OR MSG [488](#)

- CONTINUE MSG [488](#)

- CONTINUE ROUTE OPERAND [488](#)

- DATE ALREADY PASSED [488](#)

- DATE INVALID AT xxxxxxxx [488](#)

- DATE NOT xx/xx AT xxxxx [488](#)

- DATE TOO FAR IN FUTURE [488](#)

- ERRTERM INVALID AT xxxxx [488](#)

メッセージ (続き)

ERRTERM INVLD/UNSUPP xxxx [488](#)
HEADNG NOT YES/NO AT xxxx [488](#)
ID OPERAND GT 62 CHARS [488](#)
ID PARAM MISSING OR NO) [488](#)
INVALID LDC AT xxxxxxxx [488](#)
INVALID OPND AT xxxxx [488](#)
INVALID TBL SFX AT xxxxx [488](#)
INVLD OPERATR ID AT xxxxx [488](#)
INVLD SEPARATOR AT xxxxx [488](#)
INVLD TERMINL ID xxxx [488](#)
IO OPERAND GT 62 CHARS [488](#)
LDC NOT 2 CHARS AT xxxxx [488](#)
MESSAGE HAS BEEN ROUTED [488](#)
MESSAGE HAS BEEN SENT [513](#)
MSG NOT SENT- NO RECEIVER [488](#)
NEED OPCLASS OR ROUTE [488](#)
NO INPUT - REENTER [488](#)
NO MESSAGE PROVIDED [488](#)
NO MSG STRT QUOT AT xxxxx [488](#)
NO TERM LIST TBL- xx [488](#)
NO TRMID FOR LDC AT xxxxx [488](#)
OPCLASS NOT 1-24 AT xxxxx [488](#)
OPERATORS NOT SIGNDON NNN [488](#)
OPRTR ID NOT SIGNDON /xxx [488](#)
PROTECT OPND NOT 1-2 CHAR [488](#)
ROUTE INVALID AT xxxxx [488](#)
SPACE MUST FOLLOW TRANSID [488](#)
TERMID GT 4 CHAR AT xxxxx [488](#)
TERMID NOT +/- AT xxxxx [488](#)
TERMINATED BY OPERATOR [488](#), [513](#)
TIME ALREADY PASSED [488](#)
TIME INVALID AT xxxxx [488](#)
TIME NOT 4 CHARS AT xxxxx [488](#)
TOO MANY TBL SFX AT xxxxx [488](#)
UNBALANCD PARENS AT xxxxx [488](#)
UNSUP OPRT TRMNL xxxxxxxx [488](#)
UNSUP TERMINAL xxxxxxxx [488](#)
ZERO LENGTH MSG AT " [488](#)
+DATE INVLD 2330 to 0030 [488](#)

メッセージ、コンソール・オペレーター宛 [513](#)

メッセージ交換

エラー [488](#)
継続 [476](#)
端末での表示 [508](#)
例 [495](#)

メッセージ交換でのエラー [488](#)

メッセージ交換トランザクション

サブシステム [478](#)
端末システム [478](#)
トランザクション CMSG [475](#)
複数の宛先 [475](#)
保管された状況 [477](#)

メッセージ交換の応答

応答 [488](#)
標識 [488](#)

メッセージとコード、表示 [473](#)

メッセージのチェーニング

CSPG トランザクション [508](#)

メッセージの取り消し [476](#)

モニター機能トランザクション CEMN [49](#)

[ラ行]

リソース ID

リスト [54](#)

リソース・グループ

サブグループ定義 [54](#)

リソースに関する照会 [51](#)

リソースのファミリー [53](#)

リソース・プロファイルの再作成 [332](#)

領域間通信 (IRC) [169](#), [386](#)

論理装置コード (LDC) [486](#)

論理装置の宛先 [486](#)

論理メッセージの終了 [510](#)

論理メッセージの表示 (BMS) [508](#)

[数字]

16 進値 [56](#)

A

ABEND

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)

CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)

CEMT SET DB2CONN [350](#)

CEMT SET DB2ENTRY [361](#)

ACCESSMETHOD

CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)

CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)

CEMT INQUIRE FILE [153](#)

ACCOUNTREC

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)

CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)

CEMT SET DB2CONN [350](#)

CEMT SET DB2ENTRY [359](#)

ACQ

CEOT [441](#)

ACQSTATUS

CEMT INQUIRE MODENAME [186](#)

ACQUIRED

CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)

CEMT INQUIRE IPCONN [164](#)

CEMT INQUIRE MODENAME [186](#)

CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)

CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)

CEMT SET CONNECTION [346](#)

CEMT SET IPCONN [384](#)

CEMT SET MODENAME [393](#)

CEMT SET NETNAME [400](#)

CEMT SET TERMINAL [427](#)

ACTION

CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [232](#)

CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [280](#)

CEMT SET TSQUEUE [432](#)

ACTIVE

CEMT INQUIRE ENQ [134](#)

CEMT INQUIRE MODENAME [187](#)

CEMT INQUIRE SYSTEM [241](#)

CEMT INQUIRE TCLASS [248](#)

CEMT INQUIRE UOW [295](#)

CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)

ACTIVITY

ACTIVITY (続き)
 CEMT INQUIRE TASK [243](#)
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 ACTIVITYID
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 ACTOPENTCBS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 ACTSOCKETS
 CEMT INQUIRE TCPIP [250](#)
 ACTSSLTCBS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 ACTTHRDTCS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 ACTXPTCS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 ADAPTERTYPE オプション
 CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [140](#)
 ADD
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [232](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [280](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [412](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 ADDABLE
 CEMT INQUIRE FILE [153](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 ADDREXECENQ
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 ADDSTATUS
 CEMT INQUIRE FILE [153](#)
 ADJUSTMENT
 CEMT INQUIRE WLMHEALTH [324](#), [439](#)
 AFFINITY
 CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 AGE
 CEMT INQUIRE UOW [293](#)
 AGING
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CEMT SET DISPATCHER [364](#)
 CEMT SET SYSTEM [414](#)
 AIBRIDGE
 CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [76](#)
 CEMT SET AUTOINSTALL [341](#)
 AKP
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CEMT SET SYSTEM [415](#)
 ALL
 一般ステートメント [53](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEMT SET AUXTRACE [23](#)
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [71](#)
 CEMT INQUIRE AUTINSTMODEL [75](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 CEMT INQUIRE BRFCAPACITY [81](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [88](#)
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [105](#)
 CEMT INQUIRE DB2TRAN [110](#)
 CEMT INQUIRE DSNNAME [122](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [137](#)
 CEMT INQUIRE FILE [150](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [162](#)

ALL (続き)
 CEMT INQUIRE JMODEL [171](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [174](#)
 CEMT INQUIRE MODENAME [186](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [197](#)
 CEMT INQUIRE PARTNER [205](#)
 CEMT INQUIRE PIPELINE [207](#)
 CEMT INQUIRE PROCESSTYPE [210](#)
 CEMT INQUIRE PROFILE [213](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [228](#)
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [231](#)
 CEMT INQUIRE TASK [241](#)
 CEMT INQUIRE TCLASS [247](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [258](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [265](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [272](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [279](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [283](#)
 CEMT INQUIRE TSPOOL [286](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [288](#)
 CEMT INQUIRE UOW [291](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [304](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [309](#)
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [319](#)
 CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM [325](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET ATOMSERVICE [340](#)
 CEMT SET AUXTRACE [342](#)
 CEMT SET BRFCAPACITY [343](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)
 CEMT SET CONNECTION [346](#)
 CEMT SET DOCTEMPLATE [366](#)
 CEMT SET DSNNAME [369](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 CEMT SET IPCONN [384](#)
 CEMT SET JOURNALNAME [387](#)
 CEMT SET MODENAME [393](#)
 CEMT SET NETNAME [400](#)
 CEMT SET PIPELINE [403](#)
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [412](#)
 CEMT SET TASK [418](#)
 CEMT SET TCLASS [419](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 CEMT SET TRANSACTION [429](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 CEMT SET TSQUEUE [432](#)
 CEMT SET UOW [433](#)
 CEMT SET UOWLINK [434](#)
 CEMT SET WEBSERVICE [438](#)
 CEMT SET XMLTRANSFORM [440](#)
 CMSG [479](#)
 ALL ROUTE ENTRIES DELETED
 CMSG [488](#)
 ALL*LDC
 CMSG [486](#)
 ANALYZER
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 ANALYZERSTAT
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 ANY

ANY (続き)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 APIST
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 APPC
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 APPENDCRLF
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [117](#)
 APPLICATION
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 APPLICATION オプション
 CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [311](#)
 APPLID
 CEMT INQUIRE IPCONN [164](#)
 APPLMAJORVER
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 APPLMAJORVER オプション
 CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [311](#)
 APPLMICROVER
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 APPLMICROVER オプション
 CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [311](#)
 APPLMINORVER
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 APPLMINORVER オプション
 CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [311](#)
 APPLNAME
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 APPLNAMEST
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 ARCHIVEFILE
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [321](#)
 ASSEMBLER
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 ATI
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [267](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 CEOT [442](#)
 ATI (自動トランザクション開始) [263](#)
 ATISTATUS
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [267](#)
 ATOM
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 ATOMSERVICE
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [70](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET ATOMSERVICE [339](#)
 ATOMTYPE
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [72](#)
 ATTACHSEC
 INQUIRE TCPIPService [253](#)
 AUDITLEVEL
 CEMT INQUIRE PROCESSTYPE [211](#)
 AUDITLOG
 CEMT INQUIRE PROCESSTYPE [212](#)
 AUT
 CEOT [441](#)
 AUTHENTICATE
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 INQUIRE TCPIPService [253](#)
 AUTHID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 AUTHORITY オプション
 CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)
 AUTHTYPE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 AUTINSTMODEL
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT トランザクション [74](#)
 AUTOACTIVE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 CEMT SET SYSTEM [415](#)
 AUTOINACTIVE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 CEMT SET SYSTEM [415](#)
 AUTOINSTALL
 CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [76](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [340](#)
 CEMT トランザクション [75](#)
 CSFE ZCQTRACE [500](#)
 AUTOMATIC
 CEBT SET TAKEOVER [26](#)
 AUTOPAGEABLE
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 CEOT [442](#)
 AUTOSWITCH
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT SET DUMP [24](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 AUXILIARY
 CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [78](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 AUXTRACE
 CEBT [19](#)
 CEBT SET トランザクション [23](#)
 CEMT SET トランザクション [342](#)
 CEMT トランザクション [77](#)
 AVAILABLE
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE DSNAME [126](#)
 CEMT INQUIRE MODENAME [187](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#), [312](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)

AVAILABLE (続き)

CEMT SET DSNAME [369](#)

CEMT SET MODENAME [393](#)

AVAILSTATUS

CEMT INQUIRE BUNDLE [84](#)

CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)

CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)

B

BACKLOG

CEMT SET TCPIPService [422](#)

INQUIRE TCPIPService [253](#)

BACKOUT

CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)

CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)

CEMT INQUIRE TASK [244](#)

CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)

CEMT INQUIRE UOW [294](#)

CEMT SET CONNECTION [346](#)

CEMT SET DSNAME [369](#)

CEMT SET IPCONN [384](#)

CEMT SET UOW [433](#)

BACKUPNONBWO

CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)

BACKUPTYPE

CEMT INQUIRE DSNAME [126](#)

BASE

CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)

BASEDSNAME

CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)

BASESCOPE

CEMT INQUIRE BUNDLE [85](#)

BASICAUTH

CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)

BDAM

CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)

CEMT INQUIRE FILE [153](#)

BELOW

CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)

BINDFILE

CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [73](#)

BINDING

CEMT INQUIRE WEBSERVICE [321](#)

BMS (基本マッピング・サポート) [505](#)

BMS ページング

コピー・コマンド [511](#)

送付されたページの表示 [512](#)

ハードコピー端末の状況 [512](#)

論理メッセージ [510](#)

BRANCHQUAL

CEMT INQUIRE UOWLINK [306](#)

BREXIT

CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)

BRFACILITY

CEMT INQUIRE TASK [244](#)

CEMT SET トランザクション [343](#)

BRIDGE

CEMT INQUIRE TASK [244](#)

BROWSE

CEMT INQUIRE FILE [153](#)

CEMT SET FILE [377](#)

BROWSESTATUS

BROWSESTATUS (続き)

CEMT INQUIRE FILE [153](#)

BSAM 端末 [478](#)

BTS ブラウザー・トランザクション [1](#)

BUNDLE

CEMT DISCARD [67](#)

CEMT INQUIRE NODEJSAPP [203](#)

CEMT INQUIRE トランザクション [83](#)

CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)

CEMT SET トランザクション [344](#)

BUNDLEDIR

CEMT INQUIRE BUNDLE [85](#)

BUNDLEID

CEMT INQUIRE BUNDLE [85](#)

C

C

CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

CACHE

CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)

CADP トランザクション [517](#), [537](#)

CANCEL

CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)

CEMT SET CONNECTION [347](#)

CEMT SET IPCONN [384](#)

CEMT SET TERMINAL [427](#)

CMSG [479](#)

CANCELED - TEMP STRG ERR N

CMSG [488](#)

CAPTURESPEC

CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)

CATA トランザクション [517](#), [532](#)

CATD トランザクション [517](#), [532](#)

CATEGORY

CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [72](#)

CATR トランザクション [517](#), [541](#)

CAUSE

CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)

CAVM (CICS 高可用性マネージャー) [27](#)

CBAM トランザクション [1](#), [517](#), [537](#)

CCIN トランザクション [517](#), [541](#)

CCRL トランザクション [3](#), [517](#), [537](#)

CCSID

CEMT INQUIRE WEBSERVICE [321](#)

CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM [326](#)

CDATAKEY

CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)

CDBC トランザクション [5](#), [517](#), [537](#)

CDBD トランザクション [517](#), [533](#)

CDBF トランザクション [517](#), [537](#)

CDBI トランザクション [9](#), [517](#), [537](#)

CDBM トランザクション [11](#), [517](#), [537](#)

CDBN トランザクション [518](#), [541](#)

CDBO トランザクション [518](#), [533](#)

CDBQ トランザクション [518](#), [537](#)

CDBT トランザクション [518](#), [537](#)

CDFS トランザクション [518](#), [537](#)

CDSASIZE

CEMT INQUIRE DSAS [120](#)

CDTS トランザクション [518](#), [533](#)

CEBR トランザクション [17](#), [518](#), [537](#)

CEBT トランザクション

要求の形式 [19](#)

CEBT トランザクション (続き)

- AUXTRACE [19, 23](#)
- CICS 高可用性マネージャー (CAVM) (CICS availability manager (CAVM)) [27](#)
- DUMP [20, 24](#)
- GTFTRACE [21, 24](#)
- INQISET [19](#)
- INTTRACE [22, 25](#)
- PERFORM [27](#)
- SHUTDOWN [27](#)
- SNAP [27](#)
- SURVEILLANCE [22, 26](#)
- TAKEOVER [22, 26, 27](#)
- XRF 複合体 (XRF complex) [19](#)
- CECI トランザクション [518, 537](#)
- CECS トランザクション [29, 518, 537](#)
- CEDA トランザクション
 - セキュリティ検査 [36](#)
- CEDB トランザクション [31, 518, 537](#)
- CEDC トランザクション [31, 518, 537](#)
- CEDF
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 - CEMT SET PROGRAM [406](#)
- CEDF トランザクション [37, 518, 537](#)
- CEDFSTATUS
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
- CEDX トランザクション [518, 538](#)
- CEGN トランザクション [518, 541](#)
- CEHP トランザクション [518, 538](#)
- CEHS トランザクション [518, 538](#)
- CEKL トランザクション
 - 要求の形式 [43](#)
 - TASK [43, 46](#)
- CEMN トランザクション [49, 519, 538](#)
- CEMN モニター機能トランザクション [49](#)
- CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
- CEMT PERFORM JVMSERVER コマンド [329](#)
- CEMT PERFORM PIPELINE コマンド [331](#)
- CEMT SET EVENTPROCESS [375](#)
- CEMT SET トランザクション
 - BUNDLE [344](#)
 - EPADAPTER [373](#)
 - EPADAPTERSET [374](#)
 - EVENTBINDING [374](#)
 - EVENTPROCESS [375](#)
 - WLMHEALTH [438](#)
- CEMT 構文内の + [53](#)
- CEMT トランザクション
 - EXCI [148](#)
 - アプリケーション・プログラムからの呼び出し [56](#)
 - 画面中のブランク・フィールド [55](#)
 - 画面の上書き [54](#)
 - 画面のスクロール [55](#)
 - キーワードなし [52](#)
 - キーワードの省略形 [53](#)
 - コマンド行の CEMT [51](#)
 - セキュリティ検査 [57](#)
 - 総称名 [53](#)
 - 汎用リソース ID [53](#)
 - 負符号 [51](#)
 - プログラム・ファンクション・キー [52](#)
 - 要求の形式 [51](#)
 - リソースのファミリー [53](#)
 - ATOMSERVICE [70, 339](#)

CEMT トランザクション (続き)

- AUTINSTMODEL [74](#)
- AUTOINSTALL [75, 340](#)
- AUXTRACE [77, 342](#)
- BRFACILITY [79, 343](#)
- BUNDLE [83](#)
- CEMT 構文内の + [53](#)
- CEMT の前の疑問符 (?) [51](#)
- CFDTPPOOL [87](#)
- CONNECTION [88, 345](#)
- DB2CONN [97, 350](#)
- DB2ENTRY [358](#)
- DB2TRAN [110, 362](#)
- DBENTRY [105](#)
- DELETSHPED [112, 363](#)
- DISCARD [62, 65](#)
- DISPATCHER [114, 364](#)
- DOCTEMPLATE [115, 366](#)
- DSAS [119, 366](#)
- DSNAME [122, 367](#)
- DUMP [328](#)
- DUMPDS [130, 372](#)
- ENDAFFINITY [329](#)
- ENQ [132](#)
- ENQMODEL [136](#)
- ENQUEUE [373](#)
- EPADAPTER [138](#)
- EPADAPTERSET [144](#)
- EVENTBINDING [145](#)
- EVENTPROCESS [147](#)
- FILE [149, 375](#)
- GTFTRACE [158, 381](#)
- HOST [159, 381](#)
- INQUIRE [51](#)
- INQUIRE IPCONN [161](#)
- INQUIRE LIBRARY [179](#)
- INTTRACE [160, 382](#)
- IPCONN [383](#)
- IRBATCH [169](#)
- IRC [169, 386](#)
- JMODEL [171](#)
- JOURNALNAME [173, 387](#)
- JVMSERVER [176, 388](#)
- LIBRARY [390](#)
- LINE [184, 391](#)
- MODENAME [185, 392](#)
- MONITOR [187, 393](#)
- MQCONN [190, 396](#)
- MQMONITOR [193, 398](#)
- NETNAME [197, 399](#)
- PARTNER [205](#)
- PERFORM [328](#)
- PIPELINE [402](#)
- PROCESSTYPE [403](#)
- PROFILE [213](#)
- PROGRAM [215, 405](#)
- QUEUE [408](#)
- RESET [332](#)
- RRMS [224](#)
- SECURITY [332](#)
- SET [51](#)
- SHUTDOWN [332](#)
- SNAP [328](#)
- SSL [334](#)

CEMT トランザクション (続き)
 STATISTICS [225, 335, 408](#)
 STREAMNAME [228](#)
 SYDUMPCODE [229, 410](#)
 SYSTEM [235, 413](#)
 Tab キー [55](#)
 TASK [241, 418](#)
 TCLASS [247, 419](#)
 TCP/IP [249, 420](#)
 TCIPSERVICE [251, 421](#)
 TDQUEUE [257, 423](#)
 TEMPSTORAGE [264, 425](#)
 TERMINAL [265, 425](#)
 TRANSACTION [271, 428](#)
 TRDUMPCODE [278, 430](#)
 TSMODEL [283](#)
 TSPool [286](#)
 TSQNAME [287](#)
 TSQUEUE [287, 432](#)
 UOW [291, 433](#)
 UOWDSNFAIL [295](#)
 UOWENQ [300](#)
 UOWLINK [304, 433](#)
 URIMAP [308, 434](#)
 WEB [318, 437](#)
 WEBSERVICE [437](#)
 WLMHEALTH [324](#)
 XMLTRANSFORM [325, 439](#)
 z/OS Communications Server [316, 435](#)
 ? 文字 [51](#)
 * 記号 [53](#)
 +、スクロールの [55](#)

CEMT の後の負符号 [51](#)
 CEMT の前の疑問符 (?) [51](#)
 CEOT トランザクション [441, 519, 538](#)
 CEPD トランザクション [519, 533](#)
 CEPF トランザクション [519, 533](#)
 CEPH トランザクション [519, 538](#)
 CEPM トランザクション [519, 533](#)
 CEPQ トランザクション [519, 538](#)
 CEPR トランザクション [519, 538](#)
 CEPS トランザクション [519, 538](#)
 CEPT トランザクション [519, 538](#)

CERTIFICATE
 CEMT INQUIRE URIMAP [312](#)
 INQUIRE TCIPSERVICE [253](#)
 CERTIFICATE オプション
 CEMT INQUIRE IPCONN コマンド [164](#)
 CESC トランザクション [519, 533](#)
 CESD トランザクション [519, 538](#)
 CESF トランザクション [445, 519, 541](#)
 CESL

別名として CESN を使用する [452](#)
 CESL トランザクション
 マップ・セットのカスタマイズ [447](#)

CESN
 およびパスワード・フレーズ [452](#)
 CESN トランザクション
 マップ・セットのカスタマイズ [449](#)

CEST トランザクション [453, 519, 538](#)
 CETR トランザクション
 特殊トレース・レベルの設定 [458](#)
 トレース対象のコンポーネントの選択 [458](#)
 標準トレース・レベルの設定 [458](#)

CEX2 トランザクション [519, 533](#)
 CEHECKKEY
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CFCL トランザクション [519, 533](#)
 CFCR トランザクション [519, 533](#)
 CFCT トランザクション [519, 533](#)
 CFDTPOOL
 CEMT INQUIRE CFDTPOOL [87](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 CEMT トランザクション [87](#)
 CFOR トランザクション [520, 533](#)
 CFQR トランザクション [520, 533](#)
 CFQS トランザクション [520, 533](#)
 CFTABLE
 CEMT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 CFTL トランザクション [520, 533](#)
 CFTS トランザクション [520, 533](#)
 CGROUP
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CGRP トランザクション [520, 533](#)
 CHARACTERSET
 CEMT INQUIRE URIMAP [312](#)
 CHCK トランザクション [520, 533](#)
 CHLP トランザクション [520, 538](#)
 CICS Db2 トランザクション (DSNC) [515](#)
 CICS 高可用性マネージャー (CAVM) (CICS availability manager (CAVM)) [27](#)
 CICS リリース間の CSD の互換性 [35](#)
 CICSAPI
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CICSTABLE
 CEMT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 CICSTELEVEL
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CID
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 CIDDOMAIN
 CEMT INQUIRE PIPELINE [207](#)
 CIDP トランザクション [461, 520, 538](#)
 CIEP トランザクション [520, 541](#)
 CIND トランザクション
 実行 [463](#)
 CIND の実行 [463](#)
 CIPHERS
 CEMT INQUIRE URIMAP [312](#)
 CIPHERS オプション
 CEMT INQUIRE IPCONN コマンド [164](#)
 CIS1 トランザクション [520, 534](#)
 CIS4 トランザクション [520, 533](#)
 CISB トランザクション [520, 533](#)
 CISC トランザクション [520, 534](#)
 CISD トランザクション [520, 534](#)
 CISE トランザクション [520, 534](#)
 CISM トランザクション [520, 534](#)
 CISP トランザクション [520, 534](#)
 CISQ トランザクション [520, 534](#)
 CISR トランザクション [520, 534](#)
 CISS トランザクション [520, 534](#)
 CIST トランザクション [520, 534](#)

CISU トランザクション [520](#), [534](#)
 CISX トランザクション [521](#), [534](#)
 CITS トランザクション [521](#), [534](#)
 CJLR トランザクション [521](#), [534](#)
 CJSA トランザクション [521](#), [538](#)
 CJSL トランザクション [521](#), [534](#)
 CJSP トランザクション [521](#), [534](#)
 CJSR トランザクション [521](#), [534](#)
 CJSU トランザクション [521](#), [538](#)
 CJTR トランザクション [521](#), [534](#)
 CJXA トランザクション [521](#), [538](#)
 CKAM トランザクション [521](#), [538](#)
 CKBC トランザクション [521](#), [538](#)
 CKBM トランザクション [521](#), [539](#)
 CKBP トランザクション [521](#), [539](#)
 CKBR トランザクション [521](#), [539](#)
 CKCN トランザクション [521](#), [539](#)
 CKDL トランザクション [521](#), [539](#)
 CKDP トランザクション [521](#), [539](#)
 CKOPEN
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 CKQC トランザクション [467](#), [521](#), [539](#)
 CKRS トランザクション [522](#), [539](#)
 CKRT トランザクション [522](#), [539](#)
 CKSD トランザクション [522](#), [539](#)
 CKSQ トランザクション [522](#), [539](#)
 CKTI トランザクション [522](#), [539](#)
 CLASS
 一般ステートメント [53](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [265](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [272](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 CEMT SET TRANSACTION [429](#)
 CLDM トランザクション [469](#), [522](#), [539](#)
 CLEAR/CANCL または CONT INPUT/ROUTE/MSG
 CMMSG [488](#)
 CLER トランザクション [471](#)
 CLIENT
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CLOSED
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT SET DUMP [24](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT INQUIRE FILE [156](#)
 CEMT INQUIRE IRC [170](#)
 CEMT INQUIRE MODENAME [186](#)
 CEMT INQUIRE RRMS [225](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 CEMT SET FILE [377](#)
 CEMT SET IRC [387](#)
 CEMT SET MODENAME [393](#)
 CEMT SET VTAM [435](#)
 CLOSETIMEOUT
 INQUIRE TCPIP SERVICE [254](#)
 CLQ2 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLR1 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLR2 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLS1 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLS2 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLS3 トランザクション [522](#), [541](#)
 CLS4 トランザクション [522](#), [541](#)
 CMAC トランザクション [473](#), [522](#), [539](#)
 CMDPROT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CMDPROTECT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CMPX トランザクション [522](#), [541](#)
 CMSG トランザクション
 オプション [479](#)
 構文規則 [479](#)
 プログラム (DFHMS) [488](#)
 論理装置の宛先 [486](#)
 CANCEL [479](#)
 DATE [479](#)
 ERRTERM [479](#)
 FULLDATE [479](#)
 HEADING [479](#)
 ID [479](#)
 MSG [479](#)
 OPCLASS [479](#)
 PROTECT [479](#)
 ROUTE [479](#)
 SEND [479](#)
 TIME [479](#)
 CMTS トランザクション [522](#), [534](#)
 CNJL トランザクション [522](#), [534](#)
 CNJW トランザクション [522](#), [539](#)
 COBC トランザクション [529](#)
 COBE トランザクション [529](#)
 COBOL
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 COLD
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 COLDACQ
 CEMT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 COLLECTION
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [72](#)
 COMAUTHID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 COMAUTHTYPE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 COMMAND
 CEBT SET TAKEOVER [26](#)
 COMMIT
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE DSNAME [130](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT SET CONNECTION [347](#)
 CEMT SET DSNAME [369](#)
 CEMT SET IPCONN [384](#)
 CEMT SET UOW [433](#)
 COMMITFAIL
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 COMPLETE
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 COMPRESS
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)

COMPRESSST
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 COMTHREADLIM
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 COMTHREADS
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CONCURRENCY
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CONFIGFILE
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [73](#)
 CEMT INQUIRE PIPELINE [207](#)
 CONNECT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CONNECTED
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CEMT INQUIRE TSPPOOL [287](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CONNECTERROR
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CONNECTING
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CONNECTION
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE MODENAME [187](#)
 CEMT INQUIRE UOW [295](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET CONNECTION [345](#)
 CEMT SET MODENAME [393](#)
 CONNECTST
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET MQCONN [396](#)
 CONNSTATUS
 CEMT INQUIRE CFDTPOOL [87](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [164](#)
 CEMT INQUIRE TSPPOOL [287](#)
 CONSOLE
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 CONSOLES
 CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [76](#)
 CEMT SET AUTOINSTALL [341](#)
 CONTAINER
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [321](#)
 CONTENTION
 CEMT SET FILE [378](#)
 CONTINUE INPUT
 MSG [488](#)
 CONTINUE INPUT OR MSG
 MSG [488](#)
 CONTINUE MSG
 MSG [488](#)
 CONTINUE ROUTE OPERAND
 MSG [488](#)
 CONVERSE
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)
 CONVERSEST
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 CONVERTER
 CEMT INQUIRE URIMAP [312](#)
 COORDINATOR
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 COPID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 DSNCRCT マクロのオプション [350](#)
 COPY コマンド [511](#)
 COPYSTATUS
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 COVR トランザクション [523](#), [535](#)
 CPCT トランザクション [523](#), [535](#)
 CPIA トランザクション [497](#)
 CPIH トランザクション [523](#), [539](#)
 CPIL トランザクション [523](#), [539](#)
 CPIQ トランザクション [523](#), [539](#)
 CPIL トランザクション [523](#), [535](#)
 CPIS トランザクション [523](#), [535](#)
 CPLT トランザクション [523](#), [535](#)
 CPMI トランザクション [523](#), [539](#)
 CPSS トランザクション [523](#), [541](#)
 CQP
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CQPI トランザクション [523](#), [541](#)
 CQPO トランザクション [523](#), [541](#)
 CQRY トランザクション [523](#), [541](#)
 CRE
 CEOT [442](#)
 CREATE
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 CREATSESS
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 CRITICALST オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [182](#)
 CRLR トランザクション [523](#), [535](#)
 CRMD トランザクション [523](#), [535](#)
 CRMF トランザクション [524](#), [535](#)
 CRPA トランザクション [524](#), [539](#)
 CRPC トランザクション [524](#), [539](#)
 CRPM トランザクション [524](#), [540](#)
 CRSQ トランザクション [524](#), [535](#)
 CRSR トランザクション [524](#), [542](#)
 CRST トランザクション [524](#), [535](#)
 CRSY トランザクション [524](#), [535](#)
 CRTE トランザクション [524](#), [535](#), [540](#)
 CRTX トランザクション [524](#), [540](#)
 CSAC トランザクション [524](#), [542](#)
 CSCY トランザクション [524](#), [542](#)
 CSFE トランザクション [499](#), [524](#), [540](#)
 CSFR トランザクション [524](#), [535](#)
 CSFU トランザクション [524](#), [536](#)
 CSGM トランザクション
 good morning [503](#)
 CSHA トランザクション [524](#), [536](#)
 CSHQ トランザクション [524](#), [536](#)
 CSHR トランザクション [524](#), [540](#)
 CSIGN

CSIGN (続き)

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)CEMT SET DB2CONN [350](#)CSKP トランザクション [524](#), [536](#)CSM1 トランザクション [524](#), [540](#)CSM2 トランザクション [524](#), [540](#)CSM3 トランザクション [524](#), [540](#)CSM5 トランザクション [524](#), [540](#)CSMI トランザクション [524](#), [540](#)CSNC トランザクション [524](#), [536](#)CSNE トランザクション [525](#), [536](#)CSOL トランザクション [525](#), [536](#)CSPG トランザクション [505](#), [525](#), [542](#)CSPK トランザクション [525](#), [542](#)CSPP トランザクション [525](#), [542](#)CSPQ トランザクション [525](#), [536](#)CSPS トランザクション [525](#), [542](#)CSQC トランザクション [525](#), [536](#)CSRK トランザクション [525](#), [542](#)CSRS トランザクション [525](#), [542](#)CSSF トランザクション [525](#), [542](#)CSSY トランザクション [525](#), [536](#)CSTE トランザクション [525](#), [536](#)CSTP トランザクション [525](#), [536](#)CSXM トランザクション [525](#), [542](#)CSZI トランザクション [525](#), [536](#)

CTERM

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)CEMT SET DB2CONN [350](#)DSNCRCT マクロ [350](#)CTIN トランザクション [525](#), [540](#)

CTLGALL

CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)CEMT SET SYSTEM [415](#)

CTLGMODIFY

CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)CEMT SET SYSTEM [415](#)

CTLGNONE

CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)CEMT SET SYSTEM [415](#)CTSD トランザクション [525](#), [536](#)

CTX

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)CEMT SET DB2CONN [350](#)

CURAUXDS

CEMT INQUIRE AUXTRACE [78](#)

CURRENT

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [233](#)CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [281](#)

CURRENT(A|B)

CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)

CURRENTDDS

CEBT INQUIRE DUMP [21](#)CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)

CURRENTHEAP

CEMT INQUIRE JVMSERVER [178](#)

CURREQS

CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [77](#)

CUSERID

CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)CEMT SET DB2CONN [350](#)

CVDA 値

CBE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

CVDA 値 (続き)

CBER

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

CCE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

CFE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

CONTEXT

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

CUSTOM

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#), [142](#)

DEFAULT

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

DSIE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

HTTP

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#), [142](#)

REGION

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

TDQ

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

TDQUEUE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

TRANSTART

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#), [142](#)

TSQ

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

TSQUEUE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

USER

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

USERID

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

WBE

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

WMQ

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#), [142](#)CVMI トランザクション [525](#), [540](#)CW2A トランザクション [526](#), [540](#)CW2Q [529](#)CWBA トランザクション [526](#), [540](#)CWBG トランザクション [526](#), [536](#)CWDP トランザクション [526](#), [540](#)CWGQ トランザクション [526](#), [540](#)CWTO トランザクション [513](#), [526](#), [540](#)CWWU トランザクション [526](#), [540](#)CWXX トランザクション [526](#), [536](#)CWYU トランザクション [526](#), [536](#)CXCU トランザクション [526](#), [536](#)CXRE トランザクション [526](#), [537](#)CXRT トランザクション [526](#), [542](#)

D

D

CEMT INQUIRE TASK [246](#)DADD トランザクション [529](#)

DAE

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [233](#)CEMT SET SYDUMPCODE [412](#)

DAEOPTION

CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [233](#)

data-value

CEMT INQUIRE LIBRARY [180](#)

DATABUFFERS
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 DATAFORMAT オプション
 CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)
 DATALOC
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 DATASET
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE UOW [295](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAL [297](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 DATASETFULL
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAL [298](#)
 DATE
 CMMSG [479](#)
 DATE ALREADY PASSED
 CMMSG [488](#)
 DATE INVALID AT XXXXXXXX
 CMMSG [488](#)
 DATE NOT XX/XX AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 DATE TOO FAR IN FUTURE
 CMMSG [488](#)
 DB2 定義
 接続
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 DB2CONN
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 CEMT SET トランザクション [350](#)
 CEMT トランザクション [97](#)
 DB2ENTRY
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [105](#)
 CEMT INQUIRE DB2TRAN [111](#)
 CEMT SET DB2TRAN [363](#)
 CEMT SET トランザクション [358](#)
 CEMT トランザクション [105](#)
 DB2GROUPID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 DB2ID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 DB2PLAN
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 DB2RELEASE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 DB2TRAN
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE DB2TRAN [110](#)
 CEMT SET トランザクション [362](#)
 CEMT トランザクション [110](#)
 DBCTL (データベース制御) [5](#)
 DBCTL システム ID (DBCTLID) [7](#)
 DBCTLID [7](#)
 DBRW トランザクション [530](#)
 DDNAME
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [118](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 DEADLOCK
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAL [298](#)
 DEBUG

DEBUG (続き)
 CEMT SET SYSTEM [415](#)
 DEBUGTOOL
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 DEL
 CEMT INQUIRE DELETSHIPED [113](#)
 DELETE
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT SET FILE [378](#)
 CEMT SET TSQUEUE [432](#)
 CEMT SET UOWLINK [434](#)
 DELETESTATUS
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 DELETSHIPED
 CEMT SET トランザクション [363](#)
 CEMT トランザクション [328](#)
 DELETSHIPED コマンド
 CEMT トランザクション [112](#)
 DELEXITERROR
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAL [298](#)
 DELQ トランザクション [530](#)
 DEREGISTERED
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET VTAM [436](#)
 DEST
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 DFLTUSER
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 DINQ トランザクション [530](#)
 DISABLED
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 CEMT INQUIRE HOST [160](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 CEMT SET ENQMODEL [373](#)
 CEMT SET EPADAPTER [374](#)
 CEMT SET EPADAPTERSET [374](#)
 CEMT SET EVENTBINDING [374](#)
 CEMT SET FILE [378](#)
 CEMT SET HOST [382](#)
 CEMT SET JOURNALNAME [388](#)
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
 CEMT SET TRANSACTION [429](#)
 CEMT SET URIMAP [434](#)
 DISABLEDACT
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [108](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 DISABLING
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 DISCONNING
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 DISPATCHABLE
 CEKL INQUIRE TASK [44](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 DISPATCHER
 CEMT INQUIRE トランザクション [114](#)

DISPATCHER (続き)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [364](#)

DISPOSITION
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)

DMNU トランザクション [530](#)

DOCTEMPLATE
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [118](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [366](#)
 CEMT トランザクション [115](#)

DORD トランザクション [530](#)

DORQ トランザクション [530](#)

DPLLIMIT
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)

DPLSUBSET
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)

DRAIN
 CEMT SET EVENTPROCESS [375](#)

DREP トランザクション [530](#)

DROLLBACK
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)

DS
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)

DSALIMIT
 CEMT INQUIRE DSAS [120](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT SET DSAS [367](#)
 CEMT SET SYSTEM [415](#)

DSAS
 CEMT INQUIRE トランザクション [119](#)
 CEMT SET トランザクション [366](#)

DSNAME
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [118](#)
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)
 CEMT SET FILE [378](#)
 CEMT SET トランザクション [367](#)
 CEMT トランザクション [122](#)

DSNAME オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [182](#)

DSNC トランザクション
 DISCONNECT [515](#)
 DISPLAY [515](#)
 MODIFY [515](#)
 STOP [515](#)
 STRT [515](#)

DSRTPROGRAM
 CEMT SET SYSTEM [416](#)

DTRPROGRAM
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#)

DUMMY
 CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [176](#)

DUMP
 CEBT [20](#)

DUMP (続き)
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT PERFORM SHUTDOWN [27](#)
 CEBT PERFORM TAKEOVER [28](#)
 CEBT SET トランザクション [24](#)
 CEMT PERFORM DUMP [328](#)
 CEMT PERFORM JVMSERVER JVM DUMP コマンド [330](#)
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)
 CEMT トランザクション [328](#)

DUMPDS
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT SET トランザクション [372](#)
 CEMT トランザクション [130](#)

DUMPING
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)

DUMPSCOPE
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [233](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [281](#)

DUPD トランザクション [530](#)

DURATION
 CEMT INQUIRE ENQ [133](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)

DYNAMIC
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

DYNAMSTATUS
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

E

ECDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [120](#)

EDF (実行診断機能) [37](#)

EDSALIMIT
 CEMT INQUIRE DSAS [120](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT SET DSAS [367](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#)

EMITMODE
 CEMT INQUIRE EVENTBINDING [143](#)

EMPTYREQ
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT SET FILE [378](#)

EMPTYSTATUS
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)

ENABLED
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT INQUIRE HOST [160](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 CEMT SET ENQMODEL [373](#)
 CEMT SET EPADAPTER [374](#)
 CEMT SET EPADAPTERSET [374](#)
 CEMT SET EVENTBINDING [374](#)
 CEMT SET FILE [378](#)
 CEMT SET HOST [382](#)
 CEMT SET JOURNALNAME [388](#)

ENABLED (続き)
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
 CEMT SET TRANSACTION [429](#)
 CEMT SET URIMAP [434](#)
 ENABLEDCOUNT
 CEMT INQUIRE BUNDLE [85](#)
 ENABLESTATUS
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [73](#)
 CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [77](#)
 CEMT INQUIRE BUNDLE [85](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 CEMT INQUIRE EPADAPTER [143](#)
 CEMT INQUIRE EPADAPTERSET [145](#)
 CEMT INQUIRE EVENTBINDING [147](#)
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT INQUIRE HOST [160](#)
 CEMT INQUIRE JVMSEVER [178](#)
 CEMT INQUIRE NODEJSAPP [204](#)
 CEMT INQUIRE PIPELINE [207](#)
 CEMT INQUIRE PROCESSTYPE [212](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)
 CEMT SET ATOMSERVICE [340](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 CEMT SET PIPELINE [403](#)
 ENABLESTATUS オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [183](#)
 END
 CSFE [499](#)
 ENDAFFINITY
 CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 CEMT SET CONNECTION [347](#)
 ENDOFDAY
 CEMT INQUIRE STATISTICS [226](#)
 CEMT SET STATISTICS [409](#)
 ENDPOINT
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [321](#)
 ENQ
 CEMT トランザクション [132](#)
 ENQFAILS
 CEMT INQUIRE ENQ [133](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)
 ENQMODEL
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 CEMT トランザクション [136](#)
 ENQNAME
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 ENQUEUE
 CEMT SET トランザクション [373](#)
 ENQSCOPE
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)
 ENQUEUE
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 EPADAPTER
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [138](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [373](#)
 EPAT トランザクション [530](#)

EQUAL
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#), [110](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 ERDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 ERRTERM
 CMMSG [479](#)
 ERRTERM INVALID AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 ERRTERM INVLD/UNSUPP XXXX
 CMMSG [488](#)
 ESDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 ETDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 EUDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 EVENTBINDING
 CEMT DISCARD [67](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [145](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [374](#)
 EXCEPT
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)
 EXCEPTCLASS
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 EXCI トランザクション [530](#)
 EXCLSTATUS
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 EXCLUSIVE
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 CEMT SET FILE [378](#)
 EXECENQ
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 EXECKEY
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 EXECUTIONSET
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 EXPIRYINTMIN
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [289](#)
 EXTENDED
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 EXTRA
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [264](#)

F

F (ファンクション) キー [52](#)
 FACILITY
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 FACILITYLIKE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 FAILED
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)
 FAILEDBKOUT
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 FCANCEL
 CEMT INQUIRE CONNECTION [95](#)
 CEMT SET CONNECTION [348](#)

FCANCEL (続き)
 CEMT SET IPCONN [384](#)
 FEED
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [72](#)
 FEPI
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 FILE
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 CEMT INQUIRE PROCESSTYPE [212](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [375](#)
 CEMT トランザクション [149](#)
 FILECOUNT
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)
 FILELIMIT
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)
 FLUSH
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT SET JOURNALNAME [388](#)
 FORCE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT SET DSNAME [369](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#)
 CEMT SET UOW [433](#)
 FORCECLOSE
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
 CEMT SET VTAM [436](#)
 FORCEDISABLED
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 FORCENOTCON
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 FORCEPURGE
 CEKL SET TASK [47](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT SET CONNECTION [348](#)
 CEMT SET IPCONN [384](#)
 CEMT SET LINE [392](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TASK [418](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 FORCEQR
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#), [417](#)
 FORCEUOW
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT SET CONNECTION [348](#)
 CEMT SET IPCONN [384](#)
 FREEING
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [164](#)
 FREQUENCY
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [395](#)

FRLOG
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)
 FTYPE
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 FULL
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 FULLAPI
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
 FULLDATE
 CMSG [479](#)
 FWDRECOVABLE
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 FWDRECOVLSN
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)

G

GARBAGEINT
 CEMT INQUIRE WEB [318](#)
 CEMT SET WEB [437](#)
 GCDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 GCMODEL
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [178](#)
 GENERICTCPS 値
 INQUIRE TCPIP SERVICE [254](#)
 GETPAGE
 CSPG [505](#), [508](#)
 GMT
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 GRNAME
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [316](#)
 GROUP
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 GROUPID [451](#)
 GRSTATUS
 CEMT INQUIRE VTAM [316](#)
 GSDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 GTF トレース [455](#)
 GTFTRACE
 CEBT INQUIRE GTFTRACE [21](#)
 CEBT INQUIRE トランザクション [21](#)
 CEBT SET トランザクション [24](#)
 CEMT INQUIRE GTFTRACE [159](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [158](#)
 CEMT SET トランザクション [381](#)
 GUDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)

H

HA
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 HBACKOUT
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 HCOMMIT
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 HDISABLED

HDISABLED (続き)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 HEADING
 CMMSG [479](#)
 HEADNG NOT YES/NO AT XXXX
 CMMSG [488](#)
 HEALTH
 CEMT INQUIRE WLMHEALTH [325](#)
 HEALTHABSTIM
 CEMT INQUIRE WLMHEALTH [325](#)
 HFSFILE
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [118](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 HHHHHH
 CSPG [505](#), [511](#)
 HHMM
 CMMSG [479](#), [488](#)
 HHMMSS
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET VTAM [436](#)
 HIGH
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#), [109](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 HOST
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [306](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [159](#)
 CEMT SET トランザクション [381](#)
 INQUIRE TCPIPService [254](#)
 HOSTCODEPAGE
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 HOSTTYPE
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [313](#)
 INQUIRE TCPIPService [255](#)
 HPJC トランザクション [530](#)
 HTIME
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 HTTP
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 HTTPS
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 HTYPE
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 HVALUE
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)

I

ICIC トランザクション [530](#)
 ID
 リソースのリスト [54](#)
 CMMSG [479](#)
 ID OPERAND GT 62 CHARS
 CMMSG [488](#)
 ID OPERAND MISSING
 CMMSG [488](#)
 ID PARAM MISSING OR NO)
 CMMSG [488](#)
 IDENTIFIER
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 IDLE
 CEMT INQUIRE DELETSHIPPED [113](#)

IDLE (続き)
 CEMT SET DELETSHIPPED [363](#)
 IDNTY
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 IDNTYCLASS
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 IDPROP
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 IFBL トランザクション [530](#)
 IFBR トランザクション [530](#)
 IMMCLOSE
 CEMT INQUIRE IRC [170](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET IRC [387](#)
 CEMT SET VTAM [436](#)
 IMMEDIATE
 CEBT PERFORM SHUTDOWN [27](#)
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)
 IMMQUIESCED
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 CEMT SET DSNAME [369](#)
 IMSN トランザクション [530](#)
 IMSO トランザクション [530](#)
 INACTIVE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [241](#)
 INDEXRECFULL
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 INDIRECT
 CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 INDOUBT
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 INDOUBTMINS
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 INDOUBTWAIT
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 INFLIGHT
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 INITHEAP
 CEMT INQUIRE JVMSEVER [178](#)
 INPUT
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CMMSG [488](#)
 INQY トランザクション [530](#)
 INS
 CEOT [442](#)
 INSERVICE
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT SET CONNECTION [348](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)
 CEMT SET LINE [392](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 INTERNAL

INTERNAL (続き)
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
INTERVAL
 CEMT INQUIRE DELETSHPED [113](#)
 CEMT INQUIRE STATISTICS [226](#)
 CEMT INQUIRE WLMHEALTH [325](#), [439](#)
 CEMT SET DELETSHPED [364](#)
 CEMT SET STATISTICS [409](#)
INTRA
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [264](#)
INTTRACE
 CEBT INQUIRE INTTRACE [22](#)
 CEBT INQUIRE トランザクション [22](#)
 CEBT SET トランザクション [25](#)
 CEMT INQUIRE INTTRACE [161](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [160](#)
 CEMT SET トランザクション [382](#)
INVALID
 CEMT INQUIRE DSNAME [130](#)
INVALID LDC AT XXXXXXXX
 MSG [488](#)
INVALID OPND AT XXXXX
 MSG [488](#)
INVALID TBL SFX AT XXXXX
 MSG [488](#)
INVL D OPERATR ID AT XXXXX
 MSG [488](#)
INVL D SEPARATOR AT XXXXX
 MSG [488](#)
INVL D TERMINL ID XXXX
 MSG [488](#)
IOERROR
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
IOTYPE
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
IPCONN
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET IPCONN [383](#)
IPFAMILY
 CEMT INQUIRE IPCONN [166](#), [314](#)
 INQUIRE TCPIP SERVICE [255](#)
IPIC
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
IPRESOLVED
 CEMT INQUIRE IPCONN [166](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 INQUIRE TCPIP SERVICE [255](#)
IQRD トランザクション [530](#)
IQRL トランザクション [530](#)
IQRR トランザクション [531](#)
IQXL トランザクション [531](#)
IQXR トランザクション [531](#)
IRBATCH
 CEMT INQUIRE トランザクション [169](#)
IRC
 CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 CEMT INQUIRE IRC [170](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [169](#)
 CEMT SET トランザクション [386](#)
IRC (領域間 通信)
 CEMT INQUIRE トランザクション [169](#)

IRC (領域間 通信) (続き)
 CEMT SET トランザクション [386](#)
ISOLATE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
ISOLATEST
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
J
JAVA
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
JAVAHOME
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
JHE1 トランザクション [531](#)
JHE2 トランザクション [531](#)
JMODEL
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE JMODEL [172](#)
 CEMT トランザクション [171](#)
JOURNALNAME
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT トランザクション [173](#)
JPC1 トランザクション [531](#)
JPC2 トランザクション [531](#)
JTD1 トランザクション [531](#)
JVMCLASS
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
JVMProfile
 CEMT SET PROGRAM [406](#)
JVMPROFILE
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
JVMPROGRAM
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
JVMSERVER
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [176](#)
 CEMT PERFORM JVMSERVER コマンド [330](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMT SET トランザクション [388](#)
 CEMT トランザクション [329](#)

K
KEEPTIME
 CEMT INQUIRE BR FACILITY [81](#)
KEYLENGTH
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
KILL
 CEKL SET TASK [47](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)

L
LANGUAGE

LANGUAGE (続き)
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 Language Environment [215](#)
 Language Environment ランタイム・オプション (CLER) [471](#)
 LASTCOLDTIME
 CEMENT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 LASTEMERTIME
 CEMENT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 LASTINITTIME
 CEMENT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 LASTUSEDINT
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [289](#)
 CEMENT SET TSQUEUE [432](#)
 LASTWARMTIME
 CEMENT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 LCKSTRUCFULL
 CEMENT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 LDC (論理装置コード) [486](#)
 LDC NOT 2 CHARS AT XXXXX
 CMSG [488](#)
 LENGTH
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [289](#)
 LENV
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 LERUNOPTS
 CEMENT INQUIRE JVMSERVER [179](#), [204](#)
 LIBRARY
 CEMENT DISCARD [68](#)
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMENT PERFORM STATISTICS [337](#)
 CEMENT SET LIBRARY [390](#)
 LIBRARY オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [182](#)
 LIBRARYDSN
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 LINE
 CEMENT INQUIRE LINE [185](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [184](#)
 CEMENT SET トランザクション [391](#)
 LINK
 CEMENT INQUIRE UOW [293](#)
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [306](#)
 LINKAUTH オプション
 CEMENT INQUIRE IPCONN コマンド [166](#)
 LINKSYSNET
 CEMENT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 LINKSYSTEM
 CEMENT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 List
 リソース ID の [54](#)
 LOAD
 CEMENT INQUIRE FILE [156](#)
 CEMENT SET FILE [379](#)
 LOADTYPE
 CEMENT INQUIRE FILE [156](#)
 LOCAL
 CEMENT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMENT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMENT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMENT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMENT INQUIRE TRDUMPCODE [281](#)
 CEMENT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMENT SET TRDUMPCODE [431](#)

LOCATION
 CEMENT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 CEMENT INQUIRE URIMAP [314](#)
 CEMENT SET URIMAP [435](#)
 LOCKING
 CEMENT SET FILE [379](#)
 LOG
 CEMENT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 LOGDEFER
 CEMENT SET SYSTEM [416](#)
 LOGREPSTATUS
 CEMENT INQUIRE DSNAME [127](#)
 LOSTLOCKS
 CEMENT INQUIRE DSNAME [128](#)
 LOW
 CEMENT INQUIRE DB2CONN [97](#), [110](#)
 CEMENT SET DB2ENTRY [361](#)
 LSRPOOL
 CEMENT PERFORM STATISTICS [337](#)
 LTPNAME
 CEMENT INQUIRE PARTNER [206](#)
 LU61
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [307](#)

M

MAIN
 CEMENT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 MAJORVERSION
 CEMENT INQUIRE BUNDLE [86](#)
 MANUAL
 CEMENT SET TAKEOVER [26](#)
 Mappinglevel
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [322](#)
 MAPPINGLEVEL
 CEMENT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)
 MAPSET
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 MAXACTIVE
 CEMENT INQUIRE TCLASS [249](#)
 CEMENT SET TCLASS [420](#)
 MAXDATALEN
 CEMENT SET TCIPSERVICE [422](#)
 INQUIRE TCIPSERVICE [256](#)
 MAXHEAP
 CEMENT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 MAXIMUM
 CEMENT INQUIRE AUTOINSTALL [77](#)
 CEMENT INQUIRE MODENAME [187](#)
 CEMENT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMENT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMENT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMENT SET TRDUMPCODE [431](#)
 MAXITEMLEN
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 MAXNUMRECS
 CEMENT INQUIRE FILE [156](#)
 CEMENT SET FILE [379](#)
 MAXOPENTCBS
 CEMENT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 CEMENT SET DISPATCHER [365](#)

MAXPERSIST
 INQUIRE TCIPSERVICE [256](#)
 MAXQTIME
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
 MAXREQS
 CEMT SET AUTOINSTALL [342](#)
 MAXSOCKETS
 CEMT INQUIRE TCPIP [250](#)
 CEMT SET TCPIP [421](#)
 MAXSSLTCS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 MAXTASKS
 CEMT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#)
 MAXTHRDTCBS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [114](#)
 MAXXPTCBS
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 MEDIATYPE
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 MEMBER
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 MEMBERNAME
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 MEMLIMIT
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 MENU トランザクション [531](#)
 MESSAGE HAS BEEN ROUTED
 CMMSG [488](#)
 MESSCHN
 CSPG [508](#)
 MICROVERSION
 CEMT INQUIRE BUNDLE [86](#)
 MINITEMLEN
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 MINORVERSION
 CEMT INQUIRE BUNDLE [86](#)
 Minrunlevel
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [322](#)
 MINRUNLEVEL
 CEMT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)
 MIRRORLIFE
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
 MM/DD
 CMMSG [479](#)
 MM/DD/YY
 CMMSG [479](#)
 MM/DD/YYYY
 CMMSG [479](#)
 MNPS
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 MOD
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 MODE
 CEMT INQUIRE PIPELINE [208](#)
 MODENAME
 CEMT INQUIRE MODENAME [187](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [185](#)
 CEMT SET トランザクション [392](#)
 MODENAME、CEMT 要求 [392](#)
 MONITOR

MONITOR (続き)
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [187](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET トランザクション [393](#)
 MQCONN
 CEMT DISCARD [68](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [190](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET MQCONN [396](#)
 MQMONITOR
 CEMT INQUIRE トランザクション [193](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET MQMONITOR [398](#)
 MQNAME
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CEMT SET MQCONN [396](#)
 MQQMGR
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 MQRELEASE
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 MROBATCH
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 CEMT SET SYSTEM [416](#)
 MSG
 CMMSG [479](#), [488](#)
 MSG NOT SENT - NO RECEIVER
 CMMSG [488](#)
 MSGCOPY
 CSPG [512](#)
 MSGQUEUE1
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 MSGQUEUE2
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 MSGQUEUE3
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 MSGTERM
 CSPG [511](#)
 MTOMNOXOPST
 CEMT INQUIRE PIPELINE [208](#)
 MTOMST
 CEMT INQUIRE PIPELINE [208](#)
 MVS
 CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)

N

N906D
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 NAME
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [119](#)
 NAMEIND
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 NAMESPACE
 CEMT INQUIRE BRFACTILITY [82](#)
 NATLANG、システム 初期設定パラメーター [451](#)
 NATURE

NATURE (続き)
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 NEED OPCLASS OR ROUTE
 CMMSG [488](#)
 NET
 CEOT [442](#)
 NETID
 CEMT PERFORM ENDAFFINITY [329](#)
 NETNAME
 CEMT INQUIRE BRFACTILITY [82](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE PARTNER [206](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT INQUIRE UOW [293](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [197](#)
 CEMT PERFORM ENDAFFINITY [329](#)
 CEMT SET トランザクション [399](#)
 NETUOWID
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOW [293](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 NETWORK
 CEMT INQUIRE PARTNER [206](#)
 NEWCOPY
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET DOCTEMPLATE [366](#)
 CEMT SET PROGRAM [407](#)
 NEWPS [451](#)
 NEXT
 CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEBT SET AUXTRACE [23](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 CEMT SET AUXTRACE [342](#)
 NEXTTIME
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#)
 CEMT SET STATISTICS [408](#)
 NO
 CMMSG [479](#)
 NO INPUT - REENTER
 CMMSG [488](#)
 NO MESSAGE PROVIDED
 CMMSG [488](#)
 NO MSG STRT QUOT AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 NO TERM LIST TBL-XX
 CMMSG [488](#)
 NO TRMID FOR LDC AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 NOADDABLE
 CEMT INQUIRE FILE [153](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
 NOANALYZER
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 NOAPPLNAME
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 NOATI
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [267](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)

NOATI (続き)
 CEOT [442](#)
 NOAUTHENTIC
 CEMT INQUIRE URIMAP [311](#)
 NOAUTOSWITCH
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT SET DUMP [24](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 NOBROWSE
 CEMT INQUIRE FILE [153](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
 NOCEDF
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET PROGRAM [407](#)
 NOCMDPROT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [236](#)
 NOCOMPRESS
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 NOCONNECT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 NOCONVERSE
 CEMT INQUIRE MONITOR [188](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 NOCREATE
 CEMT INQUIRE NETNAME [199](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [427](#)
 NODAE
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [233](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 NODEBUG
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 NODEHOME
 CEMT INQUIRE NODEJSAPP [204](#)
 NODELETE
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
 NOEMPTYREQ
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT SET FILE [379](#)
 NOEXCEPT
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 NOEXCLUSIVE
 CEMT INQUIRE FILE [155](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 NOFORCE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [237](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 NOIDENTY
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 NOISOLATE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
 NOLOAD
 CEMT INQUIRE FILE [156](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 NOLOSTLOCKS
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 NONE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)

NONE (続き)
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 CEMT SET URIMAP [434](#)

NONTERMREL
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)

NOPERF
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)

NOPS
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)

NOREAD
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT SET FILE [380](#)

NORECOVDATA
 CEMT INQUIRE CONNECTION [95](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 CEMT SET CONNECTION [348](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)

NOREENTPROT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)

NORELEASE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)

NORESRC
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)

NORESTART
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)

NORESVC
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)

NORETAINED
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)

NORMI
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)

NOROLLBACK
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)

NOSDTRAN
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)

NOSECURITY
 CEMT INQUIRE TSMODEL [286](#)

NOSHUTDOWN
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)

NOSWITCH
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEMT SET AUXTRACE [23](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 CEMT SET AUXTRACE [342](#)

NOSYNCPPOINT
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)

NOSYSDUMP
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [235](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)

NOSYSLOG

NOSYSLOG (続き)
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)

NOTAPPLIC
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 CEMT INQUIRE DSNAME [127](#)
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [274](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [312](#)

NOTCONNECTED
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)

NOTDEFINED
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

NOTDYNAMIC
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

NOTEXTENDED
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)

NOTPENDING
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
 CEMT SET CONNECTION [349](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)

NOTPURGEABLE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 CEMT SET TRANSACTION [429](#)

NOTRANDUMP
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)

NOTRECOVERABLE
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)

NOTREQUIRED
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

NOTRLS
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [300](#)
 CEMT SET FILE [380](#)

NOTROUTABLE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)

NOTSOS
 CEMT INQUIRE DSAS [121, 122, 240](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)

NOTSUPPORTED
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)

NOTTABLE
 CEMT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMT SET FILE [380](#)

NOTTI
 CEMT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [271](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 CEOT [442](#)

NOTWAIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [362](#)

NOUPDATE
 CEMT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMT SET FILE [380](#)

NOWAIT

NOWAIT (続き)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 NQNAME
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 NRS
 CEMT INQUIRE CONNECTION [95](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 NUMBER
 CEMT INQUIRE LINE [185](#)
 CEMT SET LINE [392](#)
 NUMDSNAMES オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [183](#)
 NUMITEMS
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)

O

OBJECT
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 OBTAINING
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 OCCUPANCY
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 OFF
 CEBT SET SURVEILLANCE [26](#)
 CEDF [37](#)
 CEDX [41](#)
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
 CEMT SET STATISTICS [410](#)
 CSFE SPOOLFE [500](#)
 CSFE ZCQTRACE [500](#)
 OK
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 OLD
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 ON
 CEBT SET SURVEILLANCE [26](#)
 CEDF [37](#)
 CEDX [41](#)
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 CEMT SET STATISTICS [410](#)
 CSFE SPOOLFE [500](#)
 OPCLASS
 CMSG [479](#)
 OPCLASS NOT 1-24 AT XXXXX
 CMSG [488](#)
 OPEN
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT SET DUMP [24](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT INQUIRE FILE [156](#)

OPEN (続き)
 CEMT INQUIRE IRC [170](#)
 CEMT INQUIRE RRMS [225](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 CEMT SET IRC [387](#)
 CEMT SET VTAM [436](#)
 OPENAPI
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 OPENERERROR
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 OPENSTATUS
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT INQUIRE FILE [156](#)
 CEMT INQUIRE IRC [170](#)
 CEMT INQUIRE RRMS [225](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT INQUIRE WLMHEALTH [325](#), [439](#)
 CEMT SET TCPIP [420](#)
 CEMT SET TCPIPSERVICE [422](#)
 OPERATION
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
 OPERATION オプション
 CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [314](#)
 OPERATORS NOT SIGNDON NNN
 CMSG [488](#)
 OPID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [108](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 CMSG [479](#)
 OPRTR ID NOT SIGNDON /XXX
 CMSG [488](#)
 OREN トランザクション [531](#)
 OREQ トランザクション [531](#)
 OSLEVEL
 CEMT INQUIRE SYSTEM [238](#)
 OTSTID
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 OTSTIMEOUT
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
 OUTPUT
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 OUTSERVICE
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT SET CONNECTION [349](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)
 CEMT SET LINE [392](#)
 CEMT SET NETNAME [401](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 OWNER
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)

P

PADD トランザクション [531](#)
PAG
 CEOT [442](#)
PAGEABLE
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT SET NETNAME [402](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 CEOT [443](#)
PAGESTATUS
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
PARAMETERS
 CSPG [508](#)
PARTCOUNT
 CEMT INQUIRE BUNDLE [86](#)
PARTITIONSET
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
PARTNER
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
 CEMT INQUIRE PARTNER [206](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [205](#)
PATH
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
PAUSE
 CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEBT SET AUXTRACE [23](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [78](#)
 CEMT SET AUXTRACE [342](#)
PBRW トランザクション [531](#)
PENDING
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
PENDSTATUS
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [167](#)
PERF
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
PERFCLASS
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
PERFORM, CEBT
 SHUTDOWN [27](#)
 SNAP [27](#)
 TAKEOVER [27](#)
PERFORM, CEMT
 RESET [332](#)
 SECURITY [332](#)
 SHUTDOWN [332](#)
 SSL [334](#)
 STATISTICS [335](#)
PERMANENT
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMT SET URIMAP [435](#)
PGCHAIN、システム 初期設定パラメーター [505](#), [508](#)
PGCOPY、システム 初期設定パラメーター [505](#), [512](#)
PGMINTERFACE
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [322](#)
PGPURGE、システム 初期設定パラメーター [505](#), [511](#)
PGRET、システム 初期設定パラメーター [505](#), [508](#)

PHASEIN
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)
 CEMT SET PROGRAM [407](#)
PID
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 CEMT INQUIRE NODEJSAPP [204](#)
PINQ トランザクション [531](#)
PIPELINE
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMT INQUIRE WEBSERVICE [322](#)
 CEMT PERFORM PIPELINE [331](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET PIPELINE [402](#)
 CEMT トランザクション [331](#)
PLAN
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
PLANEXITNAME
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
CONNECT
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
EQUAL
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
HIGH
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
LOW
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
NOCONNECT
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
NORESYNC
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
NOTWAIT
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
PRIORITY
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
PURGECYCLEM
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
PURGECYCLES
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
REBUILD
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
RECONNECT
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
RESYNC
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
RESYNCMEMBER
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
REUSELIMIT
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
SECURITY
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
SIGNID
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
STANDBYMODE
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
STATSQUEUE
 CEMT SET DB2CONN [350](#)

PLANEXITNAME (続き)

- TCBLIMIT
 - CEMT SET DB2CONN [350](#)
- THREADLIMIT
 - CEMT SET DB2CONN [350](#)
- THREADWAIT
 - CEMT SET DB2CONN [350](#)
- TWAIT
 - CEMT SET DB2CONN [350](#)
- PLATFORM
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 - CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
- PLATFORM オプション
 - CEMT INQUIRE URIMAP コマンド [314](#)
- PLI
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
- PLIC トランザクション [531](#)
- PLIE トランザクション [531](#)
- PLT
 - CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)
- PLTNAME
 - CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)
- PMNU トランザクション [531](#)
- POOL
 - CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
- POOLNAME
 - CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 - CEMT INQUIRE TSQUEUE [288](#)
 - CEMT SET TSQUEUE [432](#)
- PORD トランザクション [531](#)
- PORQ トランザクション [531](#)
- PORT
 - CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 - CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
- PPKO トランザクション [531](#)
- PPLA トランザクション [532](#)
- PREFIX
 - CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 - CMSG [479](#)
- PREP トランザクション [532](#)
- PRFILE
 - CEMT INQUIRE TRANSACTION [276](#)
- PRGDLAY、システム 初期設定パラメーター [479](#)
- PRI
 - CEOT [442](#)
- PRINT
 - CSFE [499](#)
- PRIORITY
 - CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 - CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 - CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 - CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 - CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 - CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 - CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 - CEMT SET NETNAME [402](#)
 - CEMT SET TASK [419](#)
 - CEMT SET TERMINAL [428](#)
 - CEMT SET TRANSACTION [430](#)
- PRIVATE
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 - CEMT SET PROGRAM [408](#)
- PROCESS
 - CEMT INQUIRE TASK [245](#)

PROCESS (続き)

- CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)
- PROCESSTYPE
 - CEMT DISCARD [69](#)
 - CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 - CEMT SET トランザクション [403](#)
- PROFILE
 - CEMT DISCARD [69](#)
 - CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 - CEMT INQUIRE NODEJSAPP [204](#)
 - CEMT INQUIRE PARTNER [206](#)
 - CEMT INQUIRE PROFILE [215](#)
 - CEMT INQUIRE トランザクション [213](#)
- PROFIEDIR
 - CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
- PROGAUTO
 - CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
- PROGAUTOCTLG
 - CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 - CEMT SET SYSTEM [415](#)
- PROGAUTOEXIT
 - CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 - CEMT SET SYSTEM [417](#)
- PROGAUTOINST
 - CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 - CEMT SET SYSTEM [415](#)
- PROGRAM
 - CEMT DISCARD [69](#)
 - CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 - CEMT INQUIRE AUTOINSTALL [77](#)
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 - CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 - CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 - CEMT INQUIRE WEBSERVICE [323](#)
 - CEMT INQUIRE トランザクション [215](#)
 - CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 - CEMT SET AUTOINSTALL [342](#)
 - CEMT SET PROGRAM [405](#)
 - CEMT SET トランザクション [405](#)
- PROGRAMDEF
 - CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
- PROGTYPE
 - CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
- PROTECT
 - CMSG [479](#)
- PROTECT OPND NOT 1-2 CHAR
 - CMSG [488](#)
- PROTECTNUM
 - CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 - CEMT SET DB2ENTRY [362](#)
- PROTOCOL
 - CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 - CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
- PS
 - CESN [452](#)
- PSDINTERVAL
 - CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 - CEMT SET VTAM [436](#)
- PSTYPE
 - CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
- PTHREADS
 - CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
- PUDP トランザクション [532](#)
- PURGE

PURGE (続き)
 CEKL SET TASK [47](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT SET CONNECTION [350](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)
 CEMT SET LINE [392](#)
 CEMT SET NETNAME [402](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 PURGEABILITY
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 PURGEABLE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 CEMT SET TRANSACTION [430](#)
 PURGECYCLEM
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 PURGECYCLES
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 PURGETHRESH
 CEMT INQUIRE TCLASS [249](#)
 CEMT SET TCLASS [420](#)
 PURGETYPE
 CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)

Q

Q
 QCSPG [508](#)
 QD
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 QLEN
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)
 QNAME
 CEMT INQUIRE MQCONN [193](#)
 QR
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 QUALIFIER
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [302](#)
 QUASIRENT
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 QUEUE
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT SET トランザクション [408](#)
 QUEUED
 CEMT INQUIRE TCLASS [249](#)
 QUEUELIMIT
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 QUIESCED
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 CEMT SET DSNAME [370](#)
 QUIESCESTATE
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)

R

RACF リソース・プロファイル [332](#)

RANKING オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [183](#)
 SET LIBRARY コマンド [391](#)
 RBATYPE
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 RCONNECTION
 CEMT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 RDBACK
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 RDO (オンライン・リソース定義) [31](#)
 RDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 READ
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 READSTATUS
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 REASON
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [298](#)
 REBUILD
 CEMT PERFORM SECURITY [332](#)
 CEMT PERFORM SSL [335](#)
 RECEIVECOUNT
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 RECONNECT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 RECORD
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 RECORDING
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#)
 RECORDNOW
 CEMT SET STATISTICS [410](#)
 RECORDSIZE
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 RECOVDATA
 CEMT INQUIRE CONNECTION [95](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 RECOVERABLE
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 RECOVERED
 CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)
 CEMT SET DSNAME [370](#)
 RECOVERLOCKS
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 RECOVERY
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 RECOVSTATUS
 CEMT INQUIRE CONNECTION [95](#)
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [290](#)
 REDIRECTTYPE
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 REENTPROT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 REENTPROTECT
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 REGISTERED
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)

REJECT
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 RELATED
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [281](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 RELATION
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 RELEASE
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [239](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 RELEASED
 CEMT INQUIRE CONNECTION [92](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [165](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT SET BRFACILITY [344](#)
 CEMT SET CONNECTION [350](#)
 CEMT SET IPCONN [385](#)
 CEMT SET NETNAME [402](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 REMLOSTLOCKS
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 REMOTE
 CEMT INQUIRE FILE [153](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [264](#)
 REMOTEPREFIX
 CEMT INQUIRE TSMODEL [285](#)
 REMOTESYSNET
 CEMT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 REMOTESYSTEM
 CEMT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [286](#)
 REMOVE
 CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [232](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [280](#)
 CEMT SET DSNAME [370](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 REPT トランザクション [532](#)
 REQUIRED
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 RESCOUNT
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 RESET
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT INQUIRE STATISTICS [227](#), [228](#)
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [232](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [280](#)
 CEMT PERFORM RESET [332](#)
 CEMT SET JOURNALNAME [388](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 RESETLOCKS
 CEMT INQUIRE DSNAME [125](#)
 CEMT SET DSNAME [370](#)
 RESETNOW
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET STATISTICS [410](#)
 RESOURCE
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 RESOURCENAME
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 RESOURCETYPE
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 RESPWAIT
 CEMT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 CEMT SET PIPELINE [403](#)
 RESRCE
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 RESRCECLASS
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 RESYNC
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT SET CONNECTION [350](#)
 CEMT SET IPCONN [386](#)
 RESYNCMEMBER
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 CEMT SET MQCONN [396](#)
 RESYNSTATUS
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 RETAINED
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 RETLOCKS
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 RETRY
 CEMT INQUIRE DSNAME [126](#)
 CEMT SET DSNAME [371](#)
 REUSELIMIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 RLEN
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 rls
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [299](#)
 RLS
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 RLSACCESS
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [299](#)
 RLSGONE
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [299](#)
 RLSSERVER
 CEMT INQUIRE UOW [295](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)
 RMI
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 RMIQFY
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 RMIST
 CEMT INQUIRE MONITOR [189](#)
 RNAME

RNAME (続き)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 RNETNAME
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 ROLE
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 ROLLBACK
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
 ROUTABLE
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 ROUTE
 CMSG [479](#), [488](#)
 ROUTE INVALID AT XXXXX
 CMSG [488](#)
 ROUTSTATUS
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 RRCOMMITFAIL
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [299](#)
 RRINDOUBT
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [299](#)
 RRMS
 CEMT INQUIRE UOW [295](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [224](#)
 RSESSION
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 RTERMINAL
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [268](#)
 RUNAWAY
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 RUNNING
 CEKL INQUIRE TASK [44](#)
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 RUNSTATUS
 CEMT INQUIRE TASK [245](#)
 RUNTIME
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)

S

S へ
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 SCAN
 CEMT PERFORM PIPELINE [331](#)
 SCANDELAY
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 SCHEME
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 SD
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 SDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
 SDTRAN

SDTRAN (続き)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [333](#)
 SEARCHPOS オプション
 INQUIRE LIBRARY コマンド [184](#)
 SECURITY
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [286](#)
 SECURITYNAME
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 SECURITYST
 CEMT INQUIRE TSMODEL [286](#)
 SEND
 CMSG [479](#)
 SENDCOUNT
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 SENDMTOMST
 CEMT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 SERVER
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 SERVICE
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [72](#)
 SERVSTATUS
 CEMT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [168](#)
 CEMT INQUIRE LINE [185](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 SESSION
 CEMT INQUIRE NETNAME [200](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [269](#)
 SESSIONID
 CEDF [37](#)
 SHARE
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 SHARED
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMT SET PROGRAM [408](#)
 SHARESTATUS
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 SHELF
 CEMT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 SHR
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [261](#)
 SHUNTED
 CEMT INQUIRE UOW [295](#)
 SHUTDOWN
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [431](#)
 SHUTOPTION
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 SIGN
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 SIGNID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 SIZE
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [119](#)
 SKR (単一キー・ストローク検索) [507](#)

SKRxxxx、システム 初期設定パラメーター [507](#)

SMF

- CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
- CEMT INQUIRE JOURNALNAME [176](#)

SNAP

- CEMT PERFORM DUMP [328](#)
- CEMT トランザクション [328](#)

SNAP コマンド

- CEBT トランザクション [27](#)

SNPS

- CEMT INQUIRE VTAM [317](#)

SOAPlevel

- CEMT INQUIRE PIPELINE [209](#)

SOCKETCLOSE オプション

- INQUIRE URIMAP コマンド [315](#)

SOCKPOOLSIZE オプション

- INQUIRE URIMAP コマンド [315](#)

SOS

- CEMT INQUIRE DSAS [121](#), [122](#), [240](#)
- CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)

SOSABOVEBAR

- CEMT INQUIRE DSAS [121](#), [240](#)

SOSABOVELINE

- CEMT INQUIRE DSAS [121](#)
- CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)

SOSBELOWLINE

- CEMT INQUIRE DSAS [122](#)
- CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)

SPACE MUST FOLLOW TRANSID

- CMSG [488](#)

SPOOLFE

- CSFE [500](#)

SQLCODE

- CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
- CEMT INQUIRE DB2ENTRY [109](#)
- CEMT SET DB2CONN [350](#)
- CEMT SET DB2ENTRY [361](#)

SSL [334](#)

SSL の証明書のリフレッシュ [334](#)

SSLTYPE オプション

- CEMT INQUIRE IPCONN コマンド [168](#)

STANDBYMODE

- CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)

START

- CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
- CEBT INQUIRE GTFTRACE [21](#)
- CEBT INQUIRE INTTRACE [22](#)
- CEBT SET AUXTRACE [23](#)
- CEBT SET GTFTRACE [25](#)
- CEBT SET INTTRACE [25](#)
- CEMT INQUIRE AUXTRACE [78](#)
- CEMT INQUIRE GTFTRACE [159](#)
- CEMT INQUIRE INTTRACE [161](#)
- CEMT SET AUXTRACE [343](#)
- CEMT SET EVENTPROCESS [375](#)
- CEMT SET GTFTRACE [381](#)
- CEMT SET INTTRACE [382](#)

STARTCODE

- CEMT INQUIRE TASK [245](#)

STARTING

- CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)

STARTSCRIPT

- CEMT INQUIRE NODEJSAPP [204](#), [205](#)

STATE

STATE (続き)

- CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
- CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)

STATIC

- CEMT INQUIRE DSNAME [126](#)

STATISTICS

- CEMT INQUIRE STATISTICS [228](#)
- CEMT INQUIRE トランザクション [225](#)
- CEMT PERFORM [335](#)
- CEMT SET トランザクション [408](#)

STATS

- CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)

STATSQUEUE

- CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)

status

- ハードコピー 端末 [512](#)
- 標識 [488](#)

STATUS

- CEMT INQUIRE AUXTRACE [78](#)
- CEMT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
- CEMT INQUIRE GTFTRACE [159](#), [161](#)
- CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
- CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
- CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
- CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)
- CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)

STDERR

- CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)

STDOUT

- CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)

STOP

- CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
- CEBT SET AUXTRACE [23](#)
- CEBT SET GTFTRACE [25](#)
- CEBT SET INTTRACE [26](#)
- CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
- CEMT INQUIRE GTFTRACE [159](#)
- CEMT INQUIRE INTTRACE [161](#)
- CEMT SET AUXTRACE [343](#)
- CEMT SET EVENTPROCESS [375](#)
- CEMT SET GTFTRACE [381](#)
- CEMT SET INTTRACE [383](#)

STOPPED

- CEBT INQUIRE GTFTRACE [21](#)
- CEBT INQUIRE INTTRACE [22](#)

STORAGE

- CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)

STOREPROTECT

- CEMT INQUIRE SYSTEM [240](#)

STREAMNAME

- CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
- CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
- CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)
- CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
- CEMT トランザクション [228](#)

SUBORDINATE

- CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)

SUBTASKS

- CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)

SURVEILLANCE

- CEBT トランザクション [22](#), [26](#)

SUSPENDED

- CEKL INQUIRE TASK [44](#)
- CEMT INQUIRE TASK [245](#)

SWITCH
 CEBT INQUIRE AUXTRACE [20](#)
 CEBT INQUIRE DUMP [21](#)
 CEBT SET AUXTRACE [23](#)
 CEBT SET DUMP [24](#)
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 CEMT SET AUXTRACE [343](#)
 CEMT SET DUMPDS [372](#)
 SWITCHACTION
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 SWITCHSTATUS
 CEMT INQUIRE AUXTRACE [79](#)
 CEMT INQUIRE DUMPDS [131](#)
 SYDUMPCODE
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [234](#)
 CEMT SET トランザクション [410](#)
 CEMT トランザクション [229](#)
 SYNCPOINT
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 SYNCPOINTST
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 SYSDUMP
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [235](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET SYDUMPCODE [413](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [432](#)
 SYSDUMPING
 CEMT INQUIRE SYDUMPCODE [235](#)
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 SYSID
 CEDF [37](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [288](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [300](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMT SET TSQUEUE [432](#)
 SYSLOG
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)
 SYSTEM
 CEMT INQUIRE トランザクション [235](#)
 CEMT SET トランザクション [413](#)
 SYSTEMLOG
 CEMT INQUIRE STREAMNAME [229](#)

T

Tab キー [55](#)
 TABLE
 CEMT INQUIRE FILE [157](#)
 TABLEMGR
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 TABLENAM
 CEMT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMT SET FILE [380](#)
 TABLEONLY
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 TAKEOVER
 CEBT [22](#)
 CEBT トランザクション [26, 27](#)
 CEMT PERFORM SHUTDOWN [334](#)

TARGETCOUNT
 CEMT INQUIRE BUNDLE [86](#)
 TASK
 CEKL SET トランザクション [46](#)
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT INQUIRE EXCI [149](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TASK [244, 246](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 CEMT SET トランザクション [418](#)
 TASK コマンド
 CEKL INQUIRE トランザクション [43](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [241](#)
 TASKDATAKEY
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [277](#)
 TASKDATALOC
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 TASKID
 CEMT INQUIRE BRFCAPABILITY [82](#)
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 TASKS
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 TCB
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 TCBLIMIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 TCLASS
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE TASK [242](#)
 CEMT INQUIRE TCLASS [249](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [247](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET TRANSACTION [430](#)
 CEMT SET トランザクション [419](#)
 TCP/IP サービス、CEMT 要求 [249, 251](#)
 TCPIP
 CEMT INQUIRE トランザクション [249](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET トランザクション [420](#)
 TCPIP、CEMT 要求 [421](#)
 TCPIPService
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE HOST [160](#)
 CEMT INQUIRE IPCONN [169](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [251](#)
 CEMT SET HOST [382](#)
 CEMT SET トランザクション [421](#)
 TCPipService
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 TDQ
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [304](#)
 TDQUEUE
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [257](#)

TDQUEUE (続き)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET トランザクション [423](#)
 TDWT トランザクション [532](#)
 TEMPLATENAME
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [119](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 TEMPLATETYPE
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [119](#)
 TEMPORARY
 CEMT INQUIRE URIMAP [314](#)
 CEMT SET URIMAP [435](#)
 TEMPSTORAGE
 CEMT INQUIRE トランザクション [264](#)
 CEMT SET トランザクション [425](#)
 TER
 CEOT [442](#)
 TERM
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [108](#)
 CEMT INQUIRE TASK [244](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 TERMID
 CEDF [37](#)
 CEMT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CMMSG [479](#)
 CSFE ZCQTRACE [500](#)
 TERMID GT 4 CHAR AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 TERMID NOT +/- AT xxxxx
 CMMSG [488](#)
 TERMID*LDC
 CMMSG [486](#)
 TERMID/OPID
 CMMSG [479](#)
 TERMINAL
 CEMT DISCARD [69](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [265](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)
 CEMT SET トランザクション [425](#)
 TERMINATED BY OPERATOR
 CMMSG [488](#)
 TERMLIST
 CMMSG [479](#)
 TERMLIST*LDC
 CMMSG [486](#)
 TERMSTATUS
 CEMT INQUIRE BRFACILITY [82](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [201](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [270](#)
 THREADCOUNT
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 THREADERROR
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 THREADLIMIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [362](#)

THREADS
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 THREADSAFE
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 THREADWAIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [362](#)
 TIME
 CEMT INQUIRE DISPATCHER [115](#)
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT INQUIRE SYSTEM [241](#)
 CEMT SET DISPATCHER [365](#)
 CEMT SET SYSTEM [417](#)
 CMMSG [479](#)
 TIME ALREADY PASSED
 CMMSG [488](#)
 TIME INVALID AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 TIME NOT 4 CHARS AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 TIMEOUTINT
 CEMT INQUIRE WEB [318](#)
 CEMT SET WEB [437](#)
 TITLE
 CEMT PERFORM DUMP [328](#)
 TO
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 TOO MANY TBL SFX AT XXXXX
 CMMSG [488](#)
 TP
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 TPNAME
 CEMT INQUIRE PARTNER [206](#)
 TPOOL
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [362](#)
 TRA
 CEOT [442](#)
 TRACE
 CEMT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 TRANClass
 CEKL INQUIRE TASK [44](#)
 TRANDUMP
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 CEMT SET TRDUMPCODE [432](#)
 TRANDUMPING
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [282](#)
 TRANID
 CEDX [41](#)
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 TRANISOLATE
 CEMT INQUIRE SYSTEM [241](#)
 TRANSACTION
 CEMT DISCARD [70](#)
 CEMT INQUIRE BRFACILITY [83](#)
 CEMT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [271](#)
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 CEMT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [271](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [338](#)

TRANSACTION (続き)
 CEMT SET トランザクション [428](#)
 TRANSID
 CEKL INQUIRE TASK [44](#)
 CEMT INQUIRE DB2TRAN [112](#)
 CEMT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [291](#)
 CEMT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 CEMT SET DB2TRAN [363](#)
 TRANSMODE
 CEMT INQUIRE EPADAPTER [143](#)
 TRDUMP
 CEMT PERFORM STATISTICS [339](#)
 TRDUMPCODE
 CEMT INQUIRE TRDUMPCODE [283](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [278](#)
 CEMT SET トランザクション [430](#)
 TRIGGERLEVEL
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 TRIGMONTASKS
 CEMT INQUIRE MQCONN [190](#)
 TRPROF
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 TSMMAINUSE
 CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE [264](#)
 TSMMAINLIMIT
 CEMT INQUIRE TEMPSTORAGE [264](#)
 TSMODEL
 CEMT DISCARD [70](#)
 CEMT INQUIRE TSMODEL [286](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [283](#)
 TSPool
 CEMT INQUIRE TSPool [287](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [286](#)
 TSQ
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [304](#)
 TSQNAME
 CEMT INQUIRE トランザクション [287](#)
 TSQUEUE
 CEMT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 CEMT INQUIRE TSQUEUE [291](#)
 CEMT INQUIRE トランザクション [287](#)
 CEMT PERFORM STATISTICS [339](#)
 CEMT SET TSQUEUE [432](#)
 CEMT SET トランザクション [432](#)
 TSQUEUELIMIT
 CEMT INQUIRE MONITOR [190](#)
 CEMT SET MONITOR [396](#)
 TTI
 CEMT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [271](#)
 CEMT SET NETNAME [402](#)
 CEMT SET TERMINAL [428](#)
 CEOT [442](#), [443](#)
 TTISTATUS
 CEMT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMT INQUIRE TERMINAL [271](#)
 TTTT
 CSPG [512](#)
 TWAIT
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [110](#)

TWAIT (続き)
 CEMT SET DB2ENTRY [362](#)
 TX
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [108](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [361](#)
 TXID
 CEMT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMT SET DB2CONN [350](#)
 CEMT SET DB2ENTRY [360](#)
 TYPE
 CEMT INQUIRE DOCTEMPLATE [119](#)
 CEMT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMT INQUIRE JMODEL [173](#)
 CEMT INQUIRE JOURNALNAME [175](#)
 CEMT INQUIRE TDQUEUE [263](#)
 CEMT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 U
 U
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 UDATAKEY
 CEMT INQUIRE TRANSACTION [278](#)
 UDSASIZE
 CEMT INQUIRE DSAS [122](#)
 UEXECKEY
 CEMT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 UKOPEN
 CEMT INQUIRE TASK [246](#)
 UNATTEMPTED
 CEMT INQUIRE CONNECTION [93](#)
 UNAVAILABLE
 CEMT INQUIRE DSNAME [126](#)
 CEMT INQUIRE RRMS [225](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 CEMT SET BUNDLE [345](#)
 CEMT SET DSNAME [371](#)
 UNBALANCD PARENS AT XXXXX
 CMSG [488](#)
 UNCONNECTED
 CEMT INQUIRE TSPool [287](#)
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 UNDEFINED
 CEMT INQUIRE UOWDSNFAIL [297](#)
 UNDETERMINED
 CEMT INQUIRE DSNAME [129](#)
 UNENABLED
 CEMT INQUIRE FILE [154](#)
 UNKNOWN
 CEMT INQUIRE UOWLINK [307](#)
 UNQUIESCED
 CEMT INQUIRE DSNAME [128](#)
 CEMT SET DSNAME [371](#)
 UNREGISTERED
 CEMT INQUIRE VTAM [317](#)
 UNSUP OPRT TRMNL XXXXXXXXX
 CMSG [488](#)
 UNSUP TERMINAL XXXXXXXXX
 CMSG [488](#)

UOW
 CEMENT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMENT INQUIRE DB2ENTRY [107](#)
 CEMENT INQUIRE ENQ [135](#)
 CEMENT INQUIRE TASK [246](#)
 CEMENT INQUIRE UOW [294](#)
 CEMENT INQUIRE UOWDSNFAIL [300](#)
 CEMENT INQUIRE UOWENQ [304](#)
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMENT SET DB2CONN [350](#)
 CEMENT SET トランザクション [433](#)
 CEMENT トランザクション [291](#)

UOWACTION
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 CEMENT INQUIRE DSNAME [129](#)

UOWDSNFAIL
 CEMENT INQUIRE UOWDSNFAIL [300](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [295](#)

UOWENQ
 CEMENT トランザクション [300](#)

UOWLINK
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [308](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [304](#)
 CEMENT SET トランザクション [433](#)

UOWSTATE
 CEMENT INQUIRE UOW [294](#)

UPDATE
 CEMENT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMENT SET FILE [380](#)

UPDATEMODEL
 CEMENT INQUIRE FILE [158](#)

UPDATESTATUS
 CEMENT INQUIRE FILE [158](#)

UPDT トランザクション [532](#)

URID
 CEMENT INQUIRE EXCI [149](#)
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [308](#)

URIMAP
 CEMENT DISCARD [70](#)
 CEMENT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [323](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [308](#)
 CEMENT PERFORM STATISTICS [339](#)
 CEMENT SET トランザクション [434](#)

URM
 CEMENT SET TCPIPSERVICE [423](#)

USAGE
 CEMENT INQUIRE URIMAP [315](#)

USECOUNT
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMENT INQUIRE STREAMNAME [229](#)

USERAUTH オプション
 CEMENT INQUIRE IPCONN コマンド [169](#)

USERID
 CEMENT INQUIRE BRFACILITY [83](#)
 CEMENT INQUIRE DB2CONN [97](#)
 CEMENT INQUIRE DB2ENTRY [108](#)
 CEMENT INQUIRE NETNAME [202](#)
 CEMENT INQUIRE TASK [246](#)
 CEMENT INQUIRE TDQUEUE [264](#)
 CEMENT INQUIRE TERMINAL [271](#)
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 CEMENT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMENT SET DB2CONN [350](#)

USERID (続き)
 CEMENT SET DB2ENTRY [361](#)

USERTABLE
 CEMENT INQUIRE FILE [158](#)
 CEMENT SET FILE [380](#)

V

VALID
 CEMENT INQUIRE DSNAME [130](#)

VALIDATIONST
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [323](#), [438](#)
 CEMENT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)
 CEMENT SET XMLTRANSFORM [440](#)

VALIDITY
 CEMENT INQUIRE DSNAME [130](#)

value
 CEKL SET TASK [47](#)
 CEMENT INQUIRE BRFACILITY [81](#)
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [88](#)
 CEMENT INQUIRE DSNAME [122](#)
 CEMENT INQUIRE FILE [150](#)
 CEMENT INQUIRE HOST [160](#)
 CEMENT INQUIRE IPCONN [162](#)
 CEMENT INQUIRE MODENAME [185](#)
 CEMENT INQUIRE NETNAME [197](#)
 CEMENT INQUIRE PARTNER [205](#)
 CEMENT INQUIRE PROFILE [213](#)
 CEMENT INQUIRE PROGRAM [215](#)
 CEMENT INQUIRE STREAMNAME [228](#)
 CEMENT INQUIRE SYDUMPCODE [230](#)
 CEMENT INQUIRE TASK [241](#)
 CEMENT INQUIRE TCLASS [247](#)
 CEMENT INQUIRE TDQUEUE [258](#)
 CEMENT INQUIRE TERMINAL [265](#)
 CEMENT INQUIRE TRANSACTION [272](#)
 CEMENT INQUIRE TRDUMPCODE [279](#)
 CEMENT INQUIRE TSMODEL [283](#)
 CEMENT INQUIRE TSPOOL [286](#)
 CEMENT INQUIRE TSQUEUE [288](#)
 CEMENT INQUIRE UOW [291](#)
 CEMENT INQUIRE UOWLINK [304](#)
 CEMENT INQUIRE URIMAP [309](#)
 CEMENT SET ATOMSERVICE [340](#)
 CEMENT SET BRFACILITY [343](#)
 CEMENT SET CONNECTION [346](#)
 CEMENT SET DOCTEMPLATE [366](#)
 CEMENT SET DSNAME [369](#)
 CEMENT SET ENQMODEL [373](#)
 CEMENT SET EPADAPTER [374](#)
 CEMENT SET EPADAPTERSET [374](#)
 CEMENT SET EVENTBINDING [374](#)
 CEMENT SET FILE [377](#)
 CEMENT SET HOST [382](#)
 CEMENT SET IPCONN [384](#)
 CEMENT SET JOURNALNAME [387](#)
 CEMENT SET LINE [392](#)
 CEMENT SET MODENAME [393](#)
 CEMENT SET NETNAME [400](#)
 CEMENT SET PIPELINE [403](#)
 CEMENT SET PROGRAM [406](#)
 CEMENT SET SYDUMPCODE [412](#)
 CEMENT SET TASK [418](#)
 CEMENT SET TCLASS [419](#)

value (続き)
 CEMENT SET TERMINAL [426](#)
 CEMENT SET TRANSACTION [429](#)
 CEMENT SET TRDUMPCODE [431](#)
 CEMENT SET TSQUEUE [432](#)
 CEMENT SET UOW [433](#)
 CEMENT SET UOWLINK [434](#)
 CEMENT SET WEBSERVICE [438](#)
 CEMENT SET XMLTRANSFORM [440](#)
 VALUE
 CEMENT SET BUNDLE [345](#)
 VSAM
 CEMENT INQUIRE DSNAME [125](#)
 CEMENT INQUIRE FILE [153](#)
 VTAM
 CEMENT INQUIRE VTAM [318](#)
 CEMENT PERFORM STATISTICS [339](#)
 VTAM ACB (アクセス制御ブロック) [435](#)

W

WAIT
 CEMENT INQUIRE TASK [245](#)
 CEMENT INQUIRE TDQUEUE [262](#)
 CEMENT INQUIRE TRANSACTION [275](#)
 WAITCAUSE
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WAITCOMMIT
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WAITER
 CEMENT INQUIRE ENQ [134](#)
 CEMENT INQUIRE UOWENQ [303](#)
 WAITFORGET
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WAITING
 CEMENT INQUIRE ENQMODEL [138](#)
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WAITRMI
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WAITSTATE
 CEMENT INQUIRE UOW [295](#)
 WBCA トランザクション [532](#)
 WBCC トランザクション [532](#)
 WBCO トランザクション [532](#)
 WBPA トランザクション [532](#)
 WBPC トランザクション [532](#)
 WBPO トランザクション [532](#)
 Web サポート
 CEMENT INQUIRE トランザクション [318](#)
 CEMENT SET トランザクション [437](#)
 Web サポートの照会 [318](#)
 WEBSERVICE
 CEMENT DISCARD [70](#)
 CEMENT INQUIRE URIMAP [315](#)
 CEMENT PERFORM STATISTICS [339](#)
 CEMENT SET WEBSERVICE [437](#)
 WLMHEALTH
 CEMENT INQUIRE トランザクション [324](#)
 CEMENT SET トランザクション [438](#)
 WORKDIR
 CEMENT INQUIRE JVMSERVER [179](#)
 WSBIND
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [323](#)
 WSDIR

WSDIR (続き)
 CEMENT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [322](#)
 WSDLFILE
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [323](#)

X

XCF
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 XCFGROUP
 CEMENT INQUIRE IRC [170](#)
 XLNSTATUS
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 XLT
 CEMENT PERFORM SHUTDOWN [334](#)
 XM
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 XMLSCHEMA
 CEMENT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)
 XMLTRANSFORM
 CEMENT INQUIRE ATOMSERVICE [74](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [325](#)
 CEMENT PERFORM STATISTICS [339](#)
 CEMENT SET WEBSERVICE [439](#)
 XNOTDONE
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 XOK
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [96](#)
 XOPDIRECTST
 CEMENT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [323](#)
 XOPSUPPORTST
 CEMENT INQUIRE PIPELINE [209](#)
 CEMENT INQUIRE WEBSERVICE [324](#)
 XPKO トランザクション [532](#)
 XPLA トランザクション [532](#)
 XRF および CEBT トランザクション [19](#)
 XSDBIND
 CEMENT INQUIRE XMLTRANSFORM [327](#)

Y

YES
 CMSG [479](#)
 YY.DDD
 CMSG [479](#)
 YYYY
 CSPG [508](#)
 YYYY.DDD
 CMSG [479](#)

Z

z/OS Communications Server 端末、獲得 [400, 427](#)
 z/OS Communications Server
 CEMENT INQUIRE CONNECTION [91](#)
 CEMENT INQUIRE トランザクション [316](#)
 CEMENT SET トランザクション [435](#)
 z/OS Communications Server ACB (アクセス制御ブロック)
[316](#)
 ZERO LENGTH MSG AT "
 CMSG [488](#)

[特殊文字]

+TERMID*LDC/OPID
CMMSG [486](#)

GATHER DIAGNOSTICS

CEMT PERFORM JVMSERVER GATHER DIAGNOSTICS コマンド [330](#)

JVM

CEMT PERFORM JVMSERVER JVM コマンド [330](#)

CEMT SET PROGRAM [406](#)

LIBERTY

CEMT PERFORM JVMSERVER LIBERTY コマンド [330](#)

OSGI

CEMT PERFORM JVMSERVER OSGI コマンド [330](#)

REFRESH

CEMT PERFORM JVMSERVER LIBERTY REFRESH コマンド [331](#)

SERVERDUMP

CEMT PERFORM JVMSERVER LIBERTY SERVERDUMP コマンド [331](#)

EPSTATUS

CEMT INQUIRE EVENTPROCESS [147](#)

VERSION

CEMT INQUIRE EVENTBINDING [147](#)

EPADAPTERSET

CEMT INQUIRE トランザクション [144](#)

CEMT SET トランザクション [374](#)

EVENTPROCESS

CEMT INQUIRE トランザクション [147](#)

CEMT PERFORM STATISTICS [337](#)

CEMT SET トランザクション [375](#)

EXCI

CEMT INQUIRE CONNECTION [94](#)

CEMT INQUIRE EXCI [149](#)

CEMT INQUIRE トランザクション [148](#)

AUTHUSERID オプション

INQUIRE EPADAPTER コマンド [141](#)

CONFIGDATA1 オプション

CEMT INQUIRE EPADAPTER コマンド [142](#)

FENODE オプション

CEMT DISCARD [68](#)

FEPOOL オプション

CEMT DISCARD [68](#)

FEPROPSET オプション

CEMT DISCARD [68](#)

FETARGET オプション

CEMT DISCARD [68](#)

-TERMID*LDC/OPID

CMMSG [486](#)

?および CEMT [51](#)

(value)

CEMT INQUIRE JMODEL [171](#)

CEMT INQUIRE JOURNALNAME [174](#)

CEMT SET PROCESSTYPE [404](#)

*と CEMT [53](#)

*ALL

CSPG [505](#)

*LDC

CMMSG [486](#)

+、CEMT でのスクロールの [55](#)

+HHMM

CMMSG [488](#)

+M

CMMSG [488](#)

+MM

CMMSG [488](#)

